

バトルスピリッツ オメ
ガワールド

バナナの木

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

カードゲームバトルスピリッツ。通称「バトルスピ」の名で知られているこのカードゲームは世界中で流行し、今や老若男女を問わず人気になっている。

そんなバトルスピが大好きな少年一木花火（いちきはなび）はある日、自分の家の郵便受けを覗くと謎の機械と見たことのないバトルスピカードが数枚入っていた。この時、花火はまだ知る由もなかった、自分がこれから起こる大きな出来事に呑み込まれていくことを。

ー今、バトスピが進化する!!!

目次

設定

オメガワールドの設定 ※ネタバレ注

意

全ての始まり編

第1話 打ち上げろ！グレイモ

ン爆誕！

第2話 Dーワールドの掟？ 炎魔神

君臨！

第3話 謎の仮面少女！ 迎え撃てカ

ブテリモン！

第4話 菜々子初陣！現れる変態サボ

テン！

武龍城護衛編

第5話 到着武龍村！ 飛び立てメ

タルグレイモン！

第6話 武龍城の乱！開戦！忍風VS

武竜！

第7話 忍者軍団を討ち破れ！ウオー

グレイモン爆進！（前編）

第8話 忍者軍団を討ち破れ！ウオー

グレイモン爆進！（後編）

緑の大陸編

第9話 船上の決戦！ズドモン急襲！

第10話

恋敵は花火!? もんざえモ

125

96

58

24

1

287

256

222

183

154

ンを倒せ！

311

竜宮都の宝編

第11話 反乱軍とDポリス！ガルル

第17話 亀を助けよ！ 浜辺のガル

モン吠える！

358

ダモン！

581

第12話 立ち塞がる大波！飛翔せよ

第18話 狙われた海泉玉！犬神海賊

ガルダモン！

390

団参上！

608

第13話 巨蛾の呪いを断ち切れ！唸

第19話 竜宮王の真実！グレイモン

れガイアフォース！

425

軍団VS三つ首海賊団！

648

第14話 怒る焰竜！沈めよりリモン

アトーライ争乱編

！

475

第20話 旅メモリー！新たな事件の

第15話 究極対決！ウォーグレイモ

幕開け！

685

ンVSメタルガルルモン！

508

第21話 カイネの秘密!?メタルシ

第16話 魅惑の黄色！エンジエウ

553

ドラモン奇襲！

702

モン舞う！

553

第22話 暗黒の断片！スカルグレイ

モン目覚める！	824	第29話	1回戦開始！怒涛のスー
第23話	3式	サツマの本気！V S	パーモード！
機龍！	753	第24話	第30話
カイン決死の戦い、踏ん張	772	カイン決死の戦い、踏ん張	天空の対決！2人の大天使
れズドモン！	796	勝利へ導け！奇跡のヴルム	V S最強の龍戦士！
グレイモン！	833	終わりの始まり	第31話
第26話	879	終わりの始まり	気高き対決、魂の侍軍団V
フロンティアリーグ編	854	フロンティアリーグ開幕！	S鉄壁の神獣！
第27話	1026	フロンティアリーグ開幕！	第32話
イトニの新デツキ！舞い降	1058	イトニの新デツキ！舞い降	太古からのリベンジマッ
りる2人の大天使！	987	りる2人の大天使！	チ、勃発！恐竜大戦争!!
第28話	1026	りる2人の大天使！	第33話
フロンティアリーグ開幕！	987	フロンティアリーグ開幕！	灼熱のガイアフォーストル
頑張れアグモン！	1058	頑張れアグモン！	ネード！
			第34話
			緑の煌めき、メタルガール
			モン機能停止!?
			第35話
			決勝戦・前編【思い込む右】

第36話	決勝戦・後編【考え込む左】	1088
最終決戦編		
第37話	覚醒する暗黒、漆黒の龍戦士誕生！	1157
第38話	運命の再会、VSシン・ゴジラ！	1199
第39話	無敵！ダブルウオーグレイモン！	1224
第40話	最後の四天王、暗黒の奇術師ピエモン！	1269
第41話	最終決戦！VS暗黒の神！	

最終話	運命のオメガワールド	1302
特別編		
襲来！最凶のデジタルスピリット！		1380
緊急告知		1464

設定

オメガワールドの設定 ※ネタバレ注意

【登場人物】

一木 花火（いちきはなび）

17歳、高校2年生 主人公

普通にバトスピを楽しんでいる高校生であったが、ある日、郵便受けに入っていた、バトルヴァイスとデジタルスピリットカード（アグモン系）がきっかけで、菜々子、小次郎とともに異世界Dーワールドにきてしまう

両親は10年前から大地震により、行方不明である。代わりに父の妹で叔母の聖子が彼を育てた

若干ノリが軽いところがあるが、基本的には冷静でよく周りを見ており、凄まじい洞察力や観察眼がある。あまり闘争心がなく、自分にライバル心むき出しの小次郎に対しても、一緒にバトスピを楽しむ友達としか思っていない。それでも正義感は一歩強い、偶に仲間や、自分のスピリットに対して文句やいちやもんをつける相手には辛辣極まりない発言をすることもある。バトスピは滅法強いが、女性には少々弱いところがある。

（10回やって、景光に1回も勝てなかったり、幼馴染の菜々子に対してもあまりめぼしい成績はない。だが、巨蛾姫には勝った）

今は自分達がD―ワールドに招かれた理由があるのではないかと思い、菜々子達と共にD―ワールドを旅している。その旅の途中でカインを白の大陸まで送り届けることが目標。暗黒の力を持たずに暗黒の力を蓄積できる暗黒の才能の持ち主。だが稀にこの力を溜めすぎた事をきっかけに理性や知性が弾け飛び、暴走することがある。その度にスカルグレイモンや、ブラックウオーグレイモンなど、新たなカードを生み出している。度々幼馴染の菜々子を意識する時があるが、中々その一線を越えることができない

いる

髪が茶髪、一応首にゴーグルをさげている。使用デッキは、アグモンを軸としたグレイモンデッキ、中には、デジタルスピリットを手に入れる前のキーカード、異魔神ブレイブの炎魔神も入っている。この炎魔神は後に菜々子に譲渡した。基本的にアツい展開を好むが、負けられないバトルをする場合は、広い視野や持ち前の観察力をフルに活用して意地でも勝とうとする姿勢を見せる時がある。バトルをする際の決め台詞は「打ち上げろ！」

空野 菜々子（そらのななこ）

17歳、高校2年生 一応ヒロイン

花火と同じクラスにして幼馴染、彼とは家が近所である。

花火のことを「花ちゃん」と呼び、慕っている

あらゆる意味で天然であり、花火や小次郎からツツコミを受ける。そんな性格だから、バトルでは相手のライフを減らすことしか考えていない。バトスピのデッキも花火が組んだもの。同じ女子と言うこともあつてか、カインとは出会った当初からずっと仲が良い。容姿は非常に良く、顔は少し幼いが、スタイルはいい、髪は黒くて腰まで伸びている。特に結んだりしてない。花火のことが大好き。それは周りから見ればほぼカップル同然なのだが、花火自身が思われている以上に幼い面があるため、なかなか線を超えることができない。Dーワールドにきた時はデジタルスピリットは持つてなかったが、アカダツケ村のデジタルスピリットが彼女を選んだためデジタルスピリットを手にするこゝとなつた

デッキは赤の皇獣が中心の赤速攻、ピヨモン系のデジタルスピリットが入っている、とつておきのカードは戦国霸王ギユウモンジ

緑坂 小次郎（みどりぎか こじろう）

17歳、高校2年生

花火にライバル心を燃やしている

1度も花火に勝つたことがなく、常に彼を意識している、基本的にあつくるしいが、ツツコミキヤラでもあり、周りの人間に良くツツコミを入れている。花火と同じように、家の郵便受けにバトルヴァイスとデジタルスピリット（テントモン系）が入っていた。一応、中学時代、バトスピチャンピオンシップジュニアクラス（ここでは中学生以下）の優勝者でもある。そのせいで調子に乗り、花火達と出会う前は、弱い相手からカード狩りを行っていた。その活躍は地味ながらも、メキメキとバトスピの腕を上げており、フロンティアリーグではシデンをあと一歩のところまで追い詰めている。髪型は黒髪のオールバック

デツキはカブテリモンを中心にした緑デツキ、後にパルモン系等のDパラデインも手に入れ、Dパラデイン2種混合のデツキとなる

カイネ

17歳 女

船で花火達と知り合う、白の大陸に行きたがっている。

クールな性格で髪が青い、子供の頃、アグモン達Dパラデインが描かれた絵本を見た

らしい、そのためデジタルスピリットのカードを見ればそれがDパラディンかどうか判別できる。歳相応の女子らしいところもあり、花火と菜々子の関係に興味津々。母親はすでに他界しているようである。その正体は黄の大陸の姫、カインIIアトーライ、マキシオの罪を晴らすため、そして真の敵はウズシオだと世間に気づかせるためにDポリスにいる白の大陸を探していた。アトーライでの騒乱時は巻き込みたくないという理由で花火達を敢えて突き離れた。だが、本心では助けて欲しいと願っており、花火が自分を助けに来た時は3年ぶりに涙を流した。デツキはゴマモンを中心とした青デツキ。ズドモンを中心としたデツキ破棄デツキを好んで使う。デツキ破棄を対策してくる相手にもある程度の対応が可能になるような構築をしている

牙(きば)

20歳 男

赤の大陸を脅かしていた、恐龍隊の隊長。最初は赤のデジタルスピリットを欲していたが、花火とのバトルで、彼をライバルと認識し、リベンジを果たすため、恐龍隊を解散、自分の部下達と修行の旅にでた。後にフロンティアリーグで花火達と再会する。

デツキは、暴双龍デイルノスを中心とした地竜デツキ、修行後は煌臨も使うようになる。

シデン

18歳 男

反乱軍のリーダーにして、イトニの兄。彼女からは「兄イ」と呼ばれ慕われている。長めの金髪が特徴的であり飛行船から出ないからか鬼の面を被っていない。3年前ドウケと出会い、Dポリスがオメガバーストで世界を塗りかえようとしていることを知り、反乱軍を立ち上げた。とてつもない行動力のある持ち主である。他者の犠牲を省みない性格から、花火と敵対する。景光曰く「天才」であり、直感的にバトルの流れを読み取る力を備えている。花火と負けず劣らずの引きの強さも兼ね合ってその実力は天下一品とされていた。デッキは紫でガブモンを中心としたガルルモンデッキ。エースカードであるメタルガルルモンには絶対的な信頼を寄せている。

イトニ

14歳 女

アカダツケ村に突如侵入してきた謎の少女。鬼の仮面をつけている。発信機をつけられていたことに気づいてからはつけていない。少々おてんば、花火ほどではないが暗黒の才能を保持しており、その丁度良いと言うサイズからアポカリモンの器にすべく四

天王達に囚われてしまう。

デツキは黄と紫の混色デツキテイルモン系等のDパラディンを所持している。後にパタモン系等のDパラディンを手に入れたことで、小次郎と同じように、Dパラディン2種混合のデツキとなる。

シユリ

20歳 男

イトニと同じ仮面をつけている、忍者のような男性。

ソウルドラゴン・焰影を手に入れるために故郷の武龍村を巧妙な手口で攻めた。反乱軍に入る前は、景光のお目付役であった。年下ではあるが、シデンを非常に尊敬している。勘が鋭く、前々からドゥーケを怪しく思っていた。物語終了後はシデンやイトニと共に世界復興を頑張っている。デツキは忍風の緑赤デツキ

ドゥーケ

?歳 男

自称「反乱軍のブレイン」研究者でもある。3年前にシデンとイトニに声をかけ、反

乱軍結成の手助けをしたり、2人にDパラディンのカードを渡したりした。何かを隠しているようであり、Dポリスのチョウシユウと繋がりがあのような発言もある。その正体はダークマターズの1人で、大昔のDワールドを支配しようとしたアポカリモンの右腕、ピエモン。彼は何年も歳月をかけて、ただひたすらにアポカリモン復活の準備をして来た。まずは暗黒四天王の器選びから始まり、Dポリスを結成し、そのデジタルスピリットのエネルギーを補給、それを同じくデジタルスピリットを持つ反乱軍に戦わせることで着実とエネルギーを貯めていった。最終的には自身の魂が必要なことを悟り、自らアポカリモンの魂に入ってしまった。

サツマ

25歳 男

サボテンの着ぐるみを着てサボテンの気持ちを知らうとする、いわば変態だが、人がよく謎の包容力がある。

菜々子のデジタルスピリットを見て不敵な笑みを浮かべるなど、わからないことも多い。

その正体はDーワールドの犯罪行為を取り締まる組織、Dーポリスの副総司令官である。Dポリスは偽善者集団と思われるのが嫌で直接総司令官に話をつけようとするも、

その前に全てを知らされてチョウシュウとの一騎打ちに敗れ、次元の隙間を彷徨った。アポカリモンの事件終了後は元に戻り、シデン達と協力している。ダンディな顔立ち。デツキは【源氏八機】。

チョウシュウ

21歳 男

サツマの部下、イケメンでタバコを吸う。

基本的にはサツマを慕っているが、たまに鋭いツツコミを入れる。何かを隠しているようであり、反乱軍のドウケと面識があるような発言もある。その正体は暗黒四天王の1人、戦う意識のないものを無理やりバトルフィールドに連れて行く力がある。最終的には覚醒した花火に敗れ、サツマとの楽しかった思い出を思い出しながら消滅した。事件後は無事蘇生された。

ラフーキ

?歳 男

暗黒四天王の1人、子供の容姿だが結構歳を重ねてるらしい。その暗黒の力は相手の魂を喰らい自分の寿命を延ばすと言うもの。シデンとのバトルに負け、死ぬ恐怖を思い

出しながら消滅した。事件後は、元々生きていられる年齢ではなくなっていたので消滅したままとなっている。

ウズシオ

34歳 男

暗黒四天王の1人にして、アトーライの王族。マキシオの弟にして、カイネの叔父。その暗黒の力は自身が欲する物（目に見えるもの限定）を最短で得られるルートがわかると言うもの。ドグマーがこの力を使って、竜宮王の秘密を偶然にも知ることになった。アトーライの真の王になるためにカイネの母を殺害し、その罪を実兄であるマキシオに着せた。それでも国民はマキシオが悪くないと思っていたのか、ウズシオもそれを知り、今度は力で自分が王であると証明させる手段をとる。アトーライの象徴、オメガモンを得ようと模索したが、最終的にはオメガモンは復活を遂げたものの、花火とウオーグレイモンに台無しにされてしまう。デッキは青と白、エースはダークマターズの一角メタルシードラモン。このメタルシードラモンは非常に強力極まりなく、花火のウオーグレイモンを2度破壊している。

パンザワ

?歳 男

菜々子に一目惚れした謎の大男、とにかく大きく、身長は2メートルは超え、体重も200キロを超えている。言葉がカタコトでラ行がナ行かダ行になる。性格は非常に自分勝手であり、菜々子を無理矢理自分の嫁にしようとした。デツキはごつちや混ぜだが、デジタルスピリットのもんざえモンを使った。

武魂景光（ぶこんかげみつ）

19歳 女

武龍村の殿。バトル好きで、1日中家来達を使ってバトルするほど、家来の者達は皆毎日のように苦勞してる。

バトルが強い男は婿候補にしたりする。

巨蛾姫（きよがひめ）

93歳 女

巨蛾の里を治める姫、51年前に、ラフーキの暗黒の力の影響で女性の魂を食べて若さを維持し続けるという特異体質になった。性格も優しい性格から短気且つ傲慢な性

格に変わり、巨蛾の里の大会を利用して、優勝者と準優勝者の魂を食べていた。花火にバトルで負けてからはその力をなくし、元の年齢に戻り、老婆になった。

竜宮王

52歳 男

海底都市、竜宮都を治める王、自身の妻が、亀之助を出産後、直ぐになくなり、自分だけでは育てきれないと思い、亀之助を亀太郎の養子にした。

亀太郎

78歳 男

竜宮王の召使い、家柄は代々伝わる召使い一家であり、何年もの間、竜宮王一家を支えてきた。亀之助の名前は彼が名付けた。

亀之助

23歳 男

竜宮王の召使い、チャラついていて、美人にも目がない、だが、その正体は120代目竜宮王の息子にして、121代目竜宮王、自身の育ての親である亀太郎に対しては口は悪いが、本当の父親だと思っている。

マキシオ

36歳 男

カインの父で、アトーライの国王、一度はウズシオの策略にはまり、妻を殺された挙句、王座を引きずり落とされたが、花火達の活躍により、再び王座につくことになった。ウズシオと違い、国民や兵からの信頼は高い。

ドグマー

45歳 男

犬神海賊団船長、亀之助を脅し、竜宮都を襲撃したあげく、海泉玉を奪う。ウズシオから暗黒の力をもらっており、宝の場所を見抜ける。最初は花火を追い詰めるも、2回目の彼とのバトルでプレイスタイルや戦術を見抜かれ、あっさり敗れてしまう。現在は子分たち共々竜宮都の牢屋に閉じ込められている。

Dポリスの総司令官

?歳

その正体は謎に包まれている。顔はチョウシュウや他のしたつぱ達はおろか、副総司令官のサツマさえ見たことがないようだ。伝達したいときは、バトルヴァイスに直接通

話するか、手紙を書く。その正体は暗黒四天王のドューケだった。

マーゼ

?歳 男

緑の大陸でパルモンのカードを守っていた。

ギーサ

?歳 男

黄の大陸でパタモンのカードを守っていた。

オメガモン

伝説のDパラディンにして、Dワールドの英雄。オメガバーストの力を内包している。ウオーグレイモンとメタルガルルモンが合体した姿でもある。大昔の聖戦で、ほとんどの力を使い果たし、長い眠りについていたが、花火とウズシオのバトルにより復活。花火にグレイソードのカードを渡して、そのまま去ってしまう。その後は、暗黒四天王の追跡をなんとかすり抜けて、花火達に協力する。最終的には花火の奇跡の力で元の力を取り戻し、アポカリモンを打ち倒した。ちなみに、花火やシデンのアグモンや、ガブ

モンのカードは彼の意味が少しだけ引き継がれている。

アポカリモン

物語の悪の根源。暗黒の力の全ての源である。オメガモンのオメガバーストによって永らく封印されていたが、ピエモンら暗黒四天王が、命を賭してこれを解除。新たにイトニを器として再びDワールド制服を目論むも、自身の暗黒の力を半分吸収していた花火に敗れてしまった。以降はオメガモンの力により、完全に消滅してしまった。

イコール

1歳 性別無し

オメガモンとアポカリモンの激突によって生じた2つの世界の時間軸のズレのエネルギーから誕生した謎の青い生命体。過去と未来を見る力がある。その力で見据えた結果、リアルワールドは要らない世界と断定し、リアルワールド崩壊を招こうとする。崩壊させる前に花火達のDパラディンを回収しようとして、花火とバトルすることになった。カードもそのズレのエネルギーによってか、強力なものが多く、彼の實力も相まって花火を弄ぶレベルで強い。世界の調和を望むものと自称しているが、その本質は破壊行動を楽しむことにある。最終的には進化したオメガモンによってその肉体ごと

消滅した。デツキは「ディアボロモン」

【用語設定】

Dーワールド

謎の異世界、なぜかバトスピで揉め事を解決しなければならぬ。デジタル量が多く、電子機器の充電がいらぬ。

バトスピの6色のように大きく6つの大陸に分かれている。

赤の大陸

燃えさかる灼熱地帯の大陸、花火達が最初に来た大陸でもある。周りは砂漠だったり、火山だったり、とても熱い、赤の大陸の交友がある大陸は緑と紫

紫の大陸

暗黒四天王の隠れ家がある。それは昔アポカリモンが拠点としていた城、今は無人の廃墟と化していたところをピエモンが隠れ家にした。

緑の大陸

花火達が2番目に訪れた島果てしなく森が茂っている。

交友がある大陸は赤と黄と白だったが白の大陸が鎖国状態にあるため今は赤と黄

白の大陸

Dポリスの本拠地がある大陸、緑と紫の大陸と交友があったが、Dポリスが結成されてから鎖国状態になっている。巨大な霧に覆われており、青の大陸の貨物船だけが通れるという。

黄の大陸

日本の秋の季節を連想させるような木々で埋め尽くされているとても綺麗な大陸、アトーライ王国以外に王権の政治をする国がなく、実質アトーライ王国の国王が黄の大陸の国王のようなものである。

青の大陸

リアルワールドで言うところのローマのような街並み、年に一度、Dワールド中から人が集まりバトル大会、「フロンティアリーグ」が行われる。フロンティアリーグは毎年、優勝商品が異なる。

リアルワールド

花火達の住む世界、スピリットは立体化しないが、映像化ならある。花火達の住む街

では10年前に大震災が起こった。Dワールドとは時間の進み方が全く異なっていたが、最終話ではオメガモンとアポカリモンの衝突で統一されるようになった。

バトルヴァイス

バトルアーマーになったり、物をデジタルの粒子に変えて詰め込めたりと、なかなか便利な機械、人によってカラーが異なる。デジタルの質量がないリアルワールドでは全く機能しない。

デジタルスピリット

いわば、コラボブースターで登場したデジモンのカード達、この物語では貴重な存在。基本はリアルワールドとDワールドの狭間の空間をさまよっているカードだが、たまにデジタル量の多いDワールドに流れ着くことがある。花火と小次郎のデジタルスピリットはどういうわけか、リアルワールドに漂着している。

実は昔、本当にDワールドに存在していたスピリットたちであり、オメガバースト（後述）の影響を受け、カードになっている。戻す方法は不明。Dパラディン等の数々

の特別な派生が存在するが、その伝承は若干だが地域によって異なる場合がある。

銃（ガン）ブレイブ

煌臨スピリット専用効果を持つブレイブ、この世界では貴重なお宝の存在。特に物語には関係ないが、メタルガルモンは銃ブレイブと合体したら体や眼の色が変化した。

Dーパラデイン

Dーワールドの太古の世界にて、Dワールドとある国を守るために戦っていた一部のデジタルスピリットである。属するスピリットはアグモン、ピヨモン、ガブモン、テントモン、リリモン、テイルモン、パタモン、ゴマモンの8体、なぜ花火達を選んだかは不明。

オメガバースト

Dーパラデインが最後の戦争で使った最後の手段と言われている。どのような手法で行ったかは不明だが、世界をリセットして、書き換えるほどの力があると言う。Dポリスはこの力を再び使うためにデジタルスピリットたちのバトルエネルギーを溜めている。

暗黒四天王達は、この力を使わせるためだけにオメガモンを復活させようとした。

アカダツケ村

赤の大陸の小さな村、花火達が最初についた村、祠にデジタルスピリットのピヨモンを祀っていた。

村の人達はみんないい人。

武龍村

武魂景光が治めている村、周りは巨大な壁で囲まれている、中には江戸幕府のような感じであり、村というよりは国である。

巨蛾の里

緑の大陸にある里。年に1回賞金をかけたバトル大会が行われる。

竜宮都

120代目竜宮都が治る海底都市、海泉玉と言う直径約5メートルほどの玉で都市にまつわる災害を予測し常に回避してきた。

海泉玉

竜宮都に存在する玉、色が淡い青色だが、花火が曰く、「お宝に見えない」中には星岩島の扉を開けるための片方の鍵がある。亀之助の所持している赤いペンダントと共に使うことで開けることができる。

星岩島

竜宮都の上部に存在する半径200メートルほどの小さな島、洞窟があり、最奥部には竜宮都の2つの鍵でしか開けられない扉がある。その中は赤の銃ブレイブが存在した。

恐龍隊

赤の大陸を脅かしていたが、隊長の牙の一言で解散した。

犬神海賊団

船長のドグマーを筆頭に50人ほどの船員が存在する有名な海賊団、竜宮都の1件後は皆、竜宮都の牢屋に閉じ込められた

反乱軍

シデンを中心に、イトニやシユリが属する謎の集団、ドウーケを除き全員が鬼面を被っている。飛行船で常に移動しているためDポリスでも追いかけるのは困難とされている

Dーポリス

Dーワールドの犯罪行為を取り締まる組織、全員白い制服を着ている。実は再びオメガバーストを起動させるために行動しており、どう言うわけかドウーケにはバレていた。したつばは皆、量産型の白のデジタルスピリットデツキを使用している。これはデジタルスピリットのバトルエネルギーを溜めるためである

暗黒の力

使う者にバトル時に相手に与えるダメージをあげたり、異能を使わせたりすることができる。その種類は4種類。その昔、Dパラディン達と争い、滅んだはずだが、生き残っている。アグモンだけがこの力を吸収できる。(バトルスピの勝負で勝った時のみ)後に正確にはアグモンを通して、花火自身が吸収していたことが判明した

暗黒四天王

4人で構成される組織、ドューケを筆頭に、ウズシオ、ラフーキ、チヨウシユウで構成されている。暗黒の力の元であり、暗黒の使徒に与えた力がなくなつた時、察知することが可能。ほとんど迷信のような存在で実在していたかも知れなかつた

ウズシオが起こしたアトーライの一件後に世界に公表された。作中では最初、ウズシオと、ラフーキの存在しか語られていなかったが、後に反乱軍のドューケや、Dポリスのチヨウシユウも所属する事が判明した

全ての始まり編

第1話 打ち上げろ！グレイモン爆誕！

ある土曜日の朝

花火「ん？んー！もう朝かー」

茶髪で17歳で高校2年生の少年一木花火（いちきはなび）はゆっくりとベッドから起きると軽く背筋を伸ばす、その後すぐに朝食の準備に取り掛かる。

花火「めんどくせーから今日も目玉焼きだけでいいやー」

花火はめんどくさそうにしながらもしつかりと綺麗な目玉焼きを作った。

花火「よーし！できたぞー！まだ熱いし冷めるまでの間に新聞でも取りに行くか。」

花火は自分の叔母と二階建ての一軒家に住んでいる。そんな花火が新聞を取るためドアを開けると一人の少女が待ちかまえていた。

菜々子「遅くい、また朝食作ってたの？」

花火「よく菜々子おはよー」

この少女 空野菜々子（そらのななこ）

同じ17歳の高校2年生 花火の幼馴染にして良き友である。

菜々子「約束覚えてる?」

花火「約束?」

花火は全く知らない顔をする。

菜々子「あーもうやつぱり??忘れてると思ったー!」

今日は二人で遊園地に行く約束したじゃん!」

花火「あーそういえばそんな約束したなー、わかったよ!直ぐに準備すつからよ!」

花火はそう言いながら郵便受けの中を確認すると

花火「ん?なんだこれ?」

中には新聞やチラシと一緒に八角形でオレンジ色をした見たことのない機械と赤色の箱が置いてあった。

菜々子「どうしたの?」

花火「いやなんか郵便受けに変なもの置かれてんだけど

お前これ知ってる?」

花火が菜々子に見せる。

菜々子「いや知らないなく万歩計かな?」

花火「にしてもどこのボタン押してもうんともすんとも言わないんだよなー。」

花火はたくさんある機械のボタンを押してみるのがどれも反応しない。

菜々子「そっちの赤い箱は？」

花火「さあ？なんだろ？宛先もないしすごく怪しいんだけど。」

菜々子「開けてみよーよ！」

花火「え!?今? まあいいや。」

花火がおそろおそろゆつくりと箱のふたを開けてみると

花火「ん?これは、バトスピカード?」

箱の中には20枚近くのバトルスピリッツカードがはいっていた。バトルスピリッツとは通称「バトスピ」の名で知られているカードゲームである。このカードゲームは世界中で流行しており今や野球やサッカーと並ぶ娯楽またはスポーツのようなものとしていた花火と菜々子もバトスピは子どもの頃からずっとやっている。

菜々子「すごい!こんなカード見たことないよ!」

花火「おお!カッキー!!このカード達気になったぜ!

菜々子ごめんもうちょっと待ってて俺このカード達でデッキ組んでから準備するわ!

菜々子「ええ〜!なんで?そうなるの?後からでいいでしょ!?!」

花火「家上がつていいからさー!聖子さんの分の目玉焼き食っていいからさ〜」

菜々子「んーまあいいよ。待つとく!どうせ話し聞かないし!」

見たことのないカード達に感銘を受けた花火はその後悪いと一言だけ言つて菜々子に謝ると直ぐにデツキ作りと出掛ける支度をした。ちなみに聖子とは彼の叔母である。

そしてその30分後二人は出かけ遊園地で楽しいひと時を過ごした後、空はすっかり綺麗な夕焼けになり大きな橋が見える河川敷でゆつくりとくつろいでいた。

菜々子「いや〜楽しかったね〜花ちゃん!また今度行こうね!」

花火「別にいいけどさお前俺のこと「花ちゃん」って呼ぶのいい加減やめようぜ。どつかの有名ゲームのキャラクターみたいじゃなかよ。」

菜々子「いいじゃない!可愛いし!何よりこつちの方が呼びやすいんだもん!慣れだよ!」

花火「いやな〜菜々子よ、男つてーのは常に可愛いよりかっこいいを目指すもんなんだよ。」

二人がそんな話しをしていると、後ろから男性の影が・

小次郎「?おお!ようやく見つけたぞ!一木花火!」

花火「ん?」

小次郎「今日こそ俺とお前の因縁に決着を付けてやろうじゃないか!」

花火「よ!小次郎元気だった?」

菜々子「こんにちは!小次郎君!あつ!違うなくこんばんは?かな?この時間帯やや

こしいな〜」

小次郎「おい待て貴様！軽い軽すぎるぞ!!それでも俺が認めた永遠のライバルか!!もうちよつとライバル感出せよ!」

この少年 緑坂小次郎（みどりざかこじろう）やっぱり同じ17歳。 自称花火の永遠のライバルだが今のところ花火には一回も勝利を収めたことがない。しよつちゆう花火に絡んでくるが花火は基本競い合う闘争心が無いため菜々子と一緒に軽く小次郎を流すことが多い。

小次郎「今日という今日は負けない!!さあ!!バトスピだ!!今回は秘密兵器があるんだ!!」

そう言いながら小次郎は自分の腰につけているデツキケースから一枚のカードを取り出し花火と菜々子にみせる。それはまたまた二人の知らないカードだった。

菜々子「?これって?」

花火「小次郎!!お前それ?どこで手に入れたんだ?」

小次郎「ふっふーん!驚いたか!これが秘密兵器一枚目だ!他はまだ見せないぞ!今日うちの郵便受けに入ってたんだ!」

花火「俺と同じだ。万歩計みたいなのも入ってなかったか?」

小次郎「??ああそれがどうした?てか何?俺と同じって、お前も持つてるのか〜?」

小次郎は少しシヨックを受ける

花火「そうなんだよ!お前のカードとは違うやつだったけどな〜よし!いいぜそのバトル受けて立つ!ちようどそのカード達を試したかったからな!」

小次郎「よし!そうと決まればシヨップに行くぞ!」

その後3人はバトルスピシヨップに移動した。バトルスピシヨップとはバトルスペースがたくさん用意されている。カードシヨップである。そこにはバトルするスペースがたくさん用意されている。花火と小次郎はバトルするテーブルのそばにある椅子に座り、デツキとコアを準備する、菜々子も花火のすぐ近くで見届けている。

小次郎「お前の万歩計はオレンジ色なんだな。」

花火「まあなくお前は緑か〜お前らしいな!」

小次郎「だろ〜〜気にいっちやてさ〜〜なにかに選ばれたみたいなき感じあるよな〜俺ら!」

花火はバトルする前に小次郎に謎の機械とカードについて聞いたが入手した経緯は花火と全く同じだった。そして小次郎じたいも何かはわからないらしい。しかし花火にとつて今はどうでも良かった。そんなことよりカードバトルとして知らないカード同士で戦うのがすごく楽しみだったのだ。

花火「よし!じゃあのコールから始めよう!」

小次郎「そーだな！」

菜々子「私せーのって言っていない？」

花火「なんでだよ、まあいいや」

バトスピをする前の掛け声、カードバトラーなら誰もが知っている挨拶のようなものだ。3人は同時にこの掛け声をコールする。

菜々子「せーのっ！」

花火「ゲートオープン解放!!」

菜々子「ゲートオープン解放!!」

小次郎「ゲートオープン解放!!」

そしたら次の瞬間花火と小次郎が貰った謎の機械が急に光り出した！

花火「なんだ？」

菜々子「きゃあ！何？」

小次郎「まぶしっ」

光りはどんどん大きくなり

そのまま3人はその光りのなかに消えていった。

舞台は変わり殺風景な小さな村の入り口である揉め事が発生していた。

ガラの悪い男「おいこらー！さっさとこの村に伝わるっつー伝説のカードよこせ

やー!!どうせデジタルスピリットなんじゃねーのか? あん?」

村人A 「くそつ恐龍隊め!とうとうこの村を嗅ぎつけてきやがった!」

村人B 「どうする? 村長? 恐龍隊にバトルでかないっこないしあのカードで済むならもういつそ…」

村長 「そんなことをしてはならん!!絶対に悪しき者達にあのカードを使わせてわならぬ!!」

恐龍隊したつば 「ごたごた言つてないで素直に渡せやー!!ゴラアア!!うちの隊長が喉から手が出るほど欲しいつつつてんだよ!!」

そう言いながら恐龍隊したつば? は近くの樽を蹴り上げる。村人達はその姿に恐れおののく、もはや一刻の猶予もなかった、その時、村人達としたつばの間が急に光り出した。あまりの光量にその場にいた誰もが目をつむる、そして、

花火 「うわアアアア!!!」

菜々子 「きやあアアアア!!!」

小次郎 「ノワアアアアアア!!!」

その光から花火、菜々子、小次郎の3人が落っこちて来る。僅か1メートル程の高さから落下したのでおおごとには至らなかったが、

花火 「ん? 何この状況?」

菜々子「私達シヨップにいたはずじゃあ？」

恐龍隊したつば「なんだ？てめえら？見かけねえ格好だなあ！あん？」

小次郎「なんか絵に描いたようなチンピラがいるんですけど。」

村長「主らは一体？」

村長が花火達に問う

花火「あつ俺一木花火つて言います！とここでこれどういう状況つすか？」

菜々子「周りすごい殺風景!!ゴビ砂漠かな？」

小次郎「いや待て、お前達順応性高すぎだろ!!!
!!!

何もう慣れてんだ!!!軽いわ!!」

あまりの花火と菜々子の天然さにツツコミを入れてしまう小次郎

恐龍隊したつば「あー!!クツツ野郎どもが!!!いつまで待たせるんだ!!!齒向かうん

だつたらさつさとかかって来いやー!!俺様が軽くいたぶつてやるからよー!!!

今の言葉で花火は大体この状況を理解した、理解した上で改めて村長に問う

花火「一人くらいすぐ追い返せばいいじゃないですか？こんなに人がいるのに」

村人A「君達このDーワールドのルールを知らないのかい？」

花火「Dーワールド？ルール？何それ？」

村人B「Dーワールドは力の暴力がない代わりにバトスピの勝敗が全てなんだ。」

花火「バトスピ?それでも一人くらい勝てるだろ?」

村人C「できるわけないだろ!相手はあの恐龍隊だぞ?かないっこない。」

花火「恐龍隊?」

小次郎「もうわけわかんねー!なんなんだここはー!!」

花火と菜々子と小次郎はこの情報量になかなか追いつけない。だが花火の選択肢は一つしかなかった。

花火「まあなんでもいいや、バトスピで解決できるなら俺がそのバトル受け持つてもいいか?」

村長「なんじゃと?主が?」

花火「こう見えて結構自信あんだよね、バトスピ!」

恐龍隊したつば「はっ!やっといたぶれる相手が出てきたぜ!よし!その茶髪、先に行つて待つておくからさっさと来な!!」

村長「なぬ?そんな勝手に!」

そう言いながら、恐龍隊したつばは謎の機械を掲げ「ゲートオープン解放!!」と叫び姿を消した。花火はしたつばの持つてた謎の機械に見覚えがあった。

花火「消えた?しかもさっきの機械つて、」

村長「知らぬのか?バトルヴァイスを?主らも腰に付けておるではないか?娘さんは

持つてないようしておるが？」

よく見たら村人全員が同じような機械を腰に下げていた。

花火「そうか、これバトルヴァイスっていうのかなんか知らねーけどこれでバトスピできるんだな！なんかさつき広げてたデッキもデッキケースに戻ってるし、よし！やってやる！」

菜々子「大丈夫なの？花ちゃん？」

菜々子が心配そうに花火に問う。

花火「大丈夫バトスピするだけだろ！行くぜ！」

ゲートオープン解放!!!」

そして再び花火は再び光に包まれて消える、その後バトルヴァイスも光り出し形を変えて鎧のようになる、それらは、花火の上着の上から装着されていく

花火が再び目を開けるとそこにはとてつもない荒野が広がっていた、それともう一つ驚いたことがある。

花火「なんだこれ？鎧？」

花火に東洋の龍をモチーフとしたオレンジ色の鎧のようなものが装着されていた。

恐龍隊したつば「それはバトルアーマー、バトルヴァイスの真の姿だ、そしてここは

バトルフィールド。そんなことも知らないのか?この村は田舎と聞いていたがもつと田舎もんがいたもんだな。」

反対側から恐龍隊したつばが言う。彼もまた同じように恐竜をモチーフとした赤色の鎧を着ていた。

菜々子「花ちやくん!!」

花火「菜々子?」

振り向いたらフィールドの観客席的などに菜々子や小次郎、村の人々が観戦していた。

小次郎「なんかまだ理解できんが兔に角、頑張れよーー!!!」

花火「おう!任せろ!」

花火は自信満々にこたえる。

恐龍隊したつば「もういいか?先行は貰うぜ。」

待ちくたびれたのか恐龍隊したつばが早くバトルを始めようとする。

花火「ああ!いいぜ!どっからでもかかって来い!」

恐龍隊したつば「はっ!俺様に喧嘩を売ったこと後悔すんなよ!スタートステップ!!」

「ターン01」恐龍隊したっぱ

スタートステップ

ドローステップ 手札4⇩5

恐龍隊したっぱ「メインステップ！ムシャモサウルスをレベル1で召喚！！」手札5⇩

4

リザーブ 4⇩0

トラッシュ 0⇩3

したっぱがそう言ってカードを置いた瞬間広い荒野に赤い甲冑を着た四足歩行の恐竜が現れる。花火達3人はこの光景に驚きを隠せなかった。

花火「何!?!スピリットが実体化した?」

菜々子「すごい!いつたいどうなってるの!?!」

小次郎「これ夢だよなあ?そうだと行ってくれええー!!!!」

【ムシャモサウルス】 赤属性 3コスト 2軽減

系統 地竜

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP5000

シンボル1

レベル1、2『このスピリットのアタック時』

自分はデッキから1枚ドローする。

このスピリットにソウルコアが置かれている間、さらに、このスピリットをBP+2000する。

ムシャモサウルス レベル1 BP3000(1コア) S

恐龍隊したつば「何この程度で驚いてんだ!ターンエンド!ほれ!次てめえだ!茶髪野郎!」

花火「成る程く〜!どうやら俺達はとんでもないところに来ちまったみたいだな。でもスピリットには会いてえな!」

花火は冷静に状況を整理しながらターンを進める。

小次郎「なんであいつ、あんな落ち着いていられんの?」

菜々子「まあ花ちゃんだし、昔からあんなだよ。」

花火の落ち着いてる態度に驚く小次郎。昔から花火の事を知っている菜々子にとってはなんの疑問もなかったようだ。確かに普通に落ち着いていられる状況ではない。

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ コア4→5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メインステップ！ロクケラトプス2体！レベル2で召喚!!」手札5 ⇨ 3

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 1

花火がカードとコアを置くと三本の立派なツノを持つ四足歩行の地竜、ロクケラトプスが同時に2体現れる。

【ロクケラトプス（リバイバル）】 赤属性 1コスト 1軽減

系統 地竜

コア1 レベル1 BP3000

コア2 レベル2 BP5000

コア3 レベル3 BP6000

シンボル1

ロクケラトプス レベル2 BP5000（2コア）

ロクケラトプス レベル2 BP5000（2コア） S

花火「おおー！よろしくな!!ロクケラトプス!!」

花火は自分のスピリットが出てくることに感動をおぼえる。ロクケラトプス達もまるで「こちらこそ！」と言っているかのように咆哮する。

菜々子「おおー!! いっけー!! 花ちゃん!!」

菜々子や村人達も観客席で精一杯応援する。

花火「よし行くぜ! アタックステップ!! ロクケラトプス一体でアタックだ!」

ロクケラトプス1体はアタックの指示を聞いてすぐさま相手のフィールドに駆け出す。

恐龍隊したっぱ「はっ! お前も地竜デッキか! ライフで受けるぜ!」ライフ5 ⇨ 4

リザーブ0 ⇨ 1

したっぱがそう言うのとロクケラトプスが突っ込んでくる。ぶつかる瞬間に赤いバリアが展開されてしたっぱの身を守るものの胸の5つあるうちの青い光りが一つ減った。恐らくライフが減ったからであろう。

バトルスピリッツはこのようにお互いにアタックを繰り返し、最終的に先にライフを0にした方が勝ちである。

花火「よし! ターンエンドだ!」

恐龍隊したっぱ「ふん! たかがライフ1つ削ったくらいで調子にのんじゃねえ! 俺様のターンだ!」

「ターン03」恐龍隊したっぱ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ トラッシュ3 ⇨ 0

リザーブ2 ⇨

5

恐龍隊したつば「メインステップ！ピナコチャザウルスをレベル1 さらにアシガ
ルラプターをレベル2で召喚だ！」

手札5 ⇨ 3

【ピナコチャザウルス】 赤属性 1コスト 1軽減

系統 地竜

コア1 レベル1 BP1000

コア3 レベル2 BP3000

コア5 レベル3 BP5000

シンボル1

レベル1 、 2、 3

このスピリットは緑のスピリットとしても扱う。

【アシガルラプター】 赤属性 2コスト 2軽減

系統 地竜

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

シンボル1

レベル1、2 『このスピリットのアタック時』

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、自分はデッキから1枚ドロースる。

体格はムシヤモサウルスと似ているが甲冑がなく緑色の体色をしているピナコチャザウルスとまるで足軽のような衣装を身に纏っている小型の恐竜アシガルラプターが召喚される。

恐龍隊したつば「ムシヤモサウルスのソウルコアをアシガルラプターに移動!ムシヤモサウルスのレベルを2に上げる。」

レベルが上がリムシヤモサウルスはわかりやすく赤く発光しBPが上がる。

ムシヤモサウルス レベル2 BP5000 (3コア)

アシガルラプター レベル2 BP3000 (2コア) S

ピナコチャザウルス レベル1 BP1000 (1コア)

恐龍隊したつば「アタックステップだー!!行け!!」

アシガルラプター!!アタック時効果!ソウルコアがあるから1枚ドロ〜!!」手札3
→ 4

アシガルラプターのBPは3000、BP5000のロクケラトプスでブロックすれば帰りうちだが、

花火「ライフで受ける!」

花火はライフで受けた。だかしかし、

花火「ぐわっ!!」ライフ5 → 4

リザーブ0 → 1

まだこのバトルに不慣れだからか予想以上の衝撃に花火は吹っ飛ばされる。

菜々子「花ちゃん!!」

小次郎「一木花火!!」

菜々子も小次郎は心配そうに花火に声を送る。

花火「大丈夫だー!へっちゃらだよー!!ふっー!!

ビックリしたー予想以上だったな!!」

花火は「大丈夫だー!!」と大きい声で二人に伝える菜々子と小次郎も「よかったー」とため息を吐いた。

恐龍隊したつぱ「このくらいで吹っ飛ばされるとか、どんだけだっせーんだよ!!おら

!!もう一発!!ムシヤモサウルス行け!!アタック時効果でまた1枚ドローだ!!」

手札4 ⇨ 5

花火「これは頼むぜ!ロクケラトプス!!ブロックだ!!」

ムシヤモサウルス BP5000VS ロクケラトプス BP5000

ムシヤモサウルスとロクケラトプスは真正面からぶつかりあうもBPが同じなためどちらとも吹っ飛んでしまいほぼ同時に爆発した、破壊されたスピリットのコアはリザーブに戻る。

花火「悪いなロクケラトプス。敵は打ってやる!」

恐龍隊したつば「やれるもんならやってみやがれ!!ターンエンドだ!」

したつばはピナコチャザウルスをブロッカーに残してターンを終えた。

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

花火「ドローステップ!!おっ!?へへ!そーいやお前とも会えるんだったよな!」手札

3 ⇨ 4

花火は引いたカードをみて口角を上げる。

リフレッシュステップ4 ⇨ 5

花火「メインステップ!!アグモンをレベル2で召喚!!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 2

【アグモン】 赤属性 3コスト 2軽減

系統 成長期、爬獣、地竜

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP6000

シンボル1

レベル1 2、3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統：

「成熟期」／「完全体」を持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名：

「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

レベル2、3 【進化：赤】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「成熟期」を持つ赤のスピリッ

トカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

花火「よろしく!アグモン!!おれ一木花火ってんだ!!」

黄色の体色で恐竜をデフォルメしたようなスピリットが現れる、アグモンも先ほどのロクケラトプス達のように咆哮を上げた。だが、花火、菜々子、小次郎の3人以外、村人達、村長、そしてしたっばもそのカードを見て驚いていた。

恐龍隊「なっなんで!?!おっお前がデジタルスピリットを持つてんだよ!?!そいつをどこで手にいれた!?!言え!?!」

花火「?郵便受けに今朝、入ってたんだよ〜〜かわいいだろ?こいつ!てか、お前このカードのこと知ってんの?」

恐龍隊「郵便受け?だと!!ふざけるな!!」

花火「いや本当だって!」

村長「なぜ主がそのカードを?」

村長も会話に入ってくるが

なんだか話たらきりがなさそうなので花火はターンを進めることにする。

花火「まあいいか、後で話そう、一先ずはこのバトルが終わってからだ!!アグモンの召喚時効果発揮!?!デッキから2枚オープン!!」

オープンカード【アシガルプター】【グレイモン】

花火「その中の系統:『成熟期』を1枚手札に加える!!よって系統:『成熟期』の【グ

レイモン」を手札に加える!!残りは破棄」手札3 ♪ 4

恐龍隊したつば「デジタルスピリットを持つるのは予想外だったが所詮はこけおどし!そんな雑魚直ぐに片付けてやる!」

花火「雑魚かどうかは今から判断するんだな!」

恐龍隊したつば「何?」

花火「行くぜ!!アタックステップ!!アグモンのもう一つの効果!!【進化：赤】を發揮!!!アグモンを手札に戻すことで系統：「成熟期」を持つ赤のスピリットカードを一枚ノーコスト召喚する!!来い!!グレイモン!!

召喚だ!!ロクケラトプスのコアを借りてレベル3!!」

ロクケラトプスはレベルダウンに伴いわかりやすくガクツとチカラが抜ける。そして、

アグモンがデータの0と1で作られたベルトのようなものに卵状に包まれて行く。その後卵は次第に大きくなり破裂し、中から頭部が甲虫のような甲殻になっていて、アグモンの進化態、同じく恐竜型のグレイモンが登場した!

【グレイモン】 赤属性 4コスト2軽減

系統 成熟期、地竜

コア1 レベル1 BP4000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP7000

シンボル1

レベル1、2、3『このスピリットのアタック時』

BP5000以下の相手のスピリットを一体破壊できる。そうしたとき、自分はデッキから1枚ドローする。

レベル2、3【超進化：赤】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

グレイモン レベル3（コア4）

ロクケラトプス レベル1（コア1）S

恐龍隊したつば「何!?でケエエ何なんだ?一体!?!」

花火「おおー!カッキー!よろしくグレイモン!!」

グレイモンはアグモン達とは比べものにならないほどの咆哮で応えた。相手のアシガルプターとピナコチャウルスはその咆哮に怯えている。

花火「行くぜグレイモン!!アタックだ!!」

花火の指示にグレイモンは走り出す!その時口から巨大な火の玉をアシガルプ

ターめがけ吐き出した。アシガルラプターは逃げようとするもそのまま直撃し大爆発を起す。

恐龍隊したつば「なに？アシガルラプター!!!」

花火「グレイモンのアタック時効果だ。BP5000以下の相手のスピリットを破壊して一枚ドロウできる。アタックは継続中だ！どうする？」手札4。5

恐龍隊したつば「ぐっライフだ!!ぐわっ!!」

ピナコチャザウルスのブロックは無理があるとみてしたつばはライフで受けるもグレイモンの強固なツノの一撃が大きすぎてライフの光りがなくなった部分から狼煙が上がる。

花火「ターンエンドだ!!!」

村人C「凄い!!これなら!!」

村人B「ああ!いける!!」

村人達「おーい!!頑張れー!!」

恐龍隊が押されているのを見て

さつきまで諦めモードだった村人達は一斉に花火を応援しだす。

恐龍隊したつば「五月蠅え!!まだまだこれからだあ!勝手に決めんなやアア!!!」

したつばもまだ諦めてはないうだ。花火もいつそう気を引き締めて行く。

「ターン05」恐龍隊したっぱ

スタートステツプ

コアステツプ リザーブ6 ⇨ 7

ドローステツプ 手札6 ⇨ 7

恐龍隊したっぱ「そいつは5000までしか破壊できねえ!!だったら!これでどう
ダアア!!召喚!!ムシヤモサウルス!!レベル1!! ダークデイノニクソーレベル3!!」

手札7 ⇨ 5

リザーブ7 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 2

【ダークデイノニクソー】 赤属性 2コスト2軽減

系統 地竜

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP4000

コア4 レベル3 BP6000

シンボル1

レベル2、3

このスピリットは緑のスピリットとして扱う。

先ほどと同じムシャモサウルスがもう一体出現し、

さらに黒い体色に腹にチェーンソーを収納した小型の恐竜「ダークデイノニクソー」が現れる。

恐龍隊したつば「どうだ!!こいつはBP6000!!そのデコボコ恐竜の効果は受け付けないぜ!」

「ダークデイノニクソーのレベル3のBPは6000、グレイモンのアタック時効果の対象にならないのだ。」

恐龍隊したつば「アタックステップ!!やれムシャモサウルス!!アタック時効果で一枚ドロ!!さらにソウルコアの力でBP+2000!!」

手札5 → 6

花火「ブロックだ!!ロクケラトプス!!」

ムシャモサウルスBP3000+2000 VS ロクケラトプスBP3000

再びロクケラトプスとムシャモサウルスが激突するが今度はロクケラトプスが押し負け吹き飛ばされそのままロクケラトプスは爆発してしまう。

花火「ロクケラトプス!!」

恐龍隊したつば「あんなのの心配してる場合か?おら!もう一発!!ピナコチャザウル

スでアタックだ!!」

花火「ライフで受ける!!ぐっう!!」ライフ4 ♪ 3

ピナコチャザウルスは赤いバリアめがけ突進し花火のライフを碎く

恐龍隊したっぱ「ターンエンド。次で終わりだ!!覚悟しな!!!」

したっぱはBP6000のダークデイノニクソーをブロッカーに残しターンを終えた。

村人C「やっぱりダメなのかなー?」

村人A「ぐっ!いいとこまでいったんだけどなー!!」

村長「待て!!あの者の眼をみてみる!!まだ諦めてはおらん!!」

村長が強く言うのと村人は花火を見る。確かにまだ諦めてはいない目をしていた。それどころかバトルを楽しんでいるかのように見えるほどだ。

菜々子「そうですよ!!こんくらいじゃ花ちゃんも絶対諦めないんだから!!」

小次郎「ここで諦めたらライバル失格だぞ!!一木花火!!」

花火「よっしや任せろ!!一発打ち上げてやるぜ!!!俺のターン!!!」

「ターン06」花火

スタートステップ

コアステップ2 ♪ 3 S

ドローステップ手札5 ⇨ 6

リフレツシユステツプ

リザーブ3 ⇨ 5

トラツシユ2 ⇨ 0

グレイモンは疲労から回復し再び咆哮する。

花火「メインステツプ!!アグモンを再び召喚だ!!レベル1!」

手札6 ⇨ 5

リザーブ5 ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 2

先ほど手札に戻ったアグモンが再びフィールドに現れる。

花火「アタックステツプ!!!行け!!グレイモン!!アタック時効果でBP5000以下の

スピリット、ムシヤモサウルスを破壊だ!」

グレイモンは再び走り出すと前のターンと同じように巨大な火の玉を吐き出し今度はムシヤモサウルスに向けて放つ。ムシヤモサウルスはその火の玉に直撃しそのまま爆発した。

恐龍隊したつば「ぐっ!」

花火「そしてドロー!!」手札5 ⇨ 6

恐龍隊したつば「残念だったな!!!ムシャモサウルスを破壊してもまだ俺のライフは3つ!負けはしないぜえ!」

花火「へへ!バトスピはスピリットだけじゃねーことくらい知ってるだろ?いくぜ!フラッシュタイムング!!!マジック「ガイアフォース」!!!」手札6⇩5

リザーブ2⇩0

トラッシュ2⇩4

マジックとはコストを支払って様々な効果を発揮するカード達のことである。一度使えばトラッシュユにいく使い切りのものが多いが強力な効果を発揮するカードも多数存在し、カードバトラーに与える恩恵は計り知れないものがある。

「ガイアフォース」 赤属性 4コスト 2軽減

マジック

フラッシュユ

ブレイブの「BP+」を無視して、BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊する。

さらに、カード名に「グレイモン」を含む自分のスピリット1体を回復させる。

花火「ガイアフォースの効果!!!BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊する!!!」

恐龍隊したつば「何だとおおお?!?!」

花火「ダークデイノニクソーを破壊!!!」

突如炎のシルエツトで現れた竜人は両手を天に掲げ大気中の空気を使いグレイモンの火の玉より遥かに大きい火の玉を形成する、さらにそれをダークデイノニクソーに向けて投げ飛ばす、ダークデイノニクソーは直撃し、大爆発を起こす。その後炎の竜人は姿を消した。

花火「ガイアフォースの効果はまだ終わらない!!!」

この効果発揮後、カード名に「グレイモン」と入っている自分のスピリット1体を回復させる!!!起き上がれグレイモン!!!」

恐龍隊したつば「嘘だろオオオオオ!!!」

グレイモンは赤く発光し、疲労状態から回復状態になる。

恐龍隊したつば「ライフだアアア!!!ぐわっ!!!」

ライフ3 → 2

グレイモンは鼻の上から突き出たツノでバリア越しにライフを破壊する。

花火「もう一回だ!!!グレイモン!!!アタック時効果で今度はピナコチャザウルスを破壊だ!!!」

グレイモンはピナコチャザウルスを踏み潰す。ピナコチャザウルスはグレイモンの足

の裏で爆発する!グレイモンはまだまだ暴れ足りないと言ってるかのように咆哮する。

花火「さらにドロロー!」手札5 ⇨ 6

恐龍隊したつば「ラツライフで...: : : ぬわつ!!クツソこの俺様がこんな奴に、ありえ

ねええ!」ライフ2 ⇨ 1

グレイモンはもう一度ツノでライフを破壊する。したつばはもう何が何だか分からなくなつてきて頭の中が真っ白になっていく。

花火「とどめはお前だ!!!アグモン!!!」

アグモンは「まつてました!」と言っているかののように走り出すそのまま三本の鋭利な鉤爪でしたつばの最後のライフをバリア越しで破壊した。

恐龍隊したつば「ウワアアアアアア

牙隊チヨオオオオオオオオ!!!」ライフ1 ⇨ 0

花火「どうだ見たか!!これが俺の「グレイモンデツキ」の力だ!!」

と言いながらVサインで決めポーズをする花火、それに合わせてアグモンとグレイモンは咆哮を上げる。

そしてその後直ぐにフィールドが光り出し、花火達は元の村人達の村に戻っていた。花火は倒れていたしたつばに声を掛ける。

花火「おい?大丈夫か?」

恐龍隊したつば「ぐっ！五月蠅ええ！今日のところは引いてやる！首洗って待つてやがれえ!!」

と捨てゼリフを吐きながら立ち上がりしたつばは村を去っていった。花火は「あれえ？」と思いつつも取り敢えず無事だったことにホッとする。

菜々子「花ちゃん!!大丈夫だった？」

小次郎「本当に負けると思つてヒヤヒヤしたぞ!!」

菜々子と小次郎が花火に駆け寄る。

花火「はは、まあ割と耐えられる痛みだったな。」

そんな会話をしていると村人達30人くらいが花火達にお礼を言いに来た。だが、一斉に話すものだから一つも聞き取れなかった。そして、村長が花火達の前に現れる。

村長「村を救つていただき誠にありがとうございます。」

ただし、あなた方には聞きたいことが山程ありますがゆえ、今晚、村のあなた方の歓迎の宴の時にでもわしと話してくださいませんかのお？」

花火「俺たちも聞きたいこといっぱいあるんだ！」

先ずここは一体何なんだ？本当にゴビ砂漠だったりしないよね？」

菜々子「そうそう！周り砂漠だし！ぜーったいゴビ砂漠だよね！」

小次郎「君は本当に呑気だな菜々子君。」

3人の会話を聞いて、村長は。

村長「ゴビ砂漠?何ですか?それは?ここはDーワールドの赤の大陸の「アカダツケ村」でございませうが?」

三人「いや、どこだあああああああああ!」

三人は大声でつつこむ。そして、これから始まる大きな、大きな出来事にもう呑み込まれていることを知る由もなかった。

第2話 D―ワールドの掟？ 炎魔神君臨！

花火が恐龍隊と呼ばれる男とバトルをして、もう約三時間は経過しただろうか。空はもうすっかり暗くなっている。

花火にバトルで敗北した恐龍隊のしたっぱは、砂漠の山に隠された恐龍隊の隠れ家に戻っていた。そして、赤い長髪に肉食動物の牙のようなものが混じっている首飾りを着用している青年と話しをしていた。というよりかはしたっぱが青年に叱られている。と、言うべきか。他のしたっぱ達はそれを見て笑っている。

赤い長髪の青年「で？なんで負けただけでこのこと帰ってこれたんだ？」

恐龍隊のしたっぱ「いや……………その……………あれですよ！ほら！早く牙隊長に赤のデジタルスピリットを使う奴が出てきたってことを伝えたくてですね……………」

青年の名は「牙」恐龍隊の隊長である。

牙「そういうことはどうでもいい。それより、いくつかその突然出てきた変な三人組に質問できなかったのか？例えば、お前のデジタルスピリットはどこで手に入れた？とか。」

恐龍隊したつば「いや!?聞いたんですよ!そしたらあいつ「郵便受けに入ってた。」なんてうつつを抜かすんですよ!」

牙「馬鹿やろおおお!それだったら別の視点から質問すれば良かっただろうが!!お前のデジタルスピリットはアカダツケ村の祠に眠るカードなのか?とかな!!」

恐龍隊したつば「ヒィヒィ!!」

牙はしたつばを怒鳴りつける。

牙「ふんつ!まあいい。赤のデジタルスピリット、しかも地竜か。面白い!今度は俺が直々に出向いてやる!」

恐龍隊したつば「ええ!」

この発言には他のしたつば達も驚いていた。

牙「どうせ、お前らじゃあそいつに束になっても勝てねえよ!俺が自分で行って奴のデジタルスピリットを奪ってきてやる!いくぞ!野郎どもお!」

したつば達「おつ、おお!」

したつば達は戸惑いながらも全力で返事をした。

場所は変わり、結果的にアカダツケ村の人々を救ったことになった花火達は、村の宴

により歓迎されていた。それはまるでキャンプファイアのような感じで火の周りを村人達が踊っていた。火のすぐ側で彼等は村の村長と話しをしていた。

村長「ふむ、つまり花火殿達はリアルワールドの人間で、そのバトルヴァイスとデジタルスピリットが届けられた日に、急にこのDーワールドに飛ばされてきた。ということですか？」

花火「はい、たぶんそうなんだと思います。とても信じらんねーけど。」

花火達はこれまでの自分達の経緯を村長に話していた。

「どうやら花火達は自分達が暮らしていた世界とは全く別の異世界に来てしまったらしい。ちなみに花火達の世界はリアルワールドと呼ばれているらしい。」

村長「では、花火殿達の質問にお答えしましょう。」

花火「そうですね、先ずはこの世界がなんなのか教えてください。」

花火が村長に質問する。

村長「この世界の名はDーワールド。デジタルの科学技術が発展した世界にございます。先ほどのバトルフィールドもスピリット達もみんなデジタルで構成されておりました。」

小次郎「ええ!? そうだったのか?」

「菜々子」とてもそんな感じには見えなかったなー。あれがみんなデジタルだなんて、」

村長「驚くのも無理ありませんね。リアルワールドには存在しませんが、この世界のデジタルは質量を持っておられるのです。故にスピリットの疑似実体化が可能なのです。」

花火「なるほど、質量ね。ライフで受けた時に重みがあるわけだ。」

花火は冷静に分析する。

村長「あとDーワールドには一つの掟が存在します。」

花火「掟?」

村長「ええ、それはバトスピで何事も問題を解決しなければならぬという掟でございませぬ。故に軍事の暴力は存在しませぬが、結果、バトスピが強い者だけが生き残れる弱肉強食の世界になって居るのです。」

菜々子「それで、さつき誰も抵抗できなかったんだ。バトスピで全て決めるなんて変なの〜」

この世界の掟は花火達の世界ではとても考えられないものだった。

花火「その掟はいつからあるの?」

村長「それはわしにもわかりませぬ。Dーワールドは6つの大陸に大きく分かれておりますが、それぞれ風習や文化は違うもののバトルスピリッツの掟だけはどこも同じなのでございます。」

小次郎「うゝゝむ、難しいものですね。

じゃあ、デジタルスピリットってなんなんすか？さっきのチンピラもなんかすごい欲しそうに言っていましたけど。」

小次郎がデジタルスピリットについて質問する。

村長「デジタルスピリットとは、リアルワールドとDーワールドの狭間の空間に存在する特別なバトスピカードのことでございます。しかし、たまーにこのDーワールドに流れ着くことはありますが、リアルワールドに流れ着くなんて聞いたこともありませんのお、可能性としてはなくもありませんが、バトルヴァイスも一緒とは。」

花火「なんでリアルワールドには来ないんですか？」

村長「それは、デジタルスピリットがデジタル量の多いところに吸い寄せられることが原因でございます。リアルワールドのデジタル量とDーワールドのデジタル量の差は圧倒的にDーワールドの方が多いのです。」

菜々子「じゃあさ！村長さん！リアルワールドに戻るためにはどうしたらいいの？」

村長「そうでございますね。先程、花火殿と小次郎殿のバトルヴァイスの力でこの世界に来たと聞きましたので、お二人のバトルヴァイスを調べてみたのですか。とてもそんな機能などなく、いたって普通のバトルヴァイスでございました。しかし、白の大陸にDーワールドとリアルワールドを行き来できる場所があると聞いたことがあります

ぞ。」

小次郎「本当ですか!？」

花火「白の大陸までどうやっていけばいいのですかね?」

村長「先ずは少し遠いですが、この赤の大陸の港に行き、船に乗ります。その船は一回緑の大陸に止まりますが、すぐに白の大陸に向けて出航するはずでございます。

残念ながら、赤の大陸から白の大陸までの一本道はないので、これが最短ルートにございます。」

花火「きつそうだな、でも行ってみるしかないか……」

菜々子「そうだね!頑張って明日にでも出発しようか!」

花火「そうだな!じゃあ今日はもう寝るか…… あっそうだ!

村長「あと一ついいですか?」

村長「はい、なんでしょう。」

花火「今日、バトルした恐龍隊ってやつらは何者?」

花火は恐龍隊について聞く。

村長「恐龍隊はこの赤の大陸で暴れ回る不屈き者の集団にございます。今回はこのアカダツケ村の大事なカードを奪いに来ているのです。」

菜々子「大事なカード?」

村長「作用にございます。遙か昔、この村に舞い降りて来たカードだと言い伝えられて来ましたが、そのカードの実態を知るものはわしらの中にはおりませぬ。」

花火「そうだったのか。じゃあ、俺らが離れたらまたこの村は狙われるんじゃないか……」

村長「問題ありません。主らのおかげで、わしらアカダツケ村の村人は勇気を授かりました故次はわしら自身で追っ払ってみせますぞ！」

村長は力強く宣言した。

花火「そっか！それはよかった！じゃあ安心してここを出られるよ！」

花火は嬉しそうに言う。

村長「では、明日花火殿達の旅の祝福としてアカダツケ村の祠にお祈りしてから出発してくださいませ！食糧等はわしらで準備させていただきます。」

花火「ありがとう！助かるよ！」

話が纏まったその時だった。

牙「おい！」

一人の男が宴に割って入る。

その男が現れた途端、急に周りの村人達は踊りをやめ慌てふためいていた。

花火「あら？村の皆さんどうしたの？慌てて、」

村長「奴は、恐龍隊、隊長の牙!!」

花火「牙?」

牙の後ろからしたつば達がぞろぞろと出てくる、その中には花火とバトルしたしたつばもいた。」

バトルしたしたつば「牙隊長! あいつす! あの茶髪やろうつすよ!」

したつばが花火に指をさしながら言う。すると牙は「ほう」と興味深そうな声を出し、花火に近づく。

牙「お前が地竜のデジタルスピリットを使つてたつていうガキか? だったら一つ聞く。」

牙は花火を睨みつけながら言う。

花火「なんだ。」

牙「お前の持つているデジタルスピリットはこの村に伝わるカードなのか?」

花火「そうだったら、どうする?」

牙「今回はそれをお前から奪い取つてやろうと思つてな。」

稀にしかみれねえデジタルスピリット、しかも、系統は地竜、最高じゃねえか!」

牙の言葉に対し、いつもおっとりとしていた花火の顔は急に険しくなる。

花火「ふざけるなよ。アグモン達はまだ俺の仲間だ。お前にはわたさねえ。」

菜々子「花ちゃん？」

花火の心は静かに怒りの炎で燃え上がっていた。菜々子は、いつもと違う花火を見て心配そうな顔をする。

牙は、花火の目を見て、花火が只者ではないと察する。

牙「なるほど！強そうだな！お前！」

花火「あんたもな。」

同時に花火も牙が只者ではないということを察していた。

そして牙は花火にある提案を持ちかける。

牙「よし、こうしよう。俺とお前がバトルして、俺が勝ったら、お前のデジタルスピリットをもらう。お前が勝ったら……：：： そうだな。俺ら恐龍隊は解散し、二度と暴れ回らねえ。それでどうだ。」

この条件に恐龍隊のしたつば達は驚きを隠せなかった。

恐龍隊のしたつば「なっ！なに言ってるんですか？隊長ー！そんなにかけることないでしょう!!」

牙「うるせえぞ!!てめえらまさか俺が負けると思ってたのか？」

牙が怒鳴る

恐龍隊のしたつば「あついやそういうわけじゃ……」

牙の一言で他の恐龍隊は全員萎縮してしまった。

牙「じゃあ、黙って観戦しときな! どうだガキ、やるか?」

花火「ああ! 俺は受けて立つさ!」

花火は自信満々にこたえる。

菜々子「ちよつと、花ちゃんいいの? 負けたら、アグモン達が取られるんだよ!」

小次郎「そうだぞ! 無理すんな!」

菜々子達は心配する。

花火「でも、これに勝てばもうアカダツケ村の人達が危険にさらされることはなくなる。なあに、心配すんな! 絶対勝つてやる!」

菜々子「花ちゃん。」

菜々子は心配そうに声をもらす。

村長「何から何まで本当に申し訳ございません。」

花火「気にしなくていいですよ!! 村長! お互い様ですしね。」

牙「話はまとまったか? じゃあ、「やる」でいいんだな?」

花火「ああ! 行くぜ!」

花火&牙「ゲートオープン解放!!!」

花火と牙はバトルフィールドに降り立つ。観戦席には菜々子達、そして、その反対側

には他の恐龍隊達が見守っている。牙のバトルアーマーは赤いティラノサウルスをモチーフにしたものだ。

牙「先行はくれてやる。本気がかかって来な！」

花火「言われなくても、いくぜ！俺のターン!!!!」

「ターン01」花火

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メイנסテップ!!アグモンをレベル1で召喚!!」

手札5 ⇨ 4 リザーブ4 ⇨ 0 トラッシュユ ⇨ 0 ⇨ 3

【アグモン】 赤属性 コスト3 2軽減

系統 成長期、爬獣、地竜

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP6000

シンボル赤

レベル1、2、3『このスピリットの召喚時』

自分のデッキから2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つ

スピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

レベル2、3【進化：赤】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

アグモン レベル1/BP3000(コア1)S

フィールドに黄色の体色で、デフォルメされた恐竜のようなスピリットが召喚される。牙はそれを見て嬉しそうに口を開く。

牙「これが、赤のデジタルスピリットか!!おもしろえー!」

花火「召喚時効果発揮!!デツキから2枚オープン!!」

その中の成熟期を手札に!」

オープンカード【ガイアフォース】(ロクケラトプス)

花火「召喚時是不発。オープンカードは破棄。そのままターンエンド。」

二枚のカードはトラッシュに送られ、花火はそのままターンを終えた。

牙「ふっ、次は俺の番だ。」

「ターン02」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ 4 ⇨ 5

ドローステップ 手札 4 ⇨ 5

牙「メインステップ！ネクサス、黄昏の暗黒銀河をレベル1で配置だ。」手札 5 ⇨ 4

リザーブ 5 ⇨ 0

トラッシュ 0 ⇨ 5 (S)

【黄昏の暗黒銀河】 赤緑属性

コスト 5

赤 2 軽減

ネクサス

緑 1 軽減

0 コア レベル 1

2 コア レベル 2

シンボル 赤緑

レベル 1、2 『自分のアタックステップ』

系統：「地竜」を持つ自分のスピリット全てをBP + 3000する。

レベル 2 『自分のエンドステップ』

系統：「地竜」を持つ自分のスピリット3体を回復させる。

ネクサスとは、フィールドに配置しているだけでスピリット召喚の軽減やサポートを

してくれるカード達のこと、マジックとは違い破壊されるまでフィールドに残るのが特徴。

牙の後ろに巨大な銀河のような背景が映る。

花火「ネクサスはあんな感じで出てくるのか。」

牙「ほら、ターンエンドだ。」

ターンエンドの言葉を聞き花火は気を引き締め直す。

「ターン03」花火

スタートステップ

コアステップ

リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ

手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 4

ト

ラッシュ3 ⇨ 0

花火「メインステップ! シャムシーザーをレベル1で召喚!! アグモンをレベル3に

アツプ!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4⁰

【シヤムシーザー】 赤属性 コスト1 1軽減

系統 爬獣

コア1 レベル1 BP2000

コア3 レベル2 BP3000

シンボル赤

レベル1、2

このスピリットは白のスピリットとしても扱う。

フィールドに体色が赤く、背中に数本の白い刃が生え、足が6本ある、系統：爬獣のスピリット、シヤムシーザーが召喚される。そして、アグモンはレベルアップにより力強く吠える。

花火「アタックステップ!!アグモンの【進化：赤】発揮!!アグモンを手札に戻し、グレイモンをレベル3で召喚!!」

アグモンに0と1のコードが卵状に包み込まれるそれはどんどん膨らみやがて0と1のコードは破裂し中からアグモンの進化した姿グレイモンが現れる。

【グレイモン】 赤属性 コスト4 2軽減

系統 成熟期、地竜

コア1 レベル1 BP4000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP7000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットのアタック時』

BP5000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、自分はデッキから1枚ドローする。

レベル2、3 【超進化：赤】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「完全体」を持つ赤のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

小次郎 「よし！グレイモンだ!!」

菜々子 「いっけー!!花ちゃん!」

花火 「頼むぞ！グレイモン!」

花火の言葉のに応えるかのようにグレイモンは力強く咆哮する。

牙 「なるほど、そいつが進化態か、」

花火 「行け！シャムシーザー、グレイモン!」

牙 「二体ともライフで持って来やがれ!」

る。
 グレイモンは自分のツノで、シャムシーザーは尻尾の刃でそれぞれ牙のライフを削

牙「くっ！」ライフ5 ⇨ 3

リザーブ0 ⇨ 2

花火「よし！ターンエンドだ！」

グレイモン レベル3 コア(4)S

シャムシーザー レベル1 コア(1)

「ターン04」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブコア2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ リザーブ3 ⇨ 8

シユ5 ⇨ 0

牙「メインステップ！先ずは恐龍同盟 マノブロウサウルス、
 プテロダークをそれぞれレベル1で召喚!!」

手札5 ⇨ 3

トラッ

リザーブ 8 → 5

トラッシュ 0 → 1

【恐龍同盟 マノブロウサウルス】 赤属性 2コスト 赤1軽減 緑1軽減

系統 地竜

コア1 レベル1 BP 2000

コア2 レベル2 BP 4000

シンボル 赤

このスピリットカードが相手の「デッキ破棄効果」で破棄される時、このターンの間、自分のデッキは破棄されず、このスピリットカードは、トラッシュに置くかわりに、コストを支払わずに召喚できる。

レベル 2

このスピリットの色とシンボルは緑としても扱う。

【恐龍同盟 プテロダーク】 赤属性 コスト 3 2軽減

系統 空牙、地竜

コア1 レベル1 BP 2000

コア3 レベル2 BP4000

シンボル赤

レベル1、2 『このスピリットのアタック時』

このスピリットのBPを+4000する。

レベル2

疲労状態のこのスピリットは、相手のスピリット／ブレイブの効果を受けない。

フィールドに体に棘を生やした四足歩行の地竜マノブロウサウルスと黒いプテラノドンのような外見のプテロダークが召喚される。そして牙はもう一体スピリットを召喚する。

牙「よし！準備は整ったぜ！来やがれ！召喚!!暴双龍ディラノス！レベル1だ！」手札3 → 2

リザーブ

5 → 2

トラツ

シユ1 → 3

フィールドの地の底が二つに割れ火山が爆発する。その中から頭部の上にもう一つ頭を有する地竜、暴双龍ディラノスが姿を現わす。

【暴双龍テイラノス（リバイバル）】 赤属性 コスト5

3 軽減

系統 地竜、皇獣

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP9000

シンボル赤

レベル1、2、3

系統：「地竜」／「皇獣」を持つ自分のスピリットすべて

をBP+5000する。

レベル2、3 『このスピリットのアタック時』

このターンの間、このスピリットに煌臨した赤のスピリットは、バトル終了後、続けてもう1回だけアタックできる。

牙「これが俺の相棒だ！」

恐龍隊したつば達「来たー！牙隊長のキースピリット！

やっちゃってください！」

他の恐龍隊達は牙に大きな声で声援を送る。

牙「暴双龍デイルノスのレベル1からの効果で、全ての地竜にBP+50000だ!!」
 花火「なに!?50000も!?!」

デイルノスを含む全ての牙のスピリットが赤く発光し、スピリット達の士気が上がる。

牙「さらに、黄昏の暗黒銀河をレベル2にアップする。」

リザーブ2⁰

レベルアップに伴い黄昏の暗黒銀河も一瞬赤く発光した。

恐竜同盟 マノブロウサウルス レベル1/BP2000+5000

(コア1)

恐竜同盟 プテロダーク レベル1/BP2000+5000

(コア1)

暴双龍デイルノス レベル1/BP3000+5000 (コア1) S

(ネクスス) 黄昏の暗黒銀河 レベル2 (コア2)

牙「アタックスステップだ!!黄昏の暗黒銀河のレベル1、2効果で自分のアタックス

テップ中に地竜全てをBP+3000!

やれ! マノブロウサウルス!

花火「ライフで受ける!ぐっ!」ライフ5⁺4

マノブロウサウルスは自身の身体を空中で回転させそのままバリアにぶつかりにいき花火のライフを削る。

牙「さらに、プテロダーク!アタック時効果でBP+4000!

合計BP14000のアタックだ!!」

菜々子「嘘!低コストのスピリットであんなにまでBPが上がるなんて!」

花火「どちらにせよブロックはできねえ!ライフだ!!

うっ!!」ライフ4⁺3

プテロダークは分厚い翼で花火のライフを砕く。

牙「最後はお前だ!!デイラノス!!」

花火「これも……ライフだ、うわっ……」ライフ3⁺2

デイラノスは二つの口で火を吹き、花火のライフを減らす。

これにより牙のスピリットはすべて疲労状態、次の花火のターンでは誰もブロックできな
きないが……;

牙「エンドステップ、黄昏の暗黒銀河のレベル2の効果を発揮する、地竜のスピリッ

ト3体回復。アタックした3体を回復だ。」

黄昏の暗黒銀河が赤く発光した瞬間、先程アタックしたデイラノス達も赤く発光し、疲労状態から回復状態になる。

菜々子「そんな、あんだけ攻めておいて守りもするだなんて、」

小次郎「大雑把かつシンプルに強い動きだな、無駄がないというかなんというか、うゝむ、とにかく負けるなー！

一木花火!!」

菜々子「そうだよ！まだまだこれから！頑張れ〜！花ちやくん！」

2人も負けじと声援を送る。

花火「まったく、簡単に言ってくれれば、こっちは打開策が一切出てこねえつてのによ。」

花火は必死にこの状況の打開策を考える。

花火（BPが5000も上がってるんじや、グレイモンの効果で破壊できない。となると、先ずはBPアップもとのデイラノスを倒さねえといけない、でも今はあいつにスピリットのBPも手数も負けている………）
ガイアフォース！そうだ、あれがあれば

デイラノスを破壊しつつ一気に勝ちにいける！ドローさえできれば、

牙「ターンエンドだ!!どっからでもかかって来やがれ！」

「ターン05」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

花火「ドローステップ!!」手札4 ⇨ 5

花火「っ! くっそ! ガイアフォースじゃねえ。」

花火は悔しそうな顔をする。

牙「ふっおめあてのカードじゃなかったみたいだな。」

花火「リフレッシュステップ!」

グレイモンとシャムシーザーは再び起き上がる。

花火「メインステップ。、、アグモンをレベル2で再召喚、召喚時効果発揮! 2枚オープン!」手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

再びアグモンがフィールドに現れる。そしてアグモンの力でデッキがオープンされるが、

オーブンカード【天下烈刀斬】【ガイアフォース】

花火「うっ、次引いてた、、」

菜々子「あつままたガイアフォースが!？」

小次郎「あいつ、今回引き込みが弱いぞ!?勝てんのかよ〜!？」

シヤムシーザー レベル1/BP2000(コア1)

グレイモン レベル3/BP7000(コア4) S

アグモン レベル2/BP5000(コア3)

花火「仕方ない、このターンはエンドだ。」

牙「はっ!チキンやろうが!その程度かよ!」

牙は呆れた態度で言う。一方で他の恐龍隊達は呆然一方の花火を見て、牙の応援に更に熱が入ってた。

小次郎「確かにこの状況はアタックできないよな。」

菜々子「花ちゃん」

小次郎達は心配そうに言う。

牙「俺のターンだ!」

「ターン06」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュユ3

⇨ 0

牙「メインステップ! デイラノスをレベル2へ、プテロダークをもう一体レベル1で
召喚!!」手札3 ⇨ 2

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 1

プテロダークがもう一体追加でフィールドに降り立つ。

牙「アタックステップ! 再び暗黒銀河の効果で全員にBP+3000!! アタックだプ
テロダーク!! アタック時で更に+4000!!」

花火「シャムシーザー頼む!!」

恐龍同盟 プテロダークBP2000+5000+3000+4000VS

シャムシーザーBP2000

シャムシーザーは果敢に立ち向かおうとするもBPに違いがありすぎるのか、プテロダークの翼撃にあっさりと破壊されてしまう。

花火「悪い、シャムシーザー。」

牙「そいつの心配してる場合じゃないぜ！もう一体のプテロダークでアタック！」

牙はすぐさまもう一体のプテロダークに指示をする。プテロダークは空中から急降下してくる。

花火「フラッシュユタイミング!!マジック!!」**【リアクティブバリア】**を使用！不足コストはグレイモンをレベル1にして確保！」手札4 ⇨ 3

リザーブ1 ⇨ 0

トラッシュユ1 ⇨ 5

グレイモン レベル3 / BP 7000 (コア4)

←

レベル1 / BP 4000 (コア1)

牙「なに？白のマジック!?!」

【リアクティブバリア】 白属性 4コスト 2軽減

マジック

相手の効果で自分のライフが自分のライフが減るとき、手札にあるこのマジックカー

ドを破棄することで、自分のライフは1しか減らない。その後、コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ?!

このバトルが終了したとき、アタックステップを終了する。

花火「そのアタックはそのままライフで受ける!ぐっ!」ライフ2→1

花火「そしてお前のアタックステップは終わりだ!!」

急降下して来た、プテロダークはそのまま花火のライフを破壊するが、すぐさま牙のスピリット達の前に巨大な氷山が出現し、行く手を阻む。

牙「白マジックは意外だったな。だがいつまでも耐えられると思うなよ!エンドステップ!暗黒銀河の効果でプテロダーク2体を回復!ターンエンドだ!!」

牙は疲労したプテロダークを再び回復させる、これでブロッカーは4体になる。

花火(そうだ、こんなの一時凌ぎでしかない。このターンでなんとかしてやる!)

花火は次の自分のターンでなんとかしなければ、絶対に負けると考えていた。

菜々子達も固唾を飲んで見守る。

「ターン07」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

花火「ドローステップ!!」手札3 ⇨ 4

花火が引いたカードは………

花火「そうか！お前が来てくれたか！サンキューな！」

牙（？なんだ、何を引きやがった？）

花火は引いたカードをみて口角が上がる。

牙は何か来たであろうことを察し、身構える。

花火「リフレッシユステップ！」リザーブ2 ⇨ 7

トラッシュユ5 ⇨ 0

花火「メインステップ!! 召喚!! 異魔神ブレイブ!!

【炎魔神】!!」手札4 ⇨ 3

リザーブ7 ⇨ 4

トラッシュユ0 ⇨ 3

花火の目の前に巨大な炎が出現し、そこから人型のロボットのような系統：機竜の異魔神ブレイブ、炎魔神が炎を振り払い現れる。

ブレイブとは、条件の合うスピリットに合体することで真価を発揮するカードのことである。組み合わせが様々で単にブレイブと言ってもいろんな種類が存在する。ちなみにこの異魔神ブレイブは、スピリット2体とブレイブすることができる、超レアカードだ。

【炎魔神】 赤属性 5コスト 赤2軽減 白2軽減

ブレイブ

系統 異魔神、機竜

コア0 レベル1 BP5000

コア0 合体+5000

シンボル赤

このブレイブは、疲労せず、スピリット状態のとき、アタックとブロックができない。

《右合体条件：コスト4以上》

【右合体時】『このスピリットのアタック時』

このスピリットのBP以下の相手のスピリット/アルティメット1体を破壊する。

《左合体条件：コスト4以上》

【左合体時】『このスピリットのアタック時』

相手のバースト一つを破棄することで、このターンの間、自分のスピリットすべてをBP+50000する。

牙「なに?! 異魔神ブレイブだとお!?!」

菜々子「出た! 花ちゃんのキーカード! あのデッキになってもまだ入れてたんだ。」

菜々子達は花火の炎魔神のことを知っているようだ。

花火「お前の後ろ姿を初めて見たけど、やっぱり、お前はカッコイイぜ!! 炎魔神!」

炎魔神は花火のところを振り向き、「いくぞ」と言っているように頷く。

花火「よっしゃ! やるぞ! グレイモンとアグモンをレベル3にアップして、炎魔神をグレイモンに右合体だ!」

リザーブ4 → 0

グレイモンとアグモンはレベルアップで力強く吠える。

炎魔神は自身の右手から光の線をだし、それをグレイモンに当て、グレイモンに力を与える。

アグモン レベル3 / BP 6000 (コア4)

グレイモン+炎魔神 レベル3 / BP 7000 + 5000 (コア4) S

花火「いけ! グレイモン! アタック! 炎魔神の『右合体アタック時』! このスピリット

トのBP以下の相手のスピリット1体を破壊!」

牙「なに!？」

花火「対象はデイラノス!お前だ!!」

グレイモンのBPは今、合計12000、BP10000のデイラノスよりBPが高いため、炎魔神の効果で破壊が可能なのである。

グレイモンが走り出すと同時に、炎魔神は自身の拳を射出し、打ち出す。その拳は回転しながら一直線にデイラノスに向かっていく、デイラノスはその拳を受け止めようとするも、直ぐに吹っ飛ばされ爆発してしまう。対象を破壊した拳は炎魔神に再び装着された。

牙「デイラノス!!!」

牙はデイラノスの破壊が何よりショックだった。デイラノスがいなくなったことにより、プテロダーク2体とマノブロウサウルスはもとのBPに戻り、わかりやすく、ガクツと力が抜けた。

花火「デイラノスが消えたことにより他のスピリットのBPプラスはなくなる!よってグレイモンの効果は有効化する!プテロダークを1体破壊!」

グレイモンは口内に炎をため、プテロダークめがけ、その炎をはきだす、プテロダークはなにもできず破壊されてしまう。

花火「そして、破壊に成功したら1枚ドロ―だ！」手札3 ⇨ 4

花火のドロ―したカードは、、、

花火「！サンキューな！俺のデッキ！フラッシュタイミング！！マジック！【ガイアフォース】！不足コストはアグモンをレベル1にして確保！」手札4 ⇨ 3

トラッ

シュ3 ⇨ 5

アグモン レベル3 ⇨ 1

コア4 ⇨ 2

【ガイアフォース】 赤属性 4コスト 2軽減

マジック

フラッシュ??

ブレイブの「BP+」を無視して、BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊する。

さらに、カード名に「グレイモン」を含む自分のスピリット1体を回復させる。

牙「そのカードは2枚トラッシュに落ちていったはずだ。

さっきの効果で引いたのか!？」

花火「もう1体のプロトダークも破壊!グレイモンを回復!」

超弩級の火球がプロトダークを破壊すると同時にグレイモンは赤く発光し回復する。

牙「くっ!すげえ、まだこんな奴がいるなんて、俺はまだ井の中の蛙ってか?」

花火「アタックは継続中!」

牙「マノブロウサウルスでブロックだ。」

グレイモン+炎魔神BP7000+5000VS恐龍同盟 マノブロウサウルスB

P2000

BP差は圧倒的、グレイモンはマノブロウサウルスを踏みつけて、破壊する。

牙「来い!残りのライフ全部くれてやらー!」

花火「打ち上げろ!アグモン、グレイモン!」

グレイモンはブレイブの炎魔神がシンボルを持っているためシンボルは2、よってライフを2つ破壊できるのだ。

アグモンが先に爪でライフを砕き、その後、グレイモンは口内に溜め込んでいた炎を一気に放ち最後の2つのライフを破壊する。

牙「ぐわー!!!」ライフ3→0

他の恐龍隊「隊長ー!!!」

牙は負けたことにより、バトルフィールドからはじきだされる。

グレイモンとアグモン、炎魔神は高らかに咆哮する。
その後、花火もバトルフィールドからもとの場所へと戻る。

花火「はあつ、はあつ、かつ勝った。」

花火はバトルに勝ったものの満身創痍の状態だった。

牙「まさか、この俺が負けるとはな、、、はっはっはっはっはっはー！」
牙はなにがおかしいのか急に笑い出す。

小次郎「なに笑ってんだ!? あいつ?」

花火「俺の勝ちだ。約束は守ってもらうぞ。」

牙「ああ、約束通り、恐龍隊は解散し、二度と暴れたりはしない。」

他の恐龍隊「隊長ーーーー!!!」

牙「元隊長だ。」

牙が訂正をいれる。

花火「なあ、牙、俺はあんたとこんな感じでバトスピしたくなかったよ。」

花火は牙に問いかける。

花火「なにもかけななかせず、背負うこともせず、ただただ楽しくバトスピしたかつ

た。」

牙「はっ! 甘いな、こんな甘っちょろい奴に負けたのか俺は、そんな奴のカードなんか奪ってたら俺まで甘っちょろくなってるたかもな。そのデジタルスピリットももう狙わねえようにすつか。」

花火の言葉に牙は呆れたようにいう。

牙「だが、お前はもう一度俺と戦ってもらおう! 俺は今から一人で修行を重ねてくる。そして、次は俺自身のプライドをかけて戦う! その時は逃げるなよ! ガキ! いや、一本花火!」

花火「! ああ! もちろんだ! またやろうぜ!」

花火は牙もなんだかんだバトルが好きなだけということを悟ったのか、安心したように返事する。

花火の返事を聞いて、牙は少し口角をあげ、そのまま立ち去ろうとするが、

他の元恐龍隊「牙元隊長!」そのリベンジ俺らにも見届けさせて下さい! 俺らはあんなのハードボイルドな生き様に惚れてついてきたんだ! 俺らの隊長はあなたしかいません! その修行の旅付き合わせて下さい!! お願いします!」

恐龍隊達は、全員牙に向かって頭を下げる。

牙はめんどくさそうに頭をかくが、「まあいつか」とつぶやく。

牙「はっ！仕方ねえ！ついてきたけりやついてきな！」

あと、牙元隊長は語呂が悪いから、やつぱ、牙さんでいい。」

したつば達「牙さん!!!ありがとうございます！」

一生ついていきます！」

牙「じゃ、そういうことだ。お前もせいぜい腕磨いとけよ！花火！」

花火「ああ、もちろんだ！」

素晴らしいながら牙は部下を連れ、夜の闇に消えていった。

花火「以外といい奴だったな！あいつ！」

花火が牙についていう。

小次郎「馬鹿野郎！本当に負けかけてたじゃねーか！」

花火「まあドーに救われたな〜。」

菜々子「でも花ちゃん？もとの世界に戻ったら牙とバトルできなくなるんじゃない

？」

花火「生きてれば、きつとまたどこかで会えるよ！」

三人がそんな会話をしていると、村長が花火に礼を言いにくる。

村長「一度ならぬ二度も村を救っていただきありがとうございます！村人達もこれで

安心して生活できます！」

花火「いいよ! 村長! きにしないで、1回も2回も変わんねえよ!」

村長「さきさき今日はもうゆつくりお休みなさいませ! 明日は村の祠に行ってもらいますからのー!」

花火「そうだった、村の祠ってどんなところだろ? 楽しみだな!」

菜々子「旅の途中、観光スポットみたいなのあったら見に行きたいなー!」

花火「おおー! いいなそれ! 記念みたいな感じで、スマホ通信繋がらないけど、カメラ機能とかつかえるし!」

菜々子「でしよ〜! ツーショット撮ろうね! 花ちゃん!」

花火「おっおう。」

菜々子の明るい笑顔に、花火は少し顔が赤くなる。

小次郎「俺も混ぜろー!!」

そんな時、村の外で、花火達を望遠鏡で観察しているものが1人いた。

体格的に女性だろうか? 女性は仮面をつけて、アカダツケ村へ歩き出した。

第3話 謎の仮面少女！ 迎え撃てカブテリモン！

花火と牙のバトルから約8時間は経過した。空はもうすっかり明るくなり、家畜として飼われている鶏の鳴き声が

響く。

花火達3人は、村の空き家を借りて一夜を過ごしていた。

菜々子「おっはよー！！花ちやー！！朝だよー！！」

花火「うっ、頼む、もうちよい寝かして、昨日あんなバトルを連チャンしたから疲れが取れないんだよ。」

菜々子が、花火を起こしに来るも、花火は昨日の慣れないバトルで随分お疲れのようだ。

菜々子「小次郎君はもう行ったよー！村の人達ももう集まってるんだよー」

花火「まじかく勘弁してくれ、、、、」

花火は仕方なく起床した。

一方、小次郎は村の人達と一緒に村の祠の前で花火と菜々子を待っていた。

小次郎「やつぱり寝坊したなあいつ、部屋出る時起こしときや良かった。」
小次郎は花火と同じ部屋で寝たのだが、朝なかなか花火が起きないので、呆れて先に祠に向かったのである。

小次郎「まあ葉々子君が行ったし、流石に起きるだろ。」

村長「先に祠の中で待っていておきますか？この村の朝方は冷えますので。」

村長が提案する。

小次郎「あついいいんすか？じゃ入るところかな、」

小次郎と村長、村人達は祠の中へと入っていく。中はそんなに長くなく、すぐに最深部についた。

壁には巨鳥なのか、そんな感じの絵が彫ってあった。

祠の中心には大きな石箱が置いてあった。

小次郎「なんかすごい神秘的ですね。」

村長「あの石箱の中には伝説のカードが入っていると伝えられていますが、昨日お話しした通り、誰もその実態を知りませぬ。」

その時だった

??? 「へえ、じゃ、デジタルスピリットじゃないにしてもすごいカードなのは間違い

なさそうだね！」

小次郎「?だれ？」

村長「何者じゃ！」

いつからいたのか、1人の少女は小次郎達の目を欺き知らぬうちに祠の石箱に座つていた。

その少女は鬼のお面をつけていて、どこか幼い感じだ、年は花火達より下だろうか。

???「よし!じゃあさつそく動かしてみようかな！」

村長「よせ！」

少女は石箱の蓋を開けようとする。だか、

???「ぐぬぬぬぬつつ！」

石箱はビクともしない。

???「なんでこんなに重たいの?1つも動かないじゃない！」

小次郎「君つてもしかして、、ドジ？」

???「なつ!違うわよ!今に見てなさい!すぐにこんな石!!ふんつ!ふんつ！」

だが、石箱はビクともしない。

???「あー!!もう!これじゃ、兄いに顔向けできない!どうしよう!？」

小次郎「やっぱ、ドジだよな?君」

??? 「うるさい!! ドジじゃない! 私の名前はイトニよ! お前なんて、あのカップルのおまけのくせに!」

少女 イトニは小次郎に暴言を吐く。小次郎は流石にツツコム

小次郎 「おまけとはなんだー! どっちゃかっていうと菜々子君の方がおまけだろおー!」

イトニ 「何よ! デジタルスピリット使って恐龍隊壊滅させた茶髪の男とその彼女、じゃああんたはなんだっていうのよ。」

小次郎 「俺はその茶髪の男の永遠のライバルだ! それに俺もデジタルスピリットを持つてる。」

その言葉にイトニは驚く。

イトニ 「ええ!? あんたも持つてんの?」

小次郎 「そうだ! っていうかなんで、俺らのこと結構知つてんの?」

小次郎が今までの会話で思つた疑問をぶつける。

イトニ 「ああ、それはこの村の祠のカード奪つてやろうと思つて、望遠鏡とかで村を監視してたら偶然あんた達がやってきて、そこから茶髪の男がデジタルスピリット持つてるのがわかつたから、そつからずつと監視を、、、ー、ー、ーって何言わせんのよ!」

小次郎 (やつぱドジだな。)

小次郎はイトニのドジっぷりに少し呆れた。

イトニ「まあいいわ！石箱も開かないし、茶髪も来ないし、しようがないからあんたの持つてるっていうデジタルスピリットで許してやろうかしら？」

小次郎「おお？なんだー？俺とバトルしようってか？」

イトニ「ええ、茶髪よりは弱そうだし、」

イトニは自身に満ち溢れている。

小次郎「ああ、確かに俺はあいつより弱い！だか！それは今だけの話！いつか俺は必ず一木花火を超えてみせる！」

イトニ「うわーあつくるしい。ツツコミキャラとうぎキャラ両立とかきつつー」

小次郎「うぎキャラじゃなーい！まあいい！ようやく俺もバトルフィールドで戦える！昨日の2連戦で一木花火も疲れているだろうし、やっぱ朝は起こさないで正解だっだな！」

イトニ「ツツコミキャラは自覚あるんだ。

じゃあやる気満々っぽいし、行くよ！」

小次郎「おう！」

小次郎「ゲートオープン解放！」

イトニ「ゲートオープン解放！」

小次郎とイトニのバトルが始まる。

一方その頃、菜々子と花火は、祠の方に向かっていた。

菜々子「ねえ花ちゃん？」

花火「ほわ？」

花火は眠そうに返事する。

菜々子「よかった、いつもの花ちゃんだ。」

花火「?いつもの俺?どゆこと？」

菜々子「いやなんか昨日の花ちゃん少しこわかったんだよね、なんていうんだろう。

殺気だつてたつていうか。」

花火「ああ、まあ、自分のカード奪おうとしてくる奴いたら、そうなるわな、昨日の牙の目的は多分俺のカードじゃなかったけど。」

菜々子「ええ!?!どゆこと？」

花火「多分あいつ俺とバトルしたかっただけなんだと思う。それで俺に本気出させるためにわざとお互いに重いリスクを背負わせたんだと思うんだよね、別にそんなことしなくても本気でやったのに。」

菜々子「それちよつと考えすぎじゃない？」

花火「そうかな？」

菜々子「それよりも今は、白の大陸行くこと考えないと」

花火「そうだよなあ聖子さん心配してるだろうなー」

菜々子「私もお母さん心配してそうー。早く帰っておかないとね！」

花火「ああそだな！」

花火達がそんな話をしている時だった。村の人が花火と菜々子に走って迫ってくる。

村人D「大変だ〜〜花火様、菜々子様！」

花火「どうかしました？」

村人はかなり息を切らしながら話す。

村人D「実は、小次郎様が……、……、……、……、……」

花火達は小次郎が今どういう状況か知る。

菜々子「！大変！急ごう！花ちゃん！」

花火と、菜々子は祠に向かって走り出す。

花火（また、祠のカードを狙うやつが？恐龍隊じゃあないのか？じゃあ一体？）

花火は走りながら、色々考えていた。

そして、バトルフィールドに立った小次郎とイトニは、

小次郎「おぉー！これが俺のバトルアーマー！かっこいい！」

小次郎のバトルアーマーは緑色で国産のカブトムシがモチーフだった。一方でイト

ニのバトルアーマーは黄色をベースに少し紫の色が混じっている、猫がモチーフだった。

小次郎 「レディーファーストだ! 先行どうぞ!」

イトニ 「ふん! 私のターン!」

「ターン01」イトニ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

イトニ 「メインステップ! イワザールをレベル1で召喚!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

【イワザール】 黄属性 3コスト 紫1軽減 黄1軽減

系統 想獣、戯狩

コア1 レベル1 BP3000

コア2 レベル2 BP4000

シンボル黄

レベル1、2 『このスピリットのブロック時』

相手のコスト3以下のスピリット2体を疲労させる。
レベル2

このスピリットは紫のスピリットとしても扱う。

イトニ側のフィールドに白い体毛を纏った猿のスピリット、イワザールが召喚される。

小次郎 「イワザール、紫と黄色のデツキか、」

イトニ 「さあ、かかってきなさい！」

小次郎 「望むところだ！いくぞ！」

「ターン02」 小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

小次郎 「メインステップ！マッチユラをレベル2で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

【マッチユラ】緑属性 3コスト 緑1軽減

系統 怪虫

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

レベル1、2『このスピリットの召喚時』

相手は、相手の手札1枚を破棄する。

小次郎「マッチユラの召喚時効果で相手は手札1枚を破棄だ!」

背中に胞子のようなもの背負った虫型のスピリットマッチユラが召喚される。マッチユラは出てくるなり緑色に光り出す、同時にイトニの手札も緑色に光り出し、手札破棄を要求する。

イトニ「くっめんどくさいなー、」

手札4 → 3

破棄したカード【妖精騎士ピーター】

小次郎「アタックステップ! いけーマッチユラ!」

イトニ「ライフで受ける! くっ」ライフ5 → 4

マッチユラはイトニのライフにしがみつき、イトニのライフを破壊する。

小次郎「ターンエンド!」

「ターン03」イトニ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 5

トラッシュユ3

⇨ 0

イトニ「メインステップ！ブーカともう一体のイワザールをレベル2で召喚！」手札

4 ⇨ 2

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 2

【ブーカ】黄属性 1コスト 軽減無し

系統 楽族

コア1 レベル1 BP1000

コア2 レベル2 BP2000

シンボル黄

レベル1 、 2

このスピリットは紫のスピリットとしても扱う。

フィールドにもう一体のイワザールと黒馬を極限までディフォルメしたようなオレ
ンジのタテガミを持っているスピリット、プーカが召喚される。

プーカ レベル1 BP1000 (コア1)

イワザール レベル1 BP3000 (コア1) S

イワザール レベル2 BP4000 (コア2)

イトニ「アタックステップ! やれ! プーカ! イワザール!」

小次郎「どちらもライフで受ける! のわっ!」ライフ5 ⇨ 3

レベル1のイワザールとプーカが攻め寄り小次郎のライフを削る。ライフの痛みで

小次郎は一瞬よろける。

小次郎「結構、きついんだなー、一木花火のやつこんなにくらってたのか?」

イトニ「何? もう終わり? 私はターンエンドよ!」

小次郎「まっさかー! こっからだよ!」

「ターン04」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ リザーブ 3 ⇨ 6

リフレッシュステップに伴いマツチユラが疲労から回復する。

小次郎「メインステップ！ イックゼー！ デジタルスピリット！ テントモンを召喚！」
手札 5 ⇨ 4

ザーブ 6 ⇨ 3

ラッシュ 0 ⇨ 2

【テントモン】緑属性 3コスト 1軽減

系統 成長期、殻虫

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

シンボル緑

レベル1、2 『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

レベル2【進化：緑】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「成長期」を持つ緑のスピリット

ト リ

トカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

イトニ「デジタルスピリット、」

てんとう虫のようなスピリット、テントモンが召喚される。

デジタルスピリットの登場でイトニは気を引き締める。

小次郎「テントモン!!我がライバルもこんな気持ちだったのか!確かに心躍るな!召喚効果でコアブースト!!」

テントモンにポイドからコアが1個追加される。

イトニ「何感動してんのよ、気色悪い。」

小次郎「気色悪いとはなんだ!テントモンをレベル2にアップ!」リザーブ3 ⇨ 2

テントモン コア2 ⇨ 3 レベル1 ⇨ 2

テントモンはレベル上がり、一瞬だけ緑色に発光する。

小次郎「アタックステップ!テントモンの【進化:緑】を發揮!テントモンを手札に戻し、進化系のカブテリモンをレベル2で召喚!」

テントモンが0と1で構成されたベルトに卵状に包まれる卵は次第に大きくなっていき、破裂、そして中からテントモンの進化系で、兜の様な頭が特徴的なスピリット、カ

ブテリモンが召喚される。

【カブテリモン】緑属性 5コスト 3軽減

系統 成熟期、殻人

コア1 レベル1 BP5000

コア3 レベル2 BP8000

シンボル緑

レベル1、2 『このスピリットの召喚／アタック時』

相手のスピリット1体を疲労させる。

レベル1、2 【超進化：緑】 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「完全体」を持つ緑のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

レベル2 『このスピリットのアタック時』

疲労状態の相手のスピリット1体をデッキの上に戻す。

カブテリモン レベル2 BP8000 (コア3)

マッチュラ レベル2 BP3000 (コア2) S

イトニ「進化した!」

小次郎「カブテリモンの召喚時効果、及びアタック時効果で相手のスピリット1体を疲労させる!対象はレベル2のイワザール!」

イトニ「なに!？」

カブテリモンは登場するなり突風を起こしイワザールを疲労状態にした。

小次郎「行け!カブテリモン!レベル2のアタック時効果で

レベル2のイワザールをデッキの上!」

イトニ「なっ!?!今度はデッキの上だと!？」

カブテリモンはアタックすると同時にイワザールに緑色のエナジーボールを投げつける。それをくらったイワザールは緑色に光り、消滅した。

イトニ「くっアタックはライフだ!ぐあ!」ライフ4 → 3

小次郎「ターンエンド!どうだ!俺がおまけじゃないってことおもいしったか!」

イトニ「ふん!いい気になるなよ!」

小次郎はマツチュラをブロッカーに残しターンを終える。

「ターン05」イトニ

スタートステップ

コアステップ

リザーブ3 → 4

ドローステップ 手札2 ⇨ 3
 リフレッシュステップ リザーブ4 ⇨ 6

トラッシュユ

2 ⇨ 0

イワザールとプーカは疲労から回復し、元気に飛び跳ねる。

イトニ「メインステップ！これで終わりだ！イワザールをもう一度召喚、そして、獄獣ガシャベルスをレベル3で召喚！」手札3 ⇨ 1

リザーブ6 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 2

【獄獣ガシャベルス】 4コスト 紫2軽減 黄2軽減

系統 無魔、想獣

コア1 レベル1 BP3000

コア2 レベル2 BP4000

コア3 レベル3 BP6000

シンボル紫

レベル1、2、3『自分のドローステップ』

BP8000以上の自分のスピリットがいるとき、ドローの枚数を+1枚する。

レベル3 『このスピリットの破壊時』

自分のトラッシュの黄のスピリットカード1枚を手札に戻す。

イトニのフィールドに先ほど戻されたイワザールと、全身が骨でケルベロスのように首が3つあるスピリット、ガシャベルスが召喚される。

プーカ レベル1 BP1000(コア1)

イワザール レベル1 BP3000(コア1) S

イワザール レベル1 BP3000(コア1)

獄獣ガシャベルス レベル3 BP6000(コア3)

イトニ(これでフルアタックでおしまいね!)

イトニは心の中で勝利を確信する。

イトニ「アタックステップ!イワザール!いけ!」

小次郎「マッチユラでブロックだ!」

イワザールとマッチユラは互いに何度もぶつかる、そして、同時に力つき、爆発する。

イトニ「続け!プーカ!」

小次郎「このくらいじゃあ負けないぜ!神速召喚!こい!マツハジ!レベル2だ!そしてブロックする!!」

手札4 → 3

リザーブ 4 → 0

トラツシユ 2 → 3

【マツハジ】緑属性 コスト1 軽減無し

系統 怪虫

コア1 レベル1 BP 2000

コア3 レベル2 BP 3000

シンボル 緑

フラツシユ 【神速】

手札にあるこのスピリットカードは、召喚コストの支払いと上に置いてあるコアをリザーブから使用することで召喚できる。

イトニ 「なに!? 神速!?!」

小型の虫のスピリット、マツハジは出てくるなり、プーカ目掛けて体当たりをかましプーカを破壊する。

神速とは緑属性専用のキーワード効果であり、フラツシユタイミングでリザーブから召喚コストと維持コアを確保することで召喚できる。奇襲性の高い効果だ。

イトニ 「くっそ! ターンエンドよ、」

残りのスピリットじゃライフは削りきれないため、イトニはここでターンを終了す

る。

小次郎 「よし!俺のターンだ!」

「ターン06」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュ

3 ⇨ 0

カプテリモンとマツハジは疲労から回復する。

小次郎 「メインステップ!このターンで終わりだ!先ずはテントモンを再び召喚!」

手札4 ⇨ 3

リ

ザーブ4 ⇨ 1

ト

ラッシュま0 ⇨ 2

小次郎 「召喚時効果でコアブースト!」

再びテントモンにボイドからコアが1個追加される。

小次郎「さらに増えたコアとマツハジメのコアから召喚コストを確保して、ブレイブカード！飛甲虫イットウカブトを召喚！」手札3 ⇨ 2

トラッシュユ2 ⇨ 5

【飛甲虫イットウカブト】緑属性 4コスト 1軽減

ブレイブ

系統 殻虫

コア1 レベル1 BP3000

コア0 合体+3000

シンボル無し

レベル1 『このブレイブの召喚時』

相手のスピリット1体を疲労させる。

《合体条件：コスト4以上》

【合体時】『このスピリットの合体アタック時』

自分のターンの最初のアタックのとき、このスピリットは回復する。

小次郎「召喚時効果でイワザールを疲労！」

ヘラクレスオオカブトのような外見のブレイブ、イットウカブトは風を起こし、イワザールを疲労させる。

小次郎「そのままカブテリモンと合体だ!」

イットウカブトは、武装のパーツだけを残し、消滅すると、残った武装のパーツがカブテリモンに装着されていく。

イトニ「くっ!合体スピリット!?!」

マツハジロー レベル1 BP2000(コア1)S

テントモン レベル1 BP2000(コア1)

カブテリモン+飛甲虫イットウカブト レベル2 BP8000+3000(コア3)

小次郎「アタックステップ!いっけー!!カブテリモン!

アタック時効果でガシャベルスを疲労!そしてもう1つの効果で、イワザールをデッキの上にも!」

カブテリモンは緑のエネルギーボールを2つ作り出し、1つをガシャベルスに当ててガシャベルスを疲労させる、そして、もう1つはイワザールに命中し、イワザールはデッキの上へと戻る。

小次郎「さらにイットウカブトの合体アタック時効果で、最初のアタックだったら、回

復する！」

イトニ「なんだと!？」

カブテリモンは緑色の光に包まれ回復状態になる。

イトニ「くそ！ライフだ！ぐあ！」ライフ3 ⇨ 2

カブテリモンはイトニの目の前まで行き長い手を使いイトニのライフを砕く。

小次郎「そのままもう一回だ！カブテリモン！今度はガシヤベルズをデツキの上に
！」

カブテリモンはその場から、ガシヤベルズにおもいつきり、緑の玉を投げつける、ガシヤベルズはイワザールと同じように、デツキに戻されてしまう。

イトニ「ライフだ！」2 ⇨ 1

小次郎「トドメだ！テントモン！」

イトニ「チツクシヨ！ライフだー！ー！」ライフ1 ⇨ 0

テントモンは羽を広げバリアに向かって全力でぶつかる。

ライフが0になったイトニはバトルフィールドからはじきだされる。

小次郎「よし！見たか一木花火!!これがお前のライバルの力だ!!」

小次郎が言うのとテントモン達も喜んで決めポーズをとる。

バトルが終わり、小次郎が元の場所に戻ってきた時に丁度花火と菜々子も到着する。

花火「おーい！小次郎！大丈夫か？」

小次郎「おう！一木花火！ようやくお目覚めか！怪しいやつだったらもう俺がこらしめたぞ！」

イトニ「痛つてて、くっそ！もう一回だ！」

花火「おい、そんな連続でバトルしたらきついだろう？
体は大事にしよう。」

菜々子「そうだよー、あんまり無理しない方が、」

イトニ「うるさい！バカップルは引っ込んでろ！」

イトニは満身創痍の体を奮い立たせながら、言い返す。

菜々子「え!?いや〜そんな！カップルだなんて！やつぱ、そう見えるのかな？」

菜々子はなぜか嬉しそうだが、花火は、

花火「君はいつたい何者なんだ？なんでこのカードを狙ったんだ。」

イトニ「へっそんなこと、言うもんか！」

小次郎「そういえば、兄いに顔向けできない、とか言ってたよね？お兄さんなんか関係あるの？」

イトニ「へっ、どうかな！」

そんな時だった、突然祠の石箱が赤く光り輝く。

花火「なんだ!？」

村長「ぬっ!これは、いったい!？」

石箱はやがて碎け、その中から、赤い色をしたバトルヴァアイスと、数枚のバトルスピカードが現れる。そのカード達とバトルヴァアイスは吸い寄せられるように菜々子のもとへ行く。

菜々子「へ!私!?これってもしかして、デジタルスピリット?」

イトニ「なっ!?!デジタルスピリットに選ばれやがった!」

花火「?選ばれた?」

花火は今の一言を逃しはしなかった。

イトニ「あっ!やべ!」

花火「選ばれたってどう言うことだ?」

花火がイトニに詰め寄る。

???「イトニ、もう寄せ、」

謎の男が急にイトニの側に現れる。イトニと同じ鬼の仮面をつけているが、服装が忍者っぽい。

花火「誰だ!」

シユリ「俺の名はシユリ、今はそれだけ言っておこう。」

イトニ「シユリ!?なんでここに?」

2人は顔見知りのようである。

シユリ「君の兄さんから命令されてきたんだよ、イトニを連れて帰ってこいつてね。」

イトニ「えっ!?!兄いが?」

シユリ「そう、君の場所は、すぐわかったよ、君の兄さんが発信機つけていたから、仮面に、」

イトニ「えっ!?!あっほんとだ、」

イトニは自分の仮面を取り確認する。すると、菜々子が反応する。

菜々子「すぐかわいいう〜!肌きれいだね!」

イトニ「なっ!かわいくない!あんたデジタルスピリットに選ばれたからって調子になるんじゃないわよ!私だって選ばれてるんだからね!」

イトニは赤面しながらも、言い返す。

花火「えっ!?!君もデジタルスピリットを?」

シユリ「イトニ、これ以上余計なことは言うな、帰るよ、

こここのデジタルスピリットもあの少女を選んだようだし、」

そう言いながらシユリはイトニを無理やり担ぐ

イトニ「おい！離せ！シユリ！まだ私は負けてない！」

花火「あつおい待て！話はまだ」

花火の言葉が終わるより早くイトニを担いだシユリは煙幕とともに消えた。

小次郎「ほんとになんだったんだ、」

花火「小次郎、あの娘のデジタルスピリット、どんなカードだった？」

小次郎「いや、わかんないな。出させる前に終わらせたから。」

花火「そうか。」

謎は深まるばかりである。

菜々子「ねえ花ちゃん！みてみて！私のバトルヴァイスとデジタルスピリット！かっ

こよくない？」

菜々子は花火にデジタルスピリットを見せる。

花火「おお！赤か！よかったな！あれ？でもこれ村の伝説のカードなんだよな？も

らつてつていいのかな？」

村長「いいですとも、寧ろ菜々子殿に渡していた方が安心です。」

村長が言う、確かにこのまま、そのカードを村に置いとくと、また村が襲われかねない。

菜々子「やった！じゃあ正式に私のカードでいいんだね！」

花火「よかったな、菜々子！これで3人ともデジタルスピリットを持ったわけだ。」

小次郎「盤石な旅になりそうだな！」

花火「よし！まあひと段落ついたことだし！出発するか！」

数分後、花火達は村の出入り口に行く、村の人達も見送りに来てくれた。

花火「それじゃ村長、皆さん！お世話になりました！」

村長「そんなことございませぬ。お世話になったのはわしらの方です。白の大陸まで気をつけて行ってらっしゃいませ。」

花火「はい！」

3人は村の人達に手を振ってさよならを言う。村の人達も大きい声でさよならと言っていた。

こうして、花火達はアカダツケ村を出た。目指すは白の大陸。

小次郎「これからどうする？一木花火、村長は、あんまり距離が長いから、一度「武龍村」つてところ行ってもいいって言ってたぞ。」

花火はもらった、赤の大陸の地図をみて考える。

花火「よし！じゃあ観光も兼ねて行ってみるか！武龍村！」

菜々子「賛成！」

3人は武龍村に一度行ってみることにした。

花火（それにしてもデジタルスピリットに選ばれたってどう言うことだろう。アグモ
ン達には、何かまだ秘密があるのか？）

花火はそんなことを考えながら、小次郎と菜々子の横を歩いていった。

第4話 菜々子初陣!現れる変態サボテン!

花火達があかダツケ村をたつてから、約2日、花火達は「武龍村」という場所へ向かっているのだが、一向にそれらしいところには付かず、炎天下の中延々とただ無限に広がる砂漠を歩いていた

菜々子「ねえ花ちやーん!いつになつたら武龍村着くの?」

花火「もうちよい」

菜々子「さつきもそれ言つたー」

菜々子が花火に愚痴をこぼす。

花火「地図はここら辺なんだけどなく」

菜々子「もう、流石に疲れた〜日陰で休まない?」

花火「真昼の砂漠に日陰なんてあるわけないだろ。」

小次郎「いや待て、あれを見る、」

小次郎が指をさした方に花火と菜々子は視線をおくる。

花火「あつ日陰あつた。」

菜々子「サボテン最高〜!」

そこにはたくさんさんのサボテンが連なっていて、反対側にはもちろん日陰があった。3人は少しそこで休憩するときことにした。

3人はサボテンの日陰のもとで砂場に腰をつける。

そして、バトルヴァイスから食料を取り出して食事をしていた。

小次郎「にしたってさーほんと便利だよなあ〜!バトルヴァイスって!」

菜々子「だよねー!何でも入るなんて、重くもならないし。」

花火「質量保存の法則をガン無視だよな〜デジタルの発展具合でこんなことできるのか〜」

花火達はバトルヴァイスの万能っぷりに感銘していた。

菜々子「あつそうだ!ねえ花ちゃん!」

花火「ん?」

菜々子「私とバトルしない?バトルフィールドで!」

菜々子が花火に提案してくる。

花火「え!?!どうしたんだよ、急に、」

菜々子「いや〜なんかね!私も1回くらい自分のスピリット見たくてさー、このままなんも起きずにリアルワールドに帰っちゃったら、せつかくのチャンスが台無しになっちゃうなー、つて思つて!」

花火「でも結構痛いよあれ、」

菜々子「大丈夫!この前のイトニちゃんだつて私より年下なのにバトルしてたし!」

小次郎「負けた後かなり息上がつてたけどね。」

花火「菜々子、スピリット見たい気持ちはわかるんだけどさー、俺も最初のバトルはテンション上がったし、でも女の子にあのライフが減る痛みはどうかナーつて、」

花火はあんまりこのバトルは乗り気じゃないようだ

菜々子「ええー!いいじゃない!やろうよ!私体力自信あるよ!知ってるでしょー!」

花火「んんー」

花火はすごい悩んでいた

が、次の瞬間、突如一本のサボテンが動き出した!

小次郎「うおっ！なんだ!?急にサボテンが!？」

そのサボテンはよく見たら着ぐるみで顔だけ出していた。

ちよび髭が鼻の下に生えていて、すごく大人の男という感じの顔だった。その男はサボテンの着ぐるみを着たまま花火達の元へ正確には菜々子のもとへ近づいてくると、口を開く。

謎のサボテン「君たちの話は聞いていた。ではお嬢さん、俺とバトルしないか？」

小次郎（また変なのきたー!!）

菜々子「えっ!?えーつと、あなたは？」

菜々子は急に話しかけられて戸惑う。

謎のサボテン「おっとこれは失礼、名乗るのが先だったね。俺の名は「サツマ」よろしく!」

花火「サツマさんあんた一体なんでこんなところでサボテンのふりなんかしてるんですか？」

サツマ「いや、ね、なんていうんだらうサボテンの気持ちを知りたくてね!サボテン

になればきつとわかると思っただけ、これが全然わからなくて〜」

花火「なるほどーサボテン好きなんだな!あんだ!」

小次郎(いや、全然なるほどーにはなれないんだけど。)

小次郎が心の中でツツコムと

サツマ「ところで花ちゃん君といつたかな?」

花火「花ちゃん君じゃないです。花火です。」

サツマ「花火君、なぜ君は菜々子ちゃんとバトルしてやらない、彼女はやる気満々ののに。」

花火「いや、でも、ライフって減ったら痛いじゃないですか、女の子にライフ削る指示とかだしづらいし、」

サツマ「そうか、それが君の考えか、ならば見ているがいい!俺と菜々子ちゃんのパトルを!いくぞ!菜々子ちゃん!」

菜々子「はい!いきますよ!」

花火「いやなんで意気投合してんだ!ちよつと待て菜々子!」

菜々子「ゲートオープン解放!」

サツマ「ゲートオープン解放！」

知らないうちに意気投合してた2人がゲートを開く、

しようがないので花火と小次郎はバトルフィールドに行つて2人のバトルを観戦することにした。

菜々子のバトルアーマーは赤い鳥をモチーフにしたものだつた。一方でサツマはサポテンの着ぐるみの上に白い甲冑のようなバトルアーマーを装着していた。

菜々子「これが私のバトルアーマー！カッコいい！おーい！花ちゃん！写メ撮つて！写メ！」

菜々子は初めてのバトルフィールドに興奮していた。

花火「菜々子！無理すんなよー！」

小次郎「お前らほんとお互い心配性だよなあ、」

小次郎が花火に言う。

花火「そう？」

花火は頭にハテナの文字を浮かべる。

サツマ「花火君!!」

花火「!」

サツマが大きい声で花火を呼ぶ。

サツマ「菜々子ちゃんのパトル、しつかり見届けてやれよ!」

サツマはそれだけ言うとパトルを開始する。

サツマ「先行、後攻決めていいぞ!菜々子ちゃん!」

菜々子「んーじゃあ後攻で!」

菜々子は手札を見てじっくり決めた。

サツマ「よし!じゃあ俺の先行!」

「ターン0」サツマ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

サツマ「メインステップ!ハクビシンドローンをレベル2で召喚!」手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 1

【ハクビシンドローン】 赤属性 1コスト 赤1軽減

系統 皇獣、機獣

コア1 レベル1 BP2000

コア3 レベル2 BP3000

シンボル赤

レベル1、2

このスピリットの色とシンボルは白としても扱う。

ドローンに乗ったハクビシンのスピリット、ハクビシンドローンが召喚される。ハクビシンドローンはドローンにより、常に宙を舞っている。

ハクビシンドローン レベル2 BP3000 (コア3) S

サツマ「ターンエンド！次どうぞ！」

花火「赤属性、でもあれは白としても扱うから、俺と似たような感じか？」

花火はサツマのデッキ内容を推察していた。

菜々子「よし！いきます！私のターン！」

「ターン02」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 → 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

札5 ⇨ 3
 菜々子「いっくよー!メインステップ!角タヌとヒートエッジウルフを召喚!!」手

ブ5 ⇨ 0

リザー
 トラツ

シュ0 ⇨ 3

【角タヌ】赤属性 0コスト 軽減無し

系統 皇獣

コア1 レベル1 BP2000

コア3 レベル2 BP5000

シンボル赤

【ヒートエッジウルフ】赤属性 4コスト 2軽減

系統 十冠、皇獣

コア1 レベル1 BP4000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP7000

シンボル赤

レベル1、2、3『このスピリットのアタック時』

自分はデッキから1枚ドローする。

レベル2、3『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメット1体を指定してアタックできる。

菜々子のフィールドに角の生えたタヌキのスピリット角タヌと、身体中に棘が生えて
いる狼のようなスピリット、ヒートエッジウルフが召喚される。

菜々子「おおー！感動するなー！自分のスピリット見ると！」

菜々子はすごい感動していた。

角タヌ レベル1 BP2000（コア1）

ヒートエッジウルフ レベル1 BP4000（コア1）S

菜々子「よし！いくよ！アタックステップ！ヒートエッジウルフでアタック！アタック時効果で1枚ドロー！」

手札3→4

サツマ「いいだろう!ライフで受ける!」ライフ5 ⇨ 4
ヒートエッジウルフは体当たりでサツマのライフを砕く。
菜々子「うーん、、角タヌじゃあハクビシンドローンには勝てないね、じゃ!エン
ドで!」

菜々子はターンエンドを宣言し、サツマにターンを渡す。

「ターン03」サツマ

スタートステップ

コアシテップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 3

シユ1 ⇨ 0

サツマ「メインステップ!ハクビシンドローンを2体召喚」

手札5 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 1

フィールドにハクビシンドローンがもう2体増える。

トラッ

サツマ「そして！このデッキのキースピリット！召喚！月光龍ストライクジークヴルム！！レベル2　！不足コストは3体のハクビシンドロオンから確保！」

【月光龍ストライクジークヴルム】 白属性　6コスト　3軽減

系統　新星、武装

コア1　レベル1　BP5000

コア3　レベル2　BP8000

コア4　レベル3　BP10000

シンボル白

レベル1　、2、3 『相手のアタックステップ』

相手のスピリットがアタックしたとき、このスピリットは回復する。

レベル2　、3 『このスピリットのブロック時』

BPを比べ相手のスピリットだけを破壊したとき、そのスピリットよりBPの低い相手のスピリットすべてを手札に戻す。

【合体時】レベル3 『相手のアタックステップ』

ステップ開始時、合体していない相手のスピリット1体を指定する。そのスピリットは可能ならば必ずアタックする。

3体のハクビシンドロームはコアがなくなったことにより消滅するが、その直後に、サツマの後ろからゆっくりと白銀の色をしたドラゴンが咆哮しながらフィールドに降り立つ。

小次郎「厄介なのが出てきたな。」

花火「ああこれで菜々子はアタックし辛くなる。」

サツマ「行け!ストライク!アタックだ!」

菜々子「ライフで受ける!わっ!」ライフ5[☆]4

ストライクジークヴルムは飛翔し、口から電撃を放ち菜々子のライフを削る。

花火「大丈夫か!菜々子!」

花火は心配する。

菜々子「大丈夫だよーやっぱ最初はびっくりするね!

このくらいなら行けそう!」

菜々子は別に大丈夫そうだ。

サツマ「ターンエンド。」

「ターン04」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 5

⇨ 0

菜々子「メインステップ！ピヨモンをレベル2で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 2

トラッシュ0 ⇨ 2

サツマ「！」

花火「来た！菜々子のデジタルスピリット！」

【ピヨモン】 赤属性 3コスト 2軽減

系統 成長期、空牙、爪鳥

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP4000

トラッシュ3

シンボル赤

レベル1、2『このスピリットの召喚時』

相手のネクサス1つを破壊する。

レベル2 【進化：赤】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

菜々子のフィールドにピンク色の体毛に鳥のような外見のスピリット、ピヨモンが召喚される。

サツマ(やっぱりそうなのか、この子達は)

ピヨモンが出て来てサツマは少し口角をあげた。

菜々子「よろしくね!ピヨモン!」

菜々子の言葉に反応するようにピヨモンは嬉しそうにとびあがる。

サツマ「デジタルスピリットか!珍しいもの持つてるね!」

菜々子「まだまだ!これからですよ!更に!バーストをセット!」手札4 → 3

サツマ「おっ!バーストか!」

バーストとは1ターンに1枚のみフィールドに裏向きでセットすることができるカード。条件を満たせば、即座にコストを支払わずに発動することができる。に進めることができる。

菜々子「ふっふっふ、これはとっておきなんですよ!」

菜々子は可愛らしくニヤついていた。

花火「!あのバーストあれか!」

花火は菜々子がセットしたバーストに気づく。

小次郎「えっなに?なに伏せたの?」

花火「うーん、サツマさんの今後の動き次第だけど、あのバーストが発動したら、菜々子は勝つ。」

菜々子「ヒートエッジウルフをレベル2 にアップ!」

リザーブ2 → 0.

ヒートエッジウルフはレベルが上がり、吠える。

菜々子「いくよ!アタックステップ!ピヨモンの【進化:赤】発揮!ピヨモンを手札に戻して、成熟期のバードラモンに進化!」

ピヨモンは0と1で構成されたベルトに卵状に包まれる。
徐々に膨らんでいき、破裂、中から全身が炎に包まれた大型の鳥のスピリット、バー
ドラモンが召喚される。

【バードドラモン】 赤属性 4コスト 2軽減

系統 成熟期、空牙、爪鳥

コア1 レベル1 BP3000

コア2 レベル2 BP5000

シンボル赤

レベル1、2 【超進化：赤】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

レベル2 『このスピリットのアタック時』

自分はデッキから1枚ドロウする。

小次郎「おおー！進化！」

花火「ああ、でもストライクジークヴルムのBPに届いてない」

バードラモン レベル2 BP5000 (コア2)
 角タヌ レベル1 BP2000 (コア1)
 ヒートエッジウルフ レベル2 BP5000 (コア3) S

菜々子「しかたないな、ここはターンエンド！」

ストライクジークヴルムは相手のスピリットのアタックを何回でもブロックしてしまおう効果を持っているため、ストライクより、BPの低いスピリットはアタックしづらいのだ。

サツマ「よし！俺のターン、ここで一気にいかせてもらおうか。」

「ターン05」サツマ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュ

3
⇨0

ストライクジークヴルムは疲労から起き上がる。

サツマ「メインステッブ!ストライクジークヴルムのレベルを1下げ召喚!鎧飛竜
オーソデルガー!」

手札3 ⇨2

リザーブ4 ⇨0

トラッシュ0 ⇨5

月光龍ストライクジークヴルム (コア3) ⇨ (コア1)

レベル2 ⇨レベル1

【鎧飛竜オーソデルガー】 赤属性 5コスト 3軽減

ブレイブ

系統 機竜

コア1 レベル1 BP3000

コア0 合体+3000

シンボル無し

レベル1 『このスピリットの召喚時』

BP4000以下の相手のスピリット／アルティメット3体を破壊する。召喚コストにソウルコアを使用していたら、さらに！相手の合体してるいるブレイブ1つを破壊する。

《合体条件：コスト1以上》

【合体時】【真・激突】『このスピリットのアタック時』

相手は可能ならスピリット／アルティメットでブロックする。

サツマ「オーソデルガーの召喚時効果！相手のBP4000以下のスピリットを破壊！角タヌを破壊だ！」

月光龍ストライクジークヴルムはレベルが下がりが力が抜けるがその直後、顔がシヤチホコのような外見で鎧を着た翼だけのブレイブ、鎧飛竜オーソデルガーが召喚される。オーソデルガーは出てくるなり、すぐさま角タヌめがけ飛び角タヌを翼撃で破壊した。

菜々子「あー！角タヌ！」

小次郎「不味い！あれブレイブじゃないか！ストライクとブレイブされたらまた突破し辛くなる」

花火「大丈夫だよ、これは菜々子の勝ちだ。」

小次郎「え!？」

菜々子「相手のスピリットかブレイブの召喚時効果発揮後により、バースト発動!戦国霸王ギユウモンジ!」

菜々子「ギユウモンジのバースト効果でBP20000まで相手のスピリットを好き
なだけ破壊!ストライクとオーソデルガーを破壊!」

突如現れた火柱がブレイブする気満々だった2体のスピリットを焼き払った。

サツマ「え!?あれー?!」

このバーストが予想外だったのか、サツマはものすごく驚いていた。

菜々子「その後、ギユウモンジを召喚!レベル1」

【戦国霸王ギユウモンジ】 赤属性 8コスト 4軽減

系統 主君、皇獣

コア1 レベル1 BP7000

コア3 レベル2 BP12000

コア4 レベル3 BP15000

シンボル赤

Sバースト :相手の『このスピリット/ブレイブの召喚時』発揮後

BP合計20000まで相手のスピリットを好きだけ破壊する。この効果発揮後、

このスピリットカードをコストを支払わずに召喚する。

レベル2、3『このスピリットのアタック時』

B P 15000以下の相手のスピリット1体を破壊する。

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、この効果でスピリットを破壊したら、さらに、相手のライフのコア1個を相手のリザーブに置く。

火柱が消えた後、炎のフィールドを駆け巡り、菜々子の前に止まる1頭の赤い甲冑を着た黒牛、ギユウモンジが召喚される。

菜々子「ギユウモンジ！ やつと会えたー！ 近くで見てもやつばかりかわいいね！」

菜々子の言葉に反応するようにギユウモンジがなく。

小次郎「え!? かわいいの？ あれ、強いけど」

花火「あいつは美的センスが常人とはかけ離れてるんだよ。」

小次郎が抱いた違和感に花火はさらっと説明をいれる。

サツマ「はっはっは！ 流石に驚いたな！ これでは何も出来ない！ ターンエンドだ！」

サツマはピンチだが、笑いながら菜々子にターンを渡す。

菜々子「よし！ いくよ！ みんな！」

花火「!そうか、バトスピってどこでも楽しいゲームだったな。」

小次郎「なんだよ、急に、当たり前だろ?」

花火は痛みを顧みず楽しそうにバトスピする菜々子を見てバトスピがどこでも楽しいことを思い出す。

花火「後で菜々子に謝らないとな、」

「ターン06」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ1 ⇨ 2

トラッシュユ1

⇨ 0

菜々子「メインステップ!もう一回ピヨモンをレベル1 で召喚!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

菜々子のフィールドにピヨモンが再び召喚される。

菜々子「アタックステップ!お願い!ヒートエッジウルフ!効果で1枚ドロー!」手

札3 ♪ 4

サツマ「ライフだ！」4 ♪ 3

ヒートエッジウルフは再び体当たりでサツマのライフを砕く。

菜々子「次はギユウモンジ！」

サツマ「これもだ」ライフ3 ♪ 2

ギユウモンジは菜々子の指示を聞いて、嬉しそうになくと、すぐさますごい勢いで走り出しサツマのライフに突っ込む。」

菜々子「バードラモン！アタック！効果で1枚ドロー！」

手札4 ♪ 5

サツマ「くっ！」ライフ2 ♪ 1

バードラモンは羽ばたき飛翔すると、自身の翼を仰ぎ無数の炎を出し、サツマのライフを減らす。

菜々子「最後はピヨモン！よろしく！」

サツマ「お見事だ！菜々子ちゃん！潔くライフを受けよう。」ライフ1 ♪ 0

ピヨモンは鋭い爪でサツマの最後のライフを破壊した。

勝負に負けたサツマはバトルフィールドからはじきだされる。

菜々子「やったー！私のデッキ最高！イエイ！」

菜々子が勝利のピースサインを上げるとスピリット達も高らかに吠える。

バトルが終わり、全員もとのサボテンの場所に戻った。

サツマ「はっはーすごいじゃないか菜々子ちゃん!初めてのバトルフィールドとは思えなかったぞ!」

菜々子「ありがとうございます!サツマさん!」

花火「菜々子、」

花火は菜々子に声をかける。

菜々子「なに?」

花火「その、ごめんな、バトル断って、女扱いしちまって、いやお前は女なんだけだよ。なんか俺、牙とバトルしてからの世界のバトルは本当に弱肉強食だつてかんちがいしてしまってた!お前のおかげでバトスピはどこでやっても楽しいって思い出せたよ、ありがとな!」

菜々子「え?!いや、わっわかればいいよ!わかれば!今度また一緒にやろ!バトル!」

花火は菜々子に謝る、菜々子は少し顔が赤くなる。

サツマ「くー!!!青春だねー！これで花火君と菜々子ちゃんという少年少女はまた一歩成長したわけだ！」

サツマは花火と菜々子の肩に手を置き、感動していた。

花火「サツマさん！なんか色々ありがとうございます！おかげで、知らないうちに忘れてたことを、思い出せたよ！」

サツマ「うむ！それはよかった！」

ところで君たちはみんなデジタルスピリットを持つているのかい？」

花火「？ええ、まあ」

小次郎「俺らリアルワールドの人間なんですけど、その時、自分の家の郵便受けに届いてたんです。」

菜々子「あつ！私のは違います！アカダツケ村のカードです！」

小次郎と菜々子が説明する。

サツマ「！ほう、リアルワールドか、そうか、ありがとう！じゃっ！俺はこの辺でお別れと行こうかな、」

花火「はい！ありがとうございました！」

菜々子「じゃーねー! サツマさん! またバトルしましよー!」

サツマ「うむ! また会おう! 花火君、菜々子ちゃん! 心の中でツツコム子!」

小次郎「いや待てーい! なんでそんなことわかるんだー! 俺小次郎っていいます!」

そういうと、サツマはサボテンの着ぐるみを着たまま走り去っていった。

小次郎「結局なんだったんだ、はなから見たら変態だよ、あんな人」

花火「そうか? 案外この世界じゃつ普通かもしれねーぜ?」

菜々子「そうそう! いい人だったし!

小次郎(相変わらず適応の早いやつらだな、ほんとに)

小次郎はまた心の中でツツコム、

花火「よし! いくか! 休んだし!」

菜々子「ええー! 私バトルして疲れたよ!」

3人は再び武龍村へ歩き出した。

一方その頃、意味深に走り去っていったサツマはと言うと、花火達が見えなくなるところまで来ると、そこから走るのをやめ、ゆっくりと歩いていた。

サツマ「いやー楽しかったな！今日は素晴らしい日だ！」

「なになが、素晴らしい日だ！ですか、はなから見たら変態だったですぜ、サツマさん。」

サツマ「おおー！チョウシユウ！お前も赤の大陸に来てたのか！」

チョウシユウと言う、白い制服を着ていて、イケメンの男性は、サツマの後ろから、たばこを吸いながら現れる。

チョウシユウ「呑気なもんだな、あんたは、総司令官から命令きたから、俺が直々に届けにきたんだよ、」

サツマ「ほう、総司令官殿が」

サツマはチョウシユウから、命令の入った封筒を貰う。

サツマ「かー！休日だったのにな！またすぐ仕事なんて！さっきいいことあったのに、世界って厳しい！」

でさ、チョウシユウ！」

チョウシユウ「なんすか？」

サツマ「なんで花火君達を偵察してた。」

サツマは急に真面目な顔で話す。

チヨウシユウ「やっぱ気づいてたか、正確にはあんたを追ってただけなんですけどね。まさかデジタルスピリットに選ばれたもの達と遭遇するなんてね、」

サツマ「遭遇ねー、」

チヨウシユウ「もし彼らと戦うことがあつたら、次は手を抜かぬようたのみませ、後、自分のデツキ使えよ、」

サツマ「はっはー!お前は手厳しいな!まあ今回はファーストコンタクトだったからな!勿論次やるなら本気だ!」

そう言って、サツマはサボテンの着ぐるみを脱ぎ捨てた、チヨウシユウと同じ白い制服をサツマは着ていた、そして、2人は砂漠の砂に消えていった。

武龍城護衛編

第5話

到着武龍村！

飛び立てメタルグレイモン！

花火「おっ！あれじゃね？」

菜々子「でつかくい壁！」

小次郎「はくくやつと到着か」

サツマと出会って数時間後、花火達はようやく目的地「武龍村」に到着した。村の中は周りの城壁に囲まれていて全く見えない。

花火「どうやってはいんだこれ？」

菜々子「花ちゃんあそこ！」

花火「ん？あれが門か、」

菜々子が指をさしたところには巨大な門と見張りだろうか、甲冑を着た男2人が立っていた。花火達は門の前まで近づくが、

門番「誰だ！貴様らは！」

門番は花火達を見ると血相を変えて迫ってくる。

花火「あつ俺一木花火つて言います。よろしくお願いします」

小次郎「いやそういうこと聞いてないだろ!」

菜々子「すみません、この門つてどうやってあけるんですか?」

小次郎「君は話聞いてた!」

小次郎は花火と菜々子にそれぞれツツコミを入れる。

門番2「怪しいやつらめ!さてはお前らが犯行予告者だな!ひっ捕らえるぞ!」

花火「犯行予告者?なんのことですか?」

菜々子「きゃ!」

小次郎「あらー!」

3人は難なく門番に捕らえられ、縛られてしまう。

そして何故か連行されてしまう。

門番1「門を開け!」

門番1が言うとお上に隠れていた何者かがレバーを引っ張ると、巨大な門はゆっくりと開いていく。

菜々子「すごい!こんな感じで開くんだ!」

小次郎「俺ら今縛られてんだよ?わかる?」

門番2「ほれ!ついてこい!」

門番2は花火達を縛った縄を持って花火達を引っ張りながら歩く。

小次郎「なあ一木花火、いつそのことさ、この門番達にバトル挑んで、勝ってほしいてもらおうぜ」

花火「いやもうちよつと様子を見よう、折角入れたし、中も色々と見れるし、てか、すごい村だよな！ここ！村っていうよりかは国だな！」

小次郎「そんなこと言ってる場合!?なんで冷静なお前ら!?馬鹿なの!?!」

そんなことを話している間に花火達は、村の中心部であろう、城の前まで来てしまう。

花火「でっけー！」

門番1「貴様らにはしばらく牢屋に入ってもらおう、後でなんで犯行しようとしたのか言ってもらおうからな」

小次郎「いや、そんなことしてないって！」

花火（犯行ってなんだろう、村長が一回行って見ては?って言うくらいだ、そんなに厳重体制なわけがない、アカダツケ村みたいに普通に入れると思ってたのに）

花火がそんなことを考えていた直後に城の門が開く、中から、花火達の少し上くらいの年齢だろうか、そのくらい歳の少女が馬に乗ってゆつくりと近づいてくる。周りには家臣のような人たちもいた、門番達は上の人から来たからか頭を下げていた。

???「やめな門番達、おそらく彼らはデジタルスピリットを持つもの達だ。」

小次郎「誰?この綺麗な人」

門番「おい!無礼なことを言うな!あのお方はこの村の殿!」武魂 景光(ぶこん
かげみつ)様であられますぞ!」

花火「殿!あの人か?」

景光「よい、下がれ」

景光は門番に命令して下がらせる、どうやら本当に殿のようだ。

景光「私の部下が失礼な真似をして申し訳ない。話はアカダツケ村の村長から聞いた、上がってから話をしよう」

花火「え!?!あつ、はあ」

花火達の縄は解かれ、城に上がる。そして3人は何が何だかわからないまま広い部屋に連れてこられた、そこには景光と数人の家来が座っている。

景光「改めて名乗ろう、私は武魂景光一応この城の殿だ、」

花火「一木花火です」

菜々子「空野菜々子です」

小次郎「緑坂小次郎です」

景光「すまぬことをしたな、今この村は犯行予告者によって混乱しているのだ、どうか許して欲しい」

花火「いや、別にいいですよーそんなこと、それより犯行って？」

花火は犯行について景光に聞く。

景光「数日前村に犯行予告の手紙がとどいたのだ、その手紙には、村に伝わるカードを奪いに来るとは書いていたものの、いつ来るのかとかは書いてなかったから、村のみんなはずつと気を張っていたのだ」

花火「それであんなに嚴重に」

小次郎「なるほど、またそういうやつか、」

小次郎はアカダツケ村の時と同じパターンだなど思ってた

菜々子「姫さまって大変だね」

景光「姫じゃない、殿だ、しかし、主らは本当にデジタルスピリットを所持しているのか？」

景光の率直な疑問だった。花火達は自分のデジタルスピリットを見せる。

景光「おー！これがデジタルスピリット！どうじゃそのカード達のデッキと私のデッキで戦ってはみないか？」

景光は目をキラキラさせ、ワクワクしていた。

小次郎「殿様もバトルするんですか？」

景光「もちろんじゃ、バトルスピは貿易や交渉にも使われるからの、一番くらいが上の

者ができなくてどうする」

菜々子「バトスピ好きなんだね！ 姫様は！」

景光「姫様じゃない殿だ」

花火（ふーん、貿易にも使われるのか、この世界のバトスピは本当に用途が広い）

4人がそんな話をしていると

家来「とのー！ 大変です！ 本物の犯行予告者が現れました！ 奴め！ 門から堂々として来ました」

景光「ほう？ ようやくお出ましか、」

花火（わざわざ犯行予告したのにそんな堂々として来んのか？）

4人は行く。そこには前のイトニやシュリと同じ鬼面をかぶっている男が1人いた。

あの門は閉まるのに時間が掛かるのか、正面から普通に入ったようだ。

花火「！あの仮面！ イトニ達と同じだ」

小次郎「こいつ、あいつらの仲間なのか？」

花火達が話している間に景光は犯行予告者に堂々と近寄っていく。

無骨「？ お前が殿様か？ 随分若いな俺の名は無骨（むこつ）だ」

景光「主が、犯行予告者か？」

無骨「……………ああそうだこの村のデジタルスピリットをよこせ、場所を知っているの

は貴様だけだろう」

景光「あいにくだが、この村のカードはそんなカードではない」

無骨「とぼけるな！お前には無理やりでも案内してもらおうぜ！」

無骨はそう言つて自分のデツキを取り出した。

景光「ほお、私を相手にしようというのか、いい度胸だ。」

景光もやる気満々だが、花火が民衆の中から飛び出してくる。

花火「ちよつと待つてくれ姫さん、この勝負俺にやらせてくれないか？」（聞きてえ事もいっぱいあるしな）

景光「？別に構わないが、大丈夫なのか？後、姫じゃない、殿だ」

花火「よし、決まりだ！おいお前！殿様の前に先ずは俺を倒しな！」

無骨「はつめんどくせえが、まあいいか、先ずはうるさいハエを叩くとするか」

菜々子「頑張つてね！花ちゃん！」

花火「おう！行くぜ！」

花火「ゲートオープン解放！」

無骨「ゲートオープン解放！」

2人はバトルフィールドに行く、菜々子達も観客席へ行く。

花火「バトルする前に聞きたいことがある。」

無骨「なんだ？」

花火「なんでお前は1人で来た？イトニやシュリって奴とは一緒じゃないのか？」

景光（シュリ？）

景光はシュリの単語を聞いて頭にハテナを浮かべる。

無骨「？お前もしかしてイトニが言ってた茶髪のおとこか？デジタルスピリット使ってたっていう、はっ！おもしれー！俺が勝ったらお前のカード貰うぜ！」

花火「質問の答えになつてねえぞ、答えろよ」

無骨「今回は俺の単独行動だよ、デジタルスピリット持つて帰ったら、リーダーも喜ぶだろうしな」

花火「お前らのリーダーって誰だ、なんのためにデジタルスピリットを欲するんだ」

無骨「始めるぞ！俺からだ！」

言いたくなかったのか無骨は唐突にバトルを始める。

花火「シカトかよ」

「ターン01」無骨

スタートステップ

ドローステップ 手札4⇨5

無骨「メインステップ、ピジョンヘディレスをレベル1、それとネクサスの釣魂台を配置だ」

手札5⇨3

リザーブ4⇨0

トラツシユ0⇨3

【ピジョンヘディレス】紫属性 コスト0

系統：無魔

コア1 レベル1 1000

コア2 レベル2 2000

シンボル紫

【釣魂台】紫属性 コスト4 紫軽減2

ネクサス

コア0 レベル1

コア1 レベル2

シンボル紫

レベル1、2

自分のバーストをセットしている間、このネクサスにシンボル1つを追加する。

レベル2 『自分のエンドステップ』

自分の手札にある系統：「無魔」を持つスピリットカード1枚を破棄することで、自分はデッキから1枚ドローする。

フィールドに紫の頭に鳩のような外見のスピリット、ピジョンヘディレスが召喚されると同時に、ネクサスの釣魂台の背景が無骨の後ろにゆっくりと浮かび上がる。

無骨「さらに、ピジョンヘディレスのコアを釣魂台に置き消滅させる。釣魂台はレベル2へ、」

ピジョンヘディレスはコアがなくなったことにより消滅、ネクサスはレベルアップに伴い紫に光りだす。

花火「？自壊させた？」

無骨「すぐにわかるさ、エンドステップ、釣魂台の効果で、手札の無魔スピリットを

1枚捨て1枚ドロ、骨鹿を捨ててドロ、これでターンエンド」

花火「なるほど、デツキの回転率を上げるためか」

無骨「それだけじゃないんだなあこれが」

花火「?まあいいや、俺のターンだ」

花火は無骨に構わずターンを進める。

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ4 → 5

ドローステップ4 → 5

花火「メインステップ!グレイモンをレベル1で召喚!」

手札5 → 4

リザーブ5 → 0

トラッシュ0 → 4

【グレイモン】赤属性 コスト4 赤2軽減

系統：成熟期、地竜

コア1 レベル1 4000

コア3 レベル2 5000

コア4 レベル3 7000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットのアタック時』

BP5000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、自分はデッキから1枚ドローする。

レベル2、3 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「完全体」を持つスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

菜々子「来た！グレイモン！」

小次郎「今回は普通にご登場か」

景光「これがデジタルスピリット、お手並み拝見といこうか」

グレイモンは花火の後ろから現れ、ゆっくりとフィールドに降り立ち、咆哮する。

グレイモンは進化カードだが、進化せずとも普通に召喚することは可能なのだ。

花火「いくぞ！グレイモン！アタックだ！」

無骨「ライフくれてやんよ、」ライフ5⁺4

花火の指示を聞き、グレイモンは走りだす、グレイモンは自慢の角で無骨のライフを

破壊する。

花火「ターンエンド」

グレイモン レベル1 BP4000 (1) S

無骨「噂のデジタルスピリットもその程度かよ」

「ターン03」無骨

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 5

ト
ラ
ッ
シ
ユ

3
⇨ 0

無骨「メインステップ、骨鹿を2体レベル2ずつで召喚」

手札4 ⇨ 2

リザーブ5 ⇨ 1

【骨鹿】紫属性 コスト1 紫1軽減

系統：無魔

コア1 レベル1 BP2000

コア2	レベル2	BP3000
コア4	レベル3	BP5000
シンボル紫		

白骨化した鹿に甲冑をきたスピリット骨鹿が2体召喚される。

無骨「やれ、骨鹿」

2体の骨鹿は骨の音を立てながら、花火のライフめがけ走りだす。

花火「ライフで受ける。！」ライフ5 ⇨ 3

無骨「エンドステップ、ネクサス、釣魂台の効果でピジョンヘディレスのカードを捨て1枚ドロー、ターンエンドだ」

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシユステップ リザーブ3 ⇨ 7

っ0

グレイモンはリフレッシュステップに伴い疲労から起き上がる。

花火「メインステップ、まずはグレイモンをレベル3にアップ！そしてマジック、ダイナパワーを使用」

手札5 → 4

リザーブ7 → 2

トラッシュユ0 → 2

【ダイナパワー】 赤属性

コスト3

赤2軽減

マジック

自分のトラッシュユにある「ダイナパワー」1枚は、『自分のエンドステップ』に系統：「地竜」を持つ自分のスピリットがいるとき、手札に戻る。この効果はターンに1回しか使えない。

メイン

このターンの間、系統：「地竜」を持つ自分のスピリットすべてをBP+3000し、アタックするとき相手のスピリット/アルティメット1体を指定してアタックできる。

フラッシュユ??

このターンの間、スピリット1体をBP+3000する。

グレイモンはレベルアップに伴い一瞬赤く発光する。

花火「この効果でグレイモンはBP+3000と指定アタックが付与される、いけ! グレイモン! アタック時効果で骨鹿を1体破壊! そして1枚ドロ、さらに、もう1体の骨鹿に指定してアタックだ!」手札4→5

グレイモンは口内にためた炎を放ち骨鹿を1体焼き払う、その後、グレイモンは残ったもう1体の骨鹿めがけ走り出し角で骨鹿をおもいつきりかちあげる、骨鹿は落下の衝撃で爆発した。

菜々子「相手のスピリットをすべて倒した!」

景光「だが、おそらくこのままでは敵の思う壺だな」

小次郎「え!?!どゆこと?」

小次郎と菜々子は景光の発言に疑問を浮かべる。

花火「エンドステップ、ダイナパワーの効果でトラッシュから手札に加える、これでターンエンドだ」

手札5→6

無骨「感謝するぞ、自分からスピリット破壊してくれてよ〜」

花火「?」

無骨は不敵な笑みを浮かべる。

「ターン05」無骨

スタートステップ

コアステップ リザーブ5 ⇨ 6

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシユステップ

無骨「メインステップ、俺のキースピリット骸巨人ギ・ガツシャをレベル1で召喚！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ6 ⇨ 3

トラッシュユ0 ⇨ 2

【骸巨人ギ・ガツシャ】紫属性 コスト8 紫3軽減

系統：無魔

コア1 レベル1 BP5000

コア5 レベル2 BP9000

シンボル紫

自分のトラッシュに系統「無魔」を持つスピリットカードが5枚以上ある間、手札にあるこのスピリットカードのコストを3にする。

レベル1、2『このスピリットの召喚時』

コスト合計13まで自分のトラッシュにある系統「無魔」を持つスピリットカードを好きなだけ手札に戻す。

レベル2『このスピリットの破壊時』

相手のスピリットすべてを疲労させる。

無骨「このスピリットはトラッシュに系統「無魔」を持つスピリットカードが5枚以上あればコストを3にする」

今無骨のトラッシュにはピジョンヘディレスが2枚と骨鹿が3枚の合計5枚あるため、ギ・ガツシャのコストは8から3になるのだ。

黒い悪魔のような姿のスピリットギ・ガツシャが召喚される

小次郎「このために自壊したり、ネクサスの効果でトラッシュを増やしていたのか」

景光「理由はそれだけではない」

景光が言う

無骨「その通りだ! ギ・ガツシャの召喚時効果! トラッシュからコスト13まで系統:

「無魔」を持つスピリットカードを好きなだけ回収! ピジョンヘディレス2枚と骨鹿3枚を回収するぜ!」

手札2→7

ギ・ガツシヤは登場するなり紫色に光トラツシユのカードを手札に戻した。菜々子「うっそー！トラツシユのカードが全部戻って行ったー!?」

小次郎「まずい、戻したカードはすべてノーコストで召喚できる」

無骨「ピジョンヒデイレス2枚と骨鹿2枚をすべてレベル1で召喚！」

手札7 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 0

釣魂台1 ⇨ 0

ピジョンヒデイレスと骨鹿が再び2体になり、舞い戻る。

無骨のスピリットはこれで合計5体となる。

無骨「終わりだ、行け、先ずは骨鹿だ」

花火「ライフだ くっ！」ライフ3 ⇨ 2

骨鹿のうちの1体は走り出しバリアに体当たりして花火のライフを砕く。

無骨「もう1体の骨鹿！」

すかさずもう1体の骨鹿も走り出すが、

花火「なめるなよ、フラツシユタイミング！マジックリアクティブバリアを使用！

不足コストはグレイモンをレベル2にして確保」手札6 ⇨ 5

リザーブ3 ⇨ 0

グレイモン4 ♪ 3

トラッシュユ2 ♪ 6

【リアクティブバリア】白属性 4コスト 白2軽減

マジック

相手の効果で自分のライフが減るとき、手札にあるこのマジックカードを破棄することで、自分のライフは1しか減らない。その後、コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュユ??

このバトルが終了したとき、アタックスステップを終了する。

花火「そいつはライフだ!」ライフ2 ♪ 1

花火「リアクティブバリアの効果でお前のアタックスステップは終わりだ!」

骨鹿はさつきと同じようにライフを砕くがその直後、巨大な氷山の一角が出現し、アタックを阻む。

無骨「ぐっ! 白のマジックとはっ、こざかしい! ターンエンドだ」

無骨はギ・ガッシュャと2体のピジョンヒディレスをプロッカードに残しターンを終える。

花火「ふうー、俺のターンだ」

「ターン06」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ5 ⇨ 6

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 8

8
⇨ 0

グレイモンはリフレッシュステップに伴い疲労から回復する。

花火「メインステップ、グレイモンをレベル3にアップ」

リザーブ8 ⇨ 7

グレイモン3 ⇨ 4 レベル2 ⇨ 3

グレイモンはレベルアップに伴い咆哮する。

無骨（ふんつ、いくらその恐竜を強くしたって無駄だ、

仮に俺のスピリットを全滅できたとしても俺はもう一枚ギ・ガツシャを持っている。

次で終わりだ）

無骨は自身に満ち溢れていた。

花火「アタックステップ！いくぜ！グレイモン！打ち上げてこい！」

トラッシュ

花火の指示でグレイモンが走り出す。

花火「グレイモンのアタック時効果でピジョンヒディレスを1体破壊!」手札6[♠]7
グレイモンは走りながら口内で炎をため放出し、ピジョンヒディレスを狙い打った。

無骨「本当にその程度だったのか、デジタルスピリット、次のターンで貴様は終わりだ」

花火「お前に次のターンは回ってこねえ」

無骨「?」

花火「バトルはこのターンで終わる」

景光（自身満々だな）

無骨「はっはっはー（笑）よく言えたな! そんなこと、

やれるもんならやってみろよ!」

花火「じゃあやれるんでやってみるわ」

グレイモンのもう一つのアタック時効果! 「超進化: 赤」を發揮! グレイモンを手札に戻すことにより、成熟期を越えた存在、完全体に進化できる!」

無骨「なに!?! 完全体?」

小次郎「! 完全体か、」

菜々子「グレイモンの進化どんな感じだろ?」

花火「グレイモン超進化！、、、

メタルグレイモン！レベル3だ！」

グレイモンは走りながらオレンジの炎に包まれ姿を変えていく。そして、オレンジの炎を振り払うと中から全身の半分を機械化し、羽も生えたグレイモン、メタルグレイモンが姿をあらわす。メタルグレイモンは一旦走るのをやめ、

咆哮する。

【メタルグレイモン】 赤白属性 7コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：完全体、地竜、機竜

コア1 BP6000

コア3 BP9000

コア4 BP11000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットの召喚時』

BP12000以下の相手のスピリット1体を破壊する。

レベル1、2、3

疲労状態のこのスピリットは、相手のスピリット／ブレイブの効果を受けない。

レベル2、3 『このスピリットのアタック時』

BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、このスピリットは回復する。

花火「かつこいいぜ、メタルグレイモン、よろしくな!」

無骨「なんだ、こいつまだ進化できたのか? 完全体?

リーダーの持つてるやつと同じだ」

花火「リーダーさんもデジタルスピリット持つてるのか?」

無骨「・・・」

花火「まあいいや、勝つてから聞かせ、メタルグレイモンの召喚時効果発揮! BP10000以下の相手のスピリットを1体破壊する、対象はギ・ガツシャお前だ!」

メタルグレイモンは胸部のハッチを開き、巨大なミサイルを二つ射出する。ギ・ガツシャはひとたまりもなく破壊される。

無骨「ギ・ガツシャ!?!」

花火「メタルグレイモン! アタックだ! アタック時効果発揮! BP10000以下の相手のスピリット1体破壊! 2体目のビジョンヒディレス」

ハッチを閉じたメタルグレイモンは次に完全に機械化している左手のアームを射出する。そのアームに叩きつけられたビジョンヒディレスは破壊される。

花火「この効果で破壊したとき、メタルグレイモンは回復する。」
無骨「なに!？」

メタルグレイモンは赤く発光し、回復する。

花火「このアタックどうする？」

無骨「くっライフだ!ぐわっ!」ライフ4⁺3

メタルグレイモンは射出したアームをそのまま鞭のようにしなりをつけ無骨のライフに叩きつける。

花火「もう一回だメタルグレイモン、今度は骨鹿だ」

メタルグレイモンは骨鹿をピジョンヒティレスと同じように左手のアームを駆使して破壊する。

花火「破壊に成功したとき、回復」

再びメタルグレイモンは回復する。

無骨「くっバケモノめ!ライフだ、ぐわっ!」ライフ3⁺2

花火「メタルグレイモン!残った骨鹿も、破壊だ!」

メタルグレイモンはまた左手のアームで残った骨鹿を蹴散らす。破壊に成功したので三度回復する。

景光（ほう、圧倒的だな）

無骨「ライフだ!ぬわっ!」ライフ2[◇]1

菜々子「すごい、グレイモンとメタルグレイモンだけでフィールドのスピリットがいなくなっちゃった」

小次郎「流石我がライバル」

花火「ラストアタックだメタルグレイモン!」

メタルグレイモンは左手のアームを伸ばし、無骨のライフに叩きつける。

無骨「チツクシヨー!」ライフ1[◇]0

無骨はバトルフィールドから弾き出される。

花火「やったぜ!メタルグレイモン!大勝利だ!」

花火がピースサインをあげるとメタルグレイモンは息を合わせるかのように咆哮した。

バトルが終わり、花火達は元の空間に戻る。バトルに負け、倒れている無骨に花火が近寄る。

花火「俺の勝ちだ、色々と聞かせてもらうぜ」

無骨「くっ」

花火「その前に先ずお前、犯行予告者じゃないな?」

無骨「!?!」

小次郎「なに言つてんだよ！一木花火！どう考えてもこいつが犯人だろ？」

花火「本当に犯人だったらこんな馬鹿正直に真正面から入つてこねえよ」

小次郎「あつそつか、確かにな」

花火「多分誰かに囮か偵察として使われたんだろ？違うか？」

無骨「ぐつ」

そのとき、どこからともなくシユリが現れる。

シユリ「全く、鋭すぎないかね？君は」

小次郎「わゝ!?でた？唐突にんじや!？」

無骨「しゅ、シユリさん」

花火「シユリ、俺はあんたに聞きたいことがいっぱいある」

小次郎「なんで当たり前のように話すんだこいつは」

シユリ「その質問に答える義務はない」

シユリがそう言つた途端知らぬうちに無骨がシユリに抱えられていた。

シユリ「まあ様子見は上々です。また明日くるのでね」

景光「シユリ」

シユリ「久しぶりです、お嬢」

シユリはそう言つた途端に煙玉を投げ煙幕を出し、目くらましをした。煙がはれ目を

開けると、もうそこに、シユリ達はいなかった。

小次郎「ちえーっ相変わらず何も答えようとしないうさ」

花火「うーん何かと色々隠してそうなんだけどな」

菜々子「見てみて！壁にハシゴがかかっている！あれで逃げたのかな？」

門はバトルの間に閉じられており逃げ道はなかったのだが、シユリは、ハシゴで難を逃れたようだ。

景光「なあ花火よ」

花火「？」

景光「お前つよいな！どうだ私の婿候補に入れてやろうか？いや入れる」

菜々子「む、婿候補!」

花火「えー!?!なんなの!?!」

花火と菜々子はそれぞれ違う意味で顔が赤くなる。

花火「てゆか殿様あいつと知り合いだったの？」

景光「ああ、先代、私の父の代の時に居た、私の世話係の忍びじや、私が殿になつてからこの村を去つたのだ、久しぶりだったが、仮面越しでもわかったよ」

小次郎「てことはここは、あいつの故郷ってこと？」

景光「そうなるな」(しかしなぜこの村を狙った？あいつもこの村のカードはデジタル

スピリットではないことは知っているはず)

花火「そうなると犯行予告者はシユリかあいつらのリーダーかどっちかだな」

景光「明日も来ると言っていた、村の警戒は解かないようにしておこう」

一方その頃、逃走したシユリと無骨は

無骨「すみませんシユリさん折角のチャンスを」

シユリ「気にするな本番は明日だ、お前はよくやった」

2人はそのまま暗闇に隠れて行った。

第6話 武龍城の乱!開戦!忍風VS武竜!

花火と無骨のバトルが終わり、約6時間が経過した。空はすっかり暗くなり、夜になっていた。花火達は城に戻り、城の者達からおもてなしを受けていた。

花火「お〜うまえな、これ」

菜々子「ほんと!いくらでも食べれちゃう!」

花火「お前はちよつと控えろよ、もうすでに15皿目じゃねえか、太つても知らねえぞ」

菜々子「そうだね〜じやああと5皿で終わりにする」

小次郎「全然控えてないだろー!合計20皿だよ!」

菜々子の食べっぷりに呆れる花火と小次郎

そこに景光が入ってくる。

景光「では、始めるか花火」

花火「?何をですか?」

景光「決まっておろう、バトルじゃよ!ほれ!デッキだしてバトルヴァイスだしてゲートを開け!」

花火「いやいやちよつと待つて、この世界のバトル連続やんのきついんですけど」

景光「何を言っているだらしない！時間結構空いただろう！それでも私の婿候補か
!？」

花火「誰が何をどうして俺が殿様の婿候補になったんだ！」

景光「ほおーやはりお前は菜々子の婿候補か？ムフフ」

花火「な!?なんでそうなるんだよ」

菜々子「え!?違いますよ!?そんなんじゃないです！」

景光の発言に2人は顔を赤くする。

景光（かわいいなこいつら）

小次郎「俺、置いてけぼり」

少し間が空いて花火が景光に質問する。

花火「そういえば殿様、シユリは明日また来るって言ってたけどどうするんですか？」

景光「一応門や壁の前に家来を配置する予定だ。というかもうすでに置いてある。」

小次郎「行動が早い」

景光「できれば明日の見張りに主らも参加してくれぬか？私の家来だけではシユリには絶対に勝てぬ」

菜々子「そんなに強いんですか?」

景光「ああ、私の父、先代殿の武魂影技（ぶこんかげわざ）よりも強かった」

小次郎（強さの基準がわからね〜!?!）

花火「見張りくらいならお安い御用さ!飯も食べさせてもらったし!な?小次郎!」

小次郎「俺に聞く?まあいいけど」

菜々子「私は姫様と残つてガールズトークしたいな〜」

景光「姫様じゃあない、殿様だ。は〜、まあいいだろう、見張りは花火と小次郎に行つ

てもらおう」

花火「よし!じゃあ小次郎、デツキ調整するか」

小次郎「ああ、いいぜ!」

景光「よし!ならばフィールドに行こう!」

花火「畳の上でいいわ」

花火と小次郎はデツキ調整を始める。それをすぐ横で菜々子と景光はアドバイスしたりしていた。

小次郎「お前の完全体、メタルグレイモン強かったな！今日のバトルあいつ一体で終わらせちまったなー」

花火「ああそうなんだよ、本当はもつと上を出したいんだけどね」

小次郎「ん？もつとうえ？ドユコト？」

花火「？いや普通に上だよ完全体の」

小次郎「完全体に上なんてあるの？」

花火「え!？」

言葉の食い違いに気づき花火と小次郎そして菜々子、景光は2人のデッキを確認し合う。そしたら驚くべきことが発覚する。

小次郎「嘘だろ？完全体を超えるデジタルスピリット？俺のデッキにはそんなカードないぞ!？」

菜々子「私も完全体で止まってるよー花ちゃん」

花火「まじ？俺だけなの!?!てつきりみんな同じなのかと」

小次郎「ちよつとずるいなー」

景光「やはりお前はちよつと特別なのかもしれいな」

花火「特別ねえ」

花火はそう言って完全体を超えるデジタルスピリットのカードを見つめる。

そして翌日、花火と小次郎は門の前に立っていて、漠然と会話していた。

小次郎「なあ一木花火、あいつらっていったい何者なんだろうな？」

小次郎はシュリ達のことを聞く

花火「さあーな?なんか色々隠してはいるっぽいな」

小次郎「俺らいつになつたらリアルワールドに帰れるんだろうな」

花火「そうだなあ、そこらへんは白の大陸に着かないとわからんけど」

小次郎「けど？」

花火「なあ小次郎、俺は、いや俺たちは何か意味があつてこの世界に召喚されたんじゃないのか？」

小次郎「?なに言つてんだよ、偶然だろう、なにを根拠にそんなこと言つてんだよ」

花火「いやーまあなんとなく」

小次郎「そういやお前昨日どうだった？」

花火「なにが？」

小次郎「とぼけんなよ、昨日の夜ずっと殿様とバトルしてたんだろう？ 畳の上で」
花火「ああそのことか、結局一回も勝てなかったよ」

小次郎「なに!?!お前が一回も勝てなかった!?!」

花火「くつそ強かったぜ景光姐さんは」

小次郎（しかもちよつと洗脳されてるうう!?!姐さんって）

そんな時だった。突如武龍村の門がゆっくり開いてしまう。そして外からイトニヤシユリ達と同じ鬼面を被ったもの達が4、50人入ってくる。

花火たち、村の人や家来の人々みんながこの光景に驚愕していた。

小次郎は「なっ!?!なんで門がかつてに!?!」

家来「門の上のやつはなにをやっている!?!確認して来い!」

少し身分の上そうな家来が他の家来に命令する。花火たちも行く。上に行くところにはなんといたのは昨日シユリと共に逃亡したはずの無骨だった。

無骨「ふっ!もう手遅れだ!お前らは俺たち、「反乱軍」の策略にはまったんだ」
無骨は上から大声で叫ぶ

小次郎「あいつら反乱軍っていうのか」

花火「策略?・・・!そうか」

小次郎「え!?!なにが?」

花火「いやまてよ、そうなるよ……ヤベエ!小次郎!急いで城に戻るぞ!」

小次郎「ええ!?なんで!」

花火と小次郎は城のある方角へ向かって走り出す。家来達と反乱軍の一味はお互いにゲートを開きバトスピで勝負する。

なんとも静かな戦だった。

時同じくして城内では、畳の上で菜々子と景光がバトスピをしていた。

景光「ほれ、サムライ・ドラゴンでアタックじゃ」

菜々子「むくくんーライフで受けるー!負けたー姫様強い!」

景光「姫様じゃあない殿様だ、それと、もういい加減出てきたらどうじゃ、シユリよ」

菜々子「え!?シユリ?」

景光がそういうところからともなく忍者のよういきなりシユリが現れる。

シユリ「バレてましたか、流石お嬢、随分ご立派になられて」

景光「お嬢じゃあない景光だ。お前の手口など最初からバレバレなのじゃよ」

菜々子「え!?ドユコト?」

花火&小次郎 side

小次郎「村人に変装してたあ!？」

花火「ああ、今思えば一人抱えてハシゴであんな壁登れるわけがねえ、シユリは煙幕の中で自分と無骨を村人に変装してあたかもハシゴで逃げたかと思わせたんだ」

小次郎「なるほど、ハシゴはダミーだったつてか、だから無骨が門を開けるとここいたのか。ん?じゃあシユリは今どこに?」

花火「決まってるだろ!城だよ、多分姐さんはこのこと知ってたんだ」

小次郎「まじ!？」

花火「まじまじ、確証はないけど俺たちや家来達をどかして自分一人で決着つけたかったんじゃないかと思う。」

菜々子は残っちまったけど」

???「そこは通しませんよ」

花火「誰だ!」

すると物陰からずりりとピエロのような見た目の男が現れる。

小次郎「どうやって先回りしたんだこいつ!足速くね!？」

ドューケ「私はドューケ、まあさしずめ反乱軍のブレインor研究者だと思っていた

できればよろしいかと、クク」

ドューケは不敵な笑みを浮かべる。

花火「ブレインねー、今回の作戦?みたいなのはお前が計画していたものなのか?」
ドューケ「いえいえ、今回に限ってはシュリさん1人で起こしたものですよ!私が興味あるのはあなた方です。」

小次郎「俺ら?」

ドューケ「ええ、聞けばあなた方はリアルワールドから来たそうじゃないですか。おまけにリアルワールドに流れ着いたデジタルスピリットを所持している、非常に興味深い!」

小次郎「あの忍者だな!そんな情報入れたのは!」

ドューケ「ふふつ忍者の方はそういうの得意ですからね!」

花火「邪魔するんだったら先ずお前を倒して、、、」

小次郎「まてよ!一木花火、お前は先に行け、さっさと城に行って、2人の姫様救ってこい!」

花火「小次郎!、、そういうのは嬉しいけど、この後負けるっぽいフラグの台詞だけど大丈夫?」

小次郎「大丈夫じゃー!!早く行けよ!」

花火「わかったよ、サンキューな！本当に負けんなよ！」

小次郎「ふっお前もな！」

そう言つて花火は小次郎を置いて一人で城へ走る。

ドューケ「美しい友情ですね〜では私の研究を手伝ってくれるのはあなたでいいでしょうか？緑坂小次郎君？」

小次郎「当然！いくぜ！」

小次郎&ドューケ「ゲートオープン解放！」

菜々子&景光&シユリ side

景光「今更なにをしに帰ってきた、シユリよ」

シユリ「ちようどこの村の伝説のカード、いや殿の証であるカードを貰いにね」

景光「分かっているのか？あのカードを手にするためには、、、」

シユリ「今の殿に勝たなければならぬ、でしょ？」

菜々子「それって姫様に勝負して勝たないといけないってこと？」

景光「そうじゃ、だがしかし先代の父は病死したため私にはそのカードを使う権利は

ない」

菜々子「??ドコト?」

シユリ「つまり、先代の方が負ける前に亡くなられたから自動的に先代の娘の景光殿のものになったが、景光殿が先代に勝ったわけじゃないから、彼女にはあのカードを使うことはできないということですよ」

菜々子「?」

菜々子は意味わからないといった顔をしている。

景光「気にするな、菜々子、要は私がシユリとバトルして勝てば万事解決じゃ」

シユリ「ほう、景光殿、あなた様が私に勝ったことがありますか?」

景光「抜かせ、あの時とは違う、父上が亡くなり、そして同時にお前がいなくなつて2年、私はあのカードに見合つた器になるために果てしない修行を積んだのじゃ」

シユリ「だが、未だにあのカードはあなたのところへは来ない」

景光「なあに、このバトルで嫌でも認めさせてもらう!いくぞ!シユリ!」

シユリ「相も変わらずせっかちなお方だ」

景光&シユリ「ゲートオープン解放!」

景光とシユリはバトルフィールドに降り立つ景光は赤い装飾のようなバトルアーマー、シユリのバトルアーマーはいかにも忍者者といった感じのバトルアーマーだった。

菜々子も観客席でこのバトルを見届ける。

景光「私のターンからじゃ」

「ターン01」景光

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

景光「メインステップ、ドラマルとヒエンドラゴンをレベル1ずつで召喚」手札5 ⇨

3

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 2

【ドラマル】 赤属性 0コスト 軽減無し

系統：武竜

コア1 レベル1 BP1000

コア3 レベル2 BP3000

シンボル赤

レベル1、2 『自分のメインステップ』

自分がカード名に「サムライ・ドラゴン」か「ソウルドラゴン」と入っているスピリットカードを召喚するとき、このスピリットに赤のシンボル1つを追加する。

【ヒエンドラゴン】 赤属性 3コスト 赤1軽減

系統：家臣、武竜

コア1 レベル1 BP3000

コア2 レベル2 BP4000

コア5 レベル3 BP6000

シンボル赤

レベル1、2、3

このスピリットにソウルコアが置かれている間、系統「武竜」を持つ自分のスピリットすべてをBP+4000する。

レベル2、3 【真・激突】『このスピリットのアタック時』

相手は可能ならスピリット／アルティメットでブロックする。

景光のフィールドにかの有名なスピリット、ブレイドラに甲冑を着たスピリット、ドラマルとツバメのような羽の生えたスピリット、ヒエンドラゴンが召喚される。

ドラゴン BP1000+4000(1)

ヒエンドラゴン BP3000+4000(1) S

景光「ヒエンドラゴンの効果ですべての武竜にBP+4000じや、バーストをセットしてターンエンド」

手札3 ⇨ 2

菜々子「いきなりBP5000と7000が並んだ！」

シュリ「・・・俺のターンですね」

「ターン02」シュリ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

シュリ「メインステップ、バーストをセットして、異牙忍ラツパンサーをレベル1で

召喚」手札5 ⇨ 3

リザーブ5 ⇨ 1

トラツシュ0 ⇨ 3

【異牙忍ラツパンサー】緑属性 3コスト 緑2軽減

系統：家臣、忍風、劍獣

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

シンボル緑

レベル1、2 『このスピリットのアタック/ブロック時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

レベル2

ソウルコアが自分のリザーブにある間、このスピリットをBP+4000する。

青い体色に忍の装束を着た小さいヒヨウのようなスピリット、異牙忍ラツパンサーが召喚される。

シユリ「いけ!ラツパンサーアタック時効果でボイドからコアを1個ラツパンサーに、そのままレベル2になり、ラツパンサー自身の効果でBP+4000」

現在シユリのリザーブにソウルコアがあるため、ラツパンサーのレベル2効果が有効。ラツパンサーのBP+3000に加えて4000のBP+が足され、合計BP7000となる。

菜々子「ええ!?!向こうも高い!」

景光「ライフで受けようか」ライフ5→4

ラツパンサーは木でできたもう二つの腕で手裏剣を投げ景光のライフを砕く。

景光「くつ、やるな、だがバーストはもらった!ライフ減少によりバースト発動!剣皇武龍ゼットウ・ドラゴン!」

シユリ「!そんな大物が!」

景光「バースト効果でBP15000以下の相手のスピリットを破壊!ラツパンサー!お前じゃ!」

ラツパンサーの足元から火柱が上がるラツパンサーはなすすべなく焼かれてしまう。

景光「そしてその後召喚する!こい!ゼットウ・ドラゴン!レベル1で召喚!」

【剣皇武龍ゼットウ・ドラゴン】 赤属性 7コスト 赤4軽減

系統：十冠、家臣、武竜

コア1 レベル1 BP7000

コア3 レベル2 BP10000

コア5 レベル3 BP15000

シンボル赤

ソウルバースト：自分のライフ減少後

BP15000以下の相手のスピリット1体を破壊する。この効果で相手のスピリットを破壊できなかつたとき、相手のライフのコア1個を相手のリザーブに置く。

この効果発揮後、このスピリットカードをコストを支払わずに召喚する。

レベル2、3『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット/アルティメット1体を指定してアタックできる。

青い甲冑を身に纏ったドラゴンが、景光の後ろから姿を現し眼光を光らせ、フィールドに降り立つ。

シュリ「ターンエンド」

「ターン03」景光

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシユステップ リザーブ1 ⇨ 3

景光「メインステップ、まずはバーストセット、見せてやろう、私の本気を！」手札

3 ⇨ 2

シュリ「なにが来る？」

景光「召喚!異魔神ブレイブ!武龍魔神!召喚!」

手札2 ⇨ 1

リザーブ3 ⇨ 0

トラツシュ0 ⇨ 3

シュリ「異魔神ブレイブ!?そんなカードまで」

【武龍魔神】 赤属性 5コスト 赤2軽減 紫2軽減

系統：異魔神、武竜

コア0 レベル1 BP4000

コア0 合体+4000

シンボル赤

このブレイブは、疲労せず、スピリット状態のとき、アタックとブロックができない。

《右合体条件：コスト4以上》

【右合体時】『このスピリットのアタック時』

このターンの間、系統：「武竜」を持つ自分のスピリット1体をBP+5000する。そのスピリットがコスト10以上のとき、さらに、赤のシンボル1つを追加する。

《左合体条件：コスト4以上》

【左合体時】『このスピリットのアタック時』

ターンに1回、自分のトラッシュにある系統：「武竜」を持つスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚できる。

右手に青い剣、左手に赤い剣を持つ異魔神ブレイブ、武龍魔神が天空からゆつくりと降りて来る。

景光「ふっ、武龍魔神!ゼットウ・ドラゴンに右合体じゃ!」

武龍魔神はゼットウ・ドラゴンに右手に持っている青い剣を渡す。ゼットウ・ドラゴンは力がみなぎったのか、もともと持っていた自分の剣と武龍魔神の青い剣を構え、咆哮する。

景光「アタックステップ、やれ、ゼットウ・ドラゴン!アタック!武龍魔神の右合体アタック時効果でゼットウ・ドラゴン自身にBP+5000!さらに、選んだスピリットがコスト10以上のとき、赤のシンボル1つを追加する!これでゼットウ・ドラゴンはトリプルシンボルじゃ!」

ゼットウ・ドラゴンは武龍魔神の青い剣の力でパワーアップする。

シユリ「ライフで受けよう、ぬうっ!」5→2

ゼットウ・ドラゴンは2本の剣を振り下ろしシユリのライフを3つ破壊した。余りの衝撃にシユリの鬼面にヒビが入る。

菜々子「すごい!いつきに3つも!」

シユリ「さすがにこたえるな、だが!ここで勢いは止める!ライフ減少でバースト発動!四十四代目異牙忍頭首シノビーバースト効果でBP12000以下の相手のスピリットを4体破壊、ドラマルとヒエンドラゴン、貴様らだ!」

空から放たれる2本のクナイがドラマルとヒエンドラゴンを打ち抜く、たまらず2体は爆発を起こしてしまふ。

景光「ぐっ！お前も大物のバーストを！」

シユリ「その後召喚だ、四十四代目異牙忍頭首シシノビレベル3で召喚」

【四十四代目異牙忍頭首シシノビ】 赤緑属性 7コスト 赤3軽減 緑2軽減

系統：忍風、皇獣、劍獣

コア1 レベル1 BP7000

コア2 レベル2 BP10000

コア4 レベル3 BP13000

シンボル赤

ソウルバースト：自分のライフ減少後

BP12000以下の相手のスピリット4体を破壊する。この効果で破壊したスピリットの効果は発揮されない。

この効果発揮後、このスピリットカードをコストを支払わずに召喚する。

レベル2、3『このスピリットのアタック／ブロック時』

ターンに1回、自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「忍風」を持つスピリットカード／ブレイブカードを、コストを支払わずに好きなだけ召喚する。

残ったカードは手札に加える。

ライオンのような顔に白いタテガミ、2本の角、4本の足に加えて2本の木の腕が特徴的なスピリット、シシノビが天空を走り、地面に降り立つ。

景光「くそ! なにもできぬか、ならばターンエンドじゃ」

景光「知らないぞあのようなスピリット、いつの間にシユリのやつ、まさか!？」

シユリ「そのまさかだよ景光殿、俺も同じように修行してたのさ、あのカードの器になるために」

景光「なぜだ! あのカードはもともとは私らの一族のカード! デジタルスピリットほどの価値はない! なぜそこまで欲する!」

シユリ「ただ単に力が欲しいんだよ、お嬢、俺は影技様が亡くなられた後、俺がいてはお嬢が俺を頼りつきりにしてしまおうと思いきこの村を去った。だが、その後、俺はあの方と出会い、感銘を受け、あの方についていこうと決めたのです」

景光「反乱軍のリーダー、シデンか、」

シユリ「そう、俺はシデン様の志に惹かれた。そして、今あの方のために俺は力を蓄えなくてわならない」

景光「主にそこまでさせる男だというのか! あの男は!」

シユリ「いずれわかりますよ、いずれ」

「ターン04」シユリ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ3 ⇨ 6 S

トラッシュユ3 ⇨

0

シユリ「メインステップ、もう1体、ラッパンサーをレベル2 で召喚」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 S ⇨ 1 S

トラッシュユ0 ⇨ 3

シユリはもう1体ラッパンサーを召喚する、ラッパンサーは元気に吠える。

シユリ「アタックステップ、やれ、シシノビ！シシノビのアタック時効果デツキを2

枚オーブンしてその中の2体を好きなだけノーコスト召喚する」

景光「なに？」

菜々子「ノーコストって」

オーブンカード【巨蟹忍者 喜屋武鎖亞怒】【風魔ベニマトイ】

シユリ「この2体を召喚する、喜屋武鎖亞怒はレベル2ベニマトイはレベル1だ、不足コストはラップンサーとシシノビから確保」

【巨蟹忍者 喜屋武鎖亞怒】(きよかいにんじや キャンサード) 緑属性 6コスト 緑3軽減

系統：忍風、殺人

コア1 レベル1 BP5000

コア3 レベル3 BP10000

シンボル緑

レベル1、2『自分のアタックステップ』

このスピリットか、ソウルコアが置かれている自分のスピリットがアタックしたとき、相手は、ブロックするならスピリット2体か、アルティメット2体でないとブロックできない。

そのスピリットがブロックされたとき、どれか1体とバトルする。

レベル2 『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット1体を疲労させる。

【風魔ベニマトイ】 緑属性 4コスト 緑2軽減

系統：忍風、爪鳥

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP4000

シンボル緑

レベル1、2『このスピリットのアタック時』

ボイドからコア1個をリザーブに置く。

さらに、このスピリットにソウルコアが置かれているとき、相手のスピリット1体を疲労させる。

シシノビが吠えると、

人型だが蟹の甲冑を着たスピリット、喜屋武鎖亞怒と、足で巻物を掴んでいる赤い鳥のスピリット、ベニマトイが駆けつける。

シシノビ BP10000(2)

ラツパンサー BP2000(1)

喜屋武鎖亞怒 BP10000(3)

ベニマトイ BP3000(1) S

シュリ「シシノビのアタックはどうする?」

景光「ライフで受けよう」ライフ4³

シシノビは木の腕に持っている刀で景光のライフを斬りつける。

シユリ「続け!ラツパンサー!アタック時効果、ラツパンサーにコアを1個置きラツパンサーをそのままレベル2へ」

景光「これもライフじゃ」ライフ3 ⇨ 2

ラツパンサーは持っている手裏剣を投げつけ景光のライフを破壊する。

菜々子「このままアタックが全部通つたら姫様が負けちゃう!」

景光「案ずるな菜々子、負けはせぬよ、あと姫様じゃない殿様だ、もしくは姐さんと呼べ!バースト発動!絶甲氷盾!バースト効果でライフを1つ回復、そしてコストを払いお前のアタックステップは終わりじゃ」

ライフ2 ⇨ 3

リザーブ4 ⇨ 0

トラツシユ3 ⇨ 7

【絶甲氷盾】 白属性 4コスト 白1軽減

マジック

バースト:自分のライフ減少後

ボイドからコア1個を自分のライフに置く。その後コストを支払うことで、このカードのフラツシユ効果を発揮する。

フラツシユ?!

このバトルが終了したとき、アタックスステップを終了する。

菜々子「白のバーストでしのいだ！すごいよ姐さん！」

シユリ「確かに前よりかはずっと成長されてるようだ。

ターンエンド」

「ターン05」 景光

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札1 ⇨ 2

リフレッシュステップ リザーブ1 ⇨ 8

トラッシュユ7

⇨ 0

リフレッシュステップに伴いゼットウ・ドラゴンは疲労から回復する。

景光（忍風デツキの波状攻撃にそう耐えられるデツキじゃない。このターンでケリをつける！）

景光「メインステップ、我がキースピリットを今ここに！召喚！魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴン！レベル1！」

手札2 ⇨ 1

リザーブ8 → 2

トラッシュ0 → 5

【魂皆伝ブレイシャー・ドラゴン】(ソウルマスター)

赤属性 7コスト 赤3軽減

系統：武竜

コア1 レベル1 BP5000

コア3 レベル2 BP10000

コア5 レベル3 BP13000

シンボル赤

レベル1、2、3 『自分のアタックステップ開始時』

自分のトラッシュのコアを、系統「武竜」を持つスピリットに好きなだけ置く。この効果でこのスピリットにコアが置かれたとき、相手のネクサス1つを破壊する。

レベル2、3：フラッシュ 『自分のアタックステップ』

1コスト支払うことで、BP6000以下の相手のスピリット1体を破壊する。または、ソウルコアで1コスト支払うことで、BP12000以下の相手のスピリット1体を破壊する。

突如、大きな炎が出現し、その中で1体のドラゴンが眼光を光らせたかと思うと、そのドラゴンは鞘から刀を1本引き抜き一閃、炎を引き裂き、ブゲイシャー・ドラゴンが姿を見せる。

シユリ「やはり来たか、ブゲイシャー」

菜々子「カツコイイ！」

景光「ゼットウ・ドラゴンのブレイブを右から左へ変更、ブゲイシャーに右合体する」
ゼットウ・ドラゴンはブゲイシャーに武龍魔神に借りた剣を丁寧**に**ブゲイシャーに渡す。今度は武龍魔神が残った赤い剣を丁寧**に**ゼットウ・ドラゴンに渡した。

菜々子（もうちよつとカツコよく渡せないのかな？）

景光「ゼットウ・ドラゴンのレベルを2に上げ、さらに、バーストセット！」

手札1 → 0

リザーブ2 → 0

シユリ（このターンで決める気か）

景光「アタックステップ！ブゲイシャーの効果発揮！トラツシユのコアを好き**な**だけ
武龍のスピリットへ！ブゲイシャーに全部のつける！ブゲイシャーはレベル3に！」

トラツシユ5 → 0

景光「ブゲイシャーでアタック！武龍魔神の右合体アタック時効果で、ブゲイシャー

にBP+5000、さらに、赤のシンボルを1つ追加!」

ブゲイシヤーは走り出すと同時に武龍魔神の青い剣の恩恵を受け赤く光る。

シユリ「(ブゲイシヤーは残すとまずい、このタイミングで削除しなければ、)フラッシュユタイミング!アクセルを使用!焰三忍 大手裏剣のイザヨイ!不足コストはラッパンサーと喜屋武鎖亞怒をレベル1にして確保!」

手札3 ⇨ 2

トラッシュユ3 ⇨ 6

景光「なに!?アクセルじゃと!」

アクセルとは、主にスピリットに付属される効果で、マジックのようにメインやフラッシュユで使い切りの効果を発揮できる。だが1番の特徴は、マジックとは違いトラッシュユに置かれずに手元に置かれて、自分のターンでスピリットとして召喚できることにある。

【焰三忍 大手裏剣のイザヨイ】 赤属性 4コスト 赤2軽減

緑1軽減

系統：忍風、武竜

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP4000

コア4 レベル3 BP5000

シンボル赤

フラッシュ：《アクセル》4コスト 赤2軽減（この効果は手札から使用できる）

シンボル2つ以上の相手のスピリット／アルティメット1体を破壊する。この効果発揮後、このカードはオーブンして手元に置く。

レベル1、2、3 『このスピリットの召喚／破壊時』

自分の手札にある系統：「忍風」を持つスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚できる。

シユリ「アクセル効果で、シンボル3つのブゲイシャーを破壊！」

紅葉の花びらから姿を現したイザヨイは背中の巨大な手裏剣をブゲイシャーに投げつける。ブゲイシャーは刀でこらえるも、手裏剣は刀をも砕いてブゲイシャーに命中、ブゲイシャーはあえなく破壊される。

菜々子「ああ！そんな！」

シユリ「残念だったな、景光殿」

景光「残念なのはそっじゃ、シユリ！」

シユリ「なに!？」

景光「破壊後のバースト! 武将転生! バースト効果で破壊されたブゲイシヤーを再びレベル3で召喚!」

【武将転生】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

バースト：相手による自分のスピリット破壊後

このバースト発動時に破壊された、自分のトラッシュにある系統「武竜」を持つスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。ただし、『このスピリットの召喚時』効果は発揮されない。その後コストを支払うことでフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

このターンの間、系統「武竜」を持つ自分のスピリット1体をBP+5000する。

バトルフィールドの地面が割れ、マグマが噴き出す。その中からブゲイシヤーが這い上がってくる。

景光「これで終わりじゃ! ゼットウ! アタック! 武龍魔神の左合体アタック時効果で、トラッシュのヒエンドラゴンをレベル2 で召喚! 維持コアはブゲイシヤーをレベル2 にして確保!」

ゼットウ・ドラゴンは武龍魔神から借りた赤い剣を地面に突き刺すと、地面からワー

ムホールのようなものが出現し、そこから再びヒエンドドラゴンが飛び出してくる。
シユリ「ぐっ！まだそんな効果を」

景光「ヒエンドドラゴンの効果で全武竜にBP+4000!」

ゼットウ・ドラゴン+武龍魔神 BP10000+4000+4000

(3)

ブゲイシャー BP10000+4000(4)

ヒエンドドラゴン BP4000+4000(2)S

シユリ「だが、まだあまい！フラツシユタイミング！アクセル！甲蛾忍バラキリ！不足コストでシシノビをレベル1にダウン、ラツパンサーを消滅させる」

手札2 → 1

トラツシユ6 → 8

菜々子「2枚目のアクセル!」

【甲蛾忍バラキリ】緑属性 2コスト 緑1軽減

系統：忍風、殺人

コア1 レベル1 BP2000

コア3 レベル2 BP3000

シンボル緑

デッキからオープンされたこのスピリットカードは、手札に加えられる。

フラッシュ『お互いのアタックステップ』

自分の手元にあるこのスピリットカードは、召喚コストの支払いと上に置くコアをリザーブから使用することで召喚できる。

フラッシュ：《アクセル》4コスト 緑2軽減（この効果は手札から使用できる）

疲労状態の相手のスピリット1体を手札に戻す。

この効果発揮後、このカードはオープンして手元に置く。

コア不足でラツパンサーは消滅するが、その影からバラキリが飛び出してくる。バラキリは、ゼットウ・ドラゴンの腹部を自前の刀で突くと、ゼットウ・ドラゴンはデジタルの粒子になって景光の手札に戻ってしまう。

景光「まただ!ブゲイシャー!」

ここでシュリのフラッシュタイプミニングだが、シュリは特にカードを使う様子はない。

景光「どうした?さすがに弾切れか?ならば私のフラッシュ!ブゲイシャーの効果発揮!1コスト払ってBP6000以下の相手のスピリット1体を破壊する!先ずは喜屋武鎖亞怒!お前じゃ!」

リザーブ3 → 2

トラツシユ0 ⇨ 1

ブゲイシヤーは2本の刀を鞘から出し、その刀に青い炎をたぎらせる、そして、その刀、2本のうち1本で斬撃波を喜屋武鎖亞怒へ向け飛ばす。喜屋武鎖亞怒はなすすべなく破壊される。

景光「もう一度！今度はベニマトイ！お前だ！」

リザーブ2 ⇨ 1

トラツシユ1 ⇨ 2

ブゲイシヤーは今度はベニマトイを同じように斬撃波を飛ばし破壊する。

景光「これで最後！ソウルコアを払い12000以下を破壊！シシノビ！」

トラツシユ2 ⇨ 3 S

ヒエンドドラゴンの恩恵がなくなるためヒエンドドラゴンもブゲイシヤーも力が抜けるが、ブゲイシヤーは今度は2本の刀で斬撃波を飛ばし、シシノビを狙う。シシノビは刀やクナイで止めようとするも斬撃波の勢いは止まらず命中、そのまま破壊される。

菜々子「これでアタックが全部通れば、景光姐さんの勝ち！」

シユリ「ふふっそれはどうかな？俺は信じていたよ景光殿、シシノビを破壊するためソウルコアをトラツシユに置くことを！」

景光「なに!？」

シユリ「このスピリットカードは相手がソウルコアをトラッシュに、置いたとき、コストを支払わず召喚できる！」

来い異牙忍頭首トウドウ！レベル2！」

手札1→0

リザーブ3→0

【異牙忍頭首トウドウ】緑属性 7コスト 緑3軽減 極2軽減

系統：忍風、劍獣

コア1 レベル1 BP6000

コア3 レベル2 BP10000

コア4 レベル3 BP12000

コア8 レベル4 BP30000

シンボル緑

手札にあるこのスピリットカードは、相手のソウルコアが相手のトラッシュに置かれたとき、その効果発揮後、コストを支払わずに召喚できる。

レベル2、3、4『このスピリットのアタック/ブロック時』

系統：「劍獣」を持つ自分のスピリット/アルティメット1体につき、相手のスピリット/アルティメット1体を疲労させる。そのスピリット/アルティメットすべては次

の『相手のリフレッシュステップ』で回復できない。

突然竜巻が発生したかと思うと、その竜巻を切り裂き、なかから、虎の姿に甲冑を着たスピリット、異牙忍頭首トウドウが姿を現わす。

菜々子「ここにきてプロッকারの召喚!？」

景光「それがどうした! かまうな! 突き進め! ブゲイシャー!」

シユリ「次のターンで確実に仕留めるためにココはライフで受けようか」ライフで受ける!ぐう!」

ライフ2 ♪ 1

ブゲイシャーは2本の刀でシユリのライフを叩きつける。

あまりの衝撃にととうとう、シユリの鬼面が破壊されてしまう。この瞬間、まるで幽霊が通ったかのように場がしらけた。

シユリ「俺は嬉しいよ、お嬢がここまでご立派になられて、村も安泰だろう。」

景光「シユリ、くっ、ターンエンド」

菜々子「景光姐さん」

景光は止むを得ずターンエンドを宣言する。

もう勝敗は目に見えていた。

「ターン06」シユリ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札0 ⇨ 1

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 10

トラッシュユ8 ⇨

0

シユリ「メインステップ、手元のイザヨイとハバキリを召喚いずれもレベル2」

リザーブ10 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 4

手元に待機していた、イザヨイとハバキリはトウドウの横から姿を見せる。

シユリ「アタックステップ、トウドウでアタック、アタック時効果でヒエンドラゴン
を疲労させる。」

景光「ライフで受ける、ぬう！」ライフ3 ⇨ 2

トウドウは風邪を巻き起こし、ヒエンドラゴンを疲労させるとすぐさま景光のライフ
めがけ刀を投げつけ、景光のライフを破壊する。

景光「ふっ！流石私の婿第一候補といったところか」

シユリ「バラキリとイザヨイでアタック」

景光「ライフで受ける、良い戦じやった」

ライフ2[→]0

バラキリとイザヨイはそれぞれの武器をライフめがけ投げつけ、ライフを破壊した。ライフがゼロになった景光はバトルフィールドから弾かれる。

菜々子「景光姐さん！」

シユリ「俺の道を阻むものは誰であろうと容赦なく切り捨てる」

シユリがそう言うと、スピリットたちが答えるように鳴き叫ぶ。

バトルが終わる3人とももの場所に戻る。满身創痕の景光に菜々子が寄り添う。

菜々子「大丈夫ですか!?!景光姐さん！」

景光「ふつつ心配ない、やっぱりかわいいなお前は」

すると景光の胸元から1枚のカードが飛び出す。

菜々子「え!?!なに?」

そのカードは吸い込まれるように、シユリの元へ行く。

シユリ「これが、影技様のいや、武魂家に伝わるカード、「忍頭領ソウルドラゴン・焰影」！」

景光「焰影！」

シユリ「これがあればもうこの村に用はない、兵を引き上げさせて、戦を終わらせる
としよう」

花火「ちよおおおつと待てい!」

シユリが兵を引き上げ用とした矢先に花火がふすまを蹴破つて現れる。

菜々子「花ちゃん!」

景光「花火、」

シユリ「今更なにしにきた、少年」

花火「あんたに一本取られちまったから、一本取り返しに来た。ただそれだけだ」(な
んか仮面取れてね?)

花火とシユリはお互いを睨み合う。

第7話 忍者軍団を討ち破れ！ウオーグレイモン爆進！

（前編）

前回、おもいつきりふすまを蹴破って現れた花火だが、

花火「勝負だ！シユリ！俺が勝ったら兵を引き上げてもらうぜ」

景光「花火、シユリはもうすでに兵を引き上げようとしておったぞ、ふすまの前で聞こえなかったのか？」

花火「え!? そうなの？」

シユリ「ふっ！ まあいいですよ、せっかく手に入れたソウルドラゴン・焰影を使ってみたいしね」

景光「ところで花火よ、お前が蹴破ったふすま、いくらすると思う？」

花火「え!?! なんすか!?! 姐さん? まさか?」

景光「私も鬼ではない、そうだな、そのシユリに勝ったらチャラにしてやろう」

景光は疲れ切っているが、悪戯な笑みで花火に言う。

シユリ「景光殿に一回も勝てなかった君が、私に勝てる見込みはないがね」

花火「んだと！ バトルはなにがおこんのかわかんねえぞ！ まだあのカードだって出し

てないし!」

シユリ「完全体を超えた存在か、デツキに入れてても、今まで使えなかったと言っていたが、そんなカードに神頼みしてる時点で君の負けだ」

花火「(なんでそんなことまで、こいつもしかして、ずっとこの部屋に張り込んでたのか? すごいな、10時間くらい身を潜めていたのか)」

花火はシユリの忍耐力の高さに驚く。

菜々子「これは負けられないね! 花ちゃん! 資金的に!」

花火「一言余計だ、せっかくカツコよく入って来たのに、

まあいいやこれ以上話たって時間の無駄だ、ゲートを開くぜ、シユリ」

シユリ「ああ」

花火「ゲートオープン解放!」

シユリ「ゲートオープン解放」

花火とシユリはバトルフィールドに行く。菜々子は疲れ切っている景光に肩を貸しながらも観客席へ向かう。

一方その頃ドゥーケと交戦中の小次郎は、

小次郎「あー! クツツ! しぶてえ! 早く花火達のところへ行かないといけないのに!」

ドゥーケ「ふふっこれもじつくりあなたの實力を見たいがためですので、我慢してくださいね〜」

現在、ドゥーケのライフ2に対し、小次郎のライフは5、ドゥーケのフィールドには回復状態でレベル3のガーネットドラゴンが3体いた。ガーネットドラゴンは疲労状態でもブロックできる効果を持ったため、疲労効果を得意とする小次郎のデッキとは、やや、相性が悪かった。

【ガーネットドラゴン】 白属性 4コスト 白2軽減 赤2軽減

系統：甲竜

コア1 レベル1 BP3000

コア2 レベル2 BP4000

コア4 レベル3 BP6000

シンボル白

レベル1、2、3

このスピリットの色とシンボルは赤としても扱う。

レベル1、2、3 『相手のアタックステップ』

系統：「甲竜」／「竜人」を持つ自分のスピリットすべては疲労状態でブロックできる。

レベル2、3 【超装甲：赤／紫／白／青】

このスピリットは、相手の赤／紫／白／青のスピリット／ブレイブ／ネクサス／マジックの効果を受けない。

小次郎「もういい!手の内全部明かしてでも前に進んでやる!俺のターン!」

「ターン15」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ11

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシユステップ

小次郎「よし!来たぞー、このターンで終わりだ!」

ドゥーケ「すごい自信ですね〜(この状態から私の残りライフ2 つを奪うというの

か?面白い)

小次郎「メインステップ、カブテリモンをレベル2 で召喚!」手札5 ⇨ 4

リザーブ11 ⇨ 3

トラッシュ0 ⇨ 5

【カブテリモン】緑属性 5コスト 緑3軽減

系統:成熟期、殺人

コア1 レベル1 BP5000

コア3 レベル2 BP8000

シンボル緑

レベル1、2 『このスピリットの召喚／アタック時』

相手のスピリット1体を疲労させる。

レベル1、2 【超進化：緑】 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「完全体」を持つ緑のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

レベル2 『このスピリットのアタック時』

疲労状態の相手のスピリット1体をデッキの上に戻す。

昆虫のような見た目に、硬い甲羅を被ったスピリット、カプテリモンが召喚される。

ドゥーケ 「おお、緑のデジタルスピリット！美しい！」

小次郎 「カプテリモンの召喚時効果でガーネットドラゴンを1体疲労だ」

カプテリモンは突風を巻き起こし、ガーネットドラゴンを1体、疲労させる。

ドゥーケ 「無駄ですよ、ガーネットは疲労状態でもブロックできます」

小次郎 「まだだ！いけ！カプテリモン！アタック時効果で疲労状態の相手のスピリッ

ト1体をデッキの上へ!ガーネットドラゴンを1体を指定!さらに、もう1つのアタック時効果で残ったガーネットのうち1体を疲労させる」

ドゥーケ「!」

カブテリモンは手のひらから緑のエネルギー弾をだし、ガーネットドラゴン1体にあてる。ガーネットドラゴンはデジタルの粒子になって、デッキの上に戻る。そして、残ったガーネットドラゴン2体のうち1体は、カブテリモンの生み出した風で疲労状態になる。

小次郎「さらに!もう1つのカブテリモンのアタック時効果!【超進化:緑】!カブテリモンを手札に戻して成熟期から、完全体に超進化!アトラーカブテリモン!」

【アトラーカブテリモン】 緑属性 7コスト 緑4軽減

系統:完全体、殻人

コア1 レベル1 BP10000

コア3 レベル3 BP13000

シンボル緑

レベル1、2『このスピリットの召喚/アタック時』

相手のスピリット2体を疲労させる。または、疲労状態の相手のスピリット2体を手札に戻す。

レベル2 『このスピリットのアタック時』

このスピリットのアタックによって相手のライフを減らしたとき、系統「完全体」を持つ自分のスピリット1体につき、相手のライフのコア1個を相手のリザーブに置く。

カプテリモンは緑のオーラを纏い、徐々に姿を変えていく、完全に姿が変わったとき、カプテリモンは緑のオーラを弾く、そして、赤茶の体色に、国産のカブトムシのようなツノを得たスピリット、アトラカプテリモンが超進化により、現れる。

ドゥーケ「おお！完全体！」

小次郎「アトラカプテリモンの召喚時効果でスピリット2体を疲労させる」

アトラカプテリモンはカプテリモンよりさらに上のパワーで風を生み出し、1体のガーネットドラゴンを疲労させた。これでドゥーケのフィールドのスピリットはすべて疲労状態となる。

小次郎「いづくぞー！アトラカプテリモン！アタック！アタック時効果発揮！疲労状態の相手のスピリット2体を手札に戻す！」

ドゥーケ「なに!？」

アトラカプテリモンは手のひらから緑のエネルギー弾を2つ作りだし、ガーネットドラゴンに投げつける。ガーネットドラゴン達はなすすべなく直撃してしまい、デジタ

ルの粒子になってドゥーケの手札に戻ってしまふ。

ドゥーケ「緑のスピリットにこんな除去の仕方があるとは、だが、1体では、私のライフはゼロにはできませんよ」手札0 ⇨ 2

小次郎「ふっふっふ、それはどうかな？」

ドゥーケ「む？」ライフ2 ⇨ 1

アトラーカーブテリモンは自慢のツノでドゥーケのライフを破壊する。

小次郎「アトラーカーブテリモンの効果!アトラーカーがライフを減らしたとき、完全体のスピリット1体につき相手のライフのコア1個をリザーブに置く!完全体はアトラーカー1体!よってライフを1つ破壊だー!」

アトラーカーブテリモンはライフを破壊した直後にツノの先から雷を発生させ、再びドゥーケのライフへぶつける。

ドゥーケ「やりますね、さすがは……」

ライフ1 ⇨ 0

最後の言葉を言い残す前にドゥーケはバトルフィールドから弾かれる。

小次郎「よっし!どうだ!見たか!これが俺のキースピリット!アトラーカーブテリモンだ!」

小次郎の言葉に呼応するようにアトラーカーブテリモンは雄叫びをあげる。

そして、小次郎もバトルフィールドから帰ると、すでにドゥーケの姿はなかった。

小次郎「どこ行つたんだ？あいつ？」

小次郎がそんなことを考えた瞬間、町中から歓声が聞こえる。小次郎はその歓声の方を向くとまったく予想だにできなかった光景が広がっていた。それは、白い制服を着た男達が、反乱軍の下つ端達を圧倒し、すでに全員を逮捕している様子だった。歓声は村人達が白い制服を着た人達のことをたたえていたものであった。

小次郎「どうなつてんだ!? 誰!? あの人達!?!」

そして、小次郎はあることに気づく、その白い制服を着た人達を指揮しているであろう男の人の顔には見覚えがあった。

小次郎「うそだろ?もしかして、、サツマさん!?!」

そう、その男は、サボテンの着ぐるみを着ていたサツマの姿だった。サボテンの着ぐるみを着ずに誠実そうな印象の白い制服を着ていた、以前の彼からは想像もできないような光景である。

小次郎はあまりの情報量に頭がについていけなかった。

花火 side

花火「俺からいくぜ」

シユリ「いいだろう」

ピリピリとした空気が流れる、お互いかけるものは特にないが、、、

シユリ(それにしても、一木花火が所持しているデジタルスピリットが本当にシデンさんと同じランクに位置付けされる存在ならばこいつはこの先本当に厄介になる)

「ターン01」花火

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メインステップ、アシガルラプターをレベル2 で召喚!」手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 2

トラッシュユ0 ⇨ 2

【アシガルラプター】 赤属性 2コスト 赤2軽減

系統：地竜

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

シンボル赤

レベル1、2『このスピリットのアタック時』

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、自分はデッキから1枚ドロース

る。

花火のフィールドに足軽の衣装に身を包んだ恐竜が召喚される。

花火「ターンエンド」

「ターン02」シユリ

スタートステップ

コアシテップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

シユリ「メインステップ、異牙忍タチカゲをレベル1で召喚する」

【異牙忍タチカゲ】緑属性 3コスト 赤1軽減 緑1軽減

系統：忍風、剣獣

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

シンボル緑

レベル1、2 『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個を自分のスピリットに置く。

レベル1、2

このスピリットの色とシンボルは赤としても扱う。

シュリのフィールドに忍者の衣装に身を包んだイタチのスピリットタチカゲが召喚される。タチカゲは現れるとすぐに緑色に光り出し効果を発揮する。

シュリ「召喚時効果でコアブースト!そのままタチカゲをレベル2へアップ、ターンエンド」

「ターン03」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ リザーブ1 ⇨ 2

トラッシュシュ2 ⇨

0

花火「メインステップ、ロクケラトプスをレベル2、シャムシーザーをレベル1で

召喚」

手札5 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 0

【ロクケラトプス】 赤属性 1コスト 赤1軽減

系統：地竜

コア1 レベル1 BP3000

コア2 レベル2 BP5000

コア3 レベル3 BP6000

シンボル赤

【シヤムシーザー】 赤属性 1コスト 赤1軽減

コア1 レベル1 BP2000

コア3 レベル2 BP3000

シンボル赤

レベル1、2

このスピリットの色とシンボルは白としても扱う。

花火のフィールドに四足歩行で三番のツノを持つ恐竜のスピリットロクケラトプスと赤い体色にまるで鍾乳洞をまとつたかのように見えるトカゲのようなスピリット、シヤムシーザーが召喚される。

アシガルラプター レベル2 s

ロクケラトプス レベル2

シヤムシーザー レベル1

花火「バーストセット!アタックスステップ!アシガルラプター!ソウルコアが置かれていたため、1枚ドロッド」

手札2 ⇨ 3

花火の指示でアシガルラプターが走り出す。

シユリ「ライフで受けよう」ライフ5 ⇨ 4

花火「続け!ロクケラトプス!」

花火は間髪入れずにロクケラトプスに指示をだし、シユリのライフを狙う。

シユリ「これもライフ」4 ⇨ 3

ロクケラトプスは3本のツノでシユリのライフを破壊した。

菜々子「やった!一気にライフを2つも!」

菜々子は嬉しそうにするが、花火はシユリに対する警戒は怠らない。それもそのはず、相手は自分が昨日1度も勝てなかった相手に勝利しているからだ。この程度でこたえるわけがない。

花火「ターンエンド」

「ターン04」シユリ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 4 ⇨ 5

リフレッシュステップ リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュユ3 ⇨

0

シユリ「メインステップ、焰三忍 発破のカヤク！レベル3で召喚！」手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 2

【焰三忍 発破のカヤク】 赤属性 3コスト 赤1軽減 緑1軽減

系統：忍風、武竜

コア1 レベル1 3000

コア3 レベル2 4000

コア4 レベル3 5000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットの召喚時』

ブレイブの「BP+」を無視して、BP5000以下の相手のスピリット1体を破壊

することで、自分はデツキから1枚ドロウする。

レベル1、2、3

このスピリットの色とシンボルは緑としても扱う。

シユリのフィールドに体中に爆弾を張り巡らせたドラゴンのスピリット、カヤクが召喚される。

シユリ「カヤクの召喚時効果、BP5000以下の相手のスピリット1体を破壊する、アシガルラプターを破壊」

花火「忍風のデツキで破壊効果を!?!」

カヤクは自分の体についている爆弾を1つとると、それをアシガルラプターめがけ投げる。アシガルラプターの足元に爆弾が落ち、アシガルラプターはそれが何かを確認しようとした瞬間爆発し、破壊される。

花火「クツソ、アシガルラプター!」

シユリ「破壊に成功したらドロウ」

手札4[→]5

花火「まだまだだ!相手のスピリット召喚効果発揮後にバースト発動!グラウンドブレイク!」

シュリ「！」

【グラウンドブレイク】 赤属性3コスト 赤2軽減

マジック

セットしているこのカードは、相手によって破棄されたとき、バースト条件を無視して発動できる。

バースト：相手の『このスピリット／ブレイブの召喚時』発揮後

B P 5 0 0 0 以下の相手のスピリット2体と、相手のネクサス1つを破壊する。その後コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

相手の合体スピリットのブレイブ1つを破壊する。

花火「バースト効果でB P 5 0 0 0 以下の相手のスピリット2体を破壊！カヤクとタチカゲを破壊だ！」

大地が揺れ、地割れが起こる。カヤクとタチカゲはそれに巻き込まれ、破壊される。

花火「どうだ！」

シュリ「その程度でいきにならないことだ、もう1体タチカゲを召喚、召喚時効果でコアバースト！」

手札 5 ⇨ 4

リザーブ 7 ⇨ 3

トラツシュ 2 ⇨ 5

花火 「!まだ持ってたのかよ」

シュリ 「まだだ、もう1体、カヤクを召喚、召喚時効果でロクケラトプスを破壊!」

枚ドロー!」

リザーブ 3 ⇨ 0

トラツシュ 5 ⇨ 7

花火 「なに!? そっちも!」

再び現れたカヤクは、今度はロクケラトプスめがけ爆弾を投げる、ロクケラトプスは先ほどのアシガルプターと同じような手口で破壊される。

シュリ 「さらに、メインアクセル忍刀・裏炎陽」

手札 4 ⇨ 3

トラツシュ 7 ⇨ 8

花火 「ブレイブのアクセル!」

【忍刀・裏炎陽】 赤属性 4コスト 赤2軽減 緑1軽減

系統：剣刃、忍風

ブレイブ

コア1 レベル1 BP3000

コア0 合体+3000

シンボル赤

メイン《アクセル：3コスト 赤1軽減 緑1軽減》（この効果は手札から使用できる）

自分のデッキを上から2枚オープンする。その中の系統「忍風」を持つスピリット／ブレイブカード1枚を手札に加える。残ったカードは破棄する。

この効果発揮後、このカードはオープンして手元に置く。

レベル1『このブレイブの召喚時』

【超装甲】を持つ相手のスピリット1体を破壊する。または、相手のネクサス1つを破壊する。

《合体条件：コスト4以上》

シユリ「効果で2枚オープン、オープンされたカードの中から、忍風カード1枚を手札に加える」

オープンカード【三十三代目風魔頭首ヤタガライ】（風魔イカルガ）

シユリ「風魔イカルガを手札に、だが、ヤタガライはデッキからオープンされたとき、

手札に加える効果があるのでこっちも加えさせてもらおう」

手札3^っ5

【三十三代目風魔頭首ヤタガライ】 緑属性 5コスト 緑3軽減

系統：忍風、爪鳥

コア1 レベル1 BP5000

コア3 レベル2 BP10000

シンボル緑

デッキからオープンされたこのスピリットカードは、手札に加えられる。

フラッシュ《アクセセル：6コスト 緑3軽減 赤1軽減》（この効果は手札から使用でききる）

相手のスピリット／アルティメット3体を疲労させる。この効果で疲労したスピリット／アルティメット1体につき、自分のスピリット1体を回復させる。

この効果発揮後、このカードはオープンして手元に置く。

レベル1、2 『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア2個を自分のスピリットに置く。

菜々子「え!? 実質1コアで2枚ドロ〜!？」

花火「マジかよ」

シユリの無茶苦茶なアドバンテージの取り方に驚愕する花火と菜々子。その後シユリはコアがないためか、そのままターンを終える。

「ターン05」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシユステツプ

花火「メイנסテツプ、シャムシーザーをもう1体、レベル2で召喚、最初に出たシャムシーザーもレベルアップ、ターンエンド」手札4 ⇨ 3

菜々子「え!?!なんで!?!今がチャンスでしょー!花ちゃん!」

花火（よく言うぜ、菜々子の奴、こんな手札でどうしろってんだ）

シユリのコアが前のターンでほとんど使ってしまったため、このターンは攻めるにはうってつけだったのだが、今の花火の手札では攻めるに攻め切れなかったようだ。

「ターン06」シユリ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ リザーブ1 ⇨ 9

シユリ「メインステップ、異牙忍ラツパンサーをレベル1 で召喚」

手札6 ⇨ 5

リザーブ9 ⇨ 7

トラツシユ0 ⇨ 1

【異牙忍ラツパンサー】緑属性 3コスト 緑2軽減

系統：家臣、忍風、劍獣

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

シンボル緑

レベル1、2 『このスピリットのアタック／ブロック時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

レベル2

ソウルコアが自分のリザーブにある間、このスピリットをBP+4000する。

豹のような見た目に忍者の服を着たスピリット、ラツパンサーが召喚される。

ラツパンサー レベル1

タチカゲ レベル1

カヤク レベル1

手元 「忍刀・裏炎陽」

シユリ「アタックステップ、やれ、ラツパンサー、アタック時効果でコアブースト！

そのままレベル2 ヘアツプ、さらに、フラツシユアクセル！三十三代目風魔頭首ヤタ

ガライ！」

手札5 → 4

リザーブ7 → 4

トラツシユ1 → 4

花火「！さつきめくったやつか！」

シユリ「アクセル効果で、シヤムシーザー2体を疲労させ、

ラツパンサーを回復」

花火「な!?!」

突然現れたカラスの忍者のようなスピリット、ヤタガライが突風を巻き起こし、シヤムシーザー達を疲労させてしまう。逆に追い風のラツパンサーは緑の光を纏い回復する。

花火「ぐっライフだ」ライフ5 ⇨ 4

ラッパンサーは手裏剣を投げ、花火のライフを破壊する。

シュリ「もう一度だ、ラッパンサー! コアブースト! さらに、フラッシュタイミング

! 神速召喚! 風魔イカルガ!

手札4 ⇨ 3

リザーブ4 ⇨ 1

トラッシュ4 ⇨ 6

花火「そいつもさっきめくった、」

【風魔イカルガ】緑属性 3コスト 緑1軽減

系統：忍風、爪鳥

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP4000

シンボル緑

フラッシュ【神速】

手札にあるこのスピリットカードは、召喚コストをの支払いと上に置くコアをリザーブから使用することで召喚できる。

レベル1、2『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個を自分のスピリットに置く。さらに、このスピリットが効果で召喚されていたら、系統：「忍風」を持つ自分のスピリット1体を回復させる。

シュリ「イカルガの召喚時効果、ボイドからラッパンサーにコア1個を置く。さらに、ラッパンサーを回復！」

突如現れた鳥型のスピリット、イカルガは、風を起こし、ラッパンサーを回復させる。花火「また、回復かよ、ライフで受ける」

ライフ4 → 3

ラッパンサーはまた手裏剣で花火のライフを破壊する。

シュリ「そのままくたばる気じゃないだろうな、ラッパンサーでアタック！アタック時効果でコアをラッパンサーに1個置く」

花火「なわけねえだろ！フラッシュタイミング！マジック！リアクティブバリア！」

手札3 → 2

リザーブ2 → 0

トラッシュ0 → 2

【リアクティブバリア】 白属性 4コスト 白2軽減
マジック

相手の効果で自分のライフが減るとき、手札にあるこのマジックカードを破棄すること、自分のライフは1しか減らない。その後、コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

このバトルが終了したとき、アタックステップを終了する。

ラップンサーが3枚目の手裏剣を投げた直後、氷の壁がシユリのスピリット達の道を阻む。手裏剣は花火のライフに命中した。

花火「ぐっ」ライフ3 ⇨ 2

シユリ「ターンエンド」

花火(つ、強いっ、低コストの軍団だけでここまで追い詰められるなんて、次のターンでなんとか打開策を考えないと)

「ターン07」花火

スタートステップ

コアシテップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 4

0

花火「よし！これならなんとかなるかもしれないねえ」

シユリ（ようやくお出ましか）

花火「メインステップ、アグモンをレベル2 で召喚！」

手札3 → 2

リザーブ4 → 0

トラツシユ0 → 1

【アグモン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統：成長期、地竜

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP6000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

レベル2、3【進化：赤】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

黄色の体色にデIFOオルメされた恐竜のような見た目のスピリット、アグモンが召喚される。

花火「アグモンの召喚時効果発揮! テッキを上から2枚オープン!」

オープンカード【ダイナパワー】「メタルグレイモン」

花火「よし! メタルグレイモン! 完全体のこのカードを手札に!」

手札2、3

花火「いっげ! アタックステップ! アグモンの【進化：赤】を發揮! アグモンを手札に戻して、進化! グレイモン! レベル3! 不足コストはシャムシーザー1体をレベル1にして確保!」

【グレイモン】 赤属性 4コスト 赤2軽減

系統：成熟期、地竜

コア1 レベル1 BP4000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP7000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットのアタック時』

BP5000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、自分はデッキから1枚ドローする。

レベル2、3 【超進化：赤】 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

アグモンは0と1のコードに卵状に巻かれる、卵はどんどん大きくなり、破裂する。中からアグモンの進化した姿、グレイモンが姿を見せる。

花火「アタックだ！グレイモン！効果で、カヤクを破壊！1枚ドロー」

手札3 → 4

グレイモンは口内に炎を溜め込み、一気にカヤクに向けて放ち、命中させる。カヤクはなすすべなく破壊された。

花火「まだいくぜ！グレイモンの【超進化：赤】発揮！グレイモンを手札に戻して、メタルグレイモンに超進化！」

グレイモンは橙色の炎に包まれる、グレイモンはその中で姿を変えていく。そして、炎を振り払うと、グレイモンの進化系、メタルグレイモンに超進化した。

【メタルグレイモン】 赤属性 7コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：完全体、地竜、機竜

コア1 レベル1 BP6000

コア3 レベル2 BP9000

コア4 レベル3 BP11000

シンボル赤

花火「メタルグレイモンの召喚時効果でラッパンサーを破壊!」

メタルグレイモンは姿を見せるなり、すぐに胸部のハッチを開く。そこから巨大なミサイルを射出し、ラッパンサーを狙う。ラッパンサーはミサイルに直撃し、破壊される。

花火「よし、いっけー!メタルグレイモン!アタック時効果で風魔イカルガを破壊!そして、回復する。」

メタルグレイモンは左手のアームを伸ばしてイカルガを貫き破壊する。そして、赤く光り、回復した。

花火「これで、終わりだ!」

シユリ「調子に乗るな!フラッシュアクセル!ヤタガライ!」

手札3 → 2

リザーブ7 → 1

トラツシユ6 → 1 2

花火「なに?! 2枚目!」

再び現れたヤタガライは突風を巻き起こし、シャムシーザー2体とメタルグレイモンを疲労させる。

シユリ「アタックはライフで受けよう」

ライフ3 → 2

メタルグレイモンは伸ばしたアームをそのまましなりをつけてシユリのライフを叩く。

花火「エンドステップ、トラツシユのダイナパワーの効果で、ダイナパワーを手札に戻す」

手札4 → 5

シユリは君も似たようなことやってるじゃないかと言おうとしたが、めんどくさくなりそうだったのでやめた。

花火「ターンエンド」

「ターン08」シユリ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

シュリ「ドローステップ、!ふっ!

手札2 ⇨ 3

シュリはドローカードを見て思わず口角が上がってしまった。

花火「?」

景光「来るぞ、」

菜々子「え!?もしかしてさっきの!?!」

リフレツシユステップ リザーブ2 ⇨ 1 4

トラツシユ1 2

⇨ 0

シュリ「メインステップ、先ずは手元からヤタガライをレベル1で召喚、召喚時効果でそのままレベル2へアップする」

リザーブ1 4 ⇨ 9

トラツシユ0 ⇨ 4

突如現れた竜巻の中からヤタガライが出現する。

シュリ「そして、焰三忍 大手裏剣のイザヨイをレベル1

で召喚」

手札3 ⇨ 2

リザーブ9 ⇨ 6

トラツシユ4 ⇨ 6

【焰三忍 大手裏剣のイザヨイ】 赤属性 コスト4 赤2軽減

緑1軽減

系統：忍風、武竜

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP4000

コア4 レベル3 BP5000

シンボル赤

フラツシユ《アクセル：4コスト赤2軽減》（この効果は手札から使用できる）

シンボル2つ以上の相手のスピリット／アルティメット1体を破壊する。

この効果発揮後、このカードはオープンして手元に置く。

レベル1、2、3 『このスピリットの召喚／破壊時』

自分の手札にある系統：「忍風」を持つスピリットカード1枚を、コストを支払わずに

召喚できる。

背中に大きな手裏剣を携えたスピリット、イザヨイが紅葉の中から現れる。

シユリ「イザヨイの召喚時効果、手札から系統：忍風を持つスピリットをノーコスト召喚できる」

花火「！」

シユリ「やつとだ、いくぞ！召喚！武龍村に伝わりし最強の龍！忍頭領 ソウルドラゴン・焰影！」

手札2 ⇨ 1

リザーブ6 ⇨ 2

炎の球体が現れるとソウルドラゴン・焰影はその中から炎を切り裂き、参上する。ソウルドラゴン・焰影は待ってたと言わんばかりに咆哮する。

菜々子「花ちゃん！」

菜々子は心配そうに声をあげる。

花火「こ、これが、武龍村に伝わりしスピリット、おっもしれえ、かかってこい！」
花火が言うと、メタルグレイモンもそれに呼応するかのように咆哮する。今まさに最強の龍同士がぶつかろうとしていた。

第8話 忍者軍団を討ち破れ！ウオーグレイモン爆進！

(後編)

前回のあらずじ、花火はシユリにバトルを挑むが、シユリはすでに兵を引き上げようとしていたため、あまり意味がなかった、が、景光が花火が蹴破った襖の代金を要求し、シユリに勝てばチャラにするという提案を持ちかけ、シユリはシユリで焰影のカードが使いたいということでバトルすることになる。

序盤はやや花火が有利だったが、シユリは低コストのスピリットとアクセルの効果を使って花火を追い込む、花火も負けじとアグモン、グレイモン、メタルグレイモンの効果をフルで発揮するも、難なく防がれてしまう。そして、ついにシユリのフィールドに武龍村の伝説のスピリット、ソウルドラゴン・焰影が現れるのであった。

〈シユリ〉ライフ2

手札1

リザーブ2S

トラツシユ6

(フィールド)

焰三忍 大手裏剣のイザヨイ レベル1 (1) BP 3000

異牙忍タチカゲ レベル1 (1) BP 2000

三十三代目風魔頭首ヤタガライ レベル2 (3) BP 10000

忍頭領ソウルドラゴン・焰影 レベル3 (4) BP 14000

(手元)

忍刀・裏炎陽

三十三代目風魔頭首ヤタガライ

〈花火〉ライフ2

手札5

リザーブ0

トラツシユ1

(フィールド)

シヤムシーザー レベル1 (2) BP 2000 〈疲労〉

シヤムシーザー レベル2 (3S) BP 3000 〈疲労〉

メタルグレイモン レベル3 (4) BP 11000 〈疲労〉

そして現在、シュリリの第8ターンのメインステップが進行中である。

シュリリ「三十三代目風魔頭首ヤタガライをもう1体、手元から召喚、1体目のヤタガライをレベル1にして召喚コストを確保」

リザーブ2 → 0

トラツシユ6 → 9

三十三代目風魔頭首ヤタガライ3 → 1

【三十三代目風魔頭首ヤタガライ】緑属性 5コスト緑3軽減

系統：忍風、爪鳥

コア1 レベル1 BP5000

コア3 レベル3 BP10000

シンボル緑

デッキからオープンされたこのスピリットカードは、手札に加えられる。

フラツシユ《アクセル：コスト6 緑3軽減 赤1軽減》（この効果は手札から使用でき
きる）

相手のスピリット／アルティメット3体を疲労させる。この効果で疲労したスピ

リット／アルティメット1体につき、自分のスピリット1体を回復させる。

この効果発揮後、このカードはオープンして手元に置く。

レベル1、2 『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア2個を自分のスピリットに置く。

突如現れた竜巻を切り裂いて、中からヤタガライがもう1体出現する。

シユリ「召喚時効果で、コアを2つブースト、さらに増えたコアを使って、手元から

忍刀・裏炎陽を召喚」

トラツシユ9 ♪ 10

【忍刀・裏炎陽】 4コスト 赤2軽減 緑1軽減

系統：剣刃、忍風

コア1 レベル1 BP3000

コア0 合体+3000

シンボル赤

メイン《アクセル：3コスト 赤1軽減 緑1軽減》(この効果は手札から使用できる)

自分のデッキから2枚オープンする。その中の系統「忍風」を持つスピリットカード

／ブレイブカード1枚を手札に加える。残ったカードは破棄する。

この効果発揮後、このカードはオープンして手元に置く。
レベル1『このブレイブの召喚時』

【超装甲】を持つ相手のスピリット1体を破壊する。または、相手のネクサス1つを破壊する。

《合体条件：コスト4以上》

忍刀・裏炎陽がシュリの手元から現れ、地面に突き刺さる。

シュリ「ソウルドラゴン・焰影と合体！」

ソウルドラゴン・焰影は突き刺さった裏炎陽を引き抜き、合体スピリットとなる。

シュリ「アタックステップ、やれ、焰影！アタック時効果で、1枚ドロ！さらに、もう1つのアタック時効果！【無限焰】発揮！」

手札1→2

景光「！マズイ！焰影の必殺技だ！」

焰影の效果を知っている景光が観客席から立ち上がり言う。

【忍頭領ソウルドラゴン・焰影】 赤緑属性 6コスト

赤2軽減 緑2軽減

系統：忍風、武竜

コア1 レベル1 BP6000

コア3 レベル2 BP12000

コア4 レベル3 BP14000

シンボル赤

レベル1、2、3【無限焰】『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット1体を指定してアタックできる。バトルしているそのスピリットが消滅/破壊されたとき、このスピリットのシンボル1につき、相手のライフのコア1個をリザーブに置き、このスピリットは回復する。

レベル2、3『このスピリットのアタック時』

自分はデツキから1枚ドロし、相手はバーストを発動できない。

シユリ「これにより、相手のスピリット1体を指定してアタックできる、メタルグレイモンに指定アタックだ」

花火「生憎だが、メタルグレイモンは疲労状態のとき、スピリットとブレイブの効果を受けつけない！」

メタルグレイモンは疲労状態により膝をついているが、赤いオーラで守られていた。如何にソウルドラゴン・焰影が強力なスピリットと言えど、このメタルグレイモンの効

果には隙がない。

シユリ「……………まあいい、ならばレベルのシヤムシーザーに指定アタックだ！」

焰影は忍術を唱え、炎の龍を、呼び出す。焰影はそれに飛び乗り空中を舞う。そのままシヤムシーザーに狙いを定め、急降下する。シヤムシーザーにはひとたまりもなく、通り過ぎた風圧だけで破壊されてしまう。

シユリ「効果はまだ終わらない、バトル勝利後、焰影のシンボル分のライフダメージを与える、そして、焰影は回復する」

花火「なに!?なんだよその効果!ずっとアタックできるじゃないか!しかもシンボル分ってことは、」

シユリ「そうだ、ライフが2つ減る、これで終わりだ!」

焰影は裏炎陽と合体しているため、シンボルが2つ、よってライフを2つ破壊するところが可能なのだ。

菜々子「花ちゃん!」

景光「花火!」

2人は大きく声を上げる。だが、花火はまだ倒れない。

花火「まだだ!手札からリアクティブバリアを破棄して、効果を發揮!」

手札5 ♪ 4

シユリ「なに!?!」

【リアクティブバリア】 白属性 4コスト 白2軽減

マジック

相手の効果で自分のライフが減るとき、手札にあるこのマジックカードを破棄することで、自分のライフは1しか減らない。その後、コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

このバトルが終了したとき、アタックステップを終了する。

シヤムシーザーを飛ばした焰影は、一直線に花火のライフへ向かい自前の刀と裏炎陽を構え、ライフを斬りつけるが、裏炎陽の攻撃が決まった直後にライフのバリアの周りにもう一枚強固なバリアが出現し、最後のライフの破壊を阻止した。

シユリ「なんだ!?!なにが起きた!?!」

花火「リアクティブバリアは、相手の効果でライフが減るときに破棄することで、そのライフダメージを1に抑える効果があるのさ、そして、その後にフラッシュ効果もつかえる!こっちの効果はすでに知ってるだろ?」

ライフ2 ⇨ 1

リザーブ3 ⇨ 0

トラツシュー1 ⇨ 4

シユリ「!」

シユリのスピリットたちの前に巨大な氷山の一角が現れ、行く手を阻む。

シユリ「ターンエンドだ」

シユリは決めきれず苦い顔をする、その後、少し空気がしらける。

花火「シユリ、前にイトニが言っていたデジタルスピリットに選ばれたってどう言うことなんだ?」

花火は唐突に質問する。前々からずっと気になってはいたのだ。自分達が何故この世界に呼ばれた意味を。それがひよつとしたら、イトニの言っていた【選ばれた】と言うのに関係しているのではないか。そう考えていた。

シユリは硬い口を開けて花火の要望に応える。

シユリ「急だね、まあいいか、無理に隠す必要もない情報だし教えるよ、今君達3人が所持しているデジタルスピリットは他のデジタルスピリットとは少し違うんだ」

花火「え!」

シユリ「デジタルスピリットとは、そもそも太古の時代に本当に存在していたスピリットのことなんだ、今はカードの姿だけだね」

花火「!?なんだって!? デジタルスピリットが!？」

菜々子「ピヨモン達が存在していたなんて」

花火と菜々子は驚愕する、それもそのはず、自分達が今まで使ってきたスピリット達が実在していたことを知ったのだから、

花火「でも、俺らのが他とは違うって?」

シユリ「君らのデジタルスピリットはかつて、この世界とある国を守るために戦った5人の兵士のパートナーだったのさ、それらを俺たちは「Dパラデイン」と呼んでいる。そいつらは全員で8種存在する」

花火「Dパラデイン、アグモン達はそんなに特別なスピリットだったのか、……ん? じゃあなんで今はカードになったんだ?」

シユリ「それは、オメガバーストによるものだ、」

花火「オメガバースト?」

シユリ「うちのブレインを名乗る奴が言っていただけだが、その昔、追い詰められたDパラデインがとった最後の手段のことらしく、世界をリセットするような力があるらしい。その代償で彼らはカードになり、今は軍事兵器が使えなくなり、問題ごとをすべ

てバトスピで解決することになったんだ。」

花火はそのブレインを名乗る奴と言う単語を聞いて、ドューケの顔が浮かぶ。

花火「この世界にそんな秘密が、」

花火、葉々子、景光はとにかく驚いていた。

花火「じゃ俺たちが選ばれた理由って？」

シユリ「すまない、それは俺にもわからないんだ、おそらく、このソウルドラゴン・焰影と似たようなものだと思うけど」

シユリがそう言うと、呼応するように、ソウルドラゴン・焰影も吠える。

シユリ「話が長くなったね、さっきも言ったけど、改めてターンエンドだ」

花火「ありがとさん、これで少しは謎が片付いたぜ」

余興は冷める。この状況は明らかに花火は不利。次のターンでどうにかしなければ間違いなく次のシユリのターンのターンで決着をつけられてしまう。

花火はいきこのんでターンシークエンスを進めていく。

「ターン09」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

花火「ドローステップ!……つ!こいつは!、…へっ!サンキューな、俺のデッキ」

手札4 ⇨ 5

花火は引いたカードを見て笑みがこぼれる。

シユリはその顔を見ていつそう警戒心を強くする。

リフレッシユステップ リザーブ1 ⇨ 5

トラツシユ4 ⇨

0

メタルグレイモンとシャムリザーは疲労から回復に伴い起き上がる。

花火「メインステップ!アグモンとグレイモンをレベル1で召喚!」

手札5 ⇨ 3

リザーブ5 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 3

【アグモン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統：成長期、爬獣、地竜

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP6000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統：「成熟期」／「完全体」を持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名：「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

レベル2、3 【進化：赤】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「成熟期」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

【グレイモン】 赤属性 4コスト 赤2軽減

系統：成熟期、地竜

コア1 レベル1 BP4000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP7000

シンボル赤

レベル1、2、3 『このスピリットのアタック時』

BP5000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、自分はデッ

キから1枚ドロースる。

レベル2、3【超進化：赤】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「完全体」を持つスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

デフォルメされた恐竜のようなスピリット、アグモンと、その進化系で頭部の皮膚が硬化して甲虫のような殻に覆われたスピリット、グレイモンが召喚される。

花火「さらに、マジック、ダイナパワーを使用する。不足コストはシャムシーザーをレベル1に下げて確保」

手札3 → 2

シャムシーザー 3S → 2S

【ダイナパワー】 赤属性 3コスト 赤2軽減

マジック

自分のトラッシュにある「ダイナパワー」1枚は、『自分のエンドステップ』に系統：「地竜」を持つ自分のスピリットがいるとき、手札に戻る。この効果はターンに1回しか使えない。

メイン

このターンの間、系統「地竜」を持つ自分のスピリットすべてBP+3000し、アタックするとき、相手のスピリット／アルティメット1体を指定してアタックできる。

フラッシュ

このターン間、スピリット1体をBP+3000する。

花火「ダイナパワーの効果により、地竜はこのターン、BP+3000と指定アタックの効果を得る」

シユリ「なに!？」

シヤムシーザーはコアの減少でガクツと力が抜けるが、

ダイナパワーの影響で、アグモン、グレイモン、メタルグレイモンの3体は赤いオーラを纏い、力強く咆哮する。

花火「シヤムシーザーのソウルコアをリザーブに置いて、アタックステップ!いくぞ!メタルグレイモン!アタック時効果で、タチカゲを破壊!そして回復!ダイナパワーの効果でヤタガライに指定アタック!」

リザーブ0→1S

メタルグレイモンは左手のアームを伸ばしてタチカゲを破壊、その後、ヤタガライの手裏剣が無数に飛んでくるが食らってもまったく効かず、胸部のハッチを開いてミサイ

ルを発射、ヤタガライを1体、木っ端微塵にする。

花火「もう1回だメタルグレイモン!今度はイザヨイを破壊!もう1度起き上がれ!メタルグレイモン!」

メタルグレイモンは再び左手のアームでイザヨイを狙う、イザヨイは抵抗するべく背中の大きな手裏剣を大きく振りかぶって投げるが、メタルグレイモンのアームはイザヨイの手裏剣ごとイザヨイを貫く、イザヨイは力つき、爆発してしまう。

シユリ「イザヨイの破壊時効果」

花火「!」

シユリ「イザヨイは召喚時と破壊時に手札の忍風をノーコスト召喚できる、召喚!異牙忍頭首トウドウ!レベル3」

手札2 → 1

リザーブ3 → 0

焰影+裏炎陽5 → 4

【異牙忍頭首トウドウ】緑属性 7コスト 緑3軽減 極2軽減

系統:忍風、剣獣

コア1 レベル1 BP6000

コア3 レベル2 BP10000

コア4 レベル3 BP12000

コア8 レベル4 BP30000

シンボル緑

手札にあるこのスピリットカードは、相手のソウルコアが相手のトラッシュに置かれたとき、その効果発揮後、コストを支払わずに召喚できる。

レベル2、3、4『このスピリットのアタック／ブロック時』

系統「剣獣」を持つ自分のスピリット／アルティメット1体につき、相手のスピリット／アルティメット1体を疲労させる。そのスピリット／アルティメットすべては次の『相手のリフレッシュステップ』で回復できない。

突然現れた竜巻を切り裂き、虎の忍者のようなスピリット、トウドウが召喚される。

菜々子「またあのスピリット!? 今疲労されちゃったら、ライフを0にできない!」

トウドウの疲労効果を使われたらどう足掻いてもこのターンでシユリのライフを0にできないのだ。

花火「怯むな! メタルグレイモン! ヤタガライに指定アタックだ!」

メタルグレイモンは指示通り、突然現れたトウドウに怯むことなく、ヤタガライと勝負する。

ヤタガライは突風を巻き起こし、メタルグレイモンの動きを少し封じると、そのまま急降下し、メタルグレイモンを狙うが、メタルグレイモンはそれを両手で受け止め、ヤタガライを地面に叩きつけてしまう。ヤタガライはたまらず爆発してしまう。

シユリ「もうBPが10000以下のスピリットはいない!メタルグレイモンの回復効果はもう使えないぞ!終わりだ!」

花火「終わりなもんか!ここからが打ち上げどきだぜ!メタルグレイモン!焰影に指定アタック!」

シユリ「なに!?血迷ったか!BPはこちらが上だ!」

メタルグレイモンは今度は標的を焰影に定める、炎の龍に乗ってる焰影に対抗するために自身の翼で飛翔する、焰影は炎の龍を乗りこなし、メタルグレイモンの周りをグルグル回ると目にも留まらぬ速さで、メタルグレイモンを自前の刀で斬りつけていく。そして、裏炎陽の一撃でメタルグレイモンを地面に叩きつける。メタルグレイモンはあまりの強さに、上空から墜落してしまう。再び飛び立とうとしたメタルグレイモンは直後に上空から焰影の火炎放射を受け、それを浴び続けてしまう。

花火「負けるもんか!俺は、俺たちはこんなところで負けたりはしない!いくぞ!フラッシュタイミン!煌臨!発揮!」

リザーブ1S ⇨ 0

トラツシユ4 ⇨ 5S

シユリ「なんだと!? 煌臨!?」(やっぱりそうなのか? このデジタルスピリットは、Dパ
ラデインは、シデンさんと同じランクの!?)

煌臨とは、ソウルコアをフラツシユタイミングでトラツシユに送ることで、発揮でき
るスピリットの効果である。

条件を満たしたスピリットに重ねて置くことで出すことができる。重ねられたスピ
リットは煌臨元カードとして、場に残る。

そして今から花火が呼び出すのはグレイモン系統の中でも最強に位置付けられるス
ピリット。花火の煌臨の言葉にその場にいる誰もが心を躍らせていた。

景光「来るのか! 完全体を超えた存在が!」

菜々子「やっっちゃえー! 花ちゃん!」

花火「おう! いくぜ! 鋼鉄の龍よ! 今こそ究極の龍人となりて敵を討て! ウオーグ
レイモン! 煌臨!」

手札2 ⇨ 1

焰影の火炎放射を浴びていたメタルグレイモンは立ち上がり、力強く咆哮すると、橙色の炎に包まれていく。焰影は状況が変わると見たのか、一旦火をふくのをやめる。

橙色の炎の中でメタルグレイモンは姿を変えていく。ただし、そのシルエツトは今まで恐竜のような見た目ではなく、まるで龍人のようなであった。形が定まった中の龍人は眼光を輝かせ、炎を引き裂いて姿を見せる。これが、グレイモン系の最終形態。完全体を超える究極体のデジタルスピリット、ウォーグレイモンである。

花火「これが俺のキースピリット!ウォーグレイモンだ!」

菜々子「形が全然違う、でも凄い強そう!あれが!グレイモンの究極進化系!」

花火と菜々子が言うのと、ウォーグレイモンは爪付きの籠手を力強く握りしめ咆哮する。その咆哮にシュリのスピリット達は焰影を含めて怯えていた。

シュリ「伝説のソウルドラゴン・焰影でさえもあのデジタルスピリットに怯えると言うのか!」

花火「いくぜ!シュリ!ウォーグレイモンの煌臨時効果!BP15000になるまで相手のスピリットを破壊!トウドウ!お前だ!」

シュリ「なに!」

ウォーグレイモンは両手を天に上げ巨大な炎の球体を形成する。それを、トウドウに

全力で投げつける。トウドウはなすすべなく直撃し、爆発してしまう。あまりの威力に爆風だけで、焰影の呼び出した炎の龍はかき消されてしまう。

〔ウオーグレイモン〕 赤白属性 9コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：究極体、竜人、地竜

コア1 レベル1 BP8000

コア3 レベル2 BP12000

コア4 レベル3 BP16000

シンボル赤

フラッシュ 《煌臨：赤／白コスト6以上『お互いのアタックステップ』》

〔自分のソウルコアをトラッシュに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねる。〕

レベル1、2、3 『このスピリットの召喚／煌臨時』

ブレイブの「BP+」を無視して、BP合計15000まで相手のスピリット／アルティメットを好きなだけ破壊する。

レベル2、3 『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分のトラッシュにあるソウルコアをこのスピリットに置くことで、相手のライフのコア1個をボイドに置く。

花火「煌臨は煌臨元のスピリットの状態をすべて引き継ぐ、バトルは継続だ!焰影!」
ウオーグレイモン BP16000+3000

V S

焰影+裏炎陽 BP14000+3000

地上に降りてきた焰影がウオーグレイモンと対峙する。

ウオーグレイモンは爪付きの籠手で焰影に殴りかかる、焰影は自前の刀と裏炎陽でガードするものの、ウオーグレイモンの力が強すぎて、バトルフィールドの端まで吹っ飛ばされてしまう。

花火「いっけー!ウオーグレイモン!打ち上げろ!」

ウオーグレイモンは両手を挙げ、自身の体を高速で回転させながら、まるでドリルのように焰影に一直線に飛んでいく、焰影はウオーグレイモンになすすべなく貫かれ、大爆発を起こす。

ブレイブの裏炎陽は爆発の中、天を舞い、そのまま地面に突き刺さる。

シユリ「ま、まさか、焰影が、」

菜々子「やったー!」

菜々子は真っ先に喜ぶ。シユリは焰影が破壊されたことに驚きを隠せない。

花火「グレイモンいけ！アタック時効果で残った裏炎陽を破壊して、1枚ドロ」

手札1→2

花火は間髪入れずにグレイモンにアタックの指示を出す。グレイモンは口内に炎をため、裏炎陽に向けて放つ、刀の裏炎陽が避けるわけもなくそのまま焼き尽くされてしまう。

シユリ「ライフだ」ライフ2→1

グレイモンはそのまま自身のツノでシユリのライフを破壊する。

花火「とどめはお前だ！アグモン！」

シユリ「……くっ！もはやこれまで！ライフだ！」ライフ1→0

アグモンは待ってましたと言うように走り出す。そのままシユリのライフに自身の爪で引つ掻き、シユリの最後のライフを、破壊してみせた。

ライフが0になったシユリはバトルフィールドから弾き出される。

花火「どうだ！シユリ！これが俺のグレイモンデッキの力だ！」

花火がそう言うと、ウォーグレイモン、グレイモン、アグモン、シャムシーザーは高らかに咆哮した。

そして、花火達もバトルフィールドを離れ、城の城内に戻る。シユリは連続でバトルしたためか、流石にバテ気味であった。

花火「俺の勝ちだシユリ、」

景光「それと、もうそろそろお縄に着く頃じゃぞ、」

菜々子「え?! どう言うこと!?!」

シユリ「なるほど、さすが景光殿、事前にDーポリスを呼んでいたのか、」

花火「Dーポリス?」

花火は聞きなれない単語に反応する。

景光「Dーポリスとは、この世界の取締役のようなものだ」

菜々子「警察みたいな感じかな?」

花火「多分そうかもな」

花火と菜々子が小声で話す。

景光「もうおそろく、門も閉じている、終わりだ、反乱軍リーダー、シデンの右腕、シユリ!」

シユリ「ふっふっ、なるほど、最初から俺達をはめるつもりだったのか、だが、少し爪があまいぞ! お嬢!」

シユリは襖を突き破つてそのまま外へダイブする。

花火「ええー!?!」

菜々子「ええー!?!また高い襖が!?!」

花火「お前はそこかよ!?!」

2人は違う方向性で驚く。

シユリはその後、ロープに捕まり移動していた。ロープを出していたのは謎の巨大な飛行船であつた。

飛行船が通り過ぎるときの風圧で花火達は思わず目を腕で覆う。

花火「あの飛行船は?」

景光「おそらく、噂に聞く反乱軍の移動する本拠地のようだ。」

反乱軍はどうやらあの飛行船で世界中を飛び回つてるようだ。花火達はシユリが突き破つたところから村の様子が見れたので、眺めると、あれが、Dーポリスだろうか、白い制服のようなものを着ている人達が確かに反乱軍のしたつぱ達を捕らえていた。

花火「あれがDーポリス?」

菜々子「遠くからだとやっぱりはつきり見えないな」

菜々子がそう言うと小次郎が遅れてようやく到着する。ただし、襖を突き破つて登場してくるが、花火達は思わずその光景を見て、「あつ」と言葉をもたず。

小次郎「一木花火!あのピエロは俺が倒したぞ!そつちはどうだ?あれ!?敵さんは!?」

景光「おい、小次郎、その襖、いくらすると思う?」

景光が鋭い目つきで、小次郎を睨む。

小次郎「え!?うそ!?なんで!?せつかくカツコつけて助けに来たのに!ごめんなさい!景光姐さんー!」

この後、小次郎は、景光に、ボコボコにされたのは言うまでもない。その後、小次郎は切り替えて花火達と話す。

小次郎「朗報だぞ!2人とも!」

花火&菜々子「?」

小次郎「なんと!すぐにでもリアルワールドに還ることができんだよ!」

花火&菜々子「え!」

花火と菜々子は驚きを隠せなかった。そうすると、破れた襖からひよつこりと顔を出す2人の男性がいた。白い制服を着ているためDーポリスの者だろうか、だが、その内の1人は花火達の知っている顔だった。

花火「え!?あんた!サツマさん!?その服!Dーポリスの人だったのか?」

菜々子「うっそー!? サボテンじゃない!」

サツマ「はっはっはー! 元氣そうだね2人とも!」

サツマはさらに、「ここからは俺が説明しよう!」と言うと説明し出す。

サツマ「俺達Dーポリスは大陸と大陸の間をバトルヴァイスの機能で行き来できる。その機能で、俺達の本拠地の白の大陸に君たちを運ぶって言うことだ! 大陸には、あまり使われてないが、リアルワールドへの転送装置もあるんだ、」

小次郎「どうだ! 2人とも! 悪い話じゃないだろ?」

花火「……小次郎、俺はまだこの世界に残ろうと思う。できれば、菜々子と2人で先に帰ってくれ」

小次郎「そうそうまだ残るのねえ……、って待てえ! なんで!」

小次郎は綺麗にノリツツコミを決める。

花火「サツマさんを信用してないわけじゃない、けど、俺はこの世界の人たちを放つて置けない! それに、俺自身まだ気になることが山程残ってる」

小次郎「ええ!」

小次郎は少し困惑するが、菜々子はすぐに言葉をはさむ。

菜々子「じゃあ私も帰らな〜い! どうする小次郎君?」

菜々子は満面の笑みで小次郎に言う。

小次郎「うーん!しょうがねえ!ここは俺も残つてやるよ!」

花火「2人も!ありがとう!」

小次郎「いいつてことよ!」(ここで帰つたら一生この男には勝てない気がするからな)

菜々子「そう言うことなので、ごめんなさい、サツマさん」

サツマ「はっはっは!いいよ!全然!若いつていいなあ!」

チヨウシユウ「いやサツマさんあんたまだ25でしょ?」

サツマの言葉にタバコを吸っている男が一言入れる。花火は少し気になったのか、尋ねる。

花火「そういえばあなたは?」

チヨウシユウ「ん?俺か?俺はチヨウシユウ、サツマさんの部下だ、」

チヨウシユウは花火達に自己紹介をする。

サツマ「そうそう、こいつは俺の部下!俺は一応、副総司令官なんだせ!」

花火「え!?!以外とくらいが高い!」

花火は少し驚く。

サツマ「はっはっは!よく言われるよ!では!俺らはこの辺で!姫様失礼します!」

景光「姫様じゃない、殿様だ」

サツマはそう言つてチヨウシユウと一緒に景光にお辞儀をして、帰つていった。菜々子も「じやーねー!」と手を振つた。少し間が空いた後に菜々子が景光にはつと気づいて質問する。

菜々子「あれ?! ねえ景光姐さん?」

景光「なんだ?」

菜々子「なんで、ソウルドラゴン・焰影はシユリとのバトルに勝つた花ちゃんを選ばなかつたの?」

景光「ああ、多分単純に花火を器として、受け入れなかつただけじやろう」

花火「え?! ちよつとそれはそれでシヨックなんですけど、」

花火は少しシヨックを受ける。花火がそう言うのと、景光は口を開けて笑う。

景光「はつは! まあまだ、シユリはキースピリットを出してなかつたからなあ、」

その言葉に花火と菜々子は驚愕する。

花火「え?! そうなの?!」

菜々子「それでもあんなに強かつたんだ、」

小次郎「は、話の内容がわからん」

シユリのバトルを見ていない小次郎はあまり話についていけなかつた。

花火「悪い小次郎! 後で話すよ、今はゆっくり休もう!」

景光「ところで破れた3枚の襖の件だが、」

花火&小次郎「まだ続いてたの!?!それ!?!」

こうして、後に武龍城の乱と呼ばれるこの事件は幕を下ろした。そして、明後日、花火達は、ついに武龍村を旅立つ。武龍村の大きな門が開く、景光は花火達と門の前で話していた。

花火「ありがとうございます!いろいろなお世話になりました!景光姐さん!」

景光「うむ!また遊びにくるがよい!その時は、バトルフィールドで三日三晩どっつきあおう!」

花火「そ、それは遠慮します」

花火達は景光の言葉に苦笑いする。

景光「ところでどこに行くことにしたのじゃ?」

花火「ああ、一応予定通り、赤の大陸の港に行つて、そこから、白の大陸に行かず、途中で止まるつて聞いた、緑の大陸に行こうと思つてます」

花火の言葉を聞いて、景光は「そうかそうか」とホッとするように言葉を返す。

景光「この先、いろんなことが待ち受けているじやろう、だが、お前達なら大丈夫だと信じているよ！」

景光は花火達に激励の言葉を送る。花火は「よし！行くかー！」と言つて、菜々子と小次郎も「おおー！」と手を掲げて言う。そして3人は武龍村を後にする。村人達や家来達は手を振つて花火達を送迎した。

一方、ここは、反乱軍の飛行船の中、シユリはリーダーのシデンと会話していた。

シデン「どうだった、シユリ」

シユリ「はい、間違いなく一木花火のDパラディンはシデンさんと同じランクのDパラディンだと思われませう」

シデン「そうか、で？ 奴はどのような男だった？」

シユリ「一見、ヘラヘラしているように見えますが、推理力に優れ、バトル中も冷静な判断を下していました」

シユリは武龍城の乱での花火のことを思い出しながら話す。

シデン「ふっ！なるほど、奴を配下に加えるのも悪くないかもな」

そう言つてシデンは不敵な笑みを浮かべた。

緑の大陸編

第9話 船上の決戦!ズドモン急襲!

花火「おおー!あれが船?デツカいなー」

菜々子「豪華客船みたい!」

武龍村を離れてから、数日が経ち、花火達はようやく赤の大陸の港に着いていた。目の前には果てしなく広がる海と、巨大なフェリーのような船が存在する。

その後、チケットを買ってきた小次郎とともに、花火達は、船に乗り込む。中も見た目通り豪華な仕様だった。

そして、出航してから約一時間、花火達は甲板で会話していた。

小次郎「にしても驚いたよ!テントモン達が本当に存在するスピリットで、世界を救うために戦ってたなんて!」

小次郎はこの前シュリが話したデジタルスピリットの真実とその中のさらに特別な存在のDパラデインのことを話した。

小次郎「でもなんで世界を救うために戦ってたのに最終的に世界をオメガバーストだっけ?自分たちで破壊したんだろうな?」

花火「そこんとこの謎を解明するためにこうやってリアルワールドに帰らずに残ってるんじゃないか」

小次郎「ところでよー！一木花火！もう直ぐこの船の甲板でバトル大会があるんだ！そこで俺たちの因縁に決着をつけないか？」

花火「なんの因縁だよ、俺は大会にはでないよ」

小次郎はすごい盛り上がりつつあるが、一方の花火は少し冷めた感じで言い放つ。

小次郎「因縁を忘れただどー!?!いいだろう忘れたなら思い出させてやる！あれは3年前の夏！中2だった頃・・・」

???「へえーそのゴージャス君がでないんだったら私の優勝で決まりかな？」

小次郎の言葉を遮るように青いセミロングくらいの髪の毛の少女が現れる。少女の年齢は花火達と同じくらいに見える。

小次郎「誰だ！君は！邪魔するなよ！しかも優勝できるってどう言うことだ！花火が参加しなかったら間違いなく優勝するのは、この俺！緑坂小次郎ただ一人！」

???「だってそのゴージャス君はあの反乱軍のリーダー、シデンの右腕と言われているシユリを倒したんでしょ？」

花火「？そうだけど、なんでそんなこと知ってんだ？」

菜々子「ええーつとあなたは？」

カイン「おーっと!自己紹介が遅れたね!あたしはカイン!よろしく!それくらいの大きい情報は回ってくるよーチラシとかで、常識だよ、武龍村の英雄さん?」

花火「俺は英雄なんてもんじゃない、あの騒動を実際に止めたのはDーポリスの人達だ、英雄はDーポリスだ」

確かに花火はシュリに勝利したが、他の反乱軍の急襲を押しえ込んだのは他でもないDーポリスである。

カイン「そう?Dーポリスってあまりいい噂聞かないよ」

花火「え!」

カイン「自分たちの拠点がある白の大陸では人々を奴隷のように扱ってるらしいし」

小次郎「なに言ってるんだ!サツマさん達はそんなことしない!」

花火達にはとてもこの話は信じられなかった。

カイン「今、白の大陸には行けない状況にある、どこの船でも白の大陸に行くことはできない。Dーポリスが結成されてからだ、奴らは他の大陸では正義ぶってるけど、白の大陸ではどうなんだろうね?」

カインはその後、「あくまで噂は噂だけだね」とつけたすと、そのまま船の中に帰っていった。

小次郎「んだよあの女!ムカつく!見てろよ!必ず俺が優勝してやる!」

小次郎はいつになく燃え上がっていた。そして、約一時間後、甲板でのバトル大会が始まる。小次郎とカイネは順調に勝ち続けて行った。そして、2人はとうとう決勝で対戦することになる。

実況者「さあ、第8963回フェリーバトル大会もいよいよ大詰め！勝ち残った2人はこちら！まず1人目！緑のデジタルスピリット使い！緑坂小次郎！」

実況者がそう言うのと、周りから拍手が送られる。花火達も応援する。小次郎は「やつてやるぞ！」と気合を入れていた。

実況者「そして2人目！かわいい顔とは裏腹に！その実力は本物！謎の美少女！カイネ！」

カイネが登場すると、他の客は小次郎の時以上に盛り上がった。

花火「どうしよう、もうすでになんか負けちゃってるよ」

菜々子「かわいいもんねーあの人」

小次郎も何かツツコミを入れてるように聞こえるが歓声が大きすぎて花火と菜々子には聞こえなかった。

カイネは小次郎の前に行き、口を開く。

カイネ「1つお願いがあるんだけどー」

小次郎「なんだ」

カイン 「このバトルに私が勝ったら、あんたらの旅に同行させてくれないかな？」

小次郎 「はあ!?冗談だろ? 誰がお前みたいなじやじや馬女……」

カイン 「ふーん、負けんのが怖いのか？」

このカインのセリフに小次郎は頭に血がのぼってしまふ。

小次郎 「なんだと! 上等だ! のんでやるよ! その条件! ぶっ飛ばしてやる!」

カイン 「よし! 決まりね!」

カインは嬉しそうな笑みで応えると、実況者は会話が終わったと見たのか、大会を再び進行する。この2人の会話も当然、周りの声で花火と菜々子は耳にしていなかった。

実況者 「よし! それでは行きましょう! セーの!」

小次郎&カイン 「ゲートオープン解放!」

小次郎とカインはゲートを開き、バトルフィールドに行く。花火達や観客達も観客席へ向かう。カインのバトルアーマーは青い海洋生物のようなものがモチーフだった。

カイン 「私の先行だね! スタートステッ!」

「ターン0」カイン

スタートステッ

ドローステッ 手札4 + 5

カイン 「メインステッ、颯の暗殺者ウイゼーブをレベル2で召喚する。そして、ネ

クサス、五行寺院を配置」

手札5 → 3

リザーブ4 → 0

トラッシュ0 → 2

【馳の暗殺者ウイゼーブ】青属性 0コスト

系統：獣頭

コア1 レベル1 BP1000

コア2 レベル2 BP2000

シンボル青

レベル2 『このスピリットの破壊時』

自分のトラッシュにあるネクサスカード1枚をコストを支払わずに配置できる。

【五行寺院】青属性 4コスト 青2軽減

ネクサス

コア0 レベル1

コア3 レベル2

シンボル青

レベル1、2 『相手のアタックステップ』

相手のコスト3以下のスピリットがアタックしたとき、ボイドからコア1個を、系統：「獣頭」を持つ自分のスピリット1体の上に置く。

レベル2 『お互いのアタックステップ』

系統：「獣頭」持つ自分のスピリットすべてを、そのスピリットが持つ最高レベルとして扱う。

人の体に顔が鼬のようなスピリット、ウイゼーブが召喚されると同時に、カイネの後ろに寺の背景が描かれた。

小次郎 「青デツキか、」

カイネ 「ターンエンド、ほら！かかっておいで！」

小次郎 「うるさい!!俺のターン！」

「ターン02」 小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

小次郎 「メインステップ、マッチユラをレベル2で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 3

【マツチュユラ】緑属性 3コスト 緑2軽減

系統：怪虫

コア1 レベル1 BP2000

コア2 レベル2 BP3000

シンボル緑

レベル1、2『このスピリットの召喚時』

相手は、相手の手札1枚を破棄する。

小次郎のフィールドに孢子を背負った虫のスピリット、マツチュユラが召喚される。マツチュユラは登場するなり、緑色に光り出し召喚時効果を発揮する。

小次郎「マツチュユラの召喚時！手札1枚を破棄してもらう」

カイネ「じゃあこれ、」

手札3 ⇨ 2

破棄カード【五行寺院】

小次郎「アタックステップ！行け、マツチュユラ！」

カイン「この瞬間、五行寺院の効果でコア1個をウイゼーブに置く」

五行寺院が青く光り出し、ウイゼーブにコアが1個追加される。

カイン「ウイゼーブでブロックする」

ウイゼーブはブロックしようとするが、マッチユラの突進を受けきれず吹っ飛ばされてしまい、そのまま破壊される。

カイン「ウイゼーブの破壊時効果、トラッシュからもう1枚、五行寺院を配置する」

小次郎「なに!？」

カインの後ろにもう1軒寺が浮かび上がる。

小次郎「ターンエンド」

小次郎は2枚目の五行寺院に驚くが、他になにもできないのでしぶしぶターンエンドを宣言する。

「ターン03」カイン

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ リザーブ4 ⇨ 6

トラッシュユ2 ⇨

0

カイン「メインステップ、さすがにこいつを召喚しないと勝てないかもねー、召喚、ゴマモン！レベル3」

手札3 ⇨ 2

リザーブ6 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 1

カインが召喚したスピリットを見て、花火達はもちろんのこと、実況者や他の観客達を驚かせた。

なぜならゴマモンはデジタルスピリットの1種だからだ。

海洋生物をデフォルメしたようなスピリット、ゴマモンは観客達に手を振ってアピールする。

【ゴマモン】 青属性 3コスト 2軽減

系統：成長期、戦獣

コア1 レベル1 BP3000

コア3 レベル2 BP5000

コア4 レベル3 BP6000

シンボル青

レベル1、2、3『このスピリットの召喚時』

自分のデッキから2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つ青のスピリットカード1枚を手札に加える。残ったカードは破棄する。

レベル2、3【進化：青】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ青のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

実況者「なっとなんとー!!!カインは青のデジタルスピリットの使い手だったー!!!」
実況者が大きい声で言うのと、観客達はこれまでにない歓声を上げる。

小次郎「な!?!デジタルスピリット!?!」

カイン「ふふ、ゴマモンの召喚時効果で2枚オープン」

オープンカード

【海備師団スナ・メリー】

【イツカクモン】

カイン「成熟期のイツカクモンを手札に、残りは破棄、」

カインはイツカクモンのカード手札に加える。

カイン「アタックステップ、ゴマモンの【進化：青】発揮!ゴマモンを手札に戻して、

進化！イツカクモン！レベル3！」

ゴマモンは0と1のコードに卵状に包まれていく、それは次第に膨らみ、破裂する、なかから、ゴマモンの進化した姿、頭にツノを生やした白い毛並みのトドのようなスピリット、イツカクモンが召喚される。

【イツカクモン】青属性 5コスト 青3軽減

系統：成熟期、戦獣

コア1 レベル1 BP4000

コア2 レベル2 BP6000

コア4 レベル3 BP8000

シンボル青

レベル1、2、3【超進化：青】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ青のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

レベル3『このスピリットのアタック時』

相手のデッキを上から3枚破棄する。この効果でマジックカード／アクセルを持つスピリットカードが破棄されたとき、コスト5以下の相手のスピリット1体を破壊する。

小次郎「くっ!進化か、」

カイン「こつからが本命!アタックよ!イツカクモン!アタック時効果発揮!相手のデツキを3枚破棄!」

小次郎「え!?デツキ破壊!」

小次郎のデツキの上から3枚のカードが飛び出してくる、

デツキ破壊とは、バトスピにおける戦術の名称である。その名の通りデツキ破壊とは、相手のデツキをすべて破棄する戦術である。デツキがなくなった相手はライフが残っていてもスタートステップでドロウできるカードがなかった時点で敗北となる。

小次郎残りデツキ枚数32枚

カイン「このとき、マジックカードかアクセルが落ちれば5コスト以下を破壊できるんだけど、いないみたいだねー、なら、これならどうだ!イツカクモンの【超進化・青】を發揮!イツカクモンを手札に戻して、完全体のスピリット!ズドモンをレベル2で召喚!」

小次郎「なに!?もう完全体まで!」

イツカクモンは青い光に包まれていく、イツカクモンの姿はだんだんかたちを変えていく。整うと、中のスピリットは、包まれていた光を手持ちのハンマーを地面に打ち付け、消し飛ばす。そのスピリットはイツカクモンが進化した姿、ズドモンであった。

【ズドモン】青属性 8コスト青4軽減

系統：完全体、獣頭

コア1 レベル1 BP8000

コア3 レベル2 BP11000

コア6 レベル3 BP14000

シンボル青

レベル1、2、3 【大粉碎】『このスピリットのアタック時』

相手のデッキを上から、このスピリットのレベル1につき5枚破棄し、バースト効果を持つカードが破棄されたとき、相手のスピリット1体を破壊する。

レベル2、3 『自分のアタックステップ』

系統：「完全体」／「究極体」を持つ自分のスピリットの効果で破壊されたスピリットの効果は発揮されない。

〈スピリット〉

ズドモン レベル2 (4) BP11000

〈ネクサス〉

五行寺院 レベル1

五行寺院 レベル1

カイン「じゃあ改めて、ズドモンでアタック!アタック時効果!【大粉碎】!ズドモンのレベルは2!デッキを10枚もらうよ!」

小次郎「【大粉碎】持ちなのかよ、つつよ」

ズドモンはハンマーを地面に打ち付けて電気をフィールド内に走らせる、その衝撃で小次郎のデッキが10枚破棄される。

小次郎残りデッキ枚数22枚、バーストカード【バインディングルート】有り、

カイン「さらに破棄したカードの中にバーストカードがあれば相手のスピリット1体を破壊!マッチユラ!」

ズドモンはもう一度ハンマーを地面に打ち付け、電気を流す今度はマッチユラに命中し、マッチユラはたまらず爆発した。

カイン「さあやつと本命のアタックだ、どうする?」

小次郎「当然ライフだ!ぐっ!」

ライフ5[☆]4

ズドモンはゆっくりと小次郎に近づき、ハンマーでライフを上から叩く。

カイン「ターンエンド」

「ターン04」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札4 ⇨ 5 デッキ21枚

リフレッシュステップ リザーブ4 ⇨ 7

0

小次郎 「メインステップ、テントモン召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ7 ⇨ 3

トラッシュ0 ⇨ 3

【テントモン】緑属性 3コスト 緑2軽減

系統：成長期、殻虫

コア1 レベル1 BP2000

コア3 レベル2 BP3000

シンボル緑

レベル1、2、『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

レベル2【進化：緑】『自分のアタックステップ開始時』

トラッシュ3 ⇨

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ緑のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

赤いてんとう虫のようなスピリット、テントモンが召喚される。

小次郎「召喚時効果でコアブースト、さらに、山賊親分ヒゲコガを召喚」

手札4 → 3

リザーブ3 → 0

トラッシュ3 → 6

【山賊親分ヒゲコガ】緑属性 4コスト 緑2軽減

系統：殻人

コア1 レベル1 BP4000

コア4 レベル2 BP8000

シンボル緑

レベル1、2 『このスピリットのアタック時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置くことができる。そうしたとき、相手のスピリット1体を疲労させる。

髭を伸ばした山賊のようなスピリット、ヒゲコガが召喚される。

テントモン レベル1 (1) BP2000

山賊親分ヒゲコガ レベル1 (1s) 4000

小次郎 (これが限界か、俺のデッキは残り21枚、【大粉碎】の破棄効果は最大15枚、後1ターンは凌げる、とりあえずここはライフを1つでも多く減らす！)

小次郎 「アタックステップ！ヒゲコガでアタック！アタック時効果で、コア1個をヒゲコガに」

ヒゲコガは飛び出すと同時に緑に光る。

カイン 「そういう考えは甘いと思うなー、フラッシュマジック！蒼激ブレイズ！コスト4以下の相手のスピリット2体を破壊！」

手札3 ⇨ 2

ズドモン4 ⇨ 2

トラッシュユ1 ⇨ 3

小次郎 「なにい!？」

【蒼激ブレイズ】青属性 4コスト 2軽減

マジック

フラッシュユ

コスト4以下の相手のスピリット/アルティメット2体を破壊する。この効果で破

壊したスピリットのコスト1につき、相手のデツキを上から1枚破棄する。

コアの消費に伴い、ズドモンは力がガクツと下がるが、

突如現れた蒼い弾丸がヒゲコガとテントモンを貫く。2体とも耐えきれず爆発してしまう。そして、

カイネ「破壊したスピリットのコスト1につき相手のデツキを1枚破棄する! 2体の合計は7! よって7枚破棄だ!」

小次郎「うそおお!?!」

デツキ2¹ + 1⁴

カイネ「ふふつ、どうする?」

カイネは更地の小次郎のフィールドを見ながら言う。

小次郎「ターンエンド、」

小次郎は悔しそうに顔を歪めながらターンエンド宣言をする。流石にもうなす術がなかった。

「ターン05」カイネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 + 2

ドローステップ 手札2 + 3

リフレッシュステップ リザーブ2 ♪ 5

トラッシュユ3 ♪

0

カイネ「メインステップ、ズドモンをレベル3にアップ」

リザーブ5 ♪ 1

ズドモン(2) レベル1 ♪ (6) レベル3

カイネ「アタックステップ、ズドモンでアタック、【大粉碎】発揮、ズドモンのレベル×5枚破棄、よって15枚破棄する」

小次郎「くっ」

デッキ14 ♪ 0

ズドモンはハンマーを再び打ち付けて電気をフィールド内に走らせ小次郎のデッキを飛ばす。この攻撃でとうとう小次郎のデッキが尽きてしまった。さらにそのカードの中にバーストカード【バインディングルート】が確認される。

カイネ「バーストゲットで、相手のスピリット1体を破壊、

ヒゲコガ! あんただ!

ズドモンは走りながらハンマーをブーメランのように投げ、それをヒゲコガに命中させる。ヒゲコガはたまらず爆発してしまう。ハンマーは一周して、ズドモンのもとに

戻ってきた。

カイネ「さあ本命のアタックだ!」

小次郎「ライフだ!ぐお」ライフ4 ♪ 3

ズドモンはハンマーを小次郎のライフに打ち付け、破壊する。

カイネ「ふっ、ターンエンド」

カイネは余裕の表情でターンエンド宣言をした。

菜々子「花ちゃん!これは、」

花火「ああ流石にもうここからの逆転は不可能だ、小次郎がここまでコテンパンにされるなんて、あの娘いったい?」

花火と菜々子がそんな会話をしていると、小次郎の終わりのスタートステップ宣言が始まる。

小次郎「くっ!スタートステップ、ん?」

小次郎がスタートステップ宣言をするとバトルの台座が光だし、大爆発した。この光景には花火と菜々子は驚愕した。

花火&菜々子「こ、小次郎(君)!!!!」

カイネ「どお?これが私の海のデッキの力!」

カイネがそう言うのと、ズドモンも喜びの雄叫びをあげる。

バトルが終わり、全員元の船の甲板に戻った。小次郎は一応無事だった。花火と菜々子は小次郎に駆け寄り。

花火「おい？大丈夫か？小次郎？」

小次郎「び、ビックリしたー、デッキアウトで負けるとあんな感じになんのかよ」

おおごとにはならなかったことにホッとする、菜々子と花火。そして、その場でフェリーバトル大会の表彰式が行われた。

実況者「優勝者は決勝で相手のデッキを僅か5ターンで破棄した破棄し尽くした、カイネー!!!」

実況者がそう言うと、他の観客達は歓声を上げる。そして、優勝商品がカイネに配られる。

実況者「優勝したカイネには、青のデジタルスピリット！【ホエーモン】が贈られます！」

カイネ「やったね！青のデジタルスピリット！嬉しいなー！」

カイネは嬉しさのあまりその場で飛び上がる。花火達は優勝商品の存在すら知らなかったらしい。

そして、それから数時間後、ようやくフェリーは目的地、緑の大陸に到着する。花火達はゆつくりと船をおりた。

花火「おおー!これが緑の大陸、見た感じ森や山ばっかりだな、」

菜々子「まあ暑かった赤の大陸よりかはマシだと思っけどね」

カイネ「そうそう、赤の大陸はほんとにお肌が悪い」

菜々子「そうなんですよねー、ん?、え!?カイネさん!」

菜々子の背後から現れるカイネに花火と菜々子は驚く、小次郎は申し訳なさそうな下を向いていた。そして、カイネは自分がいる経緯を話す。

花火「なるほど、それでか」

カイネ「あたしは、どうしても白の大陸に行かなくちゃいけないくてね」

花火「なんで?」

カイネ「それは言えないんだけど、白の大陸まで見送ってくれればいいんだ」

花火「そうかーまあ俺も白の大陸でD―ポリスの真相を確かめたかったし、ちょうど良いな、よし!行こう!一緒に!」

カイネ「おおー!助かるよ!」

菜々子「これからもよろしくお願いします!カイネさん!」

カイネ「さん付けはよしてくれよー、せめてちゃん付けで呼んで」

菜々子「よろしく!カイネちゃん!」

花火「俺からもよろしくな!カイネちゃん!」

カイネ「あんたはちゃん付けなしで呼びな」

花火と菜々子はすぐにカイネと仲良くなる。

小次郎「なんでもう慣れてんだ！こいつらあああああ！」

小次郎はこの流れに耐えきれず叫んでしまう。

こうして、花火達御一行に新たにカイネが加わる。

花火「あれ？でも白の大陸にはいけないんじゃないかなかつたけ？」

花火が率直な疑問をぶつける。

カイネ「ふっふーん！実は、青の大陸から白の大陸の救援物資を運んでるらしいんだけど、その貨物船から乗れるんじゃないかなと思ってる。」

花火「ふーん、青の大陸に行く方法は？」

カイネ「緑の大陸の反対側の港から黄の大陸、またその大陸を渡って反対側の港に行つて、そこから青の大陸に行けるわ」

小次郎「遠！」

菜々子「まあいいじゃない！楽しそうだし！」

花火「よし！じゃあまずは緑の大陸の反対側の港に向けて歩くか！」

そう言つて、小次郎だけため息を吐きながらも、4人は歩みを進めることことにした。

第10話 恋敵は花火!? もんざえモンを倒せ!

花火達は新たに青髪の少女、カイネを仲間に加え、緑の大陸を歩いていた。目指すは白の大陸。4人は歩きながら会話をしていた。

カイネ「へえー、あんたらリアルワールドから来たんだ。

それで最初は帰る気だったけど、この世界の人々が放っておけないのと、デジタルスピリットの謎を解くために旅を続けることとした、か、なんかすごいボランティア精神だねー」

花火「そんな大したもんじゃねえよ、ところでお前は何か知らないか?カイネ」

花火はDパラディン及びオメガバーストについてカイネに質問する。

カイネ「Dパラディン、8体の伝説のデジタルスピリットか、まあ少しは知ってるよー」

花火「ほんとか!?!」

カイネ「うる覚えなんだけどさ、昔、子供の頃、絵本で読んだことあった気がするんだ、そういう話」

小次郎「その話、ほんとかー?」

小次郎はカインネを信用してないようだ。

カインネ「ほんとほんと、その絵本に出て来たスピリットは君のテントモンや私のゴマモンとかもいたんだ、まず間違いなく関連本だと思う」

花火「てーことは、ゴマモンもDパラデインなのか？」

カインネ「多分ねー、」

菜々子「どこで読んだの？」

カインネ「私の故郷の黄の大陸さ」

花火「黄の大陸かー、着いたらー回よつてみるか」

そして花火達はすぐ側の草原で休憩することになる。周りには川があるのだろうか水の流れの音がしていた。

花火は腰を下ろすなり、すぐに眠ってしまふ。

カインネ「眠るの早！」

菜々子「眠ろうつて思ってた時はいつもこうなの、」

菜々子はそう言つて花火に毛布をかけた。

菜々子「よし！じゃあ私は飲み水確保のために川で水を汲んでくるね！」

菜々子はすぐそこにある川に行く。カインネと小次郎は「行つてらっしゃい」と手を振つた。

カイン「あの娘、いいお嫁さんになるねー」

小次郎「それは同意する」

だが、菜々子は2時間くらい経っても帰ってこない。

カイン「菜々子、遅くない?」

小次郎「ザリガニでもみつけたんじゃない?」

2人がそんなことを言っていると、寝息を立ててた花火が目を覚ます。

花火「ん、んー、寝たー、およ?この毛布なに?」

小次郎「やつと目え覚めたか、菜々子君なら川に水汲みに行ったぞ」

花火「そつか、菜々子が、、、おい待て!行つてからどのくらい経つ!」

花火は急に血相を変えて話し出す。

小次郎「え?2時間くらい、」

花火「マジか!絶対迷子になつてるぞ!探すぞ!」

小次郎「なに言つてんだ、川はすぐそこだぞ、心配しすぎ」

カイン「いやー、流石にないでしょく子供じゃないんだからー」

花火「あいつは昔から意味わかんねえくらい方向音痴なんだよ!しかも無自覚!誰か一緒に行かないとこんな森の中はすぐ迷子だ!」

そう言つて花火達は菜々子を探しに行く。一方の菜々子はというと、花火の言う通り

確かに迷子になっていた。

菜々子「あれえ？どこだっけ、ここ？こんな道じゃなかったようない、うーん、こんなお花畑あつたかな？」

菜々子は歩いていたら、広いお花畑に着いてしまったらしい。

???「イタイヨー、ダレカーオデヲビョーインニー」

菜々子「！」

菜々子はお花畑でうずくまってる人を見かける。菜々子はすぐにその人に駆け寄る。

菜々子「あのー大丈夫ですか？」

???「！アシガイタイ、ンダー、タスケテクレー」

その男はとても体格が大きかった。ざつと2メートルはあると思われる。体も太っていたからか、女の菜々子と比べると、すごい体格差があった。足が痛いと言うのも大したことなくただ転んで擦りむいただけだった。状況を察した菜々子はバトルヴァイスから自分が所持している絆創膏を取り出しカタコトの男に貼ってあげた。

???「イタイクナイ？」

カタコトの男は初めて絆創膏を見たのか、新鮮な反応をする。

菜々子「すごいでしょー！」「女子力高いね」って言ってほしい人がいるからいつも持ち歩いてるんだー」

菜々子の笑顔を見て、カタコトの男は顔が真っ赤になる。

パンザワ「オデ、「パンザワ」、オマエハ?」

菜々子「私は菜々子だよ!よろしくね!パン君!」

パンザワ「オッオー!!!」

菜々子「?」

「パン君」と言う可愛いあだ名までつけられて、パンザワはさらにテンションが上がる。

パンザワ「ナナコ、イイヤツ、オデノヨメニナダナイカ?」

菜々子「・・・ん?、嫁?」

パンザワ「ソウソウ、ヨメニナデ!」

菜々子「ごめんねーパン君!私行かないといけないところあるから、あなたのお嫁さんにはなれないんだー」

菜々子は突然求愛されて困惑するも合掌して丁寧に断りした。パンザワはそれを見てシヨックを受ける。

パンザワ「ナツナンデダー!ドコニイクンダ!オデモイク!」

菜々子「え!?!それはー、」

花火「おーい!菜々子ー!!!」

いいタイミングで花火達が現れる。

菜々子「！花ちゃん！みんな！」

小次郎「こんな遠く離れたとこまでくるなんて、」

カイネ「まあ見つかつて良かった」

花火「お前なーそう言う時は、誰か連れて行けつて言ってるだろ？」

菜々子「いやー、ごめんねー、すぐ近かったから」

花火と菜々子が仲良く話しているのをパンザワは心地よく思わないのか、パンザワは徐々に表情を悪くする。

花火「てゆーか、誰？このでかいの？」

菜々子「あー、そうそう、紹介するね！ここで知り合ったパンザワこと、パン君だよ！」

菜々子がパンザワを紹介すると、パンザワは花火を怖い顔で上から見下ろす。花火は一瞬ビクツとする。

パンザワ「オマエ、ナナコノナンダ？」

花火「ん？なにつて、友達だよ」

パンザワ「ホントウカ！ジャア、ナナコハオデガヨメニモダウ」

花火「はあ？嫁？菜々子をか？」

カイネ「求婚されたの？菜々子？」

菜々子「う、うん、なんか気に入られちゃって」

小次郎「一目惚れってやつか」

花火、カイン、小次郎も当然この発言には驚いた。

パンザワ「ヨシ!イコウ!ナナコ!シキヲアゲニ!」

菜々子「いや、だからごめんね!パン君!私はこの花ちゃんと一緒に旅しないと行けないから!」

カイン(「花ちゃん達」じゃなくて、「花ちゃん」と、か)

パンザワ「エー!」

菜々子の発言にまたパンザワはシヨツクを受ける。

そして、パンザワは、花火を睨みつける。

パンザワ「オイ、オマエ!オデトナナコヲカケテタタカエ!」

パンザワはそう言いながら、花火にデツキをつきつける。

体が大きいからか、カードがとても小さく見えた。

対する花火の返事は、

花火「いやだ」

とだけ言つて、菜々子の手を引つ張り、帰ろうとする。

それを見たパンザワは怒かりの頂点に達した。

パンザワ「ニゲルナヨ！タタカエ！コノヨウムシ！」

花火「悪い、俺はただ、人を賭け事に巻き込まないんだ。それ以外のバトルは大歓迎だけど、、、、菜々子の面倒見てくれてありがとうな」

菜々子「花ちゃん」

菜々子は花火の言葉に自然と顔が赤くなる。

だが、パンザワは諦めず、花火の前に回り込んでくる。

パンザワ「イイカラバトルシロヨ！オデノナナコヲカエセ！」

カイン「いいんじゃない、もう素直にバトルすれば」

カインが提案を持ちかける。

花火「なに言ってるんだ、カイン、負けたらどうすんだよ」

カイン「花火、あんたは、反乱軍と武龍村をかけて戦ったんじゃないの？それくらいの男がこれくらいのかけて怖気付くなんて、情けないな」

カインは煽るように言うが、花火はあのととき、本当は襖の代金のために頑張ったことは言えなかった。

菜々子「花ちゃん！私いいよ！やっても！」

花火「おい、お前まで、わかってんのか？負けたら、、、」

菜々子「だって、花ちゃんは負けないでしょ？」

菜々子は花火の言葉が終わる前に口を開く。

小次郎「そうだぞ！俺のライバルがこんな木偶の坊に負けるわけない！」

小次郎もさっそうと口を開くが、カイネに心の中で「空気読めないな」と思われてしまう。

パンザワ「ナナコ！オデヨリコイツノホウガ、ツヨイツテオモウノカ？」

パンザワは怒りながら菜々子に問う。

菜々子「まあーそうだねー、花ちゃんはずつごく強いよ！」

菜々子の言葉にパンザワは許せなかった。自分の恋敵が、自分の好きな人に強いと言われたことと、自分が恋敵より弱いと思われると言っていることに。

パンザワ「ダツタラ、ミセツケテヤル！オデノホウガツヨイツテコトヲ！」

パンザワはさらにやる気満々になる、これを見て、花火はもう流星に逃げ切れないとみたのか、腹を決める。

花火「んー、わかったよ、やるよ」

パンザワ「ヨシ！コデナナコハオデノモンダ！イクゾ！ゴークヌヤロウ！」

花火「俺は一木花火だ！よろしく！やるからには楽しいバトルにしようぜ！」

花火「ゲートオープン！解放！」

パンザワ「ゲートオープン！カイホウ！」

2人はゲートを開き、バトルフィールドに向かう。菜々子達も見守るために観客席へ向かう。

パンザワのバトルアーマーは、黄色い熊がモチーフのようだ。

花火「俺からいくぜ、スタートステップ！」

花火の先行でバトルが始まる。

「ターン01」花火

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メインステップ！アグモンをLV1で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

黄色の体色にデフォルメされた恐竜のようなスピリット、アグモンが召喚される。アグモンは登場するなり愉快に飛び上がり、やる気をみせる。

【アグモン】 赤属性 3コスト赤2軽減

系統：成長期・爬獣・地竜

LV1 (1) BP3000

LV2 (3) BP5000

LV3 (4) BP6000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

LV2・3 【進化：赤】『自分のアタックステップ』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

カイン（やっぱりそうだ、あのアグモンも絵本にいた、となると、やっぱり花火の睨んでいた通り、私たちにはなにか関連性があるのかもしれないな）

カインはアグモンを見て昔の読んだ絵本のことを少し思い出したようだ。

パンザワ「ヨワソウナ、デジタルスピリット、オマエニピッタリ」

花火「へっ！言ってる！召喚時効果発揮！2枚オープン！」

オープンカード

【メタルグレイモン】

【アシガルラプター】

花火「完全体のメタルグレイモンを手札に加え、残りは破棄」

手札4 ⇨ 5

花火の手札にメタルグレイモンが加わる。アシガルラプターのカードは破棄され、トラッシュに送られた。

花火「さらに、バーストセット！これでターン終了だ」

手札5 ⇨ 4

アグモンLV1(1) BP3000

バースト有

花火のフィールドに裏向きでカードがセットされる。

パンザワ「オデノターンダ」

「ターン02」パンザワ

スタートステップ

コアステップ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

パンザワ「メインステップ、ミツジャラシヲLV1デ、シヨウカン」手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

蜜蜂のようなスピリット、ミツジヤラシが召喚される。

【ミツジヤラシ】緑属性 4コスト 緑2軽減

系統：怪虫

LV1(1) BP1000

LV2(2) BP5000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットの召喚時』

ポイドからコア1個を自分のスピリット1体の上に置く。

パンザワ 「シヨウカンジコウカデ、コアブースト、ミツジヤラシレベル2」

ミツジヤラシは緑の光に包まれ、そのままLVが上がる。

ミツジヤラシ LV2(2s) BP5000

ブースト有

花火 「緑のデツキか、」

パンザワ 「ブーストセット、アタックステップ！イケ！ミツジヤラシ！」

手札4 ⇨ 3

花火 「ライフで受ける、」

ライフ5[→]4

ミツジャラシは体当たりで展開されたバリアを破壊する。

花火「やるじゃねえか、でもバーストもらうぜ！」

すると、裏向きのカードが表になる。

花火「ライフ減少でバースト発動！ダイナバースト！、BP10000以下の相手の

スピリット1体を破壊！ミツジャラシ！お前だ！」

【ダイナバースト】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

バースト：自分のライフ減少後

BP10000以下の相手のスピリット／アルティメット以下の1体を破壊する。

その後コストを支払うことで、このカードのメイン効果を発揮する。

メイン

自分はデッキから2枚ドローする。

ミツジャラシの足元から火柱が上がる、その炎は、ミツジャラシを焼き切ってしまう。

パンザワ「ジャアコッチモバーストモダウ、ハカイゴバースト、【双光気弾】、2マイ

ドロー」

手札3[→]5

【双光気弾】 赤属性 3コスト 赤1軽減

マジック

バースト：相手による自分のスピリット破壊後

自分はデッキから2枚ドローする。その後コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

相手の合体スピリットのブレイブ1つを破壊する。または、相手のネクサス1つを破壊する。

パンザワもすぐさま裏向きのカードを開き、双光気弾を発動させる。

花火「赤のカード!」

パンザワ「ナニオドロイテンダ、ターンオワリ、」

「ターン03」 花火

スタートステップ

コアシテップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 5

ト
ラ
ッ
シ
ユ
3
⇨

0

花火「メインステップ、ロクケラトプスをLV2で召喚！さらに、ネクサス【ボルカニツクキヤニオン】を配置！」

手札5 → 3

リザーブ5 → 2

トラツシュ0 → 1

【ロクケラトプス（リバイバル）】 赤属性 1コスト 1軽減

系統：地竜

LV1 (1) BP3000

LV2 (2) BP5000

LV3 (3) 6000

シンボル赤

【ボルカニツクキヤニオン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

ネクサス

LV1 (0)

LV2 (2)

シンボル赤

LV1・2 『自分のアタックステップ』

系統「地竜」を持つ自分のスピリット1体につき、自分のスピリットすべてをBP+10000する。

LV2 『自分のアタックステップ』

自分の赤のスピリットすべては、BPを比べ相手のスピリットだけを破壊したとき回復する。

花火のフィールドにリバイバルのロクケラトプスが召喚されると同時に、花火の後ろに壮大な大地が描かれた。

花火「アグモンをLV2にアップ!」

リザーブ2→0

アグモンはLVが上がり、一瞬赤く光る。

アグモンLV2(3s) BP5000

ロクケラトプスLV2(2) BP5000

ボルカニツクキヤニオンLV1

バースト無

花火「アタックステップ! 行け! アグモン! ロクケラトプス!」

パンザワ「フタツトモライフ!」

ライフ5 ⇨ 3

アグモンは鉤爪で、ロクケラトプスは角でそれぞれパンザワのライフを破壊する。

花火「ターンエンド」

「ターン04」パンザワ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ リザーブ5 ⇨ 9

トラッシュユ4 ⇨

0

パンザワ「メインステップ、オデモ、アオノ、ネクサス【破壊と創造の釜】ヲハイチ」

手札6 ⇨ 5

リザーブ9 ⇨ 5

【破壊と創造の釜】青属性 4コスト 青2軽減

ネクサス

L V 1 (0)

L V 2 (3)

シンボル青

LV1・2 『このネクサスの配置時』

コスト3以下の相手のスピリット1体を破壊する。

LV2 『自分のアタックステップ』

コアが4個以上の自分の青のスピリットすべての持つシンボルを、青のシンボル2つにする。

花火「なに!?今度は青!」

パンザワの後ろに、巨大な釜が出現する。

パンザワ「ハイチジコウカデ、アグモン、タベル」

花火「!」

アグモンは吸い込まれるように、釜に入れられ、破壊されてしまう。

花火「アグモン!」

パンザワ「サラニ、〔天使サラティ〕ヲLV1デシヨウカン」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ4 ⇨ 8

パンザワのフィールドに、天使というよりは天女のようなスピリット、サラティが

召喚される。

【天使サラテイ】黄属性 4コスト 黄3軽減

系統：天霊

LV1 (1) BP3000

LV2 (2) BP4000

LV3 (4) BP6000

シンボル黄

LV1・2・3 【聖命】『このスピリットのアタック時』

このスピリットのアタックによって相手のライフを減らしたとき、ボイドからコア1個を自分のライフに置く。

LV3 【光芒】『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分がこのバトルで使用したマジックカードすべては手札に戻る。

花火「今度は黄色!?!いくつか使った?こいつ、」

天使サラテイLV1 (1s) BP3000

破壊と創造の釜LV1

パンザワ「バーストフェル、アタックステップ、サラテイ、イケ」

手札4 ♪ 3

バースト有

花火「ライフだ、」

ライフ4 ♪ 3

サラテイは掌から黄色の波動を出し、花火のライフを砕く。

パンザワ「サラテイ、ノ【聖命】ライフ1コ、フェル」

ライフ3 ♪ 4

サラテイの聖命でパンザワのライフが1つ復活した。

花火「くっ、」

パンザワ「ターンエンド」

カイネ「まずいね、相手のペースになりつつある」

小次郎「まだまだ、わからないぞ! 一木花火は今、メタルグレイモンを少なくとも1枚持っている! 巻き返しは十分可能だ!」

菜々子「花ちゃん」

菜々子は心配する目で花火を見つめる。

「ターン05」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ5 ⇨ 6

トラッシュユ1 ⇨ 0

ロクケラトプス疲労 ⇨ 回復

花火「メインステップ、メタルグレイモンを召喚！LV1だ！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 5

体の半分以上を機械化している、恐竜のようなスピリット、メタルグレイモンが、花火の後ろから現れ、フィールドに降り立つ。

【メタルグレイモン】 赤白属性 7コスト赤4軽減 白2軽減

系統：完全体・地竜・機竜

LV1 (1) BP6000

LV2 (3) BP9000

LV3 (4) BP11000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

BP12000以下の相手のスピリット1体を破壊する。

LV1・2・3

疲労状態のこのスピリットは、相手のスピリット／ブレイブの効果を受けない。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、このスピリットは回復する。

花火「メタルグレイモンの召喚時効果で、サラティを破壊!」

メタルグレイモンは降り立つとすぐに、胸部のハッチを開き、ミサイルをサラティに向けて打ち出す。サラティはなすすべなく直撃し、破壊された。

花火「ソウルコアをロクケラトプスに移動!」

メタルグレイモンLV1(1) BP6000

ロクケラトプスLV2(2s) BP5000

ボルカニツクキヤニオンLV1

花火「行け!メタルグレイモン!アタックだ!」

パンザワ「ライフデウケル、」

ライフ4[→]3

メタルグレイモンは左手の強靱なアームで、パンザワのライフを1つ破壊する、が、パンザワ「ライフヘツテ、バースト、ツカウ、〔龍の霸王ジーク・ヤマト・フリード〕バーストコウカデ、BP15000イカ、ヤケル、メタルグレイモン、ヤク」

〔龍の霸王ジーク・ヤマト・フリード〕 赤属性 コスト8 赤3軽減

系統：覇皇・古竜

LV1 (1) BP6000

LV2 (3) BP10000

LV3 (5) BP13000

LV4 (8) BP20000

シンボル赤

バースト：自分のライフ減少後

自分のライフが3以下のとき、BP15000以下の相手のスピリット1体を破壊する。この効果発揮後、このスピリットカードをコストを支払わずに召喚する。

LV2・3・4『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット1体を指定してアタックできる。

LV3・4 『このスピリットのアタック時』

自分のバーストをセットしているとき、このスピリットのBP以下の相手のスピリット1体を破壊する。

花火「残念だったな、疲労状態のメタルグレイモンは相手のスピリットとブレイブの効果を受けない、」

メタルグレイモンは赤いオーラで守られている。

パンザワ「ナニ!? ジャア、ロクケラトプス、ヤク」

突如現れた火柱がロクケラトプスを焼き尽くす。

パンザワ「ソノアト、ヤマトヲ、シヨウカン、LV1」

雷雲とともにジーク・ヤマト・フリードが剣を掲げ見参する。

花火「ターンエンド」

「ターン06」パンザワ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 10

0

パンザワ「メインステップ、【ヌメモン】ヲレベル2デシヨウカン、」

手札4 → 3

リザーブ10 → 3

トラッシュユ0 → 4

【ヌメモン】コスト4 赤紫緑白黄青属性 軽減無

系統：成熟期・幽魔

LV1 (1) BP1000

LV2 (3) BP2000

シンボル白

LV1【進化：コスト5】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある「完全体」を持つコスト5のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

LV2【進化：巨獣】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」と「巨獣」を持つスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

花火「！」

小次郎「デジタルスピリット!」

カイン「絵本にはあんなスピリットいない、おそらく、普通のデジタルスピリットだ」
ナメクジのようなスピリット、ヌメモンが召喚される。

花火(デジタルスピリットまで持ってんのか、ほんとになにもんなんだあいつ、)

パンザワ「ヤマトヲLV2ニアゲル、アタックステップ、」

リザーブ3 → 1

ヤマト・フリード(1) → (3)

ヤマトはLVアップに伴い、力強く咆哮する。

パンザワ「ヌメモン、デ、アタック、アタックジコウカ、【超進化：巨獣】ヲハツキ、

ヌメモンヲ、テフダニモドシテ、【もんざえモン】ヲLV3デ、シヨウカン」

ヌメモンは、0と1のコードに、包まれていく、やがてコードは弾け飛び、中から、ヌメモンが進化した姿、熊のぬいぐるみのようなスピリット、もんざえモンが現れる。

【もんざえモン】 白属性 7コスト 白4軽減

系統：完全体・巨獣

LV1(1) BP10000

LV2(2) BP15000

LV3(4) BP20000

シンボル白

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

系統：「成長期」／「成熟期」／「完全体」を待つ相手のスピリット1体ずつを手札に戻す。

LV2・3 【重装甲：黄／青】

このスピリットは、相手の黄／青のスピリット／ブレイブ／ネクサス／マジックの効果を受けない。

小次郎「でっか！進化の方向性なんかおかしくない？」

もんざえモンLV3（4）BP20000

花火「BP20000もあんのか」

パンザワ「コデガオデノキーカードダ！イケ！モンザエモン！アタック！」

花火「そう簡単に、負けるかよ！フラッシュタイミング！煌臨発揮！ソウルコアをト
ラッシュに置いて、メタルグレイモンをウォーグレイモンに究極進化！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ2 s ⇨ 1

トラッシュ5 ⇨ 6 s

メタルグレイモンは橙色の炎に包まれて、形が変化していく。

花火「鋼鉄の龍よ!今こそ究極の龍人となりて、敵を討て!ウオーグレイモン!煌臨!
!」

ウオーグレイモンは橙色の炎を切り裂き、姿を現わす。

【ウオーグレイモン】赤白属性 9コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：究極体・竜人・地竜

LV1(1) BP8000

LV2(3) BP12000

LV3(4) BP16000

シンボル赤

フラッシュ 《煌臨：赤／白&コスト6以上》『お互いのアタックステップ』（自分のソウルコアをトラッシュに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねる。）

LV1・2・3 『このスピリットの召喚／煌臨時』

ブレイブの「BP+」を無視して、BP合計15000まで相手のスピリット／アルティメットを好きなだけ破壊する。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分のトラッシュにあるソウルコアをこのスピリットに置くことで、相手のライフのコア1個をボイドに置く。

パンザワ「ナニ!? キュウキョクタイ!」

葉々子「来た! 花ちゃんのキースピリット!」

カイン(あれが、究極体・・・いや、知ってるな、いたよ、絵本に)

カインはウォーグレイモンをじかに見て、究極体の存在を思い出す。

花火「ウォーグレイモンの煌臨時効果発揮! B P 1 5 0 0 0 まで好きなだけ破壊! ヤ

マトを破壊だ!」

ウォーグレイモンは両手を天に掲げ、特大の炎を形成し、そのまま、それをヤマトに投げつける。B P 1 0 0 0 0 のヤマトはなすすべなく焼き尽くされる。

花火「もんざえモンのアタックはライフだ!」

ライフ 3 ⇨ 2

もんざえモンは腕を振り回しながら花火のライフに近づき、展開されたバリアを破壊した。

パンザワ「ターンオワル」

「ターン07」花火

スタートステップ

コアシテップ 2 ⇨ 3

ドローステップ 手札 2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ 3 ⇨ 9

トラッシュ6 ⇨ 0

ウオーグレイモン疲労 ⇨ 回復

花火「メインステップ!マジック!エクスキャベーションを使用!トラッシュの地竜のスピリットカードを3枚回収する、アシガルラプター、ロクケラトプス、アグモンの3枚を回収する!」

手札2 ⇨ 5

リザーブ9 ⇨ 7

トラッシュ0 ⇨ 2

【エクスキャベーション】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

メイン

自分のトラッシュにある系統「地竜」を持つスピリットカード3枚を選んで手札に戻す。

フラッシュ

このターンの間、スピリット1体をBP+3000する。

菜々子「一気に3枚も回収した！」

小次郎「数で押すきか！」

花火「いくぜ！回収した3体を召喚！」

手札5 → 2

リザーブ7 → 3

トラッシュ2 → 3

アグモン、ロクケラトプス、アシガルラプターが同時に召喚される。

【アシガルラプター】 赤属性 2コスト赤2軽減

系統：地竜

LV1(1) BP2000

LV2(2) BP3000

シンボル赤

LV1・2 『このスピリットのアタック時』

このスピリットにソウルコアが置かれていたとき、自分はデッキから1枚ドローする。

花火「アグモンの召喚時効果！2枚オープン！」

オープンカード

【グラウンドブレイク】

【リアクティブバリア】

このカードはどれも対象外なので2枚とも破棄された。

花火「ウオーグレイモンをLV3にアップ！」

リザーブ3 → 0

ウオーグレイモン(1) → (4)

ウオーグレイモンはLVアップに伴い、力強く咆哮する。

アシガルラプターLV1(1s) BP2000

ロクケラトプスLV1(1) BP3000

アグモンLV1(1) BP3000

ウオーグレイモンLV3(4) BP16000

ボルカニックキャニオンLV1

バースト無

花火「アタックステップ!ボルカニックキャニオンの効果!自分の赤のスピリット全てを地竜の数1体につき、BP+1000!4体いるから全員に+4000だ!いけ!

アシガルラプター!アタック時効果で1枚ドロ!

手札2 ⇨ 3

パンザワ「オマエ、ツメアマイ、フラッシュユタイミング！マジック、【クヴェルドウルヴ】ヲ、ツカウ！テフダノ、ブレイブ、シヨウカン、【ガン・ホース】ヲ、モンザエモンニ、ダイレクトブレイブ、」

手札3 ⇨ 1

リザーブ3 ⇨ 0

トラッシュユ4 ⇨ 7

【クヴェルドウルヴ】 白属性 4コスト 白1軽減 緑1軽減

マジック

バースト：相手による自分のスピリット破壊後

自分のトラッシュユにあるブレイブカード1枚を手札に戻す。その後コストを支払うことで、このカードのフラッシュユ効果を発揮する。

フラッシュユ

自分の手札にある赤／緑／白のブレイブカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

【ガン・ホース】 白属性 6コスト 白3軽減

ブレイブ

系統：機獣

LV1(1) BP3000

合体(0) +3000

シンボル無

LV1『このブレイブの召喚時』

相手のネクサス1つを手札に戻す。

《合体条件：コスト6以上》

このスピリットは、【転召】を持たない相手のスピリットを疲労状態でブロックできる。

突然、パンザワのフィールドに白の馬型のブレイブ、ガンホースが召喚される。ガン・ホースは出てくるなり、肩に装着された銃を、花火のネクサス、ボルカニックキャニオンに向けて打ち出す。ボルカニックキャニオンはデジタルの粒子になって、花火の手札に戻る。

花火「!」

手札3 → 4

菜々子「え!?なに今の？」

カイネ「ガン・ホースは召喚時にネクサスを手札に戻すことができるんだ、厄介なの

はそれだけじゃないけど、」

葉々子「？」

ガン・ホースは巨大な装備となり、もんざえモンの背中に装着される、もんざえモンは、合体スピリットとなった。

パンザワ「もんざえモンで、ブロック、」

花火「なに!？」

もんざえモンは装着された銃で走って来るアシガルラプターを打ち抜き、破壊した。

パンザワ「ガンホースハ、ブレイブシテタラ、ツカレテモ、ブロックデキル、」

小次郎「不味い、あいつの合体スピリットはBP23000、

花火の1番デカイやつでもウオーグレイモンのBP16000、

これじゃあの壁を突破できない、」

ガン・ホースの合体時効果は疲労状態でのブロックを可能にする。故に、もんざえモンよりBPが高いスピリットがない花火はアタックを封じられてしまったのだ。

花火「くそっ! ターンエンドだ、」

パンザワ「フン、キュウキョクタイモ、タイシタコトナイ」

「ターン08」パンザワ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札1 ⇨ 2

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 8

トラッシュユ7 ⇨ 0

もんざえモン+ガン・ホース疲労 ⇨ 回復

パンザワ「メインステップ、ヌメモン、モツカイ、ダス、バースト、フセル、」

手札2 ⇨ 0

リザーブ8 ⇨ 1

トラッシュユ0 ⇨ 4

再びパンザワのフィールドにヌメモンが出現すると同時に、裏向きでカードが伏せられる。

もんざえモン+ガン・ホースLV3 (4) BP23000

ヌメモンLV1 (3) BP2000

破壊と創造の釜LV1

バースト有

パンザワ「イケ！モンザエモン！アタック！」

花火「頼む！ロクケラトプス！」

ロクケラトプスは果敢にもんざえモンの進行を止めようとするが、もんざえモンは装着された銃でロクケラトプスを蹴散らしてしまう。

小次郎「このままじゃ、ジリ貧だ、もんざえモンを超えるBPを叩きださないと勝てっこない」

小次郎の言う通り、もんざえモンのBP23000を超えなければ、花火に勝機はなかった。

パンザワ「モウスグダ、モウスグデ、ナナコ、オデノモノ、」

パンザワの言葉に花火はカチンときてしまう。

花火「何が、『オデノモノ』、だ！あいつは誰のものでもない！自分勝手な理由で人を巻き込むな！」

菜々子「花ちゃん、」

菜々子は花火の発言で顔が少し赤くなる。

パンザワ「ウルサイ！ジブンカッテ、オマエ！ナナコハオデノヨメニスル！」

花火「やれるもんならやってみやがれ！テメエみたいなやつに、俺が負けつかよ！」

パンザワ「……ターンオワル」

「ターン09」花火

スタートステップ

コアステップ 2 ⇨ 3

ドローステップ 4 ⇨ 5

リフレッシユステップ

リザーブ 3 ⇨ 6

トラツシユ 3 ⇨ 0

花火「メインステップ! いくぜ! 異魔神ブレイブ、炎魔神! 召喚!」

手札 5 ⇨ 4

リザーブ 6 ⇨ 3

トラツシユ 0 ⇨ 3

炎の歯車の中から、異魔神ブレイブの炎魔神が激しい機械音を立てながら参上する。

【炎魔神】 赤属性 5コスト 赤2軽減 白2軽減

異魔神ブレイブ

系統：異魔神・機竜

LV1(0) BP5000

合体(0) +5000

シンボル赤

このブレイブは、疲労せず、スピリット状態のとき、アタックとブロックができない。

《右合体条件：コスト4以上》

【右合体時】『このスピリットのアタック時』

このスピリットのBP以下の相手のスピリット／アルティメット1体を破壊する。

《左合体時：コスト4以上》

【左合体時】『このスピリットのアタック時』

相手のバーストを1つを破棄することで、このターンの間、自分のスピリットすべてをBP+5000する。

パンザワ「イマジン、マデモツテンノカ!？」

パンザワは驚きの声をこぼす。

花火「いくぞ！炎魔神！ウオーグレイモンに左合体だ！」

炎魔神は左手から光線を出してウオーグレイモンに繋げると、ウオーグレイモンは力が上昇し、咆哮する。

花火「アタックステップ！やれ！やれ！ウオーグレイモン！炎魔神の左合体アタック時効果で、相手のバーストを破棄！」

パンザワ「パァ!？」

炎魔神は右手の拳を殴りつけるように射出すると、その拳はパンザワのバーストに一直線に飛んでいき、バーストカード【妖華吸血爪】が吹き飛ばされ、破棄された。

花火「さらに、BP+5000だ！」

パンザワ「バァ!？」

ウォーグレイモンとアグモンはBPアップに伴い、一瞬赤く発光する。ウォーグレイモンはこれでBP26000となり、もんざえモンのBPを超えた。

花火「まだいくぞ！フラツシユマジック！ガイアフォースを使用！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 1

トラツシユ3 ⇨ 5

花火「ガイアフォースの効果で、BP10000以下のスピリット！ヌメモンを破壊！さらに、ウォーグレイモンを回復だ！」

巨大な火球がヌメモンを焼き尽くすと同時にウォーグレイモンは疲労から回復した。

【ガイアフォース】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

フラツシユ

ブレイブの「BP+」を無視して、BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊する。さらに、カード名に「グレイモン」を含む自分のスピリット1体を回復させる。

パンザワ「グッ、クッソー!!!モンザエモン!マモデ!!」

もんざえモンは、装着された銃でウオーグレイモンを撃ち抜こうとするも、ウオーグレイモンは、背中に装備してあるシールドで難なく跳ね返してしまふ。ウオーグレイモンはその後、もんざえモンの頭部まで飛翔し、裏拳でもんざえモンの頭を下に叩きつける。倒れたもんざえモンにそのまま特大のガイアフォースをぶつけ、破壊した。ガン・ホースは爆発に紛れて逃げ出す。

パンザワ「ガンホース、ノコス、」

花火「もう一回アタック頼む!ウオーグレイモン!」

花火の指示にウオーグレイモンは頷くとそのまま、ドラモンキラーの2連撃でパンザワのライフを2つ破壊する。

パンザワ「グワッー!!!」

ライフ3 → 1

花火「最後!花飾ってこい!アグモン!」

アグモンは待ってましたと、言わんばかりにはしやぎ出し、パンザワのライフをめがけ走ると、そのまま鉤爪でパンザワのライフを破壊した。

パンザワ「ナナコー!!!」

ライフ1[☆]0

ライフ0に伴い、パンザワはバトルフィールドから弾かれた。

花火「よっしや!どうだ!これが俺のグレイモンデツキだ!」

花火が言うと、アグモンとウォーグレイモンも勇ましく咆哮した。バトルが終わり、全員元の花畑に戻ってきた。

パンザワ「グツマケタ、コンナヤツニ!」

花火「俺の勝ちだ、菜々子は諦めてもらうぜ」

パンザワ「グヌヌ!」

菜々子「ねえパン君?」

菜々子はパンザワに近寄る。

菜々子「あなたのお嫁さんになることはできないけど、一緒に旅しよう!絶対楽しいから!」

菜々子の突然の提案に、花火達は驚く。

小次郎「こんなやつ、連れていくのかよ!」

カイネ「食料がかさみそうだねー、」

菜々子「もう!小次郎君もカイネちゃんもそういうこと言わないでよ!人は人だよ

!

花火「はっは！まあいいんじやねえの？一緒に行くか？パンザワ！お前とのバトル、楽しかったぜ！」

花火と菜々子がそういうと、小次郎とカイネは顔を見合わせ、「しようがないか」と言つてパンザワを受け入れた。

パンザワ「ナナコー！ヤツパリ、オマエ、イイヤツ！イク！ツイテクヨ！」

パンザワがそう言つた矢先、パンザワの背後に突如ワームホールのようなものが出現する。

花火「？なんだ!？」

パンザワ「ウツウワー!!!」

菜々子「パン君！」

気づいても遅かつた。ワームホールは一瞬のうちにパンザワだけを吸い込むと直ぐに消滅した。

突然の出来事に花火達は困惑していた。

小次郎「なっ、なにが起きたんだ!？」

カイネ「多分どこかに転送されたのか？Dーポリスの大陸移動に似ていたな」

花火「どこかに強制的に飛ばされたってことか!？」

葉々子「パン君」

葉々子は寂しそうに言葉をもらした。

*

パンザワ「ん? ココハ!」

??? 「やっとお目覚めかい? 自由人」

パンザワはどこかの王宮のような場所に飛ばされたようだ。だが、玉座には誰も座つてない。

パンザワに10歳くらいの男の子が語りかけた。

パンザワ「ナ、ナフーキサマ!」

ラフーキ「ナフーキじゃない、ラフーキだ、相変わらず、ラ行がうまく言えないな。パンザワ、」

パンザワはその、ラフーキという男の子を見た瞬間に土下座する。

ラフーキ「パンザワ、お前がここに強制的に戻ってきたことは、誰かにバトルで負けたってことだ、誰に負けた？」

パンザワ「？タシカ、ハナチャン、ツテイウヤツ」

ラフーキ「ハナチャン？なんだそのへんちくりんな名前は、まあいい、お前の記憶を覗くから、オイ！あんたも見るかい？」

ラフーキは端っこにいた、男にも声をかける、年齢は30代後半といったところか、その男もラフーキと同じ立ち位置の人間なのだろうか。男もラフーキのそこに行き、パンザワの記憶を覗くことにした。

ラフーキ「よし、覗くか、」

ラフーキは自分のバトルヴァイスをパンザワの頭に当て、データを読み取った後に、それを、映像で流した。

パンザワはどう言うわけか気絶してしまう。

*

ラフーキ「うっひょー！この娘可愛い！菜々子ちゃんっていうのか！」

???「着目すべき点はそんなとこじゃないだろう、ゴーグルの男、一木花火と言ったか、なぜか、存在しないはずのアグモンを使っている。進化までできるとは、一体何者なのだ?」

男は言うが、ラフーキは気にも留めない。

ラフーキ「おお!この青髪の娘もなかなかいかけてるねえ!」

ラフーキはカイネのことを言っている。男はカイネを見て驚く。

???「カイネ!?間違いない、カイネだ!なぜ奴らといる!?!」

ラフーキ「あれ!?珍しいね、ウズシオ!お前が女に驚くなんて、もしかして一目惚れ?若い娘にいい歳のおっさんが!?気色悪!」

ウズシオと呼ばれる男は、その場をもう、一言も喋らずに去っていった。

ラフーキ「あれ!?怒らせちゃったかな?まあいいや男だし、にしても可愛いなこの娘達、操りたいなーギヒヒヒヒヒ!」

ラフーキはこの後に「でも随分後になりそう」と、言った後、ウズシオと同じように去っていった。

第11話 反乱軍とDポリス！ガルルモン吠える！

ここは、赤の大陸、Dポリスのサツマとチョウシユウは、反乱軍の飛行船を待ち伏せしていた。

サツマ「おいおい、本当に来んのか？」

サツマはしびれを切らしてチョウシユウを疑い始めた。

それもそのはず2人が待つてから約5時間は経過したのだから。

チョウシユウ「俺の計算に間違いはねえ、必ず来る、ところで、サツマさん」

サツマ「なんだ？」

チョウシユウ「なんでこの間、武龍村に行った時に、一木花火達を無理矢理連れて行かなかったんだ？総司令官の命令に背くなんてあんたらしくねえ、」

どうやら武龍村に来た時に花火達を無理矢理連れていく予定だったようだ。

サツマ「あーあれか、実はあの後、やっぱり変更、どっちでもいいよって総司令官から通達が来てさー」

チョウシユウ「総司令官そんな話し方じゃねーよ。俺たちは一刻も早く、デジタルスピットのバトルエネルギーを溜めないといけないのは、知ってんだろ？」

サツマ「別に花火君達がDーワールドからでたわけじゃないし、何もしなくても貯ま
ると思うぞ、てか、それお前機密情報じゃねえか、むやみに口にすんなよ」

チョウシユウ「おっ来たぞ、飛行船、」

サツマ「人の話を聞きなさい!」

サツマは顔をぶんぶんさせながら怒ると、反乱軍の飛行船が見えてきた。

反乱軍の飛行船は2人の頭上を通り過ぎようとしていた。

サツマ「おい、どうやって入んだ? さすがに無理があるんじゃない?」

チョウシユウ「案ずるなサツマさん、この日のためにバトルヴァイスいじつて来たんだ、俺に捕まりな」

サツマ「え!? なになに!? こう?」

サツマはチョウシユウにがっしり抱きしめる、チョウシユウは、バトルヴァイスを飛行船に向けてと2人はそのまま飛行船に吸い込まれるように中に入って行った。

く反乱軍の飛行船の中く

シユリ「シデンさん、一木花火達は緑の大陸に到着し、「巨蛾の里」の方角に向かってるそうです。それと新たに青髪の少女が仲間に加わりました。その少女もデジタルスピリットを、Dパラデインを、所持しているそうです」

シユリがシデンに、花火達の尾行をしていたのか、それらしい報告をする。椅子に座るシデンの横には、イトニもいた。

シデン「そうか、ご苦労だった、では、次は緑の大陸に行くとするか」

イトニ「兄イ！あんな奴らのためにわざわざ船を向かわせなくていいよ!!私一人にかして！今度こそあいつらをぶっ飛ばす！」

イトニの言う兄イとは、シデンのことである。2人は実の兄妹であった。

シデン「まあ落ち着け、イトニ、俺は奴らを倒そうとは思わん。一木花火という男に我が軍に入つて欲しいだけだ、共にDポリスを討つために」

その時、シデン達のいる部屋のドアが開く。

サツマ「おいおい、誰を討つて？」

シユリ「！何奴!？」

チョウシユウ「Dポリスのサツマとチョウシユウだ、お縄についてもらうぜ」
サツマとチョウシユウがドヤ顔で現れた。

イトニ「どうやって入つたんだ!?!空飛んでんのに!?!」

イトニとシユリはとても驚いていたが、シデンだけは落ち着いた態度で接する。

シデン「Dポリスのトップが俺に何の用だ？」

サツマ「だーかーらー!今さっき言っただろ!お縄につけて!」

ドゥーケ「おやおやーこれは困ったことになりましたねー?」

ピエロの面のドゥーケがどこからともなく現れる。

サツマ「ピエロの面、あんたが反乱軍のブレインか」

ドゥーケ「いかにも!よく、ここまで来られましたね?Dポリスの副総司令官サツマさんとその部下チョウシュウさん?ここはお互いのためにちよつとしたかけをしませんか?」

サツマ「かけ?」

ドゥーケ「そうです。代表同士でバトルをして、こちら側が負ければ本当にお縄につきましょう、逆にこちら側が勝つことができれば、あなた方にはここを去っていただきます」

チョウシュウ「なるほど!面白い!なら俺が行こう!いいだろう?サツマさん」

サツマ「ああ!もちろんだ!行ってこい!チョウシュウ!」

サツマとチョウシュウは、意外にもあつさりと条件を承諾してみせる。

シュリ「おい!ドゥーケ!なんで勝手なことするんだ!」

シデン「良い、シュリ、俺が行く」

シデンが椅子から立ち上がる。

シュリ「シデンさん！」

チヨウシュウ「ほう、リーダー直々に相手とは、光栄だねー！」

シデン「こういう時くらいバトルしておかないと、貴様らとの最終決戦の時に鈍ってしまつては困るからな」

チヨウシュウ「負ける気は無いようだな」

シデン「、、いくぞ」

チヨウシュウ「ゲートオープン解放！」

シデン「ゲートオープン解放」

2人はバトルフィールドに行く、他の人も皆観客席に来た。

チヨウシュウのバトルアーマーはサツマと同じものであったが、シデンは紫の狼がモチーフだった。

イトニ「兄イのバトルは久しぶりに見るな」

ドウーケ（さあ、見せてもらいますよーあなたがどれくらい強くなったのかを）

ドウーケは不敵な笑みを浮かべていた。

バトルはシデンの先行で始まる。

「ターン01」シデン

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

シデン 「メインステップ、ネクサス、最後の薔薇水晶をLV1で配置」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 4

シデンの背後に美しい薔薇が咲き誇る。

【最後の薔薇水晶】紫属性 4コスト 紫2軽減

ネクサス

LV1(0)

LV2(1)

シンボル紫

LV1・2 『相手のアタックステップ』

相手のスピリット／アルティメットのアタックで自分のライフが減ったとき、相手のスピリット／アルティメットのコア1個を相手のトラッシュに置く。

LV2自分の紫のスピリットすべてのLV2コストを1にする。ただし、LVコスト

は0にはならない。

シデン「ターンエンド」

「ターン02」チヨウシユウ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

チヨウシユウ「メインステップ、ゴツモンをLV1で召喚」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 3

チヨウシユウのフィールドに、身体全体が岩でできた、白のデジタルスピリット、ゴツモンが召喚される。

【ゴツモン】白属性 3コスト 白2軽減

系統：成長期・漂精

LV1(1) BP2000

LV2(3) BP3000

LV3(4) BP4000

シンボル白

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つ白のスピリットカード1枚を手札に加える。残ったカードは破棄する。

LV2・3 【進化：白】『自分のアタックスステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」／「完全体」を持つ白のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

チヨウシユウ「ゴツモンの召喚時効果、デッキから2枚オープン」

オープンカード

【シープウォール】

【タンクモン】

チヨウシユウ「この中の成熟期か、完全体を手札に加える、こい、タンクモン！」

手札4 → 5

成熟期のタンクモンがチヨウシユウの手札に加わる。

チヨウシユウ「ゴツモンにコアを1個追加！」

リザーブ1 → 0

ゴツモン（1） ♪ （2）

シデン「！」

ゴツモンにコアが追加されるが、ゴツモンをLV2にするにはコアが3つ必要、このコアの移動は本来ならば無駄である。本来ならば、だが、シデンのような紫のデッキ相手には決して無駄にはならない。

シデン「アタックステップ、やれ！ゴツモン！」

シデン「ライフで受ける」ライフ5 ♪ 4

ゴツモンが両手を振り回しながらシデンに近づき、ライフを砕いた。

シデン「俺のライフが減り、ネクサス、最後の薔薇水晶の効果を発揮する。相手のスピリット1体のコアを1個トラッシュに送る。対象はゴツモン」

最後の薔薇水晶が光出したかと思うと、ゴツモンに置かれているコアが1個チョウシュウのトラッシュに送られた。

ゴツモンのコアは2個乗っていたため、減らされても1個残り、消滅を免れた。

シデン「最後の薔薇水晶の効果を知っていたか、なかなか優秀じゃないか、」

チョウシュウ「相手が紫だとわかればそのくらいするさ、俺は優等生だから知ってたけどな」

ゴツモン（2） ♪ （1）

トラツシユ3 ⇨ 4

イトニ「なにあいつさりげなく自慢してるのさ、腹立つー」
イトニはチョウシユウの態度にムツと顔を膨らませていた。

チョウシユウ「ターンエンド」

「ターン03」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレツシユステップ リザーブ2 ⇨ 6

トラツシユ4 ⇨

0

シデン「メインステップ、デスリターナーをLV1で召喚」

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 4

トラツシユ0 ⇨ 1

鎧を身につけているが、矢が何本も刺さってるスピリット、デスリターナーが召喚される。

【デスリターナー】紫属性 2コスト 紫1軽減

系統：呪鬼

LV1(1) BP2000

LV2(3) BP3000

シンボル紫

【不死：0/3】『お互いのアタックステップ』

トラツシユにあるこのスピリットカードは、コスト0/3の自分のスピリットが破壊されたとき召喚できる。

シデン「そして、俺の相棒、ガブモンをLV2で召喚しよう」

手札4 → 3

リザーブ4 → 0

トラツシユ1 → 2

シユリ「来たか！」

イトニ「兄イのDパラディン！」

シデンのフィールドにさらに頭にツノを生やして水色の毛皮を被っている成長期のデジタルスピリット、ガブモンが召喚される。シユリ達は待ち望んでいたような声を漏らす、サツマとチョウシユウは、眉を眉間に寄せて、シデンのデジタルスピリットで

あるガブモンを警戒していた。

【ガブモン】紫属性 3コスト 紫2軽減

系統：成長期・爬獣

LV1(1) BP3000

LV2(3) BP5000

LV3(4) BP6000

シンボル紫

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成長期」／「完全体」を持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名「アグモン」がいるとき、オープンするカードを3枚にする。残ったカードは破棄する。

LV2・3 【進化：紫】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成長期」を持つ紫のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

チョウシユウ「それがお前のデジタルスピリットいや、Dパラデインか」

シデン「そうだ、ガブモンの召喚時効果、デッキから2枚オープン」

オープンカード

【ガルーモン】

【クリスタニードル】

シデン「その中の成熟期を加える、ガルーモンを手札に」

手札3 → 4

成熟期のスピリット、ガルーモンのカードがシデンの手札に加わる。

シデン「いくぞ！アタックステップ！ガブモンの効果【進化：紫】発揮させる！」

ガブモンが0と1のデータに卵状に包まれていく。

シデン「進化！ガルーモン！」

卵は次第に膨らみ破裂、中から青白銀色の毛並みに体が覆われた狼のような姿をしたガブモンが進化形、ガルーモンが召喚される。ガルーモンは登場するなり、高らかに吠える。

【ガルーモン】紫属性 4コスト 紫2軽減

系統：成熟期・剣獣

LV1(1) BP3000

LV2(3) BP5000

シンボル紫

LV1・2 【超進化：紫】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ紫のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

LV2 『このスピリットのアタック時』

相手のスピリットのコア1個をリザーブに置くことで、自分はデッキから1枚ドロースする。

ガルルモンLV2(3) BP5000

デスリターナーLV1(1) BP2000

最後の薔薇水晶LV1(0)

サツマ「成熟期に進化したか、」

シデン「やれ!ガルルモン!」

ガルルモンはシデンの指示を聞き、走り出すと同時に青色の炎を口から放射する。それはゴツモンに一直線に命中し、ゴツモンのコアを1個リザーブに置いた。コアが0個になったゴツモンは消滅してしまう。

チョウシュウ「!?なんだ!なにが起こった!?!」

シデン「ガルルモンのLV2効果だ、相手のスピリット1体のコアを1個リザーブに置くことで、デッキから1枚ドロースできる、さあ、アタック中はどうする?」

手札4 → 5

チヨウシユウ「ライフだ、」ライフ5 ⇨ 4

ガルルモンは体当たりで、チヨウシユウのライフを破壊した。

シデン「デスリターナー！ 続け！」

チヨウシユウ「これもライフだ！」ライフ4 ⇨ 3

デスリターナーは剣をゆっくり振り下ろし、チヨウシユウのライフを砕いた。

シデン「ターンエンド」

「ターン04」チヨウシユウ

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ リザーブ4 ⇨ 8

トラッシュユ4 ⇨

0

チヨウシユウ「メインステップ、2体目のゴツモンを召喚」

手札6 ⇨ 5

リザーブ8 ⇨ 4

トラッシュユ0 ⇨ 4

再びゴツモンがチョウシユウのフィールドに呼び出される。

チョウシユウ「ゴツモンの召喚時効果、2枚オープン」

オープンカード

【リカバードコア】

【ゴツモン】

対象のカードが存在しないため、2枚とも破棄された。

チョウシユウ「さらに、ハグルモンをLV2で召喚！」

手札5 → 4

リザーブ4 → 0

トラッシュ3 → 5

歯車のような成長期のデジタルスピリット、ハグルモンが召喚される。

【ハグルモン】 白属性 3コスト 白2軽減

系統：成長期・動器

LV1(1) BP2000

LV2(2) 4000

シンボル白

LV1・2 『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個をこのスピリット以外の系統「成長期」を持つ自分のスピリットに置く。

LV2【進化：白】『自分のアタックスステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ白のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

チヨウシユウ「ハグルモンの召喚時効果、他の成長期にコア1個をブーストする、ゴツモンにコアを置くぜ」

ハグルモンが体の歯車を回すと同時にゴツモンが白く光輝き、コアが1個追加された。

チヨウシユウ「さあ俺も行かせてもらおうか、アタックスステップ！ハグルモンの【進化：白】を發揮！」

ハグルモンが、ガブモンと同じように、0と1のコードに包まれていく。

チヨウシユウ「ハグルモンを手札に戻し、手札からタンクモンをLV2で召喚！」

卵は次第に膨らみ破裂し、中から戦車の姿をした成熟期のデジタルスピリット、タンクモンが召喚される。

【タンクモン】 白属性 4コスト 白2軽減

系統：成熟期・武装

LV1 (1) BP3000

LV2 (2) BP5000

シンボル白

LV1・2 『このスピリットの召喚時』

相手のスピリット1体を手札に戻すことができる。

LV2 【超進化：白】 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ白のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

シデン 「タンクモンの召喚時効果、ガルルモンを手札に戻す」

シデン 「！」

手札5 → 6

タンクモンはライフフルになってる両腕で、ガルルモンを撃ち抜く、ガルルモンはデジタルの粒子となってシデンの手札に戻った。

チョウシュウ 「タンクモンでアタック!アタック時効果、【超進化：白】を発揮!タンクモンを手札に戻し、完全体のペーダモンをLV2で召喚だ」

タンクモンが、白い光に包まれていく、体がどんどん変化していき、光が消えると、タンクモンは脳みそ剥き出しで、下半身がたこのような完全体のデジタルスピリット、

ベーダモンになっていた。

【ベーダモン】 白属性 5コスト 白3軽減

系統：完全体・冥主

LV1(1) BP5000

LV2(2) BP7000

シンボル白

LV1・2『このスピリットの召喚時／破壊時』

相手のネクサス1つを手札に戻すことができる。そうしたとき、ボイドからコア2個を自分のスピリットに置く。

LV2『自分のエンドステップ』

系統：「完全体」を持つ自分のスピリットすべてを回復させる。

イトニ「気持ち悪！あれが完全体!?!」

チョウシユウ「ベーダモンの召喚時効果でネクサスの最後の薔薇水晶を手札に戻す！そしてスピリットにコアを2個追加！ゴツモンに乗せて、LV3にアップだ」

シデン「ほう、やるな」

手札6→7

ベーダモンは所持している銃で、最後の薔薇水晶を撃ち抜いた。最後の薔薇水晶はデ

ジタルの粒子となってシデンの手札に戻る。

チョウシユウ「今がチャンスだ!やれ!ベータモン!ゴツモン!」

シデン「どちらもライフだ」

ライフ4 ⇨ 2

ベータモンとゴツモンは同時に駆け出し、ベータモンは所持している銃で、ゴツモンは体当たりでそれぞれシデンのライフを砕いた。

チョウシユウ「エンドステップ、ベータモンの効果で完全体を回復させる」

ベータモン疲労 ⇨ 回復

ベータモンは自身の効果で疲労から回復する。

ゴツモンLV3(4) BP4000

ベータモンLV2(2) BP7000

チョウシユウ「ターンエンド」

「ターン05」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ5 ⇨ 6

ドローステップ 手札7 ⇨ 8

リフレッシュステップ

リザーブ6 ⇨ 8

デスリターナー疲労 ⇨ 回復

シデン「メインステップ、ガブモンを再び召喚、LV2だ」

手札8 ⇨ 7

リザーブ8 ⇨ 3

トラッシュ0 ⇨ 2

シデンのフィールドに再びガブモンが現れる。

シデン「アタックステップ、もう一度ガブモンの【進化：紫】を發揮させる、ガルルモンに進化せよ」

ガブモンは再びガルルモンに進化した。

シデン「そして、ガルルモンでアタック！アタック時効果で、ゴツモンのコア1個をリザーブに送り、1枚ドロ」

手札7 ⇨ 8

ガルルモンは再び、青い火炎放射でゴツモンのコアを1個減らす、ゴツモンはLV3からLV2に下がったただけであった。

ゴツモンLV3(4) ⇨ LV2(3)

チヨウシユウ「そんな攻撃が効くわけないだろ！」

シデン「ならばこれならどうだ?ガルルモンの【超進化:紫】を發揮!ガルルモンを手札に戻し、完全体のワーガルルモンに超進化!LV3だ」

リザーブ3[♣]1

ガルルモンは紫色の光に包まれ、姿を変えていく、光が晴れると中から2足歩行になつた完全体のガルルモン、ワーガルルモンが現れる。

【ワーガルルモン】紫属性 6コスト紫3軽減

系統:完全体・獣頭

LV1(1)BP5000

LV2(3)BP8000

LV3(5)BP12000

シンボル紫

LV1・2・3『このスピリットの召喚時/アタック時』

相手のスピリットのコア2個を相手のリザーブに置く。

LV2・3『自分のアタックステップ』

相手のスピリットが消滅したとき、このスピリットは回復する。

ワーガルルモンLV3(5s)BP12000

チヨウシユウ「完全体!」

シデン「ワーガルルモンの召喚時効果を発揮する、ゴツモンのコアを2個リザーブに置く」

チヨウシユウ「なに!？」

ゴツモンLV2(3) ⇨ LV1(1)

ワーガルルモンは登場するなり、狼のような雄叫びを上げる、すると、ゴツモンのコアが2個リザーブに送られ、さらにLVが下がる。

シデン「いけ!ワーガルルモン!アタック時効果でさらにゴツモンコアを2個はずす!」

チヨウシユウ「まだコアを減らすのか!？」

ゴツモンLV1(1) ⇨ 消滅

ワーガルルモンは腕のスナップと爪を活かして斬撃をゴツモンに向けて飛ばすと、ゴツモンのコアがとうとう0個になってしまい、消滅してしまう。

シデン「まだ終わらない、相手のスピリットが消滅した時、ワーガルルモンは回復する」

サツマ「消滅に回復!?!やりたい放題だな!」

ドウケ(それはそうでしょう、奴は他のデジタルスピリットとは、いやもつと言えば他のDパラディンともわけが違う、Dポリスの複製されたデジタルスピリットで、立

ち向かえるわけがない)

シユリ「?」

ドウーケは心の中で意味深なことを囁くと、顔に出てしまったのか、シユリは少しその顔に疑問を持った。

一方のバトル内では、ワーガルルモンが一瞬紫色に発色して疲労状態から回復する。シデン「アタックは継続だ、どう受ける?」

チヨウシユウ(このままだと、ベーダモンも消滅のあげく、回復されたワーガルルモンにいつきにライフを持ってかれる、だったら)

チヨウシユウ「ブロックだ!ベーダモン!」

そのままワーガルルモンと先頭になるが力の差は歴然としていた。ベーダモンが撃った銃をワーガルルモンは両腕で巧みに受け流しながら進んでいく。

チヨウシユウ「これで、消滅されるスピリットはいねえ、残り2回のアタックじゃあ、俺のライフはゼロにはできないぜ!消滅の対象を見誤ったな!」

シデン「……こんな奴が、Dポリスのトップだと、片腹痛いわ!貴様らからこのDーワールドを救うのも案外容易いのかもされないな!」

サツマ「ああ?救う?なに言ってるんだあいつ?まるで俺らが悪人みたいな……」

チヨウシユウ「……」

シデン「フラッシュユタイミング！煌臨を発揮！対象はワーガルルモン！」

ワーガルルモン LV3 (5s) ⇨ LV2 (4)

トラッシュユ2 ⇨ 3s

イトニ「来る！兄イの相棒が！」

シデン「気高き獣よ！今こそ鉄壁の神獣となりて、敵を砕け！究極進化！メタルガルルモン！」

手札8 ⇨ 7

ワーガルルモンは紫色の光を再び身に纏い、形を変えていく、中から、強力な武器を仕込んだ四足歩行の究極体のガルルモン、メタルガルルモンが煌臨する。

「メタルガルルモン」紫属性 9コスト 紫4軽減 白2軽減

系統：究極体・機獣

LV1 (1) BP10000

LV2 (3) BP14000

LV3 (4) BP16000

シンボル紫

フラッシュ《煌臨：紫／白コスト6以上》『お互いのアタックステップ』（自分のソウルコアをトラッシュユに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねる。）

LV1・2・3このスピリットは相手の効果で破壊されない。

LV2・3『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメット／リザーブのコア2個を相手のトラッシュに置くことで、このスピリットは回復する。

サツマ「究極体は煌臨で呼び出されるのか、」

シュリ「いつ見ても美しい、」

ドウーケ（さあこっから耐えられますか？チョウシュウさん？まあ無理でしょうけどねー）

メタルガルルモンLV3（4）BP16000

チョウシュウ「くっ、だが、究極体に進化したところで、シンボルは1つどちらにしろ……」

シデン「ならばこのまま眺めているがいい！ベータモンとのバトルを続行だ！メタルガルルモン！」

ベータモンは果敢にも銃を撃つが、メタルガルルモンにはその程度の銃ではかすり傷1つつかない、メタルガルルモンは氷のブレスを口内から放出し、ベータモンを凍りつかせてしまう。ベータモンは敢え無く砕け散ってしまう。

シデン「もう一度アタックだ、メタルガルルモン、アタック時効果で貴様のリザーブ

のコア2個をトラツシユに置き、メタルガルルモンは回復する」

メタルガルルモン疲労⇨回復

チョウシユウ「なんだと!?!」

リザーブ6⇨4

トラツシユ5⇨7

メタルガルルモンは狼のような雄叫びを上げると、チョウシユウのリザーブのコア6個のうち2個をトラツシユに送り、そのまま一瞬紫の光を纏い疲労状態から回復状態になる。

サツマ「これがメタルガルルモンの効果、相手の使えるコアを減らしながら連続アタックを可能にできる能力、」

サツマとチョウシユウはメタルガルルモンとシデンに戦慄してしまふ。

シデン「さあどうする?」

チョウシユウ「くそ! ライフだ!」 ライフ3⇨2

メタルガルルモンは背中のビームウイングで飛翔し、一瞬のうちにチョウシユウに接近、強靱な鉤爪でライフを砕く。

シデン「もう一度だ、メタルガルルモン、リザーブのコアを2個トラツシユに置き回復する」

メタルガルルモン疲労⇨回復

メタルガルルモンは再び雄叫びを上げ、先ほどと同じように回復した。今度はチヨウシユウの目の前だったからか、チヨウシユウはあまりのメタルガルルモンの雄叫びの大きさに手で耳を覆う。

チヨウシユウ「うるせえええ!」

リザーブ5⇨3

トラツシユ7⇨9

サツマ「チヨウシユウ!」

チヨウシユウ「ライフだ」ライフ2⇨1

メタルガルルモンは再び鉤爪でライフを砕く。

シデン「終わらせる前に1つ聞こう、Dポリスのチヨウシユウよ!」

チヨウシユウ「……なんだよ、」

シデン「貴様らがもう一度オメガバーストを起動させるといふ噂は本当なのか?」

チヨウシユウ&サツマ「!」

サツマ「さあどうだかねえ、」

チヨウシユウ「あつてるぜー」

サツマ「おい!チヨウシユウ!」

凶星だったのか、サツマは隠そうとするも、チョウシュウはあっさり認めてしまった。チョウシュウ「別にいいだろ？サツマさん、こいつらは情報収集に長けた忍者がいるんだからそれくらい知られてもおかしくはねえ」

シデン「やはりか、この世界を再び塗り替えて何をしようというのだ！」

チョウシュウ「おつと！そこまでは言えないな！逆にお前は一体何の理由で俺らDポリスを目の敵にしたんだ、Dワールドを救うとか言ってたが、」

シデン「そのままの意味に決まってるだろ！貴様らDポリスが再びこの地にオメガバーストを起動させる前に貴様らを倒すためだ！そのために俺は俺の妹を始めとした仲間たちで結成した反乱軍で貴様らを駆逐する！」

ドゥーケ（いいですよーシデンさん、あなたは私の見込んだ通りの男だ。すごい正義感に満ち溢れている。精々頑張ってDポリスを駆逐してくださいねー）

熱く語るシデンをよそに、ドゥーケは不敵な笑みを浮かべていた。

サツマ「待て！シデン！俺らは邪な理由でオメガバーストを起動させない！この世界をもつとより良くするために使おうとしているんだ！」

シデン「黙れ！貴様らにもう用はない！やれ！メタルガルモン！」

メタルガルモンは胸部のハッチを開いて巨大なミサイルを発射し、チョウシュウの最後のライフを破壊した。

チョウシユウ「うわー!!」ライフ1→0

チョウシユウはバトルフィールドから弾かれる。

シデン「貴様らの野望を打ち砕くまで!俺は止まらん!」

シデンがそう言うのとデスクリターナーとメタルガルルモンは気高く叫ぶ。バトルが終わり、全員、反乱軍の飛行船に戻る。

チョウシユウ「ぐっ」

サツマ「チョウシユウ!大丈夫か?」

チョウシユウ「ああ平気ですぜ、」

イトニ「流石兄イダ!快勝じゃん!」

シデン「後約三ヶ月だ、」

サツマ「ああ?」

シデン「後約三ヶ月で必ず白の大陸を見つけ出し!貴様らの野望を打ち砕く!」

サツマ「いいだろう!かかってこいよ!その時は俺が相手になってやるよ!」

シデンとサツマがお互いを睨み合う。その後すぐにサツマは「まあ今回は約束に従って帰るけどねえ」と言つてチョウシユウを抱えて、飛行船を飛び降りた。飛行船の中は反乱軍だけになる。

シデン「やはり、お前の言つた通りだったな、ドゥーケ」

ドゥーケ「ええ、奴らは後1年程でオメガバーストで世界に災厄をもたらそうとして
います、あなたの伝説のDパラディンの力でどうかこの世界を救ってください」

イトニ「何を今更かしこまっちゃってるのさ！ドゥーケのおかげで今の反乱軍がある
ようなものだよ！」

ドゥーケ「はっは！思い出しますね、あの日のことを」

シユリ「・・・」

ドゥーケは約三年前、シデンとイトニに出会い、デジタルスピリットのカードを2人
に渡すと同時にDポリスが再びオメガバーストを起動させることを告げたのだ。それ
が反乱軍の全ての始まりである。3人が平和そうに話している中、シユリだけはドゥー
ケを怪しい目で見つめていた。

一方その頃、サツマとチヨウシユウは、

サツマ「やられちまったなーおい、」

チヨウシユウ「へっ！次はそうはいかねえよ！」

サツマ「おっ！その域だぞ！」

チヨウシユウ（にしても中々いい具合に仕上がってたじゃねえか、わずか3年でここ
まで強くなるとはなあ流石ブレインと言ったところか）

チヨウシユウも意味深なことを心の中で呟いていた。ブレインとはドゥーケのことだろうか。反乱軍とDポリス、ドゥーケとチヨウシユウの意味深な心の声、8体のDパラディンとオメガバースト、Dーワールドの謎は深まるばかりであった。

第12話 立ち塞がる大波！飛翔せよガルダモン！

花火達は、緑の大陸の港町から一番近い巨蛾の里へ行こうとしていた。菜々子はパンザワとの一件がよほど応えたのか、しょんぼりと落ち込んでいた。

菜々子「はー、パン君どこ行っただらう？」

菜々子はため息をこぼす。

カイネ「まあ元氣だしな、もしかしたらパンザワはDポリスの一員だったのかもしれないし」

小次郎「いや絶対違えよ、吸い込まれる時、叫んでたし」

カイネ「でもあの時のワームホールはDポリスのそれに似てただよね」

花火「安心しろ菜々子、パンザワは元氣でやってるさ！またあつたら今度こそ一緒に旅させてやろうぜ！」

菜々子「・・・そう、だよね！元氣でやってるよね！花ちゃんにそう言われるとなんかそんな気がしてきた！」

そんなこんな話をしていると巨蛾の里に到着した。赤の大陸のアカダツケ村の砂漠じゃなくて森バージョンとも言えるような感じであった。

菜々子「よし!みんなでご飯食べに行こう!」

花火「う、うん」

小次郎「そ、そだね」

菜々子のはしゃぐが花火と小次郎は少し暗い顔をする。菜々子とカイネは2人に対して疑問を抱く。

カイネ「どうしたんだ2人とも?暗い顔して」

小次郎「いや、ねー、えーととすつごく言いづらいんだけど」

花火「実は……」

*

菜々子「え?!?!お金がもうない!?!」

花火&小次郎「ホントっもうすみませんでした!」

2人は深々と頭を下げる。

カイネ「よく今まで黙ってこれたなー、」

菜々子「でもなんで?アカダツケ村の人達からあんなにもらったのにもうなくなつたの?」

花火「ほら、あれだよ武龍村の時の襖！あれ2つ分の代金で飛んだんだお金が」
葉々子「あれほんとに払ってたんだ、」

実はあの時、花火が蹴破った襖は花火がシユリにバトルで勝利したことにより帳消しとなったのだが、小次郎とシユリが突き破った襖は結局小次郎が払ったのである。因みに旅の一行のお金の管理は小次郎が仕切っている。

小次郎「カイネはいくら持つてる？」

カイネ「ん？私か？私は当然ほぼ無一文だ！あんた達が持つてると思つてたから全然心配してなかつたな！お金のことなんて」

小次郎「お前もよく今まで黙つてこれたな！」

花火「まあとりあえずこの里で何かいい働きどころを探さないと、ん？」

花火が気楽に立ち直ろうとすると、一枚の看板が目がいく。そこにはバトスピ大会の説明が記されたチラシが貼つてあつた。

花火「おい！みんな！これ！見てみるよ！」

小次郎「え？んーつと、なにになに？今年も始まる！巨蛾の里杯！、飛び込み参加OK、優勝者には……賞金100万円（円変換）！」

花火「2位でも50万（円変換）だつてよ！俺らで出れば合計150万（円変換）もらえるぞ！」

カイネ（花火にしては珍しくテンション高めだなー、意外と欲が強いのか?）

花火と小次郎はテンションが上がっていた。まあ無一文からのこれは2人のテンションを上げるのには申し分ない情報だっただろう。だが、小次郎はあることに気づく。

小次郎「あつ!この大会よく見たら女性限定って書いてあるぞ!」

その大会は女性限定であった。

花火「なあーに心配ねえよ!こつちには敏腕女子バトラーが2人もいるんだ!ワンツーフイニツシユ間違いねえよ!」

カイネ「女の子に敏腕とか言わない!」

菜々子「大会かー、」

花火「生活かかてるんだ!頼む!」

菜々子「いいよーそういうことなら!この菜々子におまかせあれ!」

合掌してお願いする花火に対し、菜々子は「えっへん!」と胸を張って承諾する。カイネも「まあいいか」と仕方なく承った。

こうして菜々子とカイネは巨蛾の里のバトル大会に参加することになった。4人は早速会場に行く。

そこには200人ほどの人達が集まっていた。女子2人は受付してくるときに花火

は少しだけ疑問を抱く。

花火（なんか変なんだよなー、なんでこんな小さい村に150万なんていう大金が集まるんだ？）

確かに500人もいなさそうな里に150万という大金が集まるという話は妙に信憑性に欠けていた。

花火はここで「Dーワールドだからかー」という判断でこの考えを捨ててしまう。

そして、バトル大会が幕を開けた。カイネと菜々子はお互いに順調に勝ち進んでいき、とうとう決勝で当たることになった。

実況者「えー、只今より第51回、巨蛾の里杯、決勝戦を行います。両選手前え、」

暗い感じの実況者が細々としたマイク音で2人を呼ぶ、菜々子とカイネはステージに上がり目を合わす。

小次郎「よし！やったな！これで150万確実にもらったぜ！てか！実況者元気全然ねえな！」

花火「ああそうだな、（今までの試合全部観てきたけど実況者どころか観客もあんまり盛り上がってなかったんだよなーこんなに賞金貰えるのに、なんでだろう？）」

花火が自分の疑問に答えが出ないまま、2人のバトルが始まる。

菜々子&カイネ「ゲートオープン！解放！」

2人はゲート開きバトルフィールドに行く。花火と小次郎を含む他の人達も皆観客席に向かった。

菜々子「カインちゃんとのバトル!すごい楽しみにしてたよ!」

カイン「奇遇だね、私もだよ!男達の尻拭いさせられてる感ハンパないけど」

菜々子「ははっ、それは言えてるかも」

菜々子はカインの一言に苦笑いした。

カイン「先行は譲るよ」

菜々子「うん!いくよ!」

菜々子の先行でバトルが始まる。

「ターン01」菜々子

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

菜々子「メインステップ!角タヌとビーバンをLV1で召喚!」

手札5 ⇨ 3

リザーブ4 ⇨ 1

トラツシユ0[→]1

菜々子のフィールドにツノを生やした狸とビーバーが召喚される。

【角タヌ】 赤属性 0コスト 軽減無

系統：皇獣

L V 1 (1) B P 2 0 0 0

L V 2 (3) B P 5 0 0 0

シンボル赤

【ビーバン】 赤属性 2コスト 赤2軽減

系統：皇獣

L V 1 (1) B P 2 0 0 0

L V 2 (3) B P 4 0 0 0

シンボル赤

L V 1・2 『このスピリットのアタック時』

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、自分はデッキから1枚ドローする。

菜々子「ターンエンド！」

角タヌL V 1 (1) B P 2 0 0 0

ビークンLV1(1s) BP2000

バースト無

「ターン02」カイネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4⇨5

ドローステップ 手札4⇨5

カイネ「メインステップ、じゃあ先ずはネクサス!五行寺院をLV1で配置!」

手札5⇨4

リザーブ5⇨2

トラッシュ0⇨3

カイネの後ろに巨大なお寺がそびえ立つ。

【五行寺院】青属性 3コスト 青1軽減

ネクサス

LV1(0)

LV2(3)

シンボル青

LV1・2『相手のアタックステップ』

相手のコスト3以下のスピリットがアタックしてきたとき、ボイドからコア1個を、系統：「獣頭」を持つ自分のスピリット1体の上に置く。

LV2 『お互いのアタックステップ』

系統：「獣頭」を持つ自分のスピリットすべてを、そのスピリットが持つ最高LVとして扱う。

菜々子（！五行寺院！厄介なネクサスが早速がきたね！でも、小次郎君はそれに苦しめられてたけど私のデツキは対処法がある！）

菜々子は自身満々だったが自身があまりすぎて顔に出ていた。

カイン（何か対処法があるって感じの顔だな）バーストをセットしてターンエンド」
手札4 ⇨ 3

カインのフィールドにカードが裏向きでセットされる。

五行寺院LV1

バースト有

「ターン03」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ2 ⇨ 3

トラッシュユ1

⇨ 0

菜々子「メインステップ!ピヨモンをLV2で召喚!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 1

カイネ「!菜々子のデジタルスピリットか!」

菜々子のフィールドにピンクの体毛の鳥型のスピリット、ピヨモンが召喚される。

菜々子「召喚時効果!ネクサスを1つ破壊!五行寺院を破壊するよ!」

ピヨモンは登場するなり嘴から緑色の炎をくると吹き上げ五行寺院を焼き尽くした。

【ピヨモン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統:成長期・空牙・爪鳥

LV1・2 『このスピリットの召喚時』

相手のネクサス1つを破壊する。

LV2 【進化:赤】 『自分のアタックスステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

カイン「くっ！やるね！」

菜々子「まだまだ！アタックステップ！ピヨモンの【進化：赤】を發揮！ピヨモンを手札に戻して、手札のバードラモンに進化！」

ピヨモンは0と1のコードに卵状に包まれる、次第に膨らんでいき、破裂、中からピヨモンの進化形態、体が炎に包まれた巨鳥、バードラモンが召喚される。

【バードラモン】 赤属性 4コスト 赤2軽減

系統：成熟期・空牙・爪鳥

LV1(1) BP3000

LV2(2) BP5000

シンボル赤

LV1・2【超進化：赤】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

LV2『このスピリットのアタック時』

自分はデツキから1枚ドロースる。

カイン「おー!綺麗なものだね!」

バードラモンLV2(2) BP5000

角タヌLV1(1) BP2000

ビーバンLV1(1s) BP2000

バースト無

菜々子「ビーバン!お願い!アタック時効果で1枚ドロースる!」

手札3[→]4

ビーバンはソウルコアが乗って入れればアタック時に1枚デツキからドロースできる。

カイン「ふっ、ライフで受ける」ライフ5[→]4

ビーバンはカインのライフを体当たりで破壊した。だが、ここでカインのバーストが火を噴く。

カイン「ライフ減少によりバースト発動!No.26キャピタルキャピタル効果によりノーコスト配置!」

菜々子「え!?!ネクサスのバースト!?!」

カインのフィールドに宙に浮かぶ島が出現した。

【No. 26 キャピタルキャピタル】青属性 6コスト 青3軽減

ネクサス

LV1(0)

シンボル青

ソウルバースト：自分のライフ減少時

このネクサスカードをコストを支払わずに配置する。

LV1 『相手のアタックステップ』

ソウルコアが置かれていない相手のスピリット／アルティメットがアタックするとき、相手は、相手のリザーブのコア1個をトラッシュシュに置かなければアタックできない。

このネクサスにソウルコアが置かれている間、この効果でトラッシュシュに置くコアを+1個する。

カイン 「キャピタルキャピタルの効果で菜々子のソウルコアが置かれていないスピリットはリザーブのコアを1個トラッシュシュに置かないとアタックできないよ！」

菜々子 「え!?!じゃあこのターンは……………」

カイン 「そう!アタックできないよ!」

菜々子 「……………ターンエンド」

菜々子は少々悔しそうな顔をしながらターンエンドを宣言した。

小次郎「カイネのデッキ破壊が決まるまでに決着をつけたい菜々子君にとって、あのネクサスはキツイぞ」

小次郎と花火は観客席でバトル分析をしていた。

花火「でも、菜々子は『進化』で召喚時にネクサスを破壊できるピヨモンを手札に戻しているから、次でまた破壊されるんだよなー、」

小次郎「あつ!そっか!意味ないじゃん」

花火「でも、カイネがこれで終わるとは思えない」

「ターン04」カイネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ リザーブ4 ⇨ 7

⇨ 0

ト
ラ
ッ
シ
ユ
3

カイン「メインステップ、よし！使ってみようかな！召喚！ホエーモン！LV2！」
手札4 → 3

リザーブ7 → 0

トラッシュ0 → 5

突然、地面から噴水のように水しぶきが飛んでくる、水しぶきが晴れると、鯨のよう
な見た目で完全体のデジタルスピリット、ホエーモンが姿をあらわす。

【ホエーモン】青属性 6コスト 青3軽減

系統：完全体・海首

LV1 (1) BP5000

LV2 (2) BP8000

LV3 (4) BP10000

シンボル青

LV1・2・3

相手の『このスピリットの召喚時』効果は発揮されない。

LV1・2・3 『相手によるこのスピリットの消滅／破壊時』

ブレイブのコストを無視して、コスト6以下の相手のスピリットすべてを破壊する。

LV3 『相手のアタックステップ』

コスト5以下の相手のスピリットのアタックでは、自分のライフは減らない。

菜々子「!それって船の大会の優勝商品!?!」

カイネ「そうだよ!これで私はターンエンド!」

ホエーモンLV2(2s)BP8000

キャピタルキャピタルLV1

バースト無

花火「で、でかい!」

小次郎「まさしく鯨そのものって感じだな、」

花火も小次郎もホエーモンの体の大きさに驚く。

「ターン05」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 2

トラッシュ1 ⇨ 0

ビーバン疲労 ⇨ 回復

菜々子「メインステップ！このまま頭数で押し切る！ピヨモンを再度召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 1

菜々子「召喚時効果！ネクサスを破壊！対象はもちろん！キャピタルキャピタル！」

菜々子のフィールドに再びピヨモンが召喚される。ピヨモンは登場するなり緑色の炎をくるくると吹き上げキャピタルキャピタルを狙うが、

カイネ「ホエーモンの効果、相手はスピリットの召喚時効果を発揮できない！」

菜々子「ええ!？」

ホエーモンはまるで鯨の潮吹きのと要領で水を出し、ピヨモンの炎を打ち消した。

菜々子「くっ、アタックできるのはソウルコアが置かれてるスピリットだけ、それ以外はコアを支払わないといけない、、んんーターターンエンド」

菜々子はフィールドの状況を考えてこのターンは終了した。

バードラモンLV2 (2) BP5000

角タヌLV1 (1) BP2000

ビーバンLV1 (1s) BP2000

ピヨモンLV1(1) BP2000
バースト無

「ターン06」カイネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 6

トラッシュユ0 ⇨ 0

カイネ「メインステップ!ネクサス!NO.2ブルーフォレストをLV1で配置!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 5

トラッシュユ0 ⇨ 1

カイネの後ろに色が青い森が出現する。

【NO.2ブルーフォレスト】青属性 3コスト 青2軽減

ネクサス

LV1 (0)

LV2 (3)

シンボル青

LV1・2 『自分のアタックステップ』

系統「獣頭」を持つ自分のスピリット／アルティメットの効果で相手のスピリットを破壊したとき、ボイドからコア2個を自分のフィールドに置く。

LV2 『自分のエンドステップ』

自分のフィールドにソウルコアがあるとき、相手は相手の手札が3枚以下になるように破棄する。

小次郎 「ここぞとばかりに、ネクサスを配置してきたな」

花火 「ネクサスの配置が青の真骨頂だからな」

カイン 「さらに！ イツカクモンをLV2で召喚！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ5 ⇨ 1

トラッシュ1 ⇨ 3

頭に一本ツノを生やした海洋生物のような成熟期のデジタルスピリット、イツカクモ

ンが召喚される。

【イツカクモン】 青属性 5コスト青3軽減

系統：成熟期・戦獣

LV1 (1) BP4000

LV2 (2) BP6000

LV3 (4) BP8000

シンボル青

LV1・2・3 【超進化：青】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ自分の青のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

LV3 『このスピリットのアタック時』

相手のデッキを上から3枚破棄する。この効果でマジックカード／アクセルを持つスピリットカードが破棄されたとき、コスト5以下の相手のスピリット1体を破壊する。

菜々子「でた、イツカクモン！」

カイネ「ふふっ、ここからが本番よ！アタックステップ！」

イツカクモンでアタック！アタック時効果で【超進化：青】を發揮！イツカクモンを手札に戻して完全体のズドモンに進化！LV2！」

リザーブ1[☆]0

イツカクモンは青い光に包まれていき、姿を変えていく。光が弾ける時、イツカクモンが進化したズドモンが現れる。ズドモンは自前のハンマーを構え、やる気があることを示す。

【ズドモン】青属性 8コスト 青4軽減

系統：完全体・獣頭

LV1 (1) BP8000

LV2 (3) BP11000

LV3 (6) BP14000

シンボル青

LV1・2・3 「大粉碎」『このスピリットのアタック時』

相手のデッキを上から、このスピリットのLV1につき5枚破棄し、バースト効果を持つカードが破棄されたとき、相手のスピリット1体を破壊する。

LV2・3 『自分のアタックステップ』

系統：「完全体」／「究極体」を持つ自分のスピリットの効果で破壊されたスピリット

の効果は発揮されない。

花火「でやがった!ズドモン!一気にバトルが進むぞ」

小次郎「ここまで相手の動きを制限した上で【大粉碎】使おうとするとか、相変わらず情けがねえよなああの女」

カイン「いけ!ズドモン!アタック時効果!【大粉碎】ズドモンのLV1につき5枚破棄する!LVは2!よって10枚破棄するよ!」

菜々子「きやあ!」

残りデッキ22枚

ズドモンはハンマーを地面に叩きつけ電気を菜々子のデッキまで走らせ、デッキを10枚破棄した。

そして、その中には、バーストカードの戦国霸王ギユウモンジが、

菜々子「あつ!ギユウモンジ!」

カイン「バーストカード戦国霸王ギユウモンジを確認!【大粉碎】の追加効果でバードラモンを破壊!」

ズドモンはハンマーをブーメランのように投げ、宙を飛んでいるバードラモンに命中させる。バードラモンは力つき墜落、爆発してしまふ。

菜々子「バードラモン!」

カイン「ここでさらに！ブルーフォレストの効果を発揮！系統：「獣頭」を持つスピリットの効果で相手のスピリットを破壊した時、ボイドからコア2個を自分のフィールドに置く、ホエーモンにコア2個を追加でLV3にアップ！」

ブルーフォレストが光りだすとホエーモンにコア2個を追加される。ホエーモンはLVが上がり空中で宙返りをする。

カイン「さあ、アタックは継続中！」

菜々子「ライフで受ける！」ライフ5 ⇨ 4

ズドモンはハンマーで菜々子のライフを破壊した。

カイン「ターンエンド」

ズドモンLV2(3) BP11000

ホエーモンLV3(4s) BP10000

キャピタルキャピタル

ブルーフォレスト

バースト無

「ターン07」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 5

トラッシュユ1 ⇨ 0

菜々子「メインステップ!ソウルコア乗ってないとダメだったらアタックするスピリットを1体に絞ればいい!いくよ!私のデッキのスピリット達!先ずはビーバンのソウルコアをピヨモンのコアと入れ替える!」

ビーバンのソウルコアとピヨモンのコアが同時に入れ替わる。

菜々子「さらに!ピヨモンをLV2に上げてアタックステップ!ピヨモンの「進化:

赤」を再び発揮!ピヨモンを手札に戻して2体目のバードラモンを召喚!LV2」

リザーブ5 ⇨ 4

ピヨモンはもう一度同じ方法でバードラモンに進化した。

カイネ「!2枚目か!だけど無理かな?ホエーモンのLV3効果でコスト5以下の相手のスピリットのアタックじゃあ私のライフは減らないんだ」

菜々子「5以下?だったらギリギリかな?」

カイネ「?どういう・・・はっそういうこと!」

カイネは菜々子のやろうとしていることに気づく。

菜々子「そう！そういうことだよ！バードラモンでアタック！アタック時効果で1枚ドロー！さらに【超進化：赤】を發揮する！バードラモンを手札に戻して完全体のガルダモンに超進化！LVは3！」

手札5 → 6

リザーブ4 → 1

バードラモンは赤い炎に包まれ、姿形を変えていく、そして、翼を広げると同時に包まれた炎を打ち消し、中から大きな翼と鉤爪を持つ鳥人、完全体のデジタルスピリット、ガルダモンが現れる。

【ガルダモン】 赤属性 6コスト赤3軽減

系統：完全体・獣頭・爪鳥

LV1 (1) BP5000

LV2 (3) BP8000

LV3 (5) BP12000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットのアタック時』

自分のデッキを上から1枚オープンできる。そのカードが赤のスピリットカードのとき、このターンの間、このスピリットに赤のシンボル1つを追加する。オープンした

カードは手札に加える。

LV3 『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分の手札にある赤のカード2枚を破棄することで、このスピリットは回復する。

ガルダモンLV3 (5s) BP12000

角タヌLV1 (1) BP2000

ビーバンLV1 (1) BP2000

バースト無

カイネ 「これが、菜々子の完全体か、カッコいいじゃん!」

菜々子 「でしょ!いくよ!ガルダモン!アタック!」

ガルダモンは菜々子の言葉に頷くと巨大な真紅の翼を羽ばたかせ、カイネに向かって急降下する。

菜々子 「ガルダモンのアタック時効果!自分のデッキを上から1枚オープン!」

オープンカード【ヒートエッジウルフ】

菜々子 「これが赤のスピリットの時、ガルダモンに赤のシンボル1つをこのターンの間加える!ヒートエッジウルフは赤のスピリットだからガルダモンに赤のシンボルを1つ追加!オープンカードは手札に!」

手札6 → 7

ガルダモンに赤のシンボルが1つ追加されダブルシンボルになる。

カイネ「なるほど、別にダブルシンボルくらい受けるよ、まだライフ4つあるし」
ライフ4 → 2

ガルダモンはそのまま鋭い鉤爪の2連撃でカイネのライフを2つ破壊した。

菜々子「ふっふーん！ガルダモンの効果はまだ終わらないよ！カイネちゃん！」

カイネ「?!」

菜々子「ガルダモンのLV3効果でバトル終了時に赤のカードを2枚破棄すること
で、ガルダモンは回復する！ヒートエッジウルフとヒノシシの2枚を破棄！」

手札7 → 5

カイネ「え!?回復!?!」

小次郎「すごい！菜々子君の手札が尽きるまでアタックを繰り返せるじゃないか！」

花火「それだけじゃない、あいつ、シンボルはダブルシンボルのままだ、このままホ
エーモンを切り崩して、角タヌとビーバンがアタックできるようになれば菜々子の勝ち
はほぼ確実だ」

菜々子「もう一回お願い！ガルダモン！アタック時効果で1枚オープン！」

オープンカード【秘剣二天一龍】

菜々子「!マジックカーでも!ダブルシンボルでも十分!いつけー!ガルダモン!
手札5っ6

ガルダモンが再びカイネのもとに迫ってくる。

カイネ「……やるじゃない菜々子!、まさか奥の手を使うことになるなんて
菜々子「え!?!おくのて!?!」

カイネ「ええ、ブロックよ!ホエーモン!」

ホエーモンがガルダモンの視界を遮るように邪魔をする。

菜々子「でもBPはガルダモンが上だよ!」

カイネ「いいのよ!BPは!奥の手は後から楽しみに待ってて!」

菜々子「?」

ガルダモンは自分より遥かに大きな体躯のホエーモンを持ち上げ、空中へ投げる、ガルダモンはそのまま腕から炎の鳥を打ち出し、ホエーモンに命中させ、破壊する。

カイネ「この瞬間!ホエーモンの破壊時効果発揮!コスト6以下の相手のスピリット
すべてを破壊!」

菜々子「……え、えゝゝゝゝ!!」

ホエーモンが破壊された瞬間、大波が菜々子のフィールドを襲う。角タヌ、ビーバン、
そして、ガルダモンまでもが大波に飲まれて破壊された。

菜々子「そんな！ガルダモン！みんな！」

小次郎「なっ！まだそんな効果隠してたのか?!」

花火「ぶったまげた効果だなー」

菜々子「これじゃ何もできない、……ターンエンド」

ワールドを更地にされた菜々子はなすすべなくターンエンドを宣言する。

「ターン08」カインネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ6 ⇨ 7

カインネ「ドローステップ、!!いいの引いた！」

菜々子「？」

カインネは引いたカードを見て口角を上げる。

リフレッシュステップ

リザーブ7 ⇨ 10

トラッシュ3 ⇨ 0

ズドモン疲労 ⇨ 回復

カインネ「ズドモンをLV3にアップ！」

リザーブ10 ⇨ 7

菜々子(大丈夫、まだデツキは15枚より多い、厄介なホエーモンもいなくなつたし、次のターンが来ればまだ勝機はある)

カイン「さあこれでフィニッシュかな? 異魔神ブレイブ、二頭魔神! 召喚!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ7 ⇨ 4

トラッシュ0 ⇨ 3

菜々子「! 異魔神ブレイブ!」

カインのフィールドに巨大な水柱上がると中から青属性の異魔神ブレイブで竜の頭を2つ持つ二頭魔神が水柱を切り裂き、現れる。

【二頭魔神】 青属性 青2軽減 紫2軽減

異魔神ブレイブ

系統: 異魔神・海首

LV1(0) BP4000

合体(0) BP4000

シンボル青

このブレイブは疲労せず、スピリット状態のとき、アタックとブロックができない。

《右合体条件：コスト5以上》

【右合体時】【強襲：1】『このスピリットのアタック時』

このスピリットは、ターンに1回まで、自分のネクサス1つを疲労させることで回復する。

《左合体条件：コスト5以上》

【左合体時】『このスピリットのアタック時』

相手のスピリットのコア1個を相手のリザーブに置くことで、自分のトラッシュにあるネクサスカード1枚を、コストを支払わずに配置する。

花火「ここにきて、異魔神ブレイブ!？」

カイン「さあ二頭魔神!ズドモンに右合体だ!」

二頭魔神は右腕に持っている剣をズドモンに向ける、さらにそこから光線を放ち、自身とズドモンをつなげて合体スピリットとなる。

ズドモンはいっそう力が強くなり、咆哮する。

ズドモン+二頭魔神LV3 (6) BP18000

キャピタルキャピタルLV1

ブルーフロレストLV1

カイン「アタックステップ!ズドモンでアタック!」【大粉碎】でデツキを上から15枚破棄だ!」

菜々子「っ!」

残りデツキ3枚

ズドモンはハンマーを地面に叩きつけて電気を走らせ、再び菜々子のデツキを破棄する。これで菜々子のデツキは残り3枚となる。

カイン「さらに、二頭魔神の右合体時効果で【強襲:1】を

発揮させる!」

菜々子「ええ!?強襲!?!」

カイン「そう!ネクサスを1つを疲労させることで、ズドモンは回復する!キャピタルキャピタルを疲労!」

キャピタルキャピタル回復 ⇨ 疲労

ズドモン+二頭魔神疲労 ⇨ 回復

ズドモンは一瞬青く光り疲労状態から回復状態になる。

カイン「さあ、アタックは?二頭魔神はシンボル持ちのブレイブだから、受ければライフを2つ減らすよ!」

菜々子「ライフで受ける!」

ライフ4^っ2

ズドモンは菜々子のライフをハンマーで2回叩きつけ、2つ破壊する。

カイン「これで最後！ズドモンでもう一回アタック！【大粉碎】で残ったデッキをすべて破棄！」

菜々子「っ！」

残りデッキ0

ズドモンは同じ手法で菜々子のデッキを破棄する、これで菜々子のデッキはゼロ、菜々子の敗北が決まるが、デッキアウトの確認があるスタートステップを待たずして決着がっこうとしていた。

菜々子「カインちゃんとのバトル楽しかったよ！」

カイン「ええ私もよ！さあ菜々子ラストコールを！」

菜々子「ライフで受ける！」ライフ2^っ0

ズドモンは再びハンマーの2連撃で菜々子のライフを一気に破壊する。ライフがゼロになった菜々子はバトルフィールドから弾かれる。

カイン「やったね！ズドモン！大勝利！」

カインがピースサインを掲げると、ズドモンと二頭魔神もガッツポーズを決めた。バトルが終わり、カインたちはもとの巨蛾の里のバトルステージに戻った。

早速表彰式が行われる。もちろん1位はカイネ2位は菜々子だ。

花火「いやーいいバトルだったな!」

小次郎「にしてもカイネってどんくらい強いんだ?!ライフとデツキを両方0にするって!」

花火「まだまだそこを見せてない感じはするよな」

花火と小次郎は2人で表彰台にたつ菜々子とカイネを見届けていた。

そこで花火は隣に座っていた里の男性達の会話が耳に入る。

里の男性1「はあ、今年はある可憐な女の子が2人も巨蛾姫の餌になるのか」

里の男性2「まったくだ、見たところ里の娘じゃないし、観光に来たところを捕まっ
てしまったのだろう可哀想に」

花火はこの話を聞いた瞬間、背筋が凍りついた。嘘だと信じたかった。

花火「おい!あんたらどういふことだそれ!この大会で勝つたらどうなるんだ!」

花火は里の男性1の胸ぐらを掴んで脅すように聞こうとする。

里の男性1「なっなんだよー急に!!ヒイヒイ」

小次郎「おいどおした?花火」

里の男性2「あんたら旅の者かい?それは知らないわけだ、この里では年に1回この大会で勝ちあがった優勝者と準優勝者はこの里を治める巨蛾姫に……」

里の男性2が言おうとした瞬間、表彰台に立っている菜々子とカイネの前に身長が高めの女性が現れる。恐らく190センチはあるだろか、まるで花魁のような格好で、とても顔が美しかった。

巨蛾姫「優勝そして、準優勝おめでとう、妾は心から祝福しているぞよ」

菜々子「ありがとうございます！150万（円変換）欲しくて2人で出ました！」

カイネ「こら、そういうこと言わない」

菜々子は天然ぶりを発揮する、カイネも菜々子に対するツツコミが板についてきた。

巨蛾姫「ふふっ、いいねえ！今年の娘はおいしそうだねええ!!」

巨蛾姫の舌がじゅるりと回る。そして、里の男性2は再び口を開いた。

里の男性2「・・・そう、あの巨蛾姫に魂を喰われるんだ」

第13話 巨蛾の呪いを断ち切れ!唸れガイアフォース

!

前回、持ち金がなくなった花火達は巨蛾の里で開かれる女性限定のバトル大会に参加することになる。女性限定なので当然菜々子とカイネが参加する。激闘の末、2人はワントンファイニッシュを飾るが、その大会にはとんでもない裏があった。

巨蛾姫「ふふつ本当に美味しそうな魂だ、早く食べたいね〜、ではいらつしやい妾の根城へ」

菜々子「?」

カイネ「!?魂?どういうことですか?」

大会の表彰式に現れた巨蛾姫は2人にとって意味深な言葉を放つ。里の男性からこのことを知った花火と小次郎は急いで表彰台にいる2人の前に行こうとする。目の前の他の観客を押ししのけながら進む。

花火「逃げろー!!!菜々子!カイネ!そいつは危険だ!」

花火は大声で叫ぶ。この前のフェリーの大会の時と違って里の人たちは静まりか

えつていたので、彼の声は2人によく聞こえた。

菜々子「危険？」

カイネ「なんとなく察した！逃げよう！菜々子！」

巨蛾姫「ちつ！邪魔な害虫がいるようだね！そうはいかない！」

巨蛾姫はわかりやすく舌打ちをすると、自分の深い緑色のバトルヴァイスを懐から取り出すとワームホールを発生させ、その場を去ろうとした菜々子とカイネを無理矢理ワームホールに吸い込ませた。

菜々子「きやあああ！」

カイネ「くっ！」

花火「なあ!？」

小次郎「嘘だろ!？」

花火と小次郎はようやく表彰台にたどり着くが2人はもう別の場所に転送されてしまった。

2人の前に巨蛾姫が現れる。

花火「2人をどこにやった!!」

巨蛾姫「妾の根城じゃ、これからゆつくりとあの娘達の魂をいただくのだ」

小次郎「意味がわからない、」

巨蛾姫「ほーっほっほっほ!さらばだ害虫どもよ!」

花火「待て!」

巨蛾姫はそう言つて自分も同じようにワームホールの中に入って姿を消した。

花火「クツソ!」

小次郎「どうしよう!早くあいつの根城を突き止めないと!」

花火「すみません!巨蛾姫つてやつての根城つてどこにあるかわかる人いますか?」

花火は表彰台から大きい声で里の人達に呼びかける。

しかし、誰も返事をしてくれない。だが、花火と小次郎に巨蛾姫について軽く話した里の男性2が近づいて来た。

里の男性2「悪いことは言わない、彼女達は諦めるんだ」

小次郎「なんで!?見殺しにしろつて言うんですか!!」

花火「巨蛾姫つて一体何者なんですか?」

???「それについてはわしが答えよう、」

すると、70歳は超えてそうなおじいさんが花火と小次郎の前に現れる。

里の男性2「トラジい!」

トラジい「巨蛾姫様は本当は心も美しく清らかなお人であったのだが、51年前、あの少年がこの里に来てからあの方は魂を喰らう化け物に変貌してしまった」

花火と小次郎はこのトラじいと呼ばれる老人の話を聞いて矛盾があることに気づく。小次郎「51年前!? え!? 若すぎない!」

巨蛾姫は20代前半ほどの年齢に見える。51年前から生きていたとは考えにくかった。

トラじい「巨蛾姫様は人の魂をいや、正確には女性の魂を喰らうことであの若さを維持しているんじゃない」

花火「おい! 待てよ爺さん! 魂がなくなった人間はどうなるんですか!」

トラじい「仮死状態で眠りにつく。目覚めることはない、もしかしたら巨蛾姫様を倒せば目覚めるかもしれないが」

花火「よし! 倒せばいいんだな! 根城はどこだ?」

トラじい「無理じゃよ、巨蛾姫様に勝つことなど、今まで何人者屈強なバトラーが挑んで来たが、誰もかなうものはいなかった。お主が挑んでも負けて魂を抜き取られるのがオチじゃ」

花火「何言ってるんだ! あんたらも見ただろ? あの2人がデジタルスピリット使うのを! 俺らも持つてるんだ! 武龍城の乱の時だって、反乱軍のシュリに勝ったんだ!」

この花火の言葉に里の人達がざわめき出す。

トラじい「! そうかお主らは、噂のデジタルスピリットを所持してるという、旅の

御一行だったか、」

武龍城の乱はチラシや新聞に載っていたため、花火達の存在は結構な確率でD―ワ―ルドに知れ渡っていた。

里の男性2「トラジい、この者達ならもしかして、」

トラジい「これは賭けになりそうじやな、若いの!ここから北東に進んだところに巨蛾姫様の根城がある!どうかこの里の呪いを断ち切ってくれ!」

小次郎「ガッテン!いくぞ!花火!」

花火「ああ!」

2人は巨蛾姫の根城へ向けて走り出す。一方その頃連れ去られた菜々子とカイネは巨蛾姫と話していた。2人は動けないように鎖で繋がれていた。

巨蛾姫は菜々子とカイネを連れ去った理由を説明していた。

カイネ「……ふーん、で、あなたの若さの秘訣はわかったけどなんで大掛かりな大会まで開いてこんなことしてるわけ?」

巨蛾姫「わからぬか、魂の味はその時の気持ちや感情で変わる。大会で優勝した喜びの味と決勝で負けて悔しい思いをした味をいっぺんに味わうことができるからねえ」
魂の味はどうやら気持ちや感情で決まるらしい。

巨蛾姫「だが、次第に里の子どもがやる気を出さなくなってきたねえ、魂の味が薄く

なつてきたんだ、そこで妾は旅の人間を釣るために……」

カイネ「賞金をぶら下げた、か」

巨蛾姫「ご名答！おかげで良き魂が釣れた！そんな賞金ありもせぬのに」

菜々子「え!?!ないの？せつかく頑張ったのに！」

巨蛾姫「ふふつまあそういうな、ではただくとするかね、至高の味を持つ魂を！そして妾は何年も美しい顔のまま生き続けるのだ！」

カイネ「……あんだ本当に醜い女だね」

カイネは哀しそうな顔で巨蛾姫に言った。

巨蛾姫「……なにを言う小娘、妾の顔をよく見てみる、美しいだろう？これが醜いと？」

カイネ「違うよ、私が言ってるのはあんたの心だ、女は外見より中身つてうちの死んだママが言つてたよ、私から言わせればあんたは本当に醜い女だよ。そんな女に外も内も完璧な私の魂が抜き取られるわけないでしょ！」

カイネは巨蛾姫の怒りを買ってしまふ。

巨蛾姫「……いいだろう、先ずは貴様から喰らつてやろう！」

菜々子「ダメ！やめて！」

菜々子は止めようとするが、鎖で縛られていて、体が動かせない。

巨蛾姫はカイネの胸に手を当て魂を抜き取ろうとする。

花火&小次郎 side

花火「あれが、巨蛾姫の根城、」

小次郎「なんかバベルの塔みたいだな」

花火「とにかく急ごう!もう一刻の猶予もない!」

花火と小次郎は巨蛾姫の根城へ侵入した。

中はぐるぐると回る階段だけだったが、意外と長かった。

そして2人は頂上の鍵がかかっていた部屋のドアをタツクルで突入した。そこには巨蛾姫と菜々子と、力が抜けたように倒れていたカイネがいた、菜々子はカイネを見て涙を流していた。

花火「菜々子!」

小次郎「カイネ!」

巨蛾姫「ほう、見上げた根性だな、本当に来るとは思ってたぞ、だが、少し遅かったな」

菜々子「花ちゃん、小次郎君、カイネちゃんが、カイネちゃんが!」

花火「嘘だろ……」

小次郎「そんな……」

花火「おい！カインネ！しつかりしろ！カインネ！」

花火はカインネの肩を揺らしながら呼びかけるが、カインネからは全く反応がない、息はあるのだが、寝たきりの状態に近かった。

巨蛾姫「見ての通り、そいつはもう抜け殻だ、しかし、こんな汚い味の魂は初めて食べたよ、抜き取りづらいし、外も内も完璧とはよく言えたものだ。期待して損したよ」
巨蛾姫は花火の逆鱗に触れる。

花火「おい、人の魂を、命をなんだと思つてんだ、汚いだと？俺から言わせて見たらお前の方がよっぽど汚ねえよ！」

この一言で花火はカインネと同じように巨蛾姫の怒りを買つてしまう。自分の事を醜いと言われるのがよほど嫌なのだろう。

巨蛾姫「今日はなんともイライラする一日だな、もう一人は害虫駆除をしてからいただくとするか」

花火「小次郎、菜々子とカインネを頼む」

小次郎「あ、ああわかった、」

菜々子「花ちゃん！ダメ！」

菜々子は花火がカインネと同じようになることを恐れて止めようとするが、花火は怒り

に身を任せていて、止まる気は一切ない。

花火「安心しろ菜々子、カインも他の喰われた人達も俺が全部もどおりにしてやる！いくぞ！巨蛾姫！」

巨蛾姫「かかってこい！害虫め！」

花火&巨蛾姫「ゲートオープン！解放！」

二人はバトルフィールドに降り立つ、巨蛾姫のバトルアーマーは深緑の蛾がモチーフのようだ。

花火「俺は、お前だけは絶対ゆるさねえ！」

花火は怒りを爆発させる。

巨蛾姫「いいきになるでない！このクソ虫が！」

花火「俺のターンからだ！スタートステップ！」

「ターン01」花火

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メインステップ、ネクサス！原始の森をLV1で配置！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ 4 ⇨ 0

トラツシユ 0 ⇨ 4

花火の背後にまるで恐竜時代にタイムスリップしたかのような森が現れる。

【原始の森】 赤属性 4コスト 赤2軽減

ネクサス

LV1 (0)

LV2 (1)

シンボル赤

LV1・2 『自分のアタックステップ』

自分のスピリットがBPを比べ相手のスピリットだけを破壊したとき、自分はデッキから1枚ドローする。

LV2

自分のスピリットが相手によって破壊されたとき、自分のトラツシユにある系統「地竜」を持つスピリットカード1枚を手札に戻す。

花火「ターンエンド！」

原始の森 LV1

バースト無

巨蛾姫「妾のターンじゃ」

「ターン02」巨蛾姫

スタートステップ

コアステップ リザーブ4⇩5

ドローステップ 手札4⇩5

巨蛾姫「メインステップ、モスラ(幼虫)「1992」をLV1で召喚!」

巨大なイモムシのような緑のスピリット、モスラ(幼虫)「1992」が現れる。

「モスラ(幼虫)「1992」緑属性 3コスト 緑1軽減

系統:怪虫

LV1(1) BP2000

LV2(3) BP3000

シンボル緑

LV1・2『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

花火「緑、なんだ、あのカードは?」

巨蛾姫「召喚時効果、コアブースト!、さらに、増えたコアを使ってネクサス、目覚

めの時を配置！」

巨蛾姫の背後に、巨大な繭が出現する。

【目覚めの時】緑属性 3コスト 緑2軽減

ネクサス

LV1(0)

LV2(1)

シンボル緑

LV1・2

カード名に「モスラ」と入っている自分のスピリットが破壊されたとき、ボイドからコア1個を自分のリザーブに置く。

LV2 『相手のアタックステップ』

自分のライフが減ったとき、減ったライフのコア1個につき、自分はデッキから1枚ドロ―する。

巨蛾姫「アタックステップ！やれ！幼虫よ！虫ケラのライフを蝕んでくるのだ！」

花火「ライフで受ける！」

幼虫は花火の前までカサカサつと近づくと、体当たりで花火のライフを破壊した、が、

花火「ぐわっ!!」ライフ5 → 4

バリアで吸収されたダメージが収縮されて一本の槍になったかのように、花火のバトルアーマーに飛んで来た。花火のバトルアーマーから狼煙が上がる。花火はあまりの痛さにその場で膝をつく。

花火「はあつ、はあつ、なんだ今の?いつもと全然、」

巨蛾姫「それはそうだろうな、暗黒の力を纏ったモスラデツキで妾が相手をしているのだからな」

花火「はあ?暗黒の力?なんだそれ、なに言ってるんだお前」

巨蛾姫「妾のこの魂を喰える力も暗黒の力なのだ」

花火は巨蛾姫の話に全くついていけない。花火はどうせ今は理解できないと考え、バトルに集中することにした。

巨蛾姫「妾はこれでターンエンド」

モスラ(幼虫)「1992」LV1(1)BP2000

目覚めの時LV1

バースト無

「ターン03」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシユステップ

リザーブ2 ⇨ 6

トラツシユ4 ⇨ 0

花火「メインステップ！ ナノテイラーをLV2で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 3

花火のフィールドにブースターをつけた肉食恐竜が出現する。

【ナノテイラー】 赤属性 4コスト 赤2軽減 緑1軽減

系統：地竜

LV1(1) BP5000

LV2(3) BP8000

LV3(5) BP12000

シンボル赤

LV1・2・3 【真・激突】『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメットは、可能なら必ずブロックする。

【連鎖：緑】

(自分の緑シンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する)

緑：ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

LV2・3

このスピリットの色とシンボルは緑としても扱う。

ナノテイラーLV2(3) BP8000

原始の森LV1

バースト無

花火「アタックステップ!いけ!ナノテイラー!アタック時効果【連鎖：緑】発揮!

ボイドからコア1個をナノテイラーに置く!ナノテイラーはLV2の時、緑としても扱うから、条件は達成してるぜ」

ナノテイラーが緑色に発光し、コア1個を追加される。

巨蛾姫「アタックはライフで受けよう」ライフ5→4

ナノテイラーも全速力の体当たりで巨蛾姫のライフを破壊した。

花火「ターンエンド」

「ターン04」巨蛾姫

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 7

トラッシュユ5 ⇨ 0

モスラ（幼虫）「1992」疲労 ⇨ 回復

巨蛾姫 「メインステップ、ネクサス、インフアント島をLV1で配置！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ7 ⇨ 5

トラッシュユ0 ⇨ 2

巨蛾姫の背後に今度は巨大な壁画が現れる。壁画には蝶のような虫が二匹描かれていた。

【インフアント島】緑属性 4コスト 緑2軽減

ネクサス

LV1(0)

LV2 (1)

シンボル緑

LV1・2 『このネクサスの配置時』

自分のデッキを上から4枚オープンできる。その中のカード名に「モスラ」と入っているスピリットカード1枚を手札に加える。残ったカードは好きな順番でデッキの下に戻す。

LV2

自分の緑のスピリットすべてをBP+2000する。

巨蛾姫「インフアント島の配置時効果!デッキの上から4枚見てその中のモスラを1枚手札に加える!」

オープンカード

【ジャンピングバインド】

【インフアント島】

【原始モスラ】

【守護神獣モスラ】

巨蛾姫「守護神獣モスラを手札に加え、残りは山札の下に戻す」

手札3 → 4

巨蛾姫「守護神獣モスラをLV1で召喚！」

手札4 → 3

リザーブ5 → 2

トラッシュ2 → 4

鮮やかな色の羽を持つ蛾のスピリット、守護神獣モスラが召喚される。

【守護神獣モスラ】 緑属性 3コスト 緑1軽減

系統：怪虫

LV1 (1) BP3000

LV2 (3) BP5000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットのアタック/ブロック時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、さらに、このスピリットをBP+3000する。

花火「モスラの名前でサポート、俺のデッキのグレイモンみたいなもんか」

巨蛾姫「ネクサス2つをLV2にアップ！インフアクト島はLV2から、緑のスピリットすべてに常時BP+2000させる！アタックステップ、いきなさい！守護神獣

!アタック時又はブロック時効果でボイドからコア1個を守護神獣へ!さらに!ソウルコアがあればBP+3000!

リザーブ2 ⇨ 0

守護神獣モスラはナノテイラーと同じように緑色に発光し、コアが増える、BPは8000だ

花火「ライフだ!、ぐあ!」ライフ4 ⇨ 3

守護神獣モスラは自身の羽で突風を起こして花火のライフを破壊した。

巨蛾姫「ターンエンドじゃ」

守護神獣モスラLV1(2s) BP5000

モスラ(幼虫) LV1(1) BP4000

目覚めの時LV2(1)

インファント島LV2(1)

バースト無

「ターン05」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 5

トラッシュ3 ⇨ 0

ナノテイラー疲労 ⇨ 回復

花火「メインステップ！アグモンをLV3で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 1

花火のフィールドに恐竜がデフォルメされたようなスピリット、アグモンが召喚される。

【アグモン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統：成長期・爬獣・地竜

LV1(1) BP3000

LV2(3) BP5000

LV3(4) BP6000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

LV2・3 『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「成熟期」を持つスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

巨蛾姫「なに!? デジタルスピリット!？」

花火「召喚時効果! 2枚オープン!」

オープンカード

【リアクティブバリア】

【ボルカニックキャニオン】

対象はないので、手札に加えられず2枚とも破棄された。

巨蛾姫「なぜ害虫ごときがデジタルスピリットを、そういえばあの小娘達もデジタルスピリットを使っていたな、．．．はっ! まさか! 貴様が反乱軍のシユリに勝利したという男か!？」

花火「ああそうだ! いくぜ! アグモン! 進化だ!」

アグモンのカードを手札に戻して、花火はアグモンをグレイモンに進化させる。

【グレイモン】 赤属性 4コスト 赤2軽減

系統：成熟期・地竜

LV1 (1) BP4000

LV2 (3) BP5000

LV3 (4) BP7000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットのアタック時』

BP5000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、自分はデッキから1枚ドローする。

LV2・3 【超進化：赤】 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ赤のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

グレイモンLV3 (4) BP7000

ナノテイラーLV2 (4) BP8000

原始の森

バースト無

花火「いけ！グレイモン！アタックだ！アタック時効果で、モスラ（幼虫）を破壊！

そして1枚ドローだ!」

手札4 ⇨ 5

グレイモンは口内に炎を溜め込み一気にモスラ(幼虫)に向けて放つ、幼虫はあっさり燃え尽きてしまう。

だが、巨蛾姫は不敵な笑みを浮かべる

巨蛾姫(?!こやつ、ふふつ)「ネクサス、目覚めの時のLV1効果でモスラが破壊されたことにより、ボイドからコアを1個リザーブに置く」

リザーブ1 ⇨ 2

花火「それがどうした!やれ!グレイモン!(ナノテイラーとの連続攻撃で一気にライフを減らしてやる!)」

巨蛾姫「フラッシュタイミング!マジック!モスラの歌を使用!効果で緑のスピリット1体を回復させる!起き上がれ守護神獣モスラ!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュ4 ⇨ 6

守護神獣モスラ疲労 ⇨ 回復

花火「なに!?!」

【モスラの歌】緑属性 4コスト 緑2軽減

マジック

バースト：相手による自分のスピリット破壊後

ボイドからコア1個を自分のスピリットに置く。

その後コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

自分の緑のスピリット1体を回復させる。この効果でカード名に「モスラ」と入っているスピリットが回復したとき、相手のスピリット1体を疲労させる。

巨蛾姫「さらに、回復したのがモスラだった場合、相手のスピリット1体を疲労させる！妾に跪け！ナノティラー！」

ナノティラー回復 ⇨ 疲労

フィールドに謎の歌がこだまする。守護神獣モスラは緑の色に光、回復するが、逆にナノティラーはそれで疲労してしまう。

巨蛾姫「グレイモンは守護神獣が迎え撃とう！ブロック時効果でコアを1個追加！LV2へ！ソウルコアの力でBP+3000！インファント島のLV2効果と合わせてBP10000！」

花火「なんだと!？」

突進するグレイモンをモスラは紙一重で避けると、グレイモンの背中にしがみつき、そのまま上空へ連れ去っていく、さらにそこからグレイモンを投げ落とした。グレイモンは力つき、爆発した。

花火「グレイモン！」

巨蛾姫（ふふつやはりねえ、あやつ、怒りで冷静さを失っておる、デジタルスピリットを持つてるのは驚きじやったが、これなら楽勝じやろう）

花火（くそ！なにやってんだよ！俺は！ここは普通ナノテイラーからアタックだっただろうが！そうすれば2体とも残っていたのに！）

このターン花火がナノテイラーからアタックすれば、ナノテイラーは自身の効果でLV3までであり、BP12000となり、モスラの歌を使われてもBP勝負で負けはことはなかったのだ。もっと言えば花火はグレイモンのアタック時効果で目の幼虫を破壊したが、あの時で、守護神獣モスラを破壊しておけば、グレイモンは破壊はされなかった。

花火（一旦落ち着け！魂を取られたカイネのためにも勝つんだ、このバトル）

花火は一旦気持ちを切り替えた。その様子が巨蛾姫にも伝わったようだ。

巨蛾姫（！ピンチになって冷静さを取り戻したか、だが、もう遅い、このターンで守護神獣を破壊できなかったのが痛手だな）

花火「ターンエンド」

「ターン06」巨蛾姫

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 7

トラッシュユ6 ⇨ 0

守護神獣モスラ疲労 ⇨ 回復

巨蛾姫「メインステップはなにもせず、このままアタックステップ、ゆけ！守護神獣

！効果でコアを増やす」

守護神獣モスラ(3s ⇨ 4s)

守護神獣モスラが再び舞う。

巨蛾姫「フラッシュタイミング【神速】召喚！光速モード・モスラ！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ7 ⇨ 2

トラッシュユ0 ⇨ 2

まるでトビウオのような姿のモスラが現れる。

【光速モード・モスラ】緑属性 3コスト 緑1軽減

系統：怪虫

LV1(1) BP2000

LV2(3) BP5000

シンボル緑

フラッシュ【神速】

手札にあるこのスピリットカードは、召喚コストの支払いと上に置くコアをリザーブから使用することで召喚できる。

LV1・2『このスピリットの召喚時』

カード名に「モスラ」と入っている自分のスピリット1体を回復させる。

巨蛾姫「召喚時効果で、守護神獣モスラを回復！」

守護神獣モスラ疲労→回復

花火「！」

守護神獣はまた緑の光をだして回復した。

光速モード・モスラは召喚時にモスラ1体を回復できる効果があるのだ。これでフルアタックが通れば花火の3つのライフが消し飛ぶことになる。

花火「負けるかよ！フラッシュユタイミング！マジック！リアクティブバリアを使用！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュユ1 ⇨ 5

巨蛾姫「！白マジック!?!」

【リアクティブバリア】 白属性 4コスト 白2軽減

マジック

相手の効果で自分のライフが減るとき、手札にあるこのマジックカード1枚を破棄することで、自分のライフは1しか減らない。その後、コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

このバトルが終了したとき、アタックスステップを終了する。

花火「こいつの効果でアタックスステップはこれで終わりだ！守護神獣はライフだ！」

守護神獣モスラは今度は羽で花火のライフを破壊した。

その後に、巨大な氷の壁がバトルフィールドを覆い尽くす。

花火「がっ！」ライフ3 ⇨ 2

巨蛾姫「ターンエンド」

守護神獣モスラLV2(4) BP7000

光速モード・モスラLV2(3) BP7000

目覚めの時LV2(1)

インファント島LV2(1)

バースト無し

「ターン07」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 7

トラッシュ5 ⇨ 0

ナノテイラー疲労 ⇨ 回復

花火「メインステップ! (ウォーグレイモンはもう手札にある、あとは完全体さえくれば究極進化できる!) アグモンを召喚!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ 7 ⇨ 5

トラッシュ 0 ⇨ 1

花火のフィールドにアグモンが再び召喚される、

花火「召喚時効果！2枚オープン！」

オープンカード

【竜の尻尾奇岩】

【炎魔神】

2枚とも対象外なのでそのまま破棄された。

花火「マジック！ダイナバーストを使用！デッキから2枚ドロ！」

手札 4 ⇨ 3

リザーブ 5 ⇨ 3

トラッシュ 1 ⇨ 3

【ダイナバースト】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

バースト：自分のライフ減少後

BP10000以下の相手のスピリット／アルティメット1体を破壊する。その後コストを支払うことで、このカードのメイン効果を発揮する。

メイン

自分はデツキから2枚ドロする。

花火はダイナバーストの効果で2枚ドロした、が、

花火(メタルグレイモン)が来ない!ダメだ、このターンは守りに徹しよう……

手札3 ⇨ 5

花火「バーストセット!原始の森をLV2へアップ!ナノテイラーはLV3にアップ

!ターンエンド!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ3 ⇨ 1

ナノテイラーLV3(5) BP12000

アグモンLV1(1) BP3000

原始の森LV2(1)

バースト有

「ターン08」巨蛾姫

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレツシユステツプ

リザーブ 3 ⇨ 5

トラツシユ 2 ⇨ 0

巨蛾姫「メインステツプ、ゆくぞ！虫ケラよ！妾のキースピリット！鎧モスラをここに召喚！」

手札 3 ⇨ 2

リザーブ 5 ⇨ 0

トラツシユ 0 ⇨ 5

光速モード・モスラ (3 ⇨ 1)

守護神獣モスラ (4 ⇨ 3)

花火「！」

全身を纏う鎧のような外骨格を持つモスラ、鎧モスラが天空から舞い降りてくる。その大きさは巨蛾姫のフィールドを覆い尽くすほどであった。羽からは銀色の鱗粉のようなものが降り注いでいた。

【鎧モスラ】緑属性 9コスト 緑4軽減

系統：怪虫・殻虫

L V 1 (1) B P 8 0 0 0

LV2 (3) BP15000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットのアタック時』

BPを比べ相手のスピリットだけを破壊したとき、相手のライフのコア1個を相手のリザーブに置く。

LV2 『お互いのアタックステップ』

カード名「モスラ」と入っている自分のスピリットがバトルしている間、相手はバーストを発動できない。

花火「でっデカイ!」

巨蛾姫「ゆけ! 鎧モスラ! 効果で貴様はバーストが使えぬぞ!」

花火「なに!?!」

花火のバーストに鎖がかかり表にできなくなった。因みに伏せていたのは2枚目のダイナバーストであった。

巨蛾姫「鎧モスラはダブルシンボル! さあどうする?」

花火「どうするもこうするもねえよ! フラッシュマジック! リミテッドバリア!」

手札4 → 3

リザーブ1 → 0

ナノテイラーLV3 ⇨ 1 (5 ⇨ 2)
 トラツシユ3 ⇨ 7s

【リミットェッドバリア】 白属性 4コスト 白1軽減

マジック

フラツシユ

このターンの間、コスト4以上のスピリット／アルティメットのアタックでは、自分のライフは減らない。コストの支払いにソウルコアを使用していたら、さらに、相手のネクサス1つを手札に戻す。

花火「このターン、コスト4以上のスピリットのアタックでは俺のライフは減らない！さらに！ソウルコアの使用により、目覚めの時を手札に戻す！」

巨蛾姫「ぐっ！」

手札2 ⇨ 3

花火「そいつのアタックは当然ライフだ！」

鎧モスラが頭突きしてくるが、花火のライフはりミテッドバリアで守られた。

巨蛾姫「まだじゃ！守護神獣でアタック！アタック時効果でコアブースト！」

守護神獣モスラ (3s ⇨ 4s)

リミテッドバリアはコスト4より下のスピリットには影響がない、巨蛾姫は4より下

のスピリットでアタックを仕掛ける。

花火「ブロック頼む!ナノティラー!」

ナノティラーは守護神獣モスラの道を阻もうとするも、羽の一撃であっけなく倒され
てしまう。

花火「ネクサス!原始の森のLV2効果!自分のスピリットが相手によつて破壊され
た時、トラツシユの地竜を1枚回収する!帰つてこい!グレイモン!」

手札3 ⇨ 4

グレイモンがトラツシユから花火のもとに戻ってくる。

巨蛾姫「くっ!いけ!いけ!高速モード!」

花火「フラツシユマジック!ガイアフォース!BP10000以下の相手のスピリッ
ト1体を破壊!光速モードだ!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

トラツシユ7s ⇨ 9s

【ガイアフォース】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

フラツシユ

ブレイブの「BP+」を無視して、BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊する。さらに、カード名に「グレイモン」と含む自分のスピリット1体を回復させる。

特大の火球が光速モード・モスラを焼き尽くした。

巨蛾姫「・・・ッ！しぶとい！虫ケラの分際で！ターンエンドだ！」

鎧モスラLV2(3) BP17000

守護神獣モスラLV2(4s) BP7000

インフアント島LV2(1)

バースト無

花火「俺は負けない！カイネの魂をもとに戻すまでは！」

花火はげんこつを握りしめ、力強く叫ぶ。アグモンもそれに呼応するかのように咆哮する。

巨蛾姫「貴様、まさか妾に勝つただけであの生意気な小娘が起きると思っておるのか？」

花火「なに!？」

巨蛾姫「妾が負けても起きる保証はないぞ！この力を授かってから妾は一度も負けていないからな！」

花火「授かった？トラじいさんが言ってた少年からか？んなもんやってみないとわからねえだろ？いくぜ！」

花火は巨蛾姫の言葉に疑問を抱えながらもバトルを進める。

「ターン09」花火

スタートステップ

コアシテップ リザーブ0 ⇨ 1

花火「頼むメタルグレイモン!お前だけが頼りなんだ!」ドローステップ!っ!

手札3 ⇨ 4

花火が引いたのは残念ながらメタルグレイモンではなかった。だが、花火はこのカードを見て作戦を思いつく。それはひよっとしたらこのバトルを一気に片付けさせる程のもの、しかし、自分の運の良さにも頼ることになる。ほぼ博打だ。もう後がないこの状況ではそれに頼らざるを得ないが。

花火(いや待てよ、こいつなら……)

リフレツシユステップ

リザーブ1 ⇨ 10

トラツシユ9 ⇨ 0

花火「メイנסテップ!ブレイブカード鎧機竜シルヴィードを召喚!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ10 ⇨ 8

トラッシュユ0[♠]1

地中から突如鋭く堅い黒鎧を持つブレイブ、鎧機竜シルヴィードが召喚される。

【鎧機竜シルヴィード】 赤属性 3コスト 赤2軽減

ブレイブ

LV1(1)

合体(0)+3000

シンボル無

LV1『このブレイブの召喚時』

自分のトラッシュユにある【連鎖】を持つスピリットカード1枚を手札に戻す。

《合体条件：地竜》

【合体時】【激突】『このスピリットの合体アタック時』

相手のスピリットは可能ならば必ずブロックする。

花火「シルヴィードの召喚時効果！トラッシュユの【連鎖】を持つスピリットを手札に
！帰ってこい！ナノテイラー！」

手札3[♠]4

トラッシュユからナノテイラーのカードが花火のもとへ舞い戻ってくる。

花火「さらに!ナノテイラーとグレイモンをLV1で召喚!」

手札4 ⇨ 2

リザーブ8 ⇨ 2

トラツシュ1 ⇨ 5

グレイモンとナノテイラーが花火のもとへ再び駆けつける。

花火「原始の森をLV1に下げ、シルヴィードをアグモンに合体!アグモンをLV3にアツプ!」

リザーブ3s ⇨ 1s

アグモンとシルヴィードが合体!というよりかは、シルヴィードの上にアグモンが乗ったただけである。

ナノテイラーLV1(1)

グレイモンLV1(1)

アグモン+シルヴィードLV3(4)

原始の森LV1

バースト有

花火「アタックステップ!アグモン!合体アタックだ!」

アグモンを乗せたシルヴィードが走り出す。アグモンはまるで「進め!」と言ってる

かのように進行方向に指を指す。

巨蛾姫「ふふつ、また返り討ちにしてやろう、フラッシュタイミング！マジック！モスラの歌！鎧モスラを回復させ、ナノティラーを疲労！」

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュユ5 ⇨ 7

鎧モスラ疲労 ⇨ 回復

花火「！」

ナノティラー回復 ⇨ 疲労

再び、謎の歌が聞こえてくる、鎧モスラは緑の光を纏い回復するが、ナノティラーは逆にぐったりと疲労してしまう。

花火「シルヴィードの合体時効果！【激突】！ブロックしてもらうぜ！鎧モスラ！」

巨蛾姫「バカだねえ！BP差を考えな！」

花火「うるせえええ！フラッシュユタイミング！煌臨発揮！アグモンを対象に究極体！ウオーグレイモンだ！条件はブレイブの合体で満たしている！」

手札2 ⇨ 1

リザーブ1s ⇨ 0

トラッシュユ5 ⇨ 6s

巨蛾姫「究極体!？」

花火「いくぜ! 始まりの龍よ! 今こそ究極の龍人となりて敵を討て! ウォーグレイモン! 究極進化!」

アグモンはシルヴィードの上を飛び降り、橙色の炎に包まれ、グレイモン、メタルグレイモン、そしてウォーグレイモンへと進化を遂げた。

〔ウォーグレイモン〕 赤属性 9コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：究極体・竜人・地竜

LV1 (1) BP 8000

LV2 (3) BP 12000

LV3 (4) BP 16000

シンボル赤

フラッシュ 《煌臨：赤／白&コスト6以上》『お互いのアタックステップ』（自分のソウルコアをフラッシュに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねられる。）

LV1・2・3 『このスピリットの召喚／煌臨時』

ブレイブの「BP+」を無視して、BP合計15000まで相手のスピリット／アルティメットを好きなだけ破壊する。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分のトラッシュにあるソウルコアをこのスピリットに置くことで、相手のライフのコア1個をボイドに置く。

巨蛾姫「な!?究極進化した? (馬鹿な! あれはあの方たちのカードではない! まさか噂の反乱軍のリーダーだったのか? いやそれでもない! じゃあ奴は一体何者なのだ!?! ああ究極体はなんだ!?!)」

巨蛾姫は見たことのない究極体を見て、困惑する。

花火「ウォーグレイモンの煌臨時効果でBP15000以下の守護神獣モスラを破壊
!」

ウォーグレイモンは登場するなり、ガイアフォースで守護神獣モスラを焼き尽くした。

花火「ウォーグレイモンと合体だ!シルヴィード!」

シルヴィードは自分の装備を残して消滅すると、その装備はウォーグレイモンを強化していく。ウォーグレイモンのドラモンキラーと背中中のシールドが消滅し、代わりにシルヴィードにつけられていた黒い剣が握られる。ウォーグレイモンは黒い鎧を全身に纏った。

花火「これでBP19000!鎧モスラを超えたぜ!」

鎧モスラの強靱な頭部の外骨格とウォーグレイモンの2本の剣が空中で激しくぶつ

かり合う。ウオーグレイモンが得たシルヴィードの剣の力が凄まじいのか、幾分かウオーグレイモンが押しに見える。

巨蛾姫「くっ! 凶に乗るなよ! 害虫め! フラツシユマジック! パワーオーラ(リバイバル)! デツキから1枚ドロして、このターンの間BP+3000! これでBP2000! 妾のモスラは死なん! そして! 妾の美しさも命も永久に続くのじゃ!」

リザーブ4 → 2

トラツシユ7 → 9

〔パワーオーラ(リバイバル)〕緑属性 3コスト 1軽減

マジック

フラツシユ

自分はデツキから1枚ドロする。このターンの間、自分のスピリット/アルティメットすべてをBP+3000する。

鎧モスラのBPが上がり、ウオーグレイモンを押し返していく。

花火「命つてのは限りがあるから、なくなると悲しいし、尊いんだ! 人の命を食いもみたいに扱うお前にそんなこと言う資格なんてねええ! フラツシユマジック! ダイナパワー! 不足コストはナノテイラーから確保! ウオーグレイモンにBP+3000! これで合計BP22000だ!」

手札1 → 0

トラツシユ6s → 7s

ナノテイラー(1 → 0) 消滅

【ダイナパワー】 赤属性 3コスト 赤2軽減

マジック

自分のトラツシユにある「ダイナパワー」1枚は、『自分のエンドステップ』に系統：「地竜」を持つ自分のスピリットがいるとき、手札に戻る。この効果は1ターンに1度しか使えない。

メイソ

このターンの間、系統：「地竜」を持つ自分のスピリットすべてをBP+3000し、アタックするとき相手のスピリット/アルティメット1体を指定してアタックできる。

フラツシユ

このターンの間、スピリット1体をBP+3000する。

巨蛾姫「なんだと!?!」

ナノテイラーは維持コアの損失で消滅するが、

ウオーグレイモンは一瞬赤く発光し、眼光を輝かせる。そのまま剣にガイアフォースの力をこめ、鎧モスラを一刀両断した。鎧モスラは当然大爆発を起こす。

巨蛾姫「鎧モスラ!!……だが、まだ妾のライフは4!このターンでは負けぬ!」

花火「原始の森LV1効果!BPを比べて勝利した時、デッキから1枚ドロする!」

手札0 → 1

花火「さらに!ウオーグレイモンLV2、3の効果!トラツシユのソウルコアをウオーグレイモンに置いて相手のライフを1個ボイドに送る!」

トラツシユ7s → 6

ウオーグレイモン+シルヴィード(4 → 5s)

巨蛾姫「なっ?!、ぐわああ」ライフ4 → 3

ウオーグレイモンはフィールドを埋め尽くすほどの大きなガイアフォースを形成し、巨蛾姫のライフへぶつける。巨蛾姫のライフは破壊というよりかは溶けていくような形で消滅した。

花火「続け!グレイモン!トラツシユマジック!2枚目のガイアフォースを使用する!不足コストはウオーグレイモンをLV2にして確保する!」

手札1 → 0

トラツシユ6 → 8s

ウオーグレイモン+シルヴィード(5s → 3)疲労 → 回復

グレイモンが走ると同時にウオーグレイモンが疲労から起き上がる。

巨蛾姫「2枚目!?!なんて引きの強い奴、だが、それでもライフは1残る! グレイモンはライフじゃ!」

ライフ3 ⇨ 2

グレイモンはツノで巨蛾姫のライフを破壊した。

花火「いけ! ウォーグレイモン! 俺たちでカイネを、里の人達の魂を取り戻すんだ!」

巨蛾姫「ふっそいつのシンボル数では残り2つのライフを0にできなぬぞ! ぬかったな! 害虫よ!」

花火「俺はガイアフォースの使用でソウルコアをトラッシュユに送った! もう一回ウォーグレイモンの効果を使える!」

巨蛾姫「?! なん、だと、」

ウォーグレイモンは2本の剣でライフを破壊した後、再び巨大なガイアフォースを形成する。

花火「これで終わりだ! 打ち上げろ! ウォーグレイモン!」

トラッシュユ8s ⇨ 7

ウォーグレイモン+シルヴィード(3 ⇨ 4s)

ウォーグレイモンはガイアフォースをそのまま巨蛾姫にぶつけ最後のライフを燃やし尽くした。

巨蛾姫「う、うわああがああ」ライフ2[☆]0

花火「どうだ!これがグレイモンデッキの底力だ!」

巨蛾姫はバトルフィールドから弾かれる。グレイモンとウォーグレイモンは高らかに咆哮した。

バトルが終わり、花火は巨蛾姫の根城へ戻るが、

花火「はあ、はあ、か、勝った、勝ったぞ」

花火はバトルダメージがひどく、膝をついた。

菜々子「花ちゃん!」

小次郎「花火!大丈夫か!」

小次郎は満身創痍の花火に肩を貸して支える。

花火「カインは?」

花火はカインの方を見るが、カインは起きる気配がない。

そこに倒れていた巨蛾姫が再び起き上がり、嘲笑した。

だが、どういうわけか、巨蛾姫は黒いオーラを纏っていた。

巨蛾姫「ほーっほっほっほ!どうやら無駄だったようだな害虫よ!妾の力は健在ぞよ

!

菜々子「そんな、」

小次郎「くっ！」

花火「ちつくしよー！！！！」

花火は悔しさのあまり大声で叫ぶ。その時、デッキケースからアグモンのカードが飛び出してくる。

花火「なっ！なんだ!?アグモン!？」

アグモンは赤く光ったかと思うと、巨蛾姫が纏っている黒いオーラを剥ぎ取るようにどんどん吸収していく。

巨蛾姫「なっ！どういうことだ！やめぬか！ぐがああああ!!!」

アグモンは吸収し終わると、花火の手元に戻ってくる、花火はアグモンのカードを確認して見るが、特に変化はなかった。そして、

菜々子「カインちゃん？」

カイン「ん？んー？私何してたんだっけ？」

カインが仮死状態から目覚める。菜々子はまた目に涙を浮かべてカインに抱きつく。突然のことにカインは困惑していた。

菜々子「うわああああ!!カインちゃん!!よがったよー！！！！」

カイン「え？菜々子!?あれ、花火に小次郎、、、あつそつか、私あいつに魂取られて、ごめん、ありがとう」

小次郎「ああ、全く世話焼かせやがって、」

花火「まあいいじゃないか!元氣そうで何よりだ!」

花火は巨蛾姫の方を見る、

花火「な!?!あんたまさか巨蛾姫か!?!」

巨蛾姫は力の効力がなくなつたからか、20代の見た目からまるで90を超えた老婆のような姿になつた。おそらく、これが本来の姿であろう。体も弱そうであり、喋るのもままならない状態、立つてるのがやつとだった。

小次郎「どうする?この婆さん」

花火「まあトラじいさんが、「本当はいい人」的なこと言つてたし、事情を説明したらわかつてくれるだろう」

花火達は一旦、巨蛾姫の根城を後にし、里に戻ると、里の人達も魂が戻り大騒ぎだった。花火は事情を里の人達に説明し、巨蛾姫が元に戻つたことを話した。里の人達は老婆となつた巨蛾姫を保護することにした。これで事件は一件落着、幕を下ろしたのだ。事件の数時間後、花火達は巨蛾の里を後にして旅立つことにした。

花火「じゃあな!トラじいさん!」

トラじい「お前らも達者でな!里を代表して礼を言わせてくれ!この里の呪いを断ち切つてくれてありがとう!」

花火「気にすんなよ！」

花火達は里の人達に手を振って別れを告げた。

歩きながら花火達は会話する。

小次郎「にしても今回はヤバかったなー」

カイネ「あんたは何もしてないでしょ」

小次郎「ぐっ！痛いところを！」

菜々子「でも助けに来てくれたのは凄く嬉しかったよ！鎖も切ってくれたし」

花火（結局あの暗黒の力ってなんだっただらう。そして、アグモンがそれを取り込んだ。うーん、謎が多すぎて解明できねえ）

花火は疑問を抱えるばかりであった。

一方、どこか知らない大陸の王宮のような宮殿にいた少年、ラフーキは、何かを感じ取っていた。

ラフーキ「！巨蛾姫が負けた？一体誰に、、あっそういえばあいつらこの辺にいたんだっただけ、でもなんで暗黒の力まで取り上げられたんだ？Dパラインにそんな力はないはずだけどなー」

ラフーキはその後直ぐに、「まあいつか」とだけ言つて暗闇に姿を消した。

第14話 怒る焰竜!沈めよりリモン!

花火達は黙々と緑の大陸を歩いていった。

花火「よし!一旦休憩しよう!」

カイネ「急だね、」

花火「いや〜お腹すいてさ」

小次郎「そういや食糧もらったはいいものの、直ぐに巨蛾の里を出たから一回も飯食ってなかったな」

菜々子「じゃあさ!あそこのお寺で休まない?」

菜々子が指をさした方には今は使われてなさそうな巨大なお寺であった。鳥居はなく、ほとんど木と一体化しかけていた。花火達はここのお寺で一休みすることにした。

小次郎「暗黒の力!」

花火「ああ、巨蛾姫は確かにそう言ってた、黒いオーラの正体はきっとそれだと思う」
菜々子「でもそれをアグモンのカードが吸い込んでたけど、大丈夫なの?」

花火「おう、俺は特に問題はない、アグモンのカードもあの時以外はなんも反応してない、Dパラディンには暗黒の力を浄化させる効果があるかもしれないな」

カイン 「暗黒の力……そういえば昔私が読んだ絵本でもあったような」
花火 「まじ!? 何か知ってるのか？」

カイン 「いや、私も詳しくは知らないけど、その絵本では、暗黒の力はDパラディンの敵役として出てきたんだよ」

花火 「敵役？ だったらオメガバーストで葬られたんじゃないのか？」

そんなことを話している矢先に花火達の足元からワームホールが出現する。突然のこと全員は驚く暇もなく落下した。

花火 「うわああああ!!」

小次郎 「のわああああ!!」

菜々子 「きやああああ!!」

カイン 「え?! うわっ!!」

*

花火 「ん? ここは？」

菜々子 「花ちゃん！」

花火が目を覚ますと、先に目を覚ました菜々子達が声をかける

花火「なんだ?ここは?」

カイン「どこかの場所に飛ばされたようだけど、どこの遺跡だろう?」

小次郎「もういい加減驚けないよな、慣れつつ怖い」

花火達が飛ばされたところはどこかの遺跡のようだ、だが、どこの大陸の遺跡なのかは花火達はもちろん、大陸中を旅してきたカインすら分からなかった。

花火「まあでも遺跡にきたらやることは一つだ」

カイン「そうね」

菜々子「そうだね!」

小次郎「いや、何すんだよ」

花火「いや決まってるだろ?宝探しだよ!」

菜々子「小次郎君ってば本当天然!」

小次郎「お前の方が天然だろ!!!状況を確認しろ!俺ら変なワームホールに飛ばされたんだぞ!」

今日も小次郎は大変そうである。

カイン「まあまあ先ずは宝探しが先決じゃない?」

カインは小次郎の肩に片手をポンつと置いて言う。

小次郎「……お前はツツコム側に回ってほしかったな」

なんかみやで花火達は遺跡の最深部まで進んでいく。そして、とうとうそれらしき祠がある場所に到達した。

花火「ちえー、途中でゾンビとか出てくれば面白かったのになー」

小次郎「仮に出たとして、どう戦うつもりだったんだよ」

そんな時だった。突然遺跡の祠が緑色に光だす。

そして、謎のカード達が棺のようなものを突き飛ばして現れる。

花火「!?なんだ?」

菜々子「ピヨモンの時と同じだ、祠のカードが飛び出して、」

花火、菜々子、小次郎にとつてこの光景はデジャブだった。一度アカダツケ村のピヨモンの件で似たような現象を目撃しているからだ。1人カイネだけ、頭にはてなの文字を浮かべていた。祠のカードはそのまま、今度は小次郎のもとへ、吸い込まれるように飛んでくる。

小次郎「え!?!」

小次郎は突然のことに驚く。

花火「小次郎! そのカードは?」

小次郎はカイネ達にカード見せる。絵本でDパラダインの姿がわかるカイネは……

カイネ「間違いない、このカードも絵本に出ていたDパラディンの1体だ」

葉々子「じゃあこれで5体目のDパラディンだね、でもなんで、小次郎君に?小次郎はすでにテントモンを持つてるのに」

葉々子の疑問に花火が少し考えてから口を開く。

花火「シユリが確か、5人の兵士のパートナーの8種のスピリットって言ってたんだ。つまり、5人のうちの3人がDパラディンを2体パートナーにしていたことになる。別におかしい話じゃあないさ」

カイネ(ああそういうえば、絵本も5人だったけ)

小次郎「マジか!じゃあ俺めっちゃ!特別じゃないか!」

カイネ「いや、5人のうち3人はそうでもなくない?」

???「ほほう、ただのお客さんかと思っただらそうじゃないらしい」

花火「誰だ!」

花火達が声の方に目を向けると、赤髪の若い男性が姿を見せる。

マーゼ「おおつと!これは失礼!俺の名はマーゼ、この遺跡の番人みたいなもんさ、早速だが、選ばれたお前にはそいつが相応しいかどうか、実力を確かめさせてもらうぜ、」
カイネ(どこから現れたんだらう、人の気配なんてこれっぽっちもしなかったのに)
マーゼと名乗る男はデッキを手に取り、小次郎に勝負を挑む。

小次郎「いいぜ！存分に確かめさせてやる！」

小次郎はこの後直ぐにデツキを調整して、マーゼとバトルをすることになる。

小次郎「よし、もういいぜ！」

デツキの調整を終えた小次郎は自身満々にデツキをマーゼに向ける。

マーゼ「じゃあいくぞ！」

小次郎&マーゼ「ゲートオープン！解放！」

2人はバトルフィールドへ向かう。花火達も観客席へ移動した。マーゼのバトルアーマーはただの赤黒い鎧だった。

先行はマーゼだ。

「ターン0」マーゼ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

マーゼ「メインステップ、ネクサス、千識の渓谷をLV1で配置！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 4

マーゼの背後に化石のようなものが複数ある、渓谷が現れた。

【千識の渓谷】 赤属性 4コスト 赤2軽減

ネクスス

LV1(0)

LV2(2)

シンボル赤

LV1・2 『自分のメインステップ』

自分の手札にある系統:「覇皇」/「古竜」を持つスピリットカードすべてに、軽減シンボル赤を与える。

LV2 『自分のドローステップ』

ドロローの枚数を+1枚にする。

マーズ 「ターンエンド」

千識の渓谷LV1

バースト無

「ターン02」小次郎

スタートステップ

コアシテップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

小次郎「メインステップ！召喚！テントモン！効果でコアブースト！」

手札5 → 4

リザーブ5 → 1

トラッシュ0 → 3

【テントモン】緑属性 3コスト 緑1軽減

系統：成長期・殻虫

LV1（1）BP2000

LV2（3）BP3000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

LV2 【進化：緑】『自分のアタックスステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成長期」を持つ緑のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

てんとう虫型のスピリット、テントモンが召喚される。

テントモンの召喚時効果でコアが1個増えた。

小次郎「さらにテントモンをLV2へアップ！いくぞ！テントモン！【進化：緑】を

發揮!テントモンを手札に戻してカブテリモンに進化だ!

テントモンは0と1のコードに包まれていく。コードはやがて弾け飛び、テントモンはカブテリモンに進化した。

【カブテリモン】緑属性 5コスト 緑3軽減

系統：成熟期・殻人

LV1(1) BP5000

LV2(3) BP8000

シンボル緑

LV1・2『このスピリットの召喚／アタック時』

相手のスピリット1体を疲労させる。

LV1・2【超進化：緑】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ緑のスピリットカード1枚を、コスト支払わずに召喚する。

LV2『このスピリットのアタック時』

疲労状態の相手のスピリット1体をデッキの上に戻す。

花火「早速、進化したな」

カイン「あいつのデジタルスピリットは後攻1ターン目から進化できるのが強みだね」

小次郎「いけ！カプテリモン！」

マーゼ「ライフで受けよう」

ライフ5 ⇨ 4

カプテリモンは腕でマーゼのライフを叩き割った。

小次郎「ターンエンド」

カプテリモンLV2（3）疲労

バースト無

「ターン03」マーゼ

スタートステップ

コアシテップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 6

トラッシュユ4 ⇨ 0

マーゼ「メインステップ、千識の渓谷をもう2枚配置、ターンエンド」

手札5 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 5

マーゼのフィールドに千識の溪谷が連なった。

小次郎「?!」

菜々子「え!?!そんなことしてる場合なの?」

花火「これは、何かを待ってるんだろうな」

スピリットのいない状況で、コアを全て使ってネクサスを配置するのは相当な覚悟がいる。花火は何か必殺の展開を待っているんだと考えた。もちろん小次郎もそのことを警戒している。

千識の溪谷LV1×3

バースト無

「ターン04」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュ3 ⇨ 0

小次郎「メインステップ！もう一回テントモンを召喚！コアブースト！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 2

小次郎のフィールドに再びテントモンが召喚される。

でてくるなり、テントモンにコアが1個追加される。

小次郎「アタックスステップ！いけ！カブテリモン！テントモン！」

マーゼ「2つともライフだ！」

ライフ4 ⇨ 2

カブテリモンは腕で、テントモンは体当たりでマーゼのライフを壊した。

小次郎「ターンエンドだ！」

カブテリモンLV2（3）疲労

テントモンLV1（2）疲労

バースト無

「ターン05」マーゼ

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 9

トラッシュ5 ⇨ 0

マーゼ「メインステップ!準備は整った!いくぞ!」

小次郎はマーゼの言葉に気を引き締める。

マーゼ「先ずはモダニック・ドラゴンをLV1で召喚!ネクサス、千識の溪谷で軽減をつけられてるからノーコストで召喚だ!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ9 ⇨ 8

【モダニック・ドラゴン】 赤属性 3コスト 2軽減

系統:古竜

LV1(1) BP2000

LV2(3) BP4000

シンボル赤

L V 1・2 『自分のメインステップ』

自分が系統：「古竜」を持つスピリットカードを召喚するとき、このスピリットに赤のシンボル2つを追加する。

コスト3の小型の系統：古竜のスピリット、モダニック・ドラゴンが召喚される。ネクスス、千歳の渓谷は系統：古竜を持つスピリットに軽減シンボルを1つ追加する効果がある。これによりモダニックはノーコスト召喚されたのだ。

マーゼ「さらに！モダニックの効果！古竜を召喚するとき、シンボルを2つ追加！これにより1コストで焰竜魔人マ・グー（リバイバル）をL V 2で召喚！」

手札3 → 2

リザーブ8 → 3

トラッシュ0 → 1

溶岩の中から突如焰竜魔人マ・グー（リバイバル）が眠りから目を覚まし、現れる。

【焰竜魔人マ・グー（リバイバル）】 赤属性 6コスト 赤2軽減

L V 1（1）BP 3000

L V 2（3）BP 5000

L V 3（7）BP 9000

シンボル赤

LV1・2・3

系統「竜人」を持つ自分のスピリット1体につき、このスピリットをBP+5000とする。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊する。この効果でスピリットを破壊したとき、このスピリットのソウルコアを、このスピリット以外の自分のスピリットに置くことで、このスピリットは回復する。

小次郎「これを狙ってたのか!」

マーゼ「まだまだ!こんなもんじゃないぜ!さらに、焔竜魔皇マ・グーをLV1で召喚!こいつも1コストだ」

手札2 → 1

リザーブ3 → 0

トラッシュ1 → 2

雷雲の中から、焔竜魔皇マ・グーが召喚される。焔竜魔皇は先に来ていた焔竜魔人とともに、雄叫びをあげる。

【焔竜魔皇マ・グー】 赤属性 7コスト 赤3軽減

系統：竜人・古竜

LV1 (1) BP5000

LV2 (3) BP8000

LV3 (5) BP10000

シンボル赤

LV1・2・3 『自分のアタックステップ開始時』

ステップ開始時、自分のトラッシュのコアを好きなだけこのスピリットに置くことができる。

LV1・2・3 『自分のアタックステップ』

系統：「竜人」／「古竜」を持つ自分のスピリットすべてをBP+3000する。

LV2・3

系統：「古竜」を持つ自分のスピリットすべてに赤のシンボル1つを追加する。

カイン「！すごい、新旧のマ・グーを揃えた」

菜々子「強そう！」

花火「でもやばいな、このままじゃ・・・」

マーゼ「アタックステップ！焰竜魔皇の効果でトラッシュのコアすべてを焰竜魔皇に

そのままLV2へアップ！」

焔竜魔皇マ・グーはトラツシユのコアを竜巻のように巻き上げ、取り込み、自身のLVをあげる。

マーゼ「焔竜魔皇マ・グーはLV2のとき、系統：古竜のスピリットすべてにBP+3000と赤のシンボルを1つ追加させる効果がある!」

小次郎「!」

モダニツク・ドラゴンLV1(1) BP5000

焔竜魔皇マ・グーLV2(4) BP11000

焔竜魔人マ・グーLV2(4s) BP18000

千識の渓谷LV1×3

バースト無

菜々子「これで、シンボルは合計6つ、……これじゃ、ライフ5なんてあつという間になくなっちゃう!」

マーゼ「その通りだ!やれ!焔竜魔人マ・グー!アタック時効果でBP10000以下のスピリットを破壊!カプテリモンだ!」

焔竜魔人マ・グーは自身の斧で斬撃波を飛ばし、カプテリモンに命中させる。カプテリモンは堪らず爆発してしまう。

小次郎「なに!?!」

菜々子「カブテリモンが！」

カイン「まずいね、こりゃ、」

マーゼ「さらに、破壊に成功したら焔竜魔人のソウルコアを別のスピリットに移すことで、焔竜魔人は回復する！移動先は焔竜魔皇！そのままLV3にアップ！」

焔竜魔人マ・グー（4s ⇨ 3）疲労 ⇨ 回復

焔竜魔皇マ・グーLV2 ⇨ 3（4 ⇨ 5s）

焔竜魔人マ・グーは自身のソウルコアを焔竜魔皇に向かって投げつけ、赤く光り、回復した。焔竜魔皇はそのままソウルコアを取り込み、LV2からLV3へアップする。

マーゼ「さあダブルシンボルだ！どう受ける？」

小次郎「普通に受けてやるよ！」

ライフ5 ⇨ 3

焔竜魔人マ・グーは自身の斧で小次郎のライフを思いっきり叩き割った。

マーゼ「もう一度だ！焔竜魔人！今度はテントモンを破壊だ！」

焔竜魔人はその場にいたテントモンを斧でなぎ払った。

マーゼ「さあどうする？」

小次郎「・・・あなたは強いぜ、だが！同じ赤デツキでもあいつ（花火）と比べれば全然大したことねえ！フラッシュユタイミング！マジック！ウィンドウォール！」

手札4 → 3

リザーブ7 → 3

トラッシュユ2 → 6

マーゼ「?!」

【ウインドウォール】白属性 4コスト 白2軽減

マジック

フラッシュ

このバトルが終了したとき、アタックステップを終了する。

【連鎖：緑】（自分の緑シンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する。）

緑：相手のスピリット1体を疲労させる。

小次郎「このマジックの効果でこのバトルの終わりにアタックステップを終了させる

！焔竜魔人のアタックはライフだ！」

ライフ3 → 1

焔竜魔人は再び小次郎のライフを斧で破壊するが、マーゼのフィールドに氷の壁が出
現し、そのターンのアタックを封じた。

マーゼ「……ターンエンド」

「ターン06」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ5 ⇨ 6

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシユステツプ

リザーブ6 ⇨ 12

トラツシユ6 ⇨ 0

小次郎「メインステップ！いくぜ！俺のデッキの新戦力！パルモンをLV2で召喚する！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ12 ⇨ 6

トラツシユ0 ⇨ 3

小次郎のフィールドに頭にトロピカルな花を咲かせたデジタルスピリット、パルモンが召喚される。パルモンは元気に飛び跳ねている。

【パルモン】緑属性 3コスト 2軽減

系統：成長期・樹魔

LV1(1) BP3000

LV2(3) BP4000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットにの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つ緑のスピリットカード1枚を手札に加える。残ったカードは破棄する。

LV2 【進化：緑】『自分のアタックスステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ緑のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

マーゼ「・・・来たか、」

花火「あれが、5枚目のDパラデイン!」

小次郎「召喚時効果で2枚オープン!」

オープンカード

【リリモン】

【オオツツナナフシ】

小次郎「その中の緑の完全体、リリモンを手札に加え、残りは破棄」

手札3[→]4

小次郎「よし!いくぞ!バーストをセットして、アタックスステップ!パルモンの【進化：緑】を發揮!パルモンを手札に戻して、成熟期のトゲモンに進化だ!」

手札4[→]3

パルモンはテントモンと同じように0と1のコードに包まれていく、そしてコードは弾け飛び、中からパルモンの進化した姿、巨大なサボテンのような成熟期スピリット、トゲモンが召喚される。

〔トゲモン〕 緑属性 4コスト 緑2軽減

系統：成熟期・樹魔

LV1(1) BP4000

LV2(3) BP6000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット1体を疲労させ、ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

LV2 【超進化：緑】 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ緑のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

菜々子「?!サツマさん!?!」

花火「ちげえよ、バカ」

カイネ「？」

そのサボテンの姿はまるで花火達が初めてサツマと出会った時のことを彷彿とさせた。天然でボケる菜々子に対し、小次郎の代わりに花火がツツコんだ。

小次郎「よし! いけ! トゲモン! アタック時効果でモダニックを疲労させ、コアブースト!」

モダニック回復 ⇨ 疲労

トゲモンは体中の棘をモダニックに撒き散らし、モダニックを疲労させる。

マーゼ「!ふっ! 馬鹿め! B P の高い焰竜魔皇を残してどうする!」

小次郎「なんのなんの! これからだぜ!」

マーゼ「!」

小次郎「トゲモンの【超進化:緑】を發揮! トゲモンを手札に戻して、完全体のリモンにLV3で進化だ!」

リザーブ6 ⇨ 5

トゲモンはピンク色の花びらに包まれていく、花が開花すると中からまるで妖精のような女性型のデジタルスピリット、リリモンが召喚される。

【リリモン】緑属性 7コスト 緑4軽減

系統:完全体・樹魔

LV1(1)BP7000

LV2 (3) BP10000

LV3 (5) BP12000

シンボル緑

LV1・2・3 『このスピリットのアタック時』

ボイドからコア2個を自分のスピリットに置き、ターンに1回、このスピリットは回復する。

LV2・3 【旋風：1】 『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメット1体を重疲労させる。(重疲労状態のカードは逆向きにし、1回の回復で疲労状態になる)

LV2・3

自分の緑のスピリットすべては、相手の効果でコアを取り除かれない。

小次郎「どうだ！これが俺の2体目の完全体だ！」

小次郎は言うが、

カイネ「・・・なんか、あいつのイメージと合わないよね〜リリモン、」

菜々子「トゲモンまでは、調子よかったのにね〜」

女子2人は少々厳しい判決を下した。確かに小次郎のあつくるしい性格とは正反対の可憐なスピリットであった。

小次郎「いけ!アタックだ!リリモン!アタック時効果!【旋風:1】!相手のスピリット1体を重疲労させる!対象はもちろん焔竜魔皇だ!」

焔竜魔皇マ・グー疲労⇨重疲労

リリモンは花の形をした銃を両手に持ち、焔竜魔皇めがけ撃つ、直撃した焔竜魔皇はあまりの疲労により、その場に倒れこむ。

マーゼ「?!焔竜魔皇!」

菜々子「旋風?重疲労?」

カイネ「重疲労は疲労のさらに上の状態、一回の回復でも疲労状態になる、緑特有の厄介な効果だ」

重疲労がわからない菜々子にカイネが説明を加えた。

菜々子「え?!じゃあ、リフレッシュステップでも疲労状態のままってこと?!」

菜々子は重疲労の厄介さを理解した。

小次郎「まだあるぜ!リリモンはアタック時にコアを2つ追加し、ターンに1回、回復する!」

リリモン(5⇨7)疲労⇨回復

リリモンは緑の光を纏い回復した。

花火「すげえ!緑の強い効果がすべて詰まってやがる!」

小次郎「さあアタックは継続中！」

マーゼ「そう簡単には死なないさ、フラッシュユタイミング！マジック、リミツテッドバリアを使用！不足コストは焰竜魔皇マ・グーをLV1にして確保！」

手札1 ⇨ 0

焰竜魔皇マ・グーLV3 ⇨ 1 (5s ⇨ 1s)

トラッシュユ0 ⇨ 4

小次郎「?!」

【リミツテッドバリア】 白属性 4コスト 白1軽減

マジック

フラッシュ

このターンの間、コスト4以上のスピリット／アルティメットのアタックでは、自分のライフは減らない。コストの支払いにソウルコアを使用していたら、さらに、相手のネクサス1つを手札に戻す。

リリモンは手から緑の波動を出し、マーゼのライフを砕こうとするが、リミツテッドバリアの壁に塞がれてしまう。

マーゼ「このターンの間、俺のライフはコスト4以上から減らされないぜ」

小次郎「……減らされないだけ、だろ？もう一度だ！リリモン！2つコアブー

ストして、さらに、「旋風：1」の効果で今度は焰竜魔人を重疲労だ!」

リリモン (7 ⇨ 9)

焰竜魔人マ・グー疲労 ⇨ 重疲労

リリモンは今度は焰竜魔人に向かって花形の銃を撃つ、焰竜魔人も焰竜魔皇のように倒れてしまう。

マーゼ「くっ、ライフだ」

マーゼのライフはリミットドバリアで守られた。

小次郎「・・・ターンエンド」

リリモンLV3 (9) BP12000

バースト有

「ターン07」マーゼ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札0 ⇨ 1

マーゼ「リフレッシュステップ!」

リザーブ1 ⇨ 5

トラッシュユ4 ⇨ 0

マーゼはリフレッシュステップを行うが、モダニックは普通に回復したものの、残ったマ・グー2体は倒れ込んだ状態から膝をついた状態になるだけであった。

マーゼ（くっ、マ・グー達はもうほとんど使い物にならない！だが、奴のライフは残り1！回復状態のスピリットもない！このターンで押し切る！）

マーゼ「メインステップ！もう一体モダニックを召喚！」

手札1→0

リザーブ5→4

マーゼのフィールドにもう一体モダニックが出現する。

マーゼ「さらに、コアを移動させて、LVを調整！」

焰竜魔皇マ・グーLV2（3）BP11000疲労

焰竜魔人マ・グーLV1（1）BP16000疲労

モダニック・ドラゴンLV2（3）BP7000

モダニック・ドラゴンLV2（3）BP7000

千歳の渓谷LV1×3

バースト無

マーゼ「アタックステップ！焰竜魔皇の効果で、全ての古竜にBP+3000と赤の

シンボルを追加！」

膝をついた焔竜魔皇が咆哮すると、全てのスピリットが咆哮し、一瞬赤く発光した。

マーゼ「やれ!モダニック!トドメだ!」

小次郎「甘いぜ!俺の知ってる最強の赤バトラーはそんなんじやねえぞ!アタック後
バースト!風刃結界!リリモンをBP+10000して回復!さらに、フラッシュ効果
を使用して、回復してるモダニックを疲労!」

リザーブ5→3

トラッシュ3→5

リリモン疲労→回復

【風刃結界】緑属性 3コスト 緑2軽減

バースト:相手のスピリット/アルティメットのアタック後

このターンの間、自分のスピリット1体をBP+10000し、そのスピリットを回
復させる。その後コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

相手のスピリット1体を疲労させる。または、コスト4以下の相手のスピリット3体
を疲労させる。

マーゼ「なん、だと、」

モダニック回復 ⇨ 疲労

リリモンは風を纏い、疲労状態から回復状態になる。逆にアタックしてなかった方のモダニックは疲労してしまう。

小次郎「アタック中のモダニックはリリモンでブロック！」

リリモンは掌から緑の波動を打ち出し、迫ってくるモダニックを撃ち抜く。モダニックはたちまち爆発を起こす。

マーゼ「・・・ターンエンド」

「ターン08」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 9

トラッシュ5 ⇨ 0

小次郎「メインステップはなにもしない、このままアタックステップを行う！いけ！リリモン！アタックだ！コアを2つ追加し、ターンに1回、回復！さらに、【旋風：1】で、焔竜魔王・グーを重疲労！」

リリモン(9 ⇨ 11) 疲労 ⇨ 回復

焰竜魔皇マ・グー疲労 ⇨ 重疲労

リリモンは再び、焰竜魔皇を打ち抜き、叩き伏せた。

マーゼ「ライフで受ける」

ライフ2 ⇨ 1

リリモンは掌から緑の波動を打ち出し、マーゼのライフを破壊した。

小次郎「これでラスト!リリモン!効果でコアブースト&重疲労!今度は焰竜魔人

マ・グー!」

リリモン(11 ⇨ 13)

焰竜魔人マ・グー疲労 ⇨ 重疲労

焰竜魔人マ・グーも焰竜魔皇マ・グーに続くようにリリモンの巨大な砲撃に叩き伏せ

られた。

マーゼ「・・・合格だ!緑坂小次郎!これからもリリモンをよろしくな!ライフで受

ける!」

ライフ1 ⇨ 0

マーゼはライフ0に伴い、バトルフィールドから弾かれる。

小次郎「もちろんだとも!これからもよろしく!リリモン!」

小次郎が言うと、リリモンもピースサインを上げて喜んでいた。バトルが終わり、みんな戻ってきたが、

カイネ「!?ここって」

花火「元いたお寺だ」

花火達は謎の遺跡ではなく、元いたお寺に帰ってきてしまった。

菜々子「マーゼさんもない」

花火「夢だったのか？」

小次郎「いや、夢じゃない」

小次郎は他の3人にパルモンのカードを見せて、今までのことが夢ではないことを伝える。

花火「!じゃあ一体マーゼさんは何者だったんだ」

4人はお寺を眺めるが、ただ眺めるだけでは当然答えは出なかった。花火達のなんとも摩訶不思議な体験であった。

一方その頃、反乱軍の飛行船内では、

シユリ「間も無く、緑の大陸です、シデンさん」

シデン「ああ、そうか、．．．．奴に会うのが楽しみだ」

シデンはシユリの言葉に薄く笑い、答えた。その手には、究極体、メタルガルルモン

が握られていた。

第15話 究極対決！ウオーグレイモンVSメタルガルルモン！

花火達は緑の大陸を横断していた。

目指すは白の大陸。

カイネ「このペースだとあと2日くらいで港に着くかもね〜」

菜々子「緑の大陸も結構長かったね〜」

花火「緑の次は黄の大陸かー、んでその次が、青の大陸、まだまだ旅は終わんねえな」

小次郎「おい！一木花火！」

小次郎が大きい声で花火を呼ぶ。

花火「んだよ小次郎、急に」

小次郎「今の俺は、お前より強い気がする！俺と勝負だ！」

小次郎は花火にデッキを向け、勝負を挑もうとする。

カイネ「どうしたのいきなり」

小次郎は2種目のDパラディンを得て少々天狗状態であった。

菜々子「でも、なんか久しぶりだね、小次郎君が花ちゃんにバトル挑むの、」

花火「まあ、いいぜ!かかってこいよ!」

花火もやる気満々だった。だが、

カイネ「ちよつ、待つてあれ何!？」

カイネは指を震わせながら空に向ける。花火達はその方向に振り向くと、それは反乱軍の飛行船だった。

小次郎「あつ!あれは!」

花火「反乱軍の飛行船!」

小次郎「てか、なんかやばくね!？」

花火「こつちに落つこちてくるぞ!」

飛行船は真つ直ぐ花火達の方へ着陸しようとしていた。

花火達は急いでその場を離れようとする。

花火「みんな逃げろー!!」

飛行船はジェット機のように着陸した。

花火達は間一髪、なんとか避けた。

小次郎「おい!前くらい見ろ!運転手誰だ!」

小次郎は野次を飛ばした。

すると中からシユリとシデンが降りてくる。

シデン「それはすまなかつた、俺が代表して謝ろう」

シユリ「久しぶりだね、一木花火、空野菜々子」

花火「・・・ああ」

小次郎「俺は？」

カイン「あれが噂の反乱軍？」

カインは菜々子に聞いた。

菜々子「そう、忍者っぽいのがシユリで、金髪の人は・・・誰？」

シデン「自己紹介がまだだったな、俺はシデン、反乱軍のリーダーだ」

金髪の男の正体を知り、花火達は驚く。

花火「お前が反乱軍のリーダー?!」

シデン「ああ、この間はシユリや妹が世話になったな」

小次郎「？妹って？」

シデン「イトニだ」

菜々子&小次郎「えええええ?!妹おお!?!」

菜々子と小次郎はイトニがシデンの妹と聞いて驚いた。

花火「で？わざわざ、道の真ん中に無理やり飛行船止めてまで俺らに会いに来た理由

はなんだ？」

花火はシデンに問う。ちなみに花火はイトニがシデンの妹だということはあるとなくわかっていた。それはアカダツケ村でイトニと会った時の彼女の言動から、イトニの兄は上位の人間であると認識していたからだ。

シデン「……シユリに勝利したと聞いた時からお前とバトルがしたくてな、お前も持っているんだらう? 究極体を」

花火「!!まさかお前も、」

シデン「ああ、Dパラダインの1体を持っている」

シデンは究極体のメタルガルルモンのカードを見せて花火達に確信させる。

菜々子「ウォーグレイモン以外の究極体がいるなんて、」

カイネ(そっかー、2体だったね)

シデン「さあ、返事を聞こうか」

花火「やるに決まってるだろ、いくぜ!」

花火はまだ何か裏があるだろうと踏んでいたが、単純にウォーグレイモン以外の究極体にも興味があった。

花火&シデン「ゲートオープン! 解放!」

2人はバトルフィールドに行く、他の4人も観客席で2人のバトルを見届ける。

シデンの先行でバトルが始まる。

「ターン01」シデン

スタートステップ

ドローステップ 手札4⇩5

シデン「メインステップ、デスクリターナーをLV1で召喚」

手札5⇩4

リザーブ4⇩1

トラッシュ0⇩2

傷を負った騎士がシデンのフィールドに現れる。

【デスクリターナー】紫属性 2コスト 紫1軽減

系統：呪鬼

LV1(1) BP2000

LV2(3) BP3000

シンボル紫

【不死：コスト0/3】『お互いのアタックステップ』

トラッシュにあるこのスピリットカードは、コスト0/3の自分のスピリットが破壊されたとき召喚できる。

シデン「ターンエンド」

デスリターナーLV1(1) BP2000

バースト無

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4⇨5

ドローステップ 手札4⇨5

花火「メインステップ!ロクケラトプスをLV1で、アシガラプターLV2で召喚

!

手札5⇨3

リザーブ5⇨0

トラッシュ0⇨2

花火のフィールドに3本のツノを持つ恐竜と足軽の衣装を身に纏った恐竜が現れた。

【ロクケラトプス(リバイバル)】赤属性 1コスト 赤1軽減

系統：地竜

LV1(1) BP3000

LV2(2) BP5000

LV3(3) BP6000

シンボル赤

【アシガルラプター】 赤属性 2コスト 赤2軽減

系統：地竜

LV1(1) BP2000

LV2(2) BP3000

シンボル赤

LV1・2 『このスピリットのアタック時』

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、自分はデッキから1枚ドローする。

アシガルラプターLV2(2s) BP3000

ロケラトプスLV1(1) BP3000

バースト無

花火「アタックステップ！いけ！アシガルラプター！アタック時効果で1枚ドロー！」

手札3 → 4

シデン「ライフで受ける」

ライフ5 → 4

アシガルラプターは体当たりでシデンのライフを破壊した。

花火「続け!ロクケラトプス!」

シデン「これもライフだ」

ライフ4 ⇨ 3

ロクケラトプスもアシガルラプターと同じように体当たりでシデンのライフを破壊した。

花火「・・・ターンエンド」

「ターン03」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレツシユステップ

リザーブ4 ⇨ 6

トラツシユ2 ⇨ 0

シデン「メインステップ、クリスタニードルをLV1で召喚、さらに、ネクサス、万本槍の古戦場をLV1で配置」

手札5 ⇨ 3

リザーブ 6 ⇨ 1

トラツシユ 0 ⇨ 4

紫の体色で小柄の龍、または、蛇のようなスピリット、クリスタニードルと幾多もの槍が刺さっている戦場が姿を見せる。

【クリスタニードル】紫属性 0コスト 軽減無

系統：妖蛇・死竜

LV1 (1) BP1000

LV2 (2) BP2000

LV3 (5) BP6000

シンボル紫

LV1・2・3 『相手によるこのスピリットの消滅／破壊時』
相手のネクサス1つを破壊する。

【万本槍の古戦場】紫白属性 6コスト 紫3軽減 白2軽減

ネクサス

LV1 (0)

LV2 (2)

シンボル紫白

LV1・2

相手のスピリット／アルティメットが疲労したとき、自分はデツキから1枚ドロースる。

LV2 『自分のアタックステップ』

自分がドロートしたとき、相手のスピリットのコア1個を相手のリザーブに置く。

シデン「・・・まだ、動く時ではないか、なら、ターンエンドだ」

クリスタニードルLV1(1) BP1000

デスリターナーLV1(1) BP2000

万本槍の古戦場LV1

バースト無

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ 1 ⇨ 3

トラッシュ2 ⇨ 0

ロクケラトプス疲労 ⇨ 回復

アシガルラプター疲労 ⇨ 回復

花火「メインステップ！もう一体ロクケラトプスを召喚！LVは3！」

手札 5 ⇨ 4

リザーブ 3 ⇨ 0

花火のフィールドにもう一体ロクケラトプスが出現する。

花火「アタックステップ！いけ！アシガルラプター！」

シデン「お前のスピリットが疲労した時、ネクサス、万本槍の古戦場の効果でデッキから1枚ドローする」

手札 3 ⇨ 4

万本槍の古戦場が紫に光ると、シデンのデッキのカードが上から1枚、彼の手札にく。

花火「!!でも、こっちもアシガルラプターの効果でドローだ」

手札 4 ⇨ 5

シデン「そいつのアタックはデスリターナーが迎え討とう、」

アシガルラプターの道をデスリターナーが阻もうとするがアシガルラプターの突進にあっさりやられてしまう。

花火「まだいくぜ!LV1のロクケラトプスでアタック!」

シデン「万本槍の古戦場の効果でドロ、そして、クリスタニードルでブロックしよう」

クリスタニードルはロクケラトプスを阻むが、ロクケラトプスの体当たりで力つき、爆発した。だが、

シデン「この瞬間、デスリターナーの『不死』を発揮!コスト0か3が破壊された時、トラツシユから召喚できる!蘇れデスリターナー!」

リザーブ3[→]1

トラツシユ4[→]5

花火「!?」

フィールドに紫の渦が出現すると、その中から、デスリターナーが這い上がってくる。シデン「さあどうする?」

花火「・・・ターンエンド、」

菜々子「なかなか、勝負が進展しないね」

カイネ「お互いまだ、軸になるカードを出していないからね」

小次郎「シデンがまだアタックしてないってのもあるな。ライフが減らないから花火のコアが増えないんだ」

「ターン05」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシユステップ

リザーブ2 ⇨ 7

トラツシユ5 ⇨ 0

シデン「メインステップ、さて、そろそろこちらから動かないとジリ貧になりかねないな、よし！ネガ・テュポーンをLV2で召喚！」

手札6 ⇨ 5

リザーブ7 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 3

【ネガ・テュポーン】 白属性 5コスト 白2軽減 紫1軽減

系統：機獣・妖蛇

LV1 (1) BP5000

LV2 (3) BP6000

LV3 (4) BP7000

シンボル白

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

相手のネクサス3つを手札に戻す。

【連鎖・紫】(自分の紫シンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する)

紫：自分はデッキから1枚ドローする。

LV1・2・3 『相手のアタックステップ』

相手のスピリットがアタックしたとき、ボイドからコア1個を自分の紫のスピリットに置き、このスピリットは回復する。

LV2・3

このスピリットの色とシンボルは紫としても扱う。

花火「白のスピリット!？」

シデン「ああそうだ、でもこいつはLV2から紫としても扱える。召喚時効果で1枚ドローだ」

手札5 → 6

7つの首を持つ蛇のようなロボットが召喚される。

ネガ・テュポーンは白のスピリットだが、召喚時に紫の連鎖でデッキから1枚ドローできる。

シデン「さらに、ブレイブカード、ザグナ・オリックスを召喚して、ネガ・テュポーンと合体だ」

手札6 → 5

リザーブ1 → 0

【ザグナ・オリックス】紫属性 4コスト 紫2軽減 白1軽減

ブレイブ

系統：無魔

L V 1 (1) B P 3 0 0 0

合体 (0) B P 3 0 0 0

シンボル紫

《合体条件：コスト4以上》

【合体時】『このスピリットのアタック時』

疲労状態の相手のスピリット1体を指定し、そのスピリットにアタックできる。

【連鎖：白】（自分の白のシンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する）

白：ボイドからコア1個を系統：「機獣」を持つ自分のスピリット1体に置く。

聖騎士の鎧を身につけたような馬型のブレイブ、ザグナ・オリックスが現れた。ザグ

ナ・オリックスはそのまま、鎧だけを残り、消滅、ネガ・テュポーンの胴体に装着された。

シデン「ネガ・テュポーンで合体アタック、ザグナ・オリックスの合体時効果で、疲労状態のアシガルプターに指定アタック、さらに白の連鎖でネガ・テュポーンにコア1つを追加する、コア増加に伴い、LV3にアップ」

花火「くっつ!アシガルプターでブロック、」

ザグナ・オリックスは合体時に疲労状態の相手のスピリットに指定してアタックできる効果と白の連鎖で系統：機獣を持つスピリットにコアを1つ追加する効果がある。アシガルプターは果敢にネガ・テュポーンに立ち向かうが、ネガ・テュポーンの7つの口から発射される光線にあっさり破壊された。

シデン「ターンエンドだ」

ネガ・テュポーン+ザグナ・オリックスLV3(4) BP10000

デスリターナーLV1(1) BP2000

万本槍の古戦場LV1

バースト無

花火「くそ!急にきたな」

「ターン06」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

ロクケラトプス疲労 ⇨ 回復

花火「メインステップ！ 召喚！ ナノテイラー！ ロクケラトプスの力を借りてLV2で召喚！ さらに、バーストをセット！」

手札6 ⇨ 4

リザーブ3 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 2

花火のフィールドにレーシングカーのような物を装備している肉食恐竜が現れる。

【ナノテイラー】 赤属性 4コスト 赤2軽減 緑1軽減

系統：地竜

LV1 (1) BP5000

LV2 (3) BP8000

LV3 (5) BP12000

シンボル赤

LV1・2・3 【真・激突】『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメットは、可能ならブロックする。

【連鎖・緑】（自分の緑のシンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する）

緑：ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

LV2・3

このスピリットの色とシンボルは緑としても扱う。

ナノティラーLV2（3）BP8000

ロクケラトプスLV1（1）BP3000

ロクケラトプスLV1（1）BP3000

バースト有

花火「アタックステップ! いけ! ナノティラー! アタック時効果で【真激突】プラス

【連鎖・緑】でコア1つをナノティラーに!」

シデン「万本槍の古戦場の効果で1枚ドロ、・・・さらに、ネガ・テュポンの効

果! 相手がアタックしてきたときに、コア1つを紫のスピリットに置き、ネガ・テュポ

ンは回復する!」

手札5 → 6

ネガ・テュポーン+ザグナオリックス疲労 → 回復

花火「!?なに!？」

シデン「ブロックしてやれ、ネガ・テュポーン」

紫のスピリットのデスリターナーにコアが置かれると同時にネガ・テュポーンは白いオーラを纏い、回復した、そして、そのまま走ってくるナノテイラーをアシガルラプターと同じように7つの口からの光線で返り討ちにした。

花火「くっ！ターンエンドだ」

ネガ・テュポーンより、BPが高いスピリットがない花火はこのままターンを終了した。

小次郎「やばい、めっちゃ、相手のペースじゃないか」

菜々子「まだデジタルスピリットも使っていないのに、花ちゃんをすごい圧倒してる」

カイネ「あれが、反乱軍のリーダー、シデン」

3人はシデンの強さを痛感していた。

「ターン07」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 5

トラツシュ4 ⇨ 0

ネガ・テュポーン+ザグナオリックス疲労 ⇨ 回復

シデン「メインステップ、バーストセット、デスリターナーをもう一体LV2で召喚、もう一体もLV2にアップ」

手札7 ⇨ 5

リザーブ5 ⇨ 0

トラツシュ0 ⇨ 1

シデンのフィールドにデスリターナーがもう一体現れた。

ネガ・テュポーン+ザグナ・オリックスLV3 (4s) BP100000

デスリターナーLV2 (3) BP30000

デスリターナーLV2 (3) BP30000

万本槍の古戦場LV1

バースト有

シデン「アタックステップ、やれ、ネガ・テュポーン、ザグナ・オリックスの効果でコアー1つを追加」

ネガ・テュポーンは合体により、ダブルシンボルである。

花火「ライフで受ける」

ライフ5 ♪ 3

ネガ・テュポーンは7つの口から光線を発射し、花火のライフを2つ破壊した。だが、花火「ライフ減少により、バースト発動！ダイナバースト！BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊！お前だ！ネガ・テュポーン！」

シデン「!?」

【ダイナバースト】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

バースト：自分のライフ減少後

BP10000以下の相手のスピリット／アルティメット1体を破壊する。その後、コストを支払うことで、このカードのメイン効果を発揮する。

メイン

自分はデッキから2枚ドローする。

ネガ・テュポーンの足元から一本の火柱が上がる、ネガ・テュポーンはそのまま焼き尽くされてしまった。合体してたザグナ・オリックスは爆発の際に脱出した。

花火「メイン効果を使って、2枚ドロー」

リザーブ6 ♪ 4

トラツシュ2 ⇨ 4

手札4 ⇨ 6

シデン「ふっ!なかなかやるじゃないか、」

花火「お前もな」

花火とシデンはお互いを睨み合う。

シデン「・・・ターンエンド」

「ターン08」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシュステップ

リザーブ5 ⇨ 9

トラツシュ4 ⇨ 0

花火「メインステップ!タヌグリンをLV1で召喚!」

手札7 ⇨ 6

リザーブ9 ⇨ 6

トラツシュ0 ⇨ 2

花火のフィールドに、真緑色のタヌキが召喚される。

【タヌグリン】緑属性 3コスト 緑1軽減 赤1軽減

系統：遊精

L V 1 (1) B P 3 0 0 0

L V 2 (3) B P 5 0 0 0

シンボル緑

L V 1・2 『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個を自分の赤のスピリットに置く。

【連鎖：赤】(自分の赤のシンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する)

赤：相手のネクサス1つを破壊する。

赤赤：B P 4 0 0 0 以下の相手のスピリット1体を破壊する。

シデン「ほう、緑のスピリットか、」

花火「ああ、でも効果は赤よりだけ！召喚時効果で赤のスピリットにコア1つを追加！さらに【連鎖：緑】を発揮赤のシンボル2つで相手のネクサスとB P 4 0 0 0 以下の相手のスピリットを1体破壊！ザグナ・オリックスと万本槍の古戦場だ！」

シデン「！」

タヌグリンは緑色の炎を口から発射すると、ザグナ・オリックスと、万本槍の古戦場

が一直線に焼き尽くされた。

花火「もう1体タヌグリンを召喚!召喚時効果でコアを1つ追加して、今度はデスリターナーを1体破壊!」

手札6 → 5

リザーブ6 → 4

トラッシュ2 → 3

花火は間髪入れずに2体目のタヌグリンを召喚する。2体目のタヌグリンは1体目と同じように、緑の炎でデスリターナーを1体破壊した。

花火「まただ!見せてやるぜ!俺のDパラディンを!召喚!アグモン!LV3!」

手札5 → 4

リザーブ4 → 0

トラッシュ3 → 4

黄色の体色でデフォルメされた恐竜のようなスピリット、アグモンが召喚される。

【アグモン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統：成長期・爬獣・地竜

LV1(1) BP3000

LV2(2) BP5000

LV3 (4) BP6000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統：「成熟期」／「完全体」を持つ自分のスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名：「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

LV2・3 【進化：赤】 『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「成熟期」を持つ自分のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

シデン 「そうか、それがお前の成長期か」

花火 「召喚時効果で2枚オープン！」

オープンカード

【アシガルラプター】

【ダイナパワー】

この2枚はアグモンの効果の対象外なため2枚ともトラッシュに送られた。

花火 「鎧機竜シルヴィードを召喚！」

手札4 → 3

ロクケラトプス(2 → 1)

トラッシュユ4 → 5

地中からブレイブの鎧機竜シルヴィードが召喚される。

【鎧機竜シルヴィード】 赤属性 3コスト 赤2軽減

ブレイブ

系統：地竜

LV1(1)

合体(0) + 3000

シンボル無

LV1『このブレイブの召喚時』

自分のトラッシュユにある系統：「地竜」を持つスピリットカード1枚を手札に戻す。

《合体条件：地竜》

【合体時】【激突】『このスピリットのアタック時』

相手は可能ならスピリットでブロックする。

花火「鎧機竜シルヴィードの召喚時効果でトラッシュユの【連鎖】を回収!帰ってこい

!ナノテイラー!」

手札3 → 4

ナノテイラーのカードが花火のもとに舞い戻ってくる。

花火「鎧機竜シルヴィードをアグモンに合体！」

アグモンは鎧機竜シルヴィードの上に乗っかる。

アグモン+鎧機竜シルヴィードLV3(4) BP9000

ロクケラトプスLV1(1) BP3000

ロクケラトプスLV1(1s) BP3000

タヌグリンLV1(1) BP3000

タヌグリンLV1(1) BP3000

バースト無

花火「アタックステップ！いけ！アグモン！合体アタックだ！シルヴィードの合体時効果【激突】残ったデスクリーナーにはブロックしてもらおうぜ！」

シデン「いいだろう、ブロックだ、デスクリーナー」

デスクリーナーはアグモンを乗せたシルヴィードを止めようとするが簡単に吹っ飛ばされてしまう。

小次郎「！これであいつのフィールドはガラ空き！残ったスピリットのフルアタックが通れば花火の勝ちだ！」

シユリ（はたして通るかね？）

花火「ロクケラトプスでアタック!」

シデン「ライフで受ける」

ライフ3 → 2

ロクケラトプスは体当たりでシデンのライフを破壊したが、

シデン「バースト発動!絶甲氷盾!ライフを1つ回復し、コストを支払いアタックス
テップを終了させる!」

ライフ2 → 3

リザーブ11 → 7

トラツシユ1 → 5

【絶甲氷盾】白属性 4コスト 1軽減

マジック

バースト:自分のライフ減少後

ボイドからコア1個を自分のライフに置く。その後コストを支払うことで、このカー
ドのフラツシユ効果を発揮する。

フラツシユ

このバトルが終了したとき、アタックステップを終了する。

花火「くっ!」

ロクケラトプスのアタックが終わった瞬間に巨大な氷山の一角が現れ、花火のスピリット達の行く手を阻んだ。

花火「エンドステップ！トラッシュのダイナパワーの効果で、ダイナパワーを回収する……ターンエンド」

手札4 → 5

花火はそのまま仕方なくターンを終えた。

花火「なあ、シデン、」

シデン「？なんだ」

花火「いい加減話せよ、他に何か理由があつて来たんだろ？」

花火はシデンに何か隠して居るだろうと言わんばかりに聞いてくる。

シデン「……ふつ、やはり気づいていたか、実はな一木花火、今日俺らが、わざわざこんなところまで出向いやつたのは……お前に俺たち反乱軍の一員になってほしいからだ」

シデンの言葉にシュリを除く誰もが驚いた。

菜々子「えっ、これってスカウトしに来たってこと!？」

小次郎「おい！それって俺たちも行くのか!？」

小次郎は大きい声でシデンに質問した。

シデン「あいにくだが、お前らは興味がない」

シデンはどうかやら花火だけを勧誘しているようだ。

花火「・・・なんで俺だけそんな勧誘すんだよ」

シデン「お前には才があると俺は見ている、お前は俺と同じランクのDパラディンに選ばれているからな、俺たちと共に、Dポリスを討とうではないか!」

シデンは熱く語るが、花火の返事は、

花火「・・・嫌だ、お前らは武龍村を襲った奴らだ、そんな奴らと一緒にはいけない、

後、俺はDポリスの人達が悪い人たちには見えない」

花火はきつぱり断った。

シデン「Dポリスはもう一度オメガバーストを使って、この世界を本当に牛耳るつもりなんだぞ! 貴様はどうでもいいというのか」

シデンの言葉にまたまた、シュリ以外の4人は驚いた。

花火「はあ? どういうことだよ! サツマさん達がそんなことするもんか!」

シデン「奴らは10年前に結成してから、白の大陸を鎖国状態にし、謎の機械で大陸や周りの海域に膨大な霧を発生させ、誰も近づけないようにした。そして、デジタルスピリットの複製を使ってゆつくりとオメガバーストに必要なパワーを集めているのだ、」

花火「……（どういふことだ？こいつが嘘を言っているようには見えない）」
 シデン「奴らを倒すために、俺らはいかなる犠牲を払ってでも、強くならねばなら
 ないのだ!!」

シデンはターンを進める。

「ターン09」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ7 ⇨ 8

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシユステップ

リザーブ8 ⇨ 13

トラツシユ5 ⇨ 0

シデン「メインステップ、クリスタニードルをLV3で召喚、そして！我がDパラダイ
 ン！ガブモンをLV3で召喚！」

手札6 ⇨ 4

リザーブ13 s ⇨ 2 s

トラツシユ0 ⇨ 2

シデンのフィールドに再びクリスタニードルが現れると同時に、ツノを生やしてい

て、毛皮を被っているスピリット、ガブモンが召喚される。

【ガブモン】紫属性 3コスト 紫2軽減

系統：成長期・爬獣

LV1(1) BP3000

LV2(3) BP5000

LV3(4) BP6000

シンボル紫

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成長期」／「完全体」持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名「アグモン」がいるとき、オープンするカードを3枚にする。残ったカードは破棄する。

LV2・3 【進化：紫】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成長期」を持つ紫のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

花火「あれがシデンのDパラディン」

花火はいっそう強くシデンのスピリットを警戒する。

シデン「召喚時効果で2枚オープン！」

【ガルルモン】

【フェーズチェンジ】

シデン「ガルルモンを手札に加え、残りは破棄」

手札4 → 5

成熟期のガルルモンのカードがシデンに加えられた。

シデン「バーストセット！アタックステップ開始時！いくぞ！ガブモン！進化だ！」

手札5 → 4

ガブモンはシデンの呼び声に頷くと成熟期のガルルモンに進化した。

【ガルルモン】紫属性 4コスト 紫2軽減

系統：成熟期・剣獣

LV1(1) BP3000

LV2(3) BP5000

シンボル紫

LV1・2【超進化：紫】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ自分の紫のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

LV2『このスピリットのアタック時』

相手のスピリットのコア1個を相手のリザーブに置くことで、自分はデツキから1枚ドローする。

シデン「アタックだ!ガルルモン!アタック時効果で相手のコアを1個リザーブに置き、デツキから1枚ドローする!タヌグリン!」

手札4 → 5

花火「!?なに!?!」

タヌグリン(1 → 0)

ガルルモンの青い炎に包まれタヌグリンは消滅した。

シデン「まだ続くぞ!ガルルモン!超進化だ!ワーガルルモンをLV3でだそう!」

リザーブ2s → 1s

ガルルモンが紫の光に包まれ完全体のワーガルルモンに姿を変えた。

【ワーガルルモン】紫属性 6コスト 紫3軽減

系統:完全体・獣頭

LV1(1) BP5000

LV2(3) BP8000

LV3(5) BP12000

シンボル紫

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時／アタック時』

相手のスピリットのコア2個を相手のリザーブに置く。

LV2・3 『自分のアタックステップ』

相手のスピリットが消滅したとき、このスピリットは回復する。

シデン「ワーガルルモンの召喚時効果で相手のスピリットのコア2個を相手のリザーブに置く！回復状態のロクケラトプスと残ったタヌグリンからコア1個ずつをリザーブに！」

花火「くっ！」

ロクケラトプス（1s ⇨ 0）

タヌグリン（1 ⇨ 0）

ワーガルルモンは自身の強靱な腕から斬撃のようなものを飛ばし、ロクケラトプスとタヌグリンに当てる、2体はたちまち消滅してしまう。

花火（完全体まで来たって事は次は絶対究極体に煌臨してくるはずだ、だったら元を絶やしてやる！）

花火「フラッシュタイミング！煌臨！発揮！ウォーグレイモン！対象は合体しているアグモン！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ3s ⇨ 2

トラッシュ5 ⇨ 6s

シデン「!くるか!お前の究極体が!」

花火「ああ!いくぜ!始まりの龍よ!今こそ究極の龍人となりて敵を討て!ウォーグレイモン!究極進化!」

アグモンはシルヴィードの上を飛び降りると、グレイモン、メタルグレイモン、そして、ウォーグレイモンへと、ワープ進化した。

〔ウォーグレイモン〕 赤属性 9コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：究極体・竜人・地竜

LV1 (1) BP8000

LV2 (3) BP12000

LV3 (4) BP16000

シンボル赤

フラッシュ《煌臨：赤／白&コスト6以上》『お互いのアタックステップ』（自分のソウルコアをトラッシュに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねる。）

LV1・2・3 『このスピリットの召喚／煌臨時』

ブレイブの「BP+」を無視して、BP合計15000まで相手のスピリット／アル

テイメットを好きナだけ破壊する。

L V 2・3 『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分のトラッシュにあるソウルコアをこのスピリットに置くことで、相手のライフのコア1個をボイドに置く。

菜々子「きた！ウオーグレイモン！」

シデン「これがお前の究極体か、」

花火「煌臨時効果でBP15000以下まで好きナだけスピリットを破壊する！ワーガルルモンを破壊！」

シデン「！」

ウオーグレイモンは特大のガイアフォースをワーガルルモンに撃ち込む、ワーガルルモンはガイアフォースに吞まれ、爆発した。

花火「よし！これで究極体への進化を防いだけ！シルヴィード！ウオーグレイモンと合体だ！」

ウオーグレイモンの背中のシールドとドラモンキラーが消滅して、代わりに、シルヴィードの武装が装着された。

シデン「なるほど、それが、そいつの効果か、だが、俺には敵わん！」

花火「!?!」

シデン「相手による破壊でバースト発動!天冥銃アーミラリー・スファイア!相手のスピリットのコア2個をリザーブに置く!残ったロクケラトプスを消す!」

紫の斬撃がロクケラトプスを消滅させた。これで花火の残ったスピリットはウォーグレイモンのみとなる。

花火「!?なんだそのカードは!?!」

ロクケラトプス(1→0)

シデン「消滅したら1枚ドロ、その後このブレイブを召喚する!こい!銃(ガン)ブレイブ!アーミラリー・スファイア!」

手札5→6

天冥銃アーミラリー・スファイアLV1(4)BP3000

魔法陣からアーミラリー・スファイアと言う名の銃が現れる。

【天冥銃アーミラリースファイア】紫属性 6コスト 紫3軽減

ブレイブ

系統:神銃

LV1(1)BP3000

合体(0)+3000

シンボル紫

ソウルバースト：相手による自分のスピリット消滅／破壊後

相手のスピリット1体のコア2個を相手のリザーブに置く。この効果で相手のスピリットが消滅したとき、自分はデッキから1枚ドローする。この効果発揮後、このブレイブカードをコストを支払わずに召喚する。

LV1【装填】

スピリット状態のこのブレイブは《煌臨》できる。このブレイブに《煌臨》したとき、この煌臨元カードは、そのスピリットに合体できる。

《合体条件：コスト5以上》

花火「銃ブレイブ？なんだそれは!？」

シデン「リアルワールド出身のお前が知らないのも無理はないな、これはデジタルスピリットに並ぶこの世界の宝なのだから」

小次郎「あれがブレイブ!？」

カイン「銃ブレイブ、噂は聞いてたけど初めて見たね」

菜々子「で、でも、合体できなかつたらただのスピリット状態のブレイブだよ!花ちゃんのライフは後3つだから、クリスタニードルと合わせてもあと1つは残る!」

シデン「ふっ!そいつはどうか?今度は俺のフラッシュユタイミングだ、煌臨!発揮!メタルガルルモン!対象はアーミラリー・スファイア!」

手札6 ⇨ 5

リザーブ2s ⇨ 1

トラツシュ2 ⇨ 3s

花火「!?なに!?スピリット状態のブレイブを煌臨の対象に!?」

シデン「それが天冥銃アーミラリー・スフィアの効果だ、【装填(リロード)】、スピリット状態のこのブレイブに煌臨できる、銃ブレイブは皆この効果を持っている」

普通はスピリット状態のブレイブには煌臨を行うことはできないが、装填の効果を持つブレイブのみ、条件が合えば煌臨できるのだ。

シデン「いくぞ!魔界の神器よ!鉄壁なる神獣とともに敵を砕け!煌臨!メタルガルルモン!」

紫の巨大な球からメタルガルルモンが姿をあらわす。

【メタルガルルモン】紫属性 9コスト 紫4軽減 白2軽減

系統：究極体・機獣

LV1(1) BP10000

LV2(3) BP14000

LV3(4) BP16000

シンボル紫

フラッシュ《煌臨：紫／白&コスト6以上》『お互いのアタックステップ』（自分のソウルコアをトラッシュに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねる。）

LV1・2・3

このスピリットは相手の効果で破壊されない。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメット／リザーブのコア2個を相手のトラッシュに置くことで、このスピリットは回復する。

花火「こいつが、ウオーグレイモンと同じ……」

メタルガルルモンとウオーグレイモンはお互いを睨み合う。

シデン「煌臨元になった銃ブレイブはそのまま煌臨スピリットに合体する！」

花火「!!」

アーミラリー・スファイアがメタルガルルモンの背中に装着される。するとメタルガルルモンの全身は薄い紫から濃い紫に変化し、眼の瞳も失われた。

メタルガルルモン+天冥銃アーミラリー・スファイアLV3（4）BP19000

シデン「さあ打点は足りたな、アタックだ！メタルガルルモン！アタック時効果でウオーグレイモンのコア2個をトラッシュに置き、回復する！」

メタルガルルモン+天冥銃アーミラリー・スファイア疲労↕回復

メタルガルルモンは氷のブレスをウオーグレイモンに向けて撃つ、ウオーグレイモンは吹っ飛ばされてしまう。

花火「?!んだよ!その効果!コアがあつたらずつとアタックできるじゃないか!」

ウオーグレイモン+シルヴィード(4⇨2)

トラツシユ6s⇨8s

シデン「さあ!アタックは継続中だ!」

メタルガルルモンはガシャンガシャンと音を立てながら走っていく。

花火「このまま引き下がってられるか!フラツシユタイミング!マジック!ガイアフオースを使用!クリスタニードルを破壊してウオーグレイモンを回復!」

手札4⇨3

リザーブ3⇨0

トラツシユ8s⇨11s

ウオーグレイモン+シルヴィード疲労⇨回復

【ガイアフオース】赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

フラツシユ

ブレイブの「BP+」を無視して、BP10000以下の相手のスピリット1体を破

壊する。さらに、カード名に「グレイモン」を含む自分のスピリット1体を回復する。クリスタニードルは巨大な火球をくらい爆発し、ウォーグレイモンは、赤く光、回復した。

シデン「!!そんな奥の手を隠していたとはな、だが!コスト0が破壊されたことにより、2体のデスリターナーの【不死】の効果を発揮!トラッシュから召喚する!」

リザーブ6 → 2

トラッシュ3 → 5

2体のデスリターナーは再び紫の渦から這い上がってくる。

花火「くっ!ブロックだ!ウォーグレイモン!」

ウォーグレイモンはシルヴィードの2本の剣にガイアフォースの力をこめて、斬撃を飛ばすが、メタルガルモンは全てそれを紙一重でかわしながらウォーグレイモンに迫る。そして、ウォーグレイモンと激突する、ウォーグレイモンは剣を捨て、メタルガルモンを受け止めるが、

シデン「お前の究極体はこの程度か、ガツカリだな」

メタルガルモンは装備されたアミラリー・スフィアの一撃でウォーグレイモンを貫く。ウォーグレイモンは力つき、その場で大爆発を起こした。シルヴィードは爆発に紛れて脱出した。

花火「ウォーグレイモン!!」

葉々子「そんな、ウォーグレイモンが、」

小次郎「おいおい、負けんなよ、一木花火!」

シデン「いけ! デスリターナー!」

花火「ライフで受ける」

ライフ3 → 2

デスリターナーは剣で花火のライフを破壊する。

シデン「トドメの前に聞いておこう、一木花火、お前は俺らの仲間になる気はあるか?」

花火「・・・どんな理由があろうと俺は他の人達を傷つけてまでDポリスを倒そうだなんて言ってるお前とは絶対に仲間にならない!」

シデン「・・・見損なつたぞ、一木花火、そこまで腰抜けだったとは。やれ、メタルガルルモン」

葉々子「花ちゃん!」

花火「・・・ライフで受ける」

ライフ2 → 0

メタルガルルモンは体中からミサイルを発射し、花火のライフを2つ破壊した。花火

はバトルフィールドから弾かれる。そして、全員元の場所に戻った。花火は疲れはてて横に倒れていた。

菜々子「花ちゃん!!」

カイネ「花火!」

カイネ、菜々子、小次郎の3人は花火に駆け寄る。

シデンはそれを見て呆れた顔をしていた。

シデン「ふん! 興ざめだ、帰るぞシユリ、奴はハズレだ」

シユリ「御意」

シデンとシユリは飛行船に戻る。飛行船は直ぐに離陸し、空の果てに消えていった。

その空は綺麗な夕焼けに染まっていた。

第16話 魅惑の黄色!エンジェウーモン舞う!

ここは黄の大陸、反乱軍の一員であり、シデンの妹でもあるイトニは黄の大陸の謎の遺跡にいた。その遺跡の周りには黄色い花しか存在しない花畑で溢れかえっていた。

イトニ「ここが、黄のデジタルスピリットが眠つてるとされる、マカロモ遺跡か、」

イトニはどンドン遺跡の中を進んでいきようやく中心部に到達する。すると、遺跡は急に光り輝きだす。

イトニ「!!この光は、あの時と同じ!てことは!」

祠からカード達が飛び出してくる。そのカード達は吸い込まれるようにイトニの手元に来る。先頭のカードの名前はパタモンと描いてあった。どうやら黄色のスピリットのようなのだ。

イトニ「やった!2種類のデジタルスピリット!しかも黄色!これでデツキを強化できる!兄イも喜ぶぞ〜!」

イトニはデジタルスピリットに選ばれたことに、喜びを感じる。すると、

???「お喜びのところ悪いがお嬢さん、そのカード達をただでやるわけにはいかないよ、ちゃんとテストしてもらわないと」

イトニ「誰!!」

イトニが振り向くとそこには若い男性がいた。急に出てきた気配に、イトニは驚いた。

ギーサ「ごめんごめん、僕の名前はギーサ、君をずっと待っていた。さあどれだけ強いのか確認させてもらうよ、今手に入れたカードを入れてもいい」

ギーサはイトニの手に持っている、遺跡のデジタルスピリットを指差しながら言う。だが、イトニは、

イトニ「いやいいよ、入れなくて、テストは受けて立つよ」

イトニは遺跡のデジタルスピリット達のカードを懐にしまった。

ギーサ「いいのかい?じゃあいくよ、」

イトニ&ギーサ「ゲートオープン!解放!」

2人はバトルフィールドに行く、ギーサのバトルアーマーはただの黒い鎧のようだった。イトニの先行でバトルが開始する。

「ターン01」イトニ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 → 5

イトニ「メインステップ!ネクサス、星空の冠(リバイバル)をLV1で配置!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 4

イトニの背後に置物のような冠が現れる。それはまるで、美術館にでも飾られているかのような代物であった。

【星空の冠(リバイバル)】黄属性 4コスト 黄2軽減

ネクサス

LV1(0)

LV2(1)

シンボル黄

LV1・2

相手によって自分のライフが減ったとき、自分はデッキから1枚ドローできる。その後、自分の手札にあるコスト2以下のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚できる。

LV2 『相手のターン』

効果で回復した赤／緑／白／青のスピリットすべてを破壊する。

イトニ「ターンエンド」

星空の冠LV1

バースト無

イトニはもうやることがないので、ターンを終えた。

「ターン02」ギーサ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

ギーサ「メインステップ、ブレイドラ3体と、森林のセツコーキジを2体召喚！」

手札5 ⇨ 0

リザーブ5 ⇨ 0

ギーサのフィールドに尻尾が剣のような形をしている小さな赤のドラゴン、ブレイドラが3体と甲冑を着込んだ雉の赤と緑のスピリット、セツコーキジが2体召喚される。

【ブレイドラ】 赤属性 0コスト 軽減無

系統：翼竜

LV1 (1) BP1000

LV2 (2) BP2000

LV3 (3) BP3000

シンボル赤

【森林のセツコーキジ】緑属性 1コスト 緑1軽減 赤1軽減

系統：爪鳥

LV1(1) BP1000

LV2(2) BP2000

シンボル緑

LV1・2

このスピリットと色とシンボルは赤としても扱う。

イトニ「はあ？」

イトニは口をあんぐりと開いて驚いた。

それもそのはず、この5体のアタックがすべて通れば自分のライフはすべてなくなるからだ。

ギーサ「いやー、デッキが固まっていたみたいでねー、でもこのターンで決まりそうだよ」

ギーサは柔らかい笑顔のままイトニに呟く。

ブレイドラLV1(1) BP1000

ブレイドラLV1(1) BP1000

ブレイドラLV1(1) BP1000

森林のセツコーキジLV1(1) BP1000

森林のセツコーキジLV1(1) BP1000

バースト無

ギーサ「アタックステップ、ブレイドラでアタック！」

イトニ「ライフで受ける！」

ライフ5 ♪ 4

ブレイドラは小さな炎を吹き上げてイトニのライフを破壊した。だが、その瞬間、イトニの星空の冠が輝きだす。

イトニ「星空の冠の効果を発揮する。私のライフが減れば、デッキから1枚ドロ」

手札4 ♪ 5

ギーサ「なるほどね〜そういう効果なのか、だが、まだまだいくよ！」

ギーサはこの後もブレイドラとセツコーキジで交互にアタックしていく。そして、

ギーサ「セツコーキジでアタック！」

イトニ「ライフで受ける！」

ライフ2 ♪ 1

セツコーキジは自前の剣でイトニのライフを破壊した。

「ギーサ「ふふ、残りライフ1これで終わりかな、」

イトニ「それはどうかな?」

イトニがそう言うと、星空の冠が再び、輝き出していく。

イトニ「星空の冠の効果で1枚ドロ!、星空の冠のもう1つの効果で、その後コスト2のスピリットがいればノーコスト召喚できる!来い!ダーク・デモボーン!LV2!」

手札8[→]7

リザーブ4[→]2

星空の冠の光の中から、ダーク・デモボーンが出現し、イトニのフィールドに飛び降りてきた。

【ダーク・デモボーン】紫属性 2コスト 紫2軽減

系統：無魔

LV1(1) BP1000

LV2(2) BP3000

シンボル紫

LV1・2 『このスピリットの破壊時』

コスト4以下の相手のスピリット1体を破壊する。

【連鎖：黄】（自分の黄シンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する）

黄：自分のスピリット1体を回復させる。

ギーサ「?!今ままでずつと持ってたの!?!」

イトニ「そう！正直このバトル、めんどくさいしね〜早く終わらせたいから、手っ取り早くコア貯めるために、ずつとダーク・デモボーンは握ってたよ、でもまさか、5体もちっこいのが出るとは思ってたけどね！」

ギーサ「ほほお？意外と策略家だね〜君は、じゃあ！ターンエンドで」

ギーサはブレイドラー1体をプロッカードに残してターンを終えた。

イトニ「意外とつてなんだよ！」

「ターン03」イトニ

スタートステップ

コアステップ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札7 ⇨ 8

リフレッシュステップ3 ⇨ 7

イトニ「さあて、最近使用許可が降りたし！使ってみようかな！召喚！テイルモン！

L V 3 !」

手札8 ⇨ 7

リザーブ7 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 3

白い猫のようなデジタルスピリット、テイルモンが召喚される。成長期のデジタルスピリットに見えるが、あ見えて成熟期のデジタルスピリットである。

【テイルモン】黄属性 4コスト 黄2軽減

系統：成熟期・漂精

LV1 (1) BP3000

LV2 (2) BP4000

LV3 (3) BP5000

シンボル黄

LV1・2・3 『このスピリットのアタック時』

ターンに1回、自分のデッキを上から1枚オープンできる。そのカードが系統：「完全体」を持つスピリットカードのとき、ボイドからコア1個を自分のライフに置く。オープンしたカードは手札に加える。

LV2・3 【超進化：黄】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統：「完全体」を持つ黄のスピリット

トカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

イトニ「星空の冠をLV2にアップ」

リザーブ1↔0

星空の冠(0↔1)

ギーサ「ほお、既に、黄色のDパラディンを持つてたかー」

イトニ「!?なんでDパラディンを知ってんだよ?」

ギーサ「あ!いやーなんでだろうね〜」

ギーサは口笛を吹いてごまかした。が、もう既にDパラディンについて、何かしら知っていることは明白であった。イトニは一旦このことを考えるのはやめにして、バトルに集中することにした。彼女の頭の中ではギーサをボコボコにして、話を無理矢理聞き出そうと考えていた。

イトニ「アタックステップ! いけ! テイルモン! アタック時効果で1枚オープン!」

オープンカード【エンジェウーモン】

イトニ「よし! さらに、オープンカードが完全体なら、ライフを1つ回復! オープンカードは手札に!」

手札7↔8

ライフ1↔2

オープンされたカードは完全体なのでイトニのライフが1つ回復した。

イトニ「テイルモンの【超進化：黄】発揮！成熟期のテイルモンを手札に戻して、完全体のエンジェウーモンに超進化！」

天空からテイルモンに聖なる光が降り注ぐ、テイルモンは猫の姿から美しい女性の姿をした大天使へと姿を変える。その名はエンジェウーモン。

【エンジェウーモン】黄属性 6コスト 黄3軽減

系統：完全体・天霊

LV1 (1) BP5000

LV2 (2) BP7000

LV3 (3) BP10000

シンボル黄

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

LV1の相手のスピリットすべてを手札に戻す。この効果で手札に戻したスピリット1体につき、ボイドからコア1個を自分のライフに置く。

LV1・2・3

系統：「天霊」を持つ自分のスピリットが相手の効果でフィールドを離れるとき、自分のライフのコアを好きなだけ、それらのスピリットに置ける。この効果でコアを置いた

スピリットは同じ状態でフィールドに残る。

ギーサ「おお！完全体まで！」

イトニ「エンジエウーモンの召喚時効果でLV1の相手のスピリットすべてを手札に戻す！消え失せな！雑魚ども！」

ギーサ「?!」

手札0 ♪ 5

エンジエウーモンは登場するなり、光の矢を放つ。その矢はギーサ側のフィールドの地面に突き刺さると、黄色い衝撃波が走る。ブレイドラとセツコーキジ達はその衝撃でデジタルの粒子となって5体ともギーサの手札に帰ってしまう。

イトニ「さらに、戻した数1つにつき、私のライフ1つを回復する。5体戻したから5つ回復する！」

ライフ2 ♪ 7

ギーサ「ええ!?!そんなに!?!」

イトニのバトルアーマーが一気に光輝く。このライフの回復量には今までまったく動じてなかったギーサも驚きを隠せなかった。

イトニ「一気に行け！ダーク・デモボーン！エンジエウーモン！」

ギーサ「ライフで受けるよ」

ライフ5 ⇨ 3

ダーク・デモボーンは握っている剣で、エンジェウーモンは掌から黄色い波動を出して、ギーサのライフをそれぞれ1つずつ破壊した。

イトニ「ターンエンド、星空の冠の効果には気をつけな〜」

エンジェウーモンLV3 (3s) BP10000

ダーク・デモボーンLV2 (2) BP3000

星空の冠LV2 (1)

バースト無

星空の冠LV2の効果は相手のターン中効果で回復した赤と緑と白と青のスピリットを破壊する効果がある、赤と緑が少なくとも入っている、ギーサのデツキではこの効果がどうしても邪魔になるのであった。

「ターン04」ギーサ

スタートステップ

コアステップ リザーブ7 ⇨ 8

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

ギーサ「メインステップ、ブレイドラ2体とセツコーキジ1体を召喚」

手札6 ⇨ 3

リザーブ 8 s ⇨ 5 s

ギーサのフィールドに再び、ブレイドラ2体とセツコーキジ1体が現れる。

ギーサ「さあ！ いかうか！ 召喚！ 太陽神龍ライジング・アポロドラゴン！ LV1！」

手札 3 ⇨ 2

リザーブ 5 s ⇨ 0

トラッシュ 0 ⇨ 4

太陽のようなものが地面に投下され、地面を燃やしていく。その中から、太陽の神龍、ライジング・アポロドラゴンが咆哮を上げ現れた。

【太陽神龍ライジング・アポロドラゴン】 赤属性 7コスト 赤3軽減

系統：神星・星竜

LV1 (1) BP 6000

LV2 (3) BP 9000

LV3 (5) BP 11000

シンボル 赤

LV1・2・3 『自分のアタックステップ』

系統：「星竜」を持つ自分のスピリットすべては、アタックするとき相手のスピリット1体を指定し、そのスピリットにアタックできる。

【合体時】LV3 『このスピリットの合体アタック時』

BPを比べ相手のスピリットだけを破壊したとき、相手のスピリット／ブレイブ／ネクス、どれか一つを破壊する。

イトニ「ふーん」

イトニはテストを早く終わらせたいからと言う心の表れなのか、興味なさそうにライジングを見た。

ギーサ「いけ!ライジング!ダーク・デモボーンに指定アタック!」

ライジング・アポロ・ドラゴンはLV1から系統：星竜を持つ自分のスピリットすべてに相手のスピリットを指定してアタックできる効果を持つ。ライジング自身も系統：星竜を持つスピリットなので当然自分にも効果が付与されている。

ライジングは低空飛行で真っ直ぐダーク・デモボーンに飛んでいく。ダーク・デモボーンはなすすべなく、あっさり吹っ飛ばされてしまった。

イトニ「ダーク・デモボーンの破壊時、コスト4以下の疲労状態のスピリット1体を破壊……は不発だけど、黄色の【連鎖】を使おうと、エンジェウーモンを回復」

エンジェウーモン疲労。回復

ギーサ「!?」

ダーク・デモボーンは破壊時の黄色の連鎖で自分のスピリット1体を回復させる効果がある。エンジェウーモンは紫の光を纏い、再び、翼を広げる。

ギーサ「・・・ターンエンド」

イトニ「あれ? いいの?」

ギーサ「今アタックしても、星空の冠でまた君の手札が増えるだけだからね」

ギーサはイトニの手札を増やすまいと、これ以上のアタックは仕掛けなかった。

太陽神龍ライジング・アポロ・ドラゴンLV1(1s) BP6000

ブレイドラLV1(1)

ブレイドラLV1(1)

森林のセツコーキジLV1(1)

バースト無

「ターン05」イトニ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札8 ⇨ 9

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュ3 ⇨ 0

イトニ「さっさと終わらせようつと、召喚、ダーク・デモボーン!ヒメネコ!」

手札9 ⇨ 7

リザーブ6 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 3

イトニのフィールドに再びダーク・デモボーンが姿を見せると同時に猫型のブレイブ、ヒメネコが召喚される。

【ヒメネコ】黄属性 4コスト 黄2軽減 紫2軽減

系統：想獣

L V 1 (1) B P 4 0 0 0

合体 (0) + 4 0 0 0

シンボル黄

《合体条件：コスト4以上》

【合体時】『このスピリットのアタック時』

相手は相手のリザーブのコア2個を相手のトラッシュに置かなければブロックできない。

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、さらに、自分はデッキから1枚ドロする。

ギーサ「ブレイブ!?!」

イトニ「そう、エンジエウーモンと合体」

ヒメネコの武装がエンジエウーモンに取り付けられていく。エンジエウーモンは合体スピリットになった。

エンジエウーモン+ヒメネコLV3(3s) BP14000

ダーク・デモボーンLV1(1) BP1000

バースト無

イトニ「アタックステップ!やれ!エンジエウーモン!ダブルシンボルのアタック!」

ギーサ「それは、受けたくないから、ブレイドラでブロック……できない!?!」

イトニ「ヒメネコの合体アタック時効果であんたはリザーブのコア2個トラッシュに置かないとエンジエウーモンのアタックはブロックできなくなってるんだ。さらに、ソウルコアの力で1枚ドロ」

手札7[→]8

ギーサ「くっ!仕方ない、ライフで受けよう」

ライフ3 ♪ 1

リザーブ0 ♪ 2

イトニ「ダーク・デモボーン!」

ギーサ「ブレイドラでブロック!」

ダーク・デモボーンとブレイドラは何回かコツコツとぶつかり合うのちに両者とも消滅した。

イトニ「ダーク・デモボーンの破壊時の黄色の【連鎖】でエンジェウーモンを回復!」

エンジェウーモン+ヒメネコ疲労 ♪ 回復

エンジェウーモンは再び紫の光を纏い、回復した。

ギーサ「なるほどね〜だけど、さっき受けたライフは2つともリザーブ!次こそはブロックさせてもらうよ!」

イトニ「エンジェウーモンで、アタック!効果で1枚ドロ」

手札8 ♪ 9

ギーサ「リザーブのコア2個をトラッシュに置くことで、ブレイドラでブロックだ!」

リザーブ3 ♪ 1

トラッシュ4 ♪ 6

イトニ「フラッシュタイミング!マジック、イエローリカバーを使用!エンジェウー

モンを回復！」

手札9 ⇨ 8

リザーブ2 ⇨ 1

トラツシユ3 ⇨ 4

エンジエウーモン＋ヒメネコ疲労 ⇨ 回復

「イエローリカバー」 黄属性 3コスト 黄2軽減

マジック

フラツシユ

自分の黄のスピリット1体を回復させる。この効果はターンに1回しか使えない。

ギーサ「え!？」

ブレイドラは果敢にエンジエウーモンに挑もうとするがエンジエウーモンが通り過ぎただけの風圧で飛ばされて爆発した。

イトニ「さあこれで合格だ！エンジエウーモン！」

手札8 ⇨ 9

エンジエウーモンは再び翼を広げ、飛び立つ。ギーサのリザーブのコアは1つ、誰もブロックすることはできなかった。ギーサは負けが確定した瞬間、途端に笑顔になる。

そして、

ギーサ「これからもパタモンをよろしく!テイルモンも!」

イトニ「?」

ギーサ「ありがとうお嬢さん!楽しかった!ライフで受けるよ!」

ライフ100

ギーサのライフがゼロになり、ギーサはバトルフィールドから弾かれる。バトルはイトニの快勝に終わった。イトニは元いた遺跡に戻るが、そこにはもうすでに、ギーサの姿は見当たらなかった。

イトニ「あいつ一体何だったんだ?急に現れたかと思ったら、今度は急に消えやがって、これじゃあ合格かそうじやないのかすらわからないじゃない」

イトニはこの後直ぐに「まあ多分合格だろう」と思い、黄の大陸のマカロモ遺跡を後にした。イトニが遺跡から出ると反乱軍の自称ブレインである、ドゥーケがいた。イトニは手を振りながらドゥーケのところに行く。

ドゥーケ「どうでした?イトニさん?」

イトニ「ドゥーケ!私やったよ!ついに!2種目のDパラディンをゲットしたよ!」

ドゥーケ「そうですか!それは良かったです!これでついにDパラディンが8種揃いましたね!」

2人はこの成果に大いに喜んだ。

イトニ「え!?!ちよつと待つて!もう8種も揃ったの?」

ドゥーケ「ええ、シユリさんの報告結果だと、緑坂小次郎さんも同じく2種目のDパラデインをゲットしたそうで」

イトニはこれを聞いてアカダツケ村での出来事を思い出す。

イトニ「えー!?!あいつが?くそ!なんか腹立つな〜!」

現在Dパラデインを所持しているのは花火、小次郎、菜々子、カイネ、シデン、イトニの6人、小次郎とイトニの2種目のDパラデインにより、合計8種類のDパラデインの使い手がこの異世界に集結したと言える。

ドゥーケ「まあまあ、そんなことおっしやららずに先ずは兄上様に御報告なさいませよ」
ドゥーケがそう言うのと、イトニは急に、笑顔になる。

イトニ「そうだね!もう、楽しみだよ!」

ドゥーケ（ええ、私も楽しみでございますよ〜3ヶ月後が）

ドゥーケは笑顔のイトニをよそに不敵な笑みを浮かべていた。

ドゥーケ（しかし、気になる、一木花火がなぜアグモンを所持しているのだ?奴はとうの昔にあの力で消滅させたはず、まさか、力が吸収された?・・・いや、まさかね）

イトニとドゥーケはそのままマカロモ遺跡を後にして、どこかへ消えていった。空は

もうすっかり真つ暗であつた。

*

一方その頃、花火達御一行は夜は寒いので焚き火で暖まつていた。だが、花火だけはそこを少し離れ、崖の上に座っていた。そこからは果てしなく広がる海が見える。

カイネ「花火はさつきからなんであんなところで黄昏てるんの?絶対寒いでしょ」

菜々子「あー、多分今日のバトルの反省かなんかじゃないかな?久しぶりに負けた気がするし」

小次郎「あー、もうめんどくせえな!!俺がちよつと喝を入れてやる!」

菜々子「えつ、いや〜別に落ち込んでるってわけじゃないと思うけど」

小次郎はそのまま花火のところに向かった。

カイネ「あいつほんとに、花火に対するライバル意識が強いんだね、あそこまで来るとちよつと呆れるわー」

菜々子「はは、まあ、出会った時からあの2人はあんな感じだから」

菜々子は少し微笑むと、カイネは少し疑問に思ったことを口に出す。

カイネ「・・・そういえばさ、なんで花火は強いのか?」

菜々子「え!?どうしたの?カインちゃん急に」

カイン「いや、ただなんとなく、仮にも、あの馬鹿(小次郎)が1回も勝ったことないんでしょ?一体どんな感じでバトルの腕を磨いたのかなーっと思つて、正直私は花火に勝てる気がしないんだよね」

菜々子「・・・そうだね、多分あのことが原因かなつて私は思つてる、カインちゃんはお母さんがもういないつて言つてたよね?」

カイン「?ああ言つたね、巨蛾の里の時に」

菜々子「実は花ちゃんもね10年前に大きな地震があつて、お父さんとお母さんが行方不明になつてしまつて、でも、花ちゃんは私の家族とその時旅行に行つたてたから無事だつただけ」

花火の両親は10年前に花火達の街で起きた大震災によつて、2人とも行方不明となつてゐる。行方不明である理由は花火の両親の遺体が10年経つた今でも発見されないからである。この花火と菜々子の過去にカインは驚きを隠せなかつた。

カイン「え!?そうだったの?でもなんでそれで、強くなれるのよ、」

菜々子「旅行から帰つてきた日は花ちゃんの誕生日だつただけ、崩れ去つた花ちゃんの家からお父さんとお母さんからのプレゼントらしきものが見つかつて、その中に、『炎魔神』のカードと手紙が入つていたの、その内容は、『お誕生日おめでとう!こ

のカードと一緒に強くなつてね!』って書かれてて、」

カイン「なるほどね、それで強くなろうと、」

当時まだ7歳だった花火は自分が強くなつたら、またいつか、両親が帰ってきてくれると信じていた。だから、たくさん努力をして強くなった。だが、自分が大きくなるにつれ、徐々に親がいなくなったことを理解していき、信じることをやめたのだ。だから花火は自分の力を試そうとしない、故にバトルスピリッツの大会にはあまり出場しないのだ。

菜々子「なんか、ごめんね、暗い話しちゃって」

カイン「いやいや、聞いたの私だし、でも理解できたよ、だからあいつは巨蛾の里の時も、巨蛾姫に魂を取られた人達のためにあそこまで頑張ったんだね、命の重さをあの場にいた誰よりも知っていたから」

カインは花火の強さの根源を知った。確かに化け物じみた力を持っていた巨蛾姫に勇敢に立ち向かうことは誰でもできることではない。

菜々子「うん、花ちゃんはとっても優しいし、かつこ．．．かつこ．．．」

そこまで言うとき菜々子の顔が急に赤くなる。カインはその菜々子を見ながらニヤニヤしながら言葉を入れて来る。

カイン「『かつこいいい』、でしよー、」

菜々子「え!?! いや、ち、ちが、そ、そのお……」

カイネ「好きなんでしょ」

菜々子「ち、ちが、」

菜々子はこれまでにないくらい、言葉を噛む。

カイネ「見てればわかるよー! バレッツバレ!」

菜々子の顔がまるでトマトみたいに赤くなっていく。

カイネはどんどん食いついてくる。

カイネ「で? どうなの? 好きなの? 嫌いなもの?」

菜々子「……す、す、好き、です、と、とつても」

菜々子はカイネには隠せないと思い、正直に自分の思いをはいた。

カイネ「よーし! それでいい! 私に任せときなさい! 明日が楽しみだね〜」

菜々子「え!?! いや何する気なのカイネちゃん!」

カイネは何かを企んでいるようだ。一方そんなことを全く知らない、男子2人はと言うと

花火「今日のバトル、結構、遊ばれていたな、勝負を決められた最後のターン、あいつは成熟期のカードだけがなかったはずだ。それを成長期の効果で引き当てたつてことは、完全体と究極体はすでに手札に持っていたつてことになる。先にそつちを召喚さ

れてたら本当はウォーグレイモンが出る前にバトルは終わってたのかもかもしれない。間違いない、あいつは、シデンは、俺を試そうとしていた。まだまだあんなに強い奴がいるなんて、俺、武龍村でシユリに勝った時から、ちよつと調子に乗ってたな、ぶっちゃけあのバトルもほとんど俺の負けだったし、景光姐さんにだつて1回だつて勝てなかった、……このままじゃダメだ、Dポリスだつて、」

小次郎「何がダメなんだよ、俺より強いし、別に十分だろ」

小次郎が物陰から現れて花火の横に腰を下ろす。

花火「小次郎、」

小次郎「んだよ、まだDポリスのこと、気にしてるのかよ」

花火「……ああやっぱり信じらんねえよあのサツマさん達がこの世界にもう一回オメガバーストを使おうとしているなんて」

花火はシデンのバトル中に言われたDポリスの真実が未だに納得がいかなかった。

小次郎「でも、事実つばいぜ、さつきカイネが言ってたんだけどDポリスの本部には、いや、正確には白の大陸にはリアルワールドに通じるゲートはないらしいぜ」

花火「!?てことは、」

小次郎「ああ武龍村で言ってたサツマさんの言葉は嘘つてことになる」

花火「まじかよ、サツマさんが!？」

小次郎「よくわかんねえけど、カインが言うには多分デジタルスピリットのバトルエネルギーを早く貯めようと思つて、連れて行こうとしたんじゃないかって言つてた」

花火「……なるほど、まあでも少しスツキリしたわ」

花火は暗い顔から急にいつもの明るさを取り戻した。

小次郎はその花火の顔を見て、少し不思議に思う。

小次郎「おいおい、なんで急にいつもの調子になるのさ、俺ら騙されてたんだぞ！ ついでに帰るあてもなくなつたし！」

花火「でも、あの時、サツマさんは俺らを無理には連れて行こうとしなかつた。てことはサツマさんには良心が少なくともあるつてことだ、そんだけわかれば十分さ」

小次郎「……お前、ほんとにそういう、頭の回転早いよな」

花火「なんだよ、そういうつて、いつもだろ？ いつも！ 面白いやバトルする約束してたな、今やらないか？」

小次郎「ああ！ もちろんだ！ 今日こそ勝つてやる！ いくぜ！」

花火&小次郎「ゲートオープン！ 解放！」

結果は花火が勝つて終わったのだが、2人はたいへん楽しくバトルをした。明日はいよいよ、緑の大陸から黄の大陸へ出航する日である。

竜宮都の宝編

第17話 亀を助けよ！ 浜辺のガルダモン！

花火達は緑の大陸の第2の港町に到着した。が、船の出航が午後7時からと言うことを知り、出航までの時間を海で遊ぼうと言うことになった。ちなみに現在は午前9時だ。

花火「おおー！これが緑の大陸の海！綺麗だな〜」

緑の大陸の海はまるで、エメラルドグリーンのような色であり、南の島の観光地のようにだった。花火達は事前を買ってきた水着に着替えて来た。

小次郎「よし！一木花火！競泳しないか？」

花火「ああいいぜ！向こうの岩までな！」

カイネ「おーい、少しは女子の水着姿を堪能したらどうだい？」

カイネの言葉が終わるまでに、花火と小次郎は海へダイブしていった。

カイネ「・・・なんなの、あいつら」

菜々子「まあしようがないよ」

カイネ「しようがないじゃないよ！あいつ（花火）あんたの水着姿に見向きもせず

海に行つたんだよ！考えらんない！」

菜々子「んーでも私としても水着姿、あんまり見られない方が……」

カイネ「何今更照れ臭つてんのよ！今日こそは頑張つて告つちやいなさい！」

菜々子「ええー、まだいいよ、」

カイネ「ダメダメ、あんたらせつかくDーワールドまで来たのに、ここで告らないと、2度とチャンス回つてこないよ！私はリアルワールド行つたことないけど、あいつらの競泳が終わつたらこつそり呼び出して、言つてやれ！」

菜々子（カイネちゃん、マジだ、マジで言わせるつもりだ、どうしよう、すごい恥ずかしい、仮に告白したとして、OKしてくれるのかな？……いや、なんか、自身がないな）

女子2人がそんなことを話していると、

ナンパ1「ねえ！ちよつと！そのガールズ！俺らと一緒に遊ぼうぜ！」

ナンパ2「ていうか、君ら可愛いね！どこの子？」

わかりやすいナンパ男達が現れた。

菜々子「え!?あついや私達はちよつと待つてる人達がいて、」

カイネ「ー：そうだ！この瞬間に花火が菜々子を助ければ二人の距離はちぢまるんじゃない？）おーーい！花火！……遠！どこまで泳ぎに行つてんのあいつら!?!ア

ホなの？」

花火と小次郎の競泳はデッドヒートしていた。最初に言つてたゴール地点のさらに向こう側まで泳いでいた。

ナンパー「はっはっは！連れの男はほら！あんなだしき！俺らと遊ぼうぜくく！」

カイネ（つたく！何やってんのよ！しようがない、ここは私が蹴散らすか）

その時だった。

???「ちよつと待った!!」

菜々子とカイネとナンパ男達が振り向くと、そこにはそこには細くて弱々しいお爺さんがいた。

ナンパ2「・・・誰だ、爺さん」

亀太郎「わすの名は亀太郎！若いからと言うてナンパなど許さんぞ！お嬢さん2人は怯えているじゃないかね！」

カイネ「別に怯えてないよ」

菜々子「あのお爺ちゃん、あまり無理しない方が・・・」

亀太郎「くらえ！わすの正義の鉄拳を！ほー！！」

亀太郎は自身の拳を握りしめてナンパ男達を殴るが、その拳は遅いうえに弱々しかつた。亀太郎は逆にナンパ男達に殴られてしまう。

亀太郎「ぐはっ！ぐはっ！」

亀太郎は倒れこむ。

菜々子「お爺ちゃん！」

ナンパ1「俺らはじじいには興味ねえのよ！」

菜々子「ちよつと！こんなお爺ちゃんに暴力振るうつてどういうこと？」

菜々子は少し怒った顔でナンパ男達を睨みつける。カイネはそれを見て、『菜々子が怒るなんて珍しい』と思った。確かに、あらゆる方向でナチュラルガールな菜々子が人に怒ることはそうそうないことだ。

ナンパ2「んー、次は君がやるのかい？怒った顔も可愛いね〜」

ナンパ男達がそういうと、菜々子はデツキを取り出し、ナンパ男達に向ける。

菜々子「私がこれで勝ったら、このお爺ちゃんに謝って！」

亀太郎「お嬢さん！」

亀太郎は感動してなぜか涙が溢れる。

ナンパ1「ああ!?!バトスピ?・・・まあいいか、受けて立とう、言つとくけど、俺ら結構な実力者よ？」

菜々子「私の方が強いもん！」

ナンパ1「へえ自身がすごいね、じゃあ俺らが勝ったら君らは俺らの言うことを聞く

！この条件を飲めるならやってやってもいいぜ？」

菜々子「いいよ！」

カイネ（はくく、せつかく、頑張つて計画立てたのに、アホ共（花火&小次郎）とナンパ男で全部が台無しだわ）

なんやかんやで菜々子とナンパ1のバトルが始まろうとしていた。

菜々子&ナンパ1「ゲートオープン！解放！」

2人はバトルフィールドに行く、カイネとナンパ2は観客席でバトルを見届ける。亀太郎も来た。

ナンパ1のバトルアーマーは兔に角黄色い、ただそれだけであった。菜々子の先行でバトルが開始される。

「ターン01」菜々子

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

菜々子「メインステップ！チャクラムバット（リバイバル）をLV1で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

葉々子のフィールドにコウモリのような赤のスピリット、チャクラムバットが召喚された。

〔チャクラムバット（リバイバル）〕 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統：空牙

LV1（1）BP1000

LV2（2）BP2000

シンボル赤

LV1・2『このスピリットのアタック時』

このスピリットをBP+4000する。

このスピリットにソウルコアが置かれているとき、さらに、自分はデッキから1枚ドローする。

葉々子「ターンエンド」

チャクラムバットLV1（1s）BP1000
バースト無

「ターン02」ナンパー

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 → 5

ドローステップ 手札4 → 5

ナンパ1 「メイנסテップ！ツキウサギをLV1で召喚！」

ナンパ1のフィールドに餅つきをしているウサギが現れた。

【ツキウサギ】黄属性 4コスト 黄3軽減

系統：想獣

LV1 (1) BP3000

LV2 (3) BP6000

シンボル黄

LV1・2 【聖命】『このスピリットのアタック時』

このスピリットのアタックによって相手のライフが減らしたとき、ボイドからコア1個を自分のライフに置く。

LV2 『自分のアタックステップ』

このスピリットにソウルコアが置かれている間、自分のスピリットの【聖命】でライフに置くコアを2つにする。

カイン 「黄色か」

ナンパ1 「ほら！やってこい！ツキウサギ！」

菜々子 「ライフで受ける！」

ライフ5 ⇨ 4

ツキウサギは手持ちの餅つき道具で菜々子のライフを破壊した、と、同時に……

ナンパ1「ツキウサギの【聖命】！俺のライフ1つを回復しようか」

ライフ5 ⇨ 6

ツキウサギが黄色に光ると、ナンパ1のライフが新たに1つ生まれた。

カイン「【聖命】か、厄介だね、早めに決着をつけないと、取り返しがつかなくなる」
ナンパ1「ターンエンド」

ツキウサギLV1(1s) BP3000疲労

バースト無

「ターン03」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 5

トラッシュユ3 ⇨ 0

菜々子「メインステップ！ヒートエッジウルフをLV1で召喚！さらに！チャクラムバットをLV2にアップ！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 3

菜々子のフィールドに鋭利な棘を体中に纏っている狼のスピリット、ヒートエッジウルフが召喚される。

〔ヒートエッジウルフ〕 赤属性 4コスト 赤2軽減

系統：十冠・皇獣

LV1 (1) BP4000

LV2 (3) BP5000

LV3 (4) BP7000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットのアタック時』

自分はデッキから1枚ドローする。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメット1体を指定してアタックできる。

菜々子「チャクラムバットとヒートエッジウルフでアタック！2体のアタック時効果でそれぞれ2枚ドロー！」

手札4 ⇨ 6

チャクラムバットはソウルコアが置かれている時、アタック時に1枚ドローできる。それに加えてヒートエッジウルフもアタック時に1枚ドローできるため菜々子は合計2枚のカードをドローしたのだ。

ナンパー「ライフで受ける！」

ライフ6 ⇨ 4

チャクラムバットは鋼の輪で、ヒートエッジウルフは、体当たりで、それぞれナンパ1のライフを1つずつ破壊した。

菜々子「よし！2つ削った！ターンエンド！」

チャクラムバットLV2(2s) BP2000疲労

ヒートエッジウルフLV1(1) BP4000疲労

バースト無

菜々子はやることは全て終了なのでターンを終了する。

「ターン04」ナンパー

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 7

トラッシュユ4 ⇨ 0

ナンパ1「メインステップ！ツキウサギをLV2にアップして、アルミラージをLV2で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ7 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 3

ナンパ1のフィールドに今度はツノとはねを生やしたウサギのスピリットが現れる。

【アルミラージ】黄属性 4コスト 黄2軽減

系統：想獣

LV1(1) BP3000

LV2(2) BP4000

LV3(3) BP6000

シンボル黄

LV1・2・3 【聖命】『このスピリットのアタック時』

このスピリットのアタックによって相手のライフを減らしたとき、ボイドからコア1個を自分のライフに置く。

LV2・3

【聖命】を持つ自分のスピリットすべては、相手の効果で破壊されるとき、疲労状態でフィールドに残る。

ナンパー「アタックステップ、ツキウサギの効果で【聖命】の効果で増えるコア数は2になる」

菜々子「!!!」

ナンパー「やれ！ツキウサギ！アルミラージ！」

菜々子「2つともライフで受ける！」

ライフ4[♠]2

アルミラージはツノで、ツキウサギは餅つき道具で、菜々子のライフを1つずつ破壊した。

ナンパー「【聖命】発揮！ライフを4つ回復する！」

ライフ4[♠]8

ツキウサギはLVにの時、自身にソウルコアが置かれていれば【聖命】の効果で増えるライフを2つにするという効果がある。アルミラージも同時に【聖命】を持っているので、ナンパ1のライフが一気に4つ回復した。

菜々子「え!? ライフ8!? ずるい!」

ナンパ1「はっはっは! ターンエンドだ!」

ツキウサギLV2 (3s) BP6000

アルミラージLV2 (2) BP4000

バースト無

カイン「まずいな、ライフ2対8はいくらなんでもきつすぎる、しかも相手はブロツクされない効果が多い黄属性・・・いやまてよ、あれが来ればいけるのか?」

亀太郎「あれ?」

「ターン05」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュユ3 ⇨ 0

葉々子「メインステップ！このターンで終わりだよ！ピヨモンを召喚！」

手札7 ⇨ 6

リザーブ6 ⇨ 3

トラッシュユ0 ⇨ 1

ピンクの鳥のデジタルスピリット、ピヨモンが召喚される。

【ピヨモン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統：成長期・空牙・爪鳥

LV1(1) BP2000

LV2(2) BP4000

シンボル赤

LV1・2 『このスピリットの召喚時』

相手のネクサス1つを破壊する。

LV2【進化：赤】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

ナンパ1「はあ？ライフ8をそんな弱っこそうなのに減らさせようってか？」

菜々子「もちろん!アタックステップ!ピヨモンの【進化:赤】を發揮!ピヨモンを手札に戻して、バードラモンに進化!」

ピヨモンは菜々子の言葉にに応じて、成熟期のデジタルスピリット、バードラモンに進化を果たす。

【バードラモン】 赤属性 4コスト 赤2軽減

系統:成熟期・空牙・爪鳥

LV1(1) BP3000

LV2(2) BP5000

シンボル赤

LV1・2 【超進化:赤】『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ赤のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

LV2 『このスピリットのアタック時』

自分はデッキから1枚ドローする。

ナンパ1「?!?進化!?!?」

亀太郎「あれはあのスピリットは!!」

カイネ「どう?驚いた?お爺さん、あれはデジタルスピリットの中でも、特に優れた

希少種のカード、Dパラディンだよ」

菜々子「バードラモンでアタック！アタック時効果で1枚ドロー！」

手札6[→]7

ナンパ1「はっ！進化がなんだよ！たかだかBP5000のアタックなんざ……」
 菜々子「それだけじゃないよ！バードラモンのもう1つのアタック時効果！〔超進化：赤〕を発揮！バードラモンを手札に戻して、完全体のガルダモンに超進化！LVは3！」
 リザーブ3[→]0

バードラモンが赤い光に包まれていき、姿を変えていく、すると、バードラモンは大きな翼と鉤爪を持つ、鳥人型のスピリット、ガルダモンに超進化した。ガルダモンの姿を見たナンパ男達と亀太郎は口を大きく開け、驚いた。

〔ガルダモン〕 赤属性 6コスト 赤3軽減

系統：完全体・獣頭・爪鳥

LV1(1) BP5000

LV2(3) BP8000

LV3(5) BP12000

シンボル赤

LV1・2・3『このスピリットのアタック時』

自分のデッキを上から1枚オープンできる。そのカードが赤のスピリットカードのとき、このターンの間、このスピリットに赤のシンボル1つを追加する。オープンしたカードは手札に加える。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分の手札にある赤のカード2枚を破棄することで、このスピリットは回復する。

ナンパ2 「な、なんじゃありやー!!」

亀太郎 「おお!」

ガルダモン LV3 (5) BP12000

チャクラムバット LV1 (2s) BP2000

ヒートエツジウルフ LV1 (1) BP4000

バースト無

葉々子 「ガルダモンでアタック!アタック時効果でデッキから1枚オープン!それが赤のスピリットカードの時!ガルダモンにこのターンの間赤のシンボルを1つ追加する!」

オープンカード

【ヒノシシ】

ヒノシシは赤のスピリットカードなので、ガルダモンにこのターン、赤のシンボルが1つ追加されてダブルシンボルになる。

ナンパ1「なに!?!」

菜々子「オープンカードは手札に！」

手札7 ⇨ 8

ナンパ1「くそ！ライフだ！」

ライフ8 ⇨ 6

ガルダモンは巨大な火の鳥を腕から2羽打ち出し、ナンパ1のライフを2つ破壊した。だが、まだガルダモンの効果は続く。

菜々子「ガルダモンのLV3効果！手札の赤のカードを2枚破棄することによって、ガルダモンは回復！」

破棄カード

【ヒノシシ】

【ビーバン】

手札8 ⇨ 6

ガルダモン疲労 ⇨ 回復

ナンパ1「なんだと!?!」

ガルダモンは赤い光を一瞬纏い、疲労状態から回復状態になる。

菜々子「もう一回お願い！ガルダモン！アタック時効果！」

オーブンカード

【ピヨモン】

菜々子「赤のスピリットカードをゲット！ガルダモンに赤のシンボルをさらに1つ追加して赤のシンボルを3つにする！」

手札6 → 7

ガルダモンに再び赤のシンボルが追加される。前の効果も合わせて今ガルダモンはトリプルシンボルとなる。

ナンパー「なっ、！シンボル3つだと!？」

菜々子「さあ！アタックは継続中だよ！」

ナンパー「ひ、ひい！ライフで、うわ！」

ライフ6 → 3

ガルダモンは今度は炎の巨大な火の鳥を3羽出して、ナンパーのライフを3つ同時に破壊した。

菜々子「赤のカードを2枚を破棄して、ガルダモンを再び回復させる！」

破棄カード

【ピヨモン】

【バードラモン】

手札7 ⇨ 5

ガルダモン疲労 ⇨ 回復

ガルダモンは再び赤の光を一瞬纏い、疲労状態から回復状態になる。

菜々子「これで終わり！ガルダモン！」

オープンカード

【シャドーウイング】

手札5 ⇨ 6

シャドーウイングは赤のスピリットカードではないためシンボルは追加されないが、現在の3つのシンボルでも十分事足りていた。ガルダモンは菜々子の言葉に頷くと再び炎の巨大な火の鳥を腕から3羽打ち出す。

ナンパー「う、うわーーーーー!!!」

ライフ3 ⇨ 0

炎の巨大な火の鳥は見事にナンパーのライフを砕き切った。ナンパーはライフ0に伴い、バトルフィールドからはじき出される。菜々子は勝利のVサインを掲げると、ガルダモン、ヒートエッジウルフ、チャクラムバットも大いに喜んだ。菜々子達もバトル

フィールドから元の浜辺に帰ってきた。

ナンパ2 「ひっ！ひいひい！すみませんでしたー！！」

ナンパ2は倒れていたナンパ1を置き去りにして逃げた。ナンパ1もすぐ立ち上がり、後を追うように、カツコ悪い走り方でナンパ2と同じように謝りながら帰っていった。

菜々子 「……まあいつか」

カイネ 「ライフ8になった時は、少し心配したけど、無駄だったみたいだね」

亀太郎 「いやはや、本当にありがとうございます、なんとお礼を言つて良いか」

菜々子 「いやいや！お礼を言うのはこつちだよ！ありがとう！亀爺さん！」

ちようどその時、花火と小次郎が競泳から帰ってくる。

花火 「もう俺の勝ちでよくない？」

小次郎 「いやー！ビデオ判定あつたら絶対俺が勝つてた！」

花火 「意識高すぎだろ」

菜々子 「あつ、おかえりー！花ちゃん！」

花火 「よう、菜々子……てか誰？その爺さん？」

カイネ 「ああ、この人はあんたの代わりに私たちをナンパ男達から救おうとしてくれた人だよ」

花火（？俺の代わり？）

亀太郎「……失礼つかまつりますが、あなた方は皆、その特別なデジタルスピリットを持っておられるのですか？」

花火「？ああ、Dパラディンのことね、持つてるぞ、4人とも、それがなにか？」

亀太郎「（あのゴーグル……）あなた方はもしかしたら、竜宮王（りゅうぐうおう）様のお求めになられた方達なのかもしれない。わすを助けてくれたお礼もしたいし、是非、我が故郷、竜宮都（りゅうぐうと）にいつしよに来ていただけませんか？」

亀太郎は花火達に提案を持ちかけた。

小次郎（なんかすごいこういうエピソードを知ってる）

菜々子「どうする？花ちゃん？」

花火「まあ、おもてなしてくれるならいいこうぜ」

花火達は亀太郎についていくことにした。

亀太郎「ありがとうございます！では！」

亀太郎は自分のバトルヴァイスを振りかざすと、全長20メートルはありそうな亀型の潜水艦が現れた。花火達はあまりの大きさに驚く。

亀太郎「ささっ！どうぞ！」

花火達は言われるがままに亀太郎の亀型の潜水艦に乗り込んだ。潜水艦はどんどん

海底を進んでいく。そして小次郎はあることを考えてしまう。

小次郎「なあ一木花火、これつてもしかして、俺ら最終的に年寄りになって帰って来ちまうんじゃないか？」

花火「ん？どうした小次郎、下手くそなボケかますなよ」

小次郎「いや少しは察せよ」

菜々子「ねえ！亀爺さん！竜宮都ってどういうところ？」

菜々子は運転席に座っていた亀太郎に質問した。亀太郎は潜水艦の運転をしながら答える。

亀太郎「それはもう素晴らしいところですよ！街も人も何もかもが綺麗な海底の都となっています」

そんな話をしながら、約1時間ようやく、竜宮都付近までたどり着く。

亀太郎「もうすぐですよ」

カイン「もうすぐって・・・全然街らしきものはないけど」

亀太郎「竜宮都はあちらです」

亀太郎が指をさした方を見るとそこにはまばゆい光に包まれた巨大な球体が存在していた。潜水艦はそのままその光りの球体に入り込んでいった。花火達はあまりの光の光量に目を瞑った。そして、一瞬のうちに、別の場所に移動した。

亀太郎「着きましたよ！皆さん！ここが竜宮都でございます！」

花火達「おおー!!!」

亀太郎「ちなみに、あそこの大きな城が、竜宮王様が居座れております、竜宮城（りゅうぐうじょう）です」

花火達が目を開けると、そこにはなんとも美しい街並みが広がっていた。都の最後部には巨大な城も存在する。潜水艦はその巨大な城、竜宮城付近の車の駐車場のようなところに止まる。そこには他の潜水艦がいくつも確認できる。花火達は潜水艦を降りる。

カイネ「すごい、なんで呼吸ができるんだろう？」

???「それは水に見えて水にあらず、その水はデジタルでできているからですよ」

突然現れた、赤いペンダントを首にかけた若い男性がカイネの突飛な質問に答える。

亀太郎「これ!!亀之助!!竜宮王様の警備はどうした!!」

亀之助「ちげえよ、親父、その竜宮王様がこの人達を連れて来なさいって言われたんだよ」

花火「・・・この人は？」

亀之助「俺はこの都屈指のイケメンにして、竜宮王様のお目付役、亀之助だ、よろしくお嬢さん方」

亀太郎の息子、亀之助は花火と小次郎をそっちのけにして、菜々子とカイネにだけ目

を向けて自己紹介した。

菜々子「え!? あっ、はい！ よろしくお願いします！」

カイン&小次郎（めんどくさそー）

花火（ふーん、亀太郎の爺さんの息子か、結構年の差ありそうだな）

亀太郎「はー、案内はわずかでも十分ですのに」

花火達は竜宮城の中に入っていく、この都には浮力があり、泳ぐようにして移動ができる。そして、竜宮王の間に到着する。亀太郎は扉をノックしてから一言「失礼します」とだけ言つて扉を開ける。

竜宮王「よく来たな、亀太郎から聞いたかもしれないが、わしの名は竜宮王、この都を治めるものじゃ」

髪の毛の色がオレンジ色で少し太めの体格の男性の竜宮王が座椅子から花火達に自己紹介した。歳は50位に見える。この後花火達もすぐに自分達の自己紹介をした。

竜宮王「本題に入ろう、亀太郎を救ってください、ありがとうございます」

菜々子「いやー、救つたて言うか、救われたって感じなんですけどね」

竜宮王「ところでお主らは特別なデジタルスピリットを所持していると聞いたのだが、」

花火「あっ！はい！そうです！Dパラディンって言って、俺らもあんまりよくわかつ

てないんですけど」

花火の言葉を聞いて竜宮王は少し考え、頷いてから口を再び開く。

竜宮王「……………やはり、海泉玉（かいせんぎよく）の予言は正しかったか」

カイネ「海泉玉？」

竜宮王「ほれ、その上にぶら下がっているもの、あれじゃよ」

花火達は上を見上げると、直径5メートルはありそうな青い玉が目に入る。海泉玉は
ずっと淡い青色に光っている。

竜宮王「この海泉玉はこの長い歴史がある竜宮都に代々伝わるものでな、この都に何かしらの災いが起こるときのみ、お告げが来るのだ」

小次郎「お告げ？」

花火「なるほど、俺らはそのお告げとやらに招かれたってわけか」

菜々子「？どう言うこと？花ちゃん？」

花火「要は、俺らがお告げの言葉の中になんらかの形で入って来たってことだろ？だから、誘われたんだ」

竜宮王「感が良いな、少年よ、その通りだ」

かれこれ、5000年は続いているとされる、竜宮都の歴史、その中で起こる災いを最小限に抑えるために使われて来たのが、災いとそれらの対処法が事前にわかる力があ

る海泉玉であった竜宮都の人々はあらゆる災いをこの海泉玉の力で回避して来たのだ。

カイン「で？そのお告げの内容ってなんなの？」

竜宮王「明日行われる年に一度、都のこれから1年の平和を祈る祭典、『水竜宮祭（すいりゅうぐうぐさい）』があるのだが、その日に、この都で1番大事なものである海泉玉が奪われると、お告げされた、そして、その対処法として、『ゴーグルを着けた茶髪の少年がいれば誰も見たことのない、デジタルスピリットを使い、都の平和を守る』と言われた」

竜宮王の言葉を聞いて、カイン、小次郎、菜々子は花火の方を向く。花火は「へっ？俺だけ？」と言って少々驚く。確かにこの内容は花火の特徴と一致している。ちなみに亀太郎は花火を探すために地上に赴いていたのだ。

竜宮王「お願いだ！明日、この都の平和を、海泉玉を守ってくれ！あれがなくてはこの都は滅んでしまう！」

花火「いいですよー」

小次郎「軽！」

花火は即答で答える。こうして花火達は明日の水竜宮祭に護衛と言う形で参加することになる。

第18話 狙われた海泉玉！ 犬神海賊団参上！

前回、花火達はひよんなことから海底都市、「竜宮都」に招かれる。そこで謎の宝玉、「海泉玉」の予言が自分達だとわかった花火は、海泉玉を守るため、年に一度の祭典、「水竜宮祭」で竜宮王と海泉玉の護衛になる。そして今日、もうすぐ祭りが始まるうとしていた。祭りが行われる理由は2つ、都のこれからの1年の平和を祈ることと、海泉玉を外に出すことである。海泉玉は基本的に王の部屋に置かれているのだが、年に1回くらいは外に出さないと光がくすぶり出してくるからだ。誰かが、海泉玉を狙うならば確かに水竜宮祭の時しかないと言えよう。

花火「さすがに人が多いなーこの中から犯人割り当てるのは大変だぞ」

カイネ「やるって言ったのはあんたなんだからしやんとしなさいよ」

菜々子「なんかそう言われるとみんながみんな怪しく見えるよね」

小次郎「どっちかって言うと、水着のまま警備してる俺らが1番怪しいけどな」

亀太郎「皆さん！もうすぐ竜宮王様と海泉玉が来ますよ！」

花火達「はい」

竜宮城の巨大な扉が開く。中から竜宮王が海泉玉を持って、と言うか浮かせて現れ

る。都の人達も王の姿を見て歓声をあげる。花火は今から竜宮王と海泉玉の護衛に当たるはずだったのだが、次の瞬間。

“ドカーン”

花火「なっ!?!」

花火だけでなく、その場で見ていた者たち全員が驚く。竜宮城の背後から竜宮都を覆うバリアを突き破り、海賊船のような船が竜宮城に激突したのだ。竜宮城は半壊の状態になった。

竜宮王「な、なんと!」

海賊船から船長らしき男が姿を見せる。だいぶ歳を重ねてそうだ。

ドグマー「俺はドグマー! この犬神海賊団(いぬがみかいぞくだん)の船長だ! 海泉玉を奪いに来た! さっさとよこしな!」

ドグマーがそう言った途端、海賊船から次々と船員のような怪しい男達が降りてくる。数は合計50人前後といったところか、護衛の人達が、その船員達とバトルしていく。周りにいた一般の人達は逃げていく。

花火「くそっ! まさか外部から犯人くるなんて」

カイネ「モタモタしてられない! 加勢に行こう! 犬神海賊団って言ったら、ここらでも有名な海賊だよ!」

亀太郎「竜宮王様！」

4人と亀太郎は竜宮城に走って行く。距離はそう遠くはなかった。ただ、逃げまどう人たを掻き分けながら走ったので、少々手間取った。

花火「俺はあの船長をぶっ飛ばしてくる！」

小次郎「わかった！俺らは海泉玉と王様を護衛する！」

花火は未だに船の上で偉そうな態度で部下の帰りを待っているドグマーを倒すつもりのような。花火的な考えで、相手の司令官を潰せば一気に優位になると思っただけだ。

亀太郎「竜宮王様！大丈夫でございますか!?!」

竜宮王「あ、ああ、少し腰が抜けただけじゃ、海泉玉もこの通り無事」

亀之助「・・・そいつを渡してもらうぜ、王様のおっさん」

竜宮王「亀之助!?!なぜ？」

倒れている竜宮王に寄り添う亀太郎、そして、竜宮王の持つ海泉玉を奪おうと、亀太郎の息子、亀之助が近寄ってくる。

亀太郎「亀之助!!何を言っている!!さっさと竜宮王様を介護せんか！」

亀之助「いつまでも親父づらすんじゃねえよ」

亀太郎「!!」

亀之助「もう割れてんだよ、お前が俺の本当の親じゃないってことなんかな」

亀太郎「!!な、何を言う!お前はわすの息子!亀之助じゃ!」

亀之助「……城の中にあるサーバーで偶然親父の家系図を見てしまった時に気づいた、あんたは誰とも結婚してないし、子供もいない」

亀太郎「!!」

亀之助「これをどう説明するんだ!」

亀太郎「……」

亀之助の言葉に亀太郎は黙り込んでしまう。どうやら本当のこのようだ。

亀之助「さあ、海泉玉を渡せ!」

亀太郎「だからと言ってなぜそんなことまでする!」

竜宮王「もう寄せ、亀之助、昔のお前はそんな子じゃなかった。女好きだが、思いやりがあつて誰よりも優しい子じやったのに、」

亀之助「!!黙れ!親でもねえあんたに言われたくもねえ!!いいから早く海泉玉をよこせ!」

竜宮王「……」

小次郎「……ちよつと待った!!」

亀之助達の前に突如小次郎が現れる。

亀太郎「小次郎殿!!」

小次郎「ここは俺が食い止めるんで!!」

小次郎の言葉に亀太郎は頷き、竜宮王に肩を貸して、避難する。

亀太郎「……俺は男には興味がねえ! さっさと失せろ!」

小次郎「失せるのはどっちだよ、決着はこっちでつけるもんだろ?」

小次郎はデッキを取り出す。

亀太郎「ちっ! めんどくせえ」

小次郎「行くぜ!」

小次郎&亀太郎「ゲートオープン! 解放!」

2人はバトルフィールドに行く。一方その頃、花火は敵の海賊船にようやく乗り込み、船長のドグマーと顔を合わせていた。

花火「……よう、」

ドグマー「……誰だ、小僧」

花火「俺はお前をぶっ倒しに来た男だ」

ドグマー「はっ! 言うね〜! 見た所、竜宮都の人間じゃなさそうだが、旅行者か? この都はパスポート無しには通れねえのに、お前はどつかのボンボンか?」

花火「ちげえよ、亀の恩返しってやつだ、お前こそ、パスポートも無しに、よくもまあ、

こんな、無茶したもんだな」

ドグマー「俺は宝を手に入れるためならどんなことでもしてやるのさ」

花火「・・・正直海泉玉つてそんなにすげえ宝に見えないんだよなあー宝石つていうよりかは、煙玉の塊みたいに見えるし、色も汚い青色だし、なんか秘密があるんじゃないの?」

ドグマー「!!お前、感がいいなー!海賊向いてるぞ!」

花火「死んでもごめんだ」

ドグマー「お前の言う通り、あれは宝じゃねえ、宝箱を開けるための鍵だ」

花火「鍵?!」

ドグマー「まあそのことはこの都の王族しか知らないがな」

花火「はあ?じゃあなんでお前は知ってたんだよ?」

ドグマー「それは俺とバトルすればわかるかもな?いくぞ!小僧!」

花火「意味わかんねえよ!」

花火&ドグマー「ゲートオープン!解放!」

2人はバトルフィールドに向かう。ドグマーはいかにも海賊の船長つて感じのバトルアーマーだった。花火の先行でバトルが開始される。

花火「来い!アグモン!」

手札 5 ⇨ 4

リザーブ 4 ⇨ 0

トラッシュ 0 ⇨ 3

恐竜がデフォルメされたようなスピリット、アグモンが召喚される。

ドグマー「：（あれは、アグモン？ウズシオ様が言ってた、死んだはずのDパラディンか？）これは、おもしれえ！」

花火「？ターンエンドだ」

ドグマー「俺のターン！召喚！海賊ラツコルセア！LV2！」

手札 5 ⇨ 0

リザーブ 5 ⇨ 0

トラッシュ 0 ⇨ 2

海賊の服を着たラツコがドグマーのフィールドに召喚される。

ドグマー「いきな！ラツコルセア！」

花火「ライフで受ける」

ラツコルセアは花火のライフを殴り、破壊した、が、

花火「がっ！」

ライフ 5 ⇨ 4

ドグマー「おおっと！俺達のパンチはきついぜー、気を張ってなよ、下手すれば死ぬぜ」

花火「（・・・この痛み、巨蛾姫の時と同じだ、こいつももしかして、）お前も暗黒の力を使えるのか？」

ドグマー「ああ？なんだ、このカラクリを知ってるのかよ、ああそっか、お前は巨蛾姫とやりあつたんだつたな」

花火「（巨蛾姫と俺がバトルしたことも知ってるのか？）暗黒の力ってなんなんだ？お前らは一体誰からその力をもらってるんだ」

ドグマー「お？そんなことまで知ってるのかよ、まあいいか、教えてやるよ、俺らにこの力を与えたのは、【暗黒四天王】の方々だ」

花火「【暗黒四天王】？」

ドグマー「そう、この世界を裏で牛耳っていると言う、謎の組織だ、」

花火「なんでお前みたいな海賊がそんな裏社会のボスみたいな奴らを知ってたんだよ」

ドグマー「海賊だからこそ、顔が広いんだよ、ついでに、俺の力は、欲するものを手に入れるための方法を知ることができる能力だ、この力のおかげで、星岩島（せいがんじま）の宝を手に入れる方法を知った！亀之助も実にいい働きをした」

花火「!?亀之助さんが!?どう言うことだよ！」

ドグマー「ああ、あいつはな……」

一方その頃、小次郎と亀太郎のバトルがスタートする。先行は小次郎だ。

「ターン01」小次郎

スタートステップ

ドローステップ 手札4 → 5

小次郎「メインステップ、テントモンを召喚！」

手札5 → 4

リザーブ4 → 0

小次郎のフィールドにてんとう虫型のスピリット、テントモンが召喚される。小次郎

はさらに、テントモンの召喚時効果でコアを1つ追加した。

【テントモン】緑属性 3コスト 緑1軽減

系統：成長期・殻虫

LV1(1) BP2000

LV2(3) BP3000

シンボル緑

LV1・2『このスピリットの召喚時』

ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

LV2【進化：緑】『自分のアタックスステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つ緑のスピリットカード1枚をコストを、支払わずに召喚する。

亀之助「こいつら本当に全員がデジタルスピリットを持ってやがるのか」

小次郎「ターンエンドだ」

テントモンLV1(2s) BP2000

バースト無

「ターン02」亀之助

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

亀之助「メインステップ!巨人船医ゴードンをLV2で召喚!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

亀之助のフィールドに白衣の姿をした青の巨人が現れる。

【巨人船医ゴードン】青属性 1コスト 軽減無

系統：闘神

LV1(1) BP1000

LV2(4) BP5000

シンボル青

LV1・2【招雷：コスト3／4】『このスピリットのバトル時』

バトル終了時、このスピリットを破壊することで、自分の手札にあるこのスピリットと同じ系統を持つコスト3／4のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

巨人船医ゴードンLV2(4) BP5000

小次郎「青デツキか、」

亀之助「アタックステップ！やれ！ゴードン！」

小次郎「ライフで受ける！」

ライフ5[→]4

ゴードンは小次郎のライフを思いっきり殴った。

亀之助「巨人船医ゴードンの効果【招雷：3／4】発揮！このスピリットがバトル終了まで生き残っていれば、このスピリットを破壊して、同じ系統で指定されたコストのスピリットを1体召喚する！」

小次郎「!!」

亀之助「コスト4で闘神の海賊隊長エドガーをLV2で召喚!」

【招雷】とは、青属性の専用効果の1つで、【招雷】を持つスピリットがバトルを行い、その間にフィールドを離れなかったら、その【招雷】スピリットを破壊して指定されたコストの新たな仲間を手札から呼ぶという効果だ。ゴードンは目を閉じ、青い雷に打たれ、消滅して行く。青い雷が消えた途端に2丁の拳銃を持つスピリット、海賊隊長エドガーが姿を見せる。

【海賊隊長エドガー】 青属性 4コスト 青2軽減

系統：闘神

LV1 (1) BP3000

LV2 (2) BP4000

LV3 (4) BP6000

シンボル青

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のトラッシュにある【招雷】を持つコスト3以下のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚できる。

LV2・3 『自分のアタックステップ』

系統：「闘神」を持つ自分のスピリット／アルティメットすべてをBP+2000する。

亀之助「エドガーの召喚時効果、トラッシュのコスト3以下の【招雷】をノーコスト召喚！蘇れ！ゴードン！」

手札4 → 3

小次郎「なに!？」

エドガーが自身の拳銃を地面に突きつけ、打つと、地面にワームホールが現れる。そこからゴードンが再び、ゆっくりと這い上がってくる。

亀之助「さらに、エドガーは、LV2の時、自分のアタックステップのみ、闘神にBP+2000する」

海賊隊長エドガーLV2(2) BP6000

巨人船医ゴードンLV1(1) BP3000

バースト無

亀之助「続きだ！いけ！ゴードン！エドガー！」

小次郎「(くそ！テントモンはまだ失えねえ！(こは、)ライフで受ける！」

ライフ4 → 2

ゴードンは拳で殴り、エドガーは2丁の拳銃で、それぞれ小次郎のライフを1つずつ

破壊した。

亀之助「ターンエンドだ」

小次郎「〔進化〕みたいな召喚方法だな、だったら俺だつて!」

「ターン03」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシユステップ

リザーブ4 ⇨ 7

トラツシユ3 ⇨ 0

小次郎「メインステップ!いくぜ!トゲモン!LV2!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ7 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 3

小次郎のフィールドにサボテンのような成熟期のスピリット、トゲモンが召喚される。

〔トゲモン〕 緑属性 4コスト 緑2軽減

系統：成熟期・樹魔

LV1(1) BP4000

LV2(3) BP6000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット1体を疲労させ、ボイドからコア1個をこのスピリットに置く。

LV2 【超進化：緑】 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ緑のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

小次郎 「テントモンをLV2にアップ！」

リザーブ1⇔0

テントモンはLVアップで緑に一瞬光る。

小次郎 「アタックステップ開始時！テントモンの【進化：緑】で、カプテリモンに進化だ！」

テントモンはいつものように0と1のコードに巻かれて、進化系のカプテリモンになる。

【カプテリモン】 緑属性 5コスト 緑3軽減

系統：成熟期・殻人

LV1 (1) BP5000

LV2 (3) BP8000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットの召喚／アタック時』

相手のスピリット1体を疲労させる。

LV1・2・3 [超進化：緑] 『このスピリットのアタック時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「完全体」を持つ緑のスピリットカード1枚をコストを支払わずに召喚する。

LV2 『このスピリットのアタック時』

疲労状態の相手のスピリット1体をデッキの上に戻す。

カブテリモンLV2 (3) BP8000

トゲモンLV2 (3) BP6000

バースト無

カブテリモンはトゲモンとともに声をあげ、やる気を見せるが、

小次郎「・・・ターンエンドだ」

カブテリモンとトゲモンはずっこけてしまう。

小次郎（「招雷」はバトルが終わるまで生き残らないと使えない、カブテリモンとトゲモンでブロッカーして、次のアタックを封じてやる！」）

亀之助「・・・んだよ、ただの腰抜けかよ」

「ターン04」亀之助

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 3

トラッシュユ1 ⇨ 0

亀之助「メインステップ、マジック、ストロングドローを使用、3枚引いて、2枚破棄する」

リザーブ3 ⇨ 2

トラッシュユ0 ⇨ 1

破棄カード

【海賊砲手ハーヴィー】

【見習い海賊テリー】

【ストロングドロー】青属性 3コスト 青2軽減

マジック

メイン

自分はデッキから3枚ドローする。その後、自分は手札を2枚破棄する。
フラッシュ

このターンの間、スピリット1体をBP+3000する。

亀之助はデッキから3枚引いたのうち、2枚のカードをフラッシュに送る。

亀之助「さらにネクサス、三つ首竜の海賊旗と、海底国の秘宝を配置！」

手札4 → 2

リザーブ2 → 0

トラッシュ1 → 4

海賊隊長エドガー(2 → 1)

亀之助の背後に海賊の旗と、謎の輝く秘宝が出現した。

【三つ首竜の海賊旗】青属性 3コスト 青2軽減

ネクサス

LV1(0)

LV2(1)

シンボル青

LV1・2 『お互いのアタックステップ』

BPを比べ【招雷】を持つ自分のスピリットが破壊されたとき、そのスピリットの【招雷】の効果を発揮できる。

LV2 『自分のアタックステップ』

【招雷】を持つ自分のスピリットがブロックされたとき、自分はデッキから1枚ドローできる。この効果でドローしたとき、自分はデッキから1枚破棄する。

【海底国の秘宝】 青属性 4コスト 2軽減

ネクサス

LV1 (0)

LV2 (1)

シンボル青青

LV1・2

自分の手札は相手の効果を受けない。

LV2 『自分のアタックステップ』

自分の青のスピリット／アルティメットの効果で破棄する自分の手札の枚数を――1する。

亀之助「バーストセット!」

手札2 ⇨ 1

巨人船医ゴードンLV1(1) BP1000

海賊隊長エドガーLV1(1) BP3000

三つ首竜の海賊旗LV1

海底国の秘宝LV1

バースト有

亀太郎「ターンエンド」

小次郎(あれ? 攻めてこない? 前のターンであんなに攻めたから、またガツガツ来るかと思ったのに、まあいいや、こないんだったらこつちから来てやるよ!)

「ターン05」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュ3 ⇨ 0

小次郎「メインステップ！テントモンを再び召喚！」

手札5 → 4

リザーブ4 → 0

トラッシュ0 → 2

小次郎のフィールドに再びテントモンが召喚される。テントモンは再び緑に発光し、コアを1つ増やした。

小次郎「アタックステップ！いけ！トゲモン！アタック時効果で、エドガーを疲労させ、コアを1つ追加！」

海賊隊長エドガー回復 → 疲労

トゲモン(3 → 4)

トゲモンは超高速で身体を回転させ、自身の棘を飛ばす、エドガーは棘に刺さり、疲労してしまう。

小次郎「さらに【超進化】だ！トゲモンをリリモンに！」

トゲモンはピンクの花びらに包まれていく。花びらはやがて開花して中から、妖精のような完全体スピリット、リリモンが召喚される。

【リリモン】緑属性 7コスト 緑4軽減

系統：完全体・樹魔

LV1 (1) BP7000

LV2 (3) BP10000

LV3 (5) BP12000

シンボル緑

LV1・2・3 『このスピリットのアタック時』

ボイドからコア2個を自分のスピリットに置き、ターンに1回、このスピリットは回復する。

LV2・3 【旋風：1】『このスピリットのアタック時』

相手のスピリット／アルティメット1体を重疲労させる。(重疲労状態のカードは逆向きにし、1回の回復で疲労状態になる)

LV2・3

自分の緑のスピリットすべては、相手の効果でコアを取り除かれない。

亀之助「完全体……!」

小次郎「リリモンでアタック!アタック時効果でコアブーストと回復をして、【旋風：1】でゴードンを重疲労だ!」

リリモン疲労⇨回復(4⇨6) LV2⇨3

海賊船医ゴードン回復⇨重疲労

リリモンは花形の銃を両手で持ち、ゴードンに向けて放つ。これを受けたゴードンは地面に倒れ込んでしまう。リリモンは自身の効果で緑のオーラを纏い、回復した。

小次郎「アタックは継続中だ！」

亀之助「ライフで受ける」

ライフ5 → 4

リリモンは掌から緑の波動を放ち、亀之助のライフを破壊した。だが、

亀之助「ライフ減少により、バースト発動！アルティメットウォール！バースト効果でお前のアタックステップは終わりだ！」

小次郎「!？」

【アルティメットウォール】 白属性 4コスト 白2軽減

マジック

バースト：自分のライフ減少後

このバトルが終了したとき、アタックステップを終了する。その後コストを支払うことで、このカードのフラッシュ効果を発揮する。

フラッシュ

コスト3以下の相手のスピリット3体を手札に戻す。

リリモンの攻撃が終わった瞬間に、猛烈な吹雪が小次郎のスピリットを襲い、誰もそ

の場から一步も動けなくなってしまう。

小次郎「・・・ターンエンド」

テントモンLV2(3) BP3000

カブテリモンLV2(3) BP8000

リリモンLV3(6) BP12000

バースト無

「ターン06」亀之助

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札1 ⇨ 2

リフレッシュステップ

海賊隊長エドガー疲労 ⇨ 回復

海賊船医ゴードン重疲労 ⇨ 疲労

リザーブ2 ⇨ 6

トラッシュ4 ⇨ 0

亀之助「メインステップ! ゴードンを消滅させる」

海賊船医ゴードン(1 ⇨ 0) 消滅

リザーブ6 ♪ 7

疲労状態のままでは意味がないとみた亀之助はゴードンのコアをリザーブに置き、消滅させた。

亀之助「さらに、召喚！星海の海賊ペルセース！」

手札2 ♪ 1

リザーブ7 ♪ 2

トラッシュ0 ♪ 2

海賊だが、まるで、貴族のような服を着たスピリット、ペルセースが召喚される。

【星海の海賊ペルセース】青属性 5コスト 青3軽減

系統：星将・星魂・闘神

LV1 (1) BP5000

LV2 (3) BP7000

シンボル青

LV1・2 【招雷：コスト6／8】『このスピリットのバトル時』

バトル終了時、このスピリットを破壊することで、自分の手札にあるスピリットと同じ系統を持つコスト6／8のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

【合体時】LV2 『このスピリットの合体アタック時』

ターンに1回、自分のトラッシュにかかる系統「闘神」を持つスピリットカード1枚を手札に戻し、ボイドからコア2個をこのスピリットに置く。

亀之助「エドガーと三つ首竜の海賊旗をそれぞれLV2にアップ!そして、アタックステップだ!」

リザーブ2[☆]0

海賊隊長エドガーLV2(2)BP6000

星海の海賊ペルセースLV2(3)BP9000

三つ首竜の海賊旗LV2(1)

海底国の秘宝LV1

バースト無

亀之助「ペルセース!」

小次郎「BP9000じゃねえか、相手してやれ!リリモン!」

亀之助「三つ首竜の海賊旗、LV2の効果で、1枚引き、1枚捨てる!」

破棄カード

【操舵手アイザック】

ペルセースは剣を振るうが、リリモンは空を飛び、簡単に避けてしまう。リリモンはペルセースの背後に回り、思いつき蹴り上げてペルセースを吹き飛ばし、破壊した。

小次郎「これで、『招雷』は使えないぜ！」

亀之助「いや、ネクサス、三つ首竜の海賊旗のLV1効果で、BPを比べて破壊されても『将雷』を使える！よって、ペルセースに指定されたコスト8を呼び出す！」

小次郎「なに!？」

亀之助「俺のキースピリット！海皇巨神デュラン・キッドをLV3で召喚！」

手札1→0

三つ首竜の海賊旗（1→0）

特大の青い稲妻が雨のように落ちてくる。そこから3つの首を持つ青い竜が現れる。その竜の頭の上であぐらをかいて座っている海賊船長のようなスピリットが、デュラン・キッドだ。

【海皇巨神デュラン・キッド】青属性 8コスト 青4軽減

系統：「闘神」

LV1（1）BP8000

LV2（2）BP10000

LV3（4）BP14000

シンボル青

LV1・2・3『このスピリットの召喚時』

自分のトラッシュにある【招雷】を持つスピリットカードすべてを手札に戻す。

LV2・3 『お互いのアタックステップ』

【招雷】で自分のスピリットが召喚されたとき、このスピリットは回復する。

LV3 『このスピリットのアタック時』

自分の手札にある【招雷】を持つスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

亀之助「デュラン・キッドの召喚時効果でトラッシュの【招雷】持ちを全て、手札に戻す！」

手札0 → 5

小次郎「え!?!」

亀之助のトラッシュにあるカードは全て招雷を持つスピリットカードのため、5枚のカードを全て回収した。

海皇巨神デュラン・キッドLV3(4) BPI6000

亀之助「アタックだ!デュラン・キッド!アタック時効果で手札から【招雷】持ちのスピリットを1体召喚できる!来い!巨人船医ゴードン!不足コストはエドガーをLV1にする」

手札5 → 4

海賊隊長エドガーLV2 → 1 (2 → 1)

再び亀之助のフィールドに巨人船医ゴードンが姿を見せる、が、エドガーのLVを下げたため、BP+の効果が消え、BPが2000ずつ下がってしまう。そして、デュラン・キッドのアタックは継続中である。

小次郎「アタックはテントモンでブロックだ！」

テントモンは果敢にデュラン・キッドに挑むも三つ首竜に雷を落とされ、あっさり爆発してしまう。

亀之助「続け！ゴードン！」

小次郎「ブロックだ！カブテリモン！」

カブテリモンは突撃してくるゴードンを4本の腕で、鷲掴みにし、そのまま地面に叩きつけた、ゴードンはそのまま爆発した。

亀之助「無駄だ！三つ首竜の海賊旗のLV1効果で【招雷】を發揮する！来い！海賊砲手ハーヴェー！」

ゴードンの【招雷】によって、大砲を引っ張りながら、コスト4のハーヴェーが現れる。

【海賊砲手ハーヴェー】 青属性 4コスト 青2軽減

系統：闘神

LV1 (1) BP3000

LV2 (2) BP4000

LV3 (4) BP6000

シンボル青

LV1・2・3 『相手のアタックステップ』

コスト3以下の相手のスピリット／アルティメットはアタックできない。

LV2・3 【招雷コスト6／8】『このスピリットのバトル時』

バトル終了時、このスピリットを破壊することで、自分の手札にあるこのスピリットと同じ系統を持つコスト6／8のスピリットカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

亀之助 コエラン・キツドのLV2効果で、【招雷】でスピリットが召喚された時、デユラン・キツドは回復する！」

海皇巨神デユラン・キツド疲労→回復

小次郎 「マジかよ、あと何回殴ってくんだよ」

亀之助 「お前が死ぬまでだ！ いけ！ ハーヴィー！」

小次郎 「そろそろ、俺も黙って見てらんねえぞ！ フラッシュマジック！ ウィンドウォールを使用！ これでアタックステップは終わりだ！ さらに、【緑・連鎖】で、エドガー

を疲労！」

手札 4 → 3

リリモン (6 → 2)

トラツシユ 2 → 6

【ウインドウォール】 白属性 4コスト 白2軽減

マジック

フラツシユ

このバトルが終了したとき、アタックステップを終了する。

【連鎖：緑】(自分の緑シンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する)

緑：相手のスピリット1体を疲労させる。

小次郎「アタックはライフで受ける」

ライフ 2 → 1

ハーヴィーは大砲を使って、小次郎のライフを破壊した。そして、突風が吹いてエドガーを疲労させると同時に、亀之助のアタックステップを止めた。

亀之助「くっ、ターンエンドだ」

海皇巨神デュラン・キッドLV3 (4) BP14000回復

海賊隊長エドガーLV1 (1) BP3000疲労

海賊砲撃ハーヴェーLV1 (1) B P 3 0 0 0

三つ首竜の海賊旗LV1

海底国の秘宝LV1

バースト無

「ターン07」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リリモン疲労 ⇨ 回復

カブテリモン疲労 ⇨ 回復

リザーブ4 ⇨ 10

トラッシュ6 ⇨ 0

小次郎「メインステップ、リリモンをLV3にアップ！」

リザーブ10 ⇨ 7

リリモン(2 ⇨ 5) LV1 ⇨ 3

リリモンはLVが上がり、元気におどる。

小次郎「アタックステップ！いけ！リリモン！アタック時効果で、デュラン・キッドを重疲労！さらに、リリモンを回復！」

リリモン疲労⇨回復（5⇨7）

デュラン・キッド回復⇨重疲労

リリモンの砲撃にデュラン・キッドの乗っている竜がぐつたりと倒れてしまう。急に動かなくなった竜をデュラン・キッドは不思議そうな顔で見つめる。

亀之助「くつ、アタックはライフだ」

ライフ4⇨3

リリモンは緑の波動を放ち亀之助のライフを破壊した。

小次郎「もう1回だ！リリモン！【旋風】で今度はハーヴィーを重疲労！」

リリモン（7⇨9）

海賊砲手ハーヴィー疲労⇨重疲労

亀之助「ライフで、受ける」

ライフ3⇨2

小次郎「続け！カプテリモン！【超進化】！アトラカプテリモンに進化だ！」

カプテリモンは緑の光を纏い、姿を変えていく、そして、完全体スピリット、アトラカプテリモンに進化した。

【アトララーカブテリモン】 緑属性 7コスト 緑4軽減

系統：完全体・殻人

LV1 (1) BP10000

LV2 (3) BP13000

シンボル緑

LV1・2 『このスピリットの召喚／アタック時』

相手のスピリット2体を疲労させる。または、疲労状態の相手のスピリット2体を手札に戻す。

LV2 『このスピリットのアタック時』

このスピリットのアタックによって相手のスピリットを減らしたとき、系統：「完全体」を持つ自分のスピリット1体につき、相手のライフのコア1個を相手のリザーブに置く。

小次郎 「アトララーカブテリモンの効果！ハーヴィーとエドガーを手札に！」

亀之助 「っ！」

手札4 → 6

アトララーカブテリモンは4本の腕を地面に叩きつけ、雷を地面に回し、エドガーとハーヴィーを痺れさせる。耐えきれないエドガーとハーヴィーはデジタルの粒子と

なって、亀之助の手札に戻ってしまおう。

小次郎「いけ！アトラーカーブテリモン！アタック時効果で同じ効果をもう一度発揮させる！今度はデュラン・キッドだ！」

アトラーカーブテリモンは4本の腕でデュラン・キッドを殴り飛ばす。デュラン・キッドはたまたまず、竜とともに、デジタルの粒子になって、亀之助の手札に戻る。

亀之助「くそ！だが、ライフは0にできない！次のターンでもう一度デュラン・キッドを召喚して、俺の勝ちだ！」

手札6^っ7

小次郎「いいや！このターンでお前のライフはゼロになる！」

亀之助「なに？」

アトラーカーブテリモンは強靱な1本ツノで亀之助のライフを砕く。

小次郎「アトラーカーブテリモンは相手のライフを減らした時、完全体の数1体につき、相手のライフを1つ破壊する！」

亀之助「なっ！てことは、」

小次郎「ああ！完全体はアトラーカー自身と、リリモンがいるから、少しオーバーキルだけどライフを2つ破壊する！いけ！アトラーカーブテリモン！」

アトラーカーブテリモンは雷をツノに落として、そのツノをそのまま再び、亀之助のラ

イフに叩きつける。亀之助のライフはいとも容易く消し飛んだ。

亀之助「ぐ、ぐわあおお！」

ライフ2っ0

小次郎「いよっしゃ! どうだ! これが俺のダブル完全体だ！」

亀之助はバトルフィールドから弾かれる。小次郎がそう言うのと、リリモンとアトラカブテリモンは揃ってガッツポーズをとる。小次郎もバトルフィールドから帰還する。倒れている、亀之助に小次郎は詰め寄る。

小次郎「なんでこんなことしたんだよ、血は繋がってなくても、亀太郎さんは育ての親だろ? 王様とも仲よさそうなのに」

亀之助「う、うるさい! 俺には俺の理由があるんだ！」

亀之助はそう言って、走り去っていく。一方その頃花火はまだ、ドグマーとバトルを繰り広げていた。現在は花火のターンが進行中だ。花火のライフは2、フィールドにはアグモンとグレイモンがLV3で1体ずつ、対するドグマーのライフは3、フィールドは疲労状態の三つ首海賊団イングレイが3体、LV2で存在していた。

ドグマー「ふっ! きつそうだな」

花火「こっからだ! いけ! グレイモン! 【超進化】だ! 鋼鉄の龍! メタルグレイモン!」

グレイモンは橙の炎に包まれ、サイボーグ化していく、そして、メタルグレイモンとなつて再び姿を現した。

花火「召喚時効果！イングレイを1体破壊！」

メタルグレイモンは登場するなり、胸部のハッチを開き、巨大なミサイルを発射する。イングレイの1体はあっさりとそのミサイルに破壊された。

メタルグレイモンLV3

ドグマー「完全体か、」

花火「メタルグレイモン！頼む！アタック時効果で2体目のイングレイを破壊！そして回復！」

メタルグレイモン疲労 ⇨ 回復

メタルグレイモンは左手のアームを器用に振り回し、2体目のイングレイを破壊した。

ドグマー「(なるほどな、完全体でも、十分な力を持つてるわけだ)だが、甘いな！小僧！フラッシュタイムイミング！煌臨を發揮！イングレイに俺のキースピリット、海賊の神皇グリードツグ・パイレートを煌臨！」

手札2 ⇨ 1

花火「なに!?煌臨!?!」

残ったイングレイは青く激しく輝きだすと、海賊の服を着たケムベロスのようなスピリット、海賊の神皇グリードツグ・パイレートに煌臨した。グリードツグ・パイレートは雄叫びをあげる。

ドグマー「イングレイの効果で、グリードツグ・パイレートを回復させる」

海賊の神皇グリードツグ・パイレート疲労→回復

花火「くっ!」

ドグマー「まだまだ続くぞ! グリードツグ・パイレートの煌臨時効果で相手の手札を全て見る!」

花火「なんだって!」

花火の手札が、バトルフィールドにさらけ出される。

花火の手札

【原始の森】

【グレイモン】

【ダイナバースト】

【ガイアフォース】

ドグマー「おっ! いいの持つてるじゃないか! 俺はガイアフォースを借りてくぜ!」

花火「なに!」

花火のガイアフォースが、青い光に包まれ、ドグマーの手に渡る。

ドグマー「グリードッグ・パイレートは煌臨時に、相手のマジックを奪えるのさ、そして、そのまま使うこともできる！俺はガイアフォースを使ってアグモンを破壊する！」

花火のフィールドにガイアフォースが打ち込まれる。対象になったアグモンはいつも容易く焼き尽くされてしまう。

花火「アグモン!!!・・俺のフィールドにガイアフォースが飛んでくるなんて、」
ドグマー「メタルグレイモンはアタック中だったな、じゃあ、パイレートでブロックだ！」

花火「くっ！」

メタルグレイモンは胸部のハッチを開き、ミサイルをパイレートに向けて発射するが、パイレートには全く効かず、煙だけが虚しく残る。パイレートは2つの首でメタルグレイモンに噛み付こうとする。メタルグレイモンは両手で受け止める。だが、3つ目のセンターの首が今にもメタルグレイモンに襲いかかろうとしていた。花火は固唾を飲んで見守るしかなかった。

花火「.....」

海賊船員「船長——!!!」

海賊船員が突然観客席から現れ、バトルを止める。

ドグマー「ああ?なんだ?今忙しいんだよ」

海賊船員「海泉玉をようやく手に入れました!!!」

花火「!!!」

ドグマー「おお!よくやった!もういいぞ!パイレーツ!離してやれ」

ドグマーがそう言うと、パイレーツはメタルグレイモンに噛みついていた2つの首を離す。メタルグレイモンはダメージのあまりダウンしてしまう。

ドグマー「小僧、バトルはお預けだ」

花火「待て!逃げんじゃねえよ!」

ドグマー「ああ?!なに言ってるんだ、続けてたら先にくたばってたのはどっちだよ!」

ドグマーはそれだけ言い残して、海賊船員とともに、バトルフィールドを後にする。
グリードッグ・パイレーツもゆっくりと消滅した。

第19話 竜宮王の真実！グレイモン軍団VS三つ首海賊団！

前回、竜宮都の海泉玉を守るために、犬神海賊団と戦う花火達であったが、亀之助の裏切りもあつてか、結局海泉玉を取られてしまう。それも竜宮王ごと、犬神海賊団はあの後どうやらすぐにその場を立ち去つたようだ。

菜々子「まさか、亀之助さんが、裏切つたなんて、」

カイネ「海賊達が竜宮都に侵入できたのも多分あの人がどうにかしたんだろうね」

カイネの推理は正しかった。海底に存在する竜宮都にマスト付きの古い船で来ることは、ほぼ不可能に近い。亀之助がなにかしらの手助けをしたからだ。

亀太郎「信じられん！まさか亀之助に限つてそんなこと、何かの間違いに決まつている！」

花火「……何かの間違いだったみたいだぜー」

菜々子「！花ちゃん！」

花火がゆっくりと歩いて戻ってくる。

小次郎「間違いつてどう言うことだよ」

花火「あの老けた船長が、俺に言ったんだよ。亀之助さんはどうやら脅されてたみたいだ、『海泉玉を奪う手助けをしなったら、この都の人間を抹殺する』ってな」

小次郎「マジかよ!」

亀太郎「!!それで、亀之助はあんな事を!」

竜宮城の召使いたちは、食料調達のために、陸に上がる時がある。亀之助はその時に、犬神海賊団に捕まり、脅されたのだ。亀之助は「海泉玉の強奪に協力する代わりに都の人達を絶対に傷つけるな」と言う約束の元、犬神海賊団一味と協力していたのだ。

花火「海賊達は星岩島(せいがんじま)ってどこに行つたみたいだ、亀太郎の爺さん、潜水艦は出せる?」

亀太郎「ああ!いつでも出せますぞ!」

花火「よし!!いくぞ!」

花火達は潜水艦に乗って、星岩島を目指す。一方その頃、海賊達は星岩島に到着していた。星岩島はどこを見渡してもほとんど岩しかなかった、たった1つの洞窟を除いては、犬神海賊団、船長のドグマーは部下達を船に残し、亀之助と、竜宮王を連れて、洞窟の中を歩いていた。

亀之助「おい!ドグマー!どう言うことだ!王様のおっさんをどうして連れてきた!約束が違うぞ!」

竜宮王「亀之助……やはり、お前」

竜宮王は亀之助の言葉で亀之助が脅されていたことを確信する。

ドグマー「まあまあ、そお慌てんなよ、亀之助、ようが終わればすぐに返してやるよ、着いたぜ、ここだ」

洞窟の最奥には、巨大な扉があるそこには謎の鍵穴が2つ存在していた。

亀之助「ここは!？」

竜宮王（犬神海賊団、船長ドグマー、こいつ、まさかすべてを知っている？王族でもない、亀太郎でもないこいつがなぜ？）

ドグマー「さあ、お宝とご対面の時間だ！」

ドグマーがそう言うと、海泉玉はどんどん青い光が弾け飛んで行き、中から、青いペンダントのような姿になる。亀之助はこのペンダントには見覚えがあった。

亀之助「!!あのペンダントって!?!?俺のやつと……」

そう、海泉玉から出てきたペンダントは色こそ違えど、亀之助の所持していた赤いペンダントと瓜二つであった。そして、ドグマーは亀之助からその赤いペンダントを奪い取る。

ドグマー「これは、ペンダントではない、鍵だ、この扉を開けるためのな」

竜宮王「!!ドグマー！お前は一体何者だ！なぜそんなことまで知っている！」

竜宮王は血相を変えて、ドグマーに怒鳴りつけるように聞く。

ドグマー「俺はどんな欲しいものも手に入れる方法を知ることができる。．．．その過程でお前らの秘密も知っているぞ、120代目竜宮王、そして亀之助、いや、121代目竜宮王と言うべきか？」

亀之助「なっ!?!それってどう言うことだよ!?!」

竜宮王「．．．」

亀之助に衝撃が走る。つまり、亀之助の本当の親は竜宮王と言うことになる。

ドグマー「言った通りだ、お前はそこにいる竜宮王の息子なんだよ」

亀之助「信じられるか! そんなこと! 俺の親父は亀太郎だ! 121代目竜宮王じゃない!」

竜宮王「．．．奴の言ってることはすべて誠だ、亀之助よ」

亀之助「．．．王様のおっさん、」

竜宮王「お前が生まれた直後に、お前の母が衰弱して亡くなってしまった、王の仕事で忙しいわしだけではどうしてもお前を育てきれなかった。そこで、お前の世話を我々の直々の召使い一家、亀太郎にお前を養子として出した、お前の赤いペンダントはわしがお守りのつもりで渡したもののじゃ、」

亀之助「う、嘘だろ!」

竜宮王「すまない！亀之助！どちらにせよ言わねばならんことだった！今更父と呼んでくれとは言わん！だが、いずれお前は竜宮王を継がねばならん！」

ドグマー「はっはっは！滑稽だな！俺はお前達をここから生きて返すつもりはないのによ！」

竜宮王「なに!?どう言うことじゃ！ドグマー！」

亀之助「約束が違えじゃねえか！」

ドグマー「なんとも言え！さあ、先ずはこの2つの鍵で宝を我が手に！」

ドグマーが扉の左右に鍵を差し込むと、扉は“ゴゴゴ”と音を立てながらゆっくりと開いていく。扉の向こうには、一見岩で覆われただけのスペースに見えるが、中央には、1枚のカードが突き刺さっていた。

ドグマー「おおー！ついに！2枚目の銃（ガン）ブレイブが俺の手に！」

しかし、ドグマーは突き刺さったカードを抜こうとするが、一向に抜けなかった。

ドグマー「なぜだ！なぜ抜けん！」

竜宮王「そのカードは選ばれたものしか抜けないのだ、お前のような残忍な悪党に抜けるものか！」

竜宮王がそう言った直後だった。突然カードは赤い光を纏って、その場を離れる。

ドグマー「!?おお！俺を選ぶ気になったか！」

竜宮王「!馬鹿な!」

だが、カードはそのまま、ドグマーの方ではなく、扉の入口の方へ飛んでいく。向かった先は、

花火「?なにになに!?!なんなの?」「煌星銃ヴルムシューター」?シデンが使ってた銃ブレイブってやつか?」

竜宮王「花火殿!」

銃ブレイブは花火のもとへ一直線に飛んで行ってたのだ。花火を選んだかのように、花火はそれをサツと手に取る。これにはもちろんドグマーは許さない。

ドグマー「それは俺が見つけた宝だ!俺によこせ!」

花火「宝の心配より仲間の心配でもしたらどうだ?」

ドグマー「!?!」

花火がそう言った瞬間花火の背後から亀太郎が現れる。亀太郎は亀之助と竜宮王に寄り添う。

亀太郎「120代目様!121代目様!ご無事でしたか!」

亀之助「そんな言われ方したくねえよ!親父!亀之助って呼べよ!!」

亀之助は亀太郎に裏声になるほどの大きな声で怒鳴り返す。

花火「・・・今頃お前の仲間は俺の仲間にやられてるだろうな」

ドグマー「くっ！小僧！貴様ああ！」

犬神海賊団の海賊船の中では、ドグマーの部下達が全員小次郎、菜々子、カイネにやられていた。

花火「あとは、お前だけだ、」

ドグマー「いいだろう、そんなに死にてえなら、相手になってやるよ！小僧！」

花火「俺は小僧じゃねえ、一木花火だ！亀太郎の爺さん！早く安全なところへ！」

亀太郎、亀之助、竜宮王は洞窟を後にする。

花火&ドグマー「ゲートオープン！解放！」

2人はバトルフィールドにいく、先行はドグマーで始まる。

「ターン0」ドグマー

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

ドグマー「メインステップ、マジック、トレジャードローを使用！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 3

トラッシュ0 ⇨ 3

【トレジャードロー】青属性 3コスト 青1軽減

マジック

メイ

自分のデッキを上から3枚オープンする。その中のネクサスカード1枚をコストを支払わずに配置し、カード名に「海賊」を含むスピリットカード1枚を手札に加える。残ったカードは破棄する。

フラッシュ

このターンの間、スピリット1体をBP+2000する。

ドグマー「効果で3枚オープン」

オープンカード

【襲撃!海賊船グリードッグ号】

【ビヤーカー】

【海賊の神皇グリードッグ・パイレーツ】

ドグマー「その中のネクサスを配置し、海賊スピリットを手札に加える!俺はグリードッグ号を配置し、パイレーツを手札に加える!」

手札4→5

花火「いきなりきやがったな」

ドグマーの後ろにケムベロスの顔をした海賊船が現れる。余ったビヤーカーのカー

ドは破棄された。

【襲撃！海賊船グリードッグ号】 青緑属性 5コスト 青2軽減 緑2軽減

ネクサス

L V 1 (0)

L V 2 (2)

シンボル青緑

L V 1 ・ 2 『相手のアタックステップ』

合体していない相手のスピリットがアタックするとき、相手は、相手のリザーブのコア1個を相手のトラッシュに置かなければアタックできない。

L V 2

カード名に「海賊」を含む自分のスピリットがアタックしている間、相手はバーストを発動できない。

ドグマー「これでお前のスピリットは合体しなければ、コアを払わないとアタックできない！ターンエンドだ！」

襲撃！海賊船グリードッグ号 L V 1

バースト無

ドグマーはやることをなくしたのでターンを終える。

「ターン02」花火

スタートステツプ

コアステツプ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステツプ 手札4 ⇨ 5

花火「メインステツプ!ロクケラトプスをLV2で召喚!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 1

花火のフィールドに3本角の地竜スピリット、ロクケラトプスが召喚された。

【ロクケラトプス】 赤属性 1コスト 赤1軽減

系統：地竜

LV1 (1) BP3000

LV2 (2) BP5000

LV3 (3) BP6000

シンボル赤

花火「さらにネクサス!竜の尻尾奇岩をLV1で配置!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

トラツシユ1 ⇨ 3

花火の背後に、まるで竜の尻尾のような岩が出現する。

【竜の尻尾奇岩】 赤属性 3コスト 赤1軽減

ネクサス

LV1(0)

LV2(1)

シンボル赤

LV1・2

系統：「地竜」／「翼竜」／「古竜」を持つ自分のスピリットすべては、相手の効果ではフィールドから手札／デッキに戻らない。

LV2 『自分のアタックステップ』

系統：「地竜」／「翼竜」／「古竜」を持つ自分のスピリットすべてをBP+3000する。

花火「・・・バーストをセット、・・・アタックステップ！いけ！ロクケラトプス！」

手札3 ⇨ 2

ロクケラトプスは指示を受けて全力で走る。

ドグマー「ライフだ」

ライフ5 ⇨ 4

ロクケラトプスは3本角を活かした体当たりでドグマーのライフを1つ破壊する。

花火「・・・ターンエンド」

ロクケラトプスLV2(2) BP5000疲労

竜の尻尾奇岩LV1

バースト有

「ターン03」ドグマー

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュ3 ⇨ 0

ドグマー「メインステップ!先ずは三つ首海賊団ロッド・ワイラーを召喚!」

手札6 ⇨ 5

リザーブ6 ⇨ 5

下半身が馬、上半身が犬のスピリット、ロッド・ワイラーが召喚された。

【三つ首海賊団ロッド・ワイラー】青属性 2コスト 青1軽減 緑1軽減

系統：異合・剣獣

LV1(1) BP1000

LV2(3) BP2000

シンボル青

LV1・2

このスピリットは、相手によってコアを取り除かれない。

LV1・2 『自分のメインステップ』

このスピリットに緑のシンボル1つを追加する。

ドグマー「さらに、三つ首海賊団イングレイをLV1で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 2

トラッシュ0 ⇨ 1

【三つ首海賊団イングレイ】青属性 5コスト 青2軽減 緑2軽減

系統：異合・剣獣

LV1 (1) BP4000

LV2 (3) BP7000

LV3 (5) BP8000

シンボル青

LV1・2・3 『お互いのアタックステップ』

自分のスピリットに《煌臨》で系統：「異合」を持つスピリットカードを重ねるとき、そのスピリットを回復させる。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

最もコストの低い相手のスピリット1体を破壊する。

【連鎖：緑】（自分の緑シンボルがあるとき、下の効果が続けて発揮する）

緑：相手のスピリット1体を疲労させる。

ロッド・ワイラーと同じく下半身が馬で上半身が犬だが、ロッド・ワイラーとは犬としての種が違うようだ。このイングレイは本来ならば、2コスト払っての召喚となるが、ロッド・ワイラーの効果で緑シンボルが一つ追加されていたため、フル軽減の1コストで召喚された。

ドグマー「グリードッグ号をLV2へアップ！これでお前は海賊達がアタックしてい

る間、バーストを使えなくなった！」

リザーブ2 → 0

花火「！」

三つ首海賊団ロッド・ワイラーLV1 (1) BP1000

三つ首海賊団イングレイLV1 (2) BP4000

襲撃！海賊船グリードツグ号LV2 (2s)

バースト無

ドグマー「アタックストップ！行ってくるのだ！イングレイ！フラッシュ！煌……」
花火「煌臨なんて使わせるかよ！フラッシュタイミング！マジック、ガイアフォース
を使用！イングレイを破壊だ！」

手札2 → 1

ロケケラトプス (2 → 0) 消滅

トラッシュ3 → 5

【ガイアフォース】 赤属性 4コスト 赤2軽減

マジック

フラッシュ

ブレイブの「BP+」を無視して、BP10000以下の相手のスピリット1体を破

壊する。さらに、カード名に「グレイモン」を含む自分のスピリット1体を回復させる。

ドグマー「!!?なんだと!」

不足コストの確保により、ロクケラトプスが消滅してしまうが、巨大な火球がイングリイを焼き払う。

ドグマー「くっ! まだだ! ロッド・ワイラー!」

花火「そいつはライフだ!」

ロッド・ワイラーは勢いをつけて、花火のライフを殴り壊した。

花火「ぐっ」

ライフ5 ⇨ 4

ドグマー「ターンエンド」

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ 1 ⇨ 2

ドローステップ 手札1 ⇨ 2

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 7

トラッシュ5 ⇨ 0

花火「メインステップ！アグモンをLV3で召喚！」

手札2 → 1

リザーブ7 → 1

トラッシュ0 → 2

花火のフィールドにデフォルメされた恐竜のスピリット、アグモンが召喚される。

【アグモン】 赤属性 3コスト 赤2軽減

系統：成長期・爬獣・地竜

LV1（1）BP3000

LV2（3）BP5000

LV3（4）BP6000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

自分のデッキを上から2枚オープンできる。その中の系統「成熟期」／「完全体」を持つスピリットカード1枚を手札に加える。自分のカード名「ガブモン」がいるとき、手札に加えるカードを2枚にする。残ったカードは破棄する。

LV2・3 【進化：赤】『自分のアタックステップ開始時』

このスピリットを手札に戻すことで、手札にある系統「成熟期」を持つスピリット

カード1枚を、コストを支払わずに召喚する。

花火「召喚時効果発揮!」

オーブンカード

【グレイモン】

【タヌグリン】

花火「グレイモンを手札に!」

手札1→2

成熟期のグレイモンが手札に加えられ、対象外のタヌグリンのカードがトラッシュに落とされる。

花火「アタックステップ!アグモンの【進化:赤】を発揮!アグモンをグレイモンに進化させる!」

アグモンは0と1のコードに巻かれて、グレイモンに進化した。

グレイモンLV3(4)BP7000

竜の尻尾奇岩LV1

バースト有

花火「いけ!グレイモン!アタック時効果で、ロッド・ワイヤーを破壊して1枚ドロ

!」

リザーブ 1 ⇨ 0

トラッシュ 2 ⇨ 3

手札 2 ⇨ 3

花火はアタックする前に、ドグマーのネクサス、襲撃！海賊船グリードッグ号の効果で、リザーブのコア1個を支払う。グレイモンは口内に最大まで炎を溜め込み、それを一気に放出、これに直撃したロッド・ワイラーはなすすべなく破壊された。

ドグマー「ライフで受ける」

ライフ 4 ⇨ 3

グレイモンは自慢の頭部の角でドグマーのライフを破壊した。

花火「ターンエンド」

「ターン05」ドグマー

スタートステップ

コアステップ 4 ⇨ 5

ドローステップ 手札 4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ 5 ⇨ 6

トラツシユ1 ⇨ 0

ドグマー「メインステップ!再びロッド・ワイラーとイングレイを召喚!」

手札5 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 1

ドグマーのフィールドに再び、ロッド・ワイラー、イングレイが並び立つ。

三つ首海賊団ロッド・ワイラーLV1(1)BP1000

三つ首海賊団イングレイLV2(4)BP7000

襲撃!海賊船グリードツグ号LV2(2s)

バースト無

ドグマー「アタックステップ!イングレイでアタック!イングレイのLV2・3の効

果でお前の最もコストの低いスピリット、グレイモンを破壊!」

花火「なに!」

イングレイの気合を入れた拳の突きが空を裂き衝撃波を生む、その衝撃波にグレイモンは吹き飛ばされ、破壊されてしまう。

花火「グレイモン!」

ドグマー「はっはっは!終わりだ!フラツシユタイミング!煌・・・」

花火「使わせるか！フラッシュユタイミング！マジック！ガイアフォースを使用！イングレイを破壊！」

手札3 → 2

リザーブ4 → 1

トラッシュ3 → 6

再び巨大な火球がイングレイを焼き払う。

ドグマー「な!? 2枚目!? …小僧、お前、俺に煌臨を使わせない気だな？」

花火「ふっ！」

ドグマーの言葉に対し、花火は鼻で軽く笑う。

ドグマー「そんなことをしてもジリ貧になるのはお前だぞ！やれ！ロッド・ワイラー！」

花火「ライフだ！」

ロッド・ワイラーは再び花火のライフを殴り壊した。

花火「ぐっ!!」

ライフ4 → 3

ドグマー「・・・ターンエンド」

「ターン06」 花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 9

トラッシュユ6 ⇨ 0

花火「メインステップ! もう一回頼む! アグモン!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ9 ⇨ 3

トラッシュユ0 ⇨ 2

花火のフィールドにアグモンが再び召喚される。花火はアグモンの召喚時を使い、デッキから2枚オープンする。

オープンカード

【グレイモン】

【原始の森】

花火「グレイモンを手札に加える!」

手札2 ⇨ 3

2枚目のグレイモンのカードが手札に加えられた。残った原始の森のカードはトラツシユに落とされる。

花火「アタックステップ！進化だ！アグモン！」

アグモンは花火の声に呼応して、グレイモンに再び進化を遂げる。

ドグマー「なんどやっても同じだ！」

花火「いけ！グレイモン！ロッド・ワイラーを破壊！」

リザーブ3 → 2

トラツシユ2 → 3

手札3 → 4

リザーブのコアは1個トラツシユに送られるものの、グレイモンはさつきと同じ手法でロッド・ワイラーを蹴散らす。花火の手札も同時に増える。

花火「さらに！グレイモンの【超進化：赤】でメタルグレイモンに進化だ！」

グレイモンは橙色の炎に包まれ、体をサイボーグ化していく、炎が消えると、中から完全体の赤のデジタルスピリット、メタルグレイモンが現れる。

【メタルグレイモン】 赤白属性 7コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：完全体・地竜・機竜

L V 1 (1) B P 6 0 0 0

LV2 (3) BP9000

LV3 (4) BP11000

シンボル赤

LV1・2・3 『このスピリットの召喚時』

BP12000以下の相手のスピリット1体を破壊する。

LV1・2・3

疲労状態のこのスピリットは、相手のスピリット/ブレイブの効果を受けない。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊できる。そうしたとき、このスピ

リットは回復する。

ドグマー「またそいつか、」

花火「いけ!メタルグレイモン!」

リザーブ2 ⇨ 1

トラッシュ3 ⇨ 4

ドグマー「ライフだ!」

ライフ3 ⇨ 2

メタルグレイモンは機械化している左手のアームで、ドグマーのライフ1つを砕く。

花火「ターンエンド」

メタルグレイモンLV3（4s）BP11000疲労

竜の尻尾奇岩LV1

バースト有

「ターン07」ドグマー

スタートステップ

コアステップ 6 ⇨ 7

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ7 ⇨ 8

トラッシュユ1 ⇨ 0

ドグマー「メインステップ、遊びはもう終わりだ！このターンでお前は海の藻屑と化す！」

花火「来るなら来いよ！ぶっ飛ばしてやる！」

ドグマー「いくぞ小僧！銃ブレイブ！三つ首銃グリード・ロック・ガンを召喚！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ8[→]1

青い魔法陣の中から引き金一つに対し、銃口が3つある銃が出現する。このカードもDーワールドの秘宝とされる銃(ガン) ブレイブの1種だ。

【三つ首銃グリード・ロック・ガン】 青属性 5コスト 青2軽減 緑2軽減
ブレイブ

系統：神銃・異合

L V 1 (1) B P 4 0 0 0

合体 (0) + B P 4 0 0 0

シンボル青

L V 1 【装填】

スピリット状態のこのブレイブには《煌臨》できる。このブレイブに《煌臨》したとき、この煌臨元カードは、そのスピリットに合体できる。

《合体条件：コスト4以上》

【合体時】『このスピリットのアタック時』

相手の手札が減ったとき、このスピリットは回復する。

花火「!!銃ブレイブ!、シデンと同じ・・・」

花火はグリード・ロック・ガンを見てシデンの事を思い出す。銃ブレイブの強さは痛いほど身に染みている。

三つ首銃グリード・ロック・ガンLV1(4) BP4000

襲撃!海賊船グリードッグ号LV2(2)

バースト無

ドグマー「アタックステップ!グリード・ロック・ガンでアタック!」

花火「煌臨なんてさせるかよ!フラッシュタイミング!マジック!ガイアフォースを使用!グリード・ロック・ガンを破壊!さらに!メタルグレイモンを回復!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ1 ⇨ 0

メタルグレイモン(4s ⇨ 3s) 疲労 ⇨ 回復

トラッシュ4 ⇨ 6

ドグマー「!!3枚目だど!?!」

花火の3枚目のガイアフォースはグリード・ロック・ガンを焼き払う。だが、

ドグマー「フラッシュタイミング!マジック!クイックドロウを使用!手札にある銃ブレイブを召喚!2枚目のグリード・ロック・ガンを召喚する!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ5 → 0

トラッシュユ3 → 4

花火「?!」

【クイックドロウ】青属性 3コスト 青1軽減 緑1軽減

マジック

フラッシュ

自分の手札にある系統「神銃」を持つブレイブカード1枚を、コストを支払わずに召喚する。その後、そのブレイブのコスト以下の相手のスピリット1体を破壊する。

再び青い魔法陣が出現し、2丁目のグリード・ロック・ガンが召喚された。この瞬間にクイックドロウのもう一つの効果でグリード・ロック・ガンのコスト以下の相手のスピリット1体を破壊できるが、グリード・ロック・ガンのコスト5に対し、花火のフィールドにいた唯一のスピリット、メタルグレイモンのコストは7であるため、不発に終わる。

三つ首銃グリード・ロック・ガンLV1(4s) BP4000

ドグマー「再び!三つ首銃グリード・ロック・ガンでアタック!」

この瞬間でフラッシュタイムイングが発生、ブロック側が優先されるため、花火に使用権利があるが……

花火「……………」

ドグマー「弾切れのようだな！これで終いだ！小僧！フラッシュタイミング！煌臨発揮！海賊の神皇グリードッグ・パイレート！対象はグリード・ロック・ガン！」

手札1 → 0

三つ首銃グリード・ロック・ガン（4s → 3）

トラッシュ4 → 5s

青き雷とともに、海賊の神皇グリードッグ・パイレートがようやく登場する。

【海賊の神皇グリードッグ・パイレート】青属性 8コスト 青2軽減 緑2軽減

系統：神皇・異合・剣獣

LV1（1）BP10000

LV2（2）BP13000

LV3（4）BP15000

シンボル青

フラッシュ《煌臨：異合／剣獣&コスト5以上》『お互いのアタックステップ』（自分のソウルコアをトラッシュに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねる。）

LV1・2・3『このスピリットの煌臨時』

相手の手札をすべてを見て、その中のマジックカードかアクセルを持つスピリット

カード1枚を破棄する。自分はそのマジックカードかアクセルのメイン/フラッシュ効果を、コストを支払わずに直ちに発揮できる。

【合体時】LV2・3 『このスピリットのアタック時』

このスピリットの『このスピリットの煌臨時』効果を発揮する。

ドグマー「そして!煌臨元になったグリード・ロック・ガンがパイレートに合体!」
グリード・パイレートの胸部にグリード・ロック・ガンが埋め込まれる。

海賊の神皇グリード・パイレート+三つ首銃グリード・ロック・ガンLV2 (3)
BP17000

ドグマー「グリード・パイレートの煌臨時効果!お前の手札を見てマジックカードを捨てさせる!」

再び、花火の手札が、青い光を纏って公開される。だが、

花火「残念だったな」

花火の手札

【アグモン】

【グレイモン】

【ウォーグレイモン】

ドグマー「な!?マジックがない!?(ま、まさか!こいつ、今まで頑なに煌臨させようとしなかったのはただただマジックを消費したかったがため!?!パイレートの煌臨時効果を不発にさせるために)」

花火「今頃気づいても遅えよ、いくぜ!今度は俺の煌臨だ!鋼鉄の龍よ!今こそ究極の龍人となりて敵を討て!究極進化!ウォーグレイモン!」

手札3 ⇨ 2

メタルグレイモン (3s ⇨ 2)

トラッシュユ6 ⇨ 7s

メタルグレイモンが橙色の炎に包まれていく、その中で、姿形を変え、龍人の姿となる。ウォーグレイモンは中から炎を引き裂いて現れる。

【ウォーグレイモン】 赤白属性 9コスト 赤4軽減 白2軽減

系統：究極体・竜人・地竜

L V 1 (1) B P 8 0 0 0

L V 2 (3) B P 1 2 0 0 0

L V 3 (4) B P 1 6 0 0 0

シンボル赤

フラッシュ《煌臨：赤／白&コスト6以上》『お互いのアタックステップ』（自分のソウルコアをフラッシュに置くことで、対象の自分のスピリットに手札から重ねる。）

LV1・2・3 『このスピリットの召喚／煌臨時』

ブレイブの「BP+」を無視して、BP15000までの相手のスピリット／アルティメットを好きなだけ破壊する。

LV2・3 『このスピリットのアタック時』

バトル終了時、自分のフラッシュにあるソウルコアをこのスピリットに置くことで、相手のライフのコア1個をボイドに置く。

ウオーグレイモンLV1（2）BP8000

ドグマー「こ、これが、Dパラディンの煌臨!?!」

花火「煌臨時効果!BP15000以下になるまで相手のスピリットを好きなだけ破壊する!」

ドグマー「馬鹿め!パイレーツのBPは17000!破壊はされん!」

花火「ウオーグレイモンの効果はブレイブのBP+を無視できる!」

ドグマー「な!?!」

ウオーグレイモンは接近してくるパイレーツを特大のガイアフォースをぶつける。

パイレートはなすすべなく、ガイアフォースの中に閉じ込められ、爆発した。

花火「お前の煌臨はいいつ（シデン）と比べたら全然弱い！」

持ち主をなくしたグリード・ロック・ガンは爆発の爆風で、宙を舞う、ウォーグレイモンはグリード・ロック・ガンをドラモンキラーと呼ばれる籠手のような武器で引き裂いた。

ドグマー「ば、馬鹿な！俺のパイレートが、グリード・ロック・ガンが！」

ドグマーのフィールドはすでにネクサスの襲撃！海賊船グリードツグ号のみで、手札も0、勝てる可能性は万に一つもない。

ドグマー「た、ターンエンド、（こ、こいつ、ただのDパラディンに選ばれて浮かれているだけの小僧かと思えば、とんでもねえやつだった、1回勝負しただけで俺のデッキやプレイングを覚え、それに合わせて展開を読んで、完封しやがった、）」

ドグマーは後悔していた、『あの時、勝てる勝負を逃していなかったら、結果は変わっていたのかもしれない』と、だが、どちらにせよ結果は変わらない、一木花火は負けても直ぐに立ち上がるのだから。

「ターン08」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ♪ 1

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 8s

トラッシュユ7s ⇨ 0

花火「メインステップ!アグモンを召喚!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ8s ⇨ 6

トラッシュユ0 ⇨ 1s

花火のフィールドに三度アグモンが召喚される。花火はアグモンの召喚コストにソ

ウルコアを使った。

花火「ウォーグレイモンをLV3にあげ、アタックステップ!いけ!ウォーグレイモン!」

ウォーグレイモンLV1 ⇨ 3 (2 ⇨ 4)

リザーブ4 ⇨ 3

トラッシュユ1s ⇨ 2s

ドグマー「くそ!ライフだ!」

ライフ2 ⇨ 1

ウォーグレイモンはドグマーのライフを腕の武器で引き裂いた。

花火「ウォーグレイモンLV2・3のアタック時効果！バトルの終わりにトラツシユのソウルコアをウォーグレイモンに置くことで相手のライフを1つボイドに置く！」

トラツシユ2s⁺1

ウォーグレイモン(4⁺5s)

ドグマー「くっ！小僧おとおお!!」

花火「打ち上げろお!!!ウォーグレイモン!!!」

ウォーグレイモンはバトルフィールドを埋め尽くすほどの巨大なガイアフォースを形成し、ドグマーに向かって投げる。ドグマーのライフは溶けるようになくなる。

ドグマー「ぐわああああがああ!!!」

ライフ1⁺0

花火「俺の勝ちだ！」

ライフ0に伴い、ドグマーはバトルフィールドから弾かれる。花火が言うウォーグレイモンとアグモンは高らかに咆哮した。花火はバトルフィールドから帰る。

花火「ふう、どんなもんだ！」

ドグマーはバトルのダメージで気絶していた。そこから暗黒の力らしきものが漂っている。アグモンのカードはそのエネルギーを巨蛾姫のときと同様、吸い込む。その

後、犬神海賊団一味は、竜宮都の牢屋に閉じ込められた。

「竜宮都」

竜宮王「改めて都を救ってくれてありがとう! やはり花火殿は都を救ってくれる救世主だった!」

花火「いやあ! 別に、それほどでもく・く・あつ! そうだ! 竜宮王、この銃ブレイブだけ!」

花火は星岩島の宝、「煌星銃ヴルムシューター」のカードを見せて言う。

竜宮王「ああ、そのカードだったら気にしなくていい、もらっていくと良い、せっかく選ばれたのだから、もともと誰が置いていたのかもわからないカードだ!」

竜宮都の宝、「煌星銃ヴルムシューター」のカードは花火の手に渡った。だが、この都の本当の宝はきつと亀之助だったのだろう。花火はそう思った。花火達はこの後直ぐに、亀太郎の潜水艦で、黄の大陸に行くことになる。それと、竜宮王と亀太郎、亀之助の親子の問題だが、亀之助は改心して竜宮王を継ぐそうだが、自分の過ちを償うために。亀太郎も今まで通り、亀之助を自分の息子として育てるつもりらしい。これにて、海底の奥にある竜宮都の物語は幕を下ろした。そして時を同じくして、ここはとある大陸の国の王の間、「暗黒四天王」の一人ウズシオは玉座に座っていた。

ウズシオ「!! ドグマーが負けたか、倒した相手はおそらく、Dパラダインの所持者か、

だが、なぜ暗黒の力は帰ってこない？、．．．まあいい、もうじき【カインネ】が戻ってくるころだ、その時俺はあの力を手にすることができる！．．．はっはっはっはっは！」

ウズシオの笑い声は王宮全体に響いていた。

アトーライ争乱編

第20話 旅メモリー!新たな事件の幕開け!

花火達は亀太郎の潜水艦でようやく、黄の大陸の岸辺に到着した。花火達は潜水艦の上からジャンプで飛び移る。

小次郎「ふいーっ! やつと着いたー!」

亀太郎「皆さん、この度は本当にありがとうございました・・・っ!」

亀太郎は深々と花火達に頭を下げた。

花火「気にすんなって! 爺さんもまたな!」

そう言つて、亀太郎は潜水艦で再び海に潜る。4人は手を振つて見送つた。

菜々子「それにしても・・・、今回の大陸はすっごい綺麗などこだね〜!」

カイン(・・・綺麗、か)

菜々子のいう通り、黄の大陸は非常に色鮮やかであった。それはまるで日本の秋を連想させるような風景だ。

花火「さあーつてと、この大陸に来たらやることは1つだ。カインの故郷について、Dパラディンが描かれてるって言う絵本を間近で見ねえとな」

カイネ「そんなに気になってた？、別にこの旅の中で色々と私が思い出して来たからもう見なくていいんじゃないかなって思うんだけど」

花火「なんでだよ！ここまで来たなら見てえよ！それ見たら多分俺らがなんでDパラデインに選ばれたのかもわかるはずなんだよ」

カイネ「……いや、あんたももう気づいてるでしょ？本当の理由、」

花火「……!!……」

小次郎「え!？」

菜々子「え!?!どう言うこと？」

カイネ「私たちが選ばれた理由は多分あの暗黒の力を『この世から消し去る』こと」

小次郎「暗黒の力？ってあの変なウニヨウニヨした黒い影だろ？」

花火「そう、……俺も薄々感じてはいたんだよなあ」

かつてDパラデインと争った、暗黒の力、遙か昔にDパラデインのオメガバーストによつて滅ぼされたはずだが、今尚も花火達の前に現れている。花火はこの旅のなかで、自分たちは残った暗黒の力を消し去るために、言い方を悪くすれば、Dパラデイン達の尻拭いをさせられているのではないかと考えていた。

菜々子「だとしたら一体何人いるんだろう？暗黒の力持つてる人」

花火「何人かは定かじゃねえが、根源は4人だけだ」

小次郎「おいおい、なんでそんなことわかんだよ、」

花火「この間ドグマーが、『この力は暗黒四天王から貰った!』的なこと言ってたから、多分その四天王の4人が暗黒の力をくぼってんじゃないかなって思っただけだ」

カイネ「なるほど、つまり元を断てと、」

花火「そう言うこと!」

花火達はそんなことを話しながら黄の大陸を歩く。やがて夜を迎え、花火達はそこそこ大きな街に到着し、その街の旅館のようなどに泊まることになった。そして現在大浴場で男女別れて入浴中である。

くく男風呂くく

出?

花火「あー、力が抜けるー」

小次郎「全くだー、Dーワールドに来て温泉に入れるなんてなく」

花火と小次郎はのんびりと湯船に浸かっていた。今までの旅の疲れが取れているようだ。そして花火と小次郎はこれまでの冒険を振り返っていた。

小次郎「・・・にしてもここ来てからほんと、いろんなことあったなー」

花火「ああ、最初は訳がわからなくて」

小次郎「嘘つけ、割と直ぐに順応してたじゃねえか」

花火「最初はなんだっけ、【恐龍隊】だったな！2ヶ月くらい前だけど結構印象残ってるぞ〜」

小次郎「結果的にはお前が半日もしないうちに壊滅させちゃったよな」

赤の大陸を脅かしていた【恐龍隊】、そのしたっぱは花火のこの世界に来てからの初めての対戦相手であった。その後直ぐに花火は【恐龍隊】リーダーの【牙(キバ)】とアグモンのカード達と【恐龍隊】の存続を賭けてバトルすることになる。結果は花火の勝利に終わり、【恐龍隊】は解散することになったが、牙は花火のリベンジを望み、強くなるために部下達と共に修行という名の旅に出る。

花火「まあ結果的にな・・・そうだなあその次は、【武龍村】か」

花火達が次に訪れた村、【武龍村】、まるで江戸時代の日本を連想されるような街並みは村というよりかは国と言った方がまだ響きが良かった。花火達が訪れたときはちょうど反乱軍の犯行予告があり、嚴重な警備であったがために一時逮捕されかけるが、【武龍村】の殿、【武魂 景光(ぶこんかげみつ)】によって害はないと判断され釈放される。その後は武魂一家に代々伝わるカード【忍頭領ソウルドラゴン焰影(ほかげ)】を狙いに来たシュリ達反乱軍一派と戦鬪になる。結果的にソウルドラゴン焰影はシュリに取られてしまうも花火は初めて究極体、【ウオーグレイモン】の進化に成功し、シュリとのバトルに勝利した。花火達はこの時にDーワールドの敵対する2大勢力、【Dポ

リス」と「反乱軍」の存在を知った。

小次郎「景光姐さん、元気にしてっかな〜」

花火「絶対元気だろ、姐さんは・・・その次は・・・あつ!カインだ!船であつたな!白の大陸に連れて行って言われてごねられたっけ、」

小次郎「くっそ〜!あのフェリー大会は絶対に忘れんぞ〜!」

花火達は赤の大陸から緑の大陸へ行く船で「カイン」と出会う。カインはどういう理由があるのかは不明だが、白の大陸に行きたがっており、花火達の旅に同行する形で白の大陸を目指すことになった。

花火「デッキアウトした瞬間、爆発したのは正直面白かったぞ〜!」

小次郎「うるせえよ!・・・その次は・・・パンザワか、あいつ結局どこ行っただんだ?」

パンザワ、我儘で傲慢な性格で菜々子を無理矢理自分の嫁にしようとした男である。彼は花火との勝負に敗れた瞬間、突如現れた謎のワームホールに強引に吸い込まれて姿を消したのだ。それ以来花火達の前に現れていない。花火達はパンザワの正体がラフーキ達、【暗黒四天王】の作り出した(失敗作)怪物だと言うことはまだ知らない。

花火「さあな、無事だといんだけど」

小次郎「お前よくそんなこと言えるな、自分の彼女奪おうとした男に」

花火「あいつ彼女じゃねえし」

小次郎の言葉に少し顔を赤くする花火、照れ隠しなのか、口まで湯に浸かってぶくぶくと泡を吹く。その様子を見て小次郎は軽く笑っている。

小次郎「そんなはあれか【巨蛾の里】か、あれが一番やばかったな」

花火「最初は信じられなかったけどな、そんな異能者がいるなんて、バトルもマジでギリギリだったし」

緑の大陸の巨蛾の里で旅の資金を稼ぐために参加した女性限定のバトル大会、だが、それは巨蛾姫のための大会であり、良き味の魂の人間を選別するための大会であった。花火達の中ではカイネだけが魂を抜き取られる被害にあった。花火は巨蛾姫のとのバトルを思い出す。最初は怒りのあまり自分自身の冷静かつ慎重なプレイングがぶれていたが、ピンチになったことで一旦落ち着き、そこから起動修正していった。花火の頭の中では鎧機竜シルヴィードと合体しているウォーグレイモンと鎧モスラの激突しているシーンが思い浮かぶ。

小次郎「次はあれだな、俺が2種目のDパラデインをゲットした話だな！」

花火「あー、特にぱつとしなかったな」

小次郎「なんじゃあ!!!そりやあああ!もつといりアクションしろよ!」

緑の大陸の古い神社からワームホールで謎の空間に飛ばされた花火達、そこには2種

目の緑のDパラディン、「パルモン」がまるで小次郎を待っていたかのように小次郎の元に飛んで来た。その後そこでであった青年、「マーゼ」に小次郎にパルモンがふさわしいかどうかテストを行った。小次郎はパルモンの進化系「トゲモン」と「リリモン」を巧みに使いこなし、マーゼの赤デッキに勝利を収めた。その後、マーゼはどことなく姿を消し、花火達を元の神社に戻した。

花火「えーっと、次は、・・・シデンか、」

小次郎「お前、ほんとに俺のライバルとしての自覚を持ってよ!あんなのに次負けてみる!ただじゃあ!おかねえぜ!」

花火「ああ、わかっるよ!」

反乱軍のリーダー「シデン」彼は花火を自分達の仲間に引き入れようとした、そこで初めて究極体の2体「ウォーグレイモン」と「メタルガルルモン」が顔を合わせ、激突した。結果は紫の「銃(ガン)ブレイブ」を使いこなしシデンの圧勝に終わる。その後シデンは花火を期待はずれの男と認識して、花火を反乱軍に入れるのを断念した。

シュリ「・・・おい!シデンさんに向かってあんなのとはなんだ!あんなのとは!」

反乱軍のリーダー「シデン」の右腕であるシュリがどこからともなく、花火と小次郎の喉元にクナイを突きつけながら現れる。2人は当然驚くし、慌てる。

花火&小次郎「ええー!!」

シデン「まあ良い、シユリ、下がれ、今日は祝う日だからな、ことを荒だてたくはない」

ドウケ「はっはっは！シデンさんは優しいかたですねえ、」

花火「お前は……反乱軍!?!」

花火の大声は旅館全体に響いた。一方その頃女子風呂では、

〃〃女風呂〃〃

〃?

イトニ「なっなんで、あんたらが……!」

葉々子「わー!!!!イトニちゃん!久しぶり!2ヶ月ぶりくらいかな?」

イトニ「おい!馴れ馴れしい!」

カイネ「あー、この娘が反乱軍のリーダーの妹か、よろしく!あたしはカイネ!」

そう言いながら、女3人は湯船の中でガールズトークを始める。

イトニ「ああもう!フレンドリーにかまってくなあああああ!」

イトニの叫びは旅館全体に響いた。

〃〃男子風呂〃〃

〃?

花火はこの浴場をよーく見渡してみる。すると、反乱軍のメンバーらしきものがたくさんいた。

花火「……お前ら、なんなの?今日は何しに来た?」

シデン「なにつて、今日は我が妹、イトニが2種目のDパラディンを手に入れた、祝いとして、こうやって来ているのだ」

花火「へー、社員旅行的な?」

小次郎「なんかお前ら仲良くない?この間喧嘩みたいなことしててなんでそんな絡めるんだよ」

小次郎は花火とシデンのやりとりに呆れる。

ドゥーケ「おお!今日はなんと素敵な日なのだろうか!今この場にDパラディンが8枚揃っていることになるじゃあないですか!」

小次郎「そうなの?」

シユリ「ああ、シデンさん、一木花火、空野菜々子、カイネが1種ずつ、そして、君とイトニで2種ずつ、計8種の使い手がここに集っていることになるな」

小次郎「なんでお前ら、カイネがDパラディン持つてんのも知つてんだよ!後、俺の2種目も!」

シユリ「まあ、俺はそう言う仕事だからな」

花火（やつぱり尾行されてたか）

ドゥーケ「どうです？これからあなた方も一杯・・・お食事でも、」

花火「あつ！食べたい！」

花火はすかさず手をあげる。

小次郎「ちよつとおおつとまてえ！」

小次郎は花火の頭を思いつきり叩く。

花火「いつつてえ！」

小次郎「なんでそうなるんだよ！相手は敵だぞ！」

シデン「誰が敵だ」

花火「そんなガツツリ敵対してるわけじゃねえだろ？俺ら」

花火の言葉に小次郎は今までの反乱軍との関わり方を思い出していく。確かにアカダツケ村のときや、武龍村のときはほとんど成り行きのようなもので敵対していた。

小次郎「・・・うーん、確かに」

シデン「まあいいだろう、飯くらい奢つてやる」

シユリ「流石シデンさん、懐が広い！」

小次郎「・・・これはきつと俺がおかしいんだろうな」

この後直ぐに全員は風呂を上がり、全員で旅館飯を食べることになる。ドゥーケは興

味津々に小次郎から旅の話聞いていた。菜々子とカイネはなんとかイトニと仲良くなるうと頑張っていた。そんななかで花火とシデンだけは、外で2人だけで会話をしていった。

花火「・・・なるほどなあ、それでお前は反乱軍を立ち上げようと」

シデン「ああ、お前らもなかなか面白い武勇伝をたどっているな」

花火とシデンはお互いのこれまでのいきさつを語っていた。そんななかでシデンは少しだけ笑った顔をする。

花火「(こいつも意外と笑ったりすんのな)でさあ、お前ら、暗黒の力って知ってる?」

シデン「その話か、聞いたことはあるが見たことはない、暗黒四天王と言う奴らも知らん。なるほど、そいつらを駆逐するためにDパラディンは誰かを選び始めたのか」

花火「そっかー、お前らならなんか知ってると思っただけだなあ」

シデン「そうになると、Dポリスがオメガバーストを起動させてしまうと暗黒の力を持ったデジタルスピリットが元の姿に戻る可能性も出てくる、そうなれば世界は必ず混沌に包まれる。尚更奴らを放ってはおけなくなっただな」

花火「ああ、そうなってくるかもな」

シデン「?案外素直だな、この間はDポリスの人々が悪い人には見えないと俺に反発していたくせに、」

花火「いや、まだ悪い人には見えてないよ、ただ、お前らがどっちも嘘を言ってるよ
うには俺には見ええないんだ」

シデン「……ふん！ まあいい、どちらにせよ俺達がDポリスを倒せばいいだけだ、邪
魔だけはするなよ、一木花火」

花火「しねえよ、世界でもなんでも救って来い、シスコン野郎、でもアカダツケ村や
武龍村の時と同じように他の関係ない人達を巻き込むようなら俺はお前を許さない！」

シデン「ふっ！ 戯言を、……じゃあな」

花火「……ああ」

そう言つて他の反乱軍達もぞろぞろと外へ出て行き、迎えに来た飛行船に乗つて反乱
軍は再びDーワールドの空の彼方へ飛んで行った。その後花火達は就寝に入る。1つ
の部屋に布団が4つあつて、一応男女寝る場所を分けた。小次郎と花火はガツツリいび
きをかきながら寝る。そのなかで菜々子はぐっすり寝ていたが、カイネだけはうるさく
てどうにも眠れなかつた。

カイネ「たくっ！ こいつらは、……菜々子はなんで寝てられんのよ」

カイネは気分転換に新聞でも読もうと旅館のロビーに行く。カイネは最新号の新聞
を手に取り、ソファアに座る。

カイネ「最近読んでなかつたなあ、………っ?!」

そう言いながらカイネは新聞を開く。するとその一面を見て驚愕すると同時に顔の血の気がなくなっていく。

カイネ「なっ!!うそ!どう言うこと?後2年もあるはずなのに!ウズシオのやつ!!・・・だったらこうしちやあいられない!早く帰らないと!・・・あいつらともこれでお別れだね」

カイネは直ぐに、花火達に気づかれないように支度して旅館を飛び出した。ただ一つ熟睡している菜々子の枕元に置き手紙を残して、

*

ここは黄色の大陸のとあるとてつもなく広い王国、「アトーライ」実はカイネの故郷でもある。この国の現国王「ウズシオ」は城内の牢屋に赴いていた。奥の方まで行くとその足を止め、檻の中にある男に話しかける。

ウズシオ「よお、気分はどうだ?」

???「何しに来たウズシオ、」

ウズシオ「少し兄の顔を見に来ただけだ、もう直ぐ死ぬんだから、」

???「知ったような口を!陥れたのは誰だ!私だけならともかく!あの子にまで辛い経

験をさせおつて！本当に何がしたいのだ！お前は！」

檻に閉じ込められているのはウズシオの実兄にして元アトーライの国王【マキシオ】、マキシオは太めの声色でウズシオに聞いた。

ウズシオ「何を言ってるんだ、兄さん、なんでも言っただろう？俺は力を手にしたいのさ、この国に眠るとされる奇跡のカード【オメガモン】を手にするために、」

マキシオ「何!?!【オメガモン】!?!そんな本当にあるのかどうかもわからないものがこの国にあるわけないだろう!?!」

ウズシオ「それがあるんだよ、俺にはわかる、この力（暗黒の力）でな、あの遺跡の場所がわかるのもう兄さんしかいないんだよ、3年前から言ってるだろう?・・・早く言え、もつと執行猶予を短くされたいのか?」

ウズシオの暗黒の力は欲するものを手に入れる方法を知ることができる能力、確かにこの力を持つ彼がそう言っているのだ、間違いなくそのカードはアトーライに存在するだろう。だが、場所がわからなくて他の人間に聞くのはどうゆう事だろうか、本来ならば場所もわかるはずである。

マキシオ「もう一週間で死ぬんだ、これより短くしたとしても何も変わらん！私は絶対に言わない！」

ウズシオ「そんなことしてもカイネのためにならないぜ、あいつは間違いなくお前

の報告を見て、このアトーライまで駆けつけてくる、健気な女だな」

マキシオ「くっ!カインネ・・・」

ウズシオ「まあいい、どちらにせよ、カインネも必要になってくる、その時にでも教えな」

この兄弟の意味深な言葉のやりとり、その言葉の中に出てくるカインネと謎のカード「オメガモン」、今まさに、新たな事件が起ころうとしていた。

*

時を同じくしてここは白の大陸のDポリス本拠地、その中でDポリスのナンバー2の実力者にして副総司令官の「サツマ」はバトルヴァイスでDポリスの総司令官と通話していた。

サツマ「なぜだ!なぜなんです!なぜ私に「アトーライ」の事件を調査してもらえないのですか!」

いつも温厚なサツマにしては珍しく怒り狂ったような声で怒鳴る、しかも目上の人間に、

総司令官？『落ち着け、サツマよ、まだその時ではない、先ずは反乱軍を討つことに力を注げ、そんなことをしている間に、我らの望みが潰えてしまつては元も子もないだろう？』

サツマのバトルヴァイスから物静かなが声聞こえてくる。声はわからないようにするためか、何かの機械でいじられていた。

サツマ「しかし！それでは、取り返しのつかないことになるかもしれないのです！どちらにせよ、一回だけ調査をさせてください！」

サツマの言葉が言い終わる前に、ぶつとバトルヴァイスの通話が切れる。

サツマ「くそ！なぜだ！なぜ、我らは反乱軍が事件に絡まないと調査できない！なんでなんだ!？」

Dポリス、約10年前にDーワールドの秩序を維持するために結成された、リアルワールドで言うところの警察と同じようなもの、だが、3年前からなぜか、反乱軍が絡んでくる事件にしか顔を出さなくなっていた。

サツマ（総司令官殿は一体何をお考えになつておられるのだ）

*

またまた時を同じくして、謎の空間の王宮のようなところ、「暗黒四天王」のラフーキともう1人の仲間らしき男はウズシオの事について話していた。

ラフーキ「ねえねえ、どうする?ウズシオ最近勝手に色々なんかやってるけど、僕ら【暗黒四天王】の名は世間一般に広まっちゃあまずいんじゃない?」

10歳前後の男の子のような容姿のラフーキは甲高い声でもう1人の男に聞いた。

???「まあいいだろう、ウズシオが、結果的に【オメガモン】を回収してくれるなら問題のない事だ」

ラフーキ「ちえ、あんたは昔から物好きだよなあ、」

それぞれの思いが交差するなか、「カイネの秘密編」が幕を開ける。

第21話 カイネの秘密!?!メタルシードラモン奇襲!

ここは黄の大陸の大国アトーライ、黄の大陸では他に王政の国はないので実質アトーライの国王は黄の大陸の王のようなものであった。そして現国王ウズシオは4人の部下を引き連れ馬車に乗る準備をする。その直ぐそばにはそれを見送るカイネの姿も見た。

*

一方の花火たちは昨晚にカイネの残したメツセージに気づき困惑していた。カイネのメツセージには「さつさとリアルワールドに帰れ」だの、「お前らに世界が救えるか」などと花火達に対して誹謗中傷的な一文がいくつも書かれていた。これを読んだ小次郎は怒りにくれる。

小次郎「なんだと!?!あの女!等々本性現しやがったな!リアルワールドの帰り方なんかしらねえし!世界を救おうとした覚えもねえよ!」

葉々子「どうしちやっただらうカイネちゃん、昨日まであんなに楽しそうにしてたのに、」

花火「・・・取り敢えず探して見よう、まだこの辺にいるかもしれないし」

花火達はカイネを探すために旅館を後にしようとするが、

女将さん「ちよつとあんたらしいかい?」

旅館の女将さんが声をかけてきた。声が柔和で落ち着きのある印象を受ける年配の女性だ。

花火「なんすか?」

女将さん「あんたらが連れてたあの青髪のお嬢さんってひよつとしてアトーライの姫さん?」

花火「アトーライ?なんだ?国の名前?」

菜々子「え!?カイネちゃんか姫様!」

小次郎「まさか、あのガサツ女が姫様って、な訳ないだろ?」

女将さん「いやいや、いまいないでしょ!?今朝の新聞にさ!ほらほら!」

女将さんがこれでもかと花火達に新聞紙を押し付けてくる。花火達はその新聞の大きな一面を見ると「アトーライ王国の姫君カイネ様、無事生還!!」と載っていた。その一面の写真の女の子は確かにカイネ本人であった。カイネはどことなく寂しそうな顔をしていた。今までずっと旅をしてきた花火達にはよくわかる。

花火「ちよつ、まじ?」

小次郎「アトーライってどこよ、そんな近いの?」

女将さん「ああ、近いよ！この街を出たら直ぐだ、まさか姫様をこの目で崇めることができるなんてね」

菜々子「花ちゃん！じゃあいま直ぐ！」

花火「ああ！カインの本音！聞きに行くぞ！」

花火達はアトーライに向けて出発した。本当に目と鼻の先のような距離である。花火達は黙々と森を歩き続ける。すると前から1台の馬車が通りかかる。人によつては耳を閉じたくなるようなギーコギーコという音を立てながらゆつくりと進む。そんな馬車は花火達の目の前で止まる。

菜々子「おおく！リアル馬車！初めて見た！」

小次郎「何この馬車、急に止まったぞ、邪魔だな」

花火「無視だ、2人ともこんなの相手にすんなよ」

その時、馬車の中から1人の男が顔を出す。それはアトーライ王国の王、ウズシオであった。花火達は当然初対面であるウズシオが暗黒四天王の1人であることを知らない、ウズシオは馬車を降り、花火達に近づいて行く。花火達はウズシオが放つ独特のオーラにたじろく。

花火「？なんだ、誰だあんた」

ウズシオ「俺はウズシオ、アトーライ王国の現国王だ」

花火&菜々子&小次郎「・・・!?!」

3人は驚愕する。まさか今から向かおうとしている国の王にこんな形で出会おうとは思ってはいなかったからだ。しかもカイネが姫様と言うことはウズシオはその親族である可能性が高い。

菜々子「え!?!じゃあもしかして、カイネちゃんのお父さん?」

菜々子が単刀直入に聞いてくる。

ウズシオ「いや違うカイネは俺の兄の娘だ、」

小次郎「姪っ子か」

花火「・・・2人とも、早くアトーライに行け!ここは俺が引き付ける」

花火は何かを察したのか怒鳴りつけるように小次郎と菜々子に言う。花火の言動の意味が理解できない2人はその場で硬直してしまふ。

小次郎「は?どう言うことだよ」

花火「カイネを、いや、カイネの親父を救って来い!」

菜々子「カイネちゃんのお父さんを救う?どう言うことなの?花ちゃん?」

ウズシオ「ふつ、察しがいいな、一木花火、流星はアグモンに選ばれただけはある」

小次郎「こいつなんでそんなことまで」

花火「詳しい話は後だ!取り敢えずお前らはこの新聞を持って早くアトーライに行け

！後菜々子！お前はこれを持っていけ！」

花火はそう言つて小次郎には旅館の女将さんからもらった新聞紙を、菜々子にはカードを一枚渡した。菜々子はそのカードを見て驚いた。

菜々子「えええ!?ちよつといいの!?!これ！」

花火「早く行けつて！俺を信じろ！お前は絶対小次郎のそばを離れるなよ！」

花火のこの言葉を最後に菜々子と小次郎は走つてその場を後にする。残つたのは花火とウズシオと馬車だけだ。

ウズシオ「仲間を逃したか」

花火「逃しちやあいねえよ、あいつらをなめんなよ、」

ウズシオ「そんなにカイネを助けたいか、あいつの親父は、俺の兄は、国の母を裏切つた最低な男だぞ」

花火「その事件は俺も新聞の記事で知つたよ、でもカイネを見ると、妙に一致しないところがあるんだ」

ウズシオ「・・・？」

花火の言う事件とは3年前、カイネの父であり、アトーライの国王であつた、マキシオが自身の妻、カイネの母であるアトーライの王女を殺害すると言う悲しい事件、マキシオはその罪で王座から引きずり落とされ処刑が確定している。空白になつた王座は

そのままマキシオの弟のウズシオに与えられた。マキシオの執行猶予も後3日である。

ウズシオ「ほお、今の新聞長はやたら描きたがりのようだな、・・・で、何が一致しないのだ」

花火「あいつ（カイネ）さ、白の大陸に行きたいって言ってたんだよ、その言葉とこの事件がなかなか一致しないんだ、でもあの記事を読んで俺には恐ろしい仮説が浮かんできたんだ、本当はあいつの母さんを殺したのはあいつの親父じゃなくて、あいつはそれを訴えるために、白の大陸にいるDポリスに連絡しようとした、だけどDポリスは反乱軍が絡まないと調査しようとしな、だから、あいつは直接白の大陸でDポリスと呼ぼうとしていたんじゃないかなってな、そして俺達から離れたのは親父さんの執行猶予が変更され、短くなったから、」

ウズシオ「・・・その根拠は」

ウズシオが睨みつけるように花火に言う。ちなみに花火にDポリスが反乱軍絡みの事件じゃなければ姿を見せなくなったことを教えたのはシデンである。

花火「・・・俺たちがあいつをどれだけ近くで見えてきたと思うんだ、根拠とかそんなのどうでもいい、俺はあいつを意地でも信じ抜くよ」

花火がそう言うと、ウズシオはどこにツボったのか、大笑いしてしまう。

ウズシオ「はっはっはっは!!あいつを信じ抜くねえ、まあ、お前の推理はほとんど当

たっている」

「どうやら花火の推測は当たっているようだ。」

ウズシオ「その通り、3年前、アトーライの王女を殺したのはマキシオじゃない！本当の犯人は、この【暗黒四天王】が1人、ウズシオだ！」

花火「【暗黒四天王】!?!」

花火は大方ウズシオがすべての元凶であると悟っていたが、暗黒四天王の1人であると言うことには気づいていなかった。ウズシオは自分が王になるためにマキシオに犯罪の罪を着せ、王座から引きずり落とすのだ。

ウズシオ「カイネは本当に健気なやつでな、『絶対にパパは殺しなんかしていない』と言いついて、結局、そのまま家出だ、まさか本当に白の大陸に行こうとしていたなんてな」

花火「おいおい、良いのかよ、俺にそんな大事なことベラベラ喋ってよ、お前、王座から引きずり落とされるぜ」

ウズシオ「ふっ！今から死にゆく者には何を言っても構わないだろう、それに貴様の言葉だけでは国民の誰1人として信用などせんぞ」

花火「・・・なるほどな、要はとにかくお前をぶっ飛ばせば、カイネは救われるってわけだおまけに【暗黒四天王】も倒せて一石二鳥だ」

花火の言っていることはあながち間違いでなかった。ウズシオの罪が公になれば、間違いなく、ウズシオは罰を受け、マキシオは容疑が晴れるからだ。

ウズシオ「貴様にあいつは救えん、貴様を殺った後直ぐ他の仲間も涅槃に沈めてやる」

花火「残念だけどそれは無理だな、・・・お前は今から俺にぶつ飛ばされるから、行くぞ！」

花火&ウズシオ「ゲートオープン！解放！」

2人はバトルフィールドに向かった。

ウズシオの先行でバトルが開始される。

「ターン0」ウズシオ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

ウズシオ「メインステップ、ネクサス、甲竜の狩り場をLV1で配置してターンを終える」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 4

ウズシオの背後から崩壊した都市が出現した。

甲竜の狩り場LV1

バースト無

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メイנסテップ！来い！アグモン！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 3

花火のフィールドにアグモンが召喚される。そのアグモンを見てウズシオは何か聞きたげな顔を見せる。

ウズシオ「・・・お前はそのカードをどうやって手に入れた」

花火「ああ!?どうって、、郵便受けに入ってた」

ウズシオの突飛な質問に、花火は慌てながらも正直に応えた。

ウズシオ（つまり、リアルワールドに流れ着いたと、いやしかし、暗黒の力に汚染さ

れながら生き延びるはずはない、まあいい、このバトルが終わりしだいにやつから取り上げればわかることだ)

花火「アタックステップだ! いけ! アグモン!」

花火の指示にアグモンが応えるかのようにアグモンは口内に火をため、極限まで溜まった瞬間にそれを放つ。その炎は真っ直ぐにウズシオのライフに命中し破壊した。

ウズシオ「・・・」ライフ5 ⇨ 4

花火「ターンエンド」

アグモンLV1(1) BP3000

バースト無

「ターン03」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 6

トラッシュ4 ⇨ 0

ウズシオ「メインステップ、ネクサス、氷宙遺跡スカイ・リオをLV2で配置、」

手札 5 ⇨ 4

リザーブ 6 ⇨ 2

トラツシユ 0 ⇨ 3

ウズシオの背後にまたしてもネクススが配置られる。それはまるで氷が踊っているかのように宙に浮いている謎の遺跡であった。

花火「またネクススかよ、」

ウズシオ「そして、さらに、メノウドラゴンをLV1で召喚する」

手札 4 ⇨ 3

リザーブ 2 ⇨ 0

トラツシユ 3 ⇨ 4

ウズシオのフィールドに鋼鉄に覆われてとても頑丈そうな白の甲竜のスピリット、メノウドラゴンが召喚される。

ウズシオ「スカイ・リオの効果で、ターンに1回、甲竜のスピリットが召喚されたとき、コアを1つブーストする、そのコアをそのままメノウドラゴンに置き、LV2へアツプする」

メノウドラゴンLV1 ⇨ 2 (1 ⇨ 2 s)

ウズシオ「メノウドラゴンはソウルコアが置かれている時、甲竜のスピリット全てに

BP+5000し、相手のスピリットとブレイブの効果を受けず青のスピリットとしても扱う、これでターンを終えよう」

メノウドラゴンLV2(2s) BP11000

甲竜の狩り場LV1

氷宙遺跡スカイ・リオLV2(1)

バースト無

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 5

トラッシュ3 ⇨ 0

花火「メインステップ、(BPが高い、オマケに効果を受けないんだったら、下手に後手に回るよりかは・・・攻める!) アグモンをLV3にアップしてアタックステップ! アグモンの「進化:赤」を発揮! グレイモンに進化!」

グレイモンLV3(4) BP7000

アグモンはいつものようにグレイモンへと進化した。

花火「グレイモンでアタック！アタック時効果【超進化：赤】発揮！今度はメタルグレイモンだ！」

メタルグレイモンLV3（4）BP11000

グレイモンもいつものようにメタルグレイモンに進化を遂げる。

花火「いけ！メタルグレイモン！」

ウズシオ「BPはメノウドラゴンよりしただぞ」

メノウドラゴンは甲竜の狩り場の力でBPがさらに2000上乗せされているので合計BPは13000だった。だが、そんなことでヘコタレル花火ではない。

花火「フラッシュ煌臨を發揮！対象はメタルグレイモンだ！」

手札5 → 4

リザーブ2s → 1

トラッシュ0 → 1s

メタルグレイモンは橙色に輝き出す。

花火「鋼鉄の龍よ！今こそ究極の龍人となりて敵を討て！究極進化！ウォーグレイモン！！」

ウォーグレイモンLV3（4）BP16000

メタルグレイモンもいつものようにウオーグレイモンへと姿を変えた。

ウズシオ「・・・ウオーグレイモン」

花火「いけ！ウオーグレイモン！」

ウズシオ「ライフだ」

ウオーグレイモンは自身の身体をドリルのように回転させて、ウズシオのライフめがけて一直線に飛んでいく。そしてウズシオのライフを1つあっさり破壊した。

花火「まだまだ！ウオーグレイモンのLV2、3の効果！トラツシユのソウルコアをウオーグレイモンに置くことで、お前のライフを1つボイドに送る！」

ウオーグレイモン（4 ⇨ 5 s）

トラツシユ1 s ⇨ 0

ウオーグレイモンはウズシオのライフを破壊した直後に空中に飛び上がり態勢を整えそのまま特大のガイアフォースを形成しウズシオのライフへ投げつける、ウズシオのライフ1つはまるで溶けるように消滅した。

花火「どうだ！」

ウズシオ「・・・ぬるい、ぬるすぎる！こんもので今まで勝ってきたのか！片腹痛いわ！」

ライフ4 ⇨ 2

花火「!!ターンエンド・・・」

花火のバトスピはウズシオから言わせてみたらぬるいようだ、花火はウズシオの迫力に呑まれながらもターンを終える。

ウオーグレイモンLV3(5s) BP16000

バースト無

「ターン05」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 6

トラッシュユ4 ⇨ 0

ウズシオ「メイנסテップ、・・・時は満ちた、」

花火「・・・!?!」

花火はウズシオの言動から何か只者ではないものが来る予感を感じた。
ウズシオ「召喚!ダークマターズの一角!メタルシードラモン!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 4

ワールドに突如渦潮が現れるその中からまるで海蛇のような外見で鼻先に強力なレーザー砲を取り付けたデジタルスピリット、メタルシードラモンが飛び出してきた。花火はダークマターズという言葉に引つかかっていた。

花火「ダークマターズ?!」

ウズシオ「ダークマターズは我ら【暗黒四天王】がそれぞれ一枚ずつ所持しているカード達だ、ざっくり言えば我らの力の象徴だな・・・スカイ・リオの効果でコアを1つブーストする」

ウズシオはそのコアを使いメタルシードラモンのLVを2に上げた。

ウズシオ「メノウドラゴンのコアを全て使い、異魔神ブレイブ、幻魔神を召喚する」

手札3 ⇨ 2

メノウドラゴン(2 ⇨ 0) 消滅

トラツシユ4 ⇨ 6

花火「異魔神ブレイブ!」

メノウドラゴンは維持コアの消失により消滅するが、吹き荒れる吹雪の中から異魔神ブレイブの幻魔神が姿を見せる。

ウズシオ「左合体だ、」

メタルシードラモン＋幻魔神BP18000

幻魔神の左の光線にメタルシードラモンは繋がれた。幻魔神は左合体時に【超装甲：赤／紫／青】を与える、これにより花火のほとんどのカード達の効果がメタルシードラモンに対してはシャットアウトされることとなる。

ウズシオ「・・・一木花火、お前はこのターンで死ぬ」

花火「はあ？」

ウズシオ「アタックステップ！やれメタルシードラモン！アタック時効果このスピリットのコスト以下の相手のスピリット1体を破壊する、ウオーグレイモン貴様だ」

花火「なに!?ウオーグレイモン!!」

花火の叫び虚しく、ウオーグレイモンはメタルシードラモンのレーザーから逃れるすべはなく、腹部を貫かれて爆発してしまう。現在のメタルシードラモンは幻魔神との合体でコスト合計12、それ以下のスピリットならアタックするだけで破壊できる。

ウズシオ「さらに、フラッシュタイミング、メタルシードラモンのLV2効果で、ネクサスを1つ疲労させて、メタルシードラモン自身を回復させる！スカイ・リオを疲労！」

氷宙遺跡スカイ・リオ（回復⇨疲労）

メタルシードラモン＋幻魔神（疲労→回復）

花火「・・・?!?・・・ライフで受ける」

ウズシオ「今のメタルシードラモンはダブルシンボルだ」

花火はこの時、決して油断してはいなかった。仮にもウズシオは暗黒四天王の一人、暗黒の力の源であるため、いつも以上のバトルダメージを予想していた。しかし、

花火「・・・ブ、フオオ!!」

ライフ5→3

そんなレベルではなかった、メタルシードラモンの尻尾の攻撃が花火のライフを砕いた瞬間、花火はあまりのダメージに吐血してしまう。受けた後も後遺症が残るように足がふらつき、頭もまるで重たい石が入ってきたかのように痛くなる。

花火（な!?マジかよ、暗黒四天王っていうやつらのダメージはこんなに痛いのかよ、こんな0になるまで受けたら・・・本当に死ぬ!?）

花火は自分が死ぬことを考えてしまい一瞬間が青ざめるが、自身の肩に背負っているものを思い出し、再び、バトルに集中する。だが、花火の手札にはリアクティブバリアやリミットバリアといった防御系のカードはなく、この時点で敗北は確定していた。

ウズシオ「2撃目だ、やれ、メタルシードラモン、今度は甲竜の狩り場を疲労させて回復させる」

甲竜の狩り場（回復⇨疲労）

メタルシードラモン＋幻魔神（疲労⇨回復）

メタルシードラモンは再び、尻尾の攻撃で花火のライフを破壊した。

花火「・・・がっは、・・・」

ライフ3 ⇨ 1

ウズシオ「トドメだ、死ぬ、出来損ないのカードバトラーよ！」

花火「・・・くっそ、くっそ、クツソーラー!!!」

ライフ1 ⇨ 0

メタルシードラモンは鼻先のレーザーで花火の最後のライフを破壊した。花火は血だらけのままバトルフィールドから弾き出された。ウズシオも後を追うようにバトルフィールドから帰還する。花火は血だらけで地面に這いつくばっていた。

ウズシオ「他愛もなかったな……………さて、アグモンを取り上げておくか、」

ウズシオが花火の散らばったカード達の中からアグモンのカードを探し、触ろうとした瞬間、アグモンのカードから静電気のようなものがバチツと音を立てて、ウズシオの手を弾いた。まるでウズシオを拒絶するかのよう。

ウズシオ「!?、まあ良い、どのみちこの男は死ぬ、さすれば、お前も力を失いたただのカードに成り果てるだろう……!!」

ウズシオが再び馬車に乗ろうとした直後に花火は這いつくばりながらもウズシオの足をガシツと掴む、満身創痍の状態で呼吸も乱れに乱れまくっていた。それでも彼の本能がウズシオを止めようとした。

ウズシオ「驚いた、まだ息があるとは、……だが、時間の問題か、最後にこれだけは言っておこう」

ウズシオは強引に花火の手を振り払うと、不敵な笑みを浮かべて花火に言葉を残す。ウズシオ「安心しろ、お前の連れのあの2人もカイネも直ぐにお前と同じ場所に送ってやる……そして今一度言う。お前は誰も救えない」

花火「……!!」

ウズシオは直ぐに馬車に乗り、アトーライに帰国しようとする。すると花火は最後の力を振り絞り叫ぶ。

花火「……ちやがれ、……待ちやがれ!!」

花火の悔しさと絶望感な混ざった絶叫も虚しく、馬車は花火との距離を離していった。

ウズシオ「残ったDパラダインの所持者2人も消しとけ、ポイズ、ビュー、アドス」

ウズシオは馬車の中に待機していた3人の部下に葉々子と小次郎を倒せと命令する。3人ともいずれもウズシオに力を与えられたもの同士だ、ウズシオには自身の力を与えた、言わば「暗黒の使徒」が5人いる、1人は火花が倒したドグマーだが、残りの4人の力は未知数だ。ポイズ、ビュー、アドスはウズシオに対し「御意」とだけ応えようと、瞬間移動でもしたかのように姿を消した。

*

ここはアトーライ、四方八方に綺麗な建物が並び立ち、最後部には巨大な城が堂々と建てられている。その中の牢屋で、カインは3年ぶりに自身の父であるマキシオ再会していた。

カイン「パパ！」

マキシオ「……カイン!?!、まさか本当に帰ってくるなんて、あれほど帰ってきてはならないと……」

カイン「私、もう逃げないよ!パパ!私はウズシオに勝って、パパを取り戻す!」
マキシオ「勝つって、お前、あの儀式に参加しようというんじゃないだろうな!もし負けてもしたら、私がお前を逃した意味がなくなってしまう!」

カイン「大丈夫!これでもDパラディンに選ばれた1人だよ!だから言つて!伝説の地下闘技場の場所を、私が「オメガモン」の復活を必ず阻止して見せるから!」

カイネの決心は固い、儀式がどういものかは判明できないが、少なくとも、ウズシオの目的はここにあるようだ。

第22話 暗黒の断片！スカルグレイモン目覚める！

花火の言葉を信じ、急いでアトーライに来た小次郎と菜々子、小次郎は花火に渡された新聞の記事を読んで花火の考えの意図を理解した。菜々子も同様にカイネの考えを理解してしまう。

小次郎「なるほどな、あいつは親父さんを助けるために……」

菜々子「……私、何もしてあげられなかった、友達なのに、カイネちゃんは一人でずっと戦ってたのに」

菜々子はカイネに何をしてやれなかった事に責任を感じている。小次郎はそんな菜々子の肩に手を置き「そんなことはない」と呟き、慰める。

小次郎「取り敢えず、花火が言ってたように、城に行つて、カイネに会つてこよう」

菜々子「……そだね」

ビュ―「そうはさせないわよ！」

小次郎&菜々子「……!!……」

小次郎と菜々子が振り返った先には、小柄の女性といかつい男がいた。この2人はウズシオの暗黒の力を与えられた「暗黒の使徒」である。

ビュー「【暗黒四天王】のウズシオ様の命令により、お前達2人を排除する!」

アドス「おいおい、ビュー、そんなにきいはるなよ、・・・にしてもどっちも弱そうだなあ、相手にするならまだ男の方がいいかな」

ビューはウズシオへの忠誠心が高い、アドスは逆にそうでもない、彼は取り敢えず強い相手と戦えればいいようだ。

菜々子「・・・【暗黒四天王】!?!」

小次郎「つてあの変な力の源的なやつじゃねえか!この国の現国王がその1人!?!
……………花火はそんなのと戦いを挑んだつてのか!?!」

菜々子と小次郎はウズシオが暗黒四天王の1人であることに驚きを隠せない。

小次郎「まさかこの件にそんな化けもんが絡んでるんなんでな、思った以上に危ない橋だぞ、こりや、・・・行けるか?菜々子君?」

菜々子「もちろん!カイネちゃんを助けるまでは絶対にへばらないよ!」

アドス「お?やる気十分つて感じだな」

ビュー「よし!いくぞ!アドス!」

小次郎&アドス「ゲートオープン!解放!」

菜々子&ビュー「ゲートオープン!解放!」

小次郎はいかつい男のアドスと菜々子は小柄の女性のビューとそれぞれバトル

フィールドに向かい、バトルする。

*

一方の花火はウズシオとのバトルに完全敗北を喫し、そのバトルダメージで生死の境を彷徨っていた。

花火（ちくしよう、だめだ、もう体が動かかぬえ、ここまでか、）

花火の体は今や全身血まみれの状態、体を動かしたくても、動かした瞬間傷口が広がるため、どうしても起き上がることができなかつた。

花火（・・・カインのやつ、Dポリスに会いたいただけなら反乱軍に会った時にでもあいつらについていけばよかつたのに、、、俺らとの旅が楽しかつた証拠じゃぬえか、なに、あんな手紙残してどっか行きやがつて）

花火はそんなことを考えながらもゆっくりと自分の死が近づいてくるのがわかつた。花火はだんだん走馬灯のように今までの記憶が蘇ってくる。それは泣いたり笑ったりはしゃいだりと色んな思い出だつた。花火はそれを思い浮かべながら自分の死を受け入れようとしていた。

花火（今までいろいろなことがあつたな、・・・小次郎は本当にうるさい奴だつたな、楽しかつたけど、・・・菜々子は顔を見ない日はなかつたな、・・・聖子さん、ごめん、俺は先に死んでしまうよ、結局リアルワールドに帰れなくてゴメン、墓を建てるなら、父さ

んと母さんの横……に……?)

次の瞬間、花火は走馬灯の中で自分の父と母の姿を見る、真つ黒のシルエットであったが、息子の花火にはそれが自分の両親だとすぐにわかった。父と母は花火に語りかけてくる。

花火の父『お前はまだ死んではならない!花火!生きろ!』

花火の母『そうよ、花ちゃん!生きて!花ちゃんが死んでしまつたらいつたい何人の人達が悲しむと思うの!』

花火(……俺が死んだら……悲しむ?)

花火は少し考えてみた、自分が死んだ後のことを、それは今まで自分に携わつて来た人達が悲しむ姿であつた、花火はこの瞬間、走馬灯を消し去り、再び息を吹き返す。

花火「そうだ!死ぬるか!たかがバトスピで!誰かが悲しむ姿なんて想像もしたくねえ!そんな思いすんのはもう俺だけでいい!早く立ち上がってカイネを助けにいけ!生きろ!生きるんだああ!!」

花火は必死に血を吐きながらも起き上がろうとする。そして、花火の叫びに応えるかのように、花火のデジタルスピリットカードが赤黒く輝きだす、その光は花火を包んでいた。花火の目も色も黒から赤黒く変色していく。

花火「……!!」

*

一方の菜々子と小次郎は、ビューとアドスの暗黒の力とプレイングに圧倒されていた。

ビュー「いけ！トウインクル・ゲイル・ピーコック！」

七色に光る羽をもつ緑の鳥のスプリット、トウインクル・ゲイル・ピーコックが菜々子のライフめがけ飛翔する。異魔神ブレイブの兎魔神と左合体していた。

菜々子「フラツシユタイミング！マジック！ドラゴニックウオールを使用！ツノタヌを破壊！これでこのアタックでターンを終了させる！ピーコックのアタックはライフで受ける！」

ツノタヌは赤の光を纏い、消滅する、これで菜々子のフィールドにはガルダモンを除き、誰もいなくなるが、ドラゴニックウオールの効果で、アタックステップを止めることが可能になった。だが、

菜々子「きやああ!!」ライフ3。1

トウインクルは翼の一撃で、菜々子のライフを2つ破壊した。暗黒の力の乗った一撃に菜々子は思わずよろめいてしまう。

菜々子「(こんな痛みを耐えてたのか、花ちゃんは、)でもこれくらいの痛み、カイネ

ちゃんの心の痛みに比べたら屁でもない!」

ビュー「あら?意外と頑丈な娘ねえ・・・ターンエンドよ」

トウインクル・ゲイル・ピーコック+兎魔神LV2(5)BP16000(回復)

バースト有

ビュー(バーストは絶甲氷盾、ライフは5、私に抜かりはない!ウズシオ様のご期待に必ず応えてみせる!)

「ターン06」菜々子

スタートステップ

コアステップ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

菜々子「ドローステップ!・・・!!これって!」

菜々子が引いたカードは、花火が別れ際に自分に渡したカードだ。

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 10

トラッシュ7 ⇨ 0

ガルダモン疲労 ⇨ 回復

菜々子「メインステップ!先ずはガルダモンをLV3にアップ!」

リザーブ10 ⇨ 6

ガルダモン(1 ⇨ 5) LV1 ⇨ 3

ガルダモンはLVアップで力強く雄叫びを上げる。

菜々子「そして・・・いくよ！花ちゃん！異魔神ブレイブ！炎魔神を召喚！」

手札6 ⇨ 5

リザーブ6 ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 4

炎の歯車の中から花火が菜々子に託したカード、炎魔神が機械音を響かせながら地上に降りたつ。

菜々子「今日はよろしく！炎魔神」

炎魔神は菜々子の方へ振り向き、何故か頭の後ろをかきながら少し照れる。イカツイロボットのような巨大なブレイブが、1人の少女に照れるのは側から見たら異様な光景であった。

ビュー「・・・炎魔神？」

菜々子「炎魔神！ガルダモンと左合体！」

ガルダモン+炎魔神BP17000

炎魔神は左手から光線を放ち、ガルダモンと自信を繋げる。

菜々子「アタックステップ!ガルダモンで合体アタック!!炎魔神の左合体時効果でバーストを破棄してガルダモンにBP+5000!!」

ビュー「なんですって!？」

バースト有 ⇨ 無

【絶甲氷盾】破棄

炎魔神は左手をロケットパンチの要領で飛ばし、ビューのバーストカード、絶甲氷盾を吹き飛ばした。離れた左手はそのままフィールドを一周して再び自身に装着される。

菜々子「さらにガルダモンのアタック時効果で1枚オープン!」

オープンカード

【ピヨモン】

手札5 ⇨ 6

ガルダモンの効果でオープンされたカードはピヨモン、赤のスピリットカードなどで、ガルダモンに赤のシンボルが1つ追加され、炎魔神のシンボルと合わせてトリプルシンボルのスピリットになる。

ビュー「くっ!ライフで受ける!・・・ぐわああ!!」

ライフ5 ⇨ 2

ガルダモンはビューのライフに強烈なかかと落としを食らわせた。

菜々子「ガルダモンのもう1つの効果で、手札2枚を破棄して、回復！」

手札6[→]4

ガルダモン+炎魔神（疲労[→]回復）

ガルダモンは雄叫びをあげながら赤い光を浴びて回復する。

菜々子「もう一回お願いガルダモン！」

オーブンカード

【ヒノシシ】

手札4[→]5

オーブンカードはヒノシシなので再びガルダモンに赤のシンボルが1つ追加された。

ビュー「くっ！トウインクルでブロック！」

トウインクルは上空から急降下してガルダモンを襲うが、ガルダモンはタイミングよく避けてそのまま回し蹴りを炸裂させる。地に落ちたトウインクルにガルダモンはそのまま両腕から炎の巨鳥を打ち出し、トウインクルを焼き尽くした。

ビュー「・・・トウインクル!!、・・・馬鹿な!!この私がかんな小娘ごときにいい!!」

キーカードの破壊に戸惑うビュー、だが、彼女のフィールドに残るのはトウインクルの爆発の際に起きた爆煙のみ、

菜々子「ガルダモンの効果！」

手札5 ♪ 3

ガルダモン+炎魔神(疲労♪回復)

ガルダモンは再び起き上がる。

菜々子「これでどどめ!打ち上げろ!!ガルダモン!」

ビュー「……ら、ライフで受ける」

ライフ2 ♪ 0

菜々子は花火と同じように、「打ち上げろ!」と決め台詞を叫ぶ。ガルダモンは先程と同じように、炎の巨鳥を打ち出し、ビューの残り2つのライフを同時に持っていった。ビューはバトルフィールドから弾かれた。

*

ここは別のバトルフィールド、小次郎とアドスがバトルしていた。小次郎のフィールドにはアトラーパーティモンが1体のみ、ライフは4。アドスのフィールドにはルビークロージャガーというスピリットが存在していて、ライフは5。現在はアドスのターン中、既にアタックスステップに入っている。

アドス「いくぞ!!俺はルビークロージャガーを対象に煌臨!」

小次郎「……!!……」

アドス「来い!銀銃皇ヴァルサー・デীগー!」

ルビーのように真っ赤な爪を持つルビークロージャガーが赤き光を浴びて姿形を変え、背中に巨大な銃を2つ背負った、虎型のスピリット、銀銃皇ヴァルサー・ディーガが煌臨する。

アドス「煌臨時効果！【煌砲撃】！俺のデッキから2枚オープン！」

オープンカード

【コレオン】

【パイル・ピューマ】

アドス「その中の皇獣スピリット1体につき、相手のライフを1つ破壊するぜ!!おら!!」

小次郎「なに!？」

アドスの妙な掛け声と共に、ヴァルサー・ディーガの銃にコレオンとパイル・ピューマのカードがリロードされる。ヴァルサー・ディーガはそのまま小次郎に向けて強力な砲撃をお見舞いする。

小次郎「ぐわああ!!」

ライフ4 → 2

アドス「アタックは継続中だぜ!!おら!!」

小次郎「そいつもライフだ!!・・・くう!!」

ライフ2^っ1

ヴァルサー・ディーガは全身全霊の体当たりで小次郎のライフをさらに1つ破壊した。

アドス「……ターンエンド、やっぱり弱つちいなお前」

勝ちを確信したアドスが哀れみの声を小次郎にかける。

小次郎「んだと!!」

アドス「やつぱ、ウズシオじゃなくて俺が一木花火を殺つとけばよかった、一番強そうだったのに、あいつどうにかして生き返らないかな?」

この言葉を聞いて小次郎は頭の血がサーッとなくなっていくのを感じた。アドスの言葉は既に花火が死んでいるような言い分だったからだ。

小次郎「……一木花火がお前らに倒されるわけないだろ?」

アドス「いやあいつは死んだぞ、血まみれになつて」

小次郎「嘘つけ!!このデカブツやろおお!!あいつは俺が倒すまで死なないんだよおお!!」

小次郎はアドスに怒りをぶつけながら自分のターンを進める。

「ターン06」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 10

トラッシュユ6 ⇨ 0

アトラーパーテリモン（疲労⇨回復）

小次郎「メインステップ！テントモンを召喚!!コアブースト！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ10 ⇨ 7

トラッシュユ0 ⇨ 2

小次郎のフィールドにテントモンが召喚される。このバトルでは2回目の召喚だ。

小次郎「さらに、ブレイブカード！鎧鳥キレンジャックを召喚！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ7 ⇨ 5

トラッシュユ2 ⇨ 4

アドス「おお！ブレイブか！」

小次郎のフィールドに鎧を身につけた鳥が現れる。

小次郎「アトラーと合体だ!」

アトラーカーブテリモン+鎧鳥キレンジャックLV2(4s) BP16000

キレンジャックは鎧の部分だけを残して消滅、残った鎧はアトラーカーブテリモンに装備されていく。

小次郎「いくぞ!アタックステップ!アトラーでアタック!アタック時効果でヴァルサー・デীগガを手札に!」

アドス「!!」

アトラーカーブテリモンは4本の腕を地面に叩きつけ、ヴァルサー・デীগガまで電気を走らせる。ヴァルサー・デীগガはほとぼしる電気から逃れることはできず、直撃、デジタルの粒子となって、アドスの手札に戻っていく。

アドス「・・・おお、やるじゃないか!だが、戻したところで、また【煌砲撃】を食うだけだぞ」

小次郎「お前はこのターンでくたばるから関係ないんだよ!!・・・キレンジャックの合体時効果!アトラーのソウルコアを別のスピリットに移動させることで自信を回復させる!・・・移動先はテントモン!!」

アトラーカーブテリモン+鎧鳥キレンジャック(4s+3)(疲労+回復)

テントモン(2+3s)

アトラーカーブテリモンはソウルコアを手で鷲掴みにし、それをテントモンに投げつける、テントモンにソウルコアが+され、アトラーカーブテリモンは緑の光を浴びて回復する。

小次郎「アタック継続中!!」

アドス「ライフで受ける・・・ぐおお!!」

ライフ5[→]3

小次郎「アトラーカーの効果でもう1個ライフをもぎ取る!!」

アドス「!!ぬおお!!」

ライフ3[→]2

アトラーカーブテリモンはアドスのライフを頭部のツノで2つ破壊した直後に、雷を纏った腕を振りかぶって追撃、さらに1つのライフを破壊した。

小次郎「・・・とどめだ! いけ!!」

アトラーカーブテリモンは小次郎の言葉に領き、もう1度頭部のツノでアドスのライフを2つ破壊する。

アドス「・・・ぐおお!! 前言撤回してやるぜ! 小次郎!! お前は最高だああ!!」

ライフ2[→]0

ライフがゼロになったアドスはバトルフィールドからはじき出される。小次郎も後

を追うように、バトルフィールドから帰還する。

*

菜々子と小次郎はほぼ同時に勝利したのか、バトルに負けて弾かれたビューとアドスが共に地面に叩きつけられた、2人は白目をむいて気絶していた。菜々子と小次郎も初めての暗黒の力を持つ者との戦いで傷つき、疲れ切っていた。そして2人はあることに気づく。

菜々子「あれ?暗黒の力を吸収してくれない、花ちゃんのアグモンみたいに、」

小次郎「!!」

菜々子はピヨモンやテントモンのカードがビューたちの暗黒の力を吸収してくれないことに気づく。だが、小次郎はそんなことより、『花ちゃんのアグモンみたいに』というワードで、アドスから偶然聞いてしまった、花火のことを考えてしまう。菜々子に言ったら間違いなく彼女は混乱するだろうと、自分1人で花火を見てくるのもいいが、方向音痴がひどい菜々子を1人にはできない、

小次郎「・・・どうしたもんかな」

???「あらあらく?ビューもアドスもどうしちやったの?こんな汚くなっちゃってさー」

小次郎&菜々子「・・・!!」

ポイズ「あつ！よろしくねく僕はポイズ、この2人と同じウズシオ様の【暗黒の使徒】だよ」

小次郎と菜々子が振り向いた先には、ビュウのアドスの仲間らしき紫髪の男、ウズシオの【暗黒の使徒】の1人、ポイズがいた。ポイズはニツコリとした笑顔のまま、小次郎と菜々子に近づいていく。

ポイズ「僕はね？弱った獲物を襲うのが何よりも楽しみにしてるんだ」

小次郎「くっ！」

小次郎も菜々子も既に満身創痍、暗黒の力と戦う余力などなかった。だが、その時、誰か1人の歩く足音がこちらに向かって聞こえてくる。街の人たちが滅多に家を出てこないのもあるが、その足音は小次郎、菜々子、ポイズにはよく聞こえた。ポイズは向かい合わせの位置にあるのでその人物の正体にすぐに気づく。気づいた直後にこれでもかというくらいに口を大きく開けて驚く。まるで幽霊でも見ているかのように、

ポイズ「……なっ?!?!なぜお前が?!

ポイズの異様な顔と台詞に小次郎と菜々子も振り返ってその人物を確認する。その人物は小次郎と菜々子にとって馴染み深い人物であった。

菜々子「花ちゃん!!」

小次郎「……花火!!!」

歩いて来た人物の正体は花火、ウズシオにやられた時の血痕が彼の衣服に付着していて、痛々しい印象を受ける。小次郎と菜々子は傷ついた体を奮い立たせながら、花火のところへ行く。

菜々子「よかった!無事だったんだね!花ちゃん!・・・この血は?」

小次郎「バツキヤロー!!本当に死んだと思ってたぞ!!コノヤロオお!!」

花火「・・・」

近づいてきた2人の言葉を花火はまるで聞こえなかったように、スルーして歩みを止めなかった。

菜々子「・・・えっ、・・・花、ちゃん?」

小次郎「・・・おい!どうしたんだよ!」

ポイズ「・・・なんで生きている?、奴はさつき確かにウズシオ様が倒したはず、あれだけ多量の血を流して生きていられるはずがない、・・・どうして?」

ポイズは花火が生きている理由を考えているがなかなか思い当たらない。そして、ポイズの目の前に花火が向かい合う。

花火「・・・俺とバトルしろ・・・」

ポイズ「・・・!!」

花火はポイズにデッキを突きつけながら、ドスのきいた声で言い放つ。その眼は赤黒

く、鈍く光輝いていた。

小次郎「何言ってんだよ！花火！お前そんな体で！ボロボロじゃねえか！」

菜々子「そうだよ！！花ちゃん！ここは私達に任せて！」

花火「……………」

花火はさつきのセリフ以外、ずっと沈黙を続けている。

ポイズ「（こいつ、我を失っているのか？……だったら僕のバトルでもう一度沈めてやる！）いいだろう！かかって来い！死に損ない！」

花火「ゲートオープン解放」

ポイズ「ゲートオープン！解放！」

2人はバトルフィールドに降り立つ。花火を止められなかった菜々子と小次郎も観客席でバトルを見守る。

菜々子「……花ちゃん、あの花ちゃんは本当に花ちゃんなの？」

小次郎「……………えっ？」

菜々子の意味深な言葉に思わず疑問の声を漏らす小次郎。

菜々子「なんだろう、なんか別の誰かが花ちゃんの体に乗っ取ったみたい」

小次郎（……………おい、本当に1回死んじまったんじゃないだろうな？あんまり菜々子君を心配させんなよな、花火）

花火とポイズのバトルはどんどん進行していき、現在花火の第4ターン、ロクケラトプス2体を召喚した。

花火「・・・アタックステップ、やれ、ロクケラトプス、アグモン」

ポイズ「全部ライフだ・・・ぐう!!」

ライフ4[☆]1

花火のフィールドにいる1体のアグモンと2体のロクケラトプスがポイズのライフへ一直線に走り出す。ポイズのライフをそれぞれ、鉤爪とツノで破壊した。ポイズのフィールドには疲労しているバイパインsonだけだったのでライフで受ける以外の手はなかった。

花火「・・・ターンエンド」

ライフ4

アグモンLV1(1) BP3000

ロクケラトプスLV3(3) BP6000

ロクケラトプスLV3(3) BP6000

バースト無

ポイズ(痛えな、なんなんだこいつは)

ポイズはバトルのダメージに違和感を感じていた。

「ターン05」ポイズ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシユステップ

バイバイソNLV2 (3) BP3000 (疲労 ⇨ 回復)

リザーブ5 ⇨ 8

トラツシユ3 ⇨ 0

ポイズ「メインステップは何もしない、このままアタックステップ！行け！バイバイソーン！効果で1枚ドロロー！」

手札7 ⇨ 8

蛇のスピリット、バイバイソンが体をくねらせながら、なかなかのスピードで地を走る。

ポイズ「フラツシユタイミング！煌臨を發揮！対象はバイバイソン！」

手札8 ⇨ 7

リザーブ7 s ⇨ 6

トラツシユ0 ⇨ 1 s

バイパイソンは紫の光に包まれていく。

ポイズ「妖蛇の神皇シエンマドー!煌臨!」

4枚の翼を持つ、蛇というよりかは、竜と言わなければならないスピリット、妖蛇の神皇シエンマドーが煌臨される。

小次郎「・・・またやばそうなのが・・・」

花火「・・・・・・・・」

ポイズ「もう君の負けさ!一木!!シエンマドーの煌臨時効果!手札かトラッシュから、コスト6以下の妖蛇のスピリットを3体召喚!トウーバイトスネーク2体!LV1!黒龍神ゼオ・デュラムをLV2!!」

手札7 → 4

リザーブ6 → 1

シエンマドーが雄叫びを上げると体色が黒い蛇のスピリット、トウーバイトスネーク2体と、妖蛇と死竜、2つの要素を持つ紫のxレア、ゼオ・デュラムが、颯爽と現れた。いずれも召喚時効果を持つスピリット達だ。

ポイズ「トウーバイトスネーク2体の召喚時効果!ロクケラトプス達から1個ずつコアをリザーブへ!さらに2枚ドロ!」

手札4 → 6

トウバーバイトスネークは召喚時に相手のスピリットのコアを1個リザーブに置く効果がある。さらに効果で召喚されたら1枚ドロのおまけ付き、ポイズの場には2体いるのでこの効果を2回分使用した。トウバーバイトスネーク達はロクケラトプスに向かつて、毒ガスを吐き出す。ロクケラトプス達はこれを受けて、力がガクツと抜け落ちる。

花火「……………」

ロクケラトプス(3 ♪ 2) LV 3 ♪ 2

ロクケラトプス(3 ♪ 2) LV 3 ♪ 2

ポイズ「さらにさらに！ゼオ・デュラムの効果でロクケラトプス2体から1個コアをリザーブへ！」

ポイズがドロしたことにより、ゼオ・デュラムの効果が強制的に発動する。ゼオ・デュラムはドロした時に、ドロカード1枚につき、相手のスピリットのコア1個を相手のリザーブに置く効果がある。ゼオ・デュラムはまるで劔のように鋭い、尻尾で、衝撃波を飛ばす、ロクケラトプス達はさらにコアが1個外され、さらにパワーダウンする。

花火「……………」

ロクケラトプス(2 ♪ 1) LV 2 ♪ 1

ロクケラトプス(2 ♪ 1) LV 2 ♪ 1

菜々子「なんであいつ、消滅させないの!？」

菜々子がポイズのプレイングに疑問を抱く、確かに、効果を分散させずに使えば2体は消滅させることができる。だが、まだまだこれからであった。

ポイズ「ふっふっふ!これで終わりだよー、ゼオ・デュラムの召喚時効果!妖蛇のスピリット1体につき、1枚ドロー!今僕の妖蛇は合計4枚!やって4枚ドローする!」

手札6 ⇨ 10

小次郎「ヤバイ!またゼオ・デュラムの効果が誘発する!」

ポイズ「その通り!!4枚ドローしたからそいつらのコアを全て吹き飛ばすよ!」

ゼオ・デュラムはさつきとは比にならないくらいの衝撃波を飛ばす、ロクケラトプス達だけでなく、アグモンまでも吹き飛ばしてしまふ。3体はコアの消失により、消滅してしまう。

花火「・・・」

アグモン(1 ⇨ 0) 消滅

ロクケラトプス(1 ⇨ 0) 消滅

ロクケラトプス(1 ⇨ 0) 消滅

ポイズ「ははっ!寂しいねえ、君のフィールド、長くなっただけ、シエンマドーのア

タツクだ！」

花火「フラッシュタイミング、マジック、リアクティブバリアを使用」

手札 3 ⇨ 2

リザーブ 7 ⇨ 3

トラッシュ 0 ⇨ 4

ポイズ「!!」

花火「ライフで受ける」

ライフ 4 ⇨ 3

シエンマドローは胸部から紫の光線を放ち、花火のライフを破壊した。花火は暗黒の力の一撃を食らっているにもかかわらず、顔1つ動かさず微動だにしない。

花火「リアクティブバリアの効果でお前のアタックステップは終わりだ」

シエンマドローが花火のライフを破壊した直後、氷山の一角が出現し、ポイズのスピリット達はそれに阻まれアタックができなくなってしまう。

ポイズ「くっ、まあいい、次のターンで終わりだ」

妖蛇の神皇シエンマドローLV2(3) BP10000

黒龍神ゼオ・デュラムLV2(3) BP10000

トウーバイトスネークLV1(1) BP2000

トウバーバイトスネークLV1(1)BP2000

バースト無

花火「・・・お前に次はない」

ポイズ「なに?」

〔ターン06〕花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシユステツプ

リザーブ5 ⇨ 9

トラツシユ4 ⇨ 0

花火「メインステップ、グレイモンをLV3で召喚」

手札3 ⇨ 2

リザーブ9 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 4

花火のフィールドに特徴的で立派な三本のツノが生えている、恐竜型のデジタルスピリット、グレイモンが花火の後ろからのっそのつそと現れる。

花火「アタックステップ、グレイモンでアタック、アタック時効果、【超進化】グレイモンを完全体に」

小次郎「!!・・・よし！メタルグレイモンだ！」

小次郎と菜々子は当然このグレイモンの【超進化】で出てくるのはメタルグレイモンだと思っていたが、花火が召喚したのは予想の斜め上を行くものであった。

花火「来い！死を超越せし龍！スカルグレイモン！」

スカルグレイモンLV3（4）BP10000

菜々子「・・・え!？」

グレイモンは赤黒い光に包まれて姿形を変えていく、光が弾け飛ぶと、中から、全身が骨だけになったグレイモンが姿を見せる。その異様な姿に、対面しているポイズだけでなく、小次郎や菜々子にも恐怖感を与えていた。

小次郎「メタルグレイモンじゃない!？」

菜々子「あつあれが、グレイモン!？」

ポイズ「?!?!（あいつは、・・・完全体だけど間違いない、暗黒四天王の方々と同じような力を持っている!?!）」

花火「スカルグレイモンの召喚時効果！相手のスピリット3体のコア1個をリザーブに送る！トウーバイトスネーク、黒龍神ゼオ・デュラム、シエンマドー！」

ポイズ「なに!?!」

トウーバイトスネーク(1⇩0) 消滅

黒龍神ゼオ・デユラム(3⇩2) LV2⇩1

妖蛇の神皇シエンマドー(3⇩2) LV2⇩1

スカルグレイモンは口内に黒い炎を溜め込み、一気に放つ、その炎にトウーバイトスネーク1体、ゼオ・デユラム、シエンマドーは呑み込まれてしまう。ゼオ・デユラムとシエンマドーは痛みに耐えぬくが、トウーバイトスネークはそのまま消滅してしまう。

ポイズ「こいつ!赤のスピリットのくせに、コア除去効果を……」

花火「やれ!!スカルグレイモン!」

スカルグレイモンは関節部分をギシギシと音を立てながら走り出す。

ポイズ「ふっ!馬鹿め!1体だけで、どうしようと……」

花火「スカルグレイモンのアタック時効果!BP7000以下の相手のスピリット3体を破壊する!」

ポイズ「……はあ!?!」

スカルグレイモンは背中に背負ったミサイルを発射する。このミサイルはポイズのフィールドで盛大に大爆発を起こす。ポイズの残った3体のスピリット全てを粉々に吹き飛ばす。これでポイズのフィールドにスピリットはいなくなつた。

ポイズ「……う、嘘だ!!この僕が!!嘘だ嘘だ、嘘だああ!!」
ライフ1→0

ポイズの目の前にスカルグレイモンが来る、スカルグレイモンは右手を振りかぶり、下ろす、ポイズの最後のライフを破壊した。ポイズはライフ0により、バトルフィールドから弾き出された。花火達も元の場所に戻る。ポイズはビューやアドスのように白目を向いて倒れていた。そして花火のアグモンがポイズの暗黒の力を吸い込んだ。

花火「……………」

菜々子「花ちゃん!!」

菜々子と小次郎が花火に駆け寄る。その瞬間花火の眼は赤黒から元の黒に戻るとともに、気を失ったかのように倒れた。それを小次郎が支える。

小次郎「……………息はあるみてえだな」

息がある花火を確認して、菜々子はホッと肩をなで下ろす。その時だった。

兵隊「うおおおおお!必ずマキシオ様をお救いするぞ!!皆の者かかれえええ!」

1人の兵隊の声がしたかと思うと、その後40人程の兵隊が、城へ向かって走り出す。何が何だかわからない小次郎と菜々子は眼を丸くする。彼らは3年前のマキシオの罪を信じていない者たち、執行猶予が短くなったマキシオを助けるがために立ち上がったのだ。彼らはアトーライの兵士と今にも戦おうとしていた。

第23話 サツマの本気!VS 3式機龍!

菜々子と小次郎は謎の兵士と王国の兵士の戦いに目を丸くして見ていた。

小次郎「なんだこれ!？」

花火「……あれは、【解放軍】だよ、」

気を失ってた花火が目覚める。

菜々子「花ちゃん!!よかった!」

小次郎「【解放軍】?」

花火「さては新聞最後まで読んでねえなお前ら、【解放軍】はマキシオの罪を認めなかつた者たちの集まり、マキシオの執行猶予の時間短縮で最近荒れてるんだろ」

小次郎「なるほど」

菜々子「で、でも、本当に罪はないんでしょ!？」

花火「ああ、だからこの争いは全て無駄なんだ、2人はこの戦いを少しでも引き止めてくれ」

小次郎「2人ははって、お前はどうすんだよ?」

花火「俺は、あの腐った野郎をぶっ飛ばしてくる!」

花火はこの後直ぐにウズシオを探すため、走り出す。菜々子達も当然心配するが、こ
うなった花火が言うことを聞かないのは百も承知、花火を信じることにした。

*

ここはアトーライの地下、マキシオと彼を縛っている鎖を引いている。白フードの男
を先頭にウズシオとカイネが歩く。

マキシオ「……ここが最深部だ」

ウズシオ「おお!!、これが!!」

カイネ「地下闘技場」

たどり着いた場所はとてつもなく広い空間だった。その中にバトルフィールドのよ
うなものが設置されている。

ウズシオ「さあカイネ！儀式を！この闘技場でバトルを!!」

カイネ「……」

マキシオ「カイネ!!お前本当にやるつもりなのか?!」

カイネ「……やる、やらないじゃあないんだよ、パパ、やらないといけないんだ！
私がここでこいつを倒しておかないと、こいつはパパだけでなく、私の大事な友達にも
絶対に危害を加える。こいつだけは、刺し違えても私が倒す！」

カイネの決心は固い、ウズシオはカイネの母を殺し、次は父であるマキシオを殺そう

としている。そんなウズシオをカイネはもう見過ごせないのだ。だが、マキシオは王である前にカイネの父親、当然娘の命の危機に心配するに決まっている。

マキシオ「……カイネ……くっ！なぜだ！ウズシオ!!なぜだ！なぜ私ではダメなのだ！なぜお前の言う儀式に私は参加することができない！」

ウズシオ「どうした兄さん、今頃になって、そんなのは当然カイネが【ゴマモン】に選ばれたからに決まってるだろう？」

ウズシオの言葉にマキシオもカイネもハテナの文字を頭に浮かべる。

カイネ「……どういふことよ!？」

ウズシオ「……そうかそこからか、この【地下闘技場でデジタルスピリットを所持した因縁のあるカードバトラー同士が決着をつけた】とき、伝説のDパラディン、【オメガモン】が目覚めるのからだ、俺はお前が【ゴマモン】に選ばれた時からこの計画を立てていたのだ」

ウズシオの言う【オメガモン】とはかつてDワールドにオメガバーストが降り注がれたときにオメガバーストの力を吸収したと言う伝説のDパラディンである。膨大なエネルギーであるオメガバーストを吸収した【オメガモン】、当然危険な存在でもある。普通のDパラディンと違ってその存在は最早都市伝説である。

カイネ「私も、パパもママもそんな伝説知らないのに、なんであんたが知ってるのよ

！」

ウズシオ「俺の暗黒の力を知らないのか？ カイネよ、」

カイネ「え!? 暗黒の力？」

ウズシオ「・・・ああ、そうだ、俺は【暗黒四天王】ウズシオ！ 20年前あの方に選ばれてからずっとだ！」

カイネ「あんたが四天王!？」

カイネは知らなかった。ウズシオが暗黒の力を所持していたこと、四天王であること。そしてその力で自分の母が殺されたことまでも、

ウズシオ「俺の力の作用は【欲するものを得る方法を知る】ことができる、間違いない、【オメガモン】はここに存在するのだ」

カイネ「・・・なんで欲しがるのさ、【オメガモン】を、」

ウズシオ「・・・俺が真の王になるためだ」

カイネ「・・・はあ!？」

ウズシオ「俺が王になっても【解放軍】と言う連中がマキシオの罪を認めなかった。俺は【オメガモン】を手に入れ、俺が真のアトーライの王であることを証明して見せるのだ！」

ウズシオは呆れた上昇思考の持ち主である。

ウズシオ「さあ! カイネ! 俺と戦え! そして海の藻屑となり!」【オメガモン】をこの地に蘇らせるのだ!」

マキシオ「ウズシオ!! お前は!! お前と言う奴は!! そんなことのために! カイネを!!」マキシオは怒りの感情でいっぱいになる。すぐにでもウズシオに殴りかかりたいが繋がれている鎖がそれを許さない。

ウズシオ「そうそうカイネ、お前のさつき言つてた【大事な友達】だが、もしかしてこんなものを身につけてなかったか?」

カイネ「?!・・・!! それは!!」

ウズシオは懐からあるものを取り出し、カイネの足元にまで投げる。それは【花火のゴーグル】であった。ウズシオは花火とのバトルの際にこれをカイネに見せるためだけに花火から剥ぎ取っていたのだ。カイネはそれを見た瞬間、頭の血の気がサーッとなくなっていくのを感じた。

カイネ「花火のゴーグル!? なんで」

ウズシオ「そのゴーグルの持ち主はもう私が殺してしまったよ、計画の邪魔をしかねないからな、他愛もないただの雑魚だったよ、他の2名も今頃は朽ち果てているだろう」マキシオ「なんと言うことを、関係のない人々まで」

カイネはドンドン今度は頭の血が上ってくる。カイネは激情に駆られる。

カイン「……ウズシオおお!! あんただんだけ腐ってんだ!!」

ウズシオ「……はは! 前置きが長くなつたな、それでは始めるとするか、儀式と言う名のバトルを!」

カイン「望むところだ!!」

カインは花火のゴージュルを額につける。そして2人は闘技場と言う名のバトルフィールドに自身のデッキをセットする。マキシオは止めたかったが、固唾を飲んで守ることしかできなかつた。だが、その時、

サツマ「ちよつと待つたああああ!!」

マキシオ「!!君は、……Dポリス?」

サツマが現れた。服装はサボテンではなく、しっかりとDポリスの正装だった。

サツマ「そうです! あなた方をお救いに来ました! Dポリスナンバー2のこの俺! サ

ツマに任せてください!」

カイン「あれがDポリス?」

ウズシオ「なぜDポリスがここに来ている。反乱軍などここにはいないぞ、早々に立たされ」

サツマ「Dポリスはもともと、Dワールドの犯罪行為を取り締まるために結成された組織だ、俺は単身で今回の事件何かあると思つて駆けつけたのさ、そしたら案の定だ」

サツマは気になっていた。3年前の事件と今回のマキシオの執行猶予の時間短縮、サツマのポリスとしての勤が、ここまで突き止めたのだ。

サツマ「さあ!お縄についてもらうぜ!アトーライ現国王、ウズシオ!!」

ウズシオ「悪いが、ここまで知ったものを生きて返すつもりはない、・・・カジ!」

カジ「・・・!!」

白フードの男、カジはマキシオの鎖から手を離すと、サツマの目の前までやってくる、そして、

カジ「ゲートオープン!解放!」

サツマ「なに!?!・・・のわああああおあ!」

カイネ「!?!」

マキシオ「!?!」

カジとサツマはどう言うわけかバトルフィールドに強制転移された。

ウズシオ「これで邪魔者はいなくなった」

カイネ「・・・」

ウズシオとカイネのバトルが始まる。

*

サツマ「あてて、ここは？、バトルフィールド!?」

サツマが目を開けた瞬間そこにはいつものバトルフィールドが広がっていた。

カジ「そうだ、バトルフィールドだ、ここで我とバトルしてもらおう」

カジは白いフードを脱ぎ捨てていた。白髪の若い男性と言ったイケメンだった。

サツマ「俺はゲートを開いた覚えはないぞ、どうして、」

カジ「俺はゲートを強制的に開かせ、相手をバトルフィールドに無理矢理連れ込むことができる」

カジはウズシオの「暗黒の使徒」ではない。ウズシオがこの能力のためだけに他の四天王から借りて来たのだった。

サツマ（くっそ、これが噂の暗黒の力か、アトーライの国を救いに来たのに、これじゃあ、面目まるつぶれだ、早くこのバトルに勝って、姫様を助けに行かなくては）

カジ「先行後攻は選ばせてやる」

サツマ「そう?じゃあ、先行で」

サツマとカジのバトルが始まる。

「ターン01」サツマ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ♪ 5

サツマ「メインステップ、ネクサス、No.1ノースシーロードを配置!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 3

サツマの背後に全てが凍てついている極寒の地が現れた。

サツマ「ターンエンド」

No.1ノースシーロードLV1

バースト無

「ターン02」カジ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

カジ「メインステップ、にせゴジラを召喚」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 3

サツマ「にせ?」

カジのフィールドにかの有名な大怪獣ゴジラのような怪獣が出現する。皮の一部が剥げて、メカニカルな部分が見えている。

カジ「バーストをセット、アタックステップ、やれ、にせゴジラ」

手札4 ⇨ 3

サツマ「ライフだ・・・くっ！なるほど、結構くるな」

ライフ5 ⇨ 4

にせゴジラは爪の一撃でサツマのライフを破壊した。サツマはその身に初めて暗黒の力を受けたが、意外にもすんなり耐えてみせる。いや、サツマのような屈強な男性ならこのくらいは平気なのかもしれない。

カジ「ターンエンド」

にせゴジラLV1(1) BP2000

バースト有

「ターン03」サツマ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラツシユ3 ⇨ 0

サツマ「メインステップ!ちやつちやと終わらせるぞ!今日の俺は本気だ!いくぞ!

召喚!源氏八騎 薄金ストライカー!LV2!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 4

武者のようなロボット、薄金ストライカーがサツマのフィールドに現れる。

カジ「薄金ストライカー、機巧の使い手か」

サツマ「まあな、ネクサス、ノースシーロードの効果でターンに1回白のスピリットの召喚でコアブーストできる、そのコアで薄金ストライカーをLV3にアップ!さらに、バーストセット!」

手札4 ⇨ 3

薄金ストライカーLV3(4s)BP9000

No.1ノースシーロードLV1

バースト有

サツマ「アタックステップ、いけ、薄金ストライカー!アタック時効果でバーストを

破棄！」

カジ「!!」

バースト破棄

【アルティメットウォール】

薄金ストライカーは独特な剣の構えで、カジのバーストを串刺しにして、破棄した。

サツマ「その後、バースト破棄に成功していたら、相手のスピリット1体を手札に！、にせゴジラ！」

カジ「・・・」

手札3 → 4

薄金ストライカーはにせゴジラも串刺しにする。にせゴジラは堪らずデジタルの粒子になってカジの手札に戻ってしまう。

サツマ「さあ、本命のアタックだ！」

カジ「ライフ」

ライフ5 → 4

薄金ストライカーは剣でカジのライフを突き刺して破壊した。

サツマ「薄金ストライカーのもう1つの効果！ソウルコアが薄金に置かれていたら、源氏のスピリットはアタック後に1回まで回復できる！もう一度切りつけろ！薄金！」

カジ「ライフ」

ライフ4 ⇨ 3

薄金ストライカーはもう一度、カジのライフを突き刺して破壊した。

サツマ「ターンエンドだ」

「ターン04」カジ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ5 ⇨ 8

トラッシュユ3 ⇨ 0

カジ「メインステップ!我もネクサスカード!要塞都市ナウマンシティーを配置する」

手札5 ⇨ 4

リザーブ8 ⇨ 3

カジの背後に巨大な像を模した巨大都市が出現した。

カジ「配置時効果!白のスピリットをノーコスト召喚!こい!対G特殊兵器3式機龍

(暴走)「LV2!」

手札4 → 3

カジのフィールドにゴジラのようなロボットが召喚される。

対G特殊兵器3式機龍(暴走) LV2(3) BP10000

要塞都市ナウマンシティーLV1

バースト無

カジ「アタックスステップ! 3式機龍でアタック! アタック時効果、このスピリットのBP以下の相手のスピリットをすべて手札に戻す! 消え去れ! 薄金ストライカー!」

3式機龍が全武装の一撃を一気に放つ、これを受けた薄金ストライカーはたちまちゲジタルの粒子になってサツマの手札に戻ってしまう。

サツマ「結構やるな、だが、俺のデッキはそのくらいじゃ、へばらないぜ! お前のアタックがこのバーストの条件だ!」

手札3 → 4

カジ「!!」

サツマ「バースト発動! 源氏八騎 楯無フォートレス! LV2でバースト召喚だ!」

サツマのバーストが発動する。地面からゴゴゴと、何かが上がってくる。それはとても巨大な源氏八騎のスピリット、楯無フォートレスだった。

源氏八騎 楯無フォートレスLV2(2) B P 10000

カジ「!!だが、BPは同じだ!」

サツマ「フラッシュタイミング!マジック!ドリームバブル!お前の機械龍を手札に戻してもらおうか!」

手札4 → 3

リザーブ2 → 0

トラッシュ4 → 6

暴走を続ける3式機龍を巨大な泡が包み込む。3式機龍はカジの手札に戻ってしま

う。
カジ「くっ!ターンエンド」

手札3 → 4

サツマ「エンド時、俺のライフが減っていないから楯無フォートレスの効果を使う、源氏スピリット1体をノーコスト召喚!もう一度こい!薄金ストライカー!」

手札3 → 2

サツマのフィールドに再び薄金ストライカーが現れた。

「ターン05」サツマ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 7

トラッシュユ6 ⇨ 0

サツマ「楯無フォートレスのLVを2に！薄金ストライカーのLVは3に上げてアタックスステップ！」

リザーブ7 ⇨ 3

楯無フォートレスLV2

薄金ストライカーLV3

サツマ「楯無フォートレス！」

カジ「ライフだ」

ライフ3 ⇨ 2

楯無フォートレスはカジのライフを正拳突きで破壊した。

サツマ「薄金ストライカーの効果でもう一度いけ！」

カジ「くっつ！（これがDポリスのナンバー2、我では足止めするので限界か）」

ライフ2 ⇨ 1

楯無フォートレスはもう一度正拳突きでカジのライフを破壊した。

サツマ「トドメだ!薄金ストライカー!」

カジ「ライフだ」

ライフ1→0

カジの最後のライフを薄金ストライカーが刀で突き砕く。カジはライフ0に伴い、バトルフィールドから弾かれた。サツマもすぐに元の場所に戻る。

サツマ「よし!・・・あれ?あいつは?」

地下闘技場には既にカジの姿は見当たらなかった。サツマが戻っても時既に遅く、イネとウズシオのバトルは始まっていた。

サツマ「くそ!止められなかった、・・・ていうかなんだこの壁!、ビクともしない!」
地下のバトルフィールドは謎の透明バリアで覆われていた。中からはメタルシードラモンとズドモンがいるのがうかがえる。

マキシオ「Dポリスのサツマ君、悪いことは言わない、早くここから出なさい、Dポリスのトップの君が反乱軍のいない事件で問題を起こしてはそれこそ大変なことになる」

残ったマキシオがサツマに声をかける。

サツマ「マキシオ王!ご無事でなによりです!・・・だけど俺は出ませんよ!!どつち

みちウズシオはこの国の秘密を知った俺を殺すようですしね、」

マキシオ「そういう問題じゃない！3年前！反乱軍ができてから君らDポリスは反乱軍討伐に全力を尽くさなければならぬはずだ！こんなところで油売ってたらナンバー2の君の顔に泥が塗られることになるのだぞ！」

サツマ「あなたの奥様が亡くなられたのも3年前ですよね？」

マキシオ「・・・!?」

サツマ「どうも3年前から気にかけているんですよ、あまりにもタイミングが良すぎて、」

カイネの母がウズシオに殺される事件は3年前、反乱軍ができて、Dポリスの勝手が効かなくなったのは、そのほんの少し前だった。Dポリスに指令を下すのが総司令官だが、いくら反乱軍が自分たちの計画の邪魔をしようとしてると言っても、ここまでくると流石に異常だとサツマは思っていた。ひよっとしたら総司令官の考えの意図がこの事件の裏にあると推理していた。それでサツマは単身でアトーライに乗り込んできたのだ。総司令官の命令に背いてまで、彼の真意を知るために。

サツマ「・・・正義を本当に語る奴は泥くらい平気で被りますよ」

サツマは何度もバリアを破壊しようと試みるが一向に終わりは見えなかった。

*

一方花火はアトーライを走り回っていた。「解放軍」とアトーライの兵士たちの戦いを避けながら、だが、体力が底を尽きようとしていた。

花火「・・・はあ、はあ、そう言えばあいつどこにいるんだ？やっぱ城？てかゴークルどこいった？」

花火はすっかり迷子になっていた。

第24話 カイネ決死の戦い、踏ん張れズドモン!

時は少し遡り、サツマがカジに強制的にバトルフィールドに連れていかれた直後、

カイネ&ウズシオ「ゲートオープン!解放!」

妨げるものがなくなり、地下でカイネとウズシオのバトルが始まる。普通のバトルフィールドとは違い、開始時に透明なバリアが周りに展開された。マキシオは固唾を飲んでそれを見守る。

カイネ(大丈夫、小次郎も菜々子も……花火も必ず生きている、これが終わったから私が助けに行くんだ)

ウズシオ(……!?!、アドス、ビュ、ポイズが負けた!?!、ポイズはドグマーと同じく、力自体が消失している。……まあ良い、オメガモンを手に入れた後、俺が直々にいたぶってやろう、)

ウズシオは自分の使徒であるアドス達の敗北を感じていた。だが、足止めができれば上出来だった。ウズシオは自分さえ生き残っていればいつでもいたぶってやれると思っっているからだ。

ーバトルはカイネの先行だ。

「ターン01」カイネ

スタートステップ

ドローステップ 手札4⇨5

カイネ「メインステップ!ゴマモンを召喚!」

手札5⇨4

リザーブ4⇨0

トラッシュ0⇨3

カイネのフィールドに海洋生物のような愛らしい姿のスピリット、ゴマモンが姿を見せる。

カイネ「召喚時効果!」

オープンカード

【五行寺院】

【イツカクモン】

成熟期のイツカクモンがカイネの手札に加わる。

カイネ「ターンエンド、あんただけはこの私が絶対につつ倒す!この命に代えても!」

手札4⇨5

ゴマモンLV1(1)BP3000

バースト無

ウズシオ「そうだカイネ！その感情を俺にぶつける！オメガモン復活は目の前だ！」

「ターン02」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

ウズシオ「メインステップ、ネクサス、甲竜の狩り場」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラッシュユ0 ⇨ 4

ウズシオの背後に崩壊した都市が浮かび上がる。

ウズシオ「ターンエンド」

甲竜の狩り場LV1

バースト無

「ターン03」カイネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュ3 ⇨ 0

カイネ「メイנסテップ!ゴマモンのLVを2に!アタックステップ!【進化】!イツカクモン!LV3!」

リザーブ4 ⇨ 1

カイネのゴマモンが一本の立派なツノが生えたスピリット、イツカクモンに進化した。

カイネ「イツカクモンでアタック!アタック時効果でデッキから3枚破棄!」

ウズシオ「!!」

デッキ35 ⇨ 32

イツカクモンはツノをミサイルのように飛ばす、ミサイルはウズシオのデッキに直撃し、ウズシオのデッキを3枚破棄した。

カイネ「さらに!【超進化】!ズドモンに進化!」

イツカクモンは再び姿を変え、ハンマーを所持したスピリット、ズドモンに進化した。
ウズシオ「……ズドモン」

ズドモンLV2(4) B P 11000

カイン「いけ！ズドモン！アタック時効果！【大粉碎】！デッキを上から10枚破棄！」

ウズシオ「……………」

デッキ32→22

ズドモンは自身のハンマーを地面に叩きつけ、電気を走らせる。その電気はウズシオのデッキまでいき、ウズシオのデッキを10枚破棄した。

カイン「本命のアタックだ！」

ウズシオ「ライフで受けよう」

ライフ5→4

ズドモンはハンマーをウズシオのライフに叩きつけて破壊した。

カイン「ターンエンド(よし！この調子だと次のターンにはあいつのデッキを全部破棄できる！いける！勝てるぞ！)」

ウズシオのデッキは残り22枚、カインは次のターンでデッキを全て破棄する予定だったが、

そう簡単にいくものではなかった。

「ターン04」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 7

トラッシュユ4 ⇨ 0

ウズシオ「メインステップ、鉄砲機兵タネガシマをLV2、メノウドラゴンをLV2

で召喚！」

手札5 ⇨ 3

リザーブ7 ⇨ 2

トラッシュユ0 ⇨ 1

ウズシオのフィールドに火縄銃のような銃を所持した機兵、タネガシマと花火のバトルでも彼を苦戦させたメノウドラゴンが現れる。鉄砲機兵タネガシマは系統：甲竜を持たないが、それでもウズシオはこのカードを採用する理由があった。

ウズシオ「鉄砲機兵タネガシマがいる限り、お互いのデッキは破棄することができない」

カイネ「・・・!?!」

ウズシオ「さらに、ソウルコアが置かれている時、スピリット、アルティメット、ネクサスの効果を受けない」

タネガシマのこの効果でカイネのデツキ破壊の戦術を難なく止まらってしまった。さらに効果耐性持ちとあれば除去も困難を極めた。

ウズシオ「さらに、甲竜の狩り場をさらにもう一枚配置！」

手札3 → 2

リザーブ2 → 1

トラッシュ1 → 2

ウズシオのフィールドにもう一枚甲竜の狩り場が配置される。

ウズシオ「ターンエンド、・・・無駄だ、カイネ、お前にバトスピのいろはを教えたのは誰だと思っている、お前の戦法など、俺には手に取るようにわかるわ！」

鉄砲機兵タネガシマLV2(2s) BP5000

メノウドラゴンLV2(2) BP6000

甲竜の狩り場LV1

甲竜の狩り場LV1

バースト無

ウズシオの言う通り、カイネにバトスピのいろはを叩き込んだのは他でもないウズシ

オなのだ、ウズシオはアタックを何もせずにはターンを終えた。

カイネ「昔のままの私だと思っなよ！」

「ターン05」カイネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

カイネ「メインステップ、バーストをセット」

手札7 ⇨ 6

カイネのフィールドに裏向きでカードが置かれる。

カイネ「さらに！海備師団スナ・メリー、ゴマモン！」

手札6 ⇨ 4

ズドモンLV2 (4 ⇨ 3)

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 1

カイネのフィールドにゴマモンと甲冑を着けた、ジユゴンのような愛らしいスピリット、スナ・メリーが召喚された。

ズドモンLV2 (3) BP11000

ゴマモンLV1(1) BP3000

海備師団スナ・メリーLV1(1) BP1000

バースト有

カイネ「アタックスステップ！いけ！ズドモン！」

ウズシオ「ライフで受ける」

ライフ4 ⇨ 3

ズドモンは再びハンマーでウズシオのライフを破壊した。

カイネ「・・・ターンエンド」

「ターン06」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 5

トラッシュユ2 ⇨ 0

ウズシオ「メインステップ、何が変わったと言うのだ！カイネ！なら俺は、お前が見

たことない俺のキースピリットで決着をつけるとしよう！」

カイネ「!!」

ウズシオ「召喚!メタルシードラモン!LV2!

手札3 → 2

鉄砲機兵タネガシマLV2 → 1 (2s → 1s)

リザーブ5 → 0

トラッシュ0 → 2

突如現れた巨大な渦潮の中から蛇のようなスピリット、メタルシードラモンが現れる。メタルシードラモンはズドモンを超える究極体だ。

メタルシードラモンLV2 (4) BP15000

メノウドラゴンLV2 (2) BP6000

鉄砲機兵タネガシマLV1 (1s) BP3000

バースト無

カイネ「?!な、なに?!こいつ、」

ウズシオ「お前は見たことなからう、これが俺のキースピリットにして、暗黒四天王の象徴!アタクステップ!いけ!メタルシードラモン!」

ウズシオの指示に従い、メタルシードラモンはバトルフィールドを泳ぐように進む、まるで海蛇のようだ。

ウズシオ「アタック時効果！メタルシードラモンのコスト以下の相手のスピリット1体を破壊！消え失せろ！ズドモン！」

カイン「!?!」

メタルシードラモンは鼻先にある強力なレーザー砲を発射し、ズドモンを撃ち抜く、ズドモンは耐えることができず、そのまま爆発した。

カイン「ズドモン!!!」

ウズシオ「メタルシードラモンのもう1つの効果で、甲竜の狩り場を1つ疲労させて、自身を回復させる」

甲竜の狩り場（回復↔疲労）

メタルシードラモン（疲労↔回復）

メタルシードラモンは青い光を浴びて回復する。

ウズシオ「アタックは継続中だ」

カイン「く、ライフで受ける・・・」

カインはライフで受ける宣言をするが、

カイン「・・・ブ、フオオ!!」

ライフ5↔4

メタルシードラモンの尻尾の強烈な一撃をライフで受けるが、花火同様、カインは吐

血してしまおう。

カイネ「……はっ?なにこれ!？」

バトルダメージもここまでくればもう訳がわからなくて仕方ないだろう。

ウズシオ「そのくらい当然だ、俺たち暗黒四天王との一戦はそれほど重い」

カイネ「……(痛い、でも、負けられない!みんなのためにも!)ライフ減少により
バースト発動!ネクサス!N.O. 26キャピタルキャピタル!効果でノーコスト配置
だ!」

ウズシオ「……!？」

カイネのフィールドの背後に、多くの寺院が密集する空中都市が飛来する。

カイネ「キャピタルキャピタルの効果!ソウルコアが置かれていないあんたのスピ
リットはリザーブのコア1個を払わないとアタックできない!」

ウズシオ「なに!？」

今現在、ウズシオのスピリットでソウルコアが置かれているのはタネガシマ、これに
より残ったメタルシードラモンとメノウドラゴンのアタックは少なくともこのターン
は完封したことになる。

ウズシオ「くっ!小癩な、……ターンエンドだ」

「ターン07」カイネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ5 ⇨ 6

トラッシュユ1 ⇨ 0

カイン（ズドモンは破壊されたけど、まだまだやれる！）メインステップ！イツカク

モンを召喚！

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 3

トラッシュ0 ⇨ 2

カインのフィールドにイツカクモンが再び現れる。

カイン「さらに！異魔神ブレイブ、二頭魔神！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 0

トラッシュ2 ⇨ 5

カインのフィールドに顔を2つ持つ青の異魔神ブレイブ、二頭魔神が召喚された。

ウズシオ「・・・二頭魔神」

カイネ「二頭魔神！ イツカクモンと左合体だ！」

二頭魔神は左手に持っている剣の先から光線を放ち、イツカクモンと自身を繋ぐ。

イツカクモン＋二頭魔神LV1(1) BP8000

ゴマモンLV1(1) BP3000

海備師団スナ・メリーLV1(1) BP1000

カイネ「アタックステップ！ イツカクモンでアタック！ 二頭魔神の左合体アタック時

でメタルシードラモンからコア1個をリザーブへ！」

ウズシオ「・・・」

メタルシードラモンLV2 ⇨ 1 (4 ⇨ 3)

二頭魔神の飛ばす斬撃がメタルシードラモンを襲う、メタルシードラモンは弱体化を余儀なくされる。

カイネ「さらに、この効果に成功したら、トラツシユからネクサスを1枚配置できる！ 五行寺院を配置！」

カイネのフィールドに一軒の寺院が配置された。このカードはカイネの最初のターンでゴマモンの効果でトラツシユに送っていたものである。

カイネ「アタックは継続中」

ウズシオ「ふつ、メタルシードラモンでブロック」

メタルシードラモンのBPは弱体化したとはいえ、甲竜の狩り場2枚分でBP+4000、合計16000だった。イツカクモンが突進するが、メタルシードラモンはこれをひらりとかわし、返しにレーザー砲でズドモンと同じようにイツカクモンを貫き、あっさりといっかくモンを倒してみせる。

カイネ「ターンエンド」

「ターン08」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 4

トラッシュユ2 ⇨ 0

ウズシオ「メインステップ、メタルシードラモンを再びLV2へ上げ、タネガシマのソウルコアとメタルシードラモンのコアを入れ替える」

リザーブ4 ⇨ 3

タネガシマとメタルシードラモンのソウルコアと普通のコアが入れ替わった。キャ

ピタルキャピタルの影響だろう。

ウズシオ「さらに異魔神ブレイブ、幻魔神！」

手札3 → 2

リザーブ3 → 1

トラツシユ0 → 2

カイネ「!!? あんたも異魔神を!？」

白き異魔神ブレイブ、幻魔神が召喚された。

ウズシオ「幻魔神よ、メタルシードラモンを左に、メノウドラゴンを右に合体だ」

幻魔神は両手から光線を出してメノウドラゴンとメタルシードラモンに繋がる。

ウズシオ「これでメタルシードラモンは青の超装甲を得た」

カイネ「!!!」

メタルシードラモン+幻魔神LV2(4s) BP18000

メノウドラゴン+幻魔神LV2(2) BP9000

鉄砲機兵タネガシマLV1(1) BP3000

バースト無

ウズシオ「アタックステップ、やれ！メタルシードラモン！アタック時効果で、二頭

魔神を破壊！」

メタルシードラモンのレーザーが、二頭魔神の腹部を貫く、二頭魔神は耐えられず爆発してしまう。

ウズシオ「メタルシードラモンのもう一つの効果で回復」

甲竜の狩り場（回復⇩疲労）

メタルシードラモン+幻魔神（疲労⇩回復）

メタルシードラモンは青い光を浴びて回復する。

カイネ「ライフで受ける！・・・がっ、あああ!!」

ライフ4⇩2

カイネのライフを2つ、メタルシードラモンは尻尾でいとも容易く切り裂く、カイネは足がふらつき、意識が飛びそうな状態になっている。それでも尚も踏ん張ってみせる。家族と仲間のために。

カイネ「・・・はあ、はあ、」

ウズシオ「メタルシードラモンで再びアタック、アタック時効果でゴマモンを破壊！」
メタルシードラモンは今度は標的をゴマモンにする。ゴマモンはあえなく吹き飛ばされて破壊される。

ウズシオ「ネクサスを疲労させて回復」

甲竜の狩り場（回復⇩疲労）

メタルシードラモン＋幻魔神（疲労⇨回復）

メタルシードラモンは三度青い光を浴びて回復する。

カイネ「フラッシュタイムイニング！マジック！キングスコマンド！」

手札3⇨2

リザーブ4⇨2

トラッシュ5⇨7

ウズシオ「!!」

カイネ「キングスコマンドの効果でこのターンの間、コスト4以上のスピリット全てはアタックできない！・・・そのアタックはスナ・メリーでブロック！」

スナ・メリーはメタルシードラモンに果敢に挑むも体格差が違いすぎてメタルシードラモンが通り過ぎただけで吹き飛び、爆発してしまふ。

カイネ「スナ・メリーの破壊時！コスト3以下のスピリット、鉄砲機兵タネガシマを破壊！」

青い斬撃がタネガシマを切断し、破壊した。ソウルコアが置かれていないタネガシマは効果耐性を持ってない。

ウズシオ「・・・ターンエンド」

キングスコマンドの効果でこのターンはどうしても攻め出さない、止むを得ずウズシ

オはターンを終える。

「ターン09」カイン

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 11

トラッシュユ7 ⇨ 0

カイン（最初からわかっていたんだ、本当は、Dパラディンのことは、それを知って花火達に近づいた。新聞の記事であいつらのことは知った。「この世から抹消されたDパラディン、ウオーグレイモン」それを本当に所持するのは驚いた。武龍村で反乱軍に出くわしたことを知った時から、あいつらに絡めば、Dポリスに会えると思っていた、最初はただそれだけだった。旅の道中で反乱軍に会った時に彼らについていこうとも思った。だけど行けなかった、あいつらとの旅が、冒険が、楽しかったから、でもその結果、パパの執行猶予が短くなった。全ては私の責任だ、私があいつらに甘えてしまったから、あいつらを好きになってしまったから、だからこの件は絶対に私だけで解決してみせる！）

カイネは今までの花火達との旅を振り返りながら、ターンシークエンスを進めていった。

カイネ「メインステップ! いくぞウズシオオオオ! 召喚! アルティメットカード! 戦国六武将タイダル・ブルー! LV4!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ11 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 6

ウズシオ「!! そいつはアルティメットか!!」

大波がザブーンと音を立ててバトルフィールドをかけていく、その中で目が1つ光ったかと思うと、大波は真つ二つに割れ、中から、戦国六武将が1人タイダル・ブルーが姿を見せる。アルティメットとは、ブレイブに続く第五のカード、LVが3からスタートするため、スピリットと比べるとBPが高く、スピリットのみを対象にした効果を受け付けないが、召喚条件など、デメリットも多数。

戦国六武将タイダル・ブルー LV4 (5s) BP26000

カイネ「アタックステップ! いけ! タイダル・ブルー! アタック時効果【ソウルドレイブ】! 私のソウルコアを除外!」

ウズシオ「なに!?!」

カインのソウルコアが青い炎を灯し消えていく。

カイン「ソウルドライブの効果であんたは次のターン、リフレッシュステップとメイ
ンステップを行えない！」

ウズシオ「!!」

タイダル・ブルーのソウルドライブは下手すればほとんどエクストラターンのような
ものだが、ウズシオのデッキでは・・・

ウズシオ「俺のデッキにそんなものは通用せん！ブロックだ！メタルシードラモン
！」

カイン「なっ！あいつ！BPが低いスピリットで!?!」

メタルシードラモンのBPは甲竜の狩り場2枚分でもBP22000、タイダル・ブ
ルーのBP26000には及ばなかった。だが、

ウズシオ「フラッシュタイミング、マジック、オーバードライブ！メタルシードラモ
ンのBPを+5000し、さらに、白の連鎖で回復！」

手札2 → 1

リザーブ2 → 1

トラッシュ2 → 3

メタルシードラモン+幻魔神BP22000 → 27000

カイネ「?!」

メタルシードラモンはBPが高くなり、吠えようと、タイダル・ブルーに巻きつき、そのまま締め付ける、タイダル・ブルーはなにもできず、耐えられなくなり、メタルシードラモンのなかで、大爆発を起こす。

ウズシオ「全く、こんなこけおどしで勝てると思ったのか?」

カイネ「……」

ウズシオは別にタイダル・ブルーのアタックをブロックしなくてもライフで受けければ、次のターンで回復状態のメタルシードラモンとメノウドラゴンで決着がついていた。ウズシオはあえてブロックして破壊したが……カイネは知っていた、ズドモンが破壊された時点で、いや本当は鉄砲機兵タネガシマを召喚された時点で、既に自分の負けは確定していると、ウズシオは仮にも自分の師匠、簡単に超えられる壁ではなかった。それでもこのターンにカイネはかけていた。奇跡を起こしたかった。花火のように

カイネ「……ターン、エンド」

カイネは涙ぐんでターンを終える、とても悔しいのだ、どうしても勝ちたかった勝負、自分の負けが確定していた勝負だからこそその涙であった。

「ターン10」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ手札1 ⇨ 2

ウズシオはこのターン、タイダル・ブルーの効果でリフレッシュステップとメインステップを行えない、そのまま、アタックスステップに入る。

ウズシオ「これで、オメガモンが復活する！さすれば、俺は真の王に!!感謝するぞ！カインネ！」

カインネ「……………」

カインネは悔しくて仕方がなかった。こんな欲望まみれで、自分のことしか考えることができない男に負けるのが、そんな奴に昔バトスピを教えてもらっていたと思うと反吐がでる。そしてなにより、この男はこれから自分を殺してから家族や仲間たちまで殺そうとしていると思うと腹立たしくてしよがなかつた。

ウズシオ「終わりだああああ！メタルシードラモンンン!!」

マキシオ「やめろおおお!!ウズシオオオ!!」

マキシオがバリア越しで叫ぶ、その声はフィールド内でもよく聞こえたが、そんな言葉にメタルシードラモンは止まるわけでもなく、どんどんカインネの元に迫り、カインネの眼前にまで来た。今にもカインネのライフをかみ砕こうとする。

カイネ「……しよう、ちくしよう!ちくしよう!ちくしよう!ちくしよう!ちくしよう!!!」

その時だった、メタルシードラモンの頭部に唐突に火球がぶつけられる。メタルシードラモンはその衝撃でバトルフィールドの端まで吹っ飛ばされてしまう。カイネ、ウズシオ、マキシオ、サツマは何事かと火球が飛んで来た方を見る。するとそこには

ウズシオ「……ば、馬鹿な!!なぜお前が!?!」

カイネ「……花、火?」

サツマ「花火君!」

そこには花火とウォーグレイモンがいた。どうやら火球はウォーグレイモンのガイアフォースだったようだ。

マキシオ(あ、あれはウォーグレイモン!?この世にはもう存在しない筈、……あの少年は一体!?)

その中でも特に驚いたのがマキシオ。アトーライの伝説上では既に消滅しているはずのウォーグレイモンが何故か今日の前にいるからだ。

花火「お客さん、ご注文はガイアフォースだけでしたでしょうか?今なら地獄への片道切符2人前をサービスですよ、一緒にどうぞです?」

花火とウォーグレイモンは威風堂々としていた。

第25話 勝利へ導け！奇跡のウルムグレイモン！

花火はようやくアトーライの地下闘技場に到着した。

ウズシオ「なぜだ！なぜ貴様がここに!? 第一なぜ生きている?!」

ウズシオは少々混乱していた。花火がなぜ生きていたのか、なぜこの場所がわかったのか、なぜ、バリアを張っていたバトルフィールドに入ることができたのか、ということについて、バトルフィールドは入ることさえできればスピリットの召喚は可能なので、ウオーグレイモンがいるのはそうおかしいことではなかったのだが、バリアには穴が空いている様子はない。花火がバトルフィールドにいたのは不自然だった。

花火「生きてる理由はしらねえけど、場所はアグモンが教えてくれた」

花火がカイネを探している時にアグモンのカードが突然浮遊して花火の元を飛び去った、花火は何かあると見て、アグモンの後を追った。そしてこの地下に着いたのだ。

サツマ「カードが!? (Dパラディン同士が惹かれあつたのか!?)」

バトルフィールドのバリアが崩れて消滅していく。花火とウオーグレイモンという不純物がバトルの妨げをしたからエラーが発生したのだ。ウズシオのフィールドにい

イネは花火を突き放そうとする。

花火「・・・こんな汚ねえゴーグルいらねえよ、洗って返せ、しっかり生きてな」

花火は足元に来た自分のゴーグルを再びカイネの方へ投げつけた。確かに返り血を浴びて汚ない。

カイネ「・・・」

花火「・・・言いたくないことばつか言うなよ、こんくらいで俺も小次郎も菜々子も誰も逃げやしねえ、少しは頼りにしろよな、まったく、・・・早くそこどきな」

カイネ「?!なんでよ!なんで、私なんかのためにそこまですんのよ!」

花火の服はよく見たらボロボロだ。たくさん返り血を浴びている。なんで生きてきているかがわからないくらいに。何故出会ってたかだか2ヶ月程度の自分にここまでするのか。カイネはその点が気になっていた。だが、本当はカイネ自身もその真意に気づいている。

花火「友達を助けたいのに、理由なんていらないだろ」

カイネ「!!!」

花火「だからさ、カイネ、あとは・・・俺たちに任せろ!!」

カイン「花火、」

花火の言葉で、カインの溜め込んでいた、悲しい思い出や苦しみが溢れ出していく、自分はいつらに頼っていいのだと自覚していく、そう思うと込み上げてくる涙が止まらなくなる。止めようと、何度も止めようと思ってもそれは流れ落ちるばかりであった。

カイン「……うつ、うう、……うん!!……あとは、……任せた……!」

カインは涙しながらも花火に頷くと力尽きたのか、気を失い、倒れ込んでしまう、それを花火は両腕で抱えて、一旦バトルフィールドを降り、サツマとマキシオのそこへ行く、

サツマ「……花火君」

花火「サツマさん、カインを頼む、ひどい怪我だ、でもまだ助かる、早く治療できるところに」

サツマ「君はどうする気だ?」

花火「さつき言ったら、ウズシオと決着をつける」

サツマ「それは大人の仕事だ、君が姫様を送るんだ」

サツマは花火をウズシオと戦わせるつもりはなかった。こうなったことにDポリスであるサツマは責任を感じているのだろう。

花火「んだよ、俺ら騙してたくせに」

サツマ「……気づいていたか、」

サツマは花火達に白の大陸にリアルワールドへの道があると嘘をついていた。

花火「話したいことはいっぱいあるけど、先ずは、俺たちを騙した罰だ、カイネを頼むよ、終わったら、国の兵と解放軍を止めてください、今、菜々子と小次郎がいます。Dポリスのあんたなら説得力もある」

国の兵と解放軍の戦いは確かに不毛な争いであつた。国の兵もマキシオが王女を殺したことは信じきれなかつたからだ、『悪いのは全てウズシオ』と言うことを伝えねばならない、Dポリスの副総司令官のサツマなら可能だと花火は睨んだ。

サツマ「……わかつた、ただし条件がある……絶対には勝ちなさい、」
花火「そんなの当然」

花火はカイネをサツマに託して、バトルフィールドの階段を登る。サツマはカイネを抱えて地下闘技場を後にした。

マキシオ「本気でウズシオに勝つつもりなのか？あの花火と言う少年は」

ウズシオのバトルはアトーライの国の中でも世界から見ても超一流であつた。兄弟であるマキシオは彼の実力をよく知つていた。どこの馬の骨ともしれない花火が勝つのは信じ難いだろう。まだサツマや自分の方が良かったとも思つていた。だが、こうなつてしまったものはしょうがない、マキシオは花火を信じるしかなかつた。

花火「行くぞ!ウズシオ!」

ウズシオ「来い!一木花火!!」

花火&ウズシオ「ゲートオープン!解放!」

2人の叫びと共に再びバトルフィールドにバリアが展開された。バトルの先行はウズシオだ。

「ターン01」ウズシオ

スタートステップ

ドローステップ4↔5

ウズシオ「メインステップ、ネクサス、甲竜の狩り場をLV1で配置してターンエンド」

手札5↔4

リザーブ4↔0

トラッシュ0↔4

ウズシオの背後に崩壊した都市が浮かび上がる。

甲竜の狩り場LV1

バースト無

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メインステップ！来い！アグモン！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

リザーブ0 ⇨ 3

花火のフィールドにデフォルメされた恐竜のようなスピリット、アグモンが召喚される。

花火「召喚時効果！2枚オープン！」

オープンカード

【グレイモン】

【ダイナバースト】

この中の成熟期か完全体が増えることになるので花火の手札にグレイモンが加わる。

花火「いくぞ！アタックスステップ！いけ！アグモン！」

手札4 ⇨ 5

ウズシオ「ライフで受ける」

ライフ5 ⇨ 4

アグモンは口内から球状の炎をを放ち、ウズシオのライフを破壊した。

花火「ターンエンド」

アグモンLV1(1) BP3000

バースト無

「ターン03」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシユステップ

リザーブ2 ⇨ 6

トラツシユ4 ⇨ 0

ウズシオ「メインステップ、ネクサス、氷宙遺跡スカイ・リオをLV2で配置」

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 3

ウズシオ背後にまたしてもネクサス、スカイ・リオが現れる。

ウズシオ「さらに、メノウドラゴンをLV1で召喚」

手札4 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュ3 ⇨ 4

ウズシオのフィールドに鋼鉄のように固そうな甲竜のスピリットが召喚される。甲竜のスピリットの登場により、スカイ・リオの効果でウズシオのコアが1つ増えた。

ウズシオ「メノウドラゴンをLV2へ！ターンエンド、」

メノウドラゴンLV2 (2s) BP11000

甲竜の狩り場LV1

氷宙遺跡スカイ・リオLV2 (1)

バースト無

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 5

トラツシュ3 ⇨ 0

花火「メインステップ、……俺もネクサス、竜の尻尾奇岩と原始の森をLV1ずつで配置!」

手札6 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラツシュ0 ⇨ 4

花火の背後に、尻尾の様にくねくねした岩と、恐竜時代のような森が出現する。

花火「ターンエンド」

アグモンLV1(1) BP3000

竜の尻尾奇岩LV1

原始の森LV1

バースト無

「ターン05」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレツシユステップ

リザーブ1 ⇨ 5

トラツシユ4 ⇨ 0

ウズシオ「メインステップ、・・・甲竜の狩り場をLV2へ上げて、さらにストロングドローを3枚使用する、不足コストは氷宙遺跡スカイ・リオのLVを下げて使用」

甲竜の狩り場LV1 ⇨ 2 (0 ⇨ 3)

氷宙遺跡スカイ・リオLV2 ⇨ 1 (1 ⇨ 0)

リザーブ5 ⇨ 0

ウズシオはデツキから3枚ドローして2枚破棄、カードの使用を考えると手札に増減はない、この行為を3回繰り返し、手札の入れ替えを行なった。

ウズシオ「ターンエンド」

花火「・・・」

「ターン06」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシユステップ

リザーブ2 ⇨ 6

トラツシユ4 ⇨ 0

花火「メインステップ、(こいつやっぱりメタルシードラモンが来るまで待つ気だな、俺を一気に仕留めるために……でも、今度はそうはいかねえぞ!) アグモンをLV2へ上げて【進化】発揮! 来い! グレイモン!」

リザーブ6s ⇨ 3s

花火はアグモンをグレイモンに進化させる。

花火「いけ! グレイモン! 今度はメタルグレイモンに【超進化】!」

グレイモンは身体が半分サイボーグのメタルグレイモンへと進化した。

花火「さらに! フラツシユタイミング! 煌臨! メタルグレイモンをウォーグレイモンに煌臨!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ3s ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 1s

ウズシオ「来るか」

花火「鋼鉄の龍よ! 今こそ最強の龍戦士となりて突き進め! ウォーグレイモン!! 究極進化!!!」

ウォーグレイモンLV3 (4) BP16000

メタルグレイモンは荒ぶる炎の中でウオーグレイモンに進化を遂げた。

ウズシオ「何度やっても同じだ、言っただろう、貴様にカインネは救えないと、」

花火「これでもそんなこと言えんのかよ！ いけ！ ウオーグレイモン！」

ウオーグレイモンはウズシオのライフめがけて飛び立つ。

ウズシオ（ふっ！あの時とまるで変わらない戦法、こいつはやはり出来損ないだ、

ウオーグレイモンよ、とんだ雑魚を選んでしまったな）

確かにここまでは最初のバトルとほとんど変わらない展開だった。だが、花火は、できばこのターンでウズシオを倒すつもりでいた。

花火「フラッシュタイミング！マジック、ガイアフォース!!!ウオーグレイモンを回復

！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュ1s ⇨ 3s

ウオーグレイモン（疲労⇨回復）

ウズシオ「なに!？」

ウオーグレイモンは赤い光を浴びて疲労から回復した。

ウズシオ「ライフで受ける」

ライフ4 → 3

ウオーグレイモンは腕に装着したドラモンキラーの一撃でウズシオのライフを1つ砕く。

「さらに!ウオーグレイモンのLV2、3のアタック時効果発揮!バトルの終了時、ソウルコアをウオーグレイモンに置くことで、お前のライフを1つボイドに送る!」

トラツシユ3s → 2

ウオーグレイモン(4 → 5s)

ウズシオ「ぐっ!」

ライフ3 → 2

ウオーグレイモンは両手で巨大な火球を形成すると、それをウズシオへ投げつける。ウズシオのライフは溶けるように消滅した。

花火「もう一回だ!ウオーグレイモン!」

花火の言葉にウオーグレイモンは頷くとそのまま再びウズシオのライフを狙う。

ウズシオ(・・・)ライフが1になっても次のターンでまたメタルシードドラモンを出

せば、関係ない、ここは当然・・・)

花火「ライフで受けさせねえよ!」

ウズシオ「!?!」

花火「フラッシュユタイミング！マジック！ダイナパワーを使用！コストはウォーグレイモンのソウルコアから使う！」

手札3 ⇨ 2

ウォーグレイモン（5s ⇨ 4）

トラッシュユ2 ⇨ 3s

ダイナパワーにより、ウォーグレイモンのBPが3000上がるが大事なのはそこじゃない、

ウズシオ「（またソウルコアがトラッシュユに!?!）ぐっ！ブロックだ！メノウドラゴン！」

ウズシオの判断は正しい、ここでまたライフで受ければ、ウォーグレイモンの効果で再びソウルコアを戻された挙句、ライフを0にされるからだ。

花火「覚悟しろ！メノウドラゴン！いけ！ウォーグレイモン!!」

ウォーグレイモンは自身の体をドリルのように回転させて、メノウドラゴンに突撃し、そのまま衝突する。火花を飛び散らせながら甲高い金属音が鳴り響く、しかし、それはほんの一瞬のことであり、メノウドラゴンは耐えられずウォーグレイモンに体を貫かれてその場で爆発してしまう。ウズシオは苛立ったように顔を歪ませる。

ウズシオ「くっ！」

花火「ウォーグレイモンの効果!」

トラツシユ3 ⇨ 2

ウォーグレイモン(4 ⇨ 5 s)

ウォーグレイモンは再びガイアフォースを形成し、ウズシオのライフへ投げ飛ばす、ウズシオのライフ1つはまた溶けるように消滅した。

ウズシオ「ぐおおお!!」

ライフ2 ⇨ 1

花火「BP勝負で俺のスピリットが勝った時、原始の森LV1効果で1枚ドロースる、」

手札2 ⇨ 3

マキシオ「信じられん、あのウズシオを押ししている!?!、」

マキシオは花火の実力に目を疑った。当然だ、見ず知らずの少年が自分の知る最強のバトラーのライフを1にして今にも勝ちそうな状況だからだ。

花火「ターンエンド、ダイナパワーの効果、トラツシユから回収する、・・・どうだウズシオ!これが俺の、俺たちの力だ!!」

手札3 ⇨ 4

花火の声に応えるようにウォーグレイモンが咆哮する。

ウォーグレイモンLV3 (5s) B P 1 6 0 0 0

竜の尻尾奇岩LV1

原始の森LV1

バースト無

ウズシオ「なめるなよ!!クソガキが!!」

下だと思っていた者にやられたことからか、ウズシオの怒りは極限まで達していた。

「ターン07」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ5 ⇨ 6

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

ウズシオ「メインステップ、ゲツコ・ゴレムを召喚、スカイ・リオの効果で1つコア

ブースト」

手札5 ⇨ 4

ウズシオのフィールドに目やエラが鉱石でできている青のスピリット、ゲツコ・ゴレムが召喚される。

ウズシオ「さらに、マントラドロロー! 3枚ドロローし、2枚破棄する!」

リザーブ6 ⇨ 5

トラツシユ0 ⇨ 1

ウズシオは再び3枚ドロローして2枚破棄した。その加えたカードを見て不敵な笑みを浮かべている。

ウズシオ「ゲツコ・ゴレムはメインステップ時、白のシンボル2つを追加できる、」

花火「!?!」

ゲツコ・ゴレムの頭上に白のシンボルが2つ浮かび上がる。

ウズシオ「いくぞ!メタルシードラモンをLV2で召喚!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ5 ⇨ 0

甲竜の狩り場LV2 ⇨ 1 (3 ⇨ 2)

トラツシユ1 ⇨ 4

突如現れた渦潮の中から、海蛇のような見た目のスピリット、究極体のメタルシードラモンが飛び出してくる。

花火「来やがったな」

ウズシオ「さらに、異魔神ブレイブ!幻魔神!召喚!」

手札3 ⇨ 2

甲竜の狩り場 (2 ⇨ 0)

トラッシュユ4 ♪ 6

幻魔神が氷の中からそれを砕いて現れる。

ウズシオ「メタルシードラモンと幻魔神を左合体！」

幻魔神は左手から光線を放ち、メタルシードラモンと自身を繋げて合体スピリットとなる。

メタルシードラモン＋幻魔神LV2（4）BP18000

ゲッコ・ゴレムLV1（1）BP1000

甲竜の狩り場LV1

氷宙遺跡スカイ・リオLV1

バースト無

ウズシオ「アタックステップ！メタルシードラモンでアタック！アタック時効果でウオーグレイモンを破壊！」

メタルシードラモンの現在のコストは幻魔神と合わせて12、12以下なら破壊が可能、ウオーグレイモンはメタルシードラモンの鼻先から放たれるレーザー砲に逃れられず、腹部を貫かれ、破壊されてしまう。

花火「くっ！ウオーグレイモン」

ウズシオ「あの時と全く同じだな！一木花火！これで終わりだ！メタルシードラモン

の効果で、甲竜の狩り場を疲労させて自信を回復させる!」

甲竜の狩り場(回復⇨疲労)

メタルシードラモン+幻魔神(疲労⇨回復)

花火「フラッシュタイムング!マジック、リアクティブバリアを使用!このアタックでお前のターンは終わりだ!」

手札4⇨3

リザーブ5⇨1

トラッシュ2⇨6

ウズシオ「なに!?!」

花火「アタックはライフ!」

メタルシードラモンは尻尾の強靱な一撃で花火のライフを2つ破壊する。

花火「・・・ぐっはああああ!!!」

ライフ5⇨3

花火は正直しんどかった、最初のウズシオとのバトルで一度死にかけ、次に自我がない状態で暗黒の使徒のポイズと戦い、ウズシオを探すために国中を走り回り、そして現在に至る。体はとうに限界を超えていた。

花火(やっぱ、きつい、こんなの何度も受けるわけにはいかねえ、)

花火は足元がふらつく、口から顎まで吐血で吐いた血が流れる。

ウズシオ「ふん！やはり限界のようだな、ターンエンドだ」

花火のリアクティブバリアでやることを失い、ウズシオはターンを終える。

「ターン08」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 10

トラッシュ6 ⇨ 0

花火「メインステップ、アグモンとグレイモンを召喚！」

手札4 ⇨ 2

リザーブ10 ⇨ 5

トラッシュ0 ⇨ 3

花火のフィールドに再びアグモンとグレイモンが召喚される。

花火「アグモンの召喚時効果！2枚オープン！」

オープンカード

【リミテッドバリア】

【スカルグレイモン】

完全体のスカルグレイモンが手札に加えられた。

花火「いくぞぞ!召喚!スカルグレイモン!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ5 ⇨ 1

トラッシュ3 ⇨ 6

ウズシオ「!?」

花火のフィールドに全身が骨とかしたグレイモン、スカルグレイモンが召喚される。

ウズシオはその姿を見て驚愕する。

ウズシオ「なんだ!?!あのスピリットは?!なぜ暗黒の力をその身に宿している?!」

花火「いやまあ、俺も知らないんだけど、なんか入ってた・・・気を取り直して!スカルグレイモンの召喚時効果!相手のスピリット3体ののコアを1個ずつリザーブへ
!」

スカルグレイモンは登場するなり、黒炎の炎をウズシオのフィールドに撒き散らす。メタルシードラモンは幻魔神との合体でこの効果を受けないが、ゲツコ・ゴレムはまともを受けてしまい、消滅してしまう。

ウズシオ（なぜだ、なぜ、一木花火が暗黒の力を宿したスピリットを所持している!? まさかポイズやドグマーの力が消滅していたのは奴に力を奪われたから? そんなバカな! ウォーグレイモンといえども、そんなことは不可能だ、いつたいどんなカラクリが、）

花火「原始の森をLV2へアップ」

リザーブ1→0

原始の森LV1→2

アグモンLV1（1）BP3000

グレイモンLV1（1）BP4000

スカルグレイモンLV1（1）BP5000

竜の尻尾奇岩LV1

原始の森LV2（1）

バースト無

花火「アタックステップ! このターンで終いだ! いけ! グレイモン!」

現在、花火のフィールドのスピリットは3体、対するウズシオのフィールドはメタルシードラモンが1体でライフが1、花火は物量さで押し切るつもりだった。グレイモンがどったばったと走りだす。

ウズシオ「(ええい!! 考えても無駄だ! このバトルであいつを倒してからじっくりと調べればよからう!!) メタルシードラモンでブロック、フラッシュタイミング、メタルシードラモンの効果で、スカイ・リオを疲労させて自信を回復させる」

宇宙遺跡スカイ・リオ(回復⇨疲労)

メタルシードラモン+幻魔神(疲労⇨回復)

メタルシードラモンは青い光を浴びて回復する。

花火「?! 俺のターンでも使えたのか?!」

ウズシオの指示でメタルシードラモンはグレイモンを迎え撃つ。グレイモンは口内で炎を限界まで溜めて放つも、メタルシードラモンはビクともせず、そのまま逆にメタルシードラモンのレーザー砲をくらい、瞬殺されてしまう。

花火「くっ! : : 原始の森のLV2効果発揮、自分のスピリットが破壊された時、ト
ラッシュの地竜スピリットを回収する、帰ってこい! ウォーグレイモン!」

手札2 ⇨ 3

原始の森の効果でウォーグレイモンのカードが花火の手札に舞い戻ってくる。

ウズシオ「ウォーグレイモンが戻ったところで、貴様に勝機はない!!」

花火「じゃあこのターンをしのいでみやがれ! スカルグレイモン!」

花火はスカルグレイモンでアタックを仕掛けるが、

ウズシオ「フラッシュユタイミング、マジック、アルティメットストリーム！コスト5、6、7を1体ずつ破壊する！消えろ！不完全な暗黒よ！」

手札2 ⇨ 1

リザーブ1 ⇨ 0

メタルシードラモン＋幻魔神LV2 ⇨ 1（4 ⇨ 3）

トラッシュユ6 ⇨ 8

花火「!!？」

メタルシードラモンのレーザーと酷似したレーザーが飛んでくる、スカルグレイモンはもろに受けてしまい、吹っ飛ばされて爆発してしまう。

ウズシオ「・・・所詮は完全体か」

花火「くそ！原始の森の効果でメタルグレイモンを回収する・・・、ターンエンドだ」

手札3 ⇨ 4

残ったアグモンだけではウズシオの残り1つのライフを破壊することはできない、花火はここでターンを終える。

「ターン09」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札1 ⇨ 2

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 9

トラッシュ8 ⇨ 0

ネクサス2つは再び回復状態となる。

ウズシオ「メインステップ、再びメタルシードラモンをLV2へ」

リザーブ9 ⇨ 8

メタルシードラモン+幻魔神LV1 ⇨ 2 (3 ⇨ 4)

メタルシードラモンは激しく雄叫びをあげる。

ウズシオ「アタックステップ!やれ!メタルシードラモン!効果でアグモンを破壊

!

メタルシードラモンはアグモンを尻尾で薙ぎ払う。アグモンは吹っ飛ばされて爆発してしまう。

花火「原始の森LV2効果でグレイモンを手札に」

手札4 ⇨ 5

グレイモンのカードがトラッシュから花火の元へ舞い戻ってくる。

ウズシオ「戻ったところで意味はない！終わりだ！」

メタルシードラモンがドンドン花火との距離を縮めていく。

花火「……終わらないし、終わらせない！……フラッシュタイミング！マジック！リアクティブバリア！もう一度お前のアタックステップを終わらせる！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ3 ⇨ 0

原始の森LV2 ⇨ 1 (1 ⇨ 0)

トラッシュユ6 ⇨ 10

ウズシオ「なに!? 2枚目!?! ……だが、貴様にこのダメージを受けられる余力はないだろう!! メタルシードラモン!!!」

花火「(くそ！受けるしかない、持ってくれよ、俺の身体!) ライフで受ける！」

ウズシオ「死ね！」

メタルシードラモンは花火のライフを噛み砕いて2つ破壊する、

花火「……う、うわあああああ!!!」

ライフ3 ⇨ 1

ウズシオは勝ちを確信し、花火は今にも倒れそうになる。体中から血が流れ、意識が朦朧とする。花火はまた、走馬灯とは違うかもしれないが、薄れていく意識の中で色ん

な人の言葉を思い出していく。

『あたしはどうしても白の大陸に行かなくちゃいけないくてねー』

『え?!カインちゃんか姫様!?!』

『お前のつれの2人もカインも直ぐにお前と同じ場所に送ってやる』

『必ず勝ちなさい』

『あとは、任せた……!』

花火「!!!ぐっ!!うううううう!!」

ウズシオ「なに!?!」

花火は倒れるギリギリで右足を前に伸ばして踏ん張る。そして自分は色んな人達の思いがあつてここにいることを自覚する。尚更負けるわけにはいかない。

ウズシオ「……まだ、立ち上がるのか、」

何度も何度も倒しても、打ちのめしても何度も挑んでくる花火のその姿に、ウズシオは恐怖すら覚える。

花火「……俺のライフは、まだ、残ってるぞおおお!ウズシオおおお!」

ウズシオ「くっ!ターンエンド」

「ターン10」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 13

トラッシュユ10 ⇨ 0

花火「メインステップ、グレイモン、メタルグレイモンを召喚！バーストをセット!!」

手札5 ⇨ 2

リザーブ13 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 6

グレイモン、メタルグレイモンが同時に召喚される。そして、花火のフィールドに裏向きでカードが置かれる。

花火「ターンエンド」

グレイモンLV2 (3s) BP5000

メタルグレイモンLV3 (4) BP11000

竜の尻尾奇岩LV1

原始の森L V 1

バースト有

ウズシオ「踏ん張れたところで、この程度、、、壁にもならんわ!!!」

「ターン1」ウズシオ

スタートステップ

コアステップ リザーブ8 ⇨ 9

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

メタルシードラモン+幻魔神(疲労⇨回復)

ウズシオ「メインステップ、マジック、2枚目のアルティメットストリームを使用!

メタルグレイモンを破壊しろ!」

手札3 ⇨ 2

リザーブ9 ⇨ 7

トラッシュ0 ⇨ 2

レーザー砲が今度はメタルグレイモンを襲う、メタルグレイモンもスカルグレイモンの時と同様、吹き飛ばされて爆発してしまう。

ウズシオ「アタックステップ!今度こそ終わりだ!いけ!メタルシードラモン!ア

タック時効果でグレイモンを破壊！」

メタルシードラモンは鼻先のレーザー砲でグレイモンを貫く、グレイモンは堪らず爆発してしまう。

だが、これで花火のバースト条件が達成される。咄嗟にドロートした奇跡の一枚が花火を勝利へと導く。

花火「……終わんのはお前の方だああ!!!スピリットのアタックでバースト発動!

【煌星銃ヴルムシューター】!バースト効果でお前のネクサス!甲竜の狩り場を破壊して1枚ドロート!その後こいつを召喚する!」

手札2 → 3

リザーブ7s → 3s

煌星銃ヴルムシューターLV1(4)BP6000

ウズシオ「な?銃ブレイブ!」

花火のバーストが勢いよくひっくり返る。赤い魔法陣の中から、伝説の龍のスピリットをモチーフに造られた、銃が召喚される。甲竜の狩り場はヴルムシューターの弾で、貫かれて、消滅してしまう。

花火「いくぞ!ウズシオ!……煌星銃ヴルムシューターを対象に煌臨發揮!ウオーグレイモン!!」

リザーブ3s → 2

トラツシユ6 → 7s

ウズシオ「!!」

煌星銃ヴルムシューターは銃ブレイブ、当然「装鎮」を持つ、コストが6のヴルムシューターはウォーグレイモンの煌臨対象にすることが可能だ。

花火「最強の龍戦士よ!星々の力と共に勝利への道を切り拓け!!ウォーグレイモン!!煌臨——!」

ウォーグレイモンが球状の炎の中から眼光を放ちながら再び現れる。そして、

花火「ヴルムシューターの【装鎮】の効果で煌臨元からウォーグレイモンに合体!!」

ウォーグレイモンのドラモンキラーと背中の中のシールドが消滅する。背中からは薄桃色の翼が4枚、新たに生え、空いた手にはヴルムシューターが握られる。ウォーグレイモンの体色も橙色から澄んだ赤色を基準にカラーチェンジしていく、瞳の中でさえも赤く染まった。

ウズシオ「?!姿が、変わった!?!」

花火「いけ!ウォーグレイモン!メタルシードラモンと決着をつけるぞ!」

ウォーグレイモン+煌星銃ヴルムシューターLV3(4)BP22000

花火はメタルシードラモンを変化したウォーグレイモンでブロックする。メタル

シードラモンは鼻先のレーザー砲で再びウォーグレイモンを貫こうとするが、ウォーグレイモンは翼で飛翔し、難なくそれを避ける、ウォーグレイモンも負けじと上空からヴルムシューターにガイアフォースの力を込めて弾丸として連射する。メタルシードラモンはそれらが当たっても物ともせず、ウォーグレイモンをかみ砕こうと接近してくる。ウォーグレイモンはしばらくこの攻撃を避け続ける。

ウズシオ「俺は負けん!!負けん!!フラッシュタイミング!マジック!オーバードライブ!!メタルシードラモンにBPを+5000!!」

手札2 → 1

リザーブ7 → 6

トラッシュ2 → 3

メタルシードラモン+幻魔神BP18000 → 23000

花火「!?!」

ここに来てウズシオの渾身の一手。メタルシードラモンにBPが加算され、ウォーグレイモンのBPを一気に追い抜く、さらに、オーバードライブの効果はこれだけではなかった。

ウズシオ「さらに、オーバードライブは【白連鎖】を条件に追加効果を使用できる!その効果でメタルシードラモンを回復させ、シンボルが2つのウォーグレイモンを手札

に戻す!消えろ!最強の龍戦士よ!!」

メタルシードラモン+幻魔神(疲労↕回復)

青のマジック、オーバードライブは白のシンボル1つで、青のスピリット1体を回復させ、白のシンボル2つで、相手のシンボル2つ以上のスピリットを全て手札に戻す効果がある。今のウズシオのフィールドの白シンボルは2つ、この効果を余すことなく使うことができるのだ。だが、

花火「俺のネクサス、竜の尻尾奇岩の効果で、地竜のスピリット全ては相手の効果で手札とデッキには戻らない!ウオーグレイモンは地竜!よってオーバードライブの効果を受け付けない!!」

ウズシオ「なんだと!?!」

花火「叩き伏せろおおお!ウオーグレイモン!!」

強力な突風がウオーグレイモンを襲うが、ウオーグレイモンは微動だにしなかった。そして、近づいてきたメタルシードラモンを紙一重で避けて、顔面に回し蹴りを入れる。メタルシードラモンを地面に叩き落とし、自身も地に足をつける。

花火「・・・フラッシュタイムニング!マジック!ダイナパワーを使用!ウオーグレイモンのBPを+3000!」

手札2↕1

リザーブ2 ♪ 1

トラツシユ7 s ♪ 8 s

ウオーグレイモン+煌星銃ヴルムシューターBP 220000 ♪ 250000

ウオーグレイモンのBPもパンプアップされる。ウオーグレイモンはガイアフォースの全エネルギーをヴルムシューターに集中させる、メタルシードラモンも自身のレーザー砲の威力を上げるために力を溜め込む、両者互いにこの一撃で決着をつけるつもりだ。そしてそれらはほぼ同時に放たれる。ぶつかる2つのエネルギーがバトルフィールドを、地下全体を大きく揺らす。張りつめた衝撃が空気を震撼させる。

ウズシオ「……くっ、メタルシードラモン!!」

花火「うおおお!! 打ち上げろおおお!! ウオーグレイモン!!」

花火の叫びに反応するかのようウオーグレイモンの眼光が赤く強く光りだす。ウオーグレイモンはより一層力をヴルムシューターに込める。すると、ガイアフォースはメタルシードラモンのレーザーの大きさをはるかに超え、一気に押し返す、やがてメタルシードラモンのレーザーは完全にかき消されて、とうとう莫大なガイアフォースがメタルシードラモンに直撃する。メタルシードラモンは流石に耐えきれずに大爆発を起こす。花火とウオーグレイモンはついに強敵、メタルシードラモンを撃破した。

ウズシオ「……俺のメタルシードラモンが、ダークマターズが! 力の象徴が!」

マキシオ「なんとという男だ、」

ウズシオは目の前の事実のうち削がれてそれ以外の言葉が出ない、残った1枚の手札をパラパラつと地に落とす。当然もうやることはないのでターンエンドとなる。

「ターン12」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札1 ⇨ 2

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 10

トラッシュユ8 ⇨ 0

花火「メインステップは何もしない、そのままアタックステップだ、……ウオーグレイモン!」

ウオーグレイモンはウズシオのライフへとヴルムシューターの銃口を向ける。ウズシオに残されたのはこの状況では使えない1枚のカードと、ブロックできない異魔神ブレイブの幻魔神、ネクサスのスカイ・リオ、もはや何も抵抗することができなかった。

ウズシオ「……くっそおおお!俺は真の王になるのだああ!オメガモンを手に入れてええええ!誰もが認める、真の王にいいいい!!」

ウズシオは負け犬の遠吠えとも取れる叫び声をあげる。だが、いくら叫んでも泣き喚いても結果はもう変わることはない。

花火「……王になる前に！、オメガモンとかいうやつを手に入れる前に！、誰かに認められる前に！、自分の兄くらい！、自分の姪っ子くらい！、救ってやれえええええ！」
ウズシオ「!?!」

次の瞬間、強力な銃弾とかしたウォーグレイモンのガイアフォースがウズシオの最後のライフを撃ち抜き、破壊する、ウズシオはあまりの衝撃にバトルフィールドから吹き飛ばされた。花火が、いや、花火達が暗黒四天王の一角に勝利を収めたのだ。

第26話 終わりの始まり

ヴルムシューターと合体したウオーグレイモンがウズシオの最後のライフを砕いた。メタルシードラモンを破壊した時同様、ヴルムシューターにガイアフォースの力を込めて、強力な弾丸として飛ばして、あまりの衝撃にウズシオは地下のバトルフィールドから吹き飛ばされてしまう。ウズシオは階段を転げるように落下し、地面に叩きつけられた。血は流したものの、死には至らなかった。

花火「……うおおおおお!!」

花火は高揚からか、腹の底から大きな声で叫んだ。ウズシオには聞きたいことが山ほど残っていた。【暗黒】とはなんなのか、【オメガモン】とはなんなのか、考え出したらきりが無い、今すぐにでも聞き出したいが、もう彼自身、体力の限界だった。いやとつくにそんなものは超えていたのだが、

アグモンのカードがウズシオの暗黒の力を吸収していく、ついでに別の場所で倒れている、ウズシオの【暗黒の使徒】アドスとビューの力も、おそらく、力の元となるウズシオを倒したからだろう。

そして花火はどうとうその場で力尽きて倒れてしまう。死んではいけない、血もそんな

に流れてはいなかったが、最初のバトルで流しすぎたのだ、

マキシオ「・・・ウズシオ！」

マキシオは地面に叩きつけられたウズシオの方へ向かう。

ウズシオ「・・・兄、さん」

ウズシオは花火に負けるとは思ってもいなかった。まさか自分が殺したと思った相手にやられるとは誰も思わないだろう。

マキシオ「なぜだ、なぜ違った、ウズシオよ一体いつから、こんなにも違う道を歩むようになってしまったのだ」

マキシオとウズシオ、アトーライの一族に生まれたこの2人の兄弟は昔は仲が良かった。だが、兄、マキシオが次世代王に決まった時、ウズシオはマキシオに嫌悪感や憎悪を覚えるようになる。みみっちく思われるかもしれないが、この兄弟にとって「王を継ぐ」と言うのはそれほど重要なことであった。

ウズシオ「・・・俺は、兄さんのような人になりたかった、誰もが認める、真の王に、ただただ・・・なりたかっただけだ・・・だから、違ってしまった、歩むべき道を」

ウズシオの口から発せられる言葉にもう覇気はない、アグモンが暗黒の力を吸収したからだろうか。

マキシオ「・・・誰もが認める、、それは違うぞ、ウズシオ」

ウズシオ「？」

マキシオ「認めてもらうのではない、認めなければならぬのだ。王自身が、国民も兵も、家族も……上の者が下の者を認めて初めて信頼関係が生まれる、初めて国が成り立つ……お前が行おうとしていたのは、ただの力による支配だ」

マキシオの言葉を聞いてウズシオは思った。「もう自分は完全に敗北しているのだ」と、相手になるわけがなかった。マキシオこそ、自分の兄こそ真の王に相応しい、自分のような人間がハナから王になれるわけがなかったのだ。

ウズシオ「……なるほど、流石兄さんだ、俺なんかとは住んでる世界が違うな」

次の瞬間、ウズシオの体がパラパラと灰になるように散つていこうとする。マキシオはこの光景に目を丸くして驚く。

マキシオ「ウズシオ!？」

ウズシオ「時間のようだ」

「メタルシードラモン」、それは「ダークマターズ」の一角にして「暗黒四天王」の力の象徴、1体1体はDパラディンの比ではないくらい力の力を有するが、その代償はでかい、バトルに負ければその者は命を失うのだ、故に、「暗黒四天王」はあまり表舞台から姿を見せない。

マキシオ「待て！ウズシオおお！お前は罪を償わなくてはならない！」

ウズシオ「今から死ぬんだもういいだろ？これで償える」

マキシオ「お前の罪は死んでも拭えない！私とともに衰退したアトーライを立て直せ！一生！それがお前の罰だ！だから・・・だから、死ぬな！」

マキシオの目に涙が溢れる。ウズシオは自分の妻を殺し、罪をなすりつけ、王の座につき、挙げ句の果てには命より大事な「カイネ」にまで手をかけようとした男だ。本当なら死刑は免れない、だが、それでも生きていて欲しかった、弟だから自分の、たった一人の兄弟だから、理由など、これ一つで十分であつて、

ウズシオ「・・・お人好しすぎだろ、兄さん」

ウズシオはその言葉を最後に身体全体が灰になつて消滅する。最後の最後で、少し笑みを浮かべながら、

マキシオ「うゝ、くうゝ、」

マキシオが悲しみにくれているその時だった。突如地震が地下全体を揺らす、そしてバトルフィールドの中央に謎の紋章が浮かび上がる。

マキシオ「!?何事だ!?!」

地震がおさまると、その紋章を中心に白く澄んだ光が投下される。そしてその光の中から白い装甲を着けた、巨大な聖騎士のようなスピリットが現れた。だが、赤白のマントを羽織っているものの、彼には両腕が欠けていた。マキシオはそのスピリットの正体

に気づく。

マキシオ「あれはもしや、「オメガモン」!?でもなぜ」

そう、彼が「オメガモン」、史上最強のDパラディン、オメガバーストの起因となった存在とも噂されている究極体のスピリット、様々な伝説があるが、一説にはこのDワールドを一度オメガバーストの力で滅ぼしたと言われる。それ故にDワールドは別名「オメガワールド」とも呼ばれている。マキシオはウズシオの言葉を思い出す。

ウズシオ『因縁のあるデジタルスピリット使いが勝負し決着がついた時、伝説のDパラディン、オメガモンが現れる』

マキシオ「・・・彼とウズシオにも因縁があったということか!？」

確かに花火とウズシオにもまた一つの因縁があったのだろう。それによって花火の目の前に現れた。当の本人は気を失っているが、

オメガモンは倒れている花火を巨大な目でじっと見つめる。そして彼の胸部から白いカードが飛び出して行き、花火のデッキの中に置かれた。オメガモンはまるで役目を終えたかのように、目をゆっくりと閉じ、瞬間移動でもしたかのように、姿を消した。

マキシオ「・・・なんだったのだ、いったい」

マキシオはこの信じられない光景にただただ眺めることしかできなかつた。

この後、Dポリス、副総司令官のサツマによって「解放軍」と国の兵との戦いは沈静

化し、無事にアトーライの事件は幕を閉じた。ちなみに開いた王座は再びマキシオが座ることとなった、まあ、当然のことだろう。そして、3日後、アトーライの城の城内

花火「ん!?、んー、よく寝た」

花火がベッドからゆつくりと体を起こして、背筋を伸ばす、彼はあまりの疲労により三日間眠り続けていた。服装もまるで入院服のようなものを着せられていた。

菜々子「・・・ん?、あ!!花ちゃん起きてる!!」

花火が寝ていたベッドで突つ伏していた菜々子が目を覚ました。よほど花火のことを心配していたことが伺える。

花火「よお、菜々子、おはよう、ここどこ?」

菜々子『よお』じゃないよー!!3日も寝てたんだよ!みんな心配してたんだよ!あとここはアトーライのお城!カインちゃんの実家!」

花火「3日!」

花火は三日間眠り続けていたのだ菜々子達が心配するのも当然だろう。花火は少々申し訳ない気持ちになる。そして花火、菜々子、小次郎はしばらくの間、カインの実家のお城に厄介になっていた。

花火「ごめん、」

菜々子「最近無茶すぎだよ?」

花火「分かってるって、悪かったよ」

カイネ「おーい、お二人さん、イチャつくのもいいけど、もう直ぐお食事ですよー」
そう言いながらカイネも花火の部屋に入ってきた。もうその表情は復讐に塗れてはいない、花火が寝ている間に菜々子や小次郎とも和解したのだろう。カイネはいつものように笑っていた。その様子を見て花火は安堵する。

菜々子「カイネちゃん！イチャついてないよ！」

カイネ「はは、分かってるよ、．．．ほれ、花火」

花火「!!おお、俺のゴークルか！綺麗になってる！」

カイネ「約束だったからね」

花火のゴークルは血だらけだったが、今では新品同然に輝いていた。菜々子はこれを見て自分もあることを思い出した。花火はそのゴークルを再び自身の首にかけた。

花火「やつぱ、首元にこれがあると落ち着くなあ」

菜々子「あつ！そうだ、私も返さないと．．．はい！【炎魔神】！」

菜々子はあるカードを懐から取り出す、そう、【炎魔神】、花火が菜々子のデッキでは他の強い連中に勝てるかどうかかわらなかつたので取り敢えず菜々子に手渡したカードだ。

花火「ああ、忘れてた、．．．いいよ、やるよ【炎魔神】は」

菜々子「え!?なんで!」

カイネ「親御さんの形見じゃなかったのか?」

カイネの言う通り、「炎魔神」は花火の両親が花火に残した最後のプレゼント、今まで花火は「炎魔神」をデッキから抜いたことがなかったのだ、菜々子は意外に思った、まさか花火が「炎魔神」を手放すなんて、と

花火「いいんだよ、もう俺には必要ない」

花火はそう言つて部屋を出て城内へ行つた。

菜々子「・・・どうしちゃったんだろう、花ちゃん」

カイネ「まあいいじゃない、貰えるものは貰つときな」

ー城内ー

花火(元気でやれよ、炎魔神……これからは俺じゃなく、菜々子を守つてやつてくれ)
花火にとつて【炎魔神】と言うカードは特別だった、できるなら同然手放したくなかつたが、【炎魔神】のカードが菜々子のデッキに入っている限り、菜々子を守つてくれるだろうと考えていた。高級カードなだけあつて、効果も強力なのを花火は理解していたから、

花火(今思えば、あのカードがあつたから小次郎とも出会えたんだよな、懐かしいな)
そう、【炎魔神】と言うカードがなければ花火と小次郎は決して出会うことはなかつた

だろう。これは3年前の夏、花火達がまだ、リアルワールドにいた時のお話、

ーリアルワールドー

晴太（はれた）『おおーい！花兄!!』

1人の少年が、花火の家のインターホンを背伸びをして鳴らしながら、花火を呼びかける。年は花火達よりも断然下で、花火のことを花兄と呼んでいた。

花火『・・・はい、はい』

今の時刻は夏休みの朝の7時、小中学生はラジオ体操が終わり速やかに家に帰る時間だ、花火はラジオ体操にはいけない、朝ごはんを作らないといけなかったし、何より、めんどくさかったのだ。

花火『どうした晴太、こんな朝早く、姉ちゃんと喧嘩でもしたか？』

晴太『お姉ちゃんと喧嘩なんてしないよー、ねえ、バトル教えてよ！僕、花兄みたいに強くなりたいんだ!!』

この少年、〔空野晴太（そらのはれた）〕9歳、菜々子の5つ下の弟、花火のことは当然知っていた。晴太はたまに時間があるときにこうやって花火にバトスピを教えるもらっていた。花火からしたら教えると言うよりも一緒に遊ぶに近いが、今日は少し早すぎる、花火もまさか、朝早くにラジオ体操のカードをぶら下げて自分の家に遊びに来るとは思っていなかっただろう。

花火『またか、お前は、．．．まあいいや、上がれよ』

晴多『わぁー！おじやましーす!!』

花火が許可した途端、晴太は勢いよく花火の家に上がる。花火はその際に、ばらけた晴太の靴をしっかりと踵を揃えて玄関に置き戻した。そしてー

花火『ほれ、【炎魔神】召喚、』

晴太『うわっ！出た!!炎魔神!』

花火『よし、いくぞおおお、炎魔神を、』

花火と晴太はリビングのテーブルで、バトスピしていた。花火の家は基本1人、今彼を1人で育てている、花火の父の妹、「一木聖子（いちきせいこ）」は多忙な仕事スケジュールのため滅多に家には帰れない、だから、花火の家は基本1人なのだ。

花火『．．．悪い、晴太、トイレ行って来るわ』

花火は抱えきれないほどの強大な便意をその身に宿しながら、トイレへと急行する。晴太はリビングで1人になる、

晴太『【炎魔神】、カッケェ!!、1日くらい、怒られないよな?』

小さい子供の嵯峨なのか、晴太は花火の炎魔神を持ち出して姿を消してしまう。そして、カードショップへと向かった。

花火『ふいー、スツキリしたー、お待たせはれ、た?』

あれ?」

ーカードシヨップー

晴太『これで今日僕はは無敵だ! あいつに挑むぞ!! 緑坂小次郎に!!』

晴太の挑むと言うのは、当時、バトスピチャンピオンシッピジュニアクラスで、優勝し、その名を轟かせていた小次郎との勝負である。ただ、この時の小次郎は

小次郎『おい、ガキ、よく逃げずにきたな、』

晴太『友達のカードを返せ!』

小次郎『お前が勝つたらな!!』

この時の小次郎はグレていた、と言うよりかは天狗になつていたと言った方が正しいか、弱いバトラーからカード狩りを行なつていたので。晴太は友達のカードを返してもらうために、デツキを強くするために、花火から炎魔神を持ち出してきたのだ。

一方花火は炎魔神のカードが無いことに気づく、

花火『あれ? 炎魔神は?』

菜々子『おおーい! 花ちゃん?』

花火『うお?! ノックくらいしろ!!』

菜々子が唐突に花火の家のリビングに現れた。幼馴染だから遠慮がいらぬのか、

菜々子は花火の家を自分の家のように思っていた。一方の晴太は、

晴太『くっ、ライフで、受ける』

小次郎「ふっ、おれの勝ちだな、約束通りお前のカードをもらっていくぜ、・・・おつ！【炎魔神】なんて持ってんのか！じゃあこいつをもらうぞ」

晴太『待つてそれはダメ！大切なカードなんだ!!』

小次郎『待つてもクソもねえよ、そう言う約束だ!』

晴太『くっ!』

小次郎は【炎魔神】のカードを取り上げる。晴太は涙を浮かべるが、こんなに朝早くにシヨップを訪れる客などほとんどいない、店員は掃除中でいない、つまり、頼りになる人は一人もいないのだ。しかし、

花火『・・・悪い、そのカード返してやってくんねえか？俺のなんだ』

花火が小次郎の後ろからヒョイツと現れる。

小次郎『!!誰だおまえ!』

晴太『花兄、』

花火『全く、お前つてやつは、それじゃあやってることはこいつと変わんねえだろ?』

晴太『ごめん、花兄』

晴太は深く反省した。花火は菜々子から事情を聞いて、駆けつけたのだ、晴太はこのことは誰にも話してはいないが、流星は姉といたところか、どうやらお見通しのよう

だった。花火は晴太の頭をポンポンと軽く叩くと、小次郎に目を向けて言い放つ。

花火『お前が最近噂のカード狩りか、まさか、ジュニアクラスのチャンピオンとはな、その名が聞いて呆れるぜ』

小次郎『なんだと!?!』

花火『じゃあこうしようか、お前が俺とバトスピして勝てば【炎魔神】はやる、逆に俺が勝てば、今までのカードを全部持ち主に返せ、そして、謝ってこい』

小次郎『ああん? てめえ、見た所俺と同じくらいの年頃に見えるが、まさか俺に勝つ気にいるのか?』

花火『当然、まさか、ビビってないよな? チャンピオン?』

小次郎『!!いいだろう! 受けてたつてやるよ!』

花火の安い挑発に小次郎は軽々なつてしまふ。小次郎は一旦【炎魔神】のカードを花火に返す、デッキが40枚に満たなくなるのを察したのだろう。そして2人のバトルが始まる。だが、2人の実力の差は圧倒的で、

花火『【炎魔神】と合体した【ドラリオン】でアタック、【炎魔神】の右合体時効果で、【キングタウロス大公】を破壊! 打ち上げろ!』

小次郎『なに!?!』

これで小次郎のフィールドにはブロック可能なスピリットは消えた、そして、ライフ

は残り2だ。

花火『このアタックどう受ける?』

小次郎『くつ、まさかこの俺が、・・・ライフで受ける』

晴太『やった!花兄の勝ちだ!!』

小次郎は最後のライフの2つのコアをゆっくりと指でリザーブに置きながらラストコールを宣言した。バトルは花火の圧勝に終わる。

花火『・・・よし、俺の勝ちだ、約束は守ってもらうぜ』

小次郎『・・・お前、名前は?』

花火『?俺?、俺は一木花火だ、ついでに年はお前と同じだ』

小次郎は花火のバトルに戦慄していた。全くかなわなかった。まさかチャンピオンにまで上り詰めた自分が同年代の少年に負けるとは思ってもみなかっただろう。

小次郎(・・・まだこんなに強い奴がいたのか、こいつを目標にしたら俺はもつと強くなれるかもしれない)

この日をさかえに花火は小次郎から付け狙われることになる。小次郎も花火や菜々子と触れていくうちにどんどん今のようなキャラになっていったのだ。

―現在―

花火「そんなことあったなー」

小次郎「なにがだ？」

花火「うお!、小次郎!!」

花火が城内のベンチのような場所に腰掛けていると、後ろから小次郎が声をかけてきた。急にきたからか花火は結構ビツクリしていた。

小次郎「おいおい、3日ぶりですそれはないだろ？本当は俺が驚きたいんだぞ！」

花火「悪い悪い」

小次郎「そうそう、王様が起きたら来いって言ってたぞ」

花火「王様ってマキシオ王か」

花火は一人で、王室へと向かう。病み上がりなのもあるが、意外と石積みの階段が長くて辛かった。ようやくたどり着いた花火は大きな扉をゆっくりと開ける。

花火「失礼しますー」

マキシオ「おお!!起きたか!花火君!」

花火が部屋に入ってくるとマキシオは花火の無事を喜ぶ。花火達には国のため、娘のカイネのために戦ってくれたことにすごく感謝しているのだろう。

花火「・・・で、俺に話して？」

花火は単刀直入に聞いてくる。早く本題に入って欲しいのだろう。

マキシオ「・・・ツ！これは失礼、つい取り乱してしまった、先ずは今回の件、本当にありがとう！国をカイネを救ってくれて！」

花火「ああ、いえーそれほどでもー」

花火は若干照れる、照れ隠しなのか頭の後ろをポリポリとかいていた。その後マキシオはすべて話したウズシオの最後や花火の目の前に両腕のないオメガモンが現れたことも、花火の探していたDパラディンの書齋が載っている絵本はウズシオによつて燃やされていたらしい。

花火「・・・そんなことが、じゃあ俺のせいでウズシオが!？」

マキシオ「いや、そんなことはないよ、あいつはあの力を手に入れた瞬間から負ければああなることは知っていただろうから」

花火「・・・」

花火は少なからず罪悪感を覚えていた。あのまま負けていれば死んでいたのは自分だが、バトスピなんかで人が死ぬのは少々胸が苦しい。

マキシオ「あと、君には話さなくてはならないことがある」

花火「？」

マキシオ「ウォーグレイモンのことを」

マキシオは一層真剣な目で花火を見つめる。その視線だけでこの話がよほど大事な

ことだと伺える。

マキシオ「君は昔、この世界で本物のDパラディンと暗黒の力が戦っていたのは知っているそうだね」

花火「はい、カインから聞きました」

遙か昔、Dワールドで起こった、Dパラディンの軍勢とダークマターズの激しい戦い、この戦いでDパラディンは敗北しかけたことで、仕方なくオメガバーストを起動したと、花火は武龍村でシユリから聞いていた。そしてその相手が暗黒だと知ったのはカインのおかげだ。花火はこの知つてることをすべてマキシオに話した。

マキシオ「ほぼその通りだ、だが、少し違う、」

花火「え!？」

マキシオ「あの戦い、Dパラディン達の優勢だった、だが、ウォーグレイモンが奴らの暗黒の力に汚染されたせいで戦況が一変、Dパラディン達はウォーグレイモンを戻すために、オメガバーストを起動したのだ、」

花火「・・・そんな、仲間1人のために世界を捨てたのか」

花火はシヨックを受けた、今まで一緒に戦ってきた相棒のせいで、この世界が一度滅んだことに、他に救う方法はなかったのかと考えてしまう。

マキシオ「その後、ウォーグレイモンは暗黒の力もろとも消滅されたと伝えられてき

た。他のデジタルスピリット達と同様にカード化することはなかったはずだ、しかし、なぜか今、そのカードは君が所持している」

確かに妙なことだ、消滅されたと言い伝えられてきたカード達が目の前にあるのだから、

花火「・・・王様、暗黒の力って何ですか」

花火はこのことについて大体は把握していたが、詳しくは知らない、改めてマキシオに暗黒の力のことを聞いた。

マキシオ「暗黒の力とは、ダークマターズが所持する凶悪な力のこと、彼らはこの力を使って世界を支配するつもりでいた。だが、4人ともオメガバーストによってカード化、暗黒の力も消滅と、言われてきたが、」

花火「『暗黒の力は消えていなかった』か」

暗黒の力は現にまだ、存在している、今まで花火達が戦ってきた【暗黒の使徒】達や、【暗黒四天王】だったウズシオ、強力なバトルラー達に受け継がれていた。おまけに四天王クラスともなれば、一人人殺せてしまうほどのバトルダメージがあった。花火は特にそれを身を以て経験したため、このことはすぐに理解できた。

マキシオ「花火君、君はどうやら【暗黒の才能】があるようだ」

花火「才能？」

マキシオ「うむ、君は、暗黒の力を纏ったデジタルスピリットを使っていたね」

花火「あー、スカルグレイモンのことか、なんか知らぬ間にデッキに入ってたんですね、あのカード」

マキシオ「暗黒の力を持ったカードはすべての人間が使えるとは限らない」

花火「?!」

ウズシオが暗黒の力を宿したカードと言っていた、スカルグレイモン、カードを所持していた花火はそんなこと言われるまで気づきもしなかった。花火は今までアグモンが暗黒の力を吸い込んできたことが原因だと考えていたが、

マキシオ「あの暗黒の力はきつと、ウオーグレイモンがもともと持っていたものだと私は思う。君のアグモンのカードが暗黒の力を吸い込むことができるのは、君に「暗黒の才能」があるからだ」

花火「俺にそんな力が？だから、アグモンは俺を選んだのか？」

オメガバーストでもかき消すことのできなかつた暗黒の力、アグモンはそれを消すために「暗黒の才能」を持つ花火を選んだのだろう。自身の暗黒の力を御してくれるために。

マキシオ「だけど、その力にも限界があるはずだ、十分に気をつけてくれ、スカルグレイモンのカードは一度君の力が暴発した証拠だと考えている」

マキシオはスカルグレイモンのカードを花火の力が勝手に暴走して生まれたものだと考えていた、実はその通りであり、スカルグレイモンは花火の力がほんのちよつと暴発して生まれた力である。花火はポイズとのバトルが終わるまでその力にはあてられて自我をなくしていた。

花火「……………」

この事件を機に、花火は自分が他とは何か違うことを自覚していくことになる。それでも、やらねばならない、花火のこれからの目標は「暗黒の力を倒して、無事にみんなでリアルワールドに帰ること」だ。

―白の大陸―

ここは白の大陸のDポリスの本拠地、副総司令官のサツマは1人自室にこもり、考え事をしていた。

サツマ「結局、ほとんど、手がかりはなかった、……今度しつかりと総司令官殿に問わねばならぬな」

サツマが今、Dポリスに抱いてる疑問、なぜ反乱軍を最優先して捉えねばならないのか、それでなぜ、他の人々を見過ごしているのかと言うもの、サツマだけではこの謎は到底解くことができなかつた。いくら、反乱軍が、自分達の「オメガバーストを使って、世界をよりよくする」という計画を邪魔しようとしているとはいえ、それより危険そう

な連中と遭遇したこともあり、尚更自分の今の気持ちに総司令官に伝えねばと考えていた。

ーどこか遠い場所ー

ここでは消滅したウズシオを除く、残った【暗黒四天王】3人が集結していた。3人になったので最早四天王とは言い難いが、

???「以上が、俺の部下からの伝言だ」

サツマとバトルした【カジ】はこの男の【暗黒の使徒】なのだろう。

ラフーキ「結局負けてんじゃん！ウズシオのやつ！あのクソ変態野郎！野心家！もう最悪だわ！」

子供のような容姿のラフーキがウズシオに対してきつい言葉をズラーツと並べる。

???「まあいいではないですか、私達の計画もいよいよ佳境に入ることですしね、おそらく、【オメガモン】は復活しました、今はこの世界を彷徨っていることでしょう、ならば、捉えるまで、奴は今、両腕が欠けていますからね」

全く話の読めないこの会話、四天王達が一体何を計画しているのかは、まだ、彼ら以外にはわからない。話を聞く限りでは、今のところ計画通りのようだ。

フロンティアリーグ編

第27話 イトニの新デツキ！舞い降りる2人の大天使

！

花火が目覚めてから1週間経過……

「アトーライの街はずれ」

カイン「みんな！本当にごめん！手紙の言葉も全部嘘だから！」

カインは花火、菜々子、小次郎に深々と頭を下げる。彼らを巻き込まないようにするためとは言え、あれだけ誹謗なセリフを残していったのだ、申し訳なく思うのも当然か、カインは一度、菜々子と小次郎に誤ったが、花火にはまだ一言も言つてなかつたため、この場を借りて、改めて誤った。

花火「気にすんなよ！……でも、よかつたのか？国を出て」

カイン「いいよ、先ずは軽々く世界を救つてからアトーライの王女でもなんでもやるさー」

カインは腕を曲げ、ガッツポーズをしながら言う。アトーライは今、国の復興に明け

暮れている、カインは本来、姫として、いや、彼女の母がいない今、王女として、それに携わなければならない、しかし、彼の父、現国王のマキシオは「花火君達に恩返しをして来なさい」と言って再び彼らの旅に同行することが可能になったのだ。マキシオは王としても、父としてもこれは辛い選択であっただろう。

今現在、花火達は黄色の大陸を歩いている、目指すは青の大陸、カインの問題が解決したので、もう白の大陸に行く必要はなく、青の港まで行かなくてよくなったのだが、行くもう1つの理由を作ってしまったのだ。

小次郎「でもほんとにあんのかー!?そんなすごい移動装置」

花火「わからねえよ、だから優勝して確かめるんだろ?」

菜々子「Dワールドって結構大会とか多いよねー」

カイン「毎年強者揃いだぞ、『フロンティアリーグ』は」

青の大陸に行くことになった理由、それは、青の大陸で年に一回行われるバトル大会『フロンティアリーグ』……Dワールドの中でも特に大規模なバトル大会だ。毎年優勝商品が豪華な代物だが、今年はなんと、『どんなところでも移動できる装置』らしい、全てマキシオ談だが、彼は先ず花火達に嘘は言わないので、信憑性は高い。

小次郎「大会があるのは2週間後なんだろう?間に合う?」

カイン「間に合うさ、1週間もあれば会場に着くぞ、……だからさ、その前にみんな

へのお詫びのつもりなだけで……」

花火&菜々子&小次郎「？」

カイン「みんなで遊園地、行かない？」

カインが懐からチケットのようなものを取り出し、チラつかせながら3人に言った。

*

花火「う、うわああああ!!!」

菜々子「きやああああ!!!」

花火と菜々子が乗っているのはリアルワールドで言うところのジェットコースター、騎士王蛇ペンドラゴンをモチーフに作製されたそのコースターは、ものすごいスピードで加速して行く、花火はあまり絶叫系の乗り物は得意ではなかったが、菜々子はそこそこ得意であった。それは2人のリアクションを見れば一目でわかる。花火はまるでこの世の終わりのような顔つきになるが、菜々子は心の底からジェットコースターを楽しんでいるような笑顔を振り舞いながら乗っていた。ようやく終了し、2人はコースターから降りるも、花火は二日酔いの成人男性のようにおぼつかない足取りでふらつく、

菜々子「いや〜！心臓が飛び出ると思ったね！」

花火「それは俺のセリフだ」

ここは『スピリッツパーク』アトラライの王マキシオが建設したバトスピのテーマ

パークなのだが、ウズシオが王になってからはすっかり閉鎖されていた。花火達が事件を解決したので再び遊ぶことが可能になったのだ。カインはみんなへの詫びと感謝の意を込めて4人で『スピリッツパーク』へ行こうと提案したのだ。

菜々子「よし!次あれ行こう!!」

花火は菜々子が指をさす方を見る。そこには龍皇ジークフリードを模したペンデュラムライドがあった。花火はそれを見て肩をがっくしと落とし、「またそう言うやつか」と思った。そんな2人を他の観客に紛れながら眺める2人の影があった。小次郎とカインだ。

小次郎「すみませんカインさん、俺もなんか乗りたいんですけど、なんでずっと2人を尾行してるんすか」

カイン「バカだね〜あんた、今あの2人いい感じなんだよ?これを見ないではないでしょ!」

小次郎「バカはサングラスとアフロで変装したきでいるお前だよ、いや俺もつけてるけども」

カイン「とにかく!あたしは自分の目標は成し遂げたから次は菜々子と花火をくつつける事に専念する、あんたらがリアルワールドに帰るまでに!」

小次郎「まずは暗黒の力を倒しなさい」

アフロとサングラスを装備した2人は花火と菜々子を追って行く。小次郎はカイネのこの行動に呆れ気味だが、そんな彼女を見て嬉しくも思っていた。

カイネはこの3年間ずっと心の拠り所がなかった。尊敬する師に裏切られ、母を殺され、頼れるものはほとんどいかなかった。一種の人間不信と言えよう、そんなカイネが今ではそれを断ち切り、心の拠り所を見つけ、楽しそうに笑っている。とても微笑ましい事だ。だからと言って尾行していいとは限らないが……

そこから少し時はたち、昼頃

菜々子「よし！もうそろそろなんか食べよう！お腹空いたよ〜」

菜々子がお腹を鳴らしながら花火に聞いてくる。

花火「お前だけで食べるよ、俺は今なんか食べたらず午後部についていけない、嘔吐しちまう」

菜々子「も〜、『午後の部』って……じゃああのクレープ屋で食べようっ！」

菜々子はクレープ屋で注文している間に花火は空いているテーブルを探す。しかし、なかなか空いているテーブルが見つからない。

花火「仕方ねえなこれ、入れてもらうか、」

円形のテーブルに対し、椅子は4つ、致し方ないが花火は空いている椅子を借りる事にした。

花火「あのう、すみません、ここのお隣座つてよろしいでしょうか」

シユリ「あー、はい、どうぞどうぞ」

花火「……」

シユリ「……」

バツタリ出くわした2人はそこから5秒ほど沈黙が続いた。一方菜々子はクレープ屋で、

菜々子「わー!イトニちゃん!久しぶり〜!!」

イトニ「げ?!バカツプルの女の方!なんでこんなところに?!」

その後、菜々子は一緒に食べようと誘うがイトニはそれを無視、シユリのいるテーブルへ戻ろうとするが、

花火「そうなの、あんたも苦手なの絶叫系、忍者つて忍の得意そうなのに」

シユリ「いや〜叫ばないけどね〜耐え忍ぶことはできるんだが、苦手だねー、イトニがどうしてもって言うから」

花火「あんたも苦労人なんだな」

花火とシユリが仲良く談義していた。

イトニ「シユリ!!何やってんだ!お前!」

花火「よう、イトニ、おかえりー、まあ座れよ」

イトニ「お前はどけよ！」

シユリ「まあまあ、いいじゃないか、ちようど2つ空いてるし」

その後すぐにクレープを片手に持った菜々子が帰ってくる。4人は同じテーブルで肩を並べる事になる。そこから少し離れたところにカイネと小次郎もいる。2人はここでつつかかったら余計大変な事になるだろうと思ひ、出てくることをやめた。が、リアル忍者であるシユリは2人の存在にも気づいていた。状況を察してか、敢えて言わなかったようだ。

花火「……てか、お前からこんなところで油売ってる場合か？Dポリス落とすんじゃないのか？後1ヶ月くらいで」

2人が所属する「反乱軍」、そのリーダーのシデンが、3ヶ月で、Dポリスを倒すことを宣言してから早2ヶ月、残すところを後1ヶ月に迫っていた。花火はこのことは以前、旅館でバツタリあつた時に聞いていた。

シユリ「あー、なんかね、青のバトル大会の景品にDポリスのいる、白の大陸まで行けそうな商品があるから、それで行こうって話になつてね、」

花火「！俺らもそれ出るんだ！リアルワールドに帰れるかもしれないから！」

シユリ「……なるほどねー」

シユリはお茶を啜りながら納得する。

イトニ「なるほどねーじゃねえよ!何あんた敵にそんなこと教えんのさ!」

どうやら反乱軍も青のバトル大会へ出場するらしい、どうやら結構骨が折れそうだ。

シユリ「いや、別に敵じゃないでしょ、敵対する理由もないしね、それより、見たよ君らの【アトーライ】での活躍、」

シユリはイトニをそっちのけで花火達と話す。花火達のアトーライでの一件は世間で大きく報道され、一大ニュースとなつて人々を騒がせていた。そして、3年前に起きた事件の真実や、暗黒の力がほとんどの人たちから認知される事となつた。

シユリ「シデンさんがまた君に興味を持っていたよ、一木花火」

花火「けっ!気持ち悪いって言つとけ」

花火とシユリが話している側で、菜々子はイトニに声をかける。

菜々子「イトニちゃんも遊園地とかテーマパークとか好きなんだ」

イトニ「:暇だっただけよ」

シユリ「嘘つけ、今日の朝行きたいってごねたのは誰だ」

イトニ「ごねてねえし!!」

イトニはシユリに顔を真っ赤にさせながら否定するが、まるで説得力がない。

花火「気にすんなよ、この姉ちゃんは今でも俺にごねてくるぞ、Dワールドに来る前も一回あつたしな」

菜々子は遊園地やテーマパークが好きである。Dワールドに招かれる前も、2人はリアルワールドの遊園地で遊んでいる。

イトニ「そう言えばあんたら、後2人は？、青髪の女（カイネ）と、あのアホ（小次郎）」

花火「今は別行動中だ、この園内にはいると思うけど、」

イトニ「よし、じゃああの2人には私がここにいたことは内緒にしろよ、いいな！」
イトニは強い口調で花火に指をさししながら言い放つ。

花火「……なんで？」

年頃の乙女の考えは花火には理解できない。特にイトニのようなプライドが高い性格の子は、イトニとしては次会った時に何か言われるのが嫌なのだ。

菜々子「じゃあ私とバトスピして勝ったら内緒にしてあげる！」

菜々子が花火の横からしゃしゃり出る。菜々子としてはただただイトニとバトスピがしたいだけのようにだ、イトニは絶対に負けない自信があるので当然この条件を飲んだ。そしてシユリは言えなかった、すでにカイネと小次郎にもバレていることを。

菜々子&イトニ「ゲートオープン！解放！」

2人はバトルフィールドへ向かう。花火とシユリも観客席で2人の対戦を見守る。先行はイトニだ。

「ターン0」イトニ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

イトニ「メインステップ、パタモンをLV1で召喚」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

菜々子「…デジタルスピリット!」

イトニのフィールドに大きな耳が特徴的なスピリット、パタモンが召喚される。パタ

モンは以前イトニが黄の大陸の遺跡で得た力だ。

イトニ「召喚時効果、2枚オープン!」

オープンカード

【パタモン】

【エンジエモン】

成熟期のスピリットカード、エンジエモンがイトニの手札に加えられた。

イトニ「ターンエンド」

手札4 ⇨ 5

パタモンLV1(1) BP1000
バースト無

「ターン02」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

菜々子「メインステップ！行くよ！角タヌ、スラスト・シェパード、ビーバンを召喚
！」

手札5 ⇨ 2

リザーブ5 ⇨ 1

菜々子のフィールドにツノの生えた狸とビーバー、犬が召喚される。

菜々子「続けてバーストをセット！」

手札2 ⇨ 1

角タヌLV1(1) BP2000

スラスト・シェパードLV2(2) BP2000

ビーバンLV1(1s) BP2000

バースト有

「菜々子「アタックステップ!3体でアタック!」

手札1 ⇨ 2

3体のスピリットが一斉に駆け出す。ビーバンのアタック時効果で菜々子は1枚ドロ―した。対するイトニの判断は…

イトニ「…ライフだ…くっ、」

ライフ5 ⇨ 2

3体のスピリットはそれぞれのツノでライフを破壊した。ここ数ヶ月でかなりバトル慣れしているイトニも流石にこの攻撃はこたえる。

菜々子「フツフン!ターンエンドだよ!」

菜々子は得意そうな顔でターンを終えた。

イトニ「調子にのるによ、勝負はこれからだ!」

「ターン03」イトニ

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドロ―ステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 7

トラツシュ3 ⇨ 0

イトニ「メインステップ！パタモンをLV2にアップ！」

リザーブ7 ⇨ 5

パタモンは黄色に光ってLVが上がる。

イトニ「天使スピエルをLV1、テイルモンをLV2で召喚！」

手札6 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラツシュ0 ⇨ 2

白銀の髪を持つ、低コストの天使と、猫のような見た目だが、実はネズミ型の成熟期デジタルスピリット、テイルモンが召喚される。

イトニ「アタックステップ開始時！パタモンの効果でパタモンをエンジエモンに進化」

パタモンは0と1のコードに包まれて姿形を変えて行く、コードが弾け飛ぶと中から6枚の翼を持ち、神々しいほどに白い衣を身に纏った天使型の成熟期デジタルスピリット、エンジエモンが現れる。

エンジエモンLV2 (2) BP7000

菜々子「天使になっちゃった」

パタモンの見た目からしてなかなか想像がつかない形に進化したためか、菜々子は少々意外そうな顔をした。その場にいた花火もまた同様ようのことを考えていた。

イトニ「いけ! テイルモン! アタック時効果発揮! デッキの上から1枚オープン」

オープンカード

「イエローリカバー」

テイルモンはアタック時にデッキの上から1枚オープンしてそれが完全体スピリットだった場合、ライフを1つ回復できるが、今回はそれ以外のスピリット、ライフは回復しない、ただし、手札には加えられる。

イトニ「さらに、超進化! テイルモンを完全体のエンジエウーモンに!」

手札4 → 5

テイルモンはまばゆい光に包まれて姿形を変えて行く、そして、美しい女性の姿の大天使、エンジエウーモンが召喚される。

菜々子「……綺麗……」

菜々子は対戦中だったが、エンジエウーモンとエンジエモンが並び立つ美しさに見惚れてしまう。イトニはそんな菜々子など気にも止めずに効果処理を続けて行く。

イトニ「エンジエウーモンの召喚時効果! L V Iの相手のスピリットを全て手札に戻す!」

菜々子「!!」

手札2 ♪ 5

エンジェウーモンの放つ眩い光の波動に角タヌ、ビーバン、スラスト・シエパードは耐えることができずに、粒子となって菜々子の手札に帰って行く。

イトニ「さらに、戻したスピリット1体につき、ライフを回復する。3体戻したから3つ、ライフを回復する」

ライフ2 ♪ 5

イトニのバトルアーマーに光が宿り、ライフが全回復する。

花火「すげえ、効果だな」

菜々子「なんのなんの！召喚時後のバースト発動!!」**「戦国霸王ギユウモンジ」**！バースト効果でBP合計、20000まで、好きなだけ破壊！」

イトニ「!!」

イトニの場にいるスピリットはBP10000の天使スピエル、BP7000のエンジェモン、BP10000のエンジェウーモン、BPの合計は18000、よって…

菜々子「全てのスピリットを破壊！」

踊るように真つ赤な炎がイトニのフィールドを襲う、こんなものまともに受けてしまえばひとたまりもないだろう。だが、イトニもただでは転ばない。

イトニ「エンジエウーモンのもう1つの効果!天霊のスピリットが効果によつてフィールドを離れる時、私のライフを好きだけ離れるスピリットに置くことで、それを回避する!3体とも1個ずつ置いてフィールドに残す!!」

ライフ5 → 2

エンジエウーモン (3 → 4)

エンジエモン (2 → 3)

天使スピエル (1 → 2) LV1 → 2

エンジエウーモンはイトニのライフの力を借りて、巨大な光の壁を形成、ギウウモンジの豪炎をしのいだ。

菜々子「くそくそくそ惜しいな、でも、ギウウモンジはバースト召喚できる!おいで!」
 まるで闘牛のような暴れっぷりを披露しながらも巨大な牛型のスピリット、ギウウモンジが菜々子のフィールドに現れる。

戦国霸王ギウウモンジ LV3 (4) BP15000

普通のバトラーならこのギウウモンジから放たれるプレッシャーからは逃れられないだろう。だが、イトニは怯まない。

イトニ「……エンジエモンでアタック!LV2、3のアタック時効果で、ギウウモンジのBPを6000、いや、スピエルの「黄強化」と合わせて7000ダウン!」

エンジエモンが攻撃を仕掛けると同時に放った聖なる拳は見事にギユウモンジに命中し、そのBPを15000から8000まで下げる。

菜々子「でもまだギユウモンジの方がエンジエモンよりBPが上！このまま返り討ちに……」

イトニ「できないんだよな〜これが、」

菜々子「……え!?!」

イトニ「エンジエモンの超進化！エンジエモンを手札に戻して、完全体のホーリーエンジエモンに!!」

エンジエモンは聖なる光を浴びる。すると姿形を変えて行く、そして、8枚の輝く銀翼を持つ大天使型の完全体デジタルスピリット、ホーリーエンジエモンが現れる。

ホーリーエンジエモンLV3(3)BP12000

菜々子「また完全体!?!」

花火「そういうえばあいつも、小次郎と同じように2種のDパラダインに選ばれたって言うってたな」

イトニ「やれ！ホーリーエンジエモン！アタック時効果！ライフを1つ回復し、相手のスピリット1体をBP12000ダウン！スピエルの【黄強化】でさらにダウン！これでギユウモンジのBPは0！ホーリーエンジエモンの効果で破壊！」

ライフ2 ⇨ 3

菜々子「えく!?ギユウモンジ!!」

ホーリーエンジェモンが右腕に装着している紫色のブレードで斬撃を飛ばすと、イトニのライフが1つ回復するとともに、ギユウモンジがそれに貫かれて破壊される。

イトニ「フラッシュユタイミング!マジック!イエローリカバー!ホーリーエンジェモンを回復!」

手札5 ⇨ 4

エンジェウーモン(4 ⇨ 3)

トラッシュユ2 ⇨ 3

ホーリーエンジェモンが黄色の光を浴びて回復する。アタックは今尚も継続中である。

菜々子「ライフで受ける!」

ライフ5 ⇨ 4

ホーリーエンジェモンは自慢のブレードで菜々子のライフを1つ切り刻んだ。

イトニ「もう一度アタックだ!」

ライフ3 ⇨ 4

ホーリーエンジェモンの二度目の攻撃、おまけのようにライフが回復して行く。

菜々子「これもライフ!……きや!!」

ライフ4 ⇨ 3

イトニ「ターンエンドだ」

ホーリーエンジェモンLV3(3) BP12000

エンジェウーモンLV3(3) BP10000

天使スピエルLV2(2) BP2000

バースト無

菜々子「やるね〜イトニちゃん!すごい楽しいよ!!」

イトニ「楽しくねえよ!早くターン進めろ!」

「ターン04」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ7 ⇨ 8

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

菜々子「メインステップ!再び、角タヌ、スラスト・シエパード、ビーバンを召喚!」

手札6 ⇨ 3

リザーブ8 ⇨ 5

菜々子のフィールドにエンジェウーモンの効果によって戻ってしまった3体のスピ

リット達が帰ってきた。

菜々子「さらに!召喚!ガルダモン!LV3!不足コストは3体のスピリットから確保!」

手札3 → 2

リザーブ5 → 0

角タヌ(1 → 0)消滅

スラスト・シエパード(1 → 0)消滅

ビーバン(1 → 0)消滅

トラッシュ0 → 3

3体のスピリットが消滅してしまうが、菜々子のフィールドに大きな翼と強靭な鉤爪を持つ鳥獣型の完全体デジタルスピリット、ガルダモンが召喚される。

ガルダモンLV3(5)BP12000

バースト無

イトニ「これが……ガルダモン……」

菜々子「行くよ!アタックステップ!お願いガルダモン!!アタック時効果!」

オーブンカード

【ピヨモン】

ガルダモンの効果で出たのは赤のスピリットカード、ピヨモン、よってこのターンの間、ガルダモンに赤のシンボルが1つ追加される。

イトニ「なんの！フラッシュタイムング！マジック！マジカルドロ！このターンの間相手のスピリット1体をBP3000ダウン！天使スピエルで、さらに1000ダウン！」

手札4 ⇨ 3

ホーリーエンジエモンLV3 ⇨ 1 (3 ⇨ 1)

トラッシュユ3 ⇨ 5

菜々子「?!」

ガルダモンBP12000 ⇨ 8000

突如現れた黄色の波動がガルダモンを捉え、その力をダウンさせてしまう。そして、イトニはドヤ顔で宣言する。

イトニ「エンジエウーモンでブロック！」

エンジエウーモンは掌から光の光線を放つが、ガルダモンはそれを避ける。ガルダモンはそのまま強烈な蹴りをエンジエウーモンにおみまいする。エンジエウーモンは上空にあげられるも、そこで体制を整えて、弓矢を出現させ、ガルダモンを狙い撃ちにしようとする。ガルダモンは気づいた時には既に遅く、エンジエウーモンの光の矢が自身

の胸部に命中、そのまま落下していき、地面に激突した勢いで大爆発を起こした。

菜々子「くっつ!!ガルダモン!!」

花火「……あの子、あんなに強かったのか」

シュリ「いや、強くなったのさ、シデンさんのためにね、デッキも変えたし」

イトニは赤の大陸で小次郎に敗北してから、必死に強くなろうと努力していた。その結果に、2種類のDパラディンを手に入れ、デッキも黄色と紫の【連鎖】から、天霊中心のデッキになった。シュリはイトニのこれまでの頑張りを誰よりも知っていた。問題児の扱いは元主人である【景光】のおかげで慣れていたのだろう。イトニのやや我儘な性格についていけるのはシデンを除いては反乱軍では彼だけである。

菜々子「……ターンエンド」

完全にやることを失ってしまった菜々子はそのままたーンを終える。

「ターン05」イトニ

スタートステップ

コアシテップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 6

トラッシュユ5 ⇨ 0

ホーリーエンジエモン疲労 ⇨ 回復

イトニ「メインステップは何もしない、そのままアタックステップ！天使スピエル！」
菜々子「ライで受ける！」

ライフ3 ⇨ 2

スピエルの槍のような武器が菜々子のライフを1つ貫く。

イトニ「続け！エンジエウーモン！ホーリーエンジエモン！」

ライフ4 ⇨ 5

続けて2体の大天使が飛翔する。ホーリーエンジエモンの効果でイトニのライフはおまけのようにライフが回復する。

菜々子「……楽しかったよ！イトニちゃん！ライフで受ける！」

ライフ2 ⇨ 0

ホーリーエンジエモンとエンジエウーモンは掌から同時に光の光線を放ち菜々子のライフを合わせて2つ破壊した。ライフがゼロになった菜々子はバトルフィールドから弾かれる。そして全員、バトルフィールドからスピリッツパークに戻る。

イトニ「どうだ!!私の勝ちだ!!」

菜々子「うん！強いんだね！イトニちゃん！」

負けたはずなのにお気楽な笑顔で話しかけてくる菜々子に、イトニは調子を崩される。

イトニ「……うるさい!!お前らも大会出るって言うなら覚悟しておけよ!勝つのは私か兄いだからな!」

花火「……あれ?シユリは出ないのか?」

シユリ「俺は他の連中と見張りだよ、Dポリスがいつ来ても逃げられるように」

どうやら、反乱軍で青のバトル大会に参加するのはイトニとシデンだけのようだ。確かにこの2人の実力は申し分ない、大会では必ずいい結果を残すだろう。

イトニ「……シユリ!余計なことを喋るな!もう帰るぞ!」

そう言つてイトニはバトルヴァイスでゲートを開いて、反乱軍の飛行船の中に帰ってしまう。菜々子は手を大きく振りながら、さよならを言つた。

シユリ「……俺たちが世界を変えても、君達だけはあの子のことを見てやってくれ、シデンさんも」

花火「……?……あ、ああ」

そう言つてシユリも同じように飛行船に帰つていった。花火達はあまりシユリの言葉の意図を詳しくは理解できてなかったが、なんとなくのニュアンスでそれが伝わつて来た。正義のヒーロー的な存在である、Dポリスを打倒している反乱軍は世間から見れ

ばただの悪党、その悪党が正義のヒーローとの戦いに勝ってしまえば、いくら正当な理由があっても世界からは当然嫌われる。だからシユリは花火達だけでもいいから、自分達の行いを認めて欲しかったのだろう。

反乱軍とDポリスの戦いは花火達には関係のないことだが、反乱軍とDポリスの間、両方に触れて見て改めてわかったことがある。それは、彼らは悪い人間ではない、ということ、各々が自分達の正義のために争っているだけ、花火はこの戦いをなんとか止めたいと思っていた。

菜々子「よし！花ちゃん！次はお化け屋敷ね！」

花火「え!?お前も俺もお化け苦手だろうが!!メリーゴーランドで我慢しろ!」

この後は午後も散々菜々子に振り回されながらも、一同は『スピリッツパーク』で楽しいひと時を過ごした。

第28話 フロンティアリーグ開幕!頑張れアグモン!

花火「おー、ここが大会会場か」

小次郎「なんかローマにでもいるみたいだな」

花火達はようやく、青の大陸に到着、青の大陸はまるでリアルワールドで言うところの西洋の街並みであった。中心には巨大なコロッセオがそびえ立っている。フロンティアリーグはここで行われる。

今日は予選、本戦は予選で勝ち残った8名が競い合う。それぞれA〜Hまでのブロックで勝ち上がったものだけが本戦へとコマを進めることができる。

カイネ「……じゃ、受け付けましたし、それぞれの会場に行こうか」

菜々子「みんな頑張ろうね!」

花火達はそれぞれの予選会場へと向かう。花火は若干この大会が楽しみでもあった。自分にとっては久しぶりの大会だからだ。

花火は滅多なことには大会には出ない、7歳くらいの時は強さを求めていたが、大きくなるにつれ強くなっても大震災で行方不明になった両親など帰ってくるわけがないと気づき、強さを証明することの意味を失う。故に大会も全く出なくなつた。

だが今は、置かれた状況のこともあるが、この冒険で得たかけがえのない仲間達と楽しくバトル大会に出ることができ、勝ち負けや強さを見せつけることなどしなくても良い、ただ楽しければいい、そんなバトルができると思うだけでワクワクが止まらなかった。そんなことを考えながら歩いていると横から素っ気のない声が聞こえてくる。

シデン「……よう」

花火「……よう」

花火達はそれぞれの予選会場へ向かっていたが、花火はその途中で反乱軍のリーダー、シデンにバッタリ会う。だが、言葉を交わしたのはそれだけでシデンもせつせと自分の会場へと向かった。反乱軍のシデンとイトニは間違いなく本戦まで勝ち上がってくるだろう。

花火「……えーつとー俺はFだから……ここか」

花火は会場のドアを開く。するとそこには500人程の人が集まっていた。8分の1でこの人数、花火は『フロンティアリーグ』の規模の大きさを知る。だが、相手が誰であろうと何人だろうとも別に気がひけることはない。そしてその数分後に予選バトルが始まる。

予選は人数が多すぎるので予選決勝までは普通のテーパーバトルとなる。花火はここ最近普通のバトルスピはやってなかったので少々戸惑うも、実力もそれ相応に上がつて

いるので難なく予選決勝までコマを進めた。

そしてFブロック予選決勝

『Fブロック予選決勝を行います。両選手は前へ』

アナウンスに呼ばれて花火ともう1人勝ち上がった選手が前へ出てきた。

花火「よろしくな、いいバトルにしようぜ」

タコハマグリ「……うっせ! クセエんだよ! タコ野郎!」

花火「……あら」

握手しようとした花火の手をまるでタコのようなたらこ唇の男『タコハマグリ』は逆に叩き返した。仲良くやってはくれないようだ。そしていつものコールでバトルが始まる。

花火&タコハマグリ「ゲートオープン! 解放!」

花火とタコハマグリはバトルフィールドに向かった。他の人たちは専用のスクリーンを通してバトルを見守る。

その後、点々とバトルは進んでいき、現在は花火の第6ターン、花火のライフは3、タコハマグリのライフも3、フィールドは以下の通り……

《タコハマグリ》

龍の霸王ジーク・ヤマト・フリードLV1(1) BP6000 疲労

英雄龍ロード・ドラゴンLV1(1) BP4000回復

皇牙獣キンタローグベアーLV2(3) BP6000疲労

バースト有

《花火》

ロケケラトプスLV3(3) BP6000

アシガルラプターLV2(2s) BP3000

ボルカニツクキャニオンLV1

バースト有

花火「アタックステップ、ボルカニツクキャニオンの効果、地竜スピリットの数に応じてBPを1000あげる。2体いるから全員にBPを+2000……いけ！アシガルラプター！アタック時にドロー」

手札3 → 4

アシガルラプターは花火の指示で走り出す。だが、そのアタックがタコハマグリのバーストの引き金となる。

タコハマグリ「来たぜ！きたきた！待ってたぜ！相手のスピリットのアタックによりバースト発動！刀の霸王ムサシード・アシユライガー！LV1でこいや！」

皇牙獣キンタローグベアーLV2 → 1(3 → 2)

空間にできた歪みを切り裂き、その中から、刀を所持したライガーのスピリット、アシユライガーが飛び出してくる。アシユライガーのバースト召喚条件はアタックした相手のスピリットのBPが5000以上、花火のアシガルラプターはボルカニックキャニオンの効果でBPがちょうど5000になっていたので、バースト召喚に至った。タコハマグリ「自身の効果でBP+3000!そのままブロックだ!雑魚をひねり潰せ!」

ムサシード・アシユライガーLV1(1) BP8000

花火「そう簡単にやられるかよ!フラッシュ!マジック、ダイナパワー!アシガルラプターのBPを+3000!」

手札4 → 3

リザーブ1 → 0

トラッシュ3 → 4

タコハマグリ「なに!?!」

アシガルラプターの走る速度がどんどん上がり、アシユライガーに突っ込んでいく、アシユライガーはそれに吹っ飛ばされる。両者は共に倒れ爆発した。

タコハマグリ「……………おいしい!こんな雑魚に負けんなよ!使えねええ!」

花火「…………ブロックしてくれたスピリットにそんなこと言うなよ!」

タコハマグリ「ああ!?!あんなの所詮はデータの塊だぞ!なに言っただって俺の勝手だろ?」

花火「……………ロクケラトプスでアタック」

タコハマグリ「ライフだ」

ライフ3 ⇨ 2

花火はロクケラトプスに命令を下し、アタックさせる。ロクケラトプスは正確にタコハマグリのライフを立派な3本ツノで砕いてみせた。

花火「……………ターンエンド」

手札3 ⇨ 4

ダイナパワーの条件が整っていたので花火のトラッシュユからダイナパワーのカードが手札に舞い戻ってくる。

「ターン07」タコハマグリ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュユ3 ⇨ 0

タコハマグリ「メインステップ!バーストをセット!」

手札4 ⇨ 3

タコハマグリのフィールドにまたまたバーストがセットされる。タコハマグリはこのバトル中毎回バーストをセットしている。

タコハマグリ「さらに!ヤマト、ロード、キンタローグをLV2にアップ!」

リザーブ6 ⇨ 0

龍の霸王ジーク・ヤマト・フリードLV1 ⇨ 2

英雄龍ロード・ドラゴンLV1 ⇨ 2

皇牙獣キンタローグベアールLV1 ⇨ 2

ヤマトとロード、キンタローグは力が上がりタコハマグリのフィールド全体に士気が上がる。

タコハマグリ「アタックステップ!やれ!キンタローグ!アタック時効果でロクケラトプスを破壊!」

花火「!!」

キンタローグは自身の斧をブーメランのように投げる。それはロクケラトプスに見事命中する。クリーンヒットしてしまったロクケラトプスは吹き飛ばされて破壊され

る。キンタローグはLV2からアタック時に自身のBP以下のスピリットを破壊できる。現在は6000なので同じくBP6000のロケラトプスの破壊が可能だったのだ。そしてアタックはもちろん継続中。

花火「そのアタックはライフで受ける」

ライフ3 → 2

キンタローグはブーメランのように帰って来た自身の斧を手に取り、そのままその斧で花火のライフを叩き割る。だがこれがトリガーとなる。

花火「……バースト発動！ダイナバースト！ロード・ドラゴンを破壊！さらにコストを払って2枚ドローだ」

手札4 → 6

タコハマグリ「なに!？」

ロード・ドラゴンの足元から火柱が上がる。ロード・ドラゴンはその炎に焼き切られてしまう。

タコハマグリ「……くっ！マジック1枚で倒されるとか、雑魚すぎだろお!!ターンエンドだあ！早くしろ！」

花火「……………」

「ターン08」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ6 ⇨ 7

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシユステップ

リザーブ7 ⇨ 11

トラツシユ4 ⇨ 0

花火「メインステップ、ピストジャサウルス、アグモンを召喚!」

手札7 ⇨ 5

リザーブ11 ⇨ 8

トラツシユ0 ⇨ 1

花火のフィールドにアグモンと、新たにデツキに投入したコスト0の使いやすい地竜のスピリット、ピストジャサウルスが召喚される。

花火「アグモンの召喚時!」

オープンカード

【ウオーグレイモン】

【天火烈刀斬】

アグモンの効果の対象圏内は成熟期と完全体のみ、よって究極体のウオーグレイモン

はそのまま破棄されてしまう。

タコハマグリ「はっは！引きの弱い奴だ!!召喚時のバースト発動!ゴエモンシーフドラゴン!LV2で召喚!」

ゴエモンシーフドラゴンLV2(2)BP5000

タコハマグリのバーストがオープンする。すると、どこからともなく、江戸時代の盗人のような姿をしたドラゴンがさきつと現れた。ゴエモンシーフは相手のスピリットの召喚時発揮後の時点で系統、覇皇を持つスピリットが存在すればノーコスト召喚が可能。現在タコハマグリにはヤマトとキンタローグ、条件は余裕で満たしていた。

タコハマグリ「はっは!随分と差が開いたな!!お前はコストを払ってその雑魚を召喚したのに対し、俺は効果の強いスピリットをノーコスト召喚!もう俺の勝ちは決定だな!今年こそ俺が!このタコハマグリ様がフロンティアリーグを制覇して見せるぜ!!」

花火「言ってるよ、雑魚はお前だぜ」

タコハマグリ「……なんだと?……このクソガキが!!」

タコハマグリは花火の言葉に怒りを覚え、顔を真っ赤にしながら目をギラつかせる。花火はそんなものに怯むことなくターンを進めていく。

花火「そしてこいつらが雑魚じゃないことを、今ここで証明してやらあ!ボルカニツクキヤニオンをLV2にアップ!」

リザーブ 8 ⇨ 6

花火「マジック! エクスキャベーション! トラツシユの地竜3体を手札に戻す」

手札 5 ⇨ 7

リザーブ 6 ⇨ 4

トラツシユ 1 ⇨ 3

花火はエクスキャベーションの効果でトラツシユにあるアシガルラプター、ロクケラトプス、ウオーグレイモンを手札に戻す。今花火の手札にはグレイモンもメタルグレイモンもあり、進化コンボの準備は整っている。が、あえて今回はそれを使わない、人のスピリットはおろか自分のスピリットにまで粗末な扱い方をするタコハマグリを見返すために低コストのスピリットだけで勝つのだと花火は第6ターン時点でもう決めていた。

花火「召喚! アシガルラプター!」

手札 7 ⇨ 6

リザーブ 4 ⇨ 3

花火のフィールドに再びアシガルラプターが現れる。

タコハマグリ「……そんな雑魚共! いくら出したところでまた破壊されるだけだ!」

花火「だったら破壊してみるんだな、アグモンをLV2へアップして、マジック、ダ

イナパワーを使用、全ての地竜スピリットにBP+3000と、指定アタックを付与する」

手札6 → 5

リザーブ3 → 0

花火のフィールドにいる3体のスピリット全員の力が一気に上がり、士気が一層高くなる。

花火「アタックステップ、ボルカニックキャニオンの効果！全てのスピリットにBP+3000」

アグモンLV2(3) BP11000

ピストジャサウルスLV1(1) BP8000

アシガラプターLV1(1s) BP9000

ボルカニックキャニオンLV2(2)

バースト無

花火「……お前みたいな三流、グレイモンに進化するまでもねえ！いけ！アグモン！ゴエモンシーフに指定アタック！」

アグモンは口内に限界まで炎を溜めて一気に放つ。その炎の球は真つ直ぐにゴエモンシーフに飛んでいき、命中、ゴエモンシーフを燃やし尽くしてしまう。

タコハマグリ「……くっ! 雑魚の分際で」

花火「ネクサス、ボルカニツクキャニオンのLV2効果、自分のアタックステップ中にBPを比べて相手のスピリットだけを破壊した時、そのスピリットを回復させる」

アグモン疲労↔回復

タコハマグリ「……はあ?」

花火「次はキンタローグだ! アグモン!」

赤い光を浴びて回復したアグモンはキンタローグの方まで走っていく。キンタローグは斧で自身より体格が小さいアグモンを倒そうとそれを振りかざし、下ろすも、アグモンはそれをタイミングよく避けて、鉤爪の一撃をおみまいする。キンタローグは力尽きて大爆発を起こした。

花火「……ボルカニツクキャニオンのLV2効果」

アグモン疲労↔回復

タコハマグリ「ぐっ!」

花火「今度はヤマト・フリードだ! いけ! アグモン!」

ヤマト・フリードは剣でアグモンを斬りつけようとするも、それを何度もかわされてしまう。アグモンは一瞬の隙について、キンタローグと同じように鉤爪の一撃を入れた。ヤマト・フリードも大爆発を起こし、アグモンに敗北を喫する。

タコハマグリ「……くつくうつそお！どいつもこいつも使えない！ああああ！！イライラする!!」

タコハマグリはとても悔しかっただろう。自分が雑魚だと言い張ったスピリット達に自分の自慢のパワーカード達が蹴散らされていくことが……バトスピは確かに強いカード、弱いカードはある、だが、それらをどう生かすかは使い手のバトラー次第、弱いカードでも使い方次第では大きな力になる。タコハマグリはそう言った初歩的なことがバトスピを長年やっていくうちに頭から抜けていたのだろう。

花火「……スピリットはそのバトラーの力量によつて力が変わるんだ、そんなことも理解できないんだったらバトラーなんてやめちまえ!!」

花火はそう言いながら、3体のスピリットにアタックの指示をする。タコハマグリのフィールドにはもう守るカードはなく、この攻撃を全て受けることになる。

タコハマグリ「……ぐっ！ちくしょー!!」

ライフ2 → 0

タコハマグリはバトルフィールドから弾かれた。

『試合終了、Fブロック代表は一本花火さんに決定しました』

無機質なアナウンスの声が響く。その瞬間Fブロックの会場から歓喜の声が溢れてくる。タコハマグリに勝ったからだ。彼は去年のフロンティアリーグでも、ベスト4に

入るほどの実力の持ち主であるが、いかんせん態度が悪いので評判がすこぶる悪かった。ここ最近暗黒の力を持つ者達との命懸けのバトルをしてきた花火にとつてタコハマグリはただの三流バトラーにしか見えなかった。花火は全然楽しくなかった。他の会場を見てくることにした。楽しみにしていたはずなのにこんな嫌な相手とバトルすることになったのはとても嫌だったことだろう。

花火「……えーつと、ここから一番近いのは、……菜々子のいるBブロック会場か……」

花火は菜々子のいるBブロック会場へ向かう。

花火「……ここか」

花火はBブロック会場の扉を開く。するとそこには2体のスピリットが戦っている映像が映し出されていた。おそらくは決勝戦だろう。その2体とは菜々子のガルダモンと地竜の赤のスピリット、暴双龍デイラノス、空中からダイブしてくるガルダモンを暴双龍デイラノスは強靱な両腕でそれを捕えると、抵抗できなくなったガルダモンに2つの口から容赦なく火炎放射を浴びせる。耐えきれなくなったガルダモンはそのまま爆発してしまう。

花火はあの暴双龍デイラノスというスピリットには見覚えがあった。

花火「……あのスピリット」

次の瞬間、アシガルラプターと、ムシャモサウルスが菜々子にアタックしていき、体当たりで菜々子のライフを0にした。ライフ0になった菜々子はバトルフィールドから弾かれた。

花火「菜々子が負けた……」

菜々子の負けは少々意外だったのか、少し顔を歪ませる花火、菜々子もリアルワールドにいた時よりだいぶ強くなっている。そんな菜々子がそう簡単に負けるとは思ってもいなかったのだ。

対戦が終わり、両選手が戻ってくる。花火は菜々子と戦っていた相手の顔を見る。その顔を見て全てを思い出す。いや、正確には記憶の片隅にしまって置いたと言った方がいいのか、あのバトルを忘れるわけがない、Dワールドに来たばかりの頃に戦ったあのワイルドな男を。

花火「……………牙!!?」

『試合終了、Bブロック代表は牙さんに決定しました』

またもや無機質なアナウンスが流れ、Bブロック代表を告げる。『牙(キバ)』とは、赤の大陸を脅かしていた『恐龍隊』を率いる隊長、『恐龍隊』は花火達がDワールドで、初めて戦った団体である。牙は花火にバトルで負けた後、花火を認め、リベンジすることを誓い、恐龍隊を捨て、修行の旅をしいったはずだが、まさかこんなところで会うなん

て思ってもみなかつただろう。

花火は思わずステージまで上がってしまう。

花火「牙!」

菜々子「あつ! 花ちゃん!」

牙「……おお、やっぱりいやがったか花火! お前の女がいるからもしやと思っていたが、」

牙の言葉に菜々子は「いやゝ女だなんて」と言いながら照れるが、花火は話を進める。

花火「なんでここに?」

牙「それはこつちのセリフだ、……俺は修行の成果を試しに来ただけだ。だが、まさかこんなところでリベンジできるとはな、……あの時の俺の言葉、覚えているか?」

花火「もちろんだ」

牙はアカダツケ村で花火に『次は自分自身のプライドをかけて戦う』と宣言した。花火も当然この言葉は忘れていない。当然次の勝負は牙だけでなく自分のプライドもかけるつもりだ。先程のタコハマグリとの一件で機嫌を損ねていた花火だったが、牙のことでまた再びモチベーションが上がった。

しばらくして、全ての予選が終わったのか、ブロック代表者に開会式をしようア

ナウツスがかかる。花火と牙は中央にある本戦スタジアムへ向かう。菜々子は負けてしまつたので、観客席まで行くことにした。

そしてついに幕が上がる、第96回フロンティアリーグが……

*!!!!!!

実況者「ついに！この時が来た！第96回フロンティアリーグを始めるぜ!!」

—————

「テ、テ、シヨンの高い実況者、それに応えるように、数千万は超えるであろう観客が“ワア!!”と盛り上がる。その声はコロッセオ型のドームが揺れ動く程だ。それもそのはず!!フロンティアリーグは今やDワールドのお祭りのようなものなのだから、今この時期にならどこに言つても空中にあるモニターに試合が流れるほどだ。」

実況者「……よし!よし!いい感じだな!!……それでは早速!厳しい予選を勝ち抜いた8名の代表者の発表を行うぜ!!」

「実況者がそう言うのとまたまた観客達が盛り上がる。実況者は肩書きとともに以下のように選手達のことを述べていく。名前を呼ばれた順からエレベーター式に会場内に現れる仕組みだ。」

A「カ」ロック代表「イカナマズ」去年チャンピオン

B「ブ」ロック代表「牙」元恐龍隊隊長

C ブロック代表 「カイネ」アトーライの王女

D ブロック代表 「緑坂小次郎」地味な奴

E ブロック代表 「イトニ」反乱軍のマスコット

F ブロック代表 「一木花火」最近有名人

G ブロック代表 「シデン」反乱軍のリーダー

H ブロック代表 「武魂景光」武龍村の暴れん娘將軍

最後のHブロック代表が現れた瞬間、花火と小次郎は目を丸くして驚く。当然だろう、そこにはとても意外な人物が現れたのだから。

花火&小次郎「?!ちよ!なんでいるの!?景光姐さああああん!!!」

その場にいた花火と小次郎はもちろんのこと、観客席にいる菜々子も衝撃を受ける。

そこにいたのは以前、花火達がお世話になった「武龍村」の女殿様、「武魂景光」がいた。

実況者「今年の優勝商品は大陸間だけでなく、次元までを飛び越えられると言う謎の装置!!!「クロノス・アルファ」!!!さあ!8名の勇者よ!この奇跡のアイテムをかけて!!!フロンティアリーグのつぺんを目指せ!!!」

中央の画面にタブレットほどのサイズの黒い機械が現れる。どうやらこれが花火達も反乱軍も欲しがる夢の移動装置らしい。今年のフロンティアリーグはなかなか面白いことになりそうだ。

第29話 1回戦開始！怒涛のスーパーモード！

大会前日の夜、花火達は町外れのレストランで夕食を食べていた。その顔ぶれには武龍村の暴れん娘将軍、武魂景光の姿もある。

花火「……………にしてもほんと驚いたよ、まさか景光姐さんがこんなところまで来るなんて」

景光「どうしても一回、この大会に出たくてね、」

景光は大のバトル好き、毎日のように城内では自分の家来達を無理矢理バトルさせるほど、戦闘欲が強い。村をそつちのけでこの大会までわざわざ出向いたのだ。

景光「せっかくお前らも出るのだ、私が出ないやけにはいかなだろう？反乱軍のリーダーやら、マスコットやらも参加するみたいだし、楽しみでしょうがないよ私は」
小次郎「……………なんで俺らが出るってわかったんすか？」

花火「大会のチラシかなんかだろ？」

花火の言う通り、景光はチラシで大会の情報を見て、商品が次元まで飛び越えられる可能性がある機械「クロノス・アルファ」と知った時に花火達は間違いなくこの大会に出ると予期していたのだ。それで景光は出るなら今年と決めていたのだ。

景光「……………にしても予選はつまらなかつた、去年の2、3位がいたらしいが弱すぎ
て誰が誰だかわからなくなつたよ」

景光の力は底が知れない。花火達が武龍村を訪れた時は、花火は一回も景光には勝て
なかつた。それほどまでに強かつた。

菜々子「相変わらず変わらないね、姐さんは」

花火「1回戦で当たるのが姐さんでも手なんか抜かないからな」

景光「……………ふっふ、なかなかいい顔つきになつたな、花火、……………もうそろそろほ
んとに私の婿に来てもいいのだぞ?」

花火「いっつどこであんたの婿になるつて言つたよ」

カイネ「……………ぶっ飛んだキャラだね」

カイネは初対面の景光にボソツと呟く。

*

夜が明ける。ついにフロンティアリーグの本戦が始まる。まだ朝方だと言うのにも
かかわらず大勢の人々がこの大会を見に来ていた。菜々子は1人知らない人たちに囲
まれながらちよこんと座っていた。花火達はそれぞれの設けられた部屋に入っている。
直ぐに試合に行けるようにするためだ。

実況者「さあ!一回戦を始めるぞ!トップバッターを務めるのはこの2人だ!!」

1 回戦第一試合「カインVS牙」

カイン「おつ！早速出番か」

自分の控え室でデッキを調整していたカインは自分の番だと知り、早速中央のバトルフィールドへ赴く。相手は花火達も知る、元恐龍隊長の牙、実力がないわけがない。十分警戒すべき相手だ。まあ、厳しい予選をくぐり抜けてきた時点で強者なのは間違いないのだが、

実況者「……さあ！ご登場願いましょう！先ずは！数々の悲劇を乗り越えたアトーライの王女「カイン」!!!」

菜々子「頑張れえええ!!カインちゃんん!!!」

カインの登場に会場全体が大いに盛り上がる。アトーライでのウズシオが起こした一件で彼女に同情するものは多いからだろう。カインのルックスも相まって人気はそれなりにあった。

実況者「……続きまして！赤の大陸の暴君!!最近はずかになつてきたが、ここに来てまた襲れ出すのか!!!元恐龍隊長「牙」!!!」

牙が中央フィールドに現れるが、観客達は牙に対してはブーイングコールしかしない。まあ、恐龍隊の評判が悪かったので仕方のないことではあるが。

しかし、そんな彼にも応援団はいる。恐龍隊のメンバーだ。彼らは不器用ながら作成した横断幕を掲げ、大声を張りながら牙を応援する。

牙「よろしく頼むぜ」

カイン「……こちらこそ」

実況者「……さあ!出揃ったところで早速参りましょう!1回戦第一試合開始!!」

カイン&牙「ゲートオープン!解放!!」

2人のコールとともに見えない透明のバリアが展開される。観客席に被害が出ないためのものではあるが、かなりギリギリで極限までバトルを楽しんでもらいたいと言う大会運営側の配慮だ。そして第96回フロンティアリーグ初戦が始まる。先行は牙だ。

「ターン0」牙

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

牙「メイנסテップ、ネクサス、角竜の山を配置だ!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 4

牙の背後に奇妙かつ独特な形状を持つ山が現れた。最初のターンにネクサスを配置

するのが彼のバトルスタイル、これがないと始まらない。

牙「……ターンエンド」

角竜の山LV1

バースト無

「ターン02」カインネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

カインネ「メインステップ、異魔神ブレイブ！二頭魔神！召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 5

カインネのフィールドにいきなり異魔神ブレイブの一種、龍の頭を2つ持つ異様な姿の二頭魔神が大波と共に現れる。

実況者「でたー！異魔神ブレイブ！！カインネ選手、いきなり異魔神ブレイブを召喚したぞ！このお互いの初ターンを見てどう思いますか？解説の景光さん」

景光「……そうだな、不良にとってはあの異魔神に合体される前に倒しておきたいと

ころだな、逆にあの可愛い女子(おなご)は合体するまでの間、敵の攻撃をどう対処できるかが問題だ」

実況者「なるほど!ありがとうございます!あの異魔神ブレイブはどちらにせよ今後の展開の鍵になりそうですね!」

花火「……なんで平然とそっち側にいんの」

花火は自分の控え室からツツコミを入れる。景光は自分の控え室に入らずなぜかバトルの解説を行っていた。花火は自由奔放な彼女の行動には呆れていた。ちなみに不良とは牙のことである。

カイン「バーストをセットしてターンエンド」

手札4 → 3

二頭魔神LV1(0) BP4000

バースト有

「ターン03」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 → 1

牙「ドローステップ時!角竜の山の効果発揮!ドロー枚数を1枚増やし、その後手札を1枚破棄する!」

手札4 ⇨ 6 ⇨ 5

牙は手札からカードを1枚捨てた。

リフレッシユステップ

リザーブ1 ⇨ 5

トラツシユ4 ⇨ 0

牙「メインステップ、ネクサス、恐龍同盟本拠地をLV2で配置！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 3

カイネ「またネクサス？」

牙の背後に謎の祭壇のようなものが出現する。それはまるでマヤ文明の遺跡を連想させる。

牙「ターンエンドだ」

角竜の山LV1

恐龍同盟本拠地LV2 (1)

バースト無

カイネ (意外と動かないな)

「ターン04」カインネ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 6

トラッシュユ5 ⇨ 0

カインネ「メインステップ、ホエーモンをLV1で召喚！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 5

カインネのフィールドに特大サイズのデジタルスピリット、完全体でクジラのような姿をしているホエーモンが姿を見せる。

実況者「でたー!!! デジタルスピリット! さあ! 一体どんな活躍を見せてくれるの
でしよう!」

特大サイズのデジタルスピリットの登場で実況者の実況にも熱が入る。

カインネ「ホエーモンに二頭魔神を左合体」

二頭魔神の左手に持つ剣の切っ先から蒼い閃光がほとぼしる。それはホエーモンと繋がり、合体スピリットとなる。

ホエーモン＋二頭魔神LV1（1）BP9000

バースト有

カイネ「……………ターンエンド」

実況者「動かなーい!!」

景光「決めに行くターンで決めたいんだろうね、無闇にライフを破壊しても赤デツキのパワーだったら間違はなく状況をひっくり返されるから、あの可愛い女子は自分のデツキの脆さを理解してるんだろうな」

ここまでの第4ターン、2人はアタックを仕掛けず、静かな滑り出しを切ったが、この第5ターンで牙が動き出す。

「ターン05」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 6 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 5

トラッシュユ3 ⇨ 0

そして、メインステップに入る。

牙「……そろそろ行くか」

カイン「……!!」

牙の言葉にカインはより一層警戒心を強める。

牙「メインステップ、来い!俺の相棒!暴双龍デイルノス!!LV2で召喚だ!!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

恐龍同盟本拠地(1 ⇨ 0) LV2 ⇨ 1

実況者「キターー!!暴双龍デイルノス!!牙の長年のエーススピリットです!彼を知らない!牙選手を語れないと言っても過言じゃないでしょう!!!」

地響きとともに2つの頭部を持つ地竜のスピリット、暴双龍デイルノスが現れた。彼は牙の相棒にしてエーススピリット、これまでも幾多の試練を彼とくぐり抜けてきた。その力は存在するだけで地竜スピリットの力が上昇するという優れもの。

牙「アタクステップ!いけ!デイルノス!力の差を見せつけろ!」

暴双龍デイルノスは自身の効果でBP10000、LV1のホエーモンを上回っていた。

カイン「そこは当然ライフだ！」

ライフ5[→]4

デリラノスはホエーモンを素通りしてそのまま強靱な両腕をカインのライフに叩きつけてそれを1つ破壊した。だがこれがカインのバーストの引き金となる。

カイン「へっ！これで十分だよ、ライフ減少でバースト発動！ネクサス！NO26
キャピタルキャピタル！配置だ！」

牙「……ほお、」

カインの背後に浮遊する大陸のネクサス、キャピタルキャピタルが配置される。

カイン「キャピタルキャピタルの効果であんたはソウルコアが置かれていないスピリットでアタックする時リザーブからコアを1つ払わないといけない」

牙「……なるほどな、ターンエンドだ」

暴双龍デリラノスLV2(3)BP10000

角竜の山LV1

恐龍同盟本拠地LV1

バースト無

やる事がなくなった牙はカインにターンを渡す。

「ターン06」カイン

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 7

トラッシュユ5 ⇨ 0

カイン「メインステップ、マジック、ストロングドローを使用する。3枚ドロウして、2枚捨てるよ」

手札4 ⇨ 3 ⇨ 6 ⇨ 4

リザーブ7 ⇨ 6

トラッシュユ0 ⇨ 1

カインは青のマジックカード、ストロングドローを使用した。この効果により、デッキから3枚ドロウし、2枚捨てた。ストロングドローの使用も考えると実質手札の枚数は変わっていないが、時にはそれがアドバンテージとなるデッキも多く存在する。

カイン「……そして、ズドモンをLVIで召喚!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 0

トラツシユ1 ♪ 6

棘のついた甲羅にトドのような見た目のスピリット、ズドモンは、自慢の金槌みたいなハンマーを持ってカイネの後ろからのつそのつそとゆつくりフィールドに現れる。牙はズドモンこそがカイネのエーススピリットだと見抜く。

牙「……これがあんたのエースか」

カイネ「……ええ、そうよ！ズドモンと二頭魔神を右合体！」

二頭魔神が手持ち無沙汰になっていた右手に持っている剣をズドモンに向けて左と同じように蒼い一筋の閃光を走らせる。その閃光で自身とズドモンを繋げて合体スピリットとなる。

ズドモン＋二頭魔神LV1(1) BP12000

ホエーモン＋二頭魔神LV1(1) BP9000

NO26 キャピタルキャピタルLV1

バースト無

カイネ「アタックスステップ！ホエーモンでアタックする！二頭魔神の左合体時効果でデイラノスのコア1個をリザーブへ！」

牙「……………」

暴双龍デイラノス(3 ♪ 2) LV2 ♪ 1

二頭魔神が左の剣で斬撃を飛ばす。その一太刀を受けたデイラノスはダメージで膝をついてしまう。

カイネ「さらに!この効果でコアの除去に成功した時、トラツシユからネクサスカード1枚をノーコスト配置ができる!私は五行寺院をノーコストで配置!」

二頭魔神はすかさず、左の剣で地面を突き刺す。すると、カイネの後ろからネクサスカード五行寺院がみるみるうちに完成していく。

実況者「……?おやおやく!?あんなカードいつトラツシユに送ったのでしょうか?」

景光「……上手いなストロングドロの効果であらかじめトラツシユに送ったんだろう」

実況者「なるほど!ありがとうございます!」

これはあくまで二頭魔神の左合体時効果であり、本命のホエーモンのアタック時はもちろん継続中である。ホエーモンは、空中を泳ぐように進んでいく。

牙「そいつはライフだぜ」

ライフ5 → 3

ホエーモンは巨大な体を活かした体当たりで牙のライフを一気に2つ破壊する。二頭魔神自身がシンボルを持つブレイブなので現在、ホエーモンもズドモンもダブルシンボルスピリットだ。

カイン「……よし！いけ！ズドモン！二頭魔神の右合体時効果、【強襲・i】！キャピタルキャピタルを疲労させてズドモンを回復させる！」

ズドモン+二頭魔神（疲労⇨回復）

ズドモンが青い光を浴びて回復状態になる。これで2度、ズドモンがアタックすれば牙のライフは尽き果て、即バトル終了となる。

カイン「ズドモンのアタック時効果、「大粉砕」！LVは1だからあんたのデッキを上から5枚破棄する！」

ズドモンは自身のハンマーを思いっきり地面に叩きつけて、電撃を走らせる。その電撃は牙のデッキを襲う。これでバーストカードが落ちれば牙のディラノスは破壊され、牙の反撃の手をまた1つ減らすことが可能と思われていた。が、

カイン「……!?!」

牙「このカードが相手のデッキ破棄効果で破棄されるとき、トラッシュに置かずにノーコストで召喚できる、来い！恐龍同盟マノブロウサウルス！」

デッキ31⇨28

リザーブ1⇨0

恐龍同盟マノブロウサウルスLV1（1）BP7000

5枚破棄されると思いきや3枚目のカードが、ズドモンの電撃を吸収しながら牙の

フィールドに置かれる。そして、亀のような見た目の恐竜型のスピリット、牙の愛用する恐竜同盟のスピリットの1体、マノブロウサウルスが召喚される。

牙「……そしてこのターンの間、デツキ破棄は効かねえ」

実況者「……なななんと!牙選手、ブロッカーがいなく窮地に陥ったかと思いきや相手のデツキ破棄を逆手に取り、壁を形成したあああ!!!」

牙の意外な手の返し方に実況者共々観客の人々が盛り上がる。

カイン「……くっ!でもアタックは継続中!」

牙「ライフをくれてやるよ」

ライフ3^っ1

ズドモンは自身のハンマーを牙のライフに叩きつけて一気に2つ持っていく。牙はこの攻撃に身体をよろめかせる。

牙「……へ!今のは結構効いたぜ」

牙はダメージの痛みの中で笑ってみせた。痛みなどよりバトルの楽しさの方が遥かに勝るからだ。牙が本当に戦いたいのはカインではないが。

カイン「……ターンエンド」

「ターン07」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 6 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ5 ⇨ 8

トラッシュユ3 ⇨ 0

牙「メインステップ、……正直ここまでやるとは思ってたぜ、結構やるじゃねえか、王女さんよ〜」

カイン「……そりやどうも」

牙はカインのことを決して見くびってはいなかった。花火と絡んでいたことは知っているからだ。案の定、カインは1ターンで牙のライフを全て破壊しようとし、牙もかなり追い込められた。

牙「……褒美として面白いもんみせてやるよ」

カイン「……!!?」

牙「……いくぜ、ディラノスをLV3、角竜の山をLV2へアップ!」

リザーブ8 ⇨ 5

暴双龍ディラノス(2 ⇨ 4s) LV1 ⇨ 3

角竜の山(0 ⇨ 1) LV1 ⇨ 2

LVアップに伴い、角竜の山は赤く光り出し、デイラノスはさらに強く猛々しく咆哮する。

牙「アタックステップ!」

暴双龍デイラノスLV3(4s) BP14000

恐龍同盟マノブロウサウルスLV1(1) BP7000

角竜の山LV2(1) LV2

恐龍同盟本拠地LV1

バースト無

カイネ「……!?何も出ない?LVをあげただけ?」

牙「何寝ぼけた事言ってるやがる!これからだよ!本番は!!やれ!デイラノス!!」

牙の指示に従い、デイラノスはカイネのライフを目掛け、ドシンドシンと走り出す。

牙「……いくぜ、これが修行で得た俺の新たな力だ!!【煌臨】発揮!!対象は暴双龍

デイラノス!!」

暴双龍デイラノス(4s) LV3

トラッシュ0

カイネ「!!」

花火「……!煌臨だって!?牙が!」

控え室にいる花火だけではない、小次郎も、菜々子も、対戦しているカイネも、この試合を観ているDワールドの全ての人々が驚いただろう。ただ、彼の修行についていった元恐龍隊のメンバーを除いては……牙のデッキは恐龍隊長として有名になりすぎている。だが、その中で煌臨を使用するのは誰も見たことがない。つまりこれから見せる煌臨スピリットは誰もが初めて見る牙の新たな力。

デイラノスは禍々しい炎をその身に宿していく、そして体のサイズ、皮膚などがドンドン変化していく。

牙「……その目に映るものを薙ぎ払え!! 煌臨!!! 暴双恐龍スーパーデイラノス!!!」

暴双恐龍スーパーデイラノスLV2 (3) BP10000

手札5 → 4

デイラノスが禍々しい炎を振り払うと、もうそこにいたのは誰でも知るデイラノスではなく、禍々しい形をした彼の正統なる進化系、スーパーデイラノスがそこにはいた。スーパーデイラノスはデイラノスよりもさらに強く叫ぶ。その叫びは思わず耳を閉じたくなるほどだ。

実況者「……!!!でたー!! 煌臨スピリット!! デイラノスが!!! スウウパーーデイラノスとなりました!! その変化はまるでデジタルスピリットのそれに近いと言えるでしょう!!!」

景光「中々強いではないか、あいつも私の婿候補にぶち込んでやろうかな?、……………」
 今の第一優先は花火だが、ムー。悩ましいところだな」

実況者「…………あのく私情は控えてくださいね」

実況者も実況により熱が入る。観客も知らないうちに牙を応援するものがチラホラで始めた。

花火「……………進化した……………デイラノスが、……………お前やつぱすげえよ!牙!!!」

花火は牙の修行の成果の強さに感動を覚えていた。「自分も早くあいつと戦って見たいと」、今バトルしているカイネが正直羨ましかった。

牙「煌臨スピリットは煌臨元となったスピリットの全ての情報を引き継ぐ、アタックは継続だ!やれ!スーパーデイラノス!!」

カイネ「…………!!でも、BPは10000、ズドモンで……………」

牙「…………甘いぜ!!スーパーデイラノスの効果はデイラノスのさらに上をいく!!!地竜スピリット全てをBP+10000だああ!!!」

暴双恐龍スーパーデイラノスBP10000 ⇨ 20000

恐龍同盟マノブロウサウルスBP2000 ⇨ 12000

カイネ「…………ツ!!+10000だつて!?!」

スーパーデイラノスはデイラノスと同じく、存在だけで地竜スピリットを強くする。

だが、その力はデイラノスの比ではない。

カイン「くっ！ だけどシンボルは1つ!! このくらい、ライフで受けてやるよ！」

ライフ4 ⇨ 3

カインの残りのライフは4、受けるにはまだまだ十分残っていた。スーパーデイラノスはさらに向上し、大きくなった両腕でカインのライフを殴り壊す。

牙「ネクサス、角竜の山のLV2効果！ 自分のスピリットが相手のライフを減らした時、手札にある地竜スピリット1枚を「煌臨」の効果を持つスピリットの煌臨元として追加できる!!! 俺は恐龍同盟ドロマエオーのカードをスーパーデイラノスの煌臨元に追加する!!!」

手札4 ⇨ 3

牙はスーパーデイラノスの下にある煌臨元カードに恐龍同盟ドロマエオーを追加した。これで暴双恐龍スーパーデイラノスの煌臨元カードは暴双龍デイラノスと合わせて2枚となる。

カイン「……!?! 煌臨元カードなんか増やして一体何の得が……!?!」

カインは煌臨元カードを増やす牙の行為の意味をあまり理解しきれていなかった。だが、それはすぐに解決される。

牙「スーパーデイラノスの効果!! 「煌臨中」のアタックの終わりに、このカードの煌

臨元1枚につき、相手のライフを1つ破壊する!!今のスーパーデイルノスの煌臨元は2枚!!よってお前のライフを2つ消し飛ばす!!食らいやがれ!!」

カイン「……なに!?……………ううううう!!」

ライフ3 → 1

スーパーデイルノスは極太の両腕に禍々しい炎を纏わせてカインのライフをさらに2つ叩き壊す。ライフの破壊音がいつものガラスが割れたような音ではなく、まるで爆弾が爆発したような音であった。

実況者「……!!!!なんと!!煌臨元カードを増やして威力を倍増させた!!!そんなカード見たことないぞ!!!」

煌臨元カードは煌臨スピリットの基本的に煌臨スピリットの効果を発揮するために破棄するカード、もしくはそれを使わずに効果を使えるものは煌臨元カードなどほとんど無駄である。だが、スーパーデイルノスはそれを増やせば増やすほど力が変わる珍しいカードであった。

牙「……暴双龍デイルノスの効果!!このスピリットに煌臨した赤のスピリットは立続けてもう一度アタックできる!!!もう一度いけ!スーパーデイルノス!!」

リザーブ5 → 4

トラツシュ1s → 2s

牙はカイネのネクサスNO26キャピタルキャピタルの効果でリザーブからコアを1コア払うが、些細な問題であった。

カイネ「!!!ズドモン!!頼む!!」

スーパーデイルノスとズドモンの取っ組み合いが始まるが、スーパーデイルノスの力が強すぎてズドモンではどうにもならない。ドンドンカイネのライフ側へと押し出されていく。

牙「もちろんこの時でもスーパーデイルノスの効果は使えるぜ!!!あばよ!楽しかったぜ!!!」

暴双恐龍スーパーデイルノスは再び両腕に炎を纏わせると、ズドモンの腹にボディーブローをお見舞いする。ズドモンに大爆発を起こさせたと同時にその拳でカイネの最後のライフを破壊した。

カイネ「!!!う、うわああああ!!!」

ライフ1→0

実況者「……決まったああ!!!1回戦第一試合、勝ったのは元恐龍隊長「牙」!!!」

カイネのライフがゼロになる。勝者は牙だ。この瞬間一気に会場から歓声が飛び交う。元恐龍隊メンバーも諸手を挙げて牙の勝利を祝う。カイネは自分の完敗だと認める。

カイン「……あちやー負けちゃったかー………仕方ない、後は花火に任せよう」

牙「……あんた結構筋は良かったぜ、………花火に会ったら伝えときな、『俺は進んだぞ』ってな」

カイン「………ふふ、変なやつだねーあんた、わかったよ会ったらね」

牙もカインもだいぶさっきのバトルで打ち解けたようだ。牙は花火に向けるような柔和な表情をカインにも見せた。

実況者「……次の試合は彼らだ!!」

と、実況者が言って、モニターに映し出されたのは花火とイト二の顔、どうやら次はこの2人が戦うようだ。この試合に勝ったものが次の2回戦で牙と戦うことになる。

花火「!!!次は俺か!!頑張ろ!!」

花火も控え室で密かにやる気の炎が燃え盛る。牙とカインのあれだけ白熱した試合が観れたのだ、自分だつてやってやると思っていたのだろう。

実況者「……さあ!!かなりの盛り上げを見せてくれた第一試合!これは次の第二試合にも期待がかかるぞ!!」

花火の相手は、黄色のDパラディンのカードを2種類所持しているイト二、花火はイト二の大天使達を攻略することができるのか。

第30話 天空の対決！2人の大天使VS最強の龍戦士

！

1回戦第一試合の牙VSカイネで興奮が冷めないまま次の第二試合、花火VSイト二が始まろうとしている。

花火はゆっくりと歩みを進め、中央フィールドへと向かう。その道中で見慣れた顔が見えてくる。カイネだ。花火は声をかける。

一木花火「……よっ！惜しかったな！」

カイネ「……惜しくないよー全然、ずっと掌で転がされてた……そうそう、牙からの伝言んだけど、『俺は進んだぞ』ってさ」

カイネは牙からの伝言をしっかりと花火に伝えた。

花火「……了解！」

花火は俄然やる気が湧いてくる。カイネは「じゃあ私は菜々子と一緒に残りの試合を観戦するかねー」と言っつて、すぐさまその場を後にする。

*

実況者「……さあ!!それでは!1回戦第二試合、選手の入場です!!先ずは!最近有名

人!! 哉龍村やアトーライ!! 救った国や村は数を知れず! そしてなんと出身は未知の世界、リアルワールド!! 赤のデジタルスピリット使い! 一木花火!!」

花火が中央フィールドに現れると会場の観客達はこれでもかというくらい盛り上がりを見せる。花火達の活躍はDワールド中に知れ渡っており、その中でも花火は敵の親玉と戦い、勝つことが多かったためか、菜々子や小次郎よりか人気があった。

実況者「……………続きました! Dポリスのリーダー、シデンの妹にして、黄色のデジタルスピリットの使い手!! イトニ!!」

イトニが、中央フィールドから姿を見せるが、周りの観客達は反乱軍であるイトニにはブリングコールしかしない。普通の年頃の女の子なら大分気にするはずだが、イトニは怒ういうことは慣れっこだったためか、全然気にするそぶりを見せなかった。

花火は思い出した、そして気づいた、遊園地でシユリに言われたことを『君たちだけはあの子のを見てやってくれ』これはそういうことなのだろうと。イトニやシデンと友達でいてくれと言う意味のメッセージだったのだと。

実況者「……………さあ! 行きましょう!! 1回戦第二試合開始!」

花火「……………いいバトルにしようぜ!」

イトニ「……………勝つのは私だ!! 行くぞ!!」

花火&イトニ「ゲートオープン！解放！」

2人のバトルが今幕を開ける。先行はイトニだ。

「ターン01」イトニ

スタートステップ

ドローステップ 手札4⇨5

イトニ「……メインステップ、パタモンを召喚！」

手札5⇨4

リザーブ4⇨0

トラッシュ0⇨3

イトニのフィールドに大きな耳が特徴的な成長期スピリットパタモンが召喚される。

イトニ「召喚時効果」

オープンカード

【イエローリカバー】

【イエローリカバー】

イエローリカバーはただのマジックカード、効果は不発に終わる。この結果に、イトニは舌打ちをして悔む。

イトニ「……ちっ！ターンエンドだ」

パタモンLV1(1) BP1000

バースト無

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4⇨5

ドローステップ 手札4⇨5

花火「……メインステップ! 行くぜ! ロクケラトプスをLV1、アシガルラプターを

LV2で召喚!

手札5⇨3

リザーブ5⇨0

トラッシュ0⇨2

花火のフィールドに二体の地竜スピリット、三本のツノが特徴的なスピリット、ロクケラトプスと、足軽衣装がお似合いのアシガルラプターが現れる。

花火「……アタックステップ!」

ロクケラトプスLV1(1) BP3000

アシガルラプターLV2(2s) BP3000

バースト無

花火「2体でアタック!!」

手札3[→]4

花火はシレーつとやっているが、ソウルコアが置かれたアシガルラプターはアタック時にデッキから1枚ドローできる力がある。

2体の地竜スピリットは共に荒野を駆けていく。

イトニ「……ライフで受ける」

ライフ5[→]3

ロクケラトプスとアシガルラプターはイトニのライフを同時に体当たりでぶち壊した。

花火「……ターンエンド」

実況者「……ここまでの展開はどうですか、解説の景光さん」

景光「……そうだな……私はあのイトニと言う女子の使うデジタルスピリットがどういうものかわからんから、わからん。この試合は取り敢えず花火に勝ってもらえれば満足だ」

実況者「……だから私情はやめてくださいってば」

「どうやっても私情を挟み出す景光に実況者はやや呆れ気味。景光としては花火がどれくらい強くなったか知りたいのだ。そしてもし、強くなっていたのならこの大会中で

どっ付き合いたいのだ。バトルで。

「ターン03」イトニ

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュユ0 ⇨ 0

イトニ「メインステップ、ウィザーモンを召喚!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 1

トラッシュユ0 ⇨ 4

花火「……!?!」

イトニのフィールドに新たなデジタルスピリット、魔法使いのような姿をしている成熟期のウィザーモンが召喚された。

花火はウィザーモンがDパラディンではなく、普通のデジタルスピリットであることは見抜くが、デッキに採用しているほどだ、何か強い効果があるのではないかと警戒し

ていた。

イトニ「ウイザーモンの召喚時効果!!デッキから2枚ドロ!!」

手札4[→]6

ウイザーモンの効果はいたってシンプル、デッキから2枚ドロし、手札を増やす。だが、そのシンプルな効果はイトニにとつてとてつもないアドバンテージを確保していたことは花火も理解している。

イトニ「……アタックステップ」

ウイザーモンLV1(1) BP4000

パタモンLV1(1) BP1000

バースト無

イトニ「パタモン!!いけ!」

パタモンは耳を使って器用に羽ばたいてみせる。いく先はもちろん花火のライフ。前のターンでフルアタックしたせいで全てのスピリットが疲労状態になっている花火はこのアタックを無条件でライフで受けることになる。

花火「……ライフだ」

ライフ5[→]4

パタモンは身体全体を使って口から空気砲を放つ。それはとても弱々しいが、ギリギ

リ花火のライフを砕いた。

イトニ「……ターンエンド」

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 4

トラッシュユ2 ⇨ 0

花火「……メインステップ、来い、グレイモン!! LV2だ」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

アシガルラプター(2s ⇨ 1s)

トラッシュユ0 ⇨ 2

甲虫のように硬い頭部を携えている。恐竜型のデジタルスピリット、成熟期のグレイモンが、花火の後ろからのっそのつそとフィールドに現れる。

花火「……アタックステップ」

グレイモンLV2(3) BP5000

ロケケラトプスLV1(1) BP3000

アシガルラプターLV1(1s) BP2000

バースト無

花火「……グレイモンでアタック!!アタック時効果でウィザーモンを破壊!」

手札4→5

実況者「……グレイモンの効果が炸裂!!これで決まってしまうのか!!!?」

グレイモンは口内に限界まで炎を溜めて、それをボール状にしてウィザーモンに放つ。ウィザーモンはなすべなくその炎を浴び、燃えあがり、消失してしまう。

花火はこの効果でデッキから1枚ドロ、さらに、3体のアタックが通ればイトニの残りのライフを全て破壊でき、勝ちは見えていた。だが、こんな速攻で勝てるほどイトニは甘くない。

イトニ「……かかったな!ウィザーモンの破壊時効果!」

花火「……………!!」

イトニは待っていましたと言わんばかりにウィザーモンの効果を発揮する。花火はウィザーモンに破壊時効果があることをなんとなく見越していたが、『自分のデッキは赤、どつちみち破壊はしなくてはならない』そう思い、敢えてグレイモンでウィザーモ

ンを破壊したのだ。

イトニ「ウイザーモンは破壊時にテイルモンかエンジェウーモンを1体、ノーコスト召喚ができる!」

花火「……なに!？」

ウイザーモンはグレイモンの炎で焼かれた後に、光の粒子となってイトニの手札に纏わりつく。そして、その中の1枚に焦点を置いて中に入っていく。エンジェウーモンのカードがノーコスト召喚することが可能になったのだ。この効果は予想外だったのか、流石に花火は驚いた。まあ無理もないだろう、完全体クラスのスピリットがノーコストで召喚できるのだから。

イトニ「私はエンジェウーモンをノーコスト召喚!」

手札6 → 5

エンジェウーモンLV2(2) BP7000

リザーブ2 → 0

神秘的な翼を羽ばたかせ、女性型の大天使の完全体デジタルスピリット、エンジェウーモンが今、イトニのフィールドに舞い降りる。

イトニ「……エンジェウーモンの召喚時効果!!アシガルラプターとロクケラトプスを手札に戻す!」

花火「……くっ、」

手札5 → 7

エンジエウーモンは舞い降りてすぐに、黄色い波動をフィールド全体に放つ。グレイモンは辛うじて耐え抜くもののLVが1だったロクケラトプスとアシガルラプターは粒子となつて花火の手札に戻ってしまう。

イトニ「そして、戻した数1体につき私のライフを回復する」

ライフ3 → 5

さらにエンジエウーモンの波動はイトニのライフに力を取り戻させる。これでイトニのライフは初期の5に元どおり………花火はこのエンジエウーモンの効果を決して警戒していなかったわけではない。まさか自分のターンにこの効果を受けるとは思ってもいなかったのだ。しかし、そこで1番気にしなくてはならないのは、まだこれはグレイモンのアタック中であるということ。

イトニ「グレイモンのアタックはエンジエウーモンでブロック!!」

イトニの命令でブロックを執行するために翼で空を飛ぶエンジエウーモン。グレイモンはウィザーモンと同じようにエンジエウーモンを巨大な炎の球で倒そうと何発も何発も放つが、エンジエウーモンは全てそれを空中で華麗にかわしてしまう。エンジエウーモンは掌から黄色い波動を一点に集中して打ち出し、グレイモンを貫いてみせた。

グレイモンは堪らずその場で大爆発を起こしてしまう。

実況者「……………イトニ選手の強烈なカウンターが炸裂!!!

花火選手!これはきつい!!まだ反撃の手はあるのか!?

花火「……………ターンエンドだ」

イトニ「ふふ!楽勝楽勝」

なすべがない、花火はフィールドのすべてのカードを自分のターンに失ってターンを終えることになってしまった。イトニはこの状況に笑みを殺しきれなかった。

「ターン05」イトニ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 5

トラッシュ4 ⇨ 0

イトニ「メインステップ、天使スピエルを3体召喚!」

手札6 ⇨ 3

リザーブ5 ⇨ 2

白髪の天使のスピリット、天使スピエルが一気に3体召喚される。このスピリットはコスト0の天霊で「黄強化」持ちと、とても扱いやすいカードだ。

イトニ「パタモンをLV2へ！」

リザーブ2→0

パタモンはLVが上がり、進化の力を得た。そして、

イトニ「アタックステップ！パタモンの「進化」！成熟期のエンジエモンに！」

パタモンは天使型の成熟期デジタルスピリット、エンジエモンへと進化した。

イトニ「さらにエンジエモンを「超進化」！完全体、ホーリーエンジエモンに！」

イトニはエンジエモンのアタック時効果の「超進化」を使い、大天使型のデジタルスピリット、完全体のホーリーエンジエモンに進化させる。

実況者「……すごい！すごいぞ！イトニ選手！黄色の完全体を2体揃えたー!!」

並び立つホーリーエンジエモンとエンジエウーモンにテンションの上がる実況者。確かに神々しい2体の大天使デジタルスピリットの威圧感は相当なものであった。花火のフィールドにスピリットが1体もいないことがよりその2体の存在を駆り立てる。

イトニ「やれ！ホーリーエンジエモン！」

ライフ5→6

ホーリーエンジエモンは8枚の聖なる翼で天空を駆ける。そしてオマケのようにイ

トニのライフに力を与える。

花火「フラッシュタイムング!マジック!リアクティブバリア!!ホーリーエンジェモンのアタックでお前のターンは終わりだ!!」

手札7 → 6

リザーブ5 → 1

トラッシュ2 → 6

花火もただではやられない。白の防御マジック、「リアクティブバリア」が発動する。イトニのスピリット達の目の前に巨大な氷山の一角が出現し、行く手を阻む。

花火「ホーリーエンジェモンのアタックはライフで受けるぜ」

ライフ4 → 3

ホーリーエンジェモンは右手に装着された剣で花火のライフを1つ横一線に切り裂いた。だが、このターンのアタックステップは終了、イトニは仕方なくターンを終える。

イトニ「……く、ターンエンドだ」

ホーリーエンジェモンLV3 (3) BP12000

エンジェウーモンLV2 (2) BP7000

天使スピエルLV1 (1) BP1000

天使スピエルLV1 (1) BP1000

天使スピエルLV1(1) B P 1 0 0 0

バースト無

「ターン06」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシユステップ

リザーブ3 ⇨ 9

トラツシユ6 ⇨ 0

花火「メインステップ、バーストをセット!、ピストジャサウルス、ロクケラトプス、アシガルラプターを立て続けに召喚!」

手札7 ⇨ 3

リザーブ9 ⇨ 6

まるでツチノコのような見た目の地竜スピリット、ピストジャサウルスが花火のフィールドに現れたかと思うと、エンジェウーモンによって戻されてしまったロクケラトプスとアシガルラプターも同時に花火のフィールドに召喚された。バーストカードも裏側でセットされる。

花火「……そして、召喚! スカルグレイモン!!」

手札3 → 2

リザーブ6 → 0

トラッシュ0 → 3

花火のフィールドに全身が骨になってしまったグレイモン、スカルグレイモンが天上から落下してくる。その異様な姿にイトニは困惑していた。それもそのはず、イトニが聞かされていた花火の完全体スピリットはメタルグレイモンのみ、こんな異形の化け物が出てくるなど想定外でだった。

イトニ「……スカルグレイモン……!?!」

花火「こいつの召喚時! 相手のスピリット3体からコアを1個ずつ外す! 対象は3体の天使スピエルだ!」

イトニ「(………雑魚スピリットに、いちいちエンジェウーモンの効果は使つてられないな、ここは) エンジェウーモンの効果は使わない!」

天使スピエル(1 → 0) 消滅

天使スピエル(1 → 0) 消滅

天使スピエル(1 → 0) 消滅

スカルグレイモンは黒いブレスを吐き出す。それはスピエル達を包み込み、消滅させ

てしまう。

この時、イトニはエンジエウーモンの効果を使ってスピエル達を守ることができ、エンジエウーモンの効果にはライフが必要になる、破壊されやすいスピエルを残すなら守らなくてもいいという判断なのだろう。

実はこれは正解の判断であり、スピエル達を無理やり残してもスカルグレイモンのアタック時にまたまとめて破壊されてしまっていた。

花火「……ピストジャサウルスを消滅、スカルグレイモンをLV3に」

ピストジャサウルス（1 → 0）消滅

スカルグレイモン（3 → 4）LV2 → 3

ピストジャサウルスは消滅してしまうが、スカルグレイモンの力が一気に上昇した。

花火「……さらに！ロクケラトプスのコアを使ってマジック、ダイナパワーを使用！

地竜スピリットにこのターン、BP+3000と指定アタックの効果を付与する！」

手札2 → 1

ロクケラトプス（1 → 0）消滅

トラツシユ3 → 4

ロクケラトプスも消滅してしまうが、マジック、ダイナパワーの効果がこのターンの間適応される。エンジエウーモンの効果は効果によって離れるスピリットが対象に含

まれるが、単純にBP比べの敗北による破壊は含まれない。花火のデッキで唯一、イト
 二の鉄壁の大天使達のコンボを崩せるカードと言えよう。

花火「アタックステップ! 先ずはお前だ! アシガルラプター!」

手札1 → 2

アシガルラプターにはソウルコアが置かれているため花火はアタック時に1枚ド
 ローした。

花火「……………そして、フラツシユタイミング、【煌臨】を發揮! 対象はスカルグレイ
 モン!」

手札2 → 1

アシガルラプター(1s → 0) 消滅

トラツシユ4 → 5s

アシガルラプターは悲しいことにアタックした瞬間呻き声を上げて消滅してしま
 うが、それが花火のスカルグレイモンに新たな力を灯す。

花火「……行くぜ! 死を超越せし龍よ! 今こそ最強の龍戦士となりて敵を討て! 究極
 進化! ウォーグレイモン!!」

スカルグレイモンは橙色の炎に包まれ、姿形を変えて行く、そしてその炎を切り裂き、
 新たにウォーグレイモンとなって現れた。

彼にとつてとてもいい朗報であった。

花火「ウォーグレイモンの煌臨時効果! エンジェウーモンを破壊!!」

ウォーグレイモンは両手を挙げ特大のガイアフォースを形成し、それをイトニのエンジェウーモンに投げ込んだ。その威力は凄まじく、ガイアフォースの進んだ後の地面がえぐれるほどだ。

イトニ「……………やらせるかよ!! エンジェウーモンの効果! 天霊スピリットが効果でフィールドを離れる時、私のライフを1つ以上そのスピリットに置くことで、同じ状態でフィールドに残す! エンジェウーモンにライフのコア1個を置く!」

ライフ6 → 5

エンジェウーモン(2 → 3) LV2 → 3

エンジェウーモンはイトニのライフの力を使って防壁を形成し、ウォーグレイモンの特大のガイアフォースを上弾き飛ばす。ガイアフォースはまるで打ち上げ花火のように飛んで行ってしまった。

花火「いけ! ウォーグレイモン! ホーリーエンジェモンに指定アタックだ!」

イトニ「……………!!」

花火は間髪入れずにウォーグレイモンにホーリーエンジェモンを攻撃させる。イトニはすっかり強力な耐性効果があるエンジェウーモンを先に狙ってくると思っていた。

だが、花火は攻めに特化したホーリーエンジエモンを敢えて狙った。アタックするたびにライフを回復する厄介なスピリットでもあるので先に潰しておきたかったのだろう。

ウオーグレイモンは自身の身体をドリルのように回転させ、ホーリーエンジエモンに突っ込んで行く。だが、ホーリーエンジエモンは左手から円形のバリアを形成する。透けて見えるほど薄いバリアだが、ウオーグレイモンの竜巻のような攻撃を凌ぎ、そのまま上に跳ね返した。そしてホーリーエンジエモン自身も空を飛び、ウオーグレイモンに自身の右腕の剣で一太刀入れる。ウオーグレイモンはさらに上に打ち上げられてしま

う。
ウオーグレイモンもただではやられない。空中でなんとか体制を立て直し、追撃してくるホーリーエンジエモンの剣を腕の武器、ドラモンキラーで挟み込んでしまう。そしてそのまま剣をへし折る。

剣が折れて動揺したホーリーエンジエモンをウオーグレイモンはそのまま裏拳で地面に叩き落とす。ホーリーエンジエモンはなんとか立ち上がり、空へ羽ばたこうとするがウオーグレイモンが上からドラモンキラーの一撃で追撃してくる。逃げ場をなくしたホーリーエンジエモンは左手から再び強固なバリアを瞬時に形成し、真正面からドラモンキラーの右拳を受け止める。

花火「……………いけ!!打ち上げろおおお!!ウオー!グレイモン!!!」

ウォーグレイモンは花火の声に応えるように緑色の眼光を輝かせる。ドラモンキラーの右拳はドンドン、ホーリーエンジエモンのバリアに突き刺さって行く。そしてついにバリアは崩壊、崩れた瞬間にウォーグレイモンはホーリーエンジエモンを通り過ぎるように一撃を入れる。たった一撃をもろに受けただけだが、やはり究極体の一撃は重いのか、ホーリーエンジエモンは大爆発を起こす。

イトニ「……くそ、ホーリーエンジエモン」

花火「ウォーグレイモンのLV2、3の効果!トラツシユのソウルコアをウォーグレイモン自身に置くことで相手のライフを1つボイドに送る!!」

トラツシユ5s ⇨ 4

ウォーグレイモン(4 ⇨ 5s)

ウォーグレイモンは巨大なガイアフォースを形成し、イトニに向かって全力で投げつける。それにぶち当たったイトニのライフは溶けるように消えていった。

イトニ「……ぐっ!!!」

ライフ5 ⇨ 4

花火「………ターンエンド」

手札1 ⇨ 2

花火はターンを終えるが、トラツシユに落ちたダイナパワーのカードが条件を満たし

たのでトラッシュユから帰ってくる。ちなみに条件とは花火のフィールドに地竜スピリットがいることである。

実況者「……形成逆転!!!花火選手、圧倒的不利な場面から一気に巻き返しました!!!」

景光（……………成長してるじゃないか花火、これはバトルのが余計楽しみになつてきたぞ〜）

5体もいたイト二の天使たちは僅か1ターンの間でエンジエウーモンのみを残して蹴散らされてしまった。しかも、ダイナパワーがまた次のターンで使用できる状態、間違ひなく次はエンジエウーモンも破壊されてしまうだろう。

「ターン07」イト二

スタートステップ

コアステップ リザーブ6 → 7

イト二（……………強い、まるで兄いと戦ってるみたいだ、……………でも勝ちたい、こいつには!!兄いのために、「クロノス・アルファ」を手に入れるために!!）

イト二は負けるわけにはいかなかった自分の兄の、シデンの力になるために、だが、このままでは花火のウォーグレイモンを倒すことができずにズルズルと負けの一途をたどって行くだろう。

イト二「……………勝つんだ、勝つんだー!!」

イトニが絶叫した次の瞬間、イトニは目の前が真っ暗になる。周りの光景、音や、目の前の対戦相手、エンジエウモンは姿を消し、自分だけが暗闇の中にいた。イトニは当然驚く。まるで意識だけを飛ばされたようであった。

イトニ「……………!?なに!？」

???「……………」

イトニの目の前に黒フードの男が現れる。黒フードはなにも言わずイトニにカードを手渡す。

イトニ「……………あんた一体?……………うっ!」

イトニが黒フードのことを聞こうとした瞬間だった。イトニに手渡されたカードがおぞましいほどの闇を放出していく。イトニはその蠢く闇の中に吞まれていく。逃げようとしてももがけばもがくほど絡まってくる。どこにも逃げ場などなかった。

イトニ「……………う、うわああああ!!」

絶叫するイトニ、そして暗闇が晴れて、元の中央バトルフィールドに戻っていた。イトニの目は赤黒く染まり、全くの別人のように表情が動かなくなっていた。おそらく自我をなくしているのだろう。

イトニ「……………ドローステップ!」

手札3 → 4

イトニがドロートしたのはあの黒フードから手渡されたカード。花火はこの時、妙な胸騒ぎがした。それはとてもとても嫌な予感。

イトニ「……メインステップ、パタモント、テイルモンヲ召喚！」

手札4 → 2

リザーブ7s → 1s

トラッシュ0 → 4

イトニのフィールドにパタモンと猫のような姿の成熟期デジタルスピリット、テイルモンが召喚される。

イトニ「……アタックスステップ、パタモンデアタック」

エンジエウーモンLV3(3) BP10000

パタモンLV1(1) BP10000

テイルモンLV1(1) BP30000

パタモンは不器用ながらも大きな耳で空を飛翔する。

イトニ「……サラニ、フラッシュ、【煌臨】ヲ発揮！対象ハ、エンジエウーモン！」

リザーブ1s → 0

トラッシュ4 → 5s

花火「……【煌臨】だって!？」

イトニ「……今こそ示せ! 暗黒ノ道ヲ! ソノ漆黒ノ翼ヲ我ヲ導ケ! 暗黒進化!! オファニモン・フオールダウンモード!!」

手札2^っ1

オファニモン・フオールダウンモードLV3(3)BP12000

バトルフィールドに悪雲が差し込む。エンジエウーモンはその中に吸い込まれるように入っていく。エンジエウーモンは雲の中で姿形を変え、墮天使のような禍々しい姿になる。そして雲は晴れ、墮天使がフィールドに舞い降りてくる。その名はオファニモン・フオールダウンモード。究極体のデジタルスピリットだ。

花火「……………きゅ、究極体!?!」

シデン「……………な、なぜイトニがあんな究極体を!?!」

実況者「……………ななななんとー!!! イトニ選手のエンジエウーモンも究極体に進化した!!!」

バトル自体は白熱しているため、会場全体は大いに盛り上がるが、イトニが究極体を持つていないことを知っている花火や、シデン達はこの自体の異常さを瞬時に理解していた。そもそもDパラディンはアグモンとガブモン系列以外は究極体に進化できない。究極体という存在自体、ウォーグレイモン、メタルガルモン、そして暗黒四天王達が使役するダークマターズのカード達以外にはいないはずだ。考えられることは、

花火「……イトニが、暗黒四天王だったのか!？」

そう、イトニが暗黒四天王の1人だったという説、しかし、Dパラディンに選ばれたイトニとなるとその可能性も低かった。何より彼女はそんなそぶりなど見せたことない。そうなる与本站にあの究極体スピリットは謎であった。

イトニ「……オフアニモン・フォルダウンモードノ煌臨時効果!煌臨元カードヲ回収シテ、デツキカラ2枚ドロー!」

手札1[→]4

イトニの手札に煌臨元となったエンジエウーモンが手札に戻り、さらにイトニはデツキから2枚ドローした。

花火「くっ!パタモンはライフで受ける」

ライフ3[→]2

パタモンは全力で花火のライフを体当たりで破壊した。

イトニ「……ヤレ!オフアニモン・フォルダウンモード!アタック時効果!疲労状態ノ相手ノスピリット1体ヲ破壊スル!消スノハウオーグレイモン!」

花火「……なに!?……ウオーグレイモン!」

花火の叫びも虚しく、オフアニモンが鎌のような武器の柄を地面につきつけると、ウオーグレイモンの体はみるみるうちに黒く変色していく。そして砂のようにサラサ

ラと流れていく。

イトニ「……ソシテ、ライフフルーツ回復」

ライフ4 → 5

オフアニモン・フォールダウンモードはイトニのライフに力を与える。これでイトニのライフは再び5になった。

花火「……くそ! アタック後バースト! 煌星銃ヴルムシューター! バースト効果で1枚ドローして、ノーコスト召喚だ!」

手札2 → 3

煌星銃ヴルムシューターLV1(1)BP6000

リザーブ6 → 5

花火はとつさにバーストを開く、そして、出現した赤い魔法陣の中からドラゴンの顔のような銃が召喚された。

シデン「……! 花火も銃ブレイブを……!」

シデンは花火が自分と同じ銃ブレイブを所持していることに少々驚く。だが、今はそんなことあまり気にしてはいられない。イトニがこの状態なのだ当然だろう。

花火「アタックはライフだ!」

ライフ2 → 1

オファニモン・フオールダウンモードは花火の目の前まで瞬間移動で移動し、武器の大鎌で花火のライフを1つ引き裂いた。この攻撃を受けて花火はあることに気づく。

花火「……、痛くない、……てことはダークマターズでも、暗黒の力でもないのか？」
 オファニモン・フオールダウンモードの攻撃はそこまで花火にダメージを与えなかった。このことから花火はイトニが暗黒四天王出ないことと、ましてや暗黒の力もないことを理解する。そうなる【暗黒進化】と言うイトニが進化の時に言っていたセリフが、まだ気がかりだが、

イトニ「……ターンヲ終了スル」

残ったテイルモンだけでは花火のライフを削りきることはできない、ヴルムシユーターがブロッカーとして控えているからだ。イトニは仕方なくターンを終えることとなった。

「ターン08」花火

スタートステップ

コアシテップ リザーブ6 ⇨ 7

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ7 ⇨ 11

トラツシユ4 ⇨ 0

花火「……メインステップ、アグモンを召喚!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ11 ⇨ 8

トラツシユ0 ⇨ 2

花火のフィールドにデフォルメされた肉食恐竜のようなスピリット、アグモンが召喚される。花火はできればこのターンでバトルを終わらせたかった。イトニに暗黒の力がないことはわかったが、どちらにせよ今、イトニが危険な状態にあることは間違いないかった。

花火「……アグモンの召喚時」

オープンカード

【リアクティブバリア】

【グレイモン】

アグモンの効果は成功、花火はグレイモンのカードの確保に成功した。これが逆転の糸口になる。

花火「いくぞ! グレイモンを召喚!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ 8 ⇨ 2

トラツシユ 2 ⇨ 4

花火のフィールドに再びグレイモンが現れる。

花火「グレイモンにヴルムシューターを合体！」

グレイモンとヴルムシューターが合体し、合体スピリットとなるが、グレイモンの短い腕ではヴルムシューターを持つことはできないからか、ヴルムシューターはUFOのように自分でグレイモンの周りを浮遊する。

花火「アタックステップ！」

グレイモン+煌星銃ヴルムシューターLV3 (4) BP13000

アグモンLV1 (1) BP3000

バースト無

花火「グレイモンでアタック！アタック時効果でテイルモンを破壊！」

手札 3 ⇨ 4

グレイモンの口内から放出された炎の球はテイルモンをあつきりと燃やし尽くした。花火はこの効果による破壊に成功したため、デッキから1枚ドロした。

花火「さらに、フラツシユマジック！ガイアフォース！パタモンを破壊して、グレイモンを回復させる！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュ4 ⇨ 6

グレイモン+煌星銃ヴルムシューター（疲労⇨回復）

花火の必殺マジック、【ガイアフォース】が炸裂する。巨大な炎の球がパタモンを焼き尽くし、グレイモンは回復状態となる。これでアグモンのアタックとダブルシンボルとなったグレイモンの2回攻撃によってイトニのライフを0にできる。

はずだった。

イトニ「フラッシュ！マジック、ヘブンズナックルヲ使用スル！LV2カ3ノスピリット全テヲ疲労サセル！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

オフアニモン・フォールダウンモード（3⇨2）LV3⇨2

トラッシュ5 ⇨ 8

花火「……!?!」

グレイモン+煌星銃ヴルムシューター（回復⇨疲労）

強烈な光の拳が天空から降り注ぐ、グレイモンはその拳に殴られ、疲労状態に戻って

しまう。これでグレイモンは連続攻撃できず、次のターンでイトニの勝ち、……………
だったが、花火も負ける気などこれっぽっちもない。

花火「……まだまだあああ!!もう一枚ガイアフォースを使う!!」

手札3 ⇨ 2

グレイモン+煌星銃ウルムシューター(4 ⇨ 2) LV3 ⇨ 1

トラッシュユ6 ⇨ 8

イトニ「……………」

花火の2枚目のガイアフォースが炸裂、グレイモンは再び回復状態に戻る。これはこのターンのアタックステップ中でグレイモンのおかげでドローできたカード。花火の天性のドローセンスが奇跡を起こしたのだ。

イトニ「……ライフ受けケル」

ライフ5 ⇨ 3

グレイモンは自慢のツノで、浮遊するウルムシューターはそのまま銃口をイトニの方へ向け、発砲する。この2つの同時攻撃でイトニのライフを一気に2つ破壊した。

花火「……トドメだ!アグモン!グレイモン!!」

イトニ「……ライフ」

ライフ3 ⇨ 0

アグモンとグレイモンは同時に口内に炎を溜めて一気に放出、巨大な炎の球達は一直線にイトニのライフへ飛んでいき、そのまま直撃した。イトニのライフが0になったので、1回戦第二試合は花火の勝利に終わる。

実況者「……決まったああああ!!! 1回戦第二試合、勝者は一木花火選手だああああ!!」
実況者の声とともに、会場全体が盛り上がる。それと同時に、イトニの目が元に戻る。我に帰ったのだ。花火はイトニの方へ向かう。

花火「……おい! イトニ!」

イトニ「……あれ? 今まで何やって、……………あつ! 負けてる!? なんで!」

イトニは記憶がなかった。自我を失っていたので当然だ。花火は結局イトニの身に何が起こったのかわからなかった。イトニは大変悔しそうな顔をして自分の控え室へ戻っていく。花火はとりあえずは大丈夫そうだったので肩をホッと撫で下ろした。

イトニ「……くそ! くそ! ……………負けた、」

イトニはとても悔しかった。記憶なくした間に敗北したのだ。確かにその思いは計り知れない。だが、同時に思ったこともある

イトニ「……でもなんか、久しぶりに楽しいバトルをした気がする。いつぶりだったっけ、あんな熱いバトルしたの……………」

イトニは花火とのバトルを楽しむも思っていた。反乱軍に入ってからというものの、イ

トニは楽しいバトルをしなかった。いや、できなかった。あんな張り詰めた兄を見てみると、どうしてもバトルを楽しむなどできなかった。だが、今回、一瞬だけ、花火とのバトルでそれを忘れた。イトニは、兄との楽かった記憶を少し思い出していた。そんな時、

??? 「……君は合格だ、イトニ」

どこから入ってきたのか黒いフードの男がまたイトニの前に急に現れてくる。今度は暗闇の中ではない。ちゃんと現実であった。

イトニ 「……あ！あんださっきの！」

??? 「……そう、さっきの奴だよ、」

イトニ 「……え!?、う、うわああああ!!」

黒フードの男が手をかざすと、また黒い闇がイトニを襲った。イトニはその闇の中で必死にもがくが、ドンドン闇は絡みついてくる。そして、闇が消えたかと思うと、そこにはもうイトニの姿も見えなかった。

それ以降、イトニの姿を見たものはいない。

第31話 気高き対決、魂の侍軍団VS鉄壁の神獣!

実況者「……1回戦第二試合は花火選手の勝利で終わりました!これで自動的に2回戦第一試合は牙選手VS花火選手となります!!……では早速次の第三試合へと参りましょう!次はこの方々です!」

実況者がそう言つて、巨大なモニターに映し出された顔は、シデンと景光のであつた。

*

シデン「……!次か」

シデンは次の試合のために中央フィールドへと向かう。ついさっきのイト二の様子がとても気になるが、「クロノス・アルファ」のかかった試合をほったらかしにするわけにはいかない。1回戦が終わつた後にも遅くはないだろう。この時シデンはそう考へていた。

*

花火は試合が終わり、控え室に戻ろうとする、その道中で、景光と会う。その彼女の佇まいは幾千の戦を乗り越えて来た屈強な侍のようなものを感じさせる。

景光「……さっきの勝負、見事だったぞ！さすがは私の婿だな！」

花火「誰がいつあんたの婿になったよ！……姐さんも頑張れよ、あいつすげえ強いから」

景光「……ほお、お前がそこまで言うとは、」

花火「……なんて言うか、気に入らねえんだ、あいつのバトルは」

景光「……!?!」

意味深な花火の言葉を聞いた後で景光はシデンとの勝負に臨む。シデンは景光の元側近のシユリが認めるほどの男、景光は当然このバトルも楽しみであった。

*

実況者「……先ずは一人目！……超絶有名な武龍村の女殿様!!歴代最高の戦闘狂と呼ばれるこの方!!「武魂景光」!!!!」

1
 実況者が意気揚々と選手達の紹介をする。景光はさすがは武龍村の殿と言ったところか!! 観客達がものすごい盛り上がりを見せる。中にはすでにスタンディングオベーションをしているものまでいた。

実況者「……続きまして、……こちらも超絶有名!! 打倒Dポリスの反乱軍のリーダー「シデン」!!」

逆にシデンはイトニヤ牙と同じようにブーイングコールが鳴り響く。世界から酷評を受けるなどシデンにとっては当たり前なので彼はこんなもの気にも留めないが。

景光「……よろしく頼むぞ」

シデン「……ああ」

実況者「……それでは! 1回戦第三試合、開始!!」

景光&シデン「ゲートオープン! 解放!!」

2人の解放宣言にバリアが展開されていく。1回戦第三試合の幕開けだ。先行はシ

デンで始まる。

「ターン01」シデン

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

シデン「メインステップ、デスリターナーをLV1で召喚」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 2

シデンのフィールドに戦で息絶えてしまった騎士の亡霊が出現する。何十本も刺さっている槍や弓が痛々しい。

シデン「……ターンエンドだ」

デスリターナーLV1(1) BP2000

バースト無

先行の1ターン目などやれることは限られている。シデンはこのままターンを終えた。

「ターン02」 景光

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

景光「メインステップ、ドラマルとヒエンドラゴンを召喚」

手札5 ⇨ 3

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 2

景光のフィールドにかの有名なスピリット、「ブレイドラ」が甲冑を身に纏ったドラマルと、燕のような翼を持つスピリット、ヒエンドラゴンが現れた。

ヒエンドラゴンはソウルコアが自信に置かれている時、全ての武竜スピリットにBP5000を加算する効果がある。この効果でドラマル共々、低コストの2体はそのコスト不相応なBPになる。

景光「……バーストをセットして、アタックステップにゆくぞ!」

手札3 ⇨ 2

ドラマルLV1(1) BP5000

ヒエンドラゴンLV2(2s) BP8000

バースト有

景光「……舞え! ヒエンドラゴン! アタック時効果! 【真・激突】! デスリターナー

には是が非でもブロックしてもらどうぞ!!」

シデン「……ブロックだ、デスリターナー」

【真・激突】は相手のスピリットに強制的にブロックさせる効果、ヒエンドラゴン上空からデスリターナーに狙いを定め、そこから一気に滑空してデスリターナーを翼撃で切り裂いた。デスリターナーは爆発してしまう。

景光「続け! ドラマル!」

シデン「………そいつはライフだ」

ライフ5 ⇨ 4

景光は間髪入れずにドラマルにアタックの指示を送る。ドラマルはシデンのライフめがけて走りだし、小さな鉈のような武器でシデンのライフを砕いた。

景光「……ターンを終えよう」

「ターン03」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 6

トラッシュユ2 ⇨ 0

シデン「メインステップ、俺は魂鬼（たまおに）と、ガブモンを召喚」

手札5 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 2

トラッシュユ0 ⇨ 2

シデンのフィールドに鬼の顔だけが、魂となつて蘇つたスピリット、魂鬼が現れると同時に狼のような毛皮を被つた成長期スピリット、ガブモンが召喚される。ガブモンは花火のアグモンと同じで、デッキのエンジンの存在である。

シデン「ガブモンの召喚時」

オープンカード

【デスリターナー】

【ワーガルルモン】

ガブモンの効果で完全体のワーガルルモンが加わつた。残りのカードは破棄され、トラッシュユに送られる。

景光「……完全体を加えたか」

シデン「……ガブモンをLV2へ、そして、アタックスステップ！ガブモンを【進化】！」

成熟期のガルルモンへ！」

リザーブ2 → 0

ガブモンは「進化」の効果を使い、白銀の毛皮を持つ狼型の成熟期デジタルスピリット、ガルルモンに進化する。

ガルルモンLV2(3) BP5000

魂鬼LV1(1s) BP1000

バースト無

シデン「いくぞ！………ガルルモン！アタック時効果でドラマルのコアを1個リザーブへ送れ！」

手札4 → 5

景光「……!!」

ドラマル(1 → 0) 消滅

ガルルモンは口内から青い炎を発射し、ドラマルのコアを1個リザーブにどかした。この効果でシデンはデッキから1枚ドロウ、コアが0になったドラマルは消滅してしまふ。だが、景光はシデンの手を読んでいたのか、ニヤリと口角が上がる。

景光「……ふふ、紫だったらそうくると思っていたぞ」

シデン「……!?!」

景光「……相手による自分のスピリットの消滅により、バースト発動! ネクサスカード、【大龍城・本丸】!! バースト効果! B P 1 0 0 0 以下のスピリットを破壊! 魂鬼を破壊だ!!」

魂鬼の足元から火柱が上がる、魂鬼はその火柱に焼き切られてしまう。

景光「……その後、大龍城・本丸を配置する、L V は 2 だ」

リザーブ 1 ⇨ 0

ヒエンドラゴン (2 s ⇨ 1)

その後に、景光の背後にまるで龍となつて生きているような………と言うか明らかに生きている巨大な城が現れる。

シデン「……ソウルコアが置かれた魂鬼は破壊時にデツキから 1 枚ドロウできる効果がある、俺はこの効果で 1 枚ドロウする」

手札 5 ⇨ 6

シデンは破壊された魂鬼の効果で破壊後のリカバリーをする。だが、これだけではない、

シデン「……トラツシユのデスリターナーの【不死】の効果! コストを払って、トラツシユからデスリターナーを蘇らせる! 蘇れ! デスリターナー!」

リザーブ 1 ⇨ 0

ガルルモン (3 ⇨ 2) LV 2 ⇨ 1

トラツシユ 2 ⇨ 3

シデンのフィールドから突如、紫の渦が出現したかと思うと、その中からデスリターナーが地を這ってフィールドに戻ってきた。デスリターナーの【不死】の条件はコスト3、または0のスピリット、今回はコスト0の魂鬼の破壊で召喚された。

シデン「……まだいくぞ!!ガルルモンの【超進化】!!完全体のワーガルルモンへ進ませよ!!」

ワーガルルモン LV 1 (1) BP 5000

ガルルモンは紫の光に包まれると、新たに完全体のワーガルルモンの姿となってフィールドに現れる。

シデン「……ワーガルルモンの召喚時、ヒエンドラゴンのコアを2個リザーブへ送り……消え去れ!!」

景光「……!!」

ヒエンドラゴン (1s ⇨ 0) 消滅

ワーガルルモンは強靱な腕をクロスするように勢いよく振り、衝撃波を飛ばす。その衝撃波はヒエンドラゴンのコアを奪いとっていく。ヒエンドラゴンはコアの消失により消滅してしまう。

シデン「……やれ！デスリターナー！ワーガルルモン!!」

景光「それぞれ、ライフで受けよう」

ライフ5[→]3

デスリターナーは剣で、ワーガルルモンは右拳で、それぞれ景光のライフを破壊した。

景光「……いいねじゃないか、もつときな！」

シデン「……行けないんだよ、ターンエンドだ」

景光はこのシデンのターン、大龍城・本丸のバースト効果で魂鬼ではなくガルルモンを破壊しておけば、完全体のワーガルルモンを召喚させずにすみ、デスリターナーが蘇ることもなく、デツキから一枚ドロウされることもなかった。もつと言えば、ヒエンドラゴンが消滅することもなかった。

だが、それらの効果をこのターンの間に全て出させることに意味があった。そして景光はあることに気づく。

景光「……なるほど、『気に入らない』、か」

景光は思った。花火とシデンのバトルスタイルは似ている。いや、デツキの特徴が似ていると言った方がいいか、シデンのデツキも花火のデツキも様々な相手にある程度対抗できるデツキ構築となっている。花火が気に入らないと言ったのはおそらくそういうところが似ているからなのだろうと景光は考えた。いわゆる同族嫌悪だ。

だが、同時に根本的に違うところもあった。それは花火が、じっくり考えてカードを動かすのに対し、シデンはほぼ直感でカードを動かしているのだ。そういう違いがあったからこそ、デッキ構築の仕方が似ていても、今まで花火は全く気づかなかつたのだ。

「ターン04」景光

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

景光「……ドローステップ時、大龍城・本丸の効果でドローステップ数を＋1だ」

手札2 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 6

トラッシュ2 ⇨ 0

景光「……メインステップ、………ゆくぞー！魂皆伝（ソウルマスター）ブゲイ
シャードラゴンを召喚！LV1！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 5

巨大な神輿を中から切り裂き、二本の剣を携えている武竜スピリットにして、景光の

エーススピリット、魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴンが召喚された。

実況者「……きたああああ!! 景光選手のエーススピリット! 魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴンだああああ!!」

盛り上がる実況者と観客達、ブゲイシャーはこの劣勢にはまさしくびつたりのカードであった。

景光「……再びバーストを伏せて、アタックステップにゆくぞ!……ブゲイシャーの効果でコアを全て武竜スピリットに!」

手札3 → 2

トラツシユ5 → 0

魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴン(1 → 6s) LV1 → 3

ブゲイシャー・ドラゴンは自分のアタックステップ開始時に、トラツシユのコア全てを武竜スピリットに好きなだけ置くことができる。故にブゲイシャーがいる限り、アタックステップ以降、コアが枯渇しないのだ。

コアの嵐がブゲイシャーに力を与える。ブゲイシャーはLV1から3まで一気に強化される。

景光「……ゆけ! ブゲイシャー!」

景光の指示でブゲイシャーは走り出す。目指すはもちろんシデンの首、

景光「……フラッシュユ！ブゲイシャーの効果！コアを1つ払うことでBP6000以下の相手のスピリット1体を破壊する!! 碎け散れ！デスリターナー！」

魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴン（6s ⇨ 5s）

トラッシュユ0 ⇨ 1

シデン「……………!!」

ブゲイシャーは自身の剣に青い炎を纏わせて、そのままそれを飛ぶ斬撃として、飛ばす。それは一直線にデスリターナーを切り裂いた。デスリターナーはあっけなく破壊されてしまった。

景光「……まだだ、もう1コア払って、今度はワーガルルモン！貴様だ！」

魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴン（5s ⇨ 4s）LV3 ⇨ 2

トラッシュユ1 ⇨ 2

コアの消費により、ブゲイシャーはLVが下がってしまっても、先ほどと同じ要領で斬撃を飛ばす。今度の標的はワーガルルモン、ワーガルルモンは強靱な腕で打ち返そうとするも、全く敵わず、そのままくらい、爆発してしまう。

これはすべて、ブゲイシャーのアタック中のフラッシュユタイミングで起こった出来事、ブゲイシャーのアタックは継続中であつた。

シデン「……アタックはライフで受けよう」

ライフ4 ⇨ 3

ブゲイシャーは青く迸る双剣でシデンのライフを1つ、一刀両断にして、引き裂いてしまう。

景光「……ターンを終えよう、」

景光のブゲイシャーの活躍により、会場の盛り上がりがピークに達する。フィールドは圧倒的に景光が有利だった。なぜならシデンはブゲイシャーの存在により、安易にBP6000以下のスピリットを出せなくなってしまったのだから。

「ターン05」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシユスステップ

リザーブ5 ⇨ 8

トラツシユ3 ⇨ 0

シデン「……メインステップ、クリスタニードルとガルルモンを召喚！さらに、バーストをセット」

手札7 ⇨ 4

リザーブ 8 ⇨ 1

トラツシユ 0 ⇨ 3

シデンのフィールドに蛇のような、または竜のようなスピリット、クリスタニードルと、ガルルモンが召喚された。同時にバーストがセットされる。

シデン「……アタックステップだ」

ガルルモンLV2(3) BP5000

クリスタニードルLV1(1) BP1000

バースト有

シデン「……アタックだ！ガルルモン！アタック時効果でブゲイシャーのコアを1つリザーブへ送れ！」

手札 4 ⇨ 5

ガルルモンの効果の炎でブゲイシャーのコアを1つ取り外すが、今のブゲイシャーのコアは4つ、LV2の維持コアは3つ、1つ減らされたくらいではビクともしなかった。だが、疲労しているためガルルモンのアタックはブロックできなかつた。

景光「……ライフで受けよう」

ライフ 3 ⇨ 2

ガルルモンは強力なタックルで景光のライフを1つ破壊した。しかし、それがまた彼

女のバーストの引き金となってしまう。

景光「ふふ、ライフ減少により、バースト発動！剣皇武龍ゼットウ・ドラゴン！バースト効果で、クリスタニードルを破壊！」

強力な炎がクリスタニードルを襲う。クリスタニードルは当然耐えられるわけもなく、散っていくが、ただでは転ばない、

シデン「……クリスタニードルの破壊時、貴様のネクサスを一つ破壊する、消え失せろ、大龍城・本丸！」

景光「……!!」

紫の靄に包まれていく大龍城・本丸、その靄はどんどん本丸を侵食していく、そして本丸は呻き声を上げながら、消滅していった。だが、本丸を破壊したと言っても、ゼットウ・ドラゴンの召喚が潰えたわけではない。

景光「……召喚！ゼットウ・ドラゴン！」

リザーブ1→0

剣皇武龍ゼットウ・ドラゴンLV1(1)BP7000

青を基準とした鎧を身につけ、最強の武士龍が景光のフィールドに降り立った。ブゲイシヤールと共に並ぶ様は壮観であった。

シデン「……ターンエンドだ」

シデンはこれ以上何もできない、クリスタニードルの破壊に対して、デスリターナーの効果をを使うのも良かったが、呼び出したとしても、ブゲイシャアの餌食にしかならない、そうなればコアの無駄遣いだ。シデンはコアをデスリターナーではなく、次の防衛のために温存した。シデンはここまでのことをすべて自身の直感だけで判断していた。

「ターン06」 景光

スタートステップ

コアステップリザーブ 3 ⇨ 4

ドローステップ 手札 2 ⇨ 3

リフレツシユステップ

リザーブ 4 ⇨ 6

トラツシユ 2 ⇨ 0

景光「……いくぞ、メインステップ、武龍魔神を召喚！」

手札 3 ⇨ 2

リザーブ 6 ⇨ 3

トラツシユ 0 ⇨ 3

景光のフィールドに右手には青い剣を、左手には赤い剣を携えた異魔神ブレイブ、武

龍魔神が天空より姿を見せる。

実況者「……ここに来て異魔神ブレイブ!!!景光選手、このターンで勝負をつけるつもりだああああ!!」

並び立つ2体の強力な武龍スピリット、さらに、彼らの専用異魔神ブレイブとも言える武龍魔神が観客達の心を掴む。

景光「……武龍魔神よ!ブゲイシャーを左に、ゼットウ・ドラゴンを右に合体せよ!」
武龍魔神の合体の仕方は少々他の異魔神ブレイブと比べて特殊、自身の剣をそれぞれスピリットに渡すのだ。武龍魔神はブゲイシャーには赤い剣を、ゼットウ・ドラゴンには青い剣をそれぞれ手渡す。

武龍魔神はブゲイシャー達より位が上なのか、ブゲイシャーはまるで学校の卒業式で卒業証書を貰うように丁寧な剣を受け取った。その異様な光景に、観客達は僅かながら、テンションを下げる。だが、より熱い展開はここからだった。

景光「ゼットウをLV2へアップ!」

リザーブ3 ⇨ 0

剣皇武龍ゼットウ・ドラゴンLV1 ⇨ 2 (1 ⇨ 4)

ゼットウ・ドラゴンは力がみなぎる。元々持っていたオニマルと言う剣と武龍魔神の青い剣を掲げ、「これから行く!」と言うようにやる気を見せていた。

景光「……アタックステップ開始時、ブゲイシャーの効果！」

トラツシユ3 ⇨ 0

劍皇武龍ゼットウ・ドラゴン＋武龍魔神（4 ⇨ 5）LV2 ⇨ 3

魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴン＋武龍魔神（4 s ⇨ 6 s）LV2 ⇨ 3

バースト無

ブゲイシャーは再びトラツシユのコアを巻き上げ、今度はゼットウ・ドラゴン共々LVがアップした。

景光「……アタックせよ！ゼットウ・ドラゴン！武龍魔神の右合体時効果！このターンの間、ゼットウ・ドラゴンのBPを＋5000！さらに、赤のシンボルを1つ追加する！」

劍皇武龍ゼットウ・ドラゴン＋武龍魔神BP19000 ⇨ 24000

武龍魔神の右合体時効果はアタック時に武竜スピリット1体を指定して、そのターン中、そのスピリットのBPを＋5000し、コストが10以上であればさらに、赤のシンボル1つを追加すると言うもの。

この効果でゼットウは赤い光を浴びてさらに力が増す。武龍魔神が元々シンボル持ちのブレイブなので現在の合計シンボル数は3となる。このままアタックが素通りすれば景光の勝利だった。

景光「さらに、フラッシュユ、ブゲイシャーの効果で1コア払ってガルルモンを破壊!」
魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴン(6s ⇨ 5s)

トラッシュユ0 ⇨ 1

シデン「……!!」

ブゲイシャーは再び、青い炎を纏った斬撃で、今度はガルルモンを切り捨てる。ガルルモンはその場で爆発してしまう。シデンは再びフィールドのスピリットを0にされてしまう

景光「……さあ!このアタックはどうでる?」

シデン「……、」

シデンのバーストはライフ減少が条件の白マジック【絶甲盾氷】、ライフ減少バーストはライフが0になった瞬間では起動することができない、つまり、今はバーストが使えないも同然だった。あくまで今は、だが、

シデン「フラッシュユマジック!ブレイブサクリファイス!異魔神ブレイブの武龍魔神を破壊!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 2

トラツシユ3 ⇨ 6

景光「……なんだと!？」

紫の光を放つx字の斬撃が武龍魔神を襲う。武龍魔神はそれに引き裂かれて破壊されてしまう。さらに、シデンはブレイブサクリファイスの追加効果で1枚ドロした。

武龍魔神の損失により、ブゲイシャーと、ゼットウ・ドラゴンにそれぞれ託された武龍魔神の剣は消滅してしまう。同時に武龍魔神が与えた効果も消え、ゼットウ・ドラゴンのシンボルも元の1となってしまった。

シデン「……ゼットウ・ドラゴンのアタックはライフで受けよう」

ライフ3 ⇨ 2

武龍魔神の剣がなくなってもゼットウ・ドラゴンは焦ることなく、シデンのライフを手持ちのオニマルで叩き割った。

シデンは使えるようになった絶甲盾氷を敢えて使わなかった。フラツシユ効果を使用するコアがなかったからだ。

景光「……流石だな、ターンを終えよう」

景光はブゲイシャーをプロツカーに残し、ターンを終えた。

実況者「……シデン選手、合体スピリットのブレイブを破壊することでターンを繋げたああああ!!だが、次のターンで返せるか!？」

シデン「……何言っている、次で終わりだ」

実況者の言葉にシデンはボソツと勝利宣言を呟く。どうやらこのターンで景光のライフを一気に0にする方法があるようだ。

「ターン07」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシユステツプ

リザーブ4 ⇨ 10

トラツシユ6 ⇨ 0

シデン「……メインステップ、俺は、六煌士魔界伝承者ダイヤルを召喚！LVは3だ」

手札6 ⇨ 5

リザーブ10 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 4

シデンのフィールドに妙な杖を携えた魔術師が召喚される。魔術師は左手にソウルコアのようなものを握りしめていた。

シデン「……召喚時効果で1枚ドロ」

手札5 → 6

シデン「そして、アタックステップ、ディールの【輝跡】を發揮する！このタイミングで【煌臨】を發揮する！」

六煌土魔界伝承者ディール(5s → 4)

トラツシユ4 → 5s

景光「……なに!？」

六煌土魔界伝承者ディールの【輝跡】の効果はディール自身にソウルコアが置かれていたらアタックステップ開始時に【煌臨】を、行えるというもの、そして、ディールは【煌臨】の対象となる時、自身のコストを6として扱う。

ディールは左手に握られていたソウルコアをそのまま天に掲げ、砕いてみせる。すると、破壊されたところから奇跡の光が放たれる。

シデン「……現れよ！鉄壁なる神獣！メタルガルルモン！」

手札6 → 5

奇跡の光が晴れていくと、そこには紫色の鋼のボディを身につけたガルルモン系列の最終進化系、メタルガルルモンの姿が見えた。メタルガルルモンはその場で大きな雄叫びを上げる。

実況者「……こ、これがああああ!!噂に名高い、シデン選手の究極体いいい！メタ

ルガルルモン!!!なんと神々しい姿なのでしよう!」

メタルガルルモンの登場に実況者だけでなくシデンにブーイングコールを浴びせた観客までもがその姿に興奮を隠しきれない。

メタルガルルモンはシデンが表舞台であまりバトルをしなかったことから、花火のウォーグレイモンほどの知名度はなかった。それ故にこのタイミングで煌臨されたことは、観客のテンションを上げるには十分なものだっただろう。

シデン「……改めてバトルに行く!やれ!メタルガルルモン!アタック時効果!ブゲイシャーのコア2個だ!!」

景光「……!!」

魂皆伝ブゲイシャー・ドラゴン(5s ⇨ 3) LV3 ⇨ 2

トラツシユ1 ⇨ 3

メタルガルルモンに装着されているミサイルが一斉に発射され、ブゲイシャーを襲う。ブゲイシャーはコアが2つ外され、LV3から2へと弱体化してしまう。メタルガルルモンの効果で恐ろしいのはこれだけではない。

シデン「……その後、回復」

メタルガルルモン(疲労 ⇨ 回復)

花火「……えぐい」

メタルガルルモンは自身の効果で相手のコアをトラッシュに置くことに成功すれば回復する。つまり、相手にコアがある限り、何度でもアタックできてしまうのだ。控え室にいた花火はあの敗北以来、久しぶりに見たメタルガルルモンにただただ「えぐい」と言う言葉しかでない。

景光「……ブロックだ、ブゲイシャー！」

ブゲイシャーがその双剣に青い炎を纏わせて、メタルガルルモンに斬りつけるが、メタルガルルモンには全く効かず、逆にブゲイシャーの双剣自体が真つ二つに折れてしまった。

メタルガルルモンはそのままブゲイシャーに絶対零度のブレスをおみまいする。これぞまさしく瞬間氷結、ブゲイシャーは一瞬で氷漬けにされ、バラバラに砕け散ってしまった。

実況者「……メタルガルルモンの圧倒的な力の前にブゲイシャーが破れる！強い！強いぞ！メタルガルルモン!!!」

シデン「俺の邪魔をする奴は誰であろうと消す!!もう一度いけ！メタルガルルモン！アタック時！」

景光「……」

剣皇武龍ゼットウ・ドラゴン（5 ♪ 3）

トラツシュ3 ⇨ 5

メタルガルルモンはもう一度一斉射撃で、今度はゼットウ・ドラゴンのコアを2つトラツシュに送り、回復状態となった。

シデン「……さあ、アタックはどうする」

メタルガルルモン（疲労 ⇨ 回復）

景光「……ライフだよ、」

ライフ2 ⇨ 1

メタルガルルモンは胸部にあるハッチを開いて、そこから巨大なミサイルを宙返りをするように発射、景光のライフを1つ破壊した。

シデン「……メタルガルルモン！」

景光「……」

剣皇武龍ゼットウ・ドラゴン（3 ⇨ 1）LV2 ⇨ 1

ゼットウ・ドラゴンはメタルガルルモンの一斉射撃をまた受けてしまい、さらに力がダウンする。もう一度この効果を受けたらひとたまりもないだろう。だが、もう受けることはない、なぜならこのメタルガルルモンのアタックでファイナーレとなるのだから。

景光「……さすがはシュリが選ぶほどの男だな、………ライフで受けよう」

ライフ1 ⇨ 0

メタルガルルモンの強烈なタックルが景光の最後のライフを砕く。これで景光のライフはゼロ、勝者はシデンに終わる。

実況者「……決まったああああ!!……勝者は反乱軍のリーダー!!!シデン!!!」

会場は一体となって盛り上がる。シデンの一発逆転の展開に多くの観客が魅了されたのだ。シデンにブーイングを浴びせていた観客までもが彼に賞賛を送った。

景光「……ふふ、流石だな、あそこからどん返しをしてくるところもあいつそつくりだ」

シデン「……あいつ?……誰だ?」

景光「……む?わからぬか?まあ良い、シデン、お主、私の婿候補にならぬか?」

シデン「……俺はDポリスを滅ぼすまでは婿にはいかん」

景光「……むう、つれぬなあ」

景光がシデンのことを理解したように、シデンも景光のことを理解したようだ。確かにイト二の面倒を見れるのはこのいかれた殿様の面倒を見たシュリしかないだろうと、

景光「……じゃあ、負けちゃったし、帰るかな」

実況者「……え!?ちよつと景光さん!?解説は!?!」

実況者が天からの声のように景光に話しかける。

景光「……いや、そろそろ村に帰らないと、爺やに怒られそうだな」

実況者「……そ、そうなんですか」

そう言つて景光は会場を後にした。

*会場裏

景光「……ちえ、負けたかー、優勝して、あの変なやつを手に入れたら花火はもう少し私と遊べていたというのに」

景光が大会に参加した本当の理由はこのフロンティアリーグで優勝して、優勝商品の「クロノス・アルファ」を手に入れることだった。それを手に入れたら花火がまた武龍村にやってくると思つていたのである。

だが、長いことほったらかしにしている自分の国をほっとくわけにもいかない。武龍村に戻るために景光はさっさと港へと足を運ぶのだった。

景光（……優勝しろよ、花火、お前が優勝したら直ぐに遊びに来なさい、優勝商品を使つて）

景光は本当にバトルのことしか考えていない。花火が優勝すれば武龍村にいつでも遊びに来てくれると思つているようだ。まあ、「クロノス・アルファ」があれば確かにい

けるのだが。

第32話 太古からのリベンジマッチ、勃発!恐竜大戦争!!

1回戦第三試合、シデンと景光のバトルは、逆転に逆転をやり返したシデンの勝利に終わる。そして現在は1回戦最後とのなる第四試合、小次郎VSイカナマズのバトルが行われていた。

小次郎「……うおおお! いけ! アトラーパーカブテリモン!!」

イカナマズ「……くそ! こんな奴に、前回優勝者の俺がダイジェストで負けるなんてええ!!」

ライフ 0

アトラーパーカブテリモンの自慢の一本ツノがイカナマズの最後のライフを砕いた。1回戦第四試合は小次郎の勝利で終わった。

実況者「……決まったああああ!! なんと言う大波乱!! 小次郎選手が昨年の優勝者、イカナマズ選手に勝利を収めましたああああ!!」

1

!!!!!!!!!!!!

実況者がそう言うと、観客の人々も大盛り上がり、小次郎に大歓声を送られる。

実況者「……これにて1回戦は終了!! 2回戦はまた翌日!! 皆さん! またお会いしましょう!」

本日のプログラムは全て終了、翌日から行われるフロンティアリーグ2回戦は1回戦とは違い勝ち抜き順で並んで、バトルすることになる。つまり、2回戦第一試合は牙VS花火、第二試合はシデンVS小次郎と言った順に行われる。

*

大会1日目の終了後の夜、花火達は外で夕食をとっていた。

菜々子「……花ちゃんと、小次郎くんの1回戦突破を祝して、カンパーイ!!」

1人テンションの高い菜々子、それもそのはず、花火と小次郎が、1回戦を突破し、次の2回戦に進むことができたのだから。

花火「……そういや小次郎、お前、次の試合はシデンとだな」

小次郎「……格の違いを見せつけてやるよ」

カイネ「……逆に見せつけられそうだけどね」

カインの悪態のついた喋り方に小次郎は「なんだと!!」とツツコミを入れる。まあ、シデンに格の違いを見せつけるのは本当に難しいことなのだが……

菜々子「……花ちゃんはやっと、牙さんとの再戦かー」

花火「……ああ、この日を待ってたぜ!あいつのスーパーデイルノスと戦うのが楽しみでしょうがねえ!」

花火は2回戦で牙と戦うのが、とても楽しみな様子、牙が1回戦で、あれだけの成長っぷりと力を見せつけたのだ。当然だろう。

カイン「……〔クロノス・アルファ〕のことを忘れるなよ、あんたらがリアルワールドに帰れるかもしれない奇跡のアイテムなんだから」

花火「……わかってるって!!」

小次郎「……て言うか本当に帰っちゃったな、景光姐さん」

全員、少なからず景光が帰ってしまった事に寂しさを感じていた。

花火「……あの人は気まぐれだからなあ、まあ、あんなに神出鬼没ならまた1回くらいは会うだろ」

花火達は知らない。この瞬間に景光がくしゃみをしていることを。

*

シデン「……イトニが……消えただと?」

シユリ「……ええ、どこを探しても見当たりませんでした」

大会後の夜、ようやく控え室から出られたシデンを待っていたのはとんでもない悲報だった。

行方不明になったイトニ、謎の黒フードに連れていかれてしまったのだが、そんなことシデン達を知る由もなかった。

親のいないシデンにとってイトニは唯一の肉親、例え反乱軍のリーダーと言っても、行方不明となったら当然心配するに決まっている。

シデン「……く!!イトニ!!」

ドユーケ「……どこへいくつもりですか?」

シデンは今度は自分でイトニを探そうとする。が、ドユーケが行く道を妨げる。

シデン「……イトニを探し出してくるに決まっているだろう!!そこをどけ!ドユーケ!!」

ドユーケ「……フロンティアリーグはどうするのです?」

シデン「そんなの棄権するに決まってるだろ!!」

ドユーケ「……あなたは仮にも反乱軍のリーダーなんですよ、ここで「クロノス・ア

ルファ」を逃してしまつたら、もう二度と白の大陸には行けず、ましてやDポリスを滅ぼすなんてまた夢の話、」

シデン「……!!」

シデンはドューケに確信を突かれて珍しく何も言い返せず黙り込んでしまふ。確かに、フロンティアリーグ中のシデンがイトニを探しに行くのは愚策中の愚策と言えるだろう。シユリはドューケの言葉で頭が冷えたようだ。そして、いつもの冷静な調子を取り戻して行く。

シデン「……そうだ、すまない、頭に血が上っていた。イトニのことはお前達に任せる。俺も明日、優勝したら直ぐに加勢する」

シデンはイトニを探したい心を抑えて、ドューケ達に任せる。この時、シデンはどれほど心苦しかったろうか。

ドューケ「……仰せのままに、リーダー、できれば加勢する前にはイトニを見つけましょう」

シユリ「……………」

ドューケはシデンに真っ直ぐお辞儀をするが、シユリはあまりその光景をよく思っていないのか、喧騒な顔つきで、ドューケのことを見つめていた。

そして夜が明ける。

*

実況者「……さあ！皆様！昨日ぶりにございます!!今日はいよいよ第96回、フロンティアリーグの頂点が決まります!!!」

第96回フロンティアリーグ、2日目が幕を開ける。残った4人のうち2人の選手はすでに中央フィールドにいた。花火と牙だ。退治する2人は睨み合い、メラメラと闘志を燃やしている。

牙「……やっとだ、やっと貴様にリベンジを果たすことができる」

花火「……嬉しいぜ、牙、あんたみたいなやつと楽しくバトルができること」

花火と牙がかかるのは自分自身のバトラーとしてのプライドのみ。そして始まる。

実況者「……さあ！行きましょう！2回戦第一試合、開始!!」

花火&牙「……ゲートオープン！解放！」

会場に透明のバリアが展開され、花火と牙のバトルが幕を開ける。先行は牙でスタートする。

「ターン01」牙

スタートステップ

ドローステップ 手札4 → 5

牙「……メインステップ、俺はネクサスカード、角竜の山を配置してターンエンドだ」

手札5 → 4

リザーブ4 → 0

角竜の山LV1

バースト無

牙の背後にツノを生やした竜の頭を模した山が出現する。最初のターンにネクサスカードを配置するのが牙の得意戦術だ。

花火「……カインの時と同じネクサス……」

花火は角竜の山の効果を熟知している。牙とカインの試合を見ていたからだ。角竜の山には手札と煌臨元カードを整える便利な効果がある。煌臨元カードの数を参照にする牙の新エーススピリット、スーパーティラノスのサポートに適したネクサスと言え

る。

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4⇩5

ドローステップ 手札4⇩5

花火「……メインステップ、俺もネクサスカード、竜射砲台を配置！」

手札5⇩4

リザーブ5⇩1

花火のフィールドにもネクサスカード、巨大な龍を模した砲台、竜射砲台が配置される。このネクサスは自分のライフが減った時、BP5000以下の相手のスピリットを破壊できる効果がある。この効果は牙のエース、デイラノスが召喚されてしまえば、その効果で牙の地竜スピリットのBPが上昇して竜射砲台の効果が効かなくなるが、逆にそれまでは相手の攻撃を迎撃できる。

花火「……俺はこれでターンエンド」

竜射砲台LV1

バースト無

「ターン03」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 6 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 5

トラッシュユ4 ⇨ 0

牙「……メインステップ、ネクサスカード、恐龍同盟本拠地を配置」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 2

牙は2枚目のネクサスカード、恐龍同盟本拠地を配置する。背後に祠のような場所が出現した。

牙「……さらにマジック、ジュライドローを使用、デッキからカードを2枚ドロースる」

手札4 ⇨ 3 ⇨ 5

トラッシュユ3 ⇨ 5

牙はさらにドローマジック、ジュライドローで手札を増やす。使用できるコアも尽きたので、そのままターンを花火に渡した。

角竜の山LV1

恐龍同盟本拠地LV1

バースト無

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 6

トラッシュユ4 ⇨ 0

花火「……メインステップ、さらにネクサスカード、原始の森とボルカニックキャニオンを配置だ」

手札5 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 2

トラッシュユ0 ⇨ 4

花火はネクサスカードを一気に2枚配置する。約1億年前の森と、壮大な台地が花火の背後に出現した。

実況者「……なんとbeautiful!!!バトルフィールド意外では決して見られないレアな景色だ!!」

花火と牙のフィールドには合計5枚のネクサスカード、その景色は1つ1つが奇跡に満ち溢れている。実況者の言う通り、確かにバトルフィールド意外ではこのような景色を拝めることはできないだろう。

牙「……なんだお前、俺に合わせてくれんのか?」

花火「……へ!まさか、行くぜ、牙!俺はアシガルラプターをLV2で召喚!」

手札3 → 2

リザーブ2 → 0

花火のフィールドに足軽姿がお似合いの地竜スピリット、アシガルラプターが召喚される。アシガルラプターはコスト、軽減、効果、どれを取っても使いやすい地竜スピリットだ。

花火「……さらにバーストをセットしてアタックステップに移行するぜ」

手札2 → 1

アシガルラプターLV2(2s) BP4000

龍射砲台LV1

原始の森LV1

ボルカニツクキャニオンLV1

バースト有

花火「……やれ！アシガルラプター！アタック時効果、ソウルコアが置かれている時、デツキから1枚ドロする！」

手札1→2

ここでようやく花火が動く、アシガルラプターが意気揚々と走り出す。目指すは牙のライフ。

牙「……いいぜ、ライフで受けてやるよ」

ライフ5→4

アシガルラプターは体当たりで牙のライフを1つ破壊した。

花火「……ターンエンドだ」

実況者「……先制点は花火選手が決めたああああ!!牙選手はここから反撃できるか!!」

牙「……やるじゃねえか！今度は俺から行くぞ!!」

「ターン05」牙

スタートステツプ

コアステツプ リザーブ1→2

ドローステップ 手札5 ⇨ 7 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 7

トラッシュユ0 ⇨ 0

牙「……メインステップ、俺もアシガルラプターを召喚だ」

手札6 ⇨ 5

リザーブ7 ⇨ 6

牙も花火と同じアシガルラプターを召喚した。アシガルラプターはその便利すぎるコスパと効果で大抵の赤デッキに入ることができる。その中でも特に地竜デッキとは相性がいい。

牙「……そして、こいつだ、来い!相棒!!暴双龍デイルアノスをLV2で召喚!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 1

トラッシュユ0 ⇨ 2

地響きとともに牙の絶対的エーススピリット、暴双龍デイルアノスが姿を見せる。デイルアノスの登場に会場は大盛り上がりしていた。4ターン続いたネクサス合戦からようやくスピリットのバトルが見れることを期待したこともあるのだろう。

花火「……久しぶりだな、デイラノス」

牙「……さらにバーストをセット」

手札4 → 3

牙のフィールドに裏側でバーストカードが伏せられる。牙がバーストを使ったところを見たことない花火は当然そのバーストを警戒する。警戒したところでは変わらないが……

牙「……そして、マジック、ダイナパワーを使用する！」

手札3 → 2

リザーブ1 → 0

トラッシュ2 → 3

花火「……!!」

牙「何驚いてやがる、地竜デッキだったらダイナパワーくらい予測できるだろう」

ダイナパワー、それは地竜スピリット全てにBP+3000と指定アタックの効果を与与させる。地竜スピリット専用のマジックカード、トラッシュから回収できる便利な効果から、地竜デッキでの汎用性の高さは群を抜いている。

牙「アタックステップ！」

アシガルラプターLV1(1s)BP10000

暴双龍デイルノスLV2 (3) B P 13000

角竜の山LV1

恐龍同盟本拠地LV1

バースト有

暴双龍デイルノスは地竜スピリット全てにBP+5000させる効果がある。この効果とダイナパワーで下級スピリットのアシガルラプターでも上級スピリットに匹敵できるBPになっていた。

牙「……いけ!アシガルラプター!ダイナパワーの効果でお前のアシガルラプターに指定アタックさせてもらうぜ!」

手札2 → 3

花火「……く、アシガルラプターでブロックだ」

同じアシガルラプターでもBPは雲泥の差、花火のアシガルラプターは牙のアシガルラプターにあっさりぶっ飛ばされて破壊されてしまう。

牙「……続け!デイルノス!」

花火「……そいつはライフだ!」

ライフ5 → 4

デイルノスはゆっくりと花火の元へと歩みを進める、そして近づくと強靱な両腕のパ

ンチで花火のライフを1つ玉砕した。だがしかし、その行為が花火のバーストの条件を満たす。

花火「……ライフ減少により、バースト発動！ダイナバースト！BP10000のアシガルラプターを破壊！」

牙のアシガルラプターの足元から火柱が上がってくる。アシガルラプターはその火柱にそのまま焼き切られてしまう。

花火「……さらにコストを払って、カードを2枚ドロウする」

手札2 → 4

リザーブ3 → 1

トラッシュ4 → 6

牙「……おお、やるじゃねえか、……俺はこれでターンエンドだ」

手札3 → 4

やることを全て終えた牙はターンを終えると同時にダイナパワーのカードが牙の元へと舞い戻ってきた。

花火「……やっぱ強えぜ、牙は……でも俺だつて負けてねえ！次は俺の番だ！」

「ターン06」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 8

トラッシュユ6 ⇨ 0

花火「……メインステップ!……頼むぜ!アグモン!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ8 ⇨ 6

トラッシュユ0 ⇨ 1

花火のフィールドにデフォルメされた恐竜のようなスピリット、アグモンが召喚される。

花火「……アグモンの召喚時!」

オーブンカード

【ダイナパワー】

【メタルグレイモン】

アグモンの召喚時効果で完全体のメタルグレイモンが手札に加えられる。そしてダイナパワーは破棄、だが、条件を満たせばダイナパワーも手札に加えることが可能にな

る。

花火（よし、このまま一気にメタルグレイモンまで……）

手札4 ⇨ 5

花火の手札には成熟期のグレイモンも既に加わっており、アグモン ⇨ グレイモン ⇨ メタルグレイモンと進化コンボが可能な状況であったが……

牙「……お前のスピリットの召喚時効果発揮後で、俺のバーストだ!!」

花火「……!?!」

花火のアグモンの効果に反応して牙のバーストカードが勢いよくひっくり返る。

牙「恐龍同盟　閃雷のレクトロサウルス！バースト効果でアグモンとボルカニック
キャニオンを破壊だ!」

花火「……なに!?!、アグモン!!」

突如放たれた青い稲妻がアグモンとボルカニックキャニオンを一直線に貫く。アグモンはたちまち爆発してしまい、ボルカニックキャニオンはその場から消滅してしま
う。

牙「……その後、こいつを召喚する」

恐龍同盟　閃雷のレクトロサウルスLV2（2）BP12000

暴双龍デイルノスLV2 ⇨ 1（3 ⇨ 2）

リザーブ1 ⇨ 0

青い稲妻はその後牙のフィールドに落雷し、中から、青い鎧を纏った肉食恐竜のようなスピリット、エレクトロサウルスが現れた。

実況者「花火選手、エレクトロサウルスのバースト効果で出鼻をくじかれてしまったああああ!!持ち直せるのか!?!」

花火はエレクトロサウルスのバースト効果でアグモンを失っただけでなく、牙に強力なスピリット2体を並べてしまうこととなった。

牙「……どうした?、そんなもんじゃねえだろ?」

花火「……当然だ!行くぜ!……グレイモンを召喚!LVは3だ!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ7 ⇨ 1

トラツシユ1 ⇨ 3

花火はこんなものでは転ばない。彼の背後から立派な頭角を持つ恐竜型の成熟期デジタルスピリット、グレイモンが召喚される。

花火「……原始の森のLVを2に上げて、さらにバーストをセット!」

手札4 → 3

リザーブ1 → 0

原始の森LV1 → 2 (0 → 1)

花火のフィールドに再び、バーストカードがセットされる。

花火「……準備は整った、行くぜ」

グレイモンLV3 (4) BP7000

竜射砲台LV1

原始の森LV2 (1s)

バースト有

花火「グレイモン！【超進化】！グレイモンをメタルグレイモンに！」

花火はグレイモンのアタック時効果で完全体のメタルグレイモンに進化させる。

牙「……ほお、一段階進化したか」

花火「……メタルグレイモン！召喚時効果でエレクトロサウルスを破壊だ！」

メタルグレイモンは登場するなり、胸部のハッチを開き、巨大なミサイルを発射する。

そのミサイルは真つ直ぐエレクトロサウルスに向かっていき、命中、エレクトロサウルスはそのまま大爆発してしまう。

花火「そのままいけ！メタルグレイモン！……メタルグレイモンのアタック時効果！

B P 1 0 0 0 0 以下の相手のスピリット1体を破壊して、メタルグレイモンを回復させる!破壊対象はもちろんデイラノスだ!!」

メタルグレイモンは左手のアームを勢いよく伸ばして、デイラノスを貫き、破壊、これで、メタルグレイモンは回復し、牙とのライフ差を一気に詰められる……と思われたが、

花火「……なに!?!」

メタルグレイモンのアームの一撃は体全体を使ってデイラノスに受け止められていた。メタルグレイモンのアタック時効果はデイラノスには効かなかったのだ。

花火「……なんで破壊されない!?!」

牙「……ああ、そう言えばこいつの効果は全く使ってなかったからな、わからないのも無理ないか、……ネクサス、恐竜同盟本拠地の効果で、疲労状態の俺の地竜スピリットは相手のスピリットとブレイブの効果を受けない」

花火「……なに!?!メタルグレイモンと同じ耐性効果……」

牙の2枚目のネクサス、恐竜同盟本拠地の効果は疲労状態の地竜スピリットにスピリットとブレイブの効果耐性を与える効果、この効果に阻まれてメタルグレイモンはデイラノスを破壊できなかった、当然回復もしない。だが、一度決められたアタックは

中止はされない、メタルグレイモンのアタックは今尚も継続中。

牙「……メタルグレイモンのアタックはライフで受けてやるよ」

ライフ4 ⇨ 3

メタルグレイモンは左手のアームにしなりをつけて牙のライフを叩き割った。

花火「……くそ、デイラノスを破壊できなかった、……ターンエンドだ」

手札3 ⇨ 4

殆どの動きを封じ込められて花火はターンを終えてしまう。バトルの流れは牙のペースだ。

「ターン07」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札4 ⇨ 6 ⇨ 5

リフレッシユステップ

リザーブ4 ⇨ 7

トラツシユ3 ⇨ 0

再びデイラノスが活動を始めようと重たい腰をあげる。

牙「……メインステップ、デイラノスをLV3にアップだ」

リザーブ7 ⇨ 5

暴双龍テイラノスLV1 ⇨ 3 (2 ⇨ 4 s)

テイラノスは力が最高潮に達し、力強く咆哮した。

牙「……2枚のネクサスのLVを2に上げてバーストをセットだ」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 3

恐龍同盟本拠地LV1 ⇨ 2 (0 ⇨ 1)

角竜の山LV1 ⇨ 2 (0 ⇨ 1)

牙はフィールドのカード達のLVを上げていき、着々とあのスピリットを呼ぶ準備を進めていた。

牙「……さらに、ダイナパワーを使っておくぞ」

手札4 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 2

トラッシュ0 ⇨ 1

牙は再びダイナパワーを使用してBP+3000と指定アタックの効果在地竜スピリット達に与えた。

牙「……アタックステップ」

暴双龍テイラノスLV3 (4s) BP17000

角竜の山LV2 (1)

恐龍同盟本拠地LV2 (1)

バースト有

牙「……行くぜ！やれ！テイラノス！ダイナパワーの効果を受けてメタルグレイモンに指定アタックだ!!」

メタルグレイモンも疲労状態の時、スピリットとブレイブの効果を受けないが、ダイナパワーの指定アタックは厳密には効果を付与してはいるのではなく、マジックの効果で指定アタックさせるといふもの、この効果は意味を成さなかった。

花火「……メタルグレイモンでブロックだ」

牙「……来たぜ！来たぜ！さらに煌臨を発揮！対象は暴双龍テイラノス！」

暴双龍テイラノスLV3 ⇨ 2 (4s ⇨ 3)

トラッシュユ1 ⇨ 2s

花火「……!?!」

牙「……その目に映るものすべてを薙ぎ払え！煌臨！暴双恐龍スーパー！テイラノス！」

手札3 ⇨ 2

暴双恐龍スーパーティラノスLV2(3) BP23000

ティラノスは赤黒い炎に包まれ姿を変えて行く。その姿はカイネ戦でも見せたティラノスの正当進化系、スーパーティラノスだ。スーパーティラノスは暗黒の力とはまたちがう感じで禍々しかった。

実況者「……でたああああ!!牙選手の新たなエーススピリット!!1回戦の時のようにこのまま押し切ってしまうのか!?!」

牙「……指定アタックは止まらない、やれ!スーパーティラノス!」

煌臨スピリットが煌臨した時、その降臨元カードの情報を全て引き継ぐ。スーパーティラノスは左の拳をメタルグレイモンに突きつけた。メタルグレイモンはそれに耐えきれずバトルフィールドの端まで吹っ飛ばされてしまった。メタルグレイモンは当然爆発してしまう。

花火「……!!メタルグレイモン!!」

牙「……スーパーティラノスの効果を忘れてはいないだろうな?」

花火「……!!……ぐわ!!」

ライフ4 → 3

スーパーティラノスは両腕に豪快な炎を纏わせて花火のライフを叩く。爆発音とともに花火のライフが1つ消し飛んだ。

スーパーデイルノスはバトルの終了時にスーパーデイルノス自身の煌臨元のカード1枚につき、相手のライフを1つ破壊する効果がある。現在は1枚、よって花火のライフを1つ破壊した。

牙「……さらに、角竜の山のLV2効果、自分のスピリットが相手のライフを減らした時、手札の地竜スピリットを煌臨元に追加する！俺は恐同盟 マノブロウサウルスをスーパーデイルノスの煌臨元に追加する」

手札2 → 1

暴双恐龍スーパーデイルノス 煌臨元1 → 2

花火「……!!」

牙「……そしてこのアタックで終わりだ!!」

スーパーデイルノスの煌臨元カードが角竜の山のLV2効果で1枚+される。これにより、効果ダメージ量は2となる。

牙「デイルノスがアタック時に煌臨元にされた時、そのスピリットは立て続けに攻撃できる！やれ！スーパーデイルノス!!」

牙はデイルノスのアタック時効果を使用してスーパーデイルノスで2回目のアタックを仕掛ける。花火のフィールドにブロッカーは存在せず、ライフは3、スーパーデイルノスのアタックと効果ダメージでライフがゼロになってしまいう状況であった。だが

花火はこの時を、牙がスーパーデイルノスを使って攻撃を仕掛けてくるのを待っていた。

花火「……待ってたぜ！」

牙「……!?!」

花火「……アタック後のバースト発動!煌星銃ヴルムシューター!!その効果でお前のネクサス、恐龍同盟本拠地を破壊して、デッキから1枚ドロー!!……そしてこのブレイブを召喚！」

手札4 → 5

煌星銃ヴルムシューターLV1(4)BP6000

赤い光線が恐龍同盟本拠地を崩壊させてしまう。そして赤い魔法陣の中から煌星銃ヴルムシューターが召喚される。

牙「……なるほど、昨日の銃ブレイブか、……だが、恐龍同盟本拠地は破壊時にデッキから2枚ドローすることで、疲労状態でフィールドに残る」

手札1 → 3

ヴルムシューターの弾丸で崩壊した恐龍同盟本拠地はみるみるうちに元どおりになっ

花火「……なに!? ……でもこれで条件は揃った、行くぞ牙!

牙「……来るか、お前の相棒が!!」

花火「……煌星銃ヴルムシューターを対象に煌臨発揮!!」

原始の森LV2 ⇨ 1 (1s ⇨ 0)

トラツシュ3 ⇨ 4s

花火もカウンターの煌臨を行う。煌臨するのはもちろん自身のエーススピリット、今まで御度も自分と試練をくぐり抜けてきた最強の相棒。

花火「最強の龍戦士よ! 今こそ星々の力とともに突き進め! ウォーグレイモン!! 煌臨!!」

手札5 ⇨ 4

燃え盛る炎の球体の中を切り裂いて、花火のエーススピリット、ウォーグレイモンがフィールドに降り立つ。

実況者「……花火選手も負けじとエーススピリットを召喚!! これはアツい展開だああああ!!」

1
2人のエーススピリットが並び立ったことで会場はとてつもない盛り上がりを見せる。

!!!!!!!!!!!!

花火「……ヴルムシューターの【装鎮】!ウォーグレイモンにヴルムシューターを合体!!」

ウォーグレイモン+煌星銃ヴルムシューターLV3(4)BP22000

ウォーグレイモンの背中のシールドと両腕のドラモンキラーが消滅する。その後、背中には新たに4枚の薄桃色の翼が生え、空いた手にはヴルムシューターが握られる。ウォーグレイモンのカラーリングも黄色を基準とした色から赤を基準に変わっていった。

牙「!!姿が変わった!?!」

花火「……勝負だ!スーパーデイルノス!俺のウォーグレイモンが相手になるぜ!!」

花火は合体スピリットとなったウォーグレイモンでスーパーデイルノスのアタックをブロックする。ウォーグレイモンはヴルムシューターにガイアフォースの力を込めて連射するも、体格差がありすぎるせいかスーパーデイルノスには全く通用しない。スーパーデイルノスは少しずつウォーグレイモンとの距離を縮めようと近づいて来る。

花火「……フラッシュタイミング!マジック!ダイナパワーを使用する!ウォーグレイモンにBP+3000!」

手札4 → 3

リザーブ1 ⇨ 0

トラツシユ4 s ⇨ 5 s

ウオーグレイモン+煌星銃ヴルムシユーターBP22000 ⇨ 25000

花火は回収したダイナパワーを使ってウオーグレイモンのBPを底上げする。これでBP23000のスーパーデイラノスを超えた。

ウオーグレイモンはヴルムシユーターにガイアフォースの力を纏わせ、剣のようなものを形成し、スーパーデイラノスの懐に飛び込んで行く。そのまま一閃、通り過ぎるようにスーパーデイラノスを一瞬にして引き裂いてみせた。スーパーデイラノスはたちまち大爆発を起こしてしまう。

実況者「……なななんと！牙選手のエーススピリット、スーパーデイラノスをウオーグレイモンが倒したああああ!!牙選手が有利と思われたこの状況で、花火選手見事な大逆転劇です！」

花火「……どうだ！牙!!お前のエーススピリットは倒したぜ！」

牙「……ああ、なかなかやるじゃねえか、……お前はやっぱり最高だぜ花火!!」

牙はエーススピリットを倒されたもののなぜだか妙に落ち着いていた。花火もそれが気になるが、どちらにせよこのターン牙はターンを終了するしか選択肢がなかった。エンドステップ時に地竜スピリットがいなくなったことで牙のダイナパワーは回収さ

れなかった。

「ターン08」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシユステップ

リザーブ1 ⇨ 6

トラツシユ5 ⇨ 0

花火「……メインステップ!このターンで一気に決着をつける!……もう一回頼むぜ

!グレイモン!」

手札4 ⇨ 3

リザーブ6 ⇨ 3

トラツシユ0 ⇨ 2 s

花火のフィールドにグレイモンが再びフィールドに入ってくる。花火はこのグレイモンの召喚コストのコアにソウルコアで1つ支払った。ウオーグレイモンのアタック時効果のためだ。

花火「2つのネクサスのLVを上げてアタックステップだ！」
リザーブ3 → 0

原始の森LV1 → 2 (0 → 1)

竜射砲台LV1 → 2 (0 → 2)

ウオーグレイモン+煌星銃ウルムシューターLV3 (4) BP222000

グレイモンLV1 (1) BP4000

原始の森LV2 (1)

竜射砲台LV2 (2)

バースト無

花火「……楽しかったぜ！牙！……でもこれで終わりだ！！いけ！ウオーグレイモン

！！」

現在牙のライフは3、ダブルシンボルのウオーグレイモンのアタックとその効果で
ちょうど0にできた。

牙「……ライフで受ける」

ライフ3 → 1

花火「……ウオーグレイモンのLV2、3の効果！トラッシュユにあるソウルコアを
ウオーグレイモンにおいて相手のライフのコア1個をボイドへ！」

トラツシュ2s ⇨ 1

ウオーグレイモン+煌星銃ヴルムシューター(4 ⇨ 5s)

牙「……まあ、待てよ、慌てるな、お前の効果前に俺のライフ減少のバーストだ、……絶甲氷盾を使うぜ、ライフを1つ回復させ、フラツシュ効果でお前のアタックステップを終了させる」

ライフ1 ⇨ 2

リザーブ6 ⇨ 2

トラツシュ2s ⇨ 6s

ウオーグレイモンが特大のガイアフォースを形成し、牙に投げつけるも、あと一步遅く、牙のライフは1つ回復した。それはすぐにガイアフォースにより、溶かされたが……

牙「……」

ライフ2 ⇨ 1

!!

盛り上がる実況者と会場の観客達、確かにここまでアツい展開を見せられたら、誰だって興奮を隠しきれないだろう。

花火「……ターンエンド」

このターンは絶甲氷盾に阻まれなすべがない、花火はターンを牙に渡す。

「ターン09」牙

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ3 ⇨ 5 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 10

トラッシュ6 ⇨ 0

牙「……メインステップ、マジック、フェイタルドロ……カードを2枚ドロする、

さらに、俺のライフが2以下なら追加でもう1枚ドロできる」

手札4 ⇨ 3 ⇨ 6

リザーブ10 ⇨ 8

トラッシュ0 ⇨ 2

牙はドローマジック、フェイタルドロのカードを使い、デッキから計3枚のカードをドロする。その3枚のカードを見て、牙は思わず口角がニヤリと上がってしまう。どうやらこの状況下において、最高のカードを引いた様子。当然花火は牙の僅かな顔の変化を見逃さず、より一層警戒心を強めていく。

牙「……いくぜ、先ずは恐龍同盟 鉄面のダスプレトンをLV3で召喚」

手札6 → 5

リザーブ8 → 1

トラッシュ2 → 5

地中から鉄仮面を着用した巨大な肉食恐竜のスピリット、ダスプレトンが姿を見せる。ダスプレトンは登場するなり強烈な雄叫びをあげる。その雄叫びは花火のネクサス、原始の森を瞬く間に消滅させた。

花火「……なに!？」

牙「……ダスプレトンは召喚時にお前のネクサスを掻き消す効果がある、……そしてこつからが本番のアタックステップだぜ!!」

恐龍同盟 鉄面のダスプレトンLV3(4) BP8000

角竜の山LV2(1)

恐龍同盟本拠地LV2(1)

バースト無

牙「……いけ!ダスプレトン!!」

花火「……」

おそらくこのタイミングで何かを出すとなれば、煌臨スピリットなのだが、花火には

ダスプレトンをこのタイミングで除去できるカードは手札になかった。仕方なく花火はフラッシュ権力を牙に譲ることとなる。そして案の定、

牙!!!……煌臨発揮!!」

リザ! ブ1 s

ト! ツシユ5 ⇨ 6 s

花火!「……やっぱ煌臨スピリットか……」

牙!!!………見せてやるぜ花火!!これが俺の真の切り札!!!………古代の覇者よ!再び

世界を蹂躪せよ!!煌臨!!恐龍覇者ダイノブライザー!!!」

手札! 5 ⇨ 4

恐龍! 覇者ダイノブライザーLV2(4) BP16000

ダ! プレトンの周りから炎が燃え上がる、だが、ダスプレトンは受け入れるようにその炎の中に消えていく。そしてその炎を中からジャベリンのような武器で切り裂き、現れたのは古代の覇者にして恐龍同盟の長、ダイノブライザーだ。

実況! 者「……なんとおおお!ここに来て牙選手、さらなる煌臨スピリットの煌臨!!

この勝負は一体どこまで続くんだああああ!!」

!!!!!!

盛り上がる実況者や会場の観客達、だが、一番興奮しているのは花火と牙、2人は楽

!!!!!!

しくて仕方がなかった。

牙「……どうよ、これが俺の最強にして最高の切り札、恐龍覇者ダイノブライザーだ」

花火「……カッコいいぜ!やっぱバトルはこうでなくちやな!!」

興奮が抑えきれない、体が震え上がってしようがない、闘争心や競争心に欠けていた花火は生まれて初めて誰かと本気で競い合うということを経験した。

牙「……さあ、終いだ。……ダイノブライザーの煌臨時効果!!お前のBP10000

以下のスピリットを全て蹴散らす!やれ!ダイノブライザー!!」

花火「……!?!」

ダイノブライザーは武器のジャベリンを地面に思いつきり突き刺す、すると巨大な火柱が花火のフィールドに勢いよく迫ってくる。ウオーグレイモンはいち早く危機を察知し、空中に飛んで避けるも、飛行能力をもたないグレイモンはそのまま火柱に吞まれ焼き切られてしまう。

花火「……く!グレイモン……」

牙「……ウオーグレイモン!!お前も逃がさねえ!!」

花火「……!?!」

牙「……フラッシュマジック!!ジュラシックスピア!!!」

手札4 ⇨ 3

恐龍覇者ダイノブライザーLV2 ⇨ 1 (4 ⇨ 2)

トラツシユ6s ⇨ 8s

ダイノブライザーは空中に飛んだウオーグレイモンめがけて自身の武器に炎を纏わせやり投げのように投げる。移動中のウオーグレイモンは避けるすべもなく、ダイノブライザーのジャベリンに貫かれてしまう。そしてそのまま空中で大爆発を起こす。合体が解かれたヴルムシユーターは空中から落下し、地面に突き刺さった。

花火「……なんだと!?!……ウオーグレイモン!!」

牙「……マジック、ジュラシックスピアはシンボル2つ以上の相手のスピリット1体を破壊する」

花火のウオーグレイモンはヴルムシユーターとの合体でシンボルは2つになっていった。それによりジュラシックスピアの効果も諸に受けてしまったのだ。さらにジュラシックスピアの効果はそれだけでは終わらない。

牙「……ジュラシックスピアの追加効果で手札のマノブロウサウルスとドロマエオーをダイノブライザーの煌臨元へ追加する!!」

手札3 ♪ 1

ダイノブライザーに新たに煌臨元カードが2枚追加された。花火はまだ知らないダイノブライザーのもう1つの凶悪かつ強烈な効果を……

牙「……さあ! 決着をつけようぜええ!! 一木花火いい!!」

ウォーグレイモンを倒された花火に勝機はあるのか、ダイノブライザーがジャベリンを振り回し、今にも花火の残り3つのライフを奪おうとしていた。

第33話 灼熱のガイアフォーストルネード！

2回戦第一試合、花火と牙の戦いは続く。現在、花火のライフは3、牙は1、フィールドは以下の通り、

《牙》

恐龍覇者ダイノブライザーLV1(2) BP8000

角龍の山LV2(1)

恐龍同盟本拠地LV2(1)

バースト無

《花火》

煌星銃ヴルムシューターLV1(1) BP6000

竜射砲台LV2(2)

バースト無

ターンシークエンスは牙のアタックステップ中、ダイノブライザーでのアタック中だ。見ての通り、ライフ差では花火が有利だが、フィールド状況では圧倒的に強力なスピリットを立てさせている牙が有利だった。バトル全体の流れは牙にあると言える。

実況者「……牙選手、マジックカード、ジュラシックスピアの効果でウォーグレイモンの破壊に成功!!……花火選手は巻き返せるのか!？」

牙「……さあ! ダイノブライザーの効果を受けてもらうぜ!!」

花火「……ダイノブライザーの効果……」

ダイノブライザーの効果は煌臨時にBP10000以下のスピリットを全て破壊する効果、だが、この効果はあくまで煌臨時、そのタイミングはすでに終了している。ということももう一つ何か効果があるということ、花火は極限の警戒態勢に入り、身構える。

牙「……ダイノブライザーのアタック中効果発揮!!【連覇】!!煌臨元カードを3枚トラッシュへ送る!!」

花火「……煌臨元カードを3枚トラッシュ!?」

今現在牙のダイノブライザーにはジュラシックスピアの効果で貯めた煌臨元カードが計3枚ある。牙はダイノブライザーの【連覇】のコストのためにそれらのカードを全てトラッシュに送った。だが、ダイノブライザーに変わった様子はなく花火のフィールドにも一切変化は訪れない。

花火「……何も起きない……!?!」

実況者「……なななんと! 牙選手!?!、ここで全く意味のない効果を使ってしまった

のか!？」

呆気にとられる会場の者たち、その中で唯一牙だけが口角を上げてニヤついていた。これから何が起こるのかを知っているからだ。

牙「……はっはっは!!アタックは継続中だぜ!!」

花火「……くっ!何が起こるかはしらねえが、ここはライフで受けてやるよ!!」

ライフ3^っ2

ダイノブライザーはジャベリンのような武器で花火のライフを1つ串刺しにする。花火のライフを1つ破壊した。

牙「……ターンエンドだ、トラッシュのダイナパワーの効果でトラッシュからそれを回収」

手札1^っ2

牙はもうやることがない、そのままターンを終える。だが、ここでダイノブライザーの【連覇】の効果が遅れてやってくる。

牙「……この瞬間!!ダイノブライザーの【連覇】の効果がやってくる!!」

花火「……!!」

ダイノブライザーが大きな雄叫びを上げる。その雄叫びはまるで地球が揺れているのではないかというほど大きな声だった。地面が揺れ、空気が震撼し、フィールドの地

中から溶岩が溢れ出してくる。そして語られる。ダイノブライザーの豪快な効果が、

牙「……ダイノブライザーの【連覇】の効果、煌臨元カードを3枚破棄したら、俺はもう一度自分のターンを行う!!」

花火「……なんだと!?!」

ダイノブライザーの効果、それは追加の1ターンを得るという単純明快かつ、豪快な効果、その効果の起動には3枚の煌臨元カードが必要だが、それが決まった時の決定力は計り知れない。

状況者「……なんとということだあああああ!!牙選手なんと常識破りな!!花火選手の第10ターンを奪い取ってしまったあああああ!!」

再び、牙の時代が回ってきた。本来花火に来るはずの第10ターンが牙に与えられる。

「ターン10」牙

スタートステップ

コアステップ 0 ⇨ 1

ドローステップ 2 ⇨ 4 ⇨ 3

角竜の山の効果で牙は手札の入れ替えがドローステップ時に行われる。牙はこの効

果でダイナパワーのカードを捨てた。確かにこの状況では使い道はないし、ダイナパワーは自身の効果で帰還できるので損失がないと判断したのだろう。

牙「……」

リフレツシユステツプ

リザーブ1 ⇨ 9

トラツシユ8 ⇨ 0

ダイノブライザーが起き上がり、再び活動を開始する。

牙「……メインステツプ、2体目の暴双龍デイラノスを召喚！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ9 ⇨ 3

トラツシユ0 ⇨ 2

再び地響きとともに暴双龍デイラノスが現れる。牙のデッキはあくまでデイラノスが主体となるデッキ、彼のデッキの動きに直結するため、3枚投入されている。

牙「……ダイノブライザーを再びLV2へアップ！」

リザーブ3 ⇨ 2

恐龍覇者ダイノブライザーLV1 ⇨ 2 (2 ⇨ 3)

ダイノブライザーは力が強まり、デイラノスと共に咆哮する。それはデイラノスの効

果で自身のBPが上がっていることもあっただろうか、どちらにせよこの2体が並ぶことは花火にとってはおかなりのプレッシャーであった。おそらく並みのカードバトラーだったら間違いなくこの時点で屈服しているだろう。

牙「……アタックステップ」

恐龍覇者ダイノブライザーLV2(3) BP21000

暴双龍ダイノスLV3(4) BP14000

角竜の山LV2(1)

恐龍同盟本拠地LV2(1)

バースト無

牙「……いけ! デイラノス!」

花火「……くっ! ……ライフだ」

ライフ2 ♪ 1

デイラノスは2つの口から凄まじいほどの火力を放つ。花火のライフは砕け、とうとう残り1つとなってしまう。

牙「……終わりだ! やれ! ダイノブライザーああああ!!!」

ダイノブライザーが走り出す。目指すは当然花火の残り1つのライフ、だが、花火はこの時を待っていたかのように口角を上げてニヤリと笑みを浮かべる。

花火「……ここだ！……フラッシュマジック！リミットドバリア！」

手札3 → 2

リザーブ8s → 4

トラッシュ1 → 5s

牙「……!?!」

花火「……このターンの間、コスト4以上のスピリットから俺のライフは減らない。さらにコストにソウルコアを使用したら相手のネクサス1つを手札に戻す！俺が選ぶのは恐龍同盟本拠地!!」

牙のネクサス、恐龍同盟本拠地は、花火のリミットドバリアの効果で粒子となって牙の手札に帰って行ってしまおう。恐龍同盟本拠地は破壊に対しての耐性があるのだが、手札に戻す効果には無力であった。花火はその一瞬の隙をついて厄介な恐龍同盟本拠地を手札に戻したのだ。

花火「……アタックは当然ライフだ」

ライフ1 → 1

リミットドバリアの効果で当然ライフは減らない。いくら伝説の恐竜の王が何度も斬りつけても傷1つ付かなかった。

牙「……くそ！……ターンエンド」

手札2 ⇨ 3

流石にこうなつてはターンエンドせざるを得ない、牙は2ターンかけて勝負を挑んだが、花火は物ともせず真つ向から防いだ。

実況者「……なんと!!!花火選手、牙選手のエクストラターンを防いでしまつたああああ!!おまけに牙選手はスピリット全てが疲労状態!次の花火選手のターンを防ぐことができるのか!？」

「ターンー」花火

スタートステップ

コアシテップ リザーブ4 ⇨ 5

花火「……ドローステップ!!」

手札2 ⇨ 3

意気込んでドローする花火、そのドローカードはまさにこの場面には最適のカード、

花火「……」

リフレッシユステップ

リザーブ5 ⇨ 10

トラツシユ5 ⇨ 0

花火「……メインステップ、先ずはピストジャサウルスを召喚」

手札 3 ⇨ 2

リザーブ 10 ⇨ 9

花火のフィールドに系統に地竜と溶魚を持つコスト0のスピリット、ピストジャサウルスが召喚される。

花火「……さらにマジック、エクスキャベーションを使用！トラツシユからアシガラプター、メタルグレイモン、ウォーグレイモンを回収する！」

手札 2 ⇨ 1 ⇨ 4

リザーブ 9 ⇨ 7

トラツシユ 0 ⇨ 2

マジックカード、エクスキャベーション、それはトラツシユに落ちた地竜のスピリットカードを3枚回収できるカード、花火がこの瞬間にドロートした奇跡の一枚。

花火「……アシガラプター！メタルグレイモンを召喚！」

手札 4 ⇨ 2

リザーブ 8 ⇨ 0

トラツシユ 2 ⇨ 5

花火のフィールドにアシガラプターとメタルグレイモンが再び現れる。

花火「……メタルグレイモンにヴルムシューターを合体!!」

メタルグレイモンは改造が施されていない右手でヴルムシューターを握る。

花火「……アタックステップ!」

ピストジャサウルスLV1(1) BP1000

アシガルラプターLV1(1s) BP2000

メタルグレイモン+煌星銃ヴルムシューターLV3(4) BP17000

竜射砲台LV2(2)

バースト無

花火「……いけ!アシガルラプター!!」

手札2↗3

花火はアシガルラプターの効果で1枚ドロウする。牙のフィールドにはもう回復状態のスピリットはいない、そしてライフも残り1、誰もがこの瞬間に花火の勝利を確信したその時だった。

牙「……フラツシユマジック!光翼之太刀!……このターン、ダイノブライザーはBP+3000され、疲労ブロッカーとなる!!」

手札2↗1

リザーブ4↗1

トラツシユ4↗7

恐龍覇者ダイノブライザーBP21000 ⇨ 24000

花火「……なに!？」

白のマジックカード光翼之太刀、この効果でダイノブライザーはBPが上がっただけではなく、このターンの間全てのスピリットを疲労状態でブロックできるようになる。

ダイノブライザーが白い光を浴びて疲労ブロッカーの力を得た。

牙「……アシガルラプターはダイノブライザーでブロックしてやる!」

アシガルラプターの特攻も虚しく、ダイノブライザーのジャベリンの前にあっさり破壊されてしまった。

花火「……いけ!メタルグレイモン!」

花火の指示でメタルグレイモンが走り出す。

実況者「……なななんと!花火選手!光翼之太刀の効果を忘れてしまったのかあああああ!」

確かにこのアタックは一見無駄に思える。ダイノブライザーが疲労ブロッカーになったのに対し、BPがはるかに劣るメタルグレイモンでアタックを仕掛けたのだから、だが、花火は当然自暴自棄になったわけではない、これは勝利への賭けだった。

牙「……最後はエース同士で勝負ってか!?!……おもしれえええ!!……受けて立つぜ!」

牙はこのタイミングで登場するスピリットを知っている。エクスキャベーションで花火の手札に帰って来たあいつだ。

花火「……行くぞ!! 煌臨発揮!」

リザーブ1s ⇨ 0

トラッシュ5 ⇨ 6s

メタルグレイモンは走りながらも橙色の炎に包まれて姿形を変えて行く。

花火「……究極進化!!……ウオー!! グレイモン!!」

手札3 ⇨ 2

ウオーグレイモン+煌星銃ヴルムシューターLV3(4)BP22000

ウオーグレイモンがヴルムシューターとの合体状態で再びフィールドに現れる。

花火「……ウオーグレイモンの煌臨時効果でデイラノスを破壊!」

ウオーグレイモンは右手だけで巨大なガイアフォースを作り出し、振りかぶってデイラノスに投げつける。恐龍同盟本拠地がない今、デイラノスは守られることはない、そのまま直撃し、大爆発を起こす。

そしてこれにより、デイラノスのBP+効果は無効となり、ダイノブライザーのBPは5000下がり、19000となる。

牙「……やるじゃねえか!!だが、俺は負けねえ! ダイノブライザーでブロックだ!」

ダイノブライザーはウォーグレイモンに火炎放射を放つが、ウォーグレイモンは走りながらもそれを紙一重で避ける。

花火「……俺のウォーグレイモンの方がBPは上だ!!」

牙「……そんなの百も承知よおおお！フラッシュマジック、ダイナパワー！BP＋3000！」

手札2 ⇨ 1

リザーブ6 ⇨ 5

トラッシュ2 ⇨ 3

恐龍覇者ダイノブライザーBP19000 ⇨ 22000

ダイノブライザーのBPが3000上昇、ウォーグレイモンと並ぶ、だが、ダイナパワーのカードを持ってるのは花火も同じである。こんな拮抗したBP勝負はは直ぐに決着がつくはずだった……

牙「……フラッシュマジック！レッドライトニング！ヴルムシューターとピストジャサウルスを破壊!!」

手札1 ⇨ 0

リザーブ5 ⇨ 3

トラッシュ3 ⇨ 5

花火「……!?!」

突然落ちてくる紅い雷に避けられるはずもなく、ピストジャサウルスは破壊され、ウオーグレイモンもブレイブのヴルムシューターを破壊されて元のウオーグレイモンの姿に戻ってしまう。

赤のマジック、レッドライトニングはBP6000以下の相手のスピリットと合体しているブレイブ1つを同時に破壊する効果を持つ。合体が解かれたウオーグレイモンは力が大幅にダウンしてしまう。

牙「……これでお前のウオーグレイモンのBPは16000!!くたばりやがれえええ!!」

花火「……まだだ!見せてやろうぜウオーグレイモン!俺たちの力を!……ダイナパーを使用!ウオーグレイモンのBPを3000上げる!」

手札2 ⇨ 1

リザーブ1 ⇨ 0

トラッシュ6s ⇨ 7s

ウオーグレイモンBP16000 ⇨ BP19000

ウオーグレイモンのBPがダイナパーと同じようにダイナパワーで加算されるが、

牙「……無駄だ！今更ダイノブライザーのBPに追いつけるかよ！」

ダイノブライザーはBP22000、その差は3000、ウオーグレイモンは両手からガイアフォースを放つが、ダイノブライザーはそれをジャベリンのような武器を大車輪のように回転させ、その風圧でそれを掻き消してしまう。

ダイノブライザーは炎の斬撃をウオーグレイモンに飛ばしまくる。何度も何度も、ウオーグレイモンはその攻撃を避けるので精一杯だ。防戦一方のこのままでは間違はなくダイノブライザーが圧勝で終わるだろう。だが、花火の手札、ラスト1枚はこの状況を一変できるカードがあった。

花火「……フラッシュアクセル！スピノスレッガー！このターンの間、俺のスピリット全てにBP+5000！」

手札1 → 0

竜射砲台LV2 → 1 (2 → 0)

トラッシュユ7s → 9s

ウオーグレイモンBP19000 → 24000

花火の手元にスピリット兼アクセルカード、スピノスレッガーが置かれる。その効果でウオーグレイモンのBPが飛躍的に上昇した。

牙「……なん、だと!？」

ここに來ての大逆転、無駄なドロローが一切存在しないこのバトルに観客は大盛り上がり、

花火「いけ！ウォーグレイモン！」

花火の言葉に合わせるようにウォーグレイモンは自身の身体に炎を纏い、ドリルのように回転、赤い竜巻のようにダイノブライザーめがけて一直線に飛んで行く。

ダイノブライザーは炎の斬撃を何度も迫ってくるウォーグレイモンに飛ばすが、全く通用せず、掻き消されながらドンドンその赤い竜巻は迫ってくる。

花火「……行け！打ち上げる!!ウォー！グレイモン!!灼熱のガイアフォーストルネードおおお！」

ウォーグレイモンを武器で受け止めるダイノブライザー、だが、そんなに長い時間は耐えられず、とうとう、武器は大破、ウォーグレイモンにそのまま自身ごと貫かれてしまう。当然このダメージには耐えきれず、大爆発を起こす。

牙「……ふふ、リベンジはまたの機会か……」

「完敗」、そう確信した牙は花火のウォーグレイモンの最後の攻撃を受け入れる。

花火「……ウォーグレイモンのLV2、3のアタック時効果！バトル終了時にトラッシュのソウルコアをウォーグレイモンに置くことで相手のライフを1つポイドに送る

!!

トクツシユ9s ⇨ 8

ウオ―グレイモン(4 ⇨ 5s)

ウオ―グレイモンはダイノブライザーを破壊しても止まらず、そのまま牙のライフまでもを貫いた。

牙「……俺の負けだ!!花火いい!!」

ライフ1 ⇨ 0

牙のライフはこの効果で0、よって2回戦第一試合の勝者は花火に終わる。

実況者「……決まったああああ!!、白熱した準決勝第一試合!!勝者は一木花火選手だああああ!!」

1

実況者「……花火選手はこれで決勝への切符を手に入れました!!」

会場は一体となって盛り上がる。まるで花火の勝利を讃えるかのように、会場の中にある刈イネと菜々子も2人に拍手を送る。牙を応援していた元恐龍隊メンバーの面々も涙しながらも2人に拍手を送っていた。

花火「……牙……」

牙「……はっはっは!また負けちまったぜ!!お前はやつぱ最高だ花火!この俺に勝つ

!!!!!!

たんだ!!優勝しねえと承知しないからな!!」

牙はそう言いながら花火に握手を要求するかのように右手を差し出す。もちろん花火がこれに応えないわけがない。

花火「……ああ!任せろ!またバトルしような!」

2人はまた再選を誓い、握手を交わす。牙はこの後、直ぐに、また子分たちを連れて修行の旅に行ってしまう。当然、花火を越えるためだ。

*

実況者「……さあ!白熱しました準決勝第一試合、次の第二試合にも期待が高まります!そしてそんな決勝への最後の切符を賭けて戦うのは彼らだ!!」

実況者がそう言うともニターに映し出されたのはシデンと小次郎の顔、果たして決勝へと駒を進めるのは誰なのか。

花火「……!?!」

小次郎「……よう!一木花火!決勝進出おめでとう!」

選手が通る道でバツタリと2人は出くわした。

花火「……小次郎」

小次郎「……お前の本当のライバルは誰か今ここでハッキリさせてやるよ」

小次郎はそれだけ言って花火の前を通り過ぎる。その雰囲気はいつもツツコミを入

れてばかりいる小次郎とは到底思えなかった。やはり最近、花火のライバル的な存在になりつつあるシデンに対しては妙な対抗意識のようなものがあるのだろうか。

そして会場の中央フィールドにて顔を合わすシデンと小次郎、

シデン「……御託はいらないだろ？、始めるか雑魚」

小次郎「誰が雑魚だ!!……ああ、かかってこいよ」

相変わらず花火以外の人間にはあまりよく思っていないような発言が多いシデン、花達の御一行の中では彼の中では花火だけは認めていた。つまりそれ以外は彼にとつて雑魚以外の何者でもないのだ。

実況者「……それではこれより準決勝第二試合を始めます!!……第二試合開始!!」

小次郎&シデン「……ゲートオープン!解放!」

シデンと小次郎、2人のバトルが幕を開ける。先行は小次郎。

「ターン01」小次郎

スタートステップ

ドローステップ 手札4 → 5

小次郎「……メインステップ、テントモンを召喚!」

手札5 → 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

小次郎のフィールドにてんとう虫型のデジタルスピリット、テントモンが現れる。

小次郎「……テントモンの効果でコアを1つブースト!」

テントモン(1 ⇨ 2)

テントモンは召喚時にコアを1つ増やす効果がある。小次郎はこの効果を使い、先行の第1ターンでコアを増やした。

小次郎「……ターンエンドだ」

テントモンLV1(2) BP2000

「ターン02」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

シデン「……メインステップ、アタックステップ共に行わない。ターンを終了する」

シデンはこのターンは様子見なのか、何もせずにターンは終了した。これは小次郎にとつては願っても無いチャンスだろう。

「ターン03」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュユ3 ⇨ 0

小次郎「……メインステップ、パルモンを召喚」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 1

トラッシュユ0 ⇨ 2

小次郎のフィールドに頭にトロピカルな花を咲かせた植物型の成長期デジタルスピリット、パルモンが召喚される。

小次郎「……パルモンの召喚時」

オープンカード

【ウインドウォール】

【マツハジメ】

残念ながらオープンしたカードには該当するものはない、2枚ともトラッシュユへ破棄

された。

小次郎「……LV調整してアタックステップだ」

リザーブ1[→]0

テントモンLV1(1) BP2000

パルモンLV2(3) BP4000

バースト無

小次郎はアタックステップ前にスピリットのLV調整を行う。だが、パルモンをLV2にさせたにも関わらず進化の効果を使わなかった。まだ成熟期のカードが手札になっているのか

小次郎「……いけ!パルモン!」

小次郎の指示を受けて嬉しそうにパルモンが走り出す。

シデン「……ライフで受けよう」

ライフ5[→]4

パルモンは両手をゴムのように伸ばしてシデンのライフを叩きつける。シデンのライフ1つはたちまち割れてしまう。

小次郎「……続け!テントモン!」

テントモンもパルモンに負けじと羽を使って飛翔する。

シデン「……ライフだ」

ライフ4 ⇨ 3

テントモンは空中で勢いよくシデンのライフへと体当たりしてシデンのライフを1つ破壊した。

小次郎「……ターンエンド」

実況者「……小次郎選手！シデン選手から華麗に先制点を決める！！ライフを一気に2つ取られたシデン選手！！巻き返しなるか!?!」

「ターン04」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ7 ⇨ 8

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

シデン「……メインステップ、クリスタニードルとボーン・ダイルを召喚」

手札6 ⇨ 4

リザーブ8 ⇨ 5

トラツシュ0 ⇨ 1

ここでようやくシデンが重たい腰を上げて動き出す。彼の場に蛇のようなまたまた小さな龍のようなスピリット、クリスタニードルと、紫の水晶が刺さっているワニのよななスピリット、ボーン・ダイルが現れる。

ボーン・ダイルにはメインステップ時に有効な効果を發揮できる。この効果は紫と白の混色デッキのシデンのデッキにはもってこいの効果となっている。

シデン「……ボーン・ダイルはメインステップ時のみ、白のシンボルを2つ自身に追加する効果がある」

ボーン・ダイルから白のダイヤモンドが浮き出てくる。効果を發揮している証拠だ。ボーン・ダイルは元々紫のスピリットだが、こうやってメインステップ時には白のスピリットのように扱うことができる。

シデンはBPが低く、破壊されやすいボーン・ダイルがいなくなる前にやりたいことをやっておくことにした。

シデン「……俺はネクサス、万本槍の古戦場を2枚配置しようか」

手札4 → 2

リザーブ5 → 2

トラッシュ1 → 4

シデンの背後に2万本以上の槍が突き刺さっている戦後の戦場が現れる。槍の下に

ある骸骨達がその戦闘がどんなに恐ろしかったかを語らずに語っていた。

実況者「……シデン選手!! ボーン・ダイルの効果をフルに使い!! コスト6の重たいネクサスを一気に2枚配置!! 今後の展開にどう影響してるのか!?!」

万本槍の古戦場は紫と白のダブルシンボルネクサス、それが2枚ともなるとシデンのデッキの回転率は計り知れないほど上がるだろう。

シデン「……さらにバーストを伏せよう」

手札2^っ1

シデンのフィールドの端にバーストカードが裏側でセットされた。

シデン「……ターンエンド」

クリスタニードルLV1(1) BP1000

ボーン・ダイルLV1(1) BP2000

万本槍の古戦場LV1

万本槍の古戦場LV1

バースト無

シデンはここでアタックはせず、ターンを終える。

「ターン05」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシステップ

リザーブ1 ⇨ 3

トラッシュユ2 ⇨ 0

小次郎「……よし来たぜ!……メインステップはすつ飛ばしてそのままアタックス
テップ!、パルモンの【進化】発揮!成熟期のトゲモン!!」

トゲモンLV2(3) BP6000

パルモンが緑の光を浴びて進化して行く。先ほどまでであったトロピカルな花は消え
去り、全く生息地が異なるサボテンに形を変えた。

ボクシンググローブのようなものをつけているサボテン型の成熟期のデジタル
スピリット、トゲモンが新たに地上に現れる。

シデン「……成熟期か」

小次郎「……ああそうだ!!だがこれだけじゃない!!」

シデン「……!?!」

小次郎の進化コンボは当然こんなところでは終わらない。次はいよいよ完全体のデジタルスピリット、小次郎のデツキのエースのうちの一体、

小次郎「……トゲモンでアタック!!先ずはアタック時効果でコアを1つ増やして、ボーン・ダイルを疲労させる!」

トゲモン(3↔4)

トゲモンは緑の光を浴びてコアを1つ恵むと、高くジャンプし、体を高速回転で回し、自身のトゲを飛ばす。トゲモンのトゲに刺されたボーン・ダイルは脱力したように疲労して行く。

シデン「万本槍の古戦場、2枚分の効果でデツキから2枚ドローする」

手札1↔3

ボーン・ダイル(回復↔疲労)

先の展開とバーストのセットでだいぶ手札が減ったシデン、だが、その手札は万本槍の古戦場の効果で再び復活していく。万本槍の古戦場はタイミングを問わずに相手のスピリットが疲労したらデツキから1枚ドローする効果がある。小次郎のスピリットがアタックすればするほど、ブロックすればするほど、シデンの手札が潤沢になってい

くのだ。

小次郎のデッキにはネクサスを破壊するカードは入っていない、だが、シデンに何もさせずに速攻で倒す事は可能。いくら手札が増えようと、使えないカードを引いたら意味はない。

小次郎「……そして【超進化】!!トゲモンを完全体、リリモンに!」

リリモンLV2(3)BP10000

リザーブ1→2

トゲモンが桃色の花に包まれて行く。その花びらの中でトゲモンは成長していき、妖精と化す。そして花びらが一枚一枚溢れ落ち、中から妖精型の完全体デジタルスピリット、リリモンが姿を見せた。

実況者「……ここで小次郎選手が動き出す!!一回戦とは違う種類の完全体呼び出しだぞ!!」

シデン「……」

サボテンからの妖精というなかなかシユールな変化を遂げたからか、意外にもシデンは驚いていた。表情には一切でないが、

この緑の完全体デジタルスピリット、リリモンこそ、小次郎のシデン対策の要。この

リリモンをいかにフィールドにとどめておくことが大事だった。

小次郎「……アタックだ！リリモン！【旋風：1】でクリスタニードルを重疲労させて、コアを2つブースト！さらにリリモンをターンに1回回復！」

リリモンLV2 + 3 (3 + 5) 疲労 + 回復

シデン「……」

クリスタニードル (疲労 + 重疲労)

リリモンの強みは緑という緑のような効果を全てアタック時に凝縮して発揮できるというところにある。たった一回のアタックだけで小次郎に莫大なアドバンテージを与えている。

リリモンの羽で巻き起こされる風にクリスタニードルは横に倒れてしまう。息が切れていて呼吸が荒い状態になっていた。

小次郎「……アタックはどうする!?!」

当然リリモンのアタックは継続中、このままではデツキの回転速度でシデンは間違はなく敗北を喫してしまうだろう。だが、仮にも反乱軍のリーダー、今まで散々世界を變えるために強くなろうとして来た彼がこんなところでめげたりはしない。

シデン「……万本槍の古戦場の効果で2枚ドロ……アタックはライフで受ける」

手札3 + 5

ライフ3 ⇨ 2

リリモンは掌から緑の光線を放ち、シデンのライフを1つ破壊する。しかしその行為がシデンのバーストの引き金を引かせる。

シデン「……俺のライフが減少でバースト発動!!絶甲氷盾!!ライフを1つ回復!!その後のフラッシュ効果でお前のアタックステップを終了させる!!」

ライフ2 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 0

トラッシュユ4 ⇨ 7

小次郎「……く!!やっぱ使ってくるのかよ」

小次郎のフィールドに巨大な氷山の一角が現れる。こんな大きなものが目の前に来たらリリモンもテントモンもアタックできない。小次郎は強制的にターン終了をせまられた。

小次郎「……ターンエンド」

リリモンLV3 (5) BP12000

テントモンLV1 (1) BP2000

バースト無

小次郎としてはもう一度リリモンでアタックしてコアを増やしておきたかったとこ

ろだが、アタックステップを終了させられたのはしようがない。小次郎はターンをシデンに渡す。

「ターン06」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 8

トラッシュユ7 ⇨ 0

リフレッシュステップにより、ボーン・ダイヤルは疲労から回復状態になるが、クリスタニードルは重疲労しているため、一回の回復では普通の疲労状態になるだけであった。

シデン「……メインステップ、行くぞ！」

小次郎「……!!」

シデンの言葉で空気がガラツと変わる。小次郎は息を飲んで、身構える。そして身構えると同時に思う。「おそらく出るのはあいつだろう」と。

シデン「……鉄壁なる神獣!!メタルガルルモンを召喚!!」

手札6 → 5

リザーブ7 → 0

トラツシユ0 → 3

空を降りるようにDパラディンの中でもウオーグレイモンとともに双壁をなすデジタルスピリット、メタルガルルモンが召喚される。

メタルガルルモンは煌臨を持つスピリットではあるものの、別にわざわざ、フラツシユで出すまでもなく、こうやってコストを払っての召喚も一向に構わない。

実況者「……出ましたああああ!!メタルガルルモン!!毎ターン必ずシデン選手を勝利へと導いております!!今回も導くことができるか!?!」

メタルガルルモンの雄叫びと会場の観客達の歓声が会場全体に響き渡る。

これで行やくシデンと小次郎、お互いのエースが登場、2人のバトルはこれからが本番だろう。

第34話 緑の煌めき、メタルガルルモン機能停止!?

準決勝第二試合、シデンと小次郎のバトルは続く。フィールドは以下の通り、

《小次郎》ライフ5

リリモンLV3(5) BP12000

テントモンLV1(1) BP2000

バースト無

《シデン》ライフ3

メタルガルルモンLV3(4) BP16000

ポーン・ダイルLV1(1) BP2000

クリスタニードルLV1(1) BP1000 疲労

万本槍の古戦場LV1

万本槍の古戦場LV1

バースト無

現在はシデンの第6ターン中、メタルガルルモンを召喚し、戦闘態勢に入る。

シデン「……いくぞ雑魚!!アタックステップだ!やれ!メタルガルルモン!!」

メタルガルルモンが機械の音を立てながら小次郎のライフをもぎ取りに走り出す。

シデン「……メタルガルルモンのアタック時効果!!リリモンからコアを2つトラッシュに置き、メタルガルルモンは回復する!!」

メタルガルルモンの効果、それは相手のスピリットかりザーブにあるコアを2つトラッシュに置くことで回復する効果、この効果はアタック時なのでコアを送ることができれば何度でも何回でもメタルガルルモンは走り続ける。

シデンは幾度となくこのメタルガルルモンの力で、相手を完膚なきまでに打ち倒してきた。メタルガルルモンの力は強力、シデンのバトルではメタルガルルモンがでたターンでは、必ずそのターン中で対戦相手のライフをゼロにしてきた。

しかし今回に限ってはこのターン中には必ず決められない。どんなに強いカードでも、強いだけであって完璧ではない、対策はいくらでもできる。

メタルガルルモンが絶対零度のブレスをリリモンに向けて放つ。その冷気は必ずリモンを瞬間氷結させて粉々に碎かれると誰もが思っていた。

だが、リリモンは緑色のオーラを纏い、メタルガルルモンのブレスの影響を受けない。

いつものように気丈な笑顔を見せている。この異様な状況に花火達や観客達は驚くが、一番驚いていたのは対戦しているシデンだった。

シデン「……なに!? ……どういうことだ!? ……なぜコアが外されない!!!」

シデンはここに来て初めて困惑の声をあげた。必殺のメタルガルルモンの召喚ター
ンで、まさかのカウンターを食らったのだから、しょうがないが。

小次郎「……リリモンは緑のスピリット全てをコア除去から守るのさ、お前の冷氣は
通用しないぜ」

状況者「……ななななんと!!! 小次郎選手!! リリモンの効果によってこれまで無敵と思
われてきたメタルガルルモンの力を防いでしまったああああ!!」

メタルガルルモンの効果はリリモンには通用しない。それどころかリリモンが存在
する間は他のスピリットさえもメタルガルルモンの効果を塞いでくる、メタルガルルモ
ンにとってシデンのデッキにとって、これほどの天敵はいないだろう。

シデン「……くっ! だが、メタルガルルモンが狙えるのは貴様のスピリットだけでは

ない!!俺はお前のリザーブのコアを2つトラッシュユに送る!」

メタルガルルモン (疲労 ⇨ 回復)

小次郎「……!!」

リザーブ2 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 2

メタルガルルモンは自身の冷気が通じないリリモンを狙うのは諦めて、小次郎のリザーブに向けて絶対零度を放つ。小次郎の残り2つのリザーブのコアはトラッシュユに置かれて、メタルガルルモンは疲労状態から回復状態になった。

シデン「……さあ!!このアタックはどうする!?!」

小次郎「……こうするのさ!!フラッシュユマジック!!チェイスライド!!!……………この効果で再びメタルガルルモンを疲労させる!!」

手札5 ⇨ 4

リリモンLV3 ⇨ 2 (5 ⇨ 4)

トラッシュユ2 ⇨ 3

シデン「……!!」

メタルガルルモン (疲労 ⇨ 回復)

吹き上がる緑の突風、それは瞬く間にメタルガルルモンを通り過ぎ、彼を脱力させてしまう。チェイスライドは相手のスピリットを1体疲労状態にするマジックカードだが、強みはそこではない。

小次郎「……このチェイスライドは俺のターンのエンドフェイズに戻ってくる」

シデン「……なんだと!？」

チェイスライドは使用者のターンのエンドフェイズにトラッシュから手札に戻る効果が備わっている。

つまりメタルガルルモンは今、スピリットからコアを取り除けず、仮にリザーブからコアを送ったとしても、今度はチェイスライドで必ず疲労させられて、ただの一回のアタックで終わってしまう事になる。

小次郎はほぼ完璧にシデンのメタルガルルモンを封じ込めた。

小次郎「……メタルガルルモンのアタックはライフで受けるぜ」

ライフ5 → 4

メタルガルルモンは小次郎のライフを強靱な鉤爪で引き裂いてみせるもこれ以上の

アタックは封じられているため、渋々シデン側のフィールドに戻ってしまおう。

実況者「……なんと小次郎選手!!ほぼ完璧にメタルガルルモンを封じ込める!!!……シデン選手に打つ手はあるのか!？」

花火「……すげえぜ小次郎、あのシデンをほぼ完封してらあ」

シデン「……このターンはエンドだ」

このターンは仕方なくターンを終える。シデンは初めてメタルガルルモンを呼び出したターンに、勝負を決めることができなかつた。それも緑坂小次郎と言う、自分の頭の中では眼中にもない雑魚相手に。必死に打つ手を考えてみるが、紫のコア除去効果が効かないのであれば、シデンのデッキはほとんどが機能しなくなるだろう。なかなか厳しい状況であつた。

バトルのペースは今や完璧に小次郎が握っていると云つても過言ではないだろう。

「ターン07」小次郎

スタートステップ

コアステップ リザーブ 1 → 2

ドローステップ 手札4 → 5

リフレツシユステツプ

リザーブ2 ⇨ 5

トラツシユ3 ⇨ 0

小次郎のメインステツプが始まる。小次郎にとつてもシデンにとつてもこれが勝負のターンだ。

小次郎「……よつしやああああ!!このまま押し切るぜ!アトラークバテリモンを召喚!!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 5

地中から勢いよく国産カブトのような立派な一本ツノを持つ、完全体のデジタルスピリット、アトラークバテリモンが召喚される。

小次郎「……召喚時効果!!ボーン・ダイヤルを疲労だ!!」

シデン「……」

ボーン・ダイヤル(回復⇨疲労)

アトラーパーカブテリモンは登場するなり、腕から電撃を放ち、ボーン・ダイルを疲労させてしまう。これで小次郎の二大エースが揃い踏みとなる。小次郎はその後コアの調整をしてアタックスステップへと移行する。

小次郎「……」

リリモンLV1(1) BP7000

アトラーパーカブテリモンLV2(3) BP13000

テントモンLV1(1) BP2000

バースト無

小次郎「……やれ！リリモン！その効果でコアを2つ追加し、回復！さらにメタルガルルモンを重疲労!!」

リリモン(1↔3) LV1↔2(疲労↔回復)

シデン「……くっ！またか」

メタルガルルモン(疲労↔重疲労)

リリモンの砲丸に撃ち抜かれてメタルガルルモンはぐったりとその場にダウンしてしまう。いくら究極体といえど、リリモンの砲丸にまともに撃ち抜かれて立てるものは

少ないだろう。

シデン「……万本槍の古戦場の効果でデッキから2枚ドロースる」

手札5 → 7

本来は万本槍の古戦場でドロースできる枚数は一枚だが、シデンは今、それらが2枚あるのでデッキから2枚のカードを引き抜く。

シデン「……(!?これは、……なるほど、お前たちはまだ俺を見捨てないか)」

シデンはドロースしたカードについて口角が上がってしまう。ドロースしたカードは当然この状況を打開できる最高のカード、

小次郎「……何を引いたか知らないがくたばれ!!!お前のコア除去は俺には通じない!!!」

シデン「……お前は勘違いをしている」

小次郎「……!?!」

シデン「……コア除去効果が効かないのは確かに紫デッキには辛い、……だが、俺のデッキは紫だけではない!!」

そう、普通の紫デッキだと、ほぼ間違いないリリモンの耐性効果に引っかけ、機能

を停止させられてしまうだろう。だが、シデンのデッキは紫と白の混色、つまり今から使用するシデンのカードは白側のカード。そして逆転へと繋がるキーカードだ。

シデン「……フラッシュアクセル!! 白夜の宝剣ミッドナイト・サン「リバイバル」!!
その効果でリリモンを手札に帰す!!」

手札7 ⇨ 6

メタルガルルモンLV3 ⇨ 1 (4 ⇨ 2)

トラッシュ3 ⇨ 5

リバイバル版の白夜の宝剣ミッドナイト・サン、そのカードがアクセルカードとしてシデンの手元に置かれる。それと同時に、そのカードが放つ眩く白い光の中にリリモンを包み込み、彼女を小次郎の手札に戻してしまう。

小次郎「……なに!？」

手札4 ⇨ 5

白夜の宝剣ミッドナイト・サンはアクセル効果で相手のスピリット1体を手札に戻す

能力がある。確かにこれならコアの増減は関係ない、シデンとしては厄介なりりモンを
一時的ではあるが除去することができた。

小次郎「……くっ！だが、俺にはまだアトラーカーカブテリモンがいる!!……やれ！アト
ラーカブテリモン!!」

一瞬苦渋に顔を歪める小次郎だが、彼の場にはまだ、もう一体強力な完全体、アトラ
カブテリモンがいる。

小次郎「……そのアタック時効果でお前の、クリスタニードルと、ボーン・ダイルを
手札に戻す!!」

シデン「……」

手札6 → 8

アトラーカーカブテリモンが強烈な電撃がボーン・ダイルとクリスタニードルを襲う。2
体は敢え無くシデンの手札に帰還してしまう。

小次郎はこの時、メタルガルルモンをシデンの手札に帰すこともできたのだが、今、メ
タルガルルモンは疲労状態のさらに上をいく重疲労状態、次のターンはアタックにはど

うせ参加できないだろうと言う理由で戻すことをやめたのだ。

シデン「……万本槍の古戦場」

手札8 → 10

万本槍の古戦場の効果で手札を一気に二桁まで増やすシデン、そのカードの中にある逆転へのロードに繋がる2枚目を繰り出す。

シデン「……フラツシユマジック、デスマサカーを使用する!!この効果で疲労状態のアトラーカーブテリモンを破壊!!」

手札10 → 9

リザーブ2 → 0

トラツシユ5 → 7

小次郎「……な!?!」

紫色の煙がアトラーカーブテリモンを包み出す。アトラーカーブテリモンはそれらに体を蝕まれ消滅した。紫のマジック、「デスマサカー」は疲労状態の相手のスピリット1体を破壊する効果がある。紫の特徴はコア除去だけではない、疲労状態のスピリットを対象にして破壊してくるのも有名な特徴である。

だが、シデンがこのマジックを使用したのはまた別の目的からである。

シデン「……………デスマサカーの【白連鎖】でメタルガルルモンを回復させる!!」
メタルガルルモン（重疲労→疲労）

ぐったりと横たわっていたメタルガルルモンが、起き上がる。疲労状態なので、ブ
ロックはできないが、リリモンの重疲労からは解き放たれたので、次のターンも問題な
くアタックを行うことができる。

小次郎「……………くそ!!!……………エンドステップ、チェイスライドの効果でトラッシュから
回収する、……………ターンエンドだ」

手札5→6

小次郎はエンドステップ時のトラッシュのチェイスライドの効果で再びそれを手札
に加える。これで再びメタルガルルモンの効果を停止させるつもりなのだろう。

しかし、このターンの競り合いは完全にシデンの勝利、小次郎は思わぬカウンターを
受けて、フィール的に大きなダメージを負う。回復可能になったメタルガルルモン、

2枚の強力なネクサスカード、圧倒的手札枚数、正に向かう所敵なし。かたや小次郎はテントモン1体のみ、いくらライフ数で優っているとはいえ、チェイスライドを持つているとはいえ、その差は歴然だった。

「ターン08」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札9 ⇨ 10

リフレッシユステツプ

リザーブ1 ⇨ 8

トラツシユ7 ⇨ 0

シデン「……メインステップ、俺はメタルガルルモンを再びLV3に上げ、手元の夜の宝剣ミッドナイト・サンをメタルガルルモンにダイレクト合体する！」

リザーブ8 ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 4

メタルガルルモンは口でミッドナイト・サンを咥え、合体スピリットとなる。ミッド

ナイト・サンはアクセルカードであると同時にブレイブカードでもある。

シデン「……アタックステップ！」

メタルガルルモン＋白夜の宝剣ミッドナイト・サンLV3（4）BP21000

万本槍の古戦場LV1

万本槍の古戦場LV1

バースト無

シデンは余程自信があるのか、先ほど戻されたスピリット達を再度召喚はせず、メタルガルルモンのみが戦闘態勢に入る。

シデン「……やれ！俺のメタルガルルモン!!その効果で貴様のテントモンのコアとリザーブのコアを1個ずつ、計2個をトラッシュユヘ送り、こいつを回復させる!!!」

メタルガルルモン＋白夜の宝剣ミッドナイト・サン（疲労↔回復）

小次郎「……くつつ!!!」

テントモン（1↔0）消滅

リザーブ6↔5

トラッシュユ5↔7

メタルガルルモンは体中に装着されているミサイルで小次郎のコアを荒らす。圧倒的な爆撃にテントモンは耐えられず、敢え無く爆発してしまう。

もう小次郎のフィールドにはリリモンは存在しない、メタルガルルモンの効果は問題なく機能する。シデンとしても小次郎としてもこのターンが勝負の分かれ目、

小次郎「……くそ！テントモン!!……だが、俺の手札にはチェイスライドが、……」

そう、いくら回復しようとも小次郎の手札にはチェイスライドがある。チェイスライドがあればメタルガルルモンを毎ターン疲労させることができる。この時小次郎はそう考えていた。だが、そんな甘い考えではシデンに通じないことを今から彼は知ることになる。

シデン「白夜の宝剣ミッドナイト・サンは合体時に【重装甲：赤／緑／黄／青】を与える。貴様の緑の効果はもう受け付けない」

小次郎「……な、なんだって!？」

シデンは自分に対して強烈なメタ張りをして来た小次郎にメタ張りで返して来た。これでもうメタルガルルモンは止まることはない、小次郎のライフを砕くまでは、

シデン「……さあ！アタックはどうする？」

小次郎「……ライフだ」

ライフ4[☆]2

メタルガルルモンは小次郎のライフをミッドナイト・サンを使って十文字に切りつける。ミッドナイト・サンは白のシンボル持ちのブレイブのため、現在メタルガルルモンはダブルシンボル、よって小次郎のライフを一回のアタックで2つ破壊できるのだ。

シデン「……お前の強さは認める、花火のライバルと自称するだけのことはある。雑魚呼ばわりは撤回しよう、だが、貴様はDパラディンに頼りすぎた」

小次郎「……!!」

シデンは小次郎の強さを認めると同時に彼のDパラディンに頼ってしまうプレイングを指摘する。デジタルスピリットのデッキは基本的に「進化」を使うためにそれらの

スピリットを沢山デツキに入れることになるが、シデンや花火のように白紫や、地竜のデツキでまとめると言った構築も可能。その場合はデジタルスピリット以外のカードが重要となる。それらの力が合わさった時の力は純粋なデジタルスピリットのデツキをたやすく超えてしまうだろう。その証明が、今のこの状況だ。バトルの実力はプレイングだけではない、デツキ構築の時点で既にバトルは始まっているのだ。

シデン「……ラストだ!!メタルガルルモン!!!」

小次郎「……くそ!!!俺はまだ……」

ライフ2っ0

「負けられない」そう言いかけた瞬間、メタルガルルモンが小次郎の最後の2つのライフを同時に斬りつけて破壊する。準決勝第二試合、勝者はシデン。

実況者「……決まったああああ!!……又しても怒涛の大逆転!!!決勝への最後の切符を手に入れたのは反乱軍のリーダー!!シデンだああああ!!」

小次郎「……くつ!!」

シヅン「……貴様も誇り高き、強いバトラーだった」

小次郎「……ちつくしょう……!!」

シヅンは最後に小次郎にそう言い残してその場を後にした。小次郎は負けたショックや!!完全敗北からか、体中の力が抜けて、膝をついてしまう。

小次郎にとつて、花火と決勝で優勝を争うという行為はどれだけ幸福だったことか。あと!!歩、あと一歩というところで、自身の願いを閉ざされた彼の悔しい気持ちは計り知れない。

実況者「……さあ!いよいよだああああ!!最後の決勝は数時間後!!しばし休憩の時間となります!!」

そんな小次郎の気など知らない実況者や観客は次の花火とシデンの決勝戦へと胸を膨らましていく。

先ほどの試合のインターバルのためにほんの2時間程度の休憩に入る。その間にシデンと花火は最後のデツキ調整を行う。

*

時は少々遡り、ここは会場の周辺の街はずれの森の中、ここでは反乱軍が、いつDポリスが来てもいいようにシデンとイトニ以外の者達は皆それぞれの持ち場で見張りを続けていた。そんななか、明らかに他とは違うオーラを放つ2人の人影が伺える。シデンの右腕であり、本物の忍びでもあるシユリと、ピエロの面を被った反乱軍のブレイン、ドューケだ。どうやら2人だけで会話しているようだ。あの2人の放つ異彩なオーラの間、他の者たちは皆近づくとができないのだろう。

ドューケ「……準決勝第二試合も終わったようですね〜」

会場の歓声がドューケ達のいる森にまで木霊してくる。シユリはこの時点でシデンの勝利を確信した。

ドューケ「……ところでシデンさん?……イトニを捜さなくて良いのですか?」
シユリ「……………」

行方知らずになったイトニ、他の反乱軍は見張りをしながらもイトニを搜索している。

シユリ「……大丈夫だ。もう犯人の目星はついている」

ドユーケ「……犯人？ どういうことですか？」

シユリ「……イトニは間違ひなく誘拐された……もう白状したらどうだ。これ以上シデンさんを困らせるようなことはするな、……ドユーケ」

つまりシユリはイトニを行方不明にしたのはドユーケだと言っていることになる。それに対しドユーケは顔に汗を垂らすことなく涼しい顔を保ったまま口を開く。

ドユーケ「私が犯人ということですか？ よしてくださいよ、そんなわけないでしょ？ 私はずっとあなた方と見張りをしていたのだから、」

シユリ「……いや、お前は昨日、1人になったタイミングで一度姿を消している。不思議な闇に……そしてお前がそこから再び出て来た時俺は見た、お前ともう1人、気絶していたイトニが……!!」

ドューケ「……!!」

全員で見張りといっても絶対に複数人になるというわけではない、1人になるタイミングを作るのにはそこまで苦労はしない、位が上に当たるドューケだったら尚更そのタイミングは作りやすい。

シユリはここ最近怪しげな行動が目立っていたドューケを密かに監視していた。そしてたら案の定イトニを拉致した現場を目撃したのだ。

シユリ「……どういうことだ。ドューケ、なぜお前がそんなことを……イトニを誘拐して何をするつもりだ」

ドューケ「……あゝバレちゃいましたか、流石はシユリさん、暗躍や尾行はお手の物ですか、まさかこの私が気取られていることに気づかなかったとは……」

とうとう本性を明かすドューケ、イトニは彼のバトルヴァイスに収納されてしまっている。それはどこまでも暗い暗黒の中だった。

シユリ「……!!!!やはりお前が!!なぜだ!!俺たちは仲間ではなかったのか?」

仲間思いの性格であるシユリには心苦しいことであつた。味方に裏切られるのがどれほど苦しいことか、また、裏切ることがどれほど苦しいのかを彼は全て知っているからだ。

ドユーケ「……なぜ？当然私の野望を達成するからに決まつてるじゃありませんか」

ドユーケの言う野望がなんなのかは定かではないが、シユリのやることは一つ。

彼はドユーケにデツキを突きつける。バトルしろと言わんばかりに。やはりバトル同士、決着はどう転がってもフィールドか、

シユリ「……」

ドユーケ「……なんのつもりです？」

シユリ「……見ての通りだ。お前がバトルで勝てば、見逃してやる。だが、俺が勝てばイトニは諦め、お前には反乱軍を抜けてもらう」

ドユーケ「……あらひどい……まあ、いいでしょう」

ドユーケもそう言ってなんだかんだで承諾すると、直ぐにデツキを構える。そしてバトルが始まる。

シユリ&ドユーケ「ゲートオープン、解放！」

*

場所は戻り、また会場内、花火はデツキ構築に励んでいた。散っていった者達のためにもみつももないバトルは見せることができないので一生懸命になってシデンの対策を考える。

花火「……どうすつかなあ、正直メタルガルルモン相手にはメタルシードラモンや、スーパードイラノスと同じように、ヴルムシユーターとウオーグレイモンの連携で返り討ちにする以外手が浮かばないんだよなあ」

圧倒的な攻撃性能を持つ究極体のデジタルスピリット、メタルガルルモン、それに対

抗するべくは同等の存在である花火のウォーグレイモンだが、攻撃性能だけで比べると花火のウォーグレイモンが圧倒的に劣るのだ。

花火「……うーん、やっぱり入れようかな？これ、」

そうやって花火が目にしたのはアトーライ逆襲事件で自分がオメガモンにもらったと言うカード。花火自身は全く記憶にないのだが、これはなかなか使えるカードであつた。

*

菜々子「……どうしよう」

花火がデツキ構築に困る中、ここにも大変困っているものが1人、菜々子だ。決勝戦前の花火を激励しようと彼の控え室に行こうとしたのだが、なにぶん彼女は方向音痴なので道を誤り、すっかり迷子になってしまったのだ。幸いこの会場は円形なので、無事に帰れるとは思われるが、

菜々子「……やっぱカイネちゃんにもついて来て貰えばよかったかなー」

ーその時だった。

男の子「……!!!」

菜々子「……?!」

菜々子はその道で10歳いかないくらいの男の子が泣いているのを見つける。何かあったのだろうかと思い、菜々子は直ぐにその子の元へ駆けつける。

菜々子「……どうしたの？何かあったの？お姉さんに話してごらん!!」

菜々子は膝を曲げ、目線を男の子に合わせて言う。すると男の子はさっきまでの涙が嘘のように晴れてニコリと笑い、微笑みながら菜々子に言った。

男の子「……じゃあ、僕の操り人形になったよ!!!菜々子ちゃん!」

菜々子「……え!?!」

この後、菜々子の姿を見たものは誰もいない。パタリと姿を消してしまったのだ。菜々子もその男の子も、

その男の子の名は「ラフーキ」

*

一方ここはバトルフィールド、ドューケとシユリが戦っている。現在はシユリのターンだ。シシノビや、ラツパンサー、そしてソウルドラゴン焰影、シユリのデツキの錚々たるメンバーが集まっていた。

かたやドューケのフィールドには紫のデジタルスピリットが集まる。見た目通りヴァンパイアのようなスピリット、ヴァンデモンや、女性型悪魔のレディーデビモン、鬼のような姿のオーガモン、なかなかの顔ぶれだが、シユリのスピリット達と見比べるとやはりやや見劣りしてしまうと言ったところか。

ドューケ「……ふむ、なかなかやりますね」

シユリ「……当たり前だ!!俺はシデンさんのためにずっと鍛錬をしてきたのだからな!!行くぞ!煌臨!!」

ラッパンサーが緑の風を纏う。そして鎌鼬のようにそれらを振り飛ばすと中から、クワガタ型の忍風スピリットが誕生していた。その名は「クワガオキナ」

シユリ「……これが俺のエース！クワガオキナだ！」

ドューケ「……なるほど、これが、」

ドューケはクワガオキナの強者のオーラに恐れることもなく、いつものように飄々とした態度で向かい合っている。彼も相当場をこなしている証拠だろうか。

シユリ「……行くぞ！クワガオキナの効果で……」

シユリはクワガオキナの効果を発動させようとするが……

ドューケ「……ちよつと待ってくださいよ、あなたは今フラッシュユタイミングを使つた。つまり次は私に権利があるのです」

シユリ「……!?何かするきか？」

ドューケ「……当然ですとも、煌臨発揮」

ドューケも煌臨発揮を宣言する。レディーデビモンが、暗黒に包まれたかと思うと、その闇から突如となくトランプのカードがシユリのスピリット達に襲いかかる。シシノビ、ソウルドラゴン焰影、クワガオキナはそのトランプに胸部を突き刺されたと思ったら粒子となって消滅してしまった。

シユリ「……なに!? どういうことだ!? あのスピリットはなんだ!?!」

ドューケ「……あなたは呼びではないのですよ、シユリさん……これで終わりです、行きなさい私のスピリットよ!」

黒い霧に包まれながらそのスピリットはシユリの最後のライフを破壊してくる。

シユリ「……お前は一体何者なんだ!?!」ドューケエエエエ!!!」

ライフ1→0

シユリは結局何が何だか分からぬまま、そのスピリットに最後のライフを破壊されて

完全に敗北した。そしてフィールドから弾かれることもなく、そのままイトニと同じように闇夜のような真っ暗な暗黒へと呑み込まれるように消えていった。ドューケは一人元の場所へと戻る。マスクの裏でもわかるくらい口を開けて笑いながら、

ドューケ「……ふふ、排除完了……もうすぐだ、もうすぐで始まる。……さあ、勝つのは【思い込む右】か、はたまた【考え込む左】か、楽しみですね……ま、どっちが勝つてもいいんですけど」

第96回フロンティアリーグ……その裏で暗躍する影達がそこにはあった。そんな中、ついに花火とシデンの決勝戦が、始まるうとしていた。

第35話 決勝戦・前編【思い込む右】

待たに待った第96回フロンティアリーグの決勝戦、嵐の前の静けさといったところが、会場内には大勢の人々が集まっているというのに、誰一人として口を開かない。

実況者「……さあ！とうとう！今年のフロンティアリーグも終幕が近づいて来ましたああああ!!」

先程の静けさが嘘のように会場から大きな歓声が巻き起こる。

実況者「……今年、Dワールド中の人々が憧れる舞台に立つのはこの2人!!」

数々の激戦をぐり抜け、勝ち上がった両者2名、今年はこの二人が優勝商品である「クローズ・アルファ」を賭けて争うことになる。実況者がそれぞれの名前を呼びあげて

いく

実境者「……先ずは!!!……まさかまさかの未知の世界、リアルワールド出身!!!その天性のドロースェンスと粘り強さで数々の強敵を下して来ました!!!……その男の名は………」

「一木花火」

!!!」

花火が会場内のフィールドへと歩み寄る。その瞬間にまた会場一体が一層、大きな歓声を送る。

小次郎「……あれ!? そういや、菜々子くんは？」

カイト「……あー『花ちゃんのとこ行ってくる』って言ったつきり戻ってこないけど」

小次郎「……はあ? 絶対迷子になっただろう!!」

カイト「……ま、大丈夫でしょ、この会場円形だし」

小沢郎とカイネは共にこの決勝戦を観戦する。菜々子の行方が気になるが、すぐに戻つて来るだろうと、この時は2人ともそう思っていた。

実況者「……そして！Dポリスに抗う反乱軍のリーダー！！！！エースのメタルガビルモンと共に数々の激戦をくぐり抜けて来ました！！……その男の名は【シデン】」

！！！！

シゲンにも盛大に歓声を送られ、花火に続き中央フィールドへと歩み寄つて来た。そして！！両者顔を見合わせる。普通ならここまで勝ち上がつて来たもの同士、機嫌よくお互いを讃えあいながら決勝戦を向かえるのが常識だが、2人はどちらもやや不機嫌そうな形相だ。

シゲン「……悪いが、この後野暮用があつてな、お前との勝負をゆつくり楽しんだな
どいられない」

花火「……そうかよ、俺ももう、牙とのバトルが終わったからな、後は【クロノス・アルファ】を手に入れるだけだ、……じゃあもう、お互いに喋ることはないな」

シデン「……ああ、」

花火は楽しみだつた牙との勝負が終わり、シデンとのバトルはつまらないから早く終わらせた、と言つてるように聞こえるが、内心ではシデンとのバトルも心の底から楽しみたい気持ちでいる。なかなか素直になれないのだ。やはり景光の思つていた通り、どこか花火はシデンに対して同族嫌悪のようなものを感じていたのだろう。

一方でシデンは行方知らずになつたイトニを探すために早く優勝して反乱軍に戻らねばならないのだ。彼は本当に嘘など一つもついていない。だが、別に勝負を楽しみたくな、と言っているわけではなかつた。

実況者「……よおおおおおし!!それでは行きますよおおお!第96回フロンティアリーグ!決勝戦!!始めえええ!!」

花火&シデン「ゲートオープン解放!!!」

2人の掛け声と共にバリアが展開される。Dワールド中の人々が注目する大きな大会、フロンティアリーグ、その決勝戦がついに始まる。

先行はシデン

「ターン01」シデン

スタートステップ

ドローステップ 手札4⇩5

シデン「……メインステップ、ガブモンを召喚」

手札5⇩4

リザーブ4⇩0

トラッシュ0⇩3

シデンのフィールドに最初に現れたのはツノを生やし、狼型のガルルモンの皮を被っている爬虫類型のデジタルスピリット、シデンの愛用する成長期スピリット、ガブモン、

シデン「……召喚時効果」

オープンカード

【デスリターナー】

【ネガ・テュポーン】

残念ながらどちらとも対象外のスピリット、2枚ともトラッシュへと送られる、だが、得られる利点はしっかりと存在していた。

シデン「……ターンエンド」
 ガブモンLV1(1)BP3000
 バースト無

先行でやれることなど限られている。シデンはターンを花火に渡す。この第1ターンの、特に目立つことはやっていないが、シデンの勝利への強い思いが花火にも伝わっていた。当然花火も負けられないのだが、

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「……メインステップ、……頼むぜえ、アグモン!!!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

花火のファーストスピリットはアグモン、これまで花火と共に数々の強敵と戦い、色々な試練をくぐり抜けて来たスピリットの1体、特にアグモンはその効果と存在から花火のデツキのエンジンの存在であって、

花火「……召喚時効果」

オーブンカード

【グレイモン】

【ダイナバースト】

花火はアグモンの召喚時効果でグレイモンを手札に加える。残ったダイナバーストのカードは破棄される。

花火「……ターンエンド」

手札4 → 5

アグモンLV1(2) BP3000

バースト無

花火もこれ以上何もせずにターンを渡す。お互いに様子見となる第1、2ターンとなった。だが、これはバトスピというゲームの性質上仕方ないことであって、本番は次

のターンからとなることは必然だった。

「ターン03」シデン

スタートステツプ

コアステツプ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステツプ 手札4 ⇨ 5

リフレッシユステツプ

リザーブ1 ⇨ 4

トラツシユ3 ⇨ 0

シデン「……ガブモンをLV2へ」

リザーブ4 ⇨ 2

ガブモンLV1 ⇨ 2 (1 ⇨ 3)

シデンはガブモンのカードにコアを乗せてLVをあげる。成長期スピリットにコアを乗せる理由は当然、進化させることだ。シデンはそれだけ終わるとすぐさまアタックステツプへ移行する。

シデン「……ガブモンの【進化】!!!ガルルモン!!!」
ガルルモンLV2(3)BP5000

気高き銀狼のスピリット、ガルルモンがガブモンの進化体として現れる。

シデン「……そのままやれ!ガルルモン!アタック時効果でアグモンのコアを1つり
ザーブへ置き、1枚ドローする!」

手札5 → 6

花火「……」

アグモン(2 → 1)

ガルルモンは青い炎の火炎放射を放ち、アグモンを吹っ飛ばす。アグモンはダメージを負うも辛うじて生き残る。花火が事前にコアを余分に置いておくのが活きたようだ。

シデン「……ガルルモンのアタックだ!」

花火「……ライフで受ける」

ライフ5 → 4

ガルルモンは花火のライフのバリアを噛みつき、それをそのまま1つ噛み砕いてみせ

た。

シデン「……ターンエンド」

このターン、手札を増やしに来たシデン、そんなシデンに対し、花火はどうであるのか。

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシユステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラツシユ3 ⇨ 0

花火「……メインステップ、アグモンのLVを上げる」

アグモンLV1 ⇨ 2 (1 ⇨ 3)

リザーブ6 ⇨ 4

花火もシデン同様、アグモンのLVを上げる。グレイモンに進化させるつもりなのだ

ろう。

花火「……ネクサス、竜の尻尾奇岩をL V Iで配置」

手札6 → 5

リザーブ4 → 2

トラッシュ0 → 2

花火の背後にまるで竜の尻尾のように、ぐねぐねと捻じ曲がった岩が出現する。

花火「……後はお前だな、こい！ロクケラトプス！」

手札5 → 4

リザーブ2 → 0

三本のツノを生やした地竜スピリット、ロクケラトプス、そのコア効率が悪くなっているリバイバル版が登場する。彼もまた花火を地味ながら支えて来た1枚。

花火「……アタックステップ！アグモン！進化だ！」

アグモンもグレイモンに進化する。序盤でのグレイモンの存在はなかなか大きいも

のがあった。一言で言い表すならば、アドバンテージの塊といったところか、

花火「……いけ！グレイモン！アタック時効果でガルルモンを破壊！」

手札4 → 5

グレイモンの口内から放たれる巨大な炎が、ガルルモンを焼き尽くす。破壊に成功した花火は更に1枚ドローのおまけ付き、

シデン「……アタックはライフで受けよう」

ライフ5 → 4

グレイモンはその立派な甲虫のような頭の甲殻で、シデンのライフを1つ砕いてみせた。

花火「……続け！ロクケラトプス！」

シデン「……それもライフだ」

ライフ4 → 3

ロクケラトプスもシデンのライフをツノで破壊する。序盤は花火がやや有利といったところか、ライフ差、フィールド差、どれを取っても花火が有利だった。

花火「……ターンエンド」

グレイモンにLV2(3) BP5000

ロクケラトプスLV2(2) BP5000

竜の尻尾奇岩LV1

バースト無

「ターン05」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ7 ⇨ 8

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

シデン「……メインステップだ、2体目のガルルモンを召喚する」

手札7 ⇨ 6

リザーブ8 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 4

再び彼のフィールドに銀狼が姿を見せる。

シデン「……更にバーストをセット」

手札6 ⇨ 5

シデンのフィールドに今回初のバーストが伏せられる。決勝戦なだけあってその存在感はかなり大きいものとなっていた。

シデン「……アタックステップ、再びいけ！ガルルモン!!その効果でグレイモンを弱らせる！」

手札5 → 6

花火「……」

グレイモンLV2 → 1 (3 → 2)

今度はグレイモンがガルルモンの青い炎の餌食になる。消滅まではいかないものの、フィールドの端までグレイモンは吹き飛ばされてしまう。岩壁にぶつかる音が妙に生々しい。

花火「……消滅はしてないぞ」

シデン「……これからするさ」

花火「……ふ！だろうな」

これから起こることは花火にも容易に想像ができた。ガルルモンやグレイモンなどの成熟期スピリットには必ず備わっている効果がある。今更説明するほどではないが………

シデン「……超進化!!こい!ワーガルルモン!!」

ワーガルルモンLV2(4)BP8000

紫の光に包まれてガルルモンが、完全体のワーガルルモンへと進化を遂げる。ワーガルルモンはその強靱な両拳を地面に叩きつけると、そこを中心に地割れが起きてしまう。花火のグレイモンはその下に落ちていってしまい、消滅してしまう。

花火「……」

グレイモン(2→0)消滅

シデン「……ワーガルルモンには召喚時とアタック時に相手のスピリットのコア2つをリザーブへ送る」

ワーガルルモンの強力な効果、このタイミングで花火のフィールドのスピリットを除去していくのはなかなかの支配戦術だろう。

シデン「……ワーガルルモン!!アタックだ!その効果で今度はロクケラトプスを沈めろ!!」

花火「……」

ロクケラトプス（2 ⇨ 0）消滅

ワーガルルモンは強烈な衝撃波を飛ばし、ロクケラトプスを吹っ飛ばす。維持コアが0になったロクケラトプスはその場で消滅してしまう。ワーガルルモンの効果はこれだけではない。

シデン「さらに、アタックステップ中にお前のスピリットが、消滅したことにより、ワーガルルモンは回復する」

ワーガルルモン（疲労 ⇨ 回復）

ロクケラトプスの消滅に反応するように紫の光を浴びるワーガルルモン、メタルガルルモンの効果には当然及ばないものの、彼の能力もまた十分に強力なものである。

花火「……アタックはライフだ」

ライフ4 ⇨ 3

ワーガルルモンは強烈な飛び膝蹴りを花火のライフへ命中させる。花火のライフさあつさりと破壊されてしまう。

シデン「……もう一度だ！ワーガルルモン！」

花火「……そいつもライフだ」

ライフ3 ⇨ 2

ワーガルルモンの回し蹴りが炸裂し、花火のライフは早くも残り2となる。今この瞬間Dワールド中の人間がこのバトルを観戦して賑わっていることだろう。

シデン「……ターンエンド」

ワーガルルモンLV2(4) BP8000

バースト有

花火「……結構きついなあ、」

シデン「……なんだもうギブか？」

シデンがそう言うのと、花火は「まだまだこれからだ」と言い返してみせる。次のターンは花火の逆襲が始まる。

「ターン06」花火

スタートステップ

コアシテップ リザーブ7 ⇨ 8

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレツシユステツプ

リザーブ8 ⇨ 10

トラツシユ2 ⇨ 0

花火「……さあ、反撃開始と行きますか〜！先ずはお前だ、ピストジャサウルス!!」

手札6 ⇨ 5

リザーブ10 ⇨ 9

魚のような地竜スピリット、ピストジャサウルスが地面を泳ぐように現る。このスピ

リットはコスト0であり、とても扱いやすいスピリットだ。

花火「……さらに、アグモン!!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ9 ⇨ 7

トラツシユ0 ⇨ 1

花火のフィールドに【進化】の効果で手札に戻ったアグモンが再び召喚される。

花火「……アグモンの召喚時！」

オーブンカード

【原始の森】

【メタルグレイモン】

花火はこの効果でメタルグレイモンを手札に加える。そして花火はを直ぐに召喚する。

花火「こい！メタルグレイモン!!」

手札 5 → 4

リザーブ 7 → 0

トラッシュ 1 → 5

花火のフィールドに身体の前分以上をサイボーグ化した完全体のグレイモン、メタルグレイモンがボロボロの翼を羽ばたかせて現れる。

花火「……メタルグレイモンの召喚時!!ワールガルモンを破壊!!」

メタルグレイモンは出てくるなり、胸部のハッチを開き、そこから巨大なミサイルを発射、ワールガルモンに綺麗に命中させる。ワールガルモンは立っていられるはずもな

く、破壊されてしまった。

シデン「……くっ！」

ミサイルの爆風がシデンの方にも飛んできた。シデンは目の前の砂埃を払うが、メタルグレイモンが既に眼前に迫っていた。

シデン「……く!!」

火花「……いけ！メタルグレイモン！」

シデン「……ライフだ」

ライフ3 ⇨ 2

メタルグレイモンはそのままシデンのライフを左手のアームで1つかち割る。だが、それはシデンのバースト発動の条件でもあって、

シデン「……ライフ減少によりバースト発動!!絶甲氷盾!!ライフを1つ回復し、コストを払いお前のアタックステップを終わらせる!!」

リザーブ5 ⇨ 1

トラツシユ4 ⇨ 8

シデンの伏せたバーストマジック、絶甲氷盾により、このターンのライフの減少は差し引いてゼロにされた。

巨大な氷の壁が花火のスピリット達の行く手を阻む。このターンのアタックはどう考えても不可能だ。花火は止むを得ずターンをシデンに渡す。

花火「……ターンエンド」

ピストジャサウルスLV1(1) BP1000

アグモンLV1(1) BP3000

メタルグレイモンLV2(3) BP9000

竜の尻尾奇岩LV1

バースト無

「ターン07」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシュステップ

リザーブ 2 ⇨ 10

トラツシユ8 ⇨ 0

シデン「メインステップ！魂鬼！ガブモン！LV1！ガルルモンをLV2で召喚！」

手札7 ⇨ 4

リザーブ10 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 4

一気にスピリットを展開するシデン、呼び出されたのは【進化】【超進化】で手札に戻ったガブモン、ガルルモン、そしてそれに加えられたのは景光戦でも活躍したコスト0の鬼の霊魂のようなスピリット、魂鬼。

シデン「……バーストセット！」

手札4 ⇨ 3

シデンのフィールドに再びバーストカードが裏向きでセットされる。

シデン「……アタックステップだ！やれ！ガルルモン！今度こそアグモンを燃やし尽くせ!!」

手札3 ⇨ 4

花火「……くっ！」

アグモン（1 ⇨ 0）消滅

ガルルモンの炎が再びアグモンを襲う。アグモンはさすがに耐えることはできず、その場で消滅してしまう。

だがしかし、そんなことは些細な問題、本当の問題はこのターン、フルアタックされてしまえば花火のライフが尽きてしまうと言うことにある。もちろん、花火はこんなところまでくたばるわけがないのだが、

花火「……アタックはピストジャサウルスでブロック！」

BPでは決して敵わないがピストジャサウルスは果敢にガルルモンに挑んでいく。だが、勝負に決着はつけさせない、花火の本当の狙いはガルルモンとバトルさせることにあるのだから、

花火「……フラッシュマジック！リアクティブバリア！不足コストはピストジャサウルスと、メタルグレイモンのコアを借りる！」

手札4 ⇨ 3

ピストジャサウルス（1 ⇨ 0）消滅

メタルグレイモンLV2 ⇨ 1（3 ⇨ 1）

リザーブ1 ⇨ 0

トラツシユ5 ⇨ 9

ピストジャサウルスがガルルモンと衝突しようとする前にピストジャサウルスが消滅してしまう。だが、その瞬間にガルルモン達の眼前に巨大な氷山の一角が立ち上る。

花火「……今度は俺がお前のアタックステップを止めるぜ」

シデン「……ふん！猿真似か？……ターンエンドだ」

ガルルモンLV2(3) BP5000

ガブモンLV1(1) BP3000

魂鬼LV1(1s) BP1000

バースト有

なんと言おうとこのターンは終わり、次は花火の反撃が始まる。メタルグレイモンの効果をフルに発揮すればこんな盤面は直ぐにどうとでもなる。

「ターン08」花火

スタートステップ

コアシテツプ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステツプ 手札3 ⇨ 4

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 10

トラッシュユ9 ⇨ 0

花火「……メインステップ、メタルグレイモンをLV3へアップ！」

リザーブ10 ⇨ 7

メタルグレイモンLV1 ⇨ 3 (1 ⇨ 4)

メタルグレイモンがコアの上昇で力が強まり、有り余った力を出しきるように雄叫びをあげる。

花火「……バーストをセット！」

手札4 ⇨ 3

花火は今回初のバースト、このバーストが今後どのような影響を与えてくるのか期待がかかる。

花火「……竜の尻尾奇岩もLVを上げとくぜ」

リザーブ7 ⇨ 6

竜の尻尾奇岩LV1 ⇨ 2 (0 ⇨ 1)

竜の尻尾奇岩はLV2から自分のアタックステップ中に地竜スピリットのBPを3000上昇させる効果がある。つまりメタルグレイモンもこの効果にのっとり、BPが上昇する。

花火「……アタックステップだ！やれ！メタルグレイモン!!その効果でガルルモンを破壊して回復！」

メタルグレイモン (疲労 ⇨ 回復)

メタルグレイモンが左手のアームを伸ばし、ガルルモンを貫く、ガルルモンはあっさり吹き飛ばされて破壊されてしまう。

シデン「……くっ！……だが、それがお前の命取りだ！バースト発動！天冥銃アーミラリー・スフィア！」

花火「……!!」

シデン「……その効果でお前のメタルグレイモンのコアを2つリザーブへ送る」

花火「……くっ！」

メタルグレイモンLV3 ⇨ 1 (4 ⇨ 2)

紫の魔力により、メタルグレイモンの力が大幅にダウンする。シデンの銃ブレイブ、アーミラリー・スフィアの効果だ。

シデン「……そしてこの後こいつを召喚する」

天冥銃アーミラリー・スフィアLV1(4)BP3000

紫色の魔法陣から一丁の銃が地面に突き刺さるように落ちてくる。

さらにシデンは間髪入れずに自分のフラッシュユタイミングで煌臨する。呼び出すのはもちろん自分のフェイバリットスピリット、

シデン「魂鬼のソウルコアをトラッシュユに置き、煌臨発揮！対象は天冥銃アーミラリー・スフィア！」

魂鬼(1s ⇨ 0)消滅

トラッシュユ4 ⇨ 5s

コアが全て損失したことにより魂鬼は消滅するが、それにより呼び出される新しい魂が現れる。

シデン「……来い！鉄壁なる神獣よ！今こそ天命の銃と共に宿敵を討て！……メタルガルルモン！」

手札4 ⇨ 3

メタルガルルモンLV3（4）BP16000

紫の渦の中から鋼のボディを持つ鉄壁なる神獣、メタルガルルモンが煌臨する。さらに銃ブレイブの性能はここから開花する。

シデン「……天冥銃アーミラリー・スファイアの【装鎮】により、そのままメタルガルルモンに合体！」

メタルガルルモン+天冥銃アーミラリー・スファイアLV3（4）BP19000

アーミラリー・スファイアがメタルガルルモンの背中に装着される。すると、メタルガルルモンの体色はみるみるうちに水色から純粋な紫色へと変化していく。瞳の色も失い、完璧な機械兵器と化す。

花火「……でやがったな、メタルガルルモン……！今日は勝たせてもらうからな！」
シデン「……ほざけ！お前にそんな余裕はないだろう！……合体スピリットでブロックだ！」

このタイミングはメタルグレイモンのアタック中に起きた出来事、シデンはメタルガルルモンでブロックを宣言する。メタルグレイモンは竜の尻尾奇岩でBPが幾分か増しているとは言え、アーミラリー・スファイアのコア除去効果がでかく、そのBPは90

00、シデンのメタルガルルモンには遠く及ばなかった。

メタルグレイモンを破壊しようとするゆくり歩みを進めてくるメタルガルルモン、メタルグレイモンはそれを止めようと胸のハッチを開き、ミサイルを何発も連射するが、メタルガルルモンの推進力は衰えることを知らず、直進を進める。そしてアーミラリー・スファイアの一長打線を描くような砲撃でメタルグレイモンを撃ち抜く。メタルグレイモンはこれをくらい生きてるはずもなく、そのまま爆発してしまう。

シデン「……これでお前のスピリットはゼロ、勝負あったな」

花火「……ぐっ！」

ここまで1ターン1ターンごとに逆転を繰り返してきたシデンと花火だが、ここにきてシデンのカウンターが炸裂。おまけに厄介極まりないメタルガルルモンを彼のフィールドに立たせてしまうことになった。絶体絶命、花火に勝機はあるのか。

*

決勝の舞台ではなく、ここは白の大陸、Dポリスの本拠地だ。そしてその中では1人

の男が決心を固めていた。

サツマ「……やはり総司令官殿に言わねば、『今は反乱軍などと争っている暇はない』と、」

この男、Dポリスの副総司令官のサツマはDポリスの行動に疑問を感じていた。なぜ他の事件をほったらかしにしてまで反乱軍を捕まえねばならないのか、はたまたなぜ、デジタルスピリットのエネルギーを集めることを優先せねばならないのかを、他の困っている人たちをほったらかしにしてまでするようなことではない。

サツマは以前から疑問を感じていたのだが、それを確信させたのは花火たちも関わった「アトーライの事件」、この事件でより巨悪な存在の「暗黒四天王」の存在が明らかにされたのだ、「特に危害を加えたりしない反乱軍」など放っておいてこの「暗黒四天王」をとっ捕まえた方が世間的にも評判的にも良いではないか？……そう疑問を感じずにはいらなかった。

総司令官殿の部屋に真っ直ぐ歩みを進めていくサツマ、今までは立ち入りを禁じられていたため、入ったことはない、と言うか、サツマは総司令官の顔すら見たことがないのだ。10年前、謎の声の導きにより結成されたDポリス、彼は半ば無理矢理に副総司

令官をやらされていたのだ。だが、その時のDポリスは本当の正義を語るに値する集団であつたため、彼としては有意義ではあつたが……

サツマ「……着いた……ここが」

総司令官室、ここでDポリスに関する全ての事柄を総司令官が管理している。サツマは恐る恐るその引き戸を開ける。ずっと憧れにしていた総司令官に会えるのだ、無理もないが、そして自分のこの想いを全て伝えねば、絶対に伝わる。この時はそう思つていた。

チョウシユウ「……入る時くらいノックくらいしたらどうですか？一応あんたの上司の部屋だぜ、サツマさん」

サツマ「……チョウシユウ!?!なぜお前が総司令官室に」

そこに居たのは聞きなれた声で話しかけてくる自分の部下の姿、チョウシユウはずつと高級な腰掛けでくつろぎ、彼を待つて居たのだ。

「チヨウシユウ……そろそろあんたがここにくるからだ、総司令官殿から、お達しがあつたんでね」

「サツマは不思議で仕方なかった。今まで総司令官は自分へのみ通知を出して支持していたのに、まさかまさかのチヨウシユウに通知を出して待ち伏せさせていたことが……そもそも待ち伏せする理由がなんなのかわからない。……彼にとっては全くもって理解しがたい事柄である。」

「サツマ……どう言うことだ!?!……説明しろ!」

「チヨウシユウ……残念だがサツマさん、あんたとはここでお別れさ」

「チヨウシユウは加えていたタバコを足で踏みつけてバトルヴァイスを懐から取り出す。そして2人のバトルが強制的に行われた。その後、サツマの姿を見たものは誰もいない。」

第36話 決勝戦・後編【考え込む左】

シデンと花火の決勝戦は続く。しかし状況からして圧倒的に優位に立っているのはシデンの方であった。

《シデン》ライフ3

メタルガルルモン+天冥銃アーミラリー・スファイアLV3(4) BP19000

ガブモンLV1(1) BP3000

バースト無

《花火》ライフ2

竜の尻尾奇岩LV2(1)

バースト有

花火のフィールドにスピリットは存在せず、今からシデンのターンが始まると言う過酷な状況、それに追い打ちをかけるように存在するメタルガルルモン、状況は正しく最悪と言えるだろう。

花火「……ターンエンド」

「ターン09」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシユステップ

リザーブ1 ⇨ 6

トラツシユ5 ⇨ 0

シデン「……メインステップ、今一度バーストを伏せる」

手札4 ⇨ 3

シデンの手札から再びバーストカードが伏せられる。

シデン「……アタックスステップだ！」

戦闘態勢に入るメタルガルルモン、シデンは花火に考えさせる間も無く、決着をつける気だ。

シデン「……メタルガルルモンでアタック！その効果で花火!!お前のリザーブのコアを2個トラツシュヘ置き、メタルガルルモンを疲労から回復させる！」

メタルガルルモン+天冥銃アーミラリー・スファイア（疲労↔回復）

花火「……ぐ……っ！」

リザーブ10↔8

トラツシュ0↔2

花火のコアを餌に回復するメタルガルルモン、そもそも回復する必要はほとんどなく、合体スピリットと化しているメタルガルルモンはダブルシンボル、花火のライフも2、一撃で決着がつく。これはシデンの決して慢心していない気持ちの表れでもあった。

花火「……待ってたぜ！お前のアタック！」

花火もまだ負けるわけにはいかない、優勝商品の「クロノス・アルファ」、自分たちの世界へ帰る鍵、それを手にするまでは負けられない。

花火「……バースト発動！ 煌星銃ヴルムシューター！」

シデン「……!!」

花火「……この効果でデッキから一枚ドロウする」

煌星銃ヴルムシューター、花火の銃ブレイブ、専用効果〔装鎮（リロード）〕で煌臨を行えるが、今の花火の手札にウォーグレイモンはいない、このままヴルムシューターだけを召喚しても力を存分に発揮できずに負けてしまうだろう。だからここで、この効果で引かねばならない、ウォーグレイモンを……

シデン「……」

シデンもここまでの展開から花火がウォーグレイモンを握れていないのがわかってきた。会場全体が固唾を呑む。そして花火は意を決してデッキの上のカードを一枚引き抜く。

花火「……ドロー！……」

花火の引いたカードは……

花火「……へへ、やったぜ」

ドローカード【ウオーグレイモン】

見事ウオーグレイモンを引き当て、見せびらかす花火、シデンも『そうこなくてはないと鼻で笑う。』

花火「……こつからが勝負だ！俺はヴルムシューターを召喚して、そのまま煌臨發揮！！ウオー！！グレイモン！」

手札4 → 3

リザーブ3 s → 2

トラツシユ2 → 3 s

花火の背後から炎の輪っかが現れ、その中より、ヴルムシューターを携えた赤い

ウオーグレイモンが姿を見せる。そこから花火の前に飛び降りると、自分の存在をアピールするかのようにはしゃぐ。

実況者「……来たああああ!! ウオーグレイモン!!! ついに、究極体の二体が揃ったああああ!!」

盛り上がる実況者と観客達、確かにこれほど決勝戦として熱い展開はないだろう。

花火「……煌臨時効果! ガブモンを破壊!!」

ウオーグレイモンは掌を合わせてガイアフォースを形成、それをシデンのガブモンめがけ投げ飛ばす。小さなガブモンにはひとたまりもなく、あっさり掻き消されてしまふ。

シデン「……コスト3のスピリットの破壊により、デスリターナーの【不死】の効果を発揮する、デスリターナーを召喚」

リザーブ8 → 6

トラツシユ0 ♪ 1

シデンもただでは転ばない、トラツシユに落ちていたデスリターナーの効果を使い、スピリットの頭数を減らさない。

紫色の渦の中から這い上がるようにデスリターナーが復活する。このカードは最初のシデンのターンでガブモンの効果によりトラツシユへと落とされたカードだ。

花火「……いくぞ！シデン！……ウオーグレイモンでブロックだ!!」

シデン「貫け！メタルガルルモン！」

メタルガルルモンのアタックをウオーグレイモンでブロックする花火、今のウオーグレイモンはBP22000、BP19000のメタルガルルモンより上である。

ウオーグレイモンはメタルガルルモンの突進を受け止める。炎と氷のエレメントが真正面からぶつかり合う。BPの差か、炎の方が僅かながら押ししているように見える。

花火「……BPは俺の方が上だぜ」

シデン「……甘い！フラツシユアクセル、ジャツガスを使用する！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ6 ⇨ 4

トラツシユ1 ⇨ 3

花火「……!!」

ウオーグレイモン＋煌星銃ヴルムシユーター(5 ⇨ 4)

シデン「……この効果でお前のウオーグレイモンはコアを1つ外される!」

花火「……くっ!けどまだLVは3だ!」

シデン「……追加効果で1コア支払うことでさらに相手のスピリットのコアを2つ

リザーブへ送る」

リザーブ4 ⇨ 3

トラツシユ3 ⇨ 4

花火「……なに!?!」

ウオーグレイモン＋煌星銃ヴルムシユーターLV3 ⇨ 1(4 ⇨ 2) BP 22000 ⇨

14000

シデンの手元に紫のスピリットカードが置かれると同時に、紫色の靄がウオーグレイモンを襲う。計3つのコアを外されたウオーグレイモンはLVが3から1へと下がっ

てしまう。

シデン「俺のデッキだったらもつと余分にコアを置くんだな」

力が下がったことにより、均衡していたメタルガルルモンとの勝負に差が開き、徐々に炎がメタルガルルモンの冷気に押され始める。ウォーグレイモンの炎が弱まり、その頭角にヒビが入る。

このまま圧倒されて終わりかと思われた次の瞬間、花火の右腕が動き出す。

花火「……なら俺もフラッシュアキュセル！スピノスレッガーだ!!!……この効果でのターン、ウォーグレイモンのBPは5000上がる」

手札3 → 2

リザーブ5 → 3

トラッシュ3 s → 5 s

ウォーグレイモン+煌星銃ヴルムシューターBP14000 → 19000

シデン「……!?!」

実況者「……なananとおおお！、花火選手！このタイミングでウォーグレイモンのBPを底上げ!!!メタルガルルモンと同じBPに仕立て上げたああああ!!!」

花火の手元にもスピリットカードが置かれる、それと同時に息を吹き返すウォーグレイモン、その炎のように燃えたぎる闘志をそのままメタルガルルモンにぶつけていく。メタルガルルモンも顔面の装甲にヒビが入っていく。競り合う両者からは蒸気が漏れ出す。お互いもう、体がオーバーヒート寸前なのだろう。

シデン「……ぐう！ 怯むな！ メタルガルルモン!!!」
花火「……負けるな!! ウォーグレイモン!!!」

絶叫する2人の言葉を聞き、互角の勝負を繰り広げるDパラダインの双壁の2体、互いに眼光を放ちながら、さらに力を入れ合う。

ぶつかり合う炎と氷のエレメントはついに混ざり合い、大爆発を巻き起こす。その爆発はまるで原子爆弾でも落とされたかのよう。二体とも無事であるわけがなく、爆煙が晴れる頃にはその場から姿を消していたが、二丁の銃ブレイブだけは銃口を下に向け、それぞれのフィールドの地面に突き刺さっていた。

実況者「……なんということでしょう!!! 究極体同士の戦いは引き分けに終わりました

たあああああ!!」

シデン「……引き分けだ?!」

花火「……助かったぜ、ウォーグレイモン」

跡形もなく消え去った2体の究極体、だが、決してこの決勝戦が終わったわけではない、シデンはアタックステップを続ける。デスリターナー、メタルガルルモンの効果で回復状態のアーミラリー・スフィアのアタックが通れば花火のライフはゼロになる。

シデン「……デスリターナー!!」

花火「……フラツシユマジック! ガイアフォース! アーミラリー・スフィアを破壊!」

手札2 → 1

リザーブ3 → 1

トラツシユ5 s → 6 s

シデン「……!!」

巨大な炎の玉がアーミラリー・スフィアを焼き尽くす。

花火「……デスリターナーのアタックはライフで受けてやる」
ライフ2 ⇨ 1

ガイアフォースのことなど気にも止めずに走るデスリターナーは高く飛び上がり、花火のライフを剣で破壊した。これで花火のライフはいよいよ後1つとなる。

シデン「ターンエンド」

「ターン10」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 ⇨ 3

ドローステップ 手札1 ⇨ 2

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 9

トラッシュ6 ⇨ 0

花火「メインステップ、手元からスピノスレッガーを召喚！」

リザーブ9 ⇨ 6

トラツシユ0 ⇨ 2

フィールドに現れるのは恐竜、スピノサウルスをモチーフにバイザーを装着したスピリット、スピノスレッガー、効果がBPパンプのみ故か、コスト4にして驚異のBPを誇る。

花火「……まだまだ！ネクサス、ボルカニツクキャニオンと、グレイモンを召喚する！」

手札2 ⇨ 0

リザーブ6 ⇨ 0

トラツシユ2 ⇨ 5

花火のフィールドに今回2体目となるグレイモンと、ネクサスのボルカニツクキャニオンが現れる。

花火「……グレイモンとヴルムシユーターを合体！」

グレイモンは手が短すぎてヴルムシューターを握ることができないので、ヴルムシューターが謎の浮力を得て、彼の周りをファンネルのように浮遊する。

花火「……アタックステップ！」

グレイモン+煌星銃ヴルムシューターLV3(4) BP18000

スピノスレットガーLV2(3) BP17000

竜の尻尾奇岩LV2(1)

ボルカニックキャニオンLV1

バースト無

2体の恐竜は元々のBPとボルカニックキャニオン、竜の尻尾奇岩の効果も相まってなかなかのBP数値になる。これでシデンにフルアタックで与えられるダメージ数は合計で3。

シデン「……」

花火「……いけ！グレイモン！効果でデスリターナーを破壊してデッキから一枚ドロー！」

手札0 → 1

グレイモンは炎の玉を口内で形成し、デスリターナーに向けて放つ。デスリターナーはひとたまりもなく直撃し、爆発。呆気ない最後を遂げる。

シデン「……ライフで受ける」

ライフ3 → 1

花火「シンボルは2つだ！ブチ抜け！グレイモン！」

グレイモンの強烈な頭角の一撃がシデンを襲う。残り3つのライフが一気に1つになる。だがそれはシデンのバーストの引き金でもあつて……

シデン「……ライフ減少によりバーストを発動！絶甲氷盾！」

ライフ1 → 2

リザーブ9 → 5

トラツシユ4 → 8

花火「……2枚目の絶甲氷盾!？」

シデンのライフがまた1つ復活する。言わずと知れた白の防御マジック、絶甲氷盾の力だ。シデンはその後4つのコストを支払い、花火のアタックステップを強制的に終了させる。

花火「……ぐっ！」

花火達の目の前に巨大な氷山の一角が出現、アタックステップを強制的に終了させられた。止むを得ず花火はターンを終了し、シデンにそれを渡すこととなる。

「ターン1」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ5 ⇨ 6

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ6 ⇨ 14

トラッシュ8 ⇨ 0

シデン「……メインステップ、」

シデンは正直ここまで花火がやれるようになっていいるとは思っていなかった。本当に以前自分に完膚なきまでに実力差を見せつけられたあの花火なのかと目を疑うほどだ。今なら本当に反乱軍に入って欲しい、そう思えるほどに彼の成長を感じていた。

だが、だからとて、負けるわけにはいかない、これに勝てば時空を超越できる奇跡のアイテム、「クロノス・アルファ」が手に入るのだから、これがあれば念願のDポリスの討伐も夢ではない。本当に宣言通り、3ヶ月以内でDポリスを制圧できる。

やはり花火がどんなに自分を否定しようともこれだけは、この考えだけは譲れない。世界を塗り替える力、「オメガバースト」を使おうとしている彼等を自分としてはどうしても見過ごせないのだ。それがたとえ、善良な使い方であったとしても。

花火達が相手にしたという、「暗黒四天王」、彼等も当然見過ごすわけにはいかない、だが、Dポリスを倒してからでも遅くはない。シデンはそう考えていた。シデンと花火が共闘する日も近いかもしれない。

シデン「ボーン・ダイルを召喚」

手札3
→ 2

リザーブ14 ⇨ 11

トラッシュ0 ⇨ 2

シデンのフィールドにワニのような紫の小さいスピリットが召喚される。ボーン・ダイルはメインステップ時に白のシンボルを2つ追加する効果がある。

当然これだけで終わるわけなく、シデンは颯爽と次の手を繰り出す。

シデン「……さらにマジック！ フェーズチェンジ！ このターン、俺のライフはコスト4以上のスピリットから守られ、ゼロに決してならない」

手札2 ⇨ 1

リザーブ11 ⇨ 10

トラッシュ2 ⇨ 3

花火「……!？」

フェーズチェンジ、白の防御マジックカード、その本質は基本的に相手のターンで力を発揮する。だがシデンは何故かあえてそれを自分のメインステップで使用した。一見ただのプレイングミスに思える行いだが、シデンの本当の狙いは直ぐに明らかとな

る。

シデン「……フェーズチェンジの【連鎖：紫】を發揮！……トラツシユにあるコスト8以上のスピリットを召喚する!!」

花火「……!!このためか!!」

フェーズチェンジには【連鎖：紫】の効果がある。それは説明の通り、トラツシユからスピリットを召喚する効果、当然シデンが呼び出すのはあのスピリット。

シデン「……トラツシユよりメタルガルモンを再召喚!!」

リザーブ10 → 0

トラツシユ3 → 9

紫が多少混じった白のリングがシデンの目の前に現れる。そのリングは神々しい光を放つと、回転を始め、冥府の底へとリンクする。さらにメタルガルモンがそこから飛び出してくる。

復活したメタルガルモンに盛り上がる観客や実況者、そんなことには目もくれず、

シデンはターンシークエンスを進める。次はいよいよアタックステップ。

シデン「……アタックステップ」

メタルガルルモンLV3(4)BP16000

ボーン・ダイルLV1(1)BP2000

バースト無

花火「……」

花火のブロッカーはスピノスレッガーのみ、ライフは1、絶対絶命と誰もが断言できる状況だろう。だが、花火はそんな中でも防ぐ自身があるのか諦める顔など一切見せず。にただ前を向いている。まるでバトルが楽しいと言わんばかりに。

シデン「……終わりだ、……メタルガルルモン！効果でスピノスレッガーのコアを2つトラッシュに置き、回復する！」

メタルガルルモン(疲労+回復)

花火「……」

スピノスレッガーLV2 → 1 (3 → 1)
 トラツシユ5 → 7

メタルガルルモンの爆撃でコアが外されるスピノスレッガー、そのBP差がさらに開く。

シデン「……これで〔クロノス・アルファ〕は俺のものだ!!」

花火「……馬鹿野郎！俺らだつて行きたいところあるんだよ！それは譲れない！……力を貸してくれ、オメガモン」

シデン「……!?!」

花火「……フラツシユマジック、グレイソード!!」

手札1 → 0

グレイモン＋煌星銃ヴルムシューター(4 → 0) 消滅

スピノスレッガー(1 → 0) 消滅

トラツシユ7 → 12

シデン「……グレイソード!?!、なんだそのマジックは!!」

見たこともないマジックに驚くシデン、当然だろう、何故ならこのカードは実在した究極にして最強の戦士、オメガモンが花火に託したカードなのだから。花火はグレイソードの効果を淡々と述べていく。

花火「……グレイソードは相手のスピリット一体をデッキの上に戻す……」

シデン「……なに!?メタルガルルモンを戻す気か!？」

花火「……いや、戻すのはボーン・ダイル!お前だ!」

まるでウオーグレイモンを模した劔、グレイソードは天空から凄まじいスピードで落下して行き、ボーン・ダイルに突き刺さる。ボーン・ダイルはそのままデジタルの粒子となり、シデンのデッキの一番上に戻る。

シデン「……なに!?血迷ったか!？」

花火「……いやこれでいい!グレイソードのもう1つの効果でこのターン、俺のライフは完全体、究極体からは一切減らされない!メタルガルルモンのアタックはライフで受ける!」

花火の目の前に太陽のようなマークが現れる。そのマークはメタルガルルモンの攻撃を一切寄せ付けない。

実況者「……凄いだああああ!! 凄いだぞおおお! 花火選手渾身の防御マジック!! この決勝戦、一体どこまでいくんだああああ!!」

シデン「……くっ!、だが、次はない、ターンエンドだ」

現在のシデンのフィールドは究極体のメタルガルルモンのみ、これでは花火の残り1つのライフは削れない。仕方なくシデンはターンを終える。

花火にチャンス到来と言えるが、花火のフィールドはネクススが2枚のみ、手札もゼロ口きた。あまり好ましい状況じゃない。まさしくバトラーとしての底力が試されている時であった。

「ターン12」花火

スタートステップ

コアシテップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札0 ⇨ 1

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 13

トラッシュユ12 ⇨ 0

花火「……メインステップ、マジック、エクスキャベーションを使用！」

手札1 ⇨ 0

リザーブ13 ⇨ 11

トラッシュユ0 ⇨ 2

シデン「……なに!? このタイミングでエクスキャベーションだと!？」

エクスキャベーション、赤のマジックカード、その効果はトラッシュユの地竜スピリットを3枚回収できる効果、この状況で花火は最高のドロウをしたと言える。

花火「……トラッシュユからアグモン、メタルグレイモン、ウオーグレイモンを手札に戻す！」

手札0 ⇨ 3

3枚のカードが再び舞い戻ってくる。そして花火は立って続けに召喚する。

花火「……召喚！アグモン！メタルグレイモン！！」

手札3 → 1

リザーブ111s → 1s

トラツシユ2 → 7

花火のフィールドに再びアグモンとメタルグレイモンが現れる。これで準備は万端、花火はターンシークエンスを進め、アタックステップに入る。

花火「……アタックステップ」

アグモンLV1(1)BP8000

メタルグレイモンLV3(4)BP16000

竜の尻尾奇岩LV2(1)

ボルカニックキャニオンLV1

バースト無

花火の配置したネクサス、ボルカニックキャニオンと竜の尻尾奇岩の効果でBPが底

上げられる2体、メタルグレイモンに至つては既にメタルガルルモンと同値にまでの上げられている。

花火「……いけ！メタルグレイモン!!」

走り出すメタルグレイモン、そしてその肉体は瞬時に赤々と光り出す。

花火「……煌臨發揮！今一度甦れ！最強の龍戦士！ウォーグレイモン!!!」

リザーブ1s → 0

トラツシユ7 → 8s

手札1 → 0

メタルグレイモンは姿形を変えて行き、スマートな人型のフォルムとなる。最強の龍戦士、ウォーグレイモンが再び花火のフィールドへと復活した。

花火「……決着つけようぜ、シデン」

ウォーグレイモンLV3(4)BP21000

再び合間見える究極体の2体、これ以上に決勝戦にふさわしいバトルがあるだろうか、沸き起こる歓声、興奮するDワールド中の人々、これを見てテンションを上げずにはいられない。その中でも一番テンションが上がっているのは花火とシデンのだが、

花火「……煌臨スピリットはその煌臨元のスピリットの全ての情報を受け継ぐ、……
いけ！ウォーグレイモン!!」

シデン「……いいだろう！最後まで俺の全身全霊を持ってお前のバトルに伝えてやる
！いけ！メタルガルルモン！」

迫ってくるウォーグレイモンに対し、メタルガルルモンをぶつけてくるシデン、再び
両雄が激突する。

ミサイルを全弾発射し迎え撃つメタルガルルモン、ウォーグレイモンはそれをひたすらに避けていく。そしてウォーグレイモンは一瞬の隙をついてドラモンキラーの右腕の一撃をお見舞いしようとするが、メタルガルルモンも軽くそれを避ける。

メタルガルルモンはそのまま氷のブレスをウォーグレイモンに浴びせる。ウォーグレイモンの身体はどんどん凍りついていく。

花火「……負けるな!!ウォーグレイモン!!打ち上げろおおお!!」

花火の言葉に呼応するように眼光を輝かせるウォーグレイモン、凍りついた身体を自身の炎で瞬時に蒸発させてメタルガルルモンに近づき、上へと回し蹴りを喰らわせる。顎にクリーンヒットしたメタルガルルモンは上空へと飛ばされる。

そのままウォーグレイモンは拳で連打を叩き込む。炎の拳をなんどもなんども、ゆっくりとヒビが入っていくメタルガルルモン、そしてついに限界を迎えてメタルガルルモンは上空で大爆発を起こす。ようやく、ようやくウォーグレイモンはメタルガルルモンから勝ち星をとった。

花火「……ウォーグレイモンのアタック時効果、トラツシユのソウルコアをウォーグレイモンに置くことでお前のライフを1つボイドに置く」

トラツシユ 8 s ⇨ 7

ウォーグレイモン (4 ⇨ 5 s)

再び地に足をつけ、両手を合掌させるウォーグレイモン、その間隔はドンドン広がっ

て行き、その間からは巨大な炎を成長させていく。限界まで大きくしたウォーグレイモンは一気にそれをシデンに向けて放つ。バトルフィールドを覆い尽くすほどにまで成長した炎の直撃をくらいシデンのライフは溶けるように1つ消滅した。

シデン「……」

ライフ2 ♪ 1

黙り込むシデン、最後に負けたのはいつだろうか、また、最後に自分を負かした人物は誰なのかと考える。そう考えていくうちにたどり着いたのは自分の父親、あの時はバトルを始めたばかりであった。

シデンとイト二の両親は貧しい生活が続いたせいで栄養失調で亡くなっている。シデンはこの時からいつか必ず自分たちのような者をこの世からなくすと決めた。故に今の反乱軍を結成させた理由だ。ドューケにガブモンを渡されたあの日から、必ず、自分の考えは実行できると考えていた。だが、これで少々その道が遠のくか………

花火「……アグモン!!!!」

花火のラストアタック、まるで待っていましたと言わんばかりに走り出すアグモン、シデンは目を閉じながら最後の攻撃を受け入れる。

シデン「……………ライフで受ける」

ライフ1→0

アグモンの鋭い鉤爪の一撃がシデンの最後のライフを破壊する。

一瞬何が起こったのかわからなかった実況者は今一度フィールドを確認する。そして――

実況者「……………き、決まったああああ!! 一体誰がここまで予測できたか!? 第96回フロンティアリーグ優勝は、はるばる未知の世界リアルワールドから現れた赤きゴール男!!! その名も……………【一木花火】だああああ!!」

嵐のように巻き起こる歓声、拍手、それら全てが花火に向けられている。

花火「……へへ、どうだシデン、俺の勝ちだぜ」

シデン「……そうだな、この借りは必ず返すとして、すまないが俺はもう帰る」

花火「おいしい、閉会式まで見ないのかよ」

シデン「……バトル前も言ったが、俺は急いでいるんだよ」

シデンが急ぐ理由、それは行方知らずになったイトニの搜索をすることだ。決勝の勝敗の有無を問わずに急いでシユリ達と搜索しなければならなかった。だが、その用事は直ぐに済んでしまう。

ドユーケ「……シデンさん！」

シデン「……ドユーケ、すまない、俺はリーダーでありながらこの場で勝利を収めることができなかった」

ドユーケ「……そんなことより、重大なお知らせがあるんです！」

ドユーケが息を切らしながらシデンと花火のいる中央フィールドに現れる。その様子から察して、シデンはイトニが見つかったのだということがなんとなく理解した。

シデン「……………!!まさかイトニが見つかったのか!?!」
花火「……………!?!」

珍しく喜びの声を上げるシデン、言葉の意味がわからない花火は首を横に傾ける。
ドューケは切れた息を少々整えて再び口を開く。

ドューケ「……………ええ、見つかりましたよ、」
シデン「……………おお、そうか、よかった」

ドューケ「……………はい、ですからもう、あなたがたは用済みです、右も左も私たち暗黒
の軍勢が消去します」

シデン「……………!?!」

ドユーケの言葉の意味がわからないシデン、そんな動揺の顔を見せるシデンを他所に、指をパチンつと鳴らすドユーケ、すると、大会会場から次々と反乱軍と、Dポリスの軍勢がゾロゾロと現れる。普通ならば対立する2つの軍勢だが、なぜかその様子はなく、互いに足並みを揃えて中央フィールドへと集まってくる。

いきなりのことで逃げ惑う会場の人々、その様子はまさしく阿鼻叫喚の地獄絵図と言えるだろう。

シデン「……な!? どういうことだドユーケ!!」

ドユーケ「……あつ! そういうことば、私の仕事先、もう2つほど言うのを忘れておりましたね、」

シデン「……仕事先だと!？」

ドユーケ「……私、反乱軍以外にも、【Dポリスの総司令官】と、【暗黒四天王の親玉】も勤めてるんです、反乱軍の他のメンバーも、Dポリスの面々も全て私の部下でーす!! 申し遅れてすみませんね、」

シデン「……な!？」

花火「……Dポリスの総司令官、暗黒四天王の親玉!？」

ドューケがさりと自分の正体を晒したことで花火は一瞬にして理解する。今までのDワールドで起きた騒乱は全てこいつの仕業なのだ。自作自演でDワールドの今の状況を作っていたのだと。

シデン「……お前達は今まで俺たちを騙してきたのか!?!……」

ドューケ「……ふふ、別に全てが嘘というわけではないですがね」

不敵な笑みを浮かべるドューケ、そのピエロの面の内側には一体何を考え、何を秘めさせているのだろうか。

シデン「……イトニやシユリはどうした!!」

ドューケ「……シユリさんは邪魔だったので私がデリートして差し上げました、イトニは必要なので私が預からせていただきます」

シデン「……貴様ああああ
!!!」

妹を取られ、仲間を消去され、怒り狂うシデン、直ぐに殴りかかろうとする。だが、それを制止するように拳を止める1人の人影が……その正体はDポリスにおいてサツ

マの部下を10年もの間演じてきた【暗黒四天王の1人、チョウシュウ】、

シデン「……お前は！」

花火「……チョウシュウさん!？」

チョウシュウ「……はあ、……一応、サツマさんのデリートも終わりましたよ」と

チョウシュウは肩が凝っているのか、肩を回しながら、背筋を伸ばす。それが終わると、直ぐにタバコを吸い始める。その様子は仕事終わりの一服といった感じだ。ドューケはその言葉に「ご苦労」と、一言告げる。この会話だけでドューケがチョウシュウの上のものだということがわかる。

花火「……どういことだよ、サツマさんをデリート!？」

ラフーキ「……おいおい!タバコは僕の前で吸うなっていつもいつてるだろ!？」

花火「……!!」

そう言ってまた現れたのは10歳にも満たないような容姿の少年、ラフーキ、彼もま

た暗黒四天王の1人、花火は察する、彼の正体はまさしく、「巨蛾の里で巨蛾姫を暗黒に追いやった張本人」だと、その証拠はあの時あったトラジいの発言だ。おそらく自分の能力で若返りを繰り返しているのだろう。人の魂を食いながら。

ドユーケ「……彼等も私と同じ暗黒四天王、あと1人いましたが、その花火さんに負けて今は三人、仲良くやっていますよ」

花火がウズシオを撃破したことにより、これで暗黒四天王は全員ということになる。

小次郎「……花火いいい！」

花火「……!!」

小次郎とカイネが走りながらこちらに向かってくる。本当は優勝の祝福をしたいところだが、今はそれどころではない。

カイネ「……な、菜々子が、菜々子がいない!!どこにも!!」

花火「……なに!？」

突如姿を消していた菜々子、この騒動になっても姿を見せないのは彼女の性格からして絶対にあり得ないと踏んでいた、2人は間違いなく何かあったのだと気づく。そしてそれは案の定……

ラフーキ「……あゝ、菜々子ちゃんならここに」

そう言いながらバトルヴァイスを振りかざし、菜々子をそこに出現させるラフーキ、だが、その菜々子の目は暗く、いつもの表情豊かな顔はピクリとも動かない。

花火「……………な、菜々子？」

ラフーキ「……魂は美味しい味だったよ！絶品!!!三つ星あげちゃう!!!」

これから起こるのはDワールドとリアルワールド、2つの世界の存亡を賭けた、正義と暗黒の対決。

最終決戦編

第37話 覚醒する暗黒、漆黒の龍戦士誕生!

自身の正体を明かしたドユーケ、その正体は「Dポリスの総司令官」、且つ、「暗黒四天王の1人で親玉」であった。第96回フロンティアリーグに優勝商品「クロノス・アルファ」を提示し、花火達と反乱軍をおびき寄せたのだ。

そもそも「クロノス・アルファ」を開発したのはドユーケだ。彼はこの力を使い、今まで各所を自在に移動。反乱軍、Dポリス、暗黒四天王の計3つの顔を演じてきた。

イトニと菜々子を捕らえ、一体何を求めているのかはまるで見当がつかない。

花火「……菜々子、だよなあ、？」

菜々子「……」

花火の言葉に一切口をきかない菜々子、いつもなら、調子よく言葉を返してくるのだが……まるで表情を変えようとしなない。

ラフーキ「……無駄だよ、君の声は届かない。もうこの子は生きる屍、僕の操り人形だ」

カイネ「……生きる屍？」

ラフーキは人の魂を抜き取る力と、抜け殻となった人間を操る異能がある。菜々子も魂を抜け取られ、現在に至る。

小次郎「……菜々子君をそんなにして一体何がしたいんだよ!!」

ドューケ「……先も言いましたがね、おそらく最も邪魔になる花火さんをデリートするためですよ」

いまいち真意がわからない暗黒四天王の一味、だが、この世界においての解決する方はただ一つしかないことは確かなようだ。花火も今までの経験でそれを熟知している。

ドューケ「……さあ、あなたに選択肢はありませんよ、花火さん、菜々子さんと戦いなさい」

花火「……」

小次郎「……何を言ってるんだ!!……応じるなよ、花火!こんな無意味だ」

今確かなことは、ドユーケは花火かシデンのうちどちらか1人、またはその両方をどかしておきたいということ。それ以外の真意は定かではない。花火は迷いながらも硬い口を開く。

花火「……わかった、バトルする」

カイネ「……おい!何言ってるんだ!巨蛾姫の時みたいに、本体を倒せばどの道菜々子は蘇るだろう?」

花火「……今、菜々子の命はあいつらに委ねられているんだ。今は言う事を聞くしかない」

カイネ「……っ!!」

この状況に置いても意外にも冷静に返す花火だが、内心彼も相当焦っている。どうすれば菜々子を助けることができるか、その一心で、……菜々子の首に手がかかけられている以上、花火達は彼らに従わざるを得なかったのだろう。

花火「……勝負だ菜々子、少々痛い目見ても、俺達のところに帰ってきてもらおうぜ」
菜々子「……」

花火「ゲートオープン、解放！」

2人はゲートを開き、バトルフィールドへ行く。小次郎、カイネ、シデン、ラフーキもその会場へとゲートを開き、赴く。

ドューケ「……おや？いかないのですか、チョウシュウ」

チョウシュウ「……茶番には付き合いきれん」

そう言ってバトルヴァイスでゲートを開きどこかちがうところへ移動するチョウシュウ、それをよそにドューケは自分も観客席へと向かう。

*

花火「……お前とここで向かい合うのは初めてだな」

菜々子「……」

花火の受け答えに全く口を開かない菜々子。

ドューケ「……そうそう、この勝負で、あなたが勝ってしまったら………菜々子さん
の命はないものと思っついていてください」

花火「……わかつてるよ」

カイネ「……卑怯すぎる」

どちらにせよ花火はバトルをするしかなかったのだが、これでは間違いなく負ける。
だが花火は勝敗など見てなく、このバトルの間でなんとかして菜々子の洗脳をラフーキ
を倒す以外の方法で探すことを考えていた。

花火と菜々子、2人の哀しきバトルが始まる。先行は花火だ。

「ターン01」花火

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ♠5

花火「……メインステップ、ネクサス、龍射砲台を配置」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 4

花火の背後に西洋の龍を模した巨大な砲台が設置される。

龍射砲台は相手によってライフが減らされた時、相手のBP5000以下のスピリット1体を破壊する効果がある。花火はこの効果を駆使して極力バトルが長引くように仕向けるつもりだ。

花火「……ターンエンド」

「ターン02」葉々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

菜々子「……メインステップ、ピヨモンを召喚」

手札5 → 4

リザーブ5 → 0

トラツシユ0 → 3

花火「……!!」

花火はここで自分が犯したミスに気づく。菜々子のデッキには召喚時にネクサスを破壊してくるピヨモンが入っている。それを見越していたのならネクサスなど配置はしなかっただろう。やはり、どこか花火にも焦りが生じていた。

ピンクの体毛を持つ鳥型の成長期スピリット、ピヨモンは召喚されるなり、緑色の炎を口から放ち、花火の龍射砲台を焼き落とした。

小次郎「……あいつ大丈夫なのか？」

カイン「……相当シヨックだったのね」

いつものような冷静でいられない花火を心配する2人、このバトルを心苦しく思うと同時に何もできない自分達を情けなくも思っていた。

菜々子「……アタックステップ、ピヨモンの【進化：赤】、バードラモンに進化」

ピヨモンを進化させ、炎の巨鳥、バードラモンを召喚する菜々子。バードラモンはどこか悲しそうな目で花火を見つめていた。

菜々子「……バードラモンでアタック」

手札4 → 5

バードラモンはアタック時に1枚ドロウする効果がある。まだ序盤中の序盤だが、この時点でアドバンテージ差は圧倒的に菜々子が有利と言える。

花火「……ライフで受ける」

ライフ5 → 4

バードラモンが強力な翼撃を花火のライフにぶつける。花火のライフは1つ碎け散ってしまう。あまり痛くないダメージから花火は暗黒の影響かはないと考えた。

ラフーキ「あいつ全然痛そうじゃないな」

ドューケ（やはりそうでしたか、あなたはもう既に………、左をデリートするで正解でしたね、極力右も消しておきたいのですが）

意味深なことを呟く暗黒四天王達、やはり彼らにとってDパラディンの双壁は厄介極まりない存在なのだろうか。

菜々子「……ターンエンド」

バードラモンLV2（2）BP5000

バースト無

「ターン03」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1⇩2

ドローステップ 手札4⇩5

リフレッシュステップ

リザーブ 2 ⇨ 6

トラツシユ 4 ⇨ 0

花火「……メインステツプ、ピストジャサウルス、ロクケラトプス、アシガルラプター
！召喚！」

手札 5 ⇨ 2

リザーブ 6 ⇨ 3

花火のフィールドに三体の地竜スピリットが展開される。このスピリット達は今まで花火と共に、アグモン達と共に戦ってきた勇猛なるスピリット達である。その召喚しやすい軽いコストから花火を支えてきた。

花火「……さらに、グレイモンを召喚！」

手札 2 ⇨ 1

リザーブ 3 ⇨ 0

トラツシユ 0 ⇨ 2

花火の背後からのっそのっそとゆっくりフィールドに入ってくる立派な頭角を持つ地竜のデジタルスピリット、グレイモン、メタルグレイモンや、スカルグレイモンに超進化することで花火を支えてきたスピリットだ。

その地竜スピリット達はいつも以上に強い咆哮をあげる。まるで何かに怒りをぶつけているように。

花火「……バーストをセット」

手札1 → 0

花火のフィールドに裏側でセットされるバーストカード、このカードは流れを変えることはできるのか。

花火「……アタックステップ!……グレイモンでアタック!その効果でバードラモンを破壊してデッキから1枚ドロロー!」

手札0 → 1

グレイモンが上空のバードラモンにめがけて炎を射出する。バードラモンに命中す

る。その炎はバードラモンの纏う炎よりも高温だったのか、そのまま焼き焦げながら墜落し、バードラモンは大爆発を起こす。

菜々子「……ライフで受ける」

ライフ5 ⇨ 4

花火「……目を覚ませ！菜々子！」

グレイモンの頭角が菜々子のライフのバリアに突き刺さる。ライフは1つ砕かれ、残り4つとなる。

菜々子は眼の色も顔色も変えずにただ対戦相手の花火を冷たい目で見つめるだけ、まるで機械のように。

花火「……これならどうだ！残った三体でアタック！」

手札1 ⇨ 2

菜々子「……それもライフで受ける」

ライフ4 ⇨ 1

残った三体の地竜スピリットでアタックを仕掛ける花火、ソウルコアが置かれているアシガルラプターの効果でデッキから1枚ドロした。

そして、三体の地竜の体当たりが菜々子のライフを無慈悲に破壊していった。

花火「……菜々子!!」

菜々子「……」

ダメージのショックでもまるでうんともすんとも言わない菜々子、普段の彼女だったら花火とのバトルでは間違いなく楽しげな声で笑顔で振る舞うだろう。

花火「……くそっ! ターンエンドだ」

ピストジャサウルスLV1(1) BP1000

ロケケラトプスLV1(1) BP3000

アシガルラプターLV1(1s) BP2000

グレイモンLV1(1) BP4000

バースト有

花火の有利な状況になったが、その顔には悔しさが前面に出ていた。バトルに勝つても菜々子の魂を取り戻さなければ結局は負けに等しいのだ。仕方のないことだが。

「ターン04」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ6 ⇨ 7

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレツシユステツプ

リザーブ7 ⇨ 10

トラツシユ3 ⇨ 0

菜々子「……メインステップ、角タヌを召喚」

手札6 ⇨ 5

リザーブ10 ⇨ 9

菜々子のフィールドにツノを生やした狸型スピリット、角タヌが召喚される。コストがゼロであることから、これから何かがまた展開されることが容易に想像される。

菜々子「……ガルダモンを召喚」

手札5 → 4

リザーブ9 → 3

トラツシユ0 → 5

菜々子のフィールドに大きな赤い翼と鉤爪を持つ鳥人型の完全体スピリット、菜々子のエース、ガルダモンが召喚される。

菜々子「……そして、炎魔神を召喚」

手札4 → 3

リザーブ3 → 0

トラツシユ5 → 8

花火「……!!……」

フィールドに燃え盛る炎の中から巨大な人型ロボットが姿をあらわす。それは炎魔

神、かつての花火の相棒にして彼の両親の形見とも言えるスピリット、……それが今、花火の目の前に降り立つ。纏うオーラはまさしく強者。

花火「……炎魔神……！」

小次郎「あいつの前に炎魔神がいるなんて」

菜々子「……ガルダモンと左合体」

炎魔神の左手から放たれる赤い光線がガルダモンに繋がれる。ガルダモンは一気に強化される。

菜々子「……バーストを伏せて、アタックステップ、合体スピリットでアタック、炎魔神の効果でバーストを破棄、BP5000アップ」

手札3 → 2

花火「……ぐっ！」

バーストカード【煌星銃ヴルムシユーター】破棄

炎魔神の強大な拳が回転しながら飛んでくる。花火のバーストはあっさりとその拳

に吹き飛ばされる。その拳は役目を終えると再び炎魔神の腕へと装着される。

花火は菜々子のデッキに炎魔神が入っていることすら頭から抜けていたのか。飛んだケアレスマイスで有用な銃ブレイブを失ってしまう。

菜々子「……ガルダモンのアタック時効果」

カイネ「……不味い、効果がヒットしてシンボルを増やされたら花火はもう終わりだ」

ガルダモンはアタック時にデッキの上を1枚オープンしてそれがスピリットなら、ガルダモンに赤のシンボルを1つ付与する効果がある。もし、これが決まれば菜々子のフィールドの合計シンボル数は4、花火のライフをゼロにすることが可能になる。

バトルを見届ける誰もが固唾を飲んでそれを見守る。

菜々子「……」

オープンカード【エンペラードロー】

手札2 → 3

オープンされたのはマジックカード、花火はことなきを得た。小次郎とカイネも肩の

荷が下りホツとなでおろす。

花火「……アタックはライフだ」

ライフ4 → 2

ガルダモンの強靱な鉤爪の一撃が花火を襲う。それは花火のライフを一気に2つも
かち割った。

菜々子「……角タヌでアタック」

花火「それもライフだ！」

ライフ2 → 1

角タヌの体当たりが花火のライフをまた1つ砕く。いよいよ残りライフ1となる。

菜々子「……ターンエンド」

角タヌLV1(1) BP2000

ガルダモン+炎魔神LV1(1) BP10000

バースト有

花火「……安心したぜ、菜々子、お前はいつもどおりだ、ライフを減らすことしか頭にねえ、いつものお前のバトルスタイルだ」

菜々子「……」

花火（もう少し、もう少しなんだ、できるだけこのバトルを遅延させる）

徐々に菜々子に戻ってきたい気がしていた花火はできるだけこのバトルを長引かせるつもりだ。

ドューケ「……無駄ですよ、花火さん、いくらやってもあなたの声などもう、届きはない」

花火「……魂が抜けても記憶が残るはずだ、絶対に見殺しにはさせねえ!」

ドューケ「ふふ、本当に面白い人間だあなたは、いや、【もう人間とは呼べませんか】」

花火「……!!」

小次郎「……!おいそれどういことだよ!」

カイネ「……花火が人間じゃない!」

シデン「……」

「ここにいる誰もが衝撃を受ける一言。全く意味がわからない。人の形をした花火がちゃんと目の前にいるのに、それが人間ではないということが。ドューケはそれについて順を追って説明していく。」

ドューケ「……花火さん、あなたは暗黒の力を吸収しすぎた。いくら才能があるからとはいえ、ね……決め手はウズシオの力を吸い尽くした時、あなたは最早人間などというの種族をとうに超えた存在だ」

花火「……」

ドューケ「……暗黒の力のダメージも自力の暗黒の力で中和しているようですよ、あなたはどちらかといえば私達暗黒四天王とほぼ同じ存在なのですよ」

操られているとはいえ、菜々子にも僅かながら暗黒の力が備わっていた。花火はそれを喰らっても物ともせずバトルをしていた。もつといえ、イト二との勝負の時もだ。あの時イト二は完全に暗黒の力に目覚めていた。花火がバトルダメージをあまり感じなかったのは自分の力でそれを中和していたからだ。

花火「……お前らと同じにするなよ」

小次郎「……そうだ!お前らと同じにするなよ!!今日の前にいるのは間違いなく俺のライバル一木花火だ!」

ドューケ「……ふふ、そうですか、では引き続き頑張ってください」

ドューケの言葉など気にはいられない、花火はできるだけバトルが遅延できるように手を持つことを試みる。

「ターン05」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ3 ⇨ 4

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ4 ⇨ 6

トラッシュユ2 ⇨ 0

花火「……メインステップ、マジック、グラウンドブレイク!炎魔神を破壊だ!」

手札3 → 2

リザーブ6 → 5

トラツシュ0 → 1

花火が放つマジック、グラウンドブレイク、その爆発は菜々子のフィールドにいる炎魔神のみを捉える。炎魔神は爆発に吞まれ、消滅した。

元エースカードを破壊することは花火としても辛いところがあるが、今ここで消しておかないとあとあともつと厄介になることは一番よくわかっていた。

そして次に破壊すべきなのはガルダモンだ。

花火「……来い！メタルグレイモン！召喚！」

手札2 → 1

リザーブ5 → 1

トラツシュ1 → 4

花火のフィールドにボロボロ翼を翻し、体の半分以上がサイボーグの地竜にして、完全体のスピリット、メタルグレイモンが現れる。

花火「……召喚時効果!ガルダモンを破壊!!」

メタルグレイモンはその場で胸部のハッチを開き、ミサイルを数発発射、ガルダモンに命中させて破壊に追い込んだ。

これで菜々子のフィールドには角タヌが一体、花火の遅延はほぼ成功したかに思われていたが。

菜々子「……相手のスピリットの召喚時効果発揮後にバーストを発動、【戦国霸王ギユウモンジ】、BP20000まで好きなだけスピリットを破壊」

花火「……な?!」

そのカードが見えた瞬間、頭の血の気が一瞬なくなる花火達、すっかり忘れていた。菜々子にはこれがあることを。普段の自分なら絶対に犯さないミスをしてしまった。爆炎が花火のフィールドを襲う。その中で断末魔を上げながら散っていく。自分の五体のスピリット達を花火はただ眺めることしかできなかった。

菜々子「……その後召喚」

勢いよく、走り込んで菜々子のフィールドに駆けつけるギユウモンジ、黒い強靱な体に赤い炎の様な鎧は誰が見ても強者と感じさせる。

フィールドはまさしく絶望、花火の手札は残り1枚、しかもそれは最早召喚や煌臨するタイミングもない「ウオーグレイモン」、花火の引きが強いとはいえ、そもそもドローもできない。完全に積みだ。

花火「……」

自分が愚かすぎて声が出ない花火、小次郎達も何か声をかけてやりたいが、かけてあげる言葉が見当たらない。

花火「……ターン、エンド」

ラフーキ「……ひっひ、終わったな」

花火の負けがほぼ確定し、彼を嘲笑うラフーキ、その笑い方は少々特徴的。完全に戦意が損失した花火はただ一言、「ターンエンド」の宣言しかできなかつた。

「ターン06」菜々子

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシユステップ

リザーブ1 ⇨ 9

トラツシユ8 ⇨ 0

菜々子「メインステップ、ギユウモンジをLV2、に」

リザーブ9 ⇨ 7

戦国霸王ギユウモンジLV1 ⇨ 2 (1 ⇨ 3)

なぜか、LV2で止まるギユウモンジ、この菜々子の妙な動きを見て、花火は確信する。菜々子はまだ戦っていると、そう思っただけで力が、戦意が、再び蘇ってくる。

花火「……おい菜々子!!! いい加減思い出せよ! 負けるな!!! 魂抜かれたくらいでお前がくたばるたまじゃねえだろ!!、負けるな!! 負けるな菜々子!! 負けるな!!!」

カイン「……花火」

菜々子がアタックステップに入る直前、花火が口を開く。何度も何度も何度でも菜々に自分の声を届かせるために。

ラフーキ「……ふふ、無駄だよ、無駄、む、だ？」

菜々子「……」

花火「……、菜々子」

菜々子の瞳から大粒の涙が流れていく。なぜだろうか、花火の音が届いたのか、彼女の脳や、耳が彼の声を感じ取ったのかはわからない。だが、確かに届いていた、花火の言葉は菜々子の元へと。

菜々子は涙を流しながら、アタックをしようとしていた手を止めてしまう。完全に洗脳が解けたわけではない。目は冷たいままだ。だが、本能で、そのアタックする手を止めていた。

ラフーキ「……な!? どういうことだ!!! こんなの初めてだ、信じられない」

ドューケ「……くそ! もう少しで奴を倒せるといのに、………仕方ありませんね」

意外すぎる奇跡に驚愕する2人、ドューケは花火にトドメを刺すべく菜々子の立っている台へとバトルヴァイスを使ってワープする。

そして、菜々子の手を動かそうとするのだが、

ドューケ「……動かない!？」

その手はまるで岩の様に動こうとしない。ドューケがいくら力を入れてもなかなかギユウモンジのカードの方まで行かない。

ドューケは強行作戦に移行する。

ドューケ「……くっ! いい加減退きなさい!!」

突き出した右手が菜々子を押し倒す。尻餅をつく菜々子。ドューケは空いたスペースに居座り、自らが直接カードを動かそうとする。

花火「……菜々子!!……お前! そいつに触んなよ!!!」

ドユーケ「……うるさい！くたばれ！」

小次郎&カイン「……花火いいい！」

無慈悲にギウモンジのカードを動かすドユーケ、強靱な4本の足で豪快に走り出すギウモンジ、花火の手札はウォーグレイモンのみ、フィールドのカードは何もなし、これで完全に終わりかと思われた。が、

花火「……ドユーケ、俺はお前だけは許さない、絶対に!!!俺の大切なものを苦しめるお前を!!!」

喜怒哀楽の怒の感情が花火に流れ込む。葉々子は大事な存在、両親を亡くした後の自分の心の支えだった。自分にとっては家族とほぼ同じ存在。花火は許さない、自分の大事なものを奪っていくあいつが、ドユーケが憎くて仕方ない。

殺意さえ感じるほどの暗黒の力が花火の体中から漏れてくる。まるで花火に新たな力を与えようとしているように。

花火「………ぐっ、ぐおおおおお!!!」

ドューケ「……!!」

怒りの心に満ちた花火は、暗黒の力をその身に纏わせていく。目は赤黒く禍々しく光放ち、表情はどんどん鋭く、鋭利になっていく。花火は遠ざかっていく意識の中でウオーグレイモンのカードが、何か違うカードになっていくのが見ていた。

そして、

花火「……グ、オオオオオオオオオ、」

完全に理性が飛んだ、最早人間とは言えない存在が目の前にいる。暗黒の力を持つ者と同じ、いや、それ以上の膨大な力を秘めた存在がこのバトルフィールドに立っている。

カイネ「……花火!」

小次郎「……あの時と同じだ」

小次郎は初めて花火がスカルグレイモンを召喚した時のことを思い出していた。あの時も花火は我を忘れ、只々相手を倒すだけのキラバトラーと化していた。

ドューケ「……これほど彼の力が増大していたとは、だが、どの道ここで終わる！や
りなさい！ギユウモンジ!!」

走るのをやめないギユウモンジ、徐々に花火の元へと迫っていく。

花火「……俺ハ、手札カラ、ブラックウオーグレイモンノ効果ヲ發揮スル」

ドューケ「……なに!?!」

花火の手札で禍々しく光るそのカードはまるで花火の怒りの感情を表したかのようなスピリット、ウオーグレイモンが塗り替えられた姿、暗黒に染め上げられたとも言えるカード、

ーそれが今、呼び出される。

花火「……ブラックウオーグレイモンハ、相手ノBP8000以上ノスピリットガア
タツクシテキタ時、コスト1ツ支払ウコトデ、召喚スル!!」

リザーブ6
5

ドユーケ「……な!?このタイミングでの召喚!？」

花火「……コイ!!!漆黒ノ闇二染マリシ、龍戦士!ブラック、ウォー!!グレイモン!!!!」

手札1→0

ブラックウォーグレイモンLV3(4)BP15000

リザーブ5→1

トラツシユ4→5

赤黒の炎の球体がフィールドを燃やしていく。その中で蠢く生命体が存在、それは赤黒の炎を切り裂き、焼き切ったフィールドへと降り立つ、それはブラックウォーグレイモン、ウォーグレイモンが暗黒の力に染まった、花火の怒りそのもの。

その姿はまるでウォーグレイモンを映す鏡だが、ブラックの名に恥じず色が黒い、髪の色も金髪になり、カラーリングがより、暗黒の印象を強める。

カイン「……あれが、ウォーグレイモン!？」

シデン「……花火め、あんな隠し技を!？」

隠し技ではない、書き換えたのだ。カードを、俄かには信じられないが、確かに花火

はカードを書き換えた、自身の暗黒の力をフルに使って、スカルグレイモンもそうやって生み出したカードだ。

決して前例がないわけではない。花火達の故郷、リアルワールドにもこのような、または似たような現象が稀にだが、起こることがあった。バトラーとスピリットの真の絆が起こす非科学的な現象とされているが、未だその確信はない。花火はその現象とはやや形質が異なっているが、自身の持つ暗黒の才能がこれと同じようなことをやってのけたのだ。

花火「……ブラックウオーグレイモンノ召喚時効果、BP12000以下ノ相手ノスピリット一体ヲ破壊スル!!角タヌダ!!イケ!!暗黒ノガイアフォース!!!」

ブラックウオーグレイモンは両手を天に掲げ、両掌のひらの間隔に赤黒の炎の球を形成、それを角タヌに投げつける。角タヌのような下級スピリットがこの攻撃に耐えられないはずもなく無残に散って行った。

花火「……ギユウモンジハブラックウオーグレイモンガブロックスル!!!」

突進してくるギユウモンジを体全体で受け止めるブラックウオーグレイモン、最初は勢いを殺せず、押されるも、直ぐにギユウモンジを制止させる。そのまま怪力でギユウモンジを持ち上げる、体格の差がまるで違う2体だが、ギユウモンジは軽々と持ち上げられた。ブラックウオーグレイモンはギユウモンジを地面に叩きつけ、横倒れになったギユウモンジにそのまま角タヌ同様、暗黒のガイアフォースで土手っ腹に風穴をあける。猛者であるギユウモンジも流石に耐えることができず、大爆発、無残にも儚くその命は散ってしまった。

ドューケ「……この力は恐らく、我々以上の、いや、下手をすればあの方よりも……
やはり始末しておかねば……今ここで、」

花火「……俺ノターン」

ターンを行えないと判断した花火は強制的に自分のターンを迎える。理性を完全に失った彼はもう遅延などという考えはない。ただ、このバトルで勝つことしか頭にな
い。

「ターン07」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札0 ⇨ 1

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 7

トラッシュユ5 ⇨ 0

花火「……アタックステップ」

メインステップはすつ飛ばし、そのままアタックステップへと移行する花火、勝つてはいけないことを忘れ、残り1つの菜々子のライフを消し飛ばしに行く。もつと性格に言えば狙うのはあの場にいるドューケなのだが……仲間達もその花火が漂わせる異様な空気からそれを察する。

小次郎「……おい！お前まさか」

花火「……ブラックウオーグレイモンデアタック!!」

走り出すブラックウオーグレイモン、最早誰に止められることのできない、花火の暗黒化。

ドューケ「……ぐっ！一木花火!!この女が見えませんか!?!、このバトルであなたが勝てばどうなるかわかりませんよおっ!?!」

此の期に及んで菜々子を盾に自身の身を庇おうとするドューケ、その屑つぶりには誰もが呆れる。

そして、この瞬間にも奇跡は訪れる。ラフーキの胃が体調不良を起こす。

ラフーキ「……うっ、なんだ気持ち悪、お、おえっ!」

突然謎の吐き気に見舞われたラフーキ、直後、彼の口から白く輝く、宝玉のようなものが飛び出してくる。

ラフーキ「……な??菜々子ちゃんの魂が!?!」

ドューケ「……なんだと!?!」

そう、それは菜々子の魂、白く純然たる輝きを放つその宝玉のような魂はまるで彼女の心を表しているようだ。原因はわからない、Dパラディンを持つもの同士、強く惹かれあつたのか、ただ単純にラフォーキが体調不良だったのか定かではない。だが、菜々子の魂はラフォーキの体内から飛び出してきたのだ。

その魂は瞬時に吸い込まれるように菜々子の元へと戻り、胸元からすうつと中に入っていく。そして、ゆっくりと目の色が戻っていく。

菜々子「……花ちゃん!!」

菜々子が目覚める。操られているときの記憶が存在しているため、今まで自分が何をしてきたのか、その愚かさを理解していた。彼女もまた、「花火を助けなければ」と一心不乱に考えていたのだ。

花火「……!!!
!!!……………グオオオオオオオオオオ、」

菜々子の声に反応して、自我を取り戻そうと花火がもがき出しているのか、そう見え

るように花火は苦しみ出す。

花火「……!!ぐ、ウウウウウウウ」

時間はない、ブラックウオーグレイモンのアタックが有効中なのだ、走るのをやめな
いブラックウオーグレイモン、その黒いドラモンキラーの一撃が今にも菜々子とドユ
ケを襲おうとしていた。

そして、最後のライフにブラックウオーグレイモンの黒きドラモンキラーの鋭い鉤爪
が突き刺さろうとしたその時だった。

ブラックウオーグレイモンの身体が、氷のように変化し、細かく砕け散って行つた。
それはフィールド内の柔らかな風飛ばされ、バトルフィールドの彼方へと姿を消す。

花火「……フラッシュマジック、リアクティブバリア、不足コストはブラックウオー
グレイモンから全てのコアを取り除く」

手札1 → 0

ブラックウオーグレイモン(4 → 0) 消滅

トラッシュ0 → 4

菜々子「……花ちゃん」

それは一瞬だった、一瞬のうちに、自我を取り戻した花火は、呼吸するように、引いていたりアクティブバリアを起動させたのだ、

リアクティブバリアの効果はアタックステップを強制的に終わらせるといふもの、花火のターンはこれで終わりとなる。本来は自分のターンに使うものではないが、仕方ない。強制的に菜々子のターンとなる。

菜々子「……花ちゃん、その」

なかなか言葉に切り口が出せない菜々子、無理もない、不本意ながら敵にまんまと捕まり、このような状況を作り上げてしまったのだから、

花火「……大丈夫だ、わかってる」

ドューケ「……!!ラフーキ!!もう一度、空野菜々子の魂を奪うのです!」

ドューケはそう言って、ラフーキのいる観客席の方へと振り向くが、そこにラフーキ

はいない、いるのはシデンだけ、シデンは本来、花火側の観客席へいたはずなのにどうしてとドューケが思った瞬間にシデンが口を開く。

シデン「……こいつは俺が遊んでやる」

ドューケ「……ぐっ！負け犬目エエエ!!」

徐々にその作り上げていた性格が崩壊していくドューケ、シデンはラフーキが魂を吐いた瞬間に、そちら側に行き一人弱そうな暗黒四天王を始末するために元の空間に無理矢理転送させたのだ。一対一でバトルさせるために。

シデン「……お前もそのうち、俺が潰す、その時がDワールドが真に救われる時だ」

ドューケ「……そんなことをして、イトニがタダで済むと思うなよ!!」

シデン「……あいつはお前にとって必要なんだろ？なら別にどうにもしないはずだ」

ドューケ「……!!」

シデン「……じゃあな」

確信を突かれ黙ってしまうドューケ、シデンは理解していた。イトニが彼らにとって

何か必要な存在であることを。だったら自分が動いても大丈夫と判断したのだ。

シデンはそう言い残し、自分も元の空間へと戻っていった。彼はまるでこうなることを見越していたのだろうか、花火が空野菜々子の魂を取り戻すということ。

ドューケ「……ぐっ!!!貸せ!!!」

菜々子「……きや!!!」

花火「菜々子!!」

ドューケ「……ピヨモンを召喚!!!やれええ!」

ドューケは菜々子から強引に手札を奪う、そして、その中のピヨモンを召喚し、即座にアタックを仕掛けた。

ピヨモンは険悪な表情を見せる。ドューケに扱われるのが嫌なのだろうか、だがカードの向きには逆らえない、小さな翼を羽ばたかせ、飛翔する。

菜々子「……花ちゃん!!!」

花火「……大丈夫だっついていってるだろう?、気にすんなって!」

小次郎「……花火いい!」

カイネ「……花火!!」

他の者達かがどんなに声を揃えてももう遅い。ピヨモンのアタックは止まらない。

ピヨモンはクチバシの先端で花火の最後のライフを破壊した。

花火「……」

ライフ1→0

ドューケ「……再び消えろおおお!!! オメガの片割れえええ!!!」

「どういいうわけかは知らないが、ライフがゼロになった途端、足元から花火の体が粒子となつて消滅していく。花火は怯えることなく、自分が消滅することを悟る。それと同時に決心した絶対に諦めない。と

菜々子「……花ちゃん!!!」

花火「……すぐ戻るさ」

その言葉を最後に花火は消滅した。ピヨモン以外のスピリットがないこのバトル

ファイルドで、ドユーケの嘲笑と、菜々子の泣き叫ぶ声だけが響き渡っていた。

第38話 運命の再会、VSシン・ゴジラ!

ラフーキは困惑していた。自分の分身であり、長年の相棒、ダークマターズのスピリット、ピノツキモンを召喚していたにもかかわらず。

ラフーキは暗黒四天王の1人、だいたい150年前だっただろうか、子供の時に死の恐怖を感じたのは、……特に病などにかかっていたわけではない、ただ死ぬことを考えるといつも怯えていた。

その時に出会ったのがドューケ、彼は死に恐怖することのない生活にしてあげると言った。ラフーキはそれに飛びつき、暗黒の四天王の力と地位を得た。ピノツキモンのカードとともに。

ーだが、その長年の生命は凍りつこうとしていた。

シデン「……やはり、貴様自体はただの腰抜けの雑魚か」

ラフーキ「……くっ」

シデンに強制的に元の場所に戻された後、軽い挑発をくらい、少しムカついたのでバトルを受けた。彼はこんなやつ小指で放つてやれると思っていた。だが、結果は見ての通り、重装備を施された狼にほとんどのスピリットは砕け散り、ライフも風前のももし火、打つ手はなかった。

シデン「……やれ！メタルガルルモン！」

ラフーキ「!!!!……うっ、死にたくない、死にたくない死にたくない死にたくない死にたくない!!!」

ライフー「!!!!」

全てが木製でできたピノキオ型のスピリット、ピノツキモン、ダークマターズの一体だが、メタルガルルモンは凍てつく氷のブレスで一瞬にして凍りつかせる。ピノツキモンはそのまま機能を停止し、意識を失った。

その後すぐにメタルガルルモンはラフーキにとどめの体当たりをおみまいする。ラフーキは昔感じた死の恐怖を思い出しながらピノツキモンのカードともに灰と化して散っていった。

バトルを終えたシデンはバトルフィールドから帰還する。元の場所に戻って目にし

たものは仮面をつけていてもわかるドューケの笑う顔と、絶望に浸る小次郎達の顔だった。

シデンは察する、花火が消えたこと、そして、これからドューケが何かを自分に伝えるようとするということ。案の定、ドューケは自分の所によつてきた。

ドューケ「……ラフーキを倒しましたか、やりますね」

シデン「……部下があんなものなら、親玉たる貴様も大した實力ではないだろうな、ドューケ」

ドューケ「ボロボロの格好でよく言えたものだ」

仮にも暗黒四天王のラフーキのバトルダメージを受けてシデンはすでに肉体的に限界だ。だが、彼の妹や、世界を救いたい気持ちに彼を突き動かす。

ドューケ「……そこまでしてイトニを助けたいたのであれば、我々の本拠地、紫の大陸に来なさい。決着はそこでつけてあげましょう、この「クロノス・アルファ」があればひとつとびです」

そう言ってドューケは現代的に言えば黒いタブレットの様なものをシデンに手渡す。シデンもそれを受け取る。本当はここで直ぐにでも決着をつけたいが、何をされるかわからない現状、素直に受け取ることを判断したのだろう。

ドューケ「……〔クロノス・アルファ〕は私達の本拠地の中枢部に繋がってます、……
では、待ってますよ」

それだけを言い残し、ドューケは自身のバトルヴァイスを使い、次元の裂け目を作り出し、その中へと姿を消した。

シデンも直ぐに「クロノス・アルファ」を使い、紫の大陸へ向かおうとする。

シデン「……俺も行くか」

小次郎「……ちよつと待てよ!!」

彼を呼び止めるのは小次郎、その後ろで、菜々子とカイネも何かを決心した様な形相でシデンに近づく。

カイネ「……一緒に行かせろ」

シデン「花火の敵討ちか? なら止めとけ、無駄に命を落とすだけだ」

菜々子「花ちゃんは戻って来るって言った。それまでに私達でできることをしたいの!」

小次郎「……そう言うことだ、連れてけ」

彼らの決心は固い、シデンも流石に根をあげる。ここまで言い寄られてこのまま自分一人で向かったとしても、恥を描くのは自分だと自然に感じ取ったのだろう。

シデン「……はあ、懲りない金魚の糞どもだ。まあいいだろう」

結局、一緒に行くことになった彼らは、「クロノス・アルファ」の機能を使い、紫の大陸に移動した。それは花火達が最初にDワールドに来た時の現象と似ていた。光に包み込まれ、眩しいと思って、目を閉じる。次に開けた時にはもう別の場所にいるのだ。菜々子達は広々とした空間に出る。そこには王の玉座の様な場所があり、レッドカーペットが真っ直ぐに敷かれている。

その玉座にはある人物が座っていた。それは菜々子達もよく知る人物。シデンな

とつてはとても大事な守るべき存在。

シデン「イトニ!!!」

玉座に座っていたのはシデンの妹イトニ、ドユーケに誘拐されて以降、気を失い、ずっとこの玉座に座っていたのだ。

その玉座の背後からひょっこりとドユーケが出てくる。その顔の面からは満足感や達成感に満ち溢れ、シデン達を小馬鹿にしている様にも捉えることができる。

ドユーケ「……意外と早く決心して来ましたね、花火さんのお仲間も御一緒とは」

シデン「……ドユーケ!!イトニに何をする気だ!!」

ドユーケ「……何か良からぬことをすると言ったらどうします?」

ドユーケの煽りにシデンは当然の如くデッキを構える。

シデン「……バトルしろ!ドユーケ!!俺とお前で決着だ!!」

世界の命運を分ける世紀の一戦が幕を開ける。……………と誰もが思った瞬間だった。

ドューケは自身のバトルヴァイスを振りかざし、反乱軍の下っ端達や、Dボリスの者達を呼び出して行く。ざっと見て100人はいるだろう。

彼らはまるでレッドカーペットにある玉座に座るイトニとドューケを守る城壁のように配置され、デツキを構える。

ドューケ「……………いいでしょう、では私の所までたどり着けましたら受けましょう」

小次郎「……………鼻っから通す気ないってか？」

カイネ「……………やるしかないでしょ!!」

菜々子「……………花ちゃんのためにも！」

シデン「……………行くぞおおお！」

世界の隅でひっそりと、その世界の命運を分ける大きな戦いが始まる。

「おい！大丈夫か!?しっかりしろ……………おい！」

どこか懐かしい声で誰かが呼ぶ。気を失っていた花火はようやく目を開ける。まるで今までの冒険が夢だったかのような感覚だ。

起きた場所はリアルワールドにも似た風景。だが、自分達の住んでいる街とは少し違う感じだった。花火はその街の河川敷で目を覚ました。

「……よかった、生きていたか」

花火「……!!」

「いや、ごめん、君が息子と同じゴーグルを着けて倒れていたものでね、元気そうで何よりだよ」

その人物の顔を見て眠そうな顔から一気に覚醒する花火、当然だ。目の前で自分を起こしていたのは自分の実の父、「二木聖火（いちきせい）か」だったのだから、

花火「……な、!？」

聖火「……？俺の顔に何かついてるのか？」

花火は状況を瞬時に確認する。自分はバトルに負け、消滅した。その後はどこか違う場所に飛ばされた。

この場所には見覚えがある。10年前の被災地と化す前の自分たちの街だ。そして、聖火の存在からここは恐らく、10年以上前のリアルワールド。とても信じられないが、これまでの出来事から考えて特に驚くことでもなかった。

しかし、皮肉なものだ。敵に負けて、それがきっかけとなり、今こうして自分の父親と再会できているのだから。

花火は考えてみるどうやって元の場所に戻るか。過去に来ることができるとは、未来にも戻ることができると信じて、だが、いくら考えてもその答えは出ない。

聖火「……ひよつとして君、俺のファンか何かか？」

聖火はプロリーグで活躍するほどのプロのバトラーだ。彼のファンは皆、彼と同じようなゴーグルを着けていたのだ。

聖火も花火と似たような砂塵ゴーグルを着けている。元は花火も彼の真似事のように着け始めたのだから、確かにファンと言えばファンか……

花火「……まあ、そんなところです」

今ここで10年後の貴方の息子ですとは言えない。そんなことが知られては未来が変わる可能性だつてある。花火は映画での知識を参考に、未来の自分のことを隠し、あくまで聖火の一ファンを演じることにした。

聖火「……そうか、……よし！ちようどよかつた！君！うちに来ないか？今メツ
チャ暇でねバトル相手が欲しかったのさ！」

花火「……？まあ、そのくらいなら」

渋々ついて行くことになった花火。昔の自分の家に帰る道は懐かしく、こうやって父と肩を並べて歩くなど、夢のようだった。そう思うだけで涙が溢そうになる。

だが、泣いてはいられない。一刻も早くDワールドに戻つて、菜々子達を助けなければならぬのだから。

そんなこんなと考えているうちにようやく一木家の家に到着する。二階建ての赤い屋根の建物といえれば分かりやすいか、如何にもベーシックな家だ。

聖火「……おおーい！帰ったぞ！花名！お客さんもいる！」

花名「あら、いらつしやい、旦那のファン？私は妻の「一木花名（いちきかな）」よろしくね〜」

花火「……はい、よろしくお願いします」

家に入る前から緊張で胸が張り裂けそうだった。10年越しに母に会えるなんて思っても見なかっただろう。その懐かしく聞きなれた柔らかい声は、花火の心を大きく揺らす。

聖火「……この子とバトルすることになったんだ」

花名「……もう、また暇だからってファンの子引つ掛けて……ごめんなさいね、今息子がガールフレンドと旅行に行つてて、休日は暇してるのよ」

花火「……あ、いえ、別に……俺もバトルしたいし」

ガールフレンドとは恐らく菜々子、菜々子と旅行ということは、おそらく今は丁度10年前、この旅行中にこの街で大震災が起き、両親も姿を消す。

聖火「……よし！さっさかやろうか！リビングルームに行こう！」

花火と聖火はリビングルームで普通のバトルをすることになる。花火にとって普通のバトスピは約4ヶ月ぶり、しかもその相手が実の父であり、プロのバトラー、一木聖火。俄然燃えて来る。

先行は花火だ。

花火「……メイんステップ、ロクケラトプス（リバイバル）をLV3で召喚！」

聖火「……赤か」

久しぶりの全手動でのバトル、花火はロクケラトプスを召喚する。当然飛び出して来るわけなく、先行の花火のターンは終わりを告げる。

聖火「……召喚、シン・ゴジラ（第1形態）」

聖火はシン・ゴジラと言うグレイモンと同じ地竜のデツキを使う。第1から4までの形態を有し、第4形態まで上り詰められると手のつけようがなくなるほどの強力があ

る。

聖火「その効果でデッキから4枚オープン」

【ソウルドロロー】

【ソウルドロロー】

【シン・ゴジラ第3形態】

【怪獣王出現】

シン・ゴジラの第1形態はその召喚時にシン・ゴジラカードをサーチする効果がある。聖火はこの効果で第3形態のカードを手札に加え、残りを破棄した。

聖火「……ターンエンドだ」

BP1000の第1形態でBP6000のロクケラトプスのいる花火のフィールドに突っ込むわけもなくターンを終える聖火。花火は久しぶりのシン・ゴジラに興奮が収まりきれない。

花火「……俺のターン、ロクケラトプスのLVを下げ、アシガルラプターを召喚する」
花火はアシガルラプターを召喚。勿論上にはソウルコアが置かれている。

花火「……さらに、ダイナパワー、地竜にBP3000と、指定アタックを付与」

地竜専用マジック、ダイナパワー、地竜にBP3000の加算と指定アタックの効果を与える。花火はこれまでもこのカードでピンチをくぐり抜けてきた。

花火「……アタックステップ、アシガルラプターでアタック、その効果で1枚ドロ―して第1形態に指定アタック！」

LV1のアシガルラプターのアタック、ダイナパワーの力を受けてもBPはたかが5000だが、第1形態を倒すには申し分ないBPだ。

聖火は破壊された第1形態のカードをトラッシュに送った。

花火「……次はロクケラトプス！」

L V 2、BP 80000のロクケラトプスのアタック。ブロッカーのいない聖火は当然このアタックをライフで受けることになる。残りは4つだ。

花火「……エンドステップ、ダイナパワーの効果でトラッシュから手札に戻す」

聖火「……やるなあ、燃えてきたぞ」

一切無駄のない花火のプレイングに感心する聖火。まさか彼が10年後の自分の息子とは思っても見ないだろう。

聖火「……俺のターンだ、2体目の第1形態を召喚、召喚時効果」

オーブンカード

【シン・ゴジラ第2形態】

【リトルゴジラ】

【リトルゴジラ】

【エクスキャベーション】

再び召喚される第1形態、その効果で聖火は第2形態を回収。

聖火「……準備は万端だ。行くぞ！少年！」

花火「……!!」

自然と口角が上がる2人、バトルを心から楽しんでいる証拠だ。聖火はシン・ゴジラの効果の真骨頂を發揮させて行く。

聖火「……第1形態を破壊！第2形態を召喚！」

聖火は第1形態を破壊し、第2形態を召喚。シン・ゴジラはメインステップ時に自信を破壊することで進化ともとれる効果を發揮できる。

聖火「……第2形態の効果で自身を破壊し、今度は第3形態を召喚！」

次々に破壊と進化を繰り返す聖火のシン・ゴジラ、第3形態でも十分な力があるが、聖火はこんなところで一切手を抜く気はない。

聖火「……第3形態の効果で自身を破壊！第4形態を召喚！LV2！」

ついに現れる最強の第4形態、その力は花火の最強スピリット、ウォーグレイモンでも越えるのは難しいだろう。

花火「……第4形態……!!」

花火はこれまで、父とのバトルで第4形態を出させたことがない。それまでに決着がついてしまっていたからだ。だが、今度は違う。父が自分の力を認めてくれた証拠でもあるだろう。花火としてはそれを目の前にするだけで感激だった。

いざ眼前にそれを立たされると如何に第4形態が凄いか伝わってくる。バトルフィールドで実体化しているわけでもないのに、その圧倒的プレッシャーに飲まれそうになる。

花火「……最高だぜ」

聖火「ふふ、行くぞ、アタックステップ！第4形態！その業火で全てを焼き払え！」

第4形態はアタック時にBP15000まで好きなだけ相手のスピリットを破壊できる。ロケケラトプスとアシガルラプターなどひとたまりもないだろう。あつさりとトラッシュ送りにされてしまう。

花火「アタックはライフで受ける」

これで花火のライフも残り4。だが、フィールドは圧倒的に聖火の支配下にある。花火はプロのバトルを実感していた。

花火「……俺のターン、スタートステップ、コアステップ、ドローステップ!……!」

花火が引いたのはアグモンのカード。ドロースた瞬間思い出す。自分が行かねばならぬところ。なさねばならぬこと。まるでそれら全てをアグモンが自分に問いかけてきたようにも感じる。

本当はずっとここにいたい。約10年、こんな生活を待ち望んでいた。自分にとって

の最高の幸福。だが、それは本来ならば叶うことのない夢の世界。この後亡くなる人達が目の前に、確かに今自分の目の前に存在しているのだ。

花火は心の中でアグモンに問う。どうやったらDワールドに、菜々子達のいる場所に返ることができるのかと、すると、必然の奇跡なのか、アグモンのカードが赤く輝きを放つ。

花火「……!!アグモン!」

聖火「……うお!」

花名「……赤い光!、……とても暖かい、」

花火はアグモンの気持ちを読み取る。今まさしくアグモンは「進化させろ」と花火に言ってきた。

花火「……わかったぜアグモン」

さらなる奇跡が起こることを信じて花火は動き出す。

花火「……アグモンを召喚！」

花火はアグモンを召喚する。これまでも何度もこのスピリットに助けられてきた。自分にとっての相棒。

聖火「……おお！さつき光ってたカードか!?強そうじゃないか!!」

花火「召喚時効果！」

オーブンカード

【リアクティブバリア】

【グレイモン】

召喚時効果は成功。成熟期のスピリットカードグレイモンが手札に加えられる。これで進化の準備が整う。

花火「……行くぜ、アタックステップ！アグモンの【進化：赤】を発揮！進化だ！アグモン！」

聖火「……すげえ」

花名「……かつこいい」

花火はアグモンのカードをグレイモンに進化させる。両親2人も思わず感嘆の声を漏らす。今まで何度もしてきたこのプレイング。花火を幾度となく支えてきた花火のアグモンのグレイモンによる連携。

グレイモンの登場で花火の背後に巨大なワームホールが瞬時に形成された。花火は悟る。4ヶ月前、自分達がDワールドに来たのは、バトルヴァイスの影響ではなく、アグモンとテントモンの力であつたことに。

花名「……え!?なに!?!」

聖火「……なんだ?」

当然意味がわからなかったであろう両親。見知らぬ少年の背後から当然全てを飲み込むブラックホールのようなものが出現したのだ。しようがないといえましょうがないが。

花火「……すみません、急用を思い出したので、帰ります」

そんな言葉では済むはずはないだろう。花火はいつもの軽い調子でこの場から消えようとする。普通ならば一度呼び止められるはずだが、

聖火「……そうか、これはドア的なやつか、なら仕方ないな、帰りなさい」

花名「また来てね」

順応が早い。流石は花火の両親といったところか。今この場に小次郎がいれば、「この親にしてこの子あり」とツツコミを入れそうだ。

花火「……それじゃ」

聖火「……ちよつと待ちな！これは選別だ！」

聖火は一枚のカードを花火に投げ渡す。そのカードを確認する花火だが、それを見て驚愕する。信じられなかった。

花火「……!!なんでこれをあなたが!?!」

聖火「……まあ、気にすんなよ!」

ガッツポーズをするだけで肝心なことはないも教えない聖火。今は急を急ぐので、考えるのは後にしようとしてそれをデッキにしまう花火。

花名「……あつ! そうだ! じゃあ私も、……ちよつと待ってね」

この状況下で嘸かし当たり前のように、違う部屋に行く花火の母、花名、数十秒で帰ってくる、あるものを花火に渡す。

花火「……ゴグル!?!」

花名「……そう、息子の誕生日が近いから買って置いたんだけど、サイズが合わないかな〜と思って、なら君に渡そうってなったの」

それは花火のゴグルとは少々サイズが違う。プレゼントの方が大きい。本来ならば花火はこのゴグルを炎魔神のカードとともにもらっていたことだろう。

花名「……ごめんなさいね、おせっかい焼いて、でも貴方を見ているとどうも他人とは思えない。どこに行くかはわからないけど頑張ってるね」

いつからだろう。母の身長を超えたのは、手に握られるプレゼントのゴーグルに抱きしめてくる母の体の温もりに花火は涙がこみ上げてくる。

花火「……ありがとう、頑張るよ、俺！頑張るから！」

そうやって泣き声になりながら花火はゲートの中へと入っていった。両親との最後の別れをしながら。暫くしてゲートが閉じる。まるで何事もなかったかのように場がしらける。

花名「……さようなら、花ちゃん」

聖火「……頼んだぞ、息子を、世界を守ってくれ、あの時のように、……」【オメガモン】

ーこの世界はオメガモンが花火のために創り上げた幻影。全ては花火をDワールド

に蘇らせるためだ。

オメガモンは花火に対して罪悪感を感じていた。それはその昔、リアルワールドの大震災は自分が引き起こしたものだから、

リアルワールドとDワールドでは時の流れの進み方が全く異なっている。Dワールドでは何年も前に起きたDパラディンと暗黒の軍勢の聖戦はリアルワールドではほんの10年前の出来事なのだ。

その時の聖戦で起こしたオメガモンの秘技、「オメガバースト」、その余波が空間を揺らし、リアルワールドまで伝わり、大地震を引き起こしたのだ。本来ならば制御できるはずだったが、この時、ウォーグレイモンが暗黒化していたため、力が幾分か増していたのだ。それで花火の両親は行方不明。

このことから、オメガモンは花火に対して罪悪感を感じ、この幻影を創り出した。自身に残された最後の力を振り絞って、だが、空になったその力は花火の奇跡によって再び取り戻すことになる。

―奇跡の力を纏い、花火とオメガモンは暗黒の力との最終決戦に臨む。

第39話 無敵！ダブルウォーグレイモン！

シデン、菜々子、小次郎、カイネと、ドューケが呼び出した暗黒の軍勢達がバトルを始めてからもう何時間経っただろうか。

一人一人が強力な力を持つ暗黒の軍勢に彼らは一歩も引かず、とうとうそれら全てを薙ぎ払った。ほとんどはシデンが倒したのだが、

力尽きた小次郎達はその場で横たわり息を荒く吸い上げているが、シデンはその様子を一切見せずに目線をドューケのみに向けていた。

カイネ「……あいつ…何なの？化けもん？」

小次郎「……鉄人かよ」

シデンの予想外すぎるタフネスに息を切らしながらも言葉を入れてくる2人、そんな小次郎達を他所に、シデンはドューケにデッキをかざす。まるでバトルしろと言わんばかりに。

シデン「……さあ、決着をつけるぞ」

ドューケ「……ふうふうむ、結構やりますね〜」

チヨウシユウ「……俺がいかうか」

ドューケ「……いやいや、貴方ごときでは彼には敵いませんよ、………まあ、でもエネルギー溜めには丁度いいか、よし、行きなさい」

決着をつけようとしたシデンに対し、今度は部下であるチヨウシユウをぶつけようとするドューケ、だが、その行動の選択肢はすぐに無くなることとなる。

花火「……ちよおおおと待った!」

菜々子「……え!?この声」

突如菜々子達の目の前に現るワームホール、その中から、消えたはずの花火が、一木花火が、登場する。そのゴーグルは2つに増え、1つは首に下げ、もう1つ、新しい方は額に装着している。

花火の登場に眠りにについているイトニ以外、全ての者が顎が外れるのではないかというくらい口を大きく開けた。あのシデンや、ドューケまでもだ。その位驚くべき事で

あつた。

彼は確かに一度消滅した。だが、その後は謎の力により、過去にタイムスリップをする経験させられて実の親に再会して、終いには暗黒の力を、いや、その力の結晶であるブラックウオーグレイモンも操れるようになって、

シデン「……花火、お前、」

花火「……ブイ」

花火はシデンに小さくVサインを見せる。それはまるで自分が本物だと知らしめているようにも見える。

嬉しさのあまり菜々子、小次郎、カイネが疲れを忘れて花火に飛びつく。花火はその勢いで他の三人もろともこけてしまう。

小次郎「……お前ツ!!ちくしょう!コンチクシヨウ!!」

泣きながらも花火の頬を引っ張り、再会を喜ぶ小次郎。

菜々子「……花ちゃんツ!!、良かった、良かったよおおお!」

嬉しきしか頭に残らない菜々子はただただ花火の胸元に抱きつきながら号泣する。その側でカイネは微笑ましそうに見つめる。

花火「……はは、すぐ戻るって言ったろ?……いつも通り、後は俺に任せろ」

ドューケ「……なぜだ!なぜ貴様は生きている!」

当然素直に喜べないこの結果に不満足そうな顔で言いよるドューケ。それもそのはず、自分が危険因子とみなした者が削除した後にまたでてきたのだ。その生命力はさながらゴキブリのようと感じながら花火を問い詰める。

花火「……アグモンが、いや、Dパラディンが俺を導いたんだ。だから帰って来れた。お前らを倒すために!俺はお前に勝って世界を救う!」

花火のもう変わることのない決意。Dワールドに良からぬことをしようと企む彼ら暗黒四天王を倒し、救いをもたらすこと。

そう誓った。自分にも、アグモンにも、両親にも。

ドューケ「……」

ドューケは悩んだ。自分が今まで考えて来た計画を台無しにしかねないほどの強力な力を持った花火が目の前にいるのだ。どうしようかと考える。もう目の前で前のような人質作戦は不可能だろう。なら……

ドューケ「……チョウシユウ、作戦変更です。貴方が一木花火を倒すのです、私はシデンさんを倒します。……いいですね？」

チョウシユウ「……ラジャ」

ドューケの案にチョウシユウは軽く首を縦に振って頷く。妥当な判断だろう。かなわないであろう相手に部下を投げて自分は違うところで活躍する。嫌な上司さながらの気の回しだが、当然理由は他にあつて、

花火「……あそこに座ってんのはイトニか？、シデン」

シデン「……見てわかるだろ、……そうだ花火、これが俺達の最終決戦だ。へまはするなよ」

花火「……誰にも言つてやがる、ボロボロのくせによ」

花火とシデンはお互いに言葉を交えながらもデツキをそれぞれの相手へとかざす。ドューケとチョウシユウもそれぞれの相手へとデツキをかざす。いよいよ正義と暗黒の最終決戦が幕を切つて落とされる。

シデン&ドューケ「ゲートオープン!解放!」

花火&チョウシユウ「ゲートオープン!解放!」

シデンとドューケ、花火とチョウシユウはそれぞれ別のバトルフィールドで同時にバトルを行う。菜々子達は花火のバトルフィールドへと足を運ぶ。

花火「……チョウシユウ、サツマさんはどうなったんだ?」

花火が今最も気にかけていること、それはサツマの安否。Dポリスの正体が明らかに

なつてからその姿を全く見せていない。

チヨウシユウ「……奴は俺が消したよ、秘密を知りすぎたから」

花火「……ツ!!」

チヨウシユウから放たれる衝撃の一言。そう、サツマはチヨウシユウにバトルで負け、シユリと同じように異空間に飛ばされてしまったのだ。

花火「……そんな、サツマさん……」

花火達はショックだった。あんなに優しくかった、懐が広がったサツマさんがもうこの世界にはいない。どこにもいないのだ。

最初は騙されていたのだが、アトーライの事件以後なんとなく察していた。彼は本当に器の広い、正義感が高い人間だと、じゃなければDポリスとは関係のないアトーライ事件に手を出そうとしないだろう。

―花火も心の底から信頼していた。

チヨウシユウ「……哀れな男だ。俺やドューケに10年もの間騙され続けていた。10年もの間偽りの正義の旗を掲げさせられていたのだ」

サツマはずっと騙されていた。その時はまだ15という少年だったり、彼が情に熱い人間だからこそなのかもしれないが、……どちらにせよ、彼がドューケ達暗黒四天王に今まで良いように利用されていたことは事実中の事実。

花火「……サツマさんの無念を俺が晴らす!」

チヨウシユウ「……やれるものならやってみる」

花火はその肩にサツマの無念を新たに乗せ、チヨウシユウとのバトルに挑む。先行は花火で始まる。

「ターン01」花火

スタートステップ

ドローステップ 手札4→5

花火「……行くぜ、メインステップ!ネクサス、勇気の紋章を配置!」

手札 5 → 4

リザーブ 4 → 0

トラッシュ 0 → 4

花火の背後にネクサスカード、勇気の紋章が配置される。それは一言で言えば太陽、その輝きはバトルフィールドに勇気の光を灯す。

チヨウシユウ「……なんだ、あのネクサスは!?!」

花火「……今までの俺だと思ふなよ、勇気の紋章は俺のライフが減るたびにお前の P5000 以下のスピリット1体を破壊する」

過去のリアルワールドで花火とアグモンが起こした奇跡、その奇跡の光は元の場所に戻るのみならず、花火のデッキにも作用されていた。勇気の紋章もその作用によって施された花火の新たな強化カードだ。

花火「……ターンエンド」

勇気の紋章 LV 1

バースト無

「ターン02」チヨウシユウ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

チヨウシユウ「……メインステップ、ゴツモンをLVIで召喚!」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 3

チヨウシユウのフィールドに岩人間とも言えるスピリットが現れる。それは白の成長期のデジタルスピリットで、名をゴツモン。

ゴツモンには花火のアグモン、シデンのガブモンと同じような召喚時効果を持つ。

チヨウシユウ「……召喚時効果!」

オーブンカード

【リカバードコア】

【シープウォール】

今回はどちらも対象外のマジックカード。手札には加えられずにどちらも破棄される。

チヨウシユウ「……ターンエンド」

ゴツモンLV1（1）BP2000

花火のネクサス、勇気の紋章で序盤の足を止められたのかアタックはしないチヨウシユウ。だが、白のデッキにとって、足が遅くなるのは然程デメリットでもなくて、

「ターン03」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 5

トラッシュ4 ⇨ 0

花火「メインステップ! 一気に行くぞ! ロクケラトプス2体! アシガルラプター1体

! 召喚!

手札5 ⇨ 2

リザーブ5 ⇨ 1

花火のフィールドに三本のツノを持つ四足歩行の地竜スピリット、ロクケラトプスが2体と、足軽姿がお似合いの地竜スピリット、アシガルラプターが1体召喚される。

花火「……さらに勇気の紋章をLV2へ上げる」

リザーブ1 ⇨ 0

勇気の紋章LV1 ⇨ 2 (0 ⇨ 1)

勇気の紋章の太陽がさらに赤々と輝き出す。

花火「……アタックステップ! アシガルラプター、ロクケラトプス2体! 行け!」

手札2 → 3

チヨウシユウ「……どちらもライフで受けよう」

ライフ5 → 2

飛び出す3体のスピリット達、BPで敵うスピリットがないからか、チヨウシユウはこれを全てライフで受けた。

3体のスピリットカードを一気に展開したとはいえ、花火の手札はアシガルラプターの効果である程度賄っている。ライフ差もあり、さながら花火にぶがあると思われるが、

花火「……ターンエンド」

アシガルラプターLV2(2s) BP3000

ロクケラトプスLV1(1) BP3000

ロクケラトプスLV1(1) BP3000

勇気の紋章LV2(1)

バースト無

葉々子「……やった!一気に3つも!」

カイン「……でも安心はできない、ライフが減ったということはコアが増えたということだ、あいつは間違いなくウズシオのメタルシードラモンのようなカードを持っている……油断するなよ、花火」

カインの言っていることは正しいと言える。間違いなくチョウシュウもダークマターズのカードを所有しているのだ。迂闊にライフを減らすのはそれらを早めに召喚される可能性があるため、寧ろ愚策とも取れる。それでも花火にはダークマターズが来ても返り討ちにする方法があるのだろうか。

「ターン04」チョウシュウ

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 → 5

ドローステップ 手札4 → 5

リフレッシュステップ

リザーブ5 → 8

トラッシュ3 → 0

チョウシユウ「……メインステップ、完全体！メガドラモン召喚！LV2！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ8 ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 4

花火「……!!」

メタルグレイモンと同じ竜型のサイボーグスピリット、紫の髪と翼を翻し、チョウシユウのフィールドへと降り立つ。その効果は序盤であれば良い意味でコスト不相応とも取れる効果であり、

チョウシユウ「……召喚時！お前のBP8000以下のスピリット全てを手札に戻す！やれ！メガドラモン！」

花火「……!!」

手札3 ⇨ 6

メガドラモンは改良されている両手の掌から強大なエネルギー弾を何発も放つ。そ

れらは花火のスピリット達に、被害をもたらす。力尽きたスピリット達は粒子となって花火の手札に戻った。

チョウシュウ「メガドラモンはさらに、【重装甲・赤／紫／緑】を持っている。お前の効果は全て受け付けないぞ」

花火のデッキのカードはほとんどが赤で構成されている。メガドラモンにはほとんどの場合BP勝負で倒すしかないだろう。

チョウシュウ「……さらに、ゴツモンのLVを2にアップさせる!」

リザーブ2 → 0

ゴツモンLV1 → 2 (1 → 3)

ゴツモンはLVが上がり、進化の力を得た。チョウシュウの反撃が始まる。

チョウシュウ「アタックスステップ!ゴツモンの【進化:白】!進化だゴツモン!成熟期のスピリット、メノカリモン!」

ゴツモンがデジタルのベルトに巻かれて進化を果たす。メノカリモンの姿は小型ロボット……実は、パワースーツを装着している小さいスピリットであり、非常に珍しいデジタルスピリットだ。

チヨウシユウ「……やれ！メノカリモン！」

花火「……ライフだ！」

ライフ5 ♪ 4

メノカリモンの鉄でできた腕が花火を襲う。ライフ1つを難なく破壊されてしまう。メノカリモンのBPは6000、勇気の紋章では破壊できない。こういうことを全て計算に入れてチヨウシユウは動いている、何が一番の確な判断なのかを、だから本来実力では劣るサツマにも勝利することができた。彼の精神を揺さぶるような素振りを取ることによって、

チヨウシユウ「……やはりお前はかすり傷1つ着かんか、まあいい、メガドラモン！お前も行け！」

花火「……それも受けてやる!」

ライフ4 ♪ 3

暗黒四天王の攻撃だというのに全く痛がる素振りすら見せない花火、チョウシユウは少し残念そうな顔をしつつも、メガドラモンに指示を出す。メガドラモンは花火の前までいくと、再び両手を開き、エネルギー弾で花火のライフを砕いた。

チョウシユウ「……ターンエンド」

メノカリモンLV2(2) BP6000

メガドラモンLV2(2) BP7000

バースト無

花火「……フルアタックは不味いんじゃないか?」

チョウシユウ「……生憎だが、メノカリモンはLV2の時疲労ブロッカーになる」

花火「……なるほど」

メノカリモンはLV2である時、不動のブロッカーになる。チョウシユウはそれを

見越してこのターンフルアタックを仕掛けた。簡単かつ大雑把にも見えるが、これももちろんちゃんとした強い戦法である。

「ターン05」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ6 ⇨ 7

花火「……ドローステップ！ 勇気の紋章の効果でそのドローを1枚増やし、その後手札を1枚捨てる、俺はダイナパワーを破棄！」

手札6 ⇨ 8 ⇨ 7

トラッシュでも活用できるダイナパワーを破棄して手札交換の無駄を省く花火、このプレイングは細かいところで後々響いてくることだろう。

花火「……メインステップ！ バーストをセットし、戻された3体を再び召喚！」

手札7 ⇨ 3

リザーブ7 ⇨ 4

花火のフィールドにメガドラモンによって戻された3体のスピリットがまた一気に展開される。それと同時にバーストカードが伏せられる。

チヨウシユウ「……無駄だ、そんな雑魚軟体並べても、メカノリモンはお前のアタックステップ時にBPを5000上げる」

つまりはBP11000の疲労ブロッカー、中々にハードな壁だが、花火の覚醒したグレイモンデッキの敵ではない。花火は次の手を用意する。

花火「……だったらそのBPアップの意味をなくす!さらに召喚!死を超越せし竜! スカルグレイモン!LV1!」

手札3 → 2

リザーブ4 → 0

トラッシュ0 → 3

地響きと共に花火のフィールドに全身が骨だけになったグレイモン、スカルグレイモンが召喚される。

花火はスカルグレイモンの召喚時効果でこの状況の打破を狙う。

花火「スカルグレイモンは召喚時に相手のスピリット3体のコアを1個ずつリザーブに置く」

チヨウシユウ「……」

メカノリモンLV2 ⇨ 1 (2 ⇨ 1)

スカルグレイモンが地面におもいつきり両手を叩きつけると、黒炎が噴出、それは瞬く間にチヨウシユウのフィールドを捉え、力を奪おうとする。メカノリモンはそのまま力を抜かれるが、赤の効果に耐性があるメガドラモンはその脅威から難なく逃れた。

だが、気にすることはそこではなく、メカノリモンのLVが下がったことが大事な要点であって、

花火「……お前さつき、『LV2の時』って言ったよな」

チヨウシユウ「……」

そう、あくまでメカノリモンはLV2の時のみ、その疲労ブロッカー効果を得るのだ。

スカルグレイモンの黒炎でコアを外され、LVが下がった今、ただの疲労中のスピリットである。

花火「……いくぜ!アタックステップだ!」

アシガラプターLV1(1s) BP2000

ロケケラトプスLV1(1) BP3000

ロケケラトプスLV1(1) BP3000

スカルグレイモンLV1(1) BP5000

勇気の紋章LV2(1)

バースト有

4体のスピリットのアタックがチョウシュウを今にも襲おうとしていた。その姿はまさしく魑魅魍魎。

花火「……いけ!アシガラプター!」

手札2 → 3

意気揚々と走り出すアシガルラプター、チヨウシユウの残りライフは2、花火のフィールドのスピリット体数は4、チヨウシユウが何もしなければ間違いなくバトルは終わるだろう。何もしないはずはないのだが、

チヨウシユウ「……フラッシュ！焔臨！対象はメガドラモン！」

リザーブ1s[→]0

トラッシュ4[→]5s

花火「……ッ!!」

花火は直感した。間違いなくダークマターズが来ると。当然この予想は当たっており、チヨウシユウが今から焔臨させるのはダークマターズの一角、ウズシオのメタルシードラモンと並ぶ力を持つ白のスピリット、メガドラモンが白い光に包まれて形を変えていく。それはとても巨大で、まるで要塞のような竜。

チヨウシユウ「……来い！ダークマターズ！その一角！ムゲンドラモン！」

手札4[→]3

ムゲンドラモンLV2 (2) BP13000

その力は正しく無限大、2つの砲台を抱えた全身フルメタルの究極体デジタルスピリット、ムゲンドラモンが現れる。その存在感は花火のスピリット達を恐怖させる。

花火「……あれが、2体目のダークマターズ……」

チヨウシユウ「……煌臨時効果!お前のスピリット2体をデツキの上に、俺の好きな順番で戻す!……消え去れ!スカルグレイモン!ロクケラトプス!」

花火「なに!?!……うわ!!」

ムゲンドラモンが抱え込む巨大な2つの砲台がスカルグレイモンとロクケラトプス1体に向けられる。ムゲンドラモンは砲台にエネルギーを充填させそれを一気に目標に向けて放つ。

膨大なエネルギー弾にスカルグレイモンとロクケラトプスは飲まれて消滅し、粒子となって花火のデツキに戻る。

花火「……くっ!でも、煌臨スピリットはその煌臨元のスピリットの全ての情報を引

き継ぐんだ。お前のムゲンドラモンは疲労状態だ」

2体減らされたとしてもフルアタックが通れば花火の勝ちだ。だが、チョウシユウはそれすらも塞いで来る。

チョウシユウ「……フラッシュマジック！光翼之太刀！このターン、ムゲンドラモンにBP3000を与え、疲労ブロッカーにする！……そのままアシガルラプターをひねり潰せ！ムゲンドラモン！」

手札3 → 2

ムゲンドラモンLV2 → 1 (2 → 1) BP13000 → 10000 → 13000

トラッシュ5s → 6s

疲労ブロッカーと化したムゲンドラモン、突進して来るアシガルラプターを片手1つを振り、その風圧だけで吹き飛ばしてしまう。地面に叩きつけられたアシガルラプターは爆発してしまう。

花火「……エンドフェイズ、ロクケラトプスの生存により、ダイナパワーを回収する、

………ターンエンド」

手札3 ⇨ 4

4体もいたスピリットが今ではロクケラトプス1体のみ、疲労ブロッカーと化したムゲンドラモンが目の前にいる中で最早このターン、アタックは不可、花火のターンは終了せざるを得なかった。

「ターン06」チョウシュウ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札2 ⇨ 3

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 7

トラッシュ6 ⇨ 0

メカノリモン、ムゲンドラモンが再びリブートする。

チョウシュウ「………メインステップ!ゴツモン、ハグルモンをLVIずつで召喚!」

手札 3 ⇨ 1

リザーブ 7 ⇨ 3

トラッシュ 0 ⇨ 2

チヨウシユウのフィールドに進化により手札に戻ったゴツモンと、歯車の形をした成長期スピリット、ハグルモンが現れる。

チヨウシユウ「……ハグルモンの召喚時、ゴツモンにコアを1つボイドから追加」

ゴツモン（1 ⇨ 2）

ハグルモンは召喚時、他の成長期スピリット1体にコアを追加させる効果がある。今回はゴツモンにコアが置かれた。

チヨウシユウ「……メノカリモン、ムゲンドラモンを最高LVへ！」

リザーブ 3 ⇨ 0

ゴツモン（2 ⇨ 1）

メノカリモンLV 1 ⇨ 2（2）BP 4000 ⇨ 6000

ムゲンドラモンLV1 ⇨ 3 (4) B P 1 0 0 0 0 ⇨ 1 5 0 0 0

力が充填される2体のスピリット、チョウシュウはこの後直ぐにアタックステップへと移行する。このバトルに決着をつける気だ。

チョウシュウ「……アタックステップ!やれ!ムゲンドラモン!」

重量感のある機械のボディをゆっくりと動かしながら花火側のフィールドへと足を進める。

花火「……BP15000ツ!……待ってたぜ!」

チョウシュウ「……なに!」

花火はこのタイミングをずっと待ちわびていた。チョウシュウがBP8000以上のスピリットでアタックするのを。花火が呼び出すのは自分の力に呼応してウォーグレイモンが具現化した姿。

花火「……手札のブラックウオーグレイモンの効果！お前のBP8000以上のスピリットがアタックしているフラッシュタイミングで1コスト支払うことで召喚！」

リザーブ3 ⇨ 2

トラッシュ3 ⇨ 4

チヨウシユウ「……!!」

花火「……漆黒の闇よりいだよ！ブラックウオーグレイモン！LV1だ！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 1

ブラックウオーグレイモンLV1(1) BP9000

上空から黒炎の球体が降って来る。それは地面を燃やすように墜落してきたかと思うと、1体の黒き竜人が姿を見せる。ウオーグレイモンが花火の暗黒の力により染まり果てた姿、ブラックウオーグレイモンだ。

小次郎達はその姿を見て驚いた。あれを使えばまた花火がおかしくなるのではないかと思っていたからだ。だが、当の本人は以前のように異常な眼の色や顔つきが変わるわけでもなく、いたって普通だった。

葉々子「……良かった、いつもの花ちゃんだ」

チョウシユウ「……これは、……なるほど、ドューケが恐れおののくわけだ。」

チョウシユウはブラックウォーグレイモンから溢れ出ている暗黒の力の量で花火の異常さとドューケが余計に警戒している理由を理解する。通常ではあり得ないのだ。いくら才能があるとは言え、ここまでの暗黒の力の量を扱えるなど、

花火がブラックウォーグレイモンを暴走せずに操れているのはおそらくアグモンが起こした奇跡のおかげだろうと推測される。

花火「……ブラックウォーグレイモン、頼りにしてるぜ!お前は俺の暗黒の力の象徴なんかじゃない、ましてやダークマターズと同じでもない、お前は俺のエーススピリットの1体だ!」

花火の言葉に呼応するように咆哮をあげるブラックウォーグレイモン、花火を仲間だと認めたのだろうか。

花火「……いくぜ!ブラックウォーグレイモンの召喚時効果!BP12000以下の

相手のスピリット1体を破壊！メノカリモンを破壊だ！……………暗黒のガイア
フォース！」

ブラックウオーグレイモンは両掌を合わせ、その間隔をどんどん広げていき、巨大な
黒炎の球体を形成、それを花火が指差す方へと正確に投げ飛ばす。

対象になったメノカリモンはその中のスピリットごと焼却され、大爆発を起こす。

チョウシユウ「……………くっ！だが、アタックは継続中だ！そのスピリットではムゲンド
ラモンには勝てん！」

花火「誰がブロックするだなんて言ったよ！それはライフで受ける！」

ライフ3 ♪ 2

ムゲンドラモンが強靱なアームで花火のライフを1つ切り裂く。それはまるで紙を
ハサミで切るように簡単に引き裂いた。

花火「……………勇気の紋章の効果！BP5000以下のスピリット1体を破壊！ゴツモン

！」

太陽から放たれる炎がゴツモンを焼き払ってしまおう。
 ライフの減少、それは同時に花火の伏せられているバーストカードの発動条件でもあった。花火のバーストが勢い良くオープンされる。

花火「……さらにライフ減少でバースト発動!絶甲氷盾!ライフを1つ回復し、コストを支払いアタックステップを終了させる。………悪いロクケラトプス、コアを借りるぜ」

ライフ2 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

ロクケラトプス(1 ⇨ 0) 消滅

勇気の紋章(1 ⇨ 0) LV2 ⇨ 1

トラツシユ4 ⇨ 8

シデンや景光も入れている言わずと知れた防御マジック、絶甲氷盾、花火は不足コストで勇気の紋章やロクケラトプスからコアを外した。ロクケラトプスは自分の役目を終え、満足したのか、眠るように消えて行った。

チヨウシユウ「……ッ！」

チヨウシユウ達のスピリットの前に立ち塞がる大きな氷山の一角、ムゲンドラモンさえも凌ぐその大きさではこれ以上のアタックは不可、ターンは終了、かと思いきや、チヨウシユウはまだ動くことができるようで、

チヨウシユウ「……ムゲンドラモンの効果！アタックかブロックのバトル終了時、デツキの上を1枚オープンし、それが完全体スピリットならノーコスト召喚だ！」

花火「……ッ！まだそんな効果が」

チヨウシユウ「……カード、オープン！」

オープンカード

【メガドラモン】

ムゲンドラモンはアタック、ブロックしたバトルの終了時、デツキの上1枚を確認してそれが完全体スピリットなら召喚、違うなら破棄すると言う一風変わった効果、だが、決まればアドバンテージ差はかなり優勢となることだろう。そしてチヨウシユウは見

事引き当てる完全体スピリット、「メガドラモン」を

チヨウシュウ「……メガドラモンを召喚!」

リザーブ3[→]1

メガドラモンLV2(2) BP7000

ムゲンドラモンが咆哮をあげる、それはまるで耳を覆いたくなるような大きな叫び声、そのせいで空間が歪み、ひび割れ、破裂、中からメガドラモンが飛び出してくる。

チヨウシュウ「……ターンエンドだ」

ハグルモンLV1(1) BP2000

メガドラモンLV2(2) BP7000

ムゲンドラモンLV3(4) BP15000

バースト無

防御マジックで守り、ブラックウォーグレイモンや勇気の紋章である程度返り討ちにするもフィールドはまだチヨウシュウの方が有利と言える状況だ。問題はそこだけで

はなかった。

「ターン07」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシユステップ

リザーブ1 ⇨ 9

トラツシユ8 ⇨ 0

花火がこのターンのドローステップで引いたカードはロクケラトプス、ムゲンドラモンの煌臨時効果でデッキの上に戻されたことで今帰ってきたのだ。これでは花火の引きの強さは引こうと思っても発揮できない状況だったのだ。

当然、チョウシユウも花火の手札事情はある程度理解している。4枚のうちの判明分はロクケラトプス、ダイナパワー、とくに単体では力を発揮できないカード達に比べ、未だ不明なのが2枚、たった2枚ではこのフィールドは突破されない。そう彼は見越していたのだ。

花火「……メインステップ、来い!俺の新しいアグモン!アグモン「2」を召喚!LV2!」

手札4 → 3

リザーブ9s → 8

トラッシュ0 → 1s

チヨウシユウ「……「2」?」

アグモンが起こした奇跡により誕生した新たなアグモンのカード、その姿は今までのアグモンとなら変わりはないが、この場を一発逆転へと導く可能性を秘めた爆発的な力がそこには確かに眠っていた。

カイネ「……新たなアグモン」

花火「……ブラックウォーグレイモンをLV3にアップ!」

リザーブ4 → 1

花火はブラックウォーグレイモンに残りのコアのほとんどを注ぐ。

花火「……アタックステップ！」

アグモン「2」LV2（4）BP5000

ブラックウオーグレイモンLV3（4）BP16000

勇気の紋章LV1

バースト無

花火のスピリット2体が戦闘態勢に入る。

花火「……いけ！ブラックウオーグレイモン！ムゲンドラモンに指定アタック！」

チヨウシユウ「……！！自身の効果でも指定アタックできるのか!!」

花火「……ああ、そしてこの時、BPが最も高いスピリットとバトルしたなら、ブラックウオーグレイモンは回復する」

ブラックウオーグレイモン（疲労↕回復）

チヨウシユウ「……なに!？」

ブラックウオーグレイモンの第3の効果、それは相手のスピリット1体を指定アタッ

クする赤ならではの効果だが、ブラックウォーグレイモンはそれだけにとどまらず、BPが最も高いスピリットにアタックすれば回復が行えるのだ。

花火「……フラッシュマジック!ダイナパワー!ブラックウォーグレイモンのBPを+3000!」

手札3→2

リザーブ1→0

トラッシュユ1s→2s

ブラックウォーグレイモンBP15000→18000

チョウシユウ「……くっ!」

花火「……いけえええ!ブラックウォーグレイモン!」

ダイナパワーにより、ムゲンドラモンのBPを超えたブラックウォーグレイモン、通り過ぎるように一瞬のうちにムゲンドラモンをその両手の武器で切り裂いていった。

目にも留まらぬ早業で五体をバラバラにされたムゲンドラモンは当然その場で大爆発を起こす。ダーククマターズの一角がまた1人、Dパラダインによって粉砕された。

小次郎「……あいつやりやがった！」

菜々子「……ムゲンドラモンをやっつけちゃった！」

チヨウシユウ「……、馬鹿な、ムゲンドラモンがこうもあつさりと……」

ムゲンドラモンの破壊に成功しガッツポーズを上げて喜ぶ小次郎達、それとは正反対に悔しそうに歯をくいしばるチヨウシユウ、自分にとって最強のスピリットが負けたのだ、無理はないが、

チヨウシユウ「だが、2度目の回復はない、メガドラモンは【重装甲：赤】を備えている。指定アタックはされん！」

チヨウシユウの言う通り、指定アタックの効果は【装甲】などの効果で塞がれるとアタックできない。残ったハグルモンは装甲の効果を持っていないが、BPが一番高いのでこれ以上のアタックは難しかった。

だが、そんなものでは花火の覚醒したグレイモンデッキを止めることはできない。

花火「……そんなこと、百も承知だぜ！お前の力を見せる時だ！アグモン！」

今度はアグモン「2」が飛び出していく。そしてその体は、赤々と輝き始める。

チヨウシユウ「……!?なんだ!」

花火「……アグモン「2」の効果!俺のライフが3以下の時、ウオーグレイモンに進化できる」

チヨウシユウ「……なに!?成長期から究極体に飛び級だと!」

アグモン「2」の効果、それはアタック時のフラッシュで自身を手札に戻すことでウオーグレイモンの名を持つスピリットに進化する効果、

アグモンは今こそ真の力を発揮する。

花火「始まりの竜よ!今こそ全ての竜の意志を引き継ぎ、敵を討て!」

アグモンが、グレイモン、メタルグレイモンへと姿を変えていく、そして、最後にはウオーグレイモンへと最終進化を遂げる。

花火「……ワープ進化！ウォーグレイモン!!」

ウォーグレイモンLV3(4)BP16000

チヨウシユウ「……ウォーグレイモン」

葉々子「……ウォーグレイモンが……2人!」

始まりのエースカード、ウォーグレイモンが花火のフィールドでブラックウォーグレイモンと共鳴し合うかのように咆哮をあげる。

花火のグレイモンデッキの中では最強の双壁が立ち並んだと言える。

花火「……ウォーグレイモンの召喚時効果！ハグルモンを破壊!」

ウォーグレイモンは掌から炎の球を形成し、感覚を広げることでのそのサイズをより大きくしていく。最大限まで広げるとそれをチヨウシユウのフィールドへ全力で投げつける。

ウォーグレイモンの色に対応した重装甲を持つメガドラモンはそれを水と油のように受け付けないが、ハグルモンは身体中を溶かされてしまい、爆発してしまう。

花火「……いくぜ! 2体のウォーグレイモンでアタック!」

花火の指示に2体のウォーグレイモンが駆ける。

チヨウシユウ「……だが! 俺のライフは2! ブロツカーは1体! どう足掻いても俺のライフは1つしか減らない!」

チヨウシユウの言う通り、どちらかのアタックをメガドラモンでブロックしてしまえば、このターンは生き残る事ができる。

だが、花火のデツキにそんな常識じみたことは通用しない。どんな時でも花火を救ってきたウォーグレイモンの第2の効果は火を噴く。

花火「……ウォーグレイモンのLV2・3の効果は、バトルの終了時にトラツシュのソウルコアをウォーグレイモンに置くことで、お前のライフを1つボイドに置く」

トラツシュ 2 s + 1

ウォーグレイモン (4 + 5 s)

チヨウシユウ「……な!?!」

事前にトラッシュに置いていたソウルコアをウォーグレイモンのカードに置く花火。これぞウォーグレイモン必殺の一撃。ウズシオやシデン、この効果で花火の前から破れ去った者は数知れない。

花火「……いけ！ウォーグレイモン！ブラックウォーグレイモン！打ち上げろ!!!
ダブ
ルガイアフォース!!!」

2体のウォーグレイモンは同時に召喚時と同様にガイアフォースを形成し、チョウシュウへと投げつける。それを阻もうとメガドラモンが2つのガイアフォースを止めようとするが、触れる前にその身体を溶かされてしまう。

チョウシュウ「……くっ！この俺が……負けるだ?!?全てを捨て、力を手に入れたこの俺が……」

ライフ2 → 0

2つのガイアフォースがチョウシュウのバリアごと包み込み、残った2つのライフを

焼き尽くす。これにより、チヨウシユウのライフはゼロ、花火の勝利となる。小次郎達は諸手を上げて喜ぶ。

勝利を祝しているのか、2体のウォーグレイモンがフィールドでまた共鳴するかのようには咆哮する。チヨウシユウは力つき、その場で膝をつく。

花火「……楽しいバトルだったぜ!こんな状況じゃなければな」

花火の口から率直にでた言葉、バトルを紛うことなく心の底から楽しもうとしていた者にしか口にすることはできないことだろう。

チヨウシユウは彼の言葉を聞き、妙なやすらぎを得ていた。これはウズシオの時と同じ現象であり、暗黒の力が抜けようとしてほんの少しだけ元の感情が現れたのだ。

チヨウシユウ「……楽しいバトルか、……仮にドューケと出会う前に、先にお前達と出会っていたら俺はサツマさんともまだ楽しくやれたのかもな……」

チヨウシユウは最後にそれだけを言い残し、ムゲンドラモンのカードとともに灰と化し、バトルフィールドの乾いた風と共に流されていった。残った暗黒の力は才能ある花

火の元へと吸い込まれていく。

Dポリスのチョウシユウ、彼もまた、何かしらの理由があつて、ドユーケにそそのかされ、今の地位を築き上げて来たのだろう。既に彼がいない今、それを知るのはドユーケしか存在しないが、

この勝利により、残った暗黒四天王はあと一人、シデンは宿敵と化したドユーケを倒すことができるのか。

第40話 最後の四天王、暗黒の奇術師ピエモン!

花火と同時にバトルを始めたシデン。相手は最後の暗黒四天王にしてその親玉、且つ、今日にして瞬時に宿敵と化したドューケ、

2人のバトルを見守るものもない。2人だけの因縁の対決が始まろうとしていた。――先行はドューケだ。

「ターン01」ドューケ

スタートステップ

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

ドューケ「……メインステップ、ピコデビモンを召喚」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

颯爽とドューケのフィールドに現れるのはコウモリのような使い魔の成長期デジタ

ルスピリット、ピコデビモン。その効果は紫属性の中でも有名な効果だ。

ドューケ「……召喚時にドローしますね〜」

手札4 ⇨ 5

シデン「……紫のデジタルスピリット……」

シデンは少々驚いていた。なぜなら自分以外で紫のデジタルスピリットを使っている者を見るのは初めてだったからだ。

前のような関係であれば、デツキのカードについての雑談などもしていたのかもしれない。だが、もうあの温もりはどうやっても帰っては来ない。シデンはより一層、力が入る。まるで本当にドューケを殺す気で行くような殺気だ。

ドューケはその後すぐにターン終了の宣言をしてシデンにターンを渡す。

「ターン02」シデン

スタートステップ

コアシテップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

シデン「メインステップ、ガブモンを召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

シデンのフィールドに現れるのは成長期スピリットのガブモン、初動の動きとしては申し分ないと言えるだろう。

シデン「……召喚時」

オーブンカード

【ガルルモン】

【マーク・オブ・ゾロ】

シデンはガブモンの効果で成熟期スピリットのガルルモンを手札に加えた。メタルガルルモンまでの道は着実と出来上がってきている。

シデン「……アタックステップ！やれ！ガブモン！」

ドユーケ「……ほお、アタックですか、まあライフで受けますかね」
ライフ5 ⇨ 4

ガブモンは口内から青い炎を放ちドユーケのライフを1つ破壊した。

シデン「……ターンエンド」

ガブモンLV1(2) BP3000

バースト無

「ターン03」ドユーケ

スタートステップ

コアシテップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ2 ⇨ 5

トラッシュ3 ⇨ 0

ドューケ「……さあ、メインステップと行きましよう。2体目のピコデビモンを召喚」
 手札6 ⇨ 5 ⇨ 6
 リザーブ5 ⇨ 2
 トラッシュ0 ⇨ 2

ドューケのフィールドにもう1体ピコデビモンが現れる。その召喚時効果でドューケはハンドアドバンテージを維持する。

ドューケ「……最初のピコデビモンをLV2へ」

リザーブ2 ⇨ 0

ピコデビモンLV1 ⇨ 2 (1 ⇨ 3)

最初に現れたピコデビモンは自身の色と同じ色に輝き出す。進化の前兆だ。

ドューケ「……アタックステップの開始時、ピコデビモンを【進化】！デビモン！」
 デビモンLV2 (3s) BP7000

ピコデビモンはデータのベルトに巻かれて進化する。現れたのは漆黒の衣に包まれた墮天使型の成熟期スピリット、デビモン、デビモンはシデンを嘲笑うかのように顔を歪ませながらゆつくりとフィールドに降り立った。

ドューケ「……まだ行きますよ〜デビモンでアタック、その効果を発揮、【超進化】、完全体のレディーデビモン！」

レディーデビモンLV2(3s) BP7000

デジタルスピリット特有の進化コンボは終わらない。デビモンがさらなる進化を遂げる。その姿はまるで女版デビモン、白い髪、漆黒の翼を広げてドューケのフィールドに降り立った。

ドューケ「……その召喚時効果でガブモンを消せ！」

手札6 → 7

シデン「……なに!？」

レディーデビモンが腕をかざすと、ガブモンは闇の中に引きずり込まれて姿を消して

しまった。

レディーデビモンの召喚時効果は疲労状態の相手スピリット1体を問答無用で破壊し、その後ドロウするという効果、シデンとドューケ、この2人のバトルは間違いなくドューケに勝機が傾いていると言える。

ドューケ「……やりなさい！ピコデビモン！レディーデビモン！」

シデン「……ライフで受ける………ぐわああああ!!」

ライフ5→3

レディーデビモンとピコデビモンはそれぞれ紫の波動を放ち、シデンを襲った。あまりのダメージ量にシデンは吐血し、膝をつく。当然だ、ドューケは仮にも暗黒四天王の親玉、他の四天王に比べても最も強いものだから、そのダメージ量は計り知れないものがある。

ドューケ「……ふふ、強がっていてももう限界のようですね、あなたは今日戦いすぎた。一木花火と気力の限りを尽くすバトルを行い、その後直ぐ、ラフーキとの死闘、数大きい暗黒の使徒達との激闘、そして今、もう立っているのも難しいですよね」

シデン「……うるさい！俺はイトニを、妹を助け、世界を救うまでは諦めん!!!一々御託を並べるな、ターンを進行しろ!!」

ドューケ「おおー怖い怖い、私はターンエンドですよ」

レディーデビモンLV2(3s)BP7000

ピコデビモンLV1(1)BP1000

バースト無

体を震撼させながらもゆっくりとその腰をあげ、立ち上がるシデン、どうしてもこのバトルだけは勝たなければならない。妹のために、世界のために、

「ターン04」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシユステップ

リザーブ5 ⇨ 8

トラツシュ3 ⇨ 0

シデン「……メインステップ、クリスタニードル!ポーン・ダイル!ガルルモン!

手札6 ⇨ 3

リザーブ8 ⇨ 2

トラツシユ0 ⇨ 3

シデンのフィールドに蛇のスピリット、クリスタニードルとワニのスピリット、ポーン・ダイルが狼型の成熟期デジタルスピリット、ガルルモンが現れる。

シデン「ネクサスカード、万本槍の古戦場を配置!」

手札3 ⇨ 2

シデンの背後に聳え立つのは幾千の戦が行われた跡地、その地面には痛々しく何万本もの槍が突き刺さっている。

このネクサスの本来のコストは6だが、白の軽減シンボルを持つていることで、ポーン・ダイルの白シンボル追加により2コアの消費で配置が可能になっていた。

シデン「さらにバーストを伏せる」

手札2 ♪ 1

今回初のバーストカードはシデンが伏せる。一枚一枚のバーストの存在が大きい。世界の命運が賭けられた試合なら尚のこと、それはもちろんこの場にいるドューケもシデンも理解している。

シデン「アタックスステップ！やれ！スピリット達よ！」

発破をかけるように3体のスピリット達にアタックスの指示を出すシデン。

このアタックスを全て受けることになるのなら、ドューケのライフは残り1まで減少するが、ドューケのバトルはそこまで甘くはなかった。

ドューケ「……………ふふ、あなたは本当に単純ですね、私の場に完全体がいるのが見えないのですか？……………フラッシュタイミング！煌臨！」

レディーデビモン（3 s ♪ 2）

トラッシュユ2 ♪ 3 s

シデン「……………!!」

シデンはレディーデビモンがさらに禍々しく闇を覆い尽くしていく姿に思わず目を見開いた。

ドューケが呼び出そうとしているスピリットは最後のダークマターズ、そしてそれらを取り仕切るリーダー、かつての聖戦でウォーグレイモンに暗黒の力を注ぎ込んだ張本人でもある。

ドューケ「……いでよ、我が分身!ピエモン!!」

手札7 ♪ 6

ピエモンLV2 (2) BP12000

闇を振り払うと現れたのはなんとも滑稽な姿をした道化師。だが、それが放つ異彩なオーラはシデンに間違いなくプレッシャーを与えていた。

シデン「……ピエモン!?!お前の分身!?!」

シデンはピエモンのその変わった姿より、分身というドューケの言葉に引つかかって

いた。

ドユーケ「……そうですとも、ピエモンは私であり、私ではない」

シデン「……どういふことだ」

ドユーケの曖昧な言葉に理解が出来ないシデン。ドユーケは話のわからないシデンのためにある行動に出る。

ドユーケ「……はあ、全く頭の固い人ですね、あなたはこれを見てもまだわかりませんか？」

ドユーケは自分の仮面を外す。

シデン「……な!?!」

シデンは驚いた。ドユーケが外したピエロの仮面の下にはさらにピエロの顔面が現れたのだ。それはもちろん面ではなく、ドユーケの本当の素顔。そしてその素顔は今バ

トルフィールドに聳え立つピエモンと瓜二つ。

シデン「……ドューケ、お前、お前はスピリットだったのか!?!」

それは紛れも無いドューケが本物のピエモンだったという証。ドューケは順を追って説明していく。

ドューケ「……ふふ、そうです、私はピエモン、その昔、ダークマターズのリーダーとしてDパラディンと戦った本物のスピリット、……やつとだよ、やつと願いが叶う。何万年も待った甲斐があった。やつとあの方がお目覚めになる。これもシデン、君のおかげだ、感謝してるよ」

シデン「……あの方?」

ドューケ「……『アポカリモン』、我々に力を授けてくださったお人だ。彼は私達を使い役し、暗黒の力で世界を闇に染めるつもりだった。だが、オメガモンの登場によりそれは失敗、アポカリモン様は封印され、他のダークマターズは長きの眠りについた、辛うじて肉体までカード化を免れた私はあの方を再び現世に蘇らせるためにこの世を旅し、今回の計画をゆつくりと立てていったのだ」

ドューケ、いや、ピエモンはこの計画のためだけに生き続けてきた。何万年も何億年も、そしてそれはとうとうこの時代で決行された。本当に最高のタイミングだった。Dポリス、反乱軍、異世界からの使い、いずれもデジタルスピリット、及びDパラディンの使い手、アポカリモンを蘇らせるために必要なデジタルスピリットのエネルギーは十分確保できた。ドューケはこれについて一言も言わなかったが、おそらくこのバトルが終わる頃には充填完了になると睨みをつけていた。

ドューケ「……そして、そのアポカリモン様の新たな肉体となるのがお前の妹、イトニなのだよ!」

シデン「……なに!？」

ドューケ「……あの子の暗黒の力の器はちょうどアポカリモン様の力がすっぽり入るサイズだった。だから利用させてもらう」

ドューケがイトニをさらっていった真の理由、それはイトニをアポカリモンにすること、ドューケはずっとイトニの体を狙っていたのだ。

それは彼にとってどれ程運が良かったことだろうか。イトニは正しく扱いやすくて、

最適で最高の器だった。仮に他の者だとしてもここまで綺麗にことを運ぶことはできなかつただろう。

シデン「そうか、なるほどな」

最初は驚いていたものの、すぐに冷静になり、我に帰るシデン、怒りもより先に納得が頭の中を横切つたのだろう。もちろんイトニをそんな化け物にさせる気もなかつたが、

ドューケ「……だんだん一木花火に似てきましたね、……………バトルを続けましょう」

シデン「ああ、かかってこい」

ドューケ「馬鹿ですか、それはこちらのセリフですよ、ピエモンの煌臨時効果! 相手のスピリット1体のBPをマイナス5000! それを4回行う!」

シデン「……………!!」

ピエモンは忍ばせていたトランプカードを手に取り、シデンの3体のスピリットに投げ飛ばす。トランプが突き刺さったスピリット達は粒子となってシデンのデッキの底

へと送られてしまう。

ドユーケ「……そしてゼロになればそれらはデッキの下へと送られる」
シデン「……ぐっ！」

まんまとカウンターを受けてしまったシデン、攻めてを完全に失ってしまふ。それどころか、ピエモンと言う強大な存在まで残してしまつた。

だが、それでもシデンに残された言葉はターンエンドの宣言以外になく、ターンをそのままドユーケに渡してしまふことになつた。

「ターン05」ドユーケ

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札6 ⇨ 7

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュユ3 ⇨ 0

ドューケ「……メインステップ」

ドューケの心は今、最高潮に高ぶっていた。ようやく叶うのだ。悲願の願いが、待ち望んでいた未来が、このバトルが終わった後には既にアポカリモンがいると考えただけで興奮する。

思えば長く険しい道のりだった。カード化されたDパラディンとダークマターズの発掘から始まり、その適合者が同時に現れるのをずっと待った。

オメガモンが作り上げた、いや、創造した世界は平和だった。実になにもなかった。つまらない。只々そう思っつてこの世界に居続けた。だが、それも今日で最後、目の前の虫けらを蹴散らし、世界は再び暗黒に染まる。

ドューケ「……バーストを伏せて、再びピコデビモンを召喚、その効果でデッキから1枚ドロロー」

手札7 ⇨ 6 ⇨ 5 ⇨ 6

リザーブ4 ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 2

ドューケのフィールドにバーストカードが伏せられると同時に、「進化」の効果によって手札に戻ったピコデビモンが再びその場に姿を見せる。

ドューケ（あのバーストが気になりますね〜）

この場で最も着目すべき点はシデンのバーストカードだった。確率的にはいつものように絶甲氷盾であるのだが……どちらにせよドューケのデッキにはバーストを破棄するような効果を持つカードはない。彼は仮に止められたとしてもシデンをもっと痛みつけることができるなら喜んでバトルを続けようと考えた。

ドューケ「ピエモンにコアを置き、アタックスステップ！」

ピエモンLV2（3）BP12000

ピコデビモンLV1（1）BP1000

ピコデビモンLV1（1）BP1000

バースト有

LVは変動しないが、ドューケはピエモンにコアを置いた。軽い紫対策だろう。

ドューケ「ピコデビモン! やってしまいなさい!」

シデン「……だが、それは万本槍の古戦場のトリガーを引く。俺はカードをドロー!」
手札1 → 2

万本槍の古戦場はタイミングを問わずに相手のスピリットが疲労したらカードをドローできる効果を持つ。だが、いくらドローしても逆転のカードが引かなければ意味はない。

シデン「……それはライフで受ける………ぐっがつ!」

ライフ3 → 2

ピコデビモンは再び紫の波動を放ちシデンのライフを破壊した。シデンは足がふらつき、意識が朦朧とし始めた、本当に危険な状態だ。今までほとんどの休憩もなしにバトルを続けるからだ。

ドューケ「……ふふ、バーストは使わないのですか？ならもう一体のピコデビモンでアタック」

シデン「……カードをドロ、……………それもライフだ……………ぐわああああ!!」

手札2 ⇨ 3

ライフ2 ⇨ 1

2体目のピコデビモンがシデンのライフを破壊、強烈なバトルダメージがシデンを襲う。それはラフキーのバトル以上のものであった。

薄れていく意識の中でシデンは苛立っていた。ドューケに、そして、自分自身に、

自分は今までこの偽りだらけの世界を変えようと躍起になっていた。が、それは全て嘘、この世界はいたって普通の平和な世界だった。それどころか、本当の巨悪も見抜くことができずずっとその巨悪と生活を共にしていた、これは彼にとつて一生の恥だ。だから責任を取らねばならない。自分が蒔いた種、ここで取り除かねば一体いつ取り除けるだろうか。そお思うだけで、薄れた意識など忘れ、いくらでも力が溢れてきた。

シデン「……!!!バースト!!!絶甲氷盾!!!ライフを回復し、コストを払い、お前のアタックステップを終了させる!」

ライフ1 → 2

リザーブ5 → 1

トラッシュ5 → 9

済んでのところ息を吹き返したシデンが全力でバーストを開く。それはドューケの予想通りの絶甲氷盾、ギリギリで使ったのは万本槍の古戦場の効果で、より多くのカードをドローしなかったから、

彼の血だらけになりながらも仁王立ちで構える姿はバックにある万本槍の景色も相まって宛らあの有名な武蔵坊弁慶を彷彿とさせていた。

体の骨もとうに折れているだろうに、まるでそんなものなど何一つとして感じさせない。

ドューケ「……ふふ、やはりそうきましたか、ターンエンド」

シデン「……お前に妹はやらん! いくぞ!」

「ターン06」シデン

スタートステップ

コアステップ リザーブ1 ⇨ 2

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレッシユステップ

リザーブ2 ⇨ 1 1

トラツシユ9 ⇨ 0

シデン「……メインステップ、2体目のクリスタニードルを召喚！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ1 1 ⇨ 1 0

シデンのフィールドに再びクリスタニードルが姿を見せる。

シデン「さらに！銃ブレイブ！天命銃アーミラリー・スフィアを召喚！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ1 0 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 4

紫の魔法陣の中から出てきたのは銃ブレイブ、アーミラリー・スフィア、これまでシ

デンを支えてきた強力なブレイブカードだ。

シデン「アタックステップ!クリスタニードルでアタック!!……………フラッシュタイプ
ミング!煌臨!対象は天命銃アーミラリー・スファイア!!」

天命銃アーミラリー・スファイアLV1(6s↕5)

トラッシュユ4↕5s

ドューケ「……………来るか」

対象をアーミラリー・スファイアでの煌臨、ドューケでなくともシデンと言う人間を知っていれば今から呼び出されるスピリットは誰もがわかる。

シデン「……………来い!鉄壁なる神獣!メタルガルルモン!!」

手札2↕1

メタルガルルモン+天命銃アーミラリー・スファイアLV3(5)BP19000

呼び出されたメタルガルルモンは瞬時に背中にアーミラリー・スファイアを装備し、その機械の身体を真紫色に変化させる。

ドユーケ「……メタルガルルモン、あの時お前がいなければ……………」

ドユーケは真正面からメタルガルルモンを見て、昔の事を思い出していた。あの時、暗黒化したウォーグレイモンを無理矢理止めたのがメタルガルルモンだったからだ。しかもその過程でオメガモンという誰もが敵うはずのない存在を作り出してしまったのだから、何年経とうとドユーケの怒りは収まらないだろう。本当はシデンにメタルガルルモンを渡す前にそのカードを八つ裂きにしたかったはずだ。

ドユーケ「……やつとあなたを殺せますね……………!!」

ドユーケのその顔は焦燥感と殺意に満ちていた。

シデン「……クリスタニードルのアタックは続いているぞ!!」

ドユーケ「……それはライフで受けましょう」

ライフ4 ♪ 3

クリスタニードルはまるでバリアを潜るようにドューケのライフを貫いた。

アタックステップはここからが本番、メタルガルルモンのアタックとそのフラッシュタイミングで勝敗が分かれる。シデンは乱れる息を無理矢理正すように大きく息を吸い込み、意を決してアタックを仕掛ける。

シデン「……………やれえええ!!メタルガルルモン!!アタック時効果でピコデビモン2体のコアをトラッシュユヘ!そして回復!!」

メタルガルルモン+天命銃アーミラリー・スファイア(疲労↕回復)

ドューケ「……………」

ピコデビモン(1↔0) 消滅

ピコデビモン(1↔0) 消滅

トラッシュユ2↔4

メタルガルルモンは走り出すと同時に口内から氷のブレスを放ち、ピコデビモン達を凍りつかせる。ピコデビモン達はそのままだらだらに碎け散り、最後を迎えた。

シデン「……アタックは継続中！」

ドューケ「……ふふ、ライフで受けましょう」

ライフ3 ♪ 1

メタルガルルモンは怒りに任せた体当たりで無理矢理にドューケのライフを2つ破壊する。理由はドューケがピエモンである事だろう。

ドューケ「ライフ減少でバースト発動！バーストヴェノム!!メタルガルルモンのコア2個をトラツシユに!!」

シデン「……!!」

メタルガルルモン+天命銃アミーラリー・スファイアLV3 ♪ 2 (5 ♪ 3)

勢いよく開かれるドューケのバースト、紫の毒がメタルガルルモンを飲み込み、コアをかつさらっていった。

シデン「……だが、メタルガルルモンのアタック時効果はLV2からでも使用可能だ」
ドューケ「……ええ、ピエモンのLV2、3効果でBPは1000ですがね」

シデン「なに!？」

シデンは視線をメタルガルルモンに移し替えると、メタルガルルモンは小さな人形と
かしていた。

ピエモンのLV2、3の効果、それはLV2の相手のスピリット全てのBPを強制的
に1000にする力、1000と言う数字はバトルスピリッツにおいて最弱の数値であ
るため非常に強力な効果だが、相手が悪かった、メタルガルルモンはたとえその身が人
形になろうともそのアタック時効果を使用できる。

つまり、メタルガルルモンのアタック時効果でピエモンの3個の内の2つをもぎ取っ
てしまえば、ピエモンの効果は適応状態ではなくなり、メタルガルルモンも元に戻るの
だ。

最初はその異形で変わった効果に驚いたが、シデンは直ぐに冷静さを取り戻し、メタ
ルガルルモンにアタックの指示を送る。

シデン「……今一度アタックだ!メタルガルルモン!!ピエモンのコアを除去!」

メタルガルルモン+天命銃アーミラリー・スファイア(疲労+回復)

ドューケ「……!!」

ピエモン (3 ⇨ 1) LV 2 ⇨ 1

トラツシユ 4 ⇨ 6

ピエモンのコアが抜き取られると同時にメタルガルルモンは元の姿を取り戻す。これで再び形勢逆転、一気にシデンに有利な状況下に見えたが、

まだ何かあるのか、依然としてドユーケの表情は変わらない。

ドユーケ「……いいでしょう!! 相手になりますよ! この私自身で!!!」

シデン「……万本槍の古戦場の効果でドロ」

手札 1 ⇨ 2

ピエモンでブロックを宣言するドユーケ、メタルガルルモンとのBP差は完全に劣っており、このままでは間違いなくBP破壊されてしまうだろう。

ドユーケ「……ふふ、フラツシユマジック! フルーツチェンジ!」

手札 6 ⇨ 5

リザーブ 2 ⇨ 0

トラツシユ6 ⇨ 8

シデン「……!!」

ドューケが放ったのは黄色のマジック、フルーツエンジン、その効果は至ってシンプル且つトリッキー、バトル中のスピリットのBPを入れ替えるのだ。ドューケはこのカードでまた逆転を狙う。

ドューケ「……これで終わりだああああ!!潰れるおおお!!」

シデン「ならBPを比べる前に決着をつけるだけだ!フラツシユマジック!デッドリイバランス!!」

手札2 ⇨ 1

メタルガルルモン+天命銃アーミラリー・スファイア(3 ⇨ 2) LV2 ⇨ 1

トラツシユ5s ⇨ 6s

ドューケ「……な!?!」

シデン「……俺はクリスタニードルを破壊」

シデンの起死回生の一手、紫のマジックカード、デッドリイバランス、それは互いに

スピリットを1体ずつ破壊しなければならぬ効果、

シデンはアタック済みのクリスタニードルを選ぶが、ドューケは……

ドューケ「……ピエモンを破壊」

ピエモン以外スピリットが存在しないドューケのフィールドは当然それしか対象にならない。半ば強引に選ばれることとなる。

クリスタニードルとピエモンが同時に爆発する。BPを比べる前の直前のフラッシュタイムングであったので、このメタルガルルモンのアタックは無効、だが、今は回復状態であつて、

シデン「……ラストだ、俺たち兄妹や、シユリ、そして他の者達の無念を受けるんだな」

ドューケ「……ぐう!!おのれえええ!!」

ドューケはシデンとメタルガルルモンに苛立ちと憎しみを感じる。また負けるのかと、また、Dパラディン如きに負けるのかと、何度も心の中でそお思いながら、

シデン「いけ!メタルガルルモン!!凍てつく息吹、コキユートスブレス!!!」

ドューケ「……うわああああ!!」

ライフ1⁰

メタルガルルモンのトドメの一撃は氷のブレス、地面を凍りつかせながらも瞬時にドューケのバリアにまとわりつき、それを破壊した。

ドューケはライフゼロに伴い、バトルフィールドから弾かれた。

シデン「……うおおおお!俺は世界を変える男だああああ!!」

満身創痍の状態であるシデンの心からの叫びにメタルガルルモンも大きく遠吠えをあげる。

シデンはようやく自身との因縁に決着をつけた。

その後、シデンもバトルフィールドから帰ると、それと同時に花火も帰ってきた。シデンはドューケとのバトルに全力を注ぎすぎたのか、その場で力つき、倒れてしまう。血を流しすぎたのも原因の1つだろう。

花火「……シデン！」

横たわるシデンに駆け寄る花火達、カイネが手当用の道具をバトルヴァイスから取り出す。

それを遠目でドューケが眺めている。ゆっくりとその肉体を消滅させながら、悟っていた。アポカリモンの本当の復活条件を、

ドューケ「……おお、そうか、そうだったのか、だからどんなにエネルギーを溜めても今まであなたはお目覚めにならなかったのか、おお、神よ、私はあなたのためならこの肉体、魂を全てあなたに捧げましょう」

そう言い残し、ゆっくりとピエモンのカードと共に消滅していった。それらの力全てはイトニに吸収されていることなど花火達は目にも入らなかった。

花火「……おい！しっかりしろ！シデン！」

包帯でグルグル巻きにされたシデンを肩から揺らす花火、シデンはようやく気がつき、目を覚ます。

シデン「……い、イトニ、イトニ……は？」

花火「……イトニならもう大丈夫だ！俺もお前も、残りの四天王を倒したんだよ!!もう戦いは終わったんだ！」

違う、本当の戦いはこれからだ。そう、シデンが口を開こうとした瞬間、2人の前にはすでにイトニが立っていた。その目は正気ではない。まるで憎悪と憎しみと、支配欲に満ちた顔つきで花火達を見つめていた。

第41話 最終決戦！VS暗黒の神！

菜々子「……いい、イトニちゃんだよね？」

菜々子がそう戸惑いながら言った。花火達5人の目の前にいたのは確かにイトニ本人、だが、その様子はいつもと変わっていて、

イトニ？「イトニ？そうか、この器の名か、ピエモンめ、それくらいの情報くらい残しておいても良かったろうに」

シデン「……違う、奴はイトニではない、ドューケから聞いた、あれは「アポカリモン」、暗黒の力の神だ、イトニはその器にされたんだ」

全てを察したシデン、そしてそれはもちろん的中しているのであって、彼は先のバトルで息を切らしながらも花火達に説明した、その一言で花火は大方理解する。

花火「……じゃあ、あいつの中身は別人なのか!？」

小次郎「……そんなのありかよ」

アポカリモンは戸惑いと驚きの声をあげる花火達を見て、いや、正確には花火を見て、何かを思い出す。それは彼にとつてとても痛々しい過去、その過去と花火が重なってしようがなかった。

アポカリモン「……似ている」

花火「……え!？」

アポカリモン「貴様、名はなんと言う?」

花火「俺は、…花火だ」

アポカリモンは花火を見て確かにそういった。似ていると、それが誰に似ているのかは定かではないが、花火の髪色、ゴーグル、目つきを見ているとアポカリモンはその苦い過去を思い出してしまふ。

同時に彼は花火が自分の残りの暗黒の力を所持していることを理解する。

残りの暗黒というのはウズシオとチョウシュウのもの、花火はこれらを旅の中で自分の中に取り込んでいた。

アポカリモン「……貴様、私の力を半分も吸っているな」

花火「……だつたらなんだよ」

アポカリモン「奴が書き換えたルールに則り、バトルスピリッツを使い、力づくで残りの力を返してもらおう」

アポカリモンはその禍々しいほどの暗黒の力がこみ上げられたデッキを静かに取り出し、それを花火に向ける。

アポカリモンがいう『奴』とはオメガモンのことであり、アポカリモンはオメガモンを憎んでいた。それはオメガモンがこの世界を丸ごと自分の力で書き換えたことが理由だろう。

花火「……そんな力、手に入れて何しようってんだよ」

アポカリモン「世界を暗黒に染め上げる。そして、そこに暗黒のスピリットの世界を造る、我はその世界の神になるために生まれてきたのだ」

花火「……言ってる意味がわかんねえよ」

あまりのスケールの大きな話についていけない花火、だが、それは今に始まったことではない。まとめて整理すると花火がアポカリモンに勝てばいいのだ、バトルスピリッツで、

アポカリモンは話を続ける。

アポカリモン「……感じるぞ、オメガモンもお前の中でかすかに息を吹き返し、復活したのだな、だが、喋ることのできないカード体では何も意味をなさない、完全に蘇る前にここで貴様とともに消してやろう」

花火「……わかりやすく助かるぜ、要はお前を倒せばハッピーエンドなんだな！上等だ！かかってこい！」

シデン「……待て、花火」

最終決戦が始まるのを他所に、包帯をグルグル巻きにされて喋りづらそうなシデンが花火に声をかけた。

そして彼は花火に1枚のカードを手渡した。花火はそのカードを見て、思わず目を見開く。

花火「お前、これ」

シデン「……お前に何かを頼むことになるとは思わなかった、勝手かもしれないが……イトニを頼む」

シデンの心からのお願いに花火は当然断ることはなく、いや、最初からそうするつもりだった。それが、人間、一木花火なのだから。

菜々子、小次郎、カイネも花火に全力でエールを送る。この中で誰も花火が負けるとは誰も思っていない。

アポカリモン「……余談はいいか？」

花火「……ああ、十分だぜ！いくぞ！これがDパラディンと暗黒の力の最終決戦だ!!」

花火&アポカリモン「……ゲートオープン！解放!!」

いよいよ始まる最終バトル、シデン達もバトルフィールドの観客席へと移動する。

泣いても笑ってもこれが最後、世界を救うため、花火はバトルに臨む。

ー先行はアポカリモンだ。

「ターン01」アポカリモン

スタートステップ

ドローステップ 手札4⇩5

アポカリモン「メインステップ、先ずはネクサス、スパイラルマウンテンを配置」

手札5⇩4

リザーブ4⇩0

トラッシュ0⇩4

花火「……!!」

アポカリモンの背後に聳え立つのは森、岩、川を螺旋状に唸らせたかのような高い高い山、その頂きは雲に隠れて拝むことができない。

アポカリモン「……ターンを終えよう」

スパイラルマウンテンLV1

バースト無

「ターン02」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

花火「メインステップ！ネクサスカード！勇気の紋章を配置！LVは2だ！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 4

つ。
花火の背後に現れたのはまるで太陽のような紋章、それは赤々と燃えたぎる輝きを放

花火「……ターンエンド」

勇気の紋章LV2（1）

バースト無

「ターン03」アポカリモン

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレツシユステツプ

リザーブ1 ⇨ 5

トラツシユ4 ⇨ 0

アポカリモン「メインステップ、そうだな、ここはヤン・オーガでも召喚しようか」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 1

トラツシユ0 ⇨ 3

アポカリモンが初めて呼び出したスピリットは緑の虫兵、トンボのような翼を羽ばたかせ、それはフィールドに舞い降りた。

アポカリモン「……ターンを終えよう」

「ターン04」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

花火「ドローステップ時、勇気の紋章のLV2効果で、ドロ一枚数を1増やし、その後1枚破棄する」

手札4 ⇨ 6 ⇨ 5

破棄カード【エクスキャベーション】

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 5

トラッシュユ4 ⇨ 0

花火「メインステップ、アグモンをLV2で召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ5 ⇨ 0

トラッシュユ0 ⇨ 2

アポカリモン「……アグモン、やはり貴様は奴の子孫か何かか」

花火のフィールドに現れたのは黄色い体色を持つ恐竜型のデジタルスピリット、アグモン、その召喚時効果はこれまで花火を幾度となく支えてきた。

アポカリモンは花火の聞こえない程度の音量でボソツと呟いた。以前花火に似た者にでもあつたのだろうか。

花火「……召喚時効果！」

オープンカード

【スカルグレイモン】

【双光気弾】

完全体のスカルグレイモンがオープンされたため、花火はそれを颯爽と手札に加える。

花火「アタックステップ、」

手札4→5

アグモンLV2(3)BP5000

勇気の紋章LV2(1)
バースト無

進化はしない、まだ、グレイモンが手札に加わっていないからだ。

花火「……アグモンでアタック！」

アポカリモン「ライフで受けよう」

ライフ5 → 4

アグモンは口内から限界まで炎を溜めてアポカリモンに向けて放つ。アポカリモンのライフは1つ砕け散った。

花火「……ターンエンド」

「ターン05」アポカリモン

スタートステップ

コアステップ リザーブ2 → 3

ドローステップ 手札4 ⇨ 5

リフレッシュステップ

リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュユ0 ⇨ 0

アポカリモン「メインステップ、ヤン・オーガをLV3に上げて、マジック、ライフチャージを使用、それを破壊して、コアを3つ追加、さらにヤン・オーガの効果で3つ追加する」

手札5 ⇨ 4

リザーブ6 ⇨ 0 ⇨ 3 ⇨ 7 ⇨ 10

トラッシュユ0 ⇨ 3

花火「……!?!」

ライフチャージはコスト3以上の自分のスピリットを破壊することで、ボイドからコアを3つ追加する効果がある、緑のマジックカード、ヤン・オーガは破壊時に自身のLVにに応じてボイドからコアを増やす効果があるため、その掛け合わせ技で合計でボイドからコアを6つ増やしたことになる。

ヤン・オーガが緑の光に包まれながら爆発する。その後、光の粒子となってアポカリモンの側にコアという形で残る。

バトスピファンなら誰もがわかるコンボだが、まさか、黄色を使っていたイトニからこんなコンボが出てくるとは思っていなかった。心の中だけではなく、デツキも変わったのだろうか。

アポカリモン「……さらに2枚目のスパイラルマウンテンを配置、」

手札 4 ⇨ 3

リザーブ 10 ⇨ 7

トラツシユ 3 ⇨ 6

もう1つ不思議な山が聳え立つ。効果がまだ判明していないため、より一層、それを強く警戒する花火。

アポカリモン「……2体目のヤン・オーガを召喚、LV3」

手札 3 ⇨ 2

リザーブ 7 ⇨ 1

トラツシユ6 → 8

アポカリモンのフィールドに今一度ヤン・オーガが召喚される。

アポカリモン「……バーストを伏せて、ターンを終えよう」

手札2 → 1

ヤン・オーガLV3(4)BP5000

スパイラルマウンテンLV1

スパイラルマウンテンLV1

バースト有

アポカリモンは最後にバーストを伏せてターンを終える。今まで使ってきたカード、及びシンボルは緑と紫であることからそれらのカードが予想されるが、まだまだ侮れない。

「ターン06」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札5 ⇨ 7 ⇨ 6

破棄カード【砲竜バル・ガンナー（リバイバル）】

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 3

トラッシュユ2 ⇨ 0

花火「メインステップ、これならいけるぜ、こい！アシガルラプター！ロクケラトプス2体！」

手札6 ⇨ 3

リザーブ3 ⇨ 0

花火のフィールドに現れたのはアシガルラプターとロクケラトプス達、これで速攻の準備が終わる。

花火「……アタックステップ開始時！アグモンの【進化】を發揮！こい！グレイモン！」

アグモンは進化する。今までこの過程を何度行っただろうか、序盤ならシンプルに強い動きだ。

立派な頭角をもつ恐竜型のデジタルスピリット、グレイモンが召喚される。

花火「……頼むぞ!グレイモン!」

グレイモンは花火の言葉に答えるように声を唸らせる。菜々子達もグレイモンを応援する。

花火「……行くぜ!」

グレイモンLV2(3) BP5000

アシガラプターLV1(1s) BP2000

ロクケラトプスLV1(1) BP3000

ロクケラトプスLV1(1) BP3000

勇気の紋章LV2(1)

バースト無

花火「いけ！グレイモン！アタック時効果でヤン・オーガを破壊して1枚ドロ」
手札3 → 4

グレイモンの口内から放たれる熱き炎がヤン・オーガを破壊する。
ただし、ヤン・オーガもただでは死なない。

アポカリモン「……ヤン・オーガの効果でコアを増やす、LV3だったから3つ
リザーブ5 → 8

花火「構うもんか！グレイモン！」

アポカリモン「……それはライフで受けよう」

ライフ4 → 3

グレイモンの頭角がアポカリモンのライフを粉碎する。

カイネ「……これで残りライフは3つ………!!」

小次郎「……残りのアタックが通れば」

確かにフルアタックが成功すれば花火が勝利するものの、それだけで終わるなど花火は思っていないかった。

その予想が的中するようにアポカリモンのバースドがオープンされる。

アポカリモン「……ライフ減少でバースト発動!秘剣二天一龍!BP5000以下のスピリット2体を破壊!失せろ!アシガルラプター!ロクケラトプス!」

花火「……!!今度は赤……!!」

炎の斬撃が花火のフィールドを襲う、ロクケラトプス2体の内の1体と、アシガルラプターが直撃し、大爆発を起こす。

アポカリモン「……この効果で2体のスピリットの破壊に成功すれば1枚ドロ、さらに、コアを支払い、2枚ドロ」

手札1 → 2 → 4

リザーブ9 → 5

トラツシユ8 → 12

追加効果で計3枚のカードを新たに手に入れるアポカリモン、花火の速攻は完全に潰えた。

花火「……ターンエンド」

攻めるのは難しいと判断したのか、花火はロクケラトプスをブロッカーに回し、ターンを終える。

「ターン07」アポカリモン

スタートステップ

コアステップ リザーブ5 → 6

ドローステップ 手札4 → 5

リフレッシュステップ

リザーブ6 → 18

トラッシュユ12 → 0

すでにコアが花火の倍以上溜まっているアポカリモン、彼はこの大量のコアでなにを出そうとしているのか、

アポカリモン「メインステップ、召喚、ムゲンドラモン」

手札5 → 4

リザーブ18 → 6

トラッシュ0 → 8

花火「……なに!？」

地響きとともに巨大な機械竜のスピリット、ダークマターズの1体、ムゲンドラモンが召喚される。

ここで重要なのはバトルに負けたチョウシュウと共に消滅したはずのムゲンドラモンがなぜ、アポカリモンのデッキに入っているのかという点だ。

菜々子「……なんでムゲンドラモンが!？」

カイネ「……消えたはずじゃ」

アポカリモン「消えた?なにを馬鹿なことを、ダークマターズは元々私の支配下にあ

るもの達だ。私がいる限り、何度でも蘇る」

そう、ダークマターズのデジタルスピリット達は元々はアポカリモンの力の一部に過ぎない、暗黒の力を抜き取られてもカードだけはアポカリモンのもとに帰ってきていたのだ。だからこそ花火に取られたウズシオとチョウシユウの暗黒の力が必要になってくるのだ。自分が本当に覚醒するために。

アポカリモン「バーストを再び伏せる」

手札4 → 3

アポカリモンのフィールドに再びバーストが伏せられる。ムゲンドラモンを警戒しなければならぬが、当然あのバーストにも気をつけなければならない。

アポカリモン「アタックスステップ、いけ！ムゲンドラモン、スパイラルマウンテンのLV1、2の効果でデッキから2枚ドロ、」

手札3 → 5

花火「……ライフで受ける」

ライフ5 ♪ 4

スパイラルマウンテンは自分の完全体、究極体がアタックした時、デツキから1枚ドロ―する効果がある、それが2枚分でアポカリモンは2枚のカードを引いた。ムゲンドラモンは背中に携えた強力なエネルギー砲で花火のライフを1つ粉碎した。

ただし、ムゲンドラモンの怖いところはこの後であって、

アポカリモン「ムゲンドラモンの効果、バトルの終了時に、デツキの上をめくり、それが完全体なら召喚できる」

オーブンカード

【エンジエウーモン】

花火「……エンジエウーモン……!!」

アポカリモン「……めくれたのは完全体、エンジエウーモン、よってこれを召喚」

リザーブ6 ♪ 3

エンジエウーモンLV3 (3) BP10000

イトニの意味もやはり混在して存在しているのか、エンジエウーモンがムゲンドラモ

ンの作り出したワームホールから飛び出してくる。

ただしその綺麗な翼はアポカリモンの影響により、漆黒に染まっていた。

シデン「……イトニのエアースまで」

アポカリモン「……エンジエウーモンの召喚時効果！LV1のスピリット全てを手札に戻し、戻した大数だけ、ライフを回復する！」

ライフ3 → 4

花火「……くっ！ロクケラトプス……！」

手札4 → 5

エンジエウーモンの放つ波動にロクケラトプスが飲み込まれる。ロクケラトプスは光の粒子となって花火の手札に戻ってしまう。

アポカリモン「はは、このターンは終えよう」

エンジエウーモンLV3(3)BP10000

ムゲンドラモンLV3(4)BP15000

スパイラルマウンテンLV1

スパイラルマウンテンLV1
バースト有

アポカリモンはエンジェウーモンでのアタックをせずにターンを終了する。

「ターン08」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ4 → 5

花火「ドローステップ時に勇気の紋章の効果によるドロー+効果はグレイモンと名のつくスピリットがいるとき、破棄する必要はなくなる」

手札5 → 7

勇気の紋章とグレイモンが共鳴する。花火の手札はより円満になる。

花火「メインステップ、もう一度アグモンを召喚!LV2!」

手札7 → 6

リザーブ5 → 1

トラツシユ0 ⇨ 1

花火のフィールドに再びアグモンが姿を見せる。

花火「……召喚時効果！」

オーブンカード

【メタルグレイモン】

【ガイアフォース】

再びその効果は成功する。完全体のメタルグレイモンが手札に加わった。

花火「行くぜ、バーストを伏せて、アタックステップ時にアグモンの進化を發揮！こ
い！グレイモン「2」！」

手札6 ⇨ 7 ⇨ 6

アグモンが再び進化を遂げる。それは普段のグレイモンとは違う別のグレイモン、グ
レイモンのもう1つの姿、

小次郎「また「2」だ」

小次郎はそれを見てただ、その言葉をポツリと漏らした。「2」スピリットは単純に進化ルートを増やすだけではなく、花火のデツキだと、グレイモンでまとめているため、ガイアフォースなどの活用率が数段に跳ね上がる。

花火「グレイモン「2」の召喚時効果!相手のネクサス1つを破壊して1枚ドロ!消え去れ!スパイラルマウンテン!」

手札6 → 7

グレイモン「2」の特大の炎は瞬く間にスパイラルマウンテン、2つの内1つを燃やし、焼き尽くした。

花火「いけ!グレイモン!アタック時効果!【超進化】!メタルグレイモンに進化せよ!」

今度は最初のグレイモンが進化する。身体の半分以上がサイボーグと化した完全体のデジタルスピリット、メタルグレイモンの登場だ。

花火「召喚時効果！BP10000以下の相手のスピリット1体を破壊！エンジェウーモンだ！」

アポカリモン「……破壊を選ぼう」

エンジェウーモンの効果を使ってもメタルグレイモンのアタック時効果でどちらにせよ破壊される。アポカリモンはエンジェウーモンの破壊を選択した。

メタルグレイモンの胸部のハッチが開き、強靱なミサイル弾が放たれる。エンジェウーモンはそれに直撃し、大爆発を起こした。

花火「次だ！グレイモン「2」でアタック！アタック時効果！【超進化】発揮！完全体のスカルグレイモン！」

花火の流れるような怒涛の進化コンボ、花火は進化したてのメタルグレイモンでアタックは仕掛けずに2番目のグレイモンでアタック、そのアタック時効果で完全体まで

進化させる。それは花火が初めて自身の暗黒の力を暴発させて生み出した全身が骨だけのスピリット、スカルグレイモン、どこを向いているかわからない顔でアポカリモンを見つめる。

花火「召喚時効果!ムゲンドラモンのコアを1つのリザーブへ!」

アポカリモン「……」

ムゲンドラモンLV3 ⇨ 2 (4 ⇨ 3)

スカルグレイモンの不思議な魔力がムゲンドラモンを襲うが、あまり有効的な攻撃ではなかったのか、その力を少し弱める程度にしかならなかった。

花火「本番!メタルグレイモン!アタックだ!」

花火の命令で、メタルグレイモンはボロボロの翼を器用に羽ばたかせ、低空飛行で真っ直ぐに直進する。目指すはアポカリモンのライフだ。

花火「フラッシュ!煌臨発揮!対象はスカルグレイモン!」

リザーブ1s ⇨ 0

トラツシユ1 ⇨ 2s

カイネ「来た！ウオーグレイモンだ！」

シデン「……いや、違う」

ウオーグレイモンだと予想するカイネに対し、違うと言い放つシデン、その予想は的中していた。花火が呼び出すのはウオーグレイモンの盟友にしてシデンの相棒。

花火「鉄壁なる神獣！メタルガルルモン！」

手札7 ⇨ 6

メタルガルルモンLV2(3) BP14000

スカルグレイモンは姿形を変えて究極進化を果たす。それはいつものようにウオーグレイモンになるのではなく、薄い青紫の機械の肉体を持つガルルモン系の最強スピリット、メタルガルルモンだった。

これはバトル開始の直前、シデンが花火に手渡していたカードだ。

葉々子「花ちゃんがメタルガルルモンを………!」

アポカリモン「来たな、メタルガルルモン、昔のようにはいかんぞ、メタルグレイモンのアタックはライフで受けよう」

ライフ4 ⇨ 3

メタルグレイモンは左手のアームでアポカリモンのライフを打ち砕いた。

だが、それは同時にアポカリモンのバースト発動の条件でもあつて

アポカリモン「ライフ減少により、バースト発動!絶甲氷盾!ライフを1つ回復し、コストを払い、アタックステップを終了させる!」

ライフ3 ⇨ 4

リザーブ8 ⇨ 4

トラッシュ8 ⇨ 12

メタルガルルモンがアタックする前に吹雪が発生、スピリット達の足が止まり、花火のアタックステップごと終了させられた。

花火「くっ！ターンエンド」

メタルグレイモンLV2 (3) BP9000

メタルガルルモンLV2 (3) BP14000

勇気の紋章LV2 (1)

バースト有

花火のターンが終わる。次はアポカリモンのターン。

「ターン09」アポカリモン

スタートステップ

コアシテップ リザーブ4 ⇨ 5

ドローステップ 手札5 ⇨ 6

リフレッシュステップ

リザーブ5 ⇨ 17

トラッシュユ12 ⇨ 0

アポカリモン「メインステップ、もう一度バーストを伏せ、ピノッキモンを召喚！」
手札6 ⇨ 4

リザーブ17 ⇨ 6

トラツシユ0 ⇨ 8

アポカリモンのフィールドにバーストが伏せられると同時に現れたのはピノキオ型の究極体デジタルスピリット、ピノッキモン、その肉体全てが木製でできている。

小次郎「なんだ!?!あいつ?」

シデン「ただの雑魚だ」

シデンが雑魚で一蹴してしまったが、その効果は割と優秀なものであって、使うものが使用していたらきつともっと強敵になっていたのかもしれない。

アポカリモン「ムゲンドラモンを再びLV3に上げてアタックステップだ」

リザーブ6 ⇨ 5

ピノッキモンは巨大なハンマーの様な武器を、ムゲンドラモンは背中の砲台をそれぞれ構えて戦闘態勢に入る。

アポカリモン「ピノッキモンでアタック！その効果でリザーブのコアを3つ支払い、このターン、究極体のシンボルを緑の2つにする！」

手札 4 ⇨ 5

リザーブ 5 ⇨ 2

トラツシユ 8 ⇨ 11

花火「なに!？」

ピノッキモンの力がアポカリモンのフィールド全体に満ちていく、影響させるのはピノッキモンだけにあらず、ムゲンドラモンも緑のダブルシンボルスピリットと化した。

アポカリモン「さあ、アタックはどう受ける？」

花火「くっ、……………ライフだ、」

ライフ 4 ⇨ 2

ピノツキモンのハンマーが花火のライフを2つ同時に叩き割る。花火は少しよろけながらもバーストを発動させる。

花火「バースト!俺も絶甲氷盾だ!」

ライフ2 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

メタルグレイモンLV2 ⇨ 1 (3 ⇨ 1)

トラッシュユ2 ⇨ 6

花火のライフが1つ元に戻ると同時に、豪快な吹雪が発生、今度はアポカリモンのフィールドのスピリット達がアタックを封じられてしまった。

アポカリモン「仕方ないか、……ターンを終えよう」

ピノツキモンLV2 (3) BP15000

ムゲンドラモンLV3 (4) BP15000

スパイラルマウンテンLV1

バースト有

致し方なく、アポカリモンはそのターンを終える。

花火「ここからが正念場だ、いくぞ！」

「ターン10」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札6 ⇨ 8

リフレッシユステップ

リザーブ1 ⇨ 7

トラツシユ6 ⇨ 0

花火「メインステップ、再びアグモン、グレイモン、グレイモン「2」を召喚！」

手札8 ⇨ 5

リザーブ7 ⇨ 0

トラツシユ0 ⇨ 4

花火のフィールドに「進化」、「超進化」によって手札に戻された進化元のスピリット達が集結する。特にグレイモン「2」はその効果を遺憾無く発揮する。

花火「グレイモン「2」の召喚時で再びお前のネクサスを破壊してカードをドロースる！対象はもちろんスパイラルマウンテンだ！」

手札5 → 6

グレイモン「2」の炎が再びスパイラルマウンテンを燃やしていく。これでアポカリモンのドロースはほぼ潰えることになった。

花火「バーストを伏せて、アタックステップ！」

手札6 → 5

メタルガルルモンLV2(3) BP14000

メタルグレイモンLV1(1) BP6000

グレイモンLV1(1) BP4000

グレイモン「2」(1) BP4000

アグモンLV1(1) BP3000

勇気の紋章LV2(1)

バースト有

花火の5体のスピリットの大進行が始まる。

花火「いけ！メタルガルルモン！アタック時効果でムゲンドラモンのコアを2個ト
ラツシュへ！そして回復！」

メタルガルルモン(疲労⇨回復)

アポカリモン「……」

ムゲンドラモンLV3⇨2(4⇨2)

トラツシュ11⇨13

メタルガルルモンの凍てつく氷のプレスがムゲンドラモンを弱らせる。そしてオマケのような回復効果、普通なら花火の勝ちにしか見えないこの状況、だが、本当は花火の方が追い詰められていることなどまだ誰も知らなかった。

アポカリモン「ライフだ」

ライフ4 ♪ 3

メタルガルルモンのミサイルが全弾命中し、アポカリモンのライフは1つ砕かれる。もう一度メタルガルルモンの効果を受けるとわかっていながらもライフを選択するアポカリモン、その意味はもちろん伏せられているバーストカードにあった。

アポカリモン「ライフ減少により、バーストを発動!イマジナリーゲート!」

花火「イマジナリーゲート?」

アポカリモン「このカードは手札にある黄色のスピリットカードを召喚時の効果無しにしてノーコスト召喚する!我はホーリーエンジェモンを召喚!」

手札5 ♪ 4

リザーブ2 ♪ 0

ホーリーエンジェモンLV2(2)

突如現れた黄色のリング、それは回転しながらも光輝き、そのリングの間からホーリーエンジェモンを呼び出した。これもイトニの使っていたエーススピリットだが、エ

ンジュエウーモン同様、その羽は漆黒の闇に染まっていた。

アポカリモン「さあ、どうする？ホーリーエンジエモンはコア除去の効果を受けんぞ」
花火「知ったことかよ！BPではメタルガルルモンより遥かに劣っているぜ！構うな
メタルガルルモン！アタックだ！効果でムゲンドラモンを消滅させて回復!!」

メタルガルルモン（疲労↔回復）

アポカリモン「……」

ムゲンドラモン（2↔0）消滅

トラツシユ13↔15

ホーリーエンジエモンの登場にも躊躇うことなく走り出すメタルガルルモン、その凍
てつく氷のブレスは遂にムゲンドラモンを消滅させることに成功する。

ムゲンドラモンは氷の粒子となってフィールドの乾いた風と共に流されていった。
一方でシデンはアポカリモンの本当の狙いに気がついて、

シデン「よせ！花火！奴の狙いは………!!」

シデンは花火を制しさせようとすも時すでに遅し、アポカリモンはこの最高のタイミングであるカードを引き抜く。それはシデンだからこそ予測できたもの。

アポカリモン「フラッシュタイミング!煌臨発揮!対象はホーリーエンジェモン!」

ピノツキモン(3s ⇨ 2) LV2 ⇨ 1

トラッシュユ15 ⇨ 16s

花火「煌臨?ここで!?!」

アポカリモン「いでよ!我が右腕!ピエモン!!」

手札4 ⇨ 3

ピエモンLV2(2) BP12000

ホーリーエンジェモンが姿形を変えて究極進化を遂げていく、その姿は世界を混乱に陥れていた張本人、ドューケことピエモン、もう言葉を交わすことはできないが、その意思はカードの中にしつかりと受け継がれていた。

アポカリモン「ピエモンの召喚時、相手のスピリット1体をBP—5000、この効

果で0になった場合はそのスピリットをデッキの下に送る、これを合計4回行う」

花火「ツ！……だが、メタルガルルモンが消されても、周りのスピリットがお前を倒すぜ！」

アポカリモン「ふふ、そんなものほとんど残らんよ、フィールドをよく見ろ！」

花火「………!!」

花火が目の当たりにしたのは人形と化したメタルガルルモンの姿、そしてそのBPは僅か1000、

アポカリモン「ピエモンのLV2、3の効果だ、お前のスピリットのLV2のBPは全て1000になる」

花火「くっ！」

アポカリモン「これで4体のスピリットを消せる、やれ！ピエモンよお前の無念を今こそ晴らすのだ!!」

アポカリモンの声に応えるように上空に飛び出すピエモン、そして飛び出すトランプカードの攻撃、それは計4枚あり、それぞれ、アグモン、グレイモン、グレイモン「2」、

人形となったメタルガルルモンに突き刺さる、そして、スピリット達は花火のデッキの下へと光の粒子となって戻ってしまおう。

花火「くっ!すまないメタルガルルモン、シデン、皆んな」
シデン「諦めるなよ、勝負はこれからだ、気を引き締めろ」
花火「ああ、ターンエンドだ」

珍しく花火に激励を送るシデン、だが、エールを送った程度でどうこうなる状況ではないが、

花火のフィールドに残ったのは回復状態のメタルグレイモンのみ、しかもLV1、対してアポカリモンのフィールドには強力なダークマターズのスピリットが2体、戦力差は一目瞭然だ。

「ターン1」アポカリモン

スタートステップ

コアシテップ リザーブ0 ⇨ 1

ドローステップ 手札3 ⇨ 4

リフレツシユステツプ

リザーブ1 ⇨ 17

トラツシユ16 ⇨ 0

アポカリモン「メインステツプ、次はこいつだ！メタルシードラモンを召喚！LV2だ！」

手札4 ⇨ 3

リザーブ17 ⇨ 5

トラツシユ0 ⇨ 8

カイン「……メタルシードラモン……!!」

そのスピリット名に最も早く反応してみせたのはカインだった。

フィールドに渦巻く渦潮の中から現れるのは蛇のように長い体躯に加えて、鼻先に強力なレーザー砲を携えたダークマターズの1体、

それは初めて火花が対峙したダークマターズであり、過去には火花のウォーグレイモンも2度、あのスピリットに敗北を喫している。

花火「やっぱりいるのかよ、メタルシードラモン」

花火はウズシオとのバトルを思い出す。あの時勝てたのは勢いと運があつてこそだったが、今は違う、花火の実力は以前より確実に上がっている。花火は心の中で自分はいける、勝てると鼓舞する。

アポカリモン「ピエモンとピノツキモンをそれぞれ最高のLVへとアップ」

リザーブ5 → 2

ピエモンLV2 → 3 (2 → 4)

ピノツキモンLV1 → 2 (2 → 3)

全てのダークマターズスピリットがレベルMAXになり、フィールドから溢れんばかりの威圧感が漂う。彼らは今にも花火を襲おうとしていた。

最終話 運命のオメガワールド

花火対アポカリモンの世界をかけた戦いは続く。フィールド状況は以下の通り、

【花火】ライフ3

メタルグレイモンLV1(1) BP6000

勇気の紋章LV2(1)

バースト有

【アポカリモン】ライフ3

メタルシードラモンLV2(4) BP15000

ピノツキモンLV2(3) BP15000

ピエモンLV3(4) BP16000

バースト無

ライフは互角ではあるもののフィールド状況は見るからに有利なのはアポカリモン、

さらに現在、アポカリモンのアタックステップ、花火は今絶対絶命の状況を迎えていた。

アポカリモン「さあ、アタックステップだ、やれ！メタルシードラモン！アタック時効果でメタルグレイモンを粉碎しろ！」

メタルシードラモンの鼻先のレーザー砲がメタルグレイモンを襲う。メタルグレイモンはそれに貫かれて爆発してしまう。

メタルシードラモンはアタック時に自身のコスト以下の相手のスピリット1体を破壊できる。花火は以前、この効果で2度もウオーグレイモンを破壊されている。

花火のプロツカーはゼロ、ライフは3、何もなければこのままジ・エンドだ。

菜々子「花ちゃん！」

小次郎「花火！」

仲間達が声をかける、だが、それは余計な心配、花火はこんなところでは終わらない。手札から1枚のカードを抜き取る。

花火「……お前のBP8000以上のスピリットのアタックが条件だ！」

アポカリモン「……………!?!」

花火「漆黒の闇よりいでよ！ブラックウオーグレイモンを1コスト支払ってLV3で召喚！」

手札5 → 4

リザーブ6 → 1

トラッシュ4 → 5

ブラックウオーグレイモンLV3(4) BP15000

暗黒の中より黒きウオーグレイモン、ブラックウオーグレイモンが姿を見せる。ブラックウオーグレイモンは相手のBP8000以上のスピリットのアタック中のフラッシュタイミングで1コスト支払うことで召喚できる。

ブラックウオーグレイモンは武器のドラモンキラーを掲げ、空気が震撼するほど、力強く咆哮した。

アポカリモン「……黒いウオーグレイモン……！だが、BPはダークマターズ達とほぼ同じ」

花火「誰がブロックするかよ、そいつはライフだぜ」
ライフ3 ⇨ 2

メタルシードラモンはブラックウオーグレイモンを無視して花火のライフを1つ噛み砕く。

だがここで花火のバーストが発動する。

花火「ライフ減少でバースト発動！絶甲氷盾！」

アポカリモン「…ッ！…2枚目だど!?!」

花火「効果でライフを1つ戻し、コストを払い、アタックステップを終了させる！」

ライフ2 ⇨ 3

リザーブ2 ⇨ 0

ブラックウオーグレイモンLV3 ⇨ 2 (4 ⇨ 2)

トラッシュ5 ⇨ 9

またしても絶甲氷盾に勝利への道を阻まれるアポカリモン、
荒れ狂う吹雪の中でターンエンドの宣言を迫られた。

アポカリモン「……ターンを終えよう」

「ターン12」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

花火「ドローステップ時、勇気の紋章LV2の効果で名前にグレイモンを持つスピリットがいるから、ドロー数を1増やす！」

手札4 ⇨ 6

現在花火のフィールドにはグレイモンの名を持つブラックウオーグレイモンが生存、ドローステップで通常の倍の2枚のカードを花火はドローした。

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 10

トラッシュ9 ⇨ 0

花火「メインステップ、アグモン「2」、ロクケラトプスをLV1でそれぞれ召喚！」
 手札6 ⇨ 4
 リザーブ10 ⇨ 7
 トラッシュ0 ⇨ 1

花火のフィールドに第2のアグモンと、ロクケラトプスが召喚された。

花火「さらにブラックウオーグレイモンのLVを3に上げて、マジック、ダイナパワーを使用する！」

手札4 ⇨ 3
 リザーブ7 ⇨ 4
 ブラックウオーグレイモンLV2 ⇨ 3 (2 ⇨ 4)
 トラッシュ1 ⇨ 2

ダイナパワー、このターンの間、地竜スピリットのBPを+3000して、さらに指定アタックまで付与する非常に効率の良いマジック、それが花火のフィールド全体に影

響を及ぼしていく。

花火「アタックスステップ！ブラックウオーグレイモンでピエモンに指定アタック！この時、相手のフィールドで一番BPが高いスピリットを指定した時、ブラックウオーグレイモンは回復する！」

ブラックウオーグレイモン（疲労。回復）

アポカリモン「ぐっ、小賢しい真似を、…我が右腕よ！迎え撃て！」

ピエモンの投げる短剣を全てブラックウオーグレイモンは紙一重で避けていく。

ピエモンは切羽詰まった状態であり、ブラックウオーグレイモンは直ぐにピエモンを倒せるほどの実力を有しているため、このままでは間違いなくピエモンは破壊されてしまう。が、アポカリモンはその程度ではピエモンをやらせてはくれない。

アポカリモン「フラッシュマジック！鉄壁ウォール！このアタックの終わりにアタックスステップを強制終了させる！……さらにそのコストにソウルコアを支払った際、破壊されたスピリットを疲労状態でフィールドに残す！」

手札3 → 2

リザーブ 2 s ⇨ 0

ピエモン LV 3 ⇨ 2 (4 ⇨ 2)

トラツシユ 8 ⇨ 1 2 s

花火「……ここで鉄壁ウォールかよ」

鉄壁ウォールの効果が適応される。このバトルでアタックステップは終了し、アポカリモンのスピリット全ては破壊されなくなる。

だが、花火がなにもできなくなったわけではない。寧ろここからが真骨頂と言える。

花火「フラツシユ！ 煌臨！ 發揮！ ブラックウオーグレイモンをウオーグレイモンにチェンジだ！」

リザーブ 4 s ⇨ 3

トラツシユ 2 ⇨ 3 s

ブラックウオーグレイモンの色が剥がれるように変わっていく、それは正しく限定回帰とも言える現象であって、今こそ漆黒の龍戦士は真の龍戦士となつてフィールドに再び姿を見せる。

花火「来い！最強の龍戦士！ウォーグレイモン!!」

手札3[→]2

ウォーグレイモンLV3(4)BP16000

花火の絶対的エーススピリット、ウォーグレイモンがフィールドに現れた。

今まで何度も花火は彼とともに死線をくぐり抜けてきた。今回もきつと乗り越えることができる。そう信じて、花火はバトルを続ける。

花火「バトル続行！いけ！ウォーグレイモン！」

アポカリモン「破壊されないと云っているだろう！」

ウォーグレイモンのドラモンカラーの一撃をピエモンはひらりと華麗にかわしてみせた。本当は煌臨時効果と合わせてピエモンとメタルシードラモン、ピノッキモンのいずれかの計2体までは破壊できたのだが、鉄壁ウォールの効果は、このターンの間、アポカリモン側のスピリットはいかなる破壊でも無効にしてしまうため、それは敵わなかった。

だが、ウォーグレイモンもただでは転ばない。破壊されるのはあくまでスピリットのみ、プレイヤーのライフは関係ない。

花火「ウォーグレイモンのLV2、3の効果を発揮！トラッシュユのソウルコアをウォーグレイモンに置くことで相手のライフのコア1つをボイドに置く！………超特大！ガイアフォース!!!」

トラッシュユ3s ⇨ 2

ウォーグレイモン（4 ⇨ 5s）

アポカリモン「なに!? ……うおおお！」

ライフ3 ⇨ 2

ウォーグレイモンはこれでもかというくらいの大きさのガイアフォースを両手で作り出すと、それをアポカリモンへ向けて全力投球、直撃し、彼のライフを1つ溶かすように破壊した。

花火「ターンエンド」

手札2 ⇨ 3

ウォーグレイモン LV3 (5s) BP16000

ロケケラトプス LV1 (1) BP3000

アグモン「2」 LV1 (1) BP2000

バースト無

地竜スピリットの生存により、ダイナパワーのカードがエンドステップに舞い戻ってくる。

流れは完全に花火に持っていていかれていると言っても過言ではない状態だ。

「ターン13」アポカリモン

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 → 1

アポカリモン「ドローステップ……ふっふ、とうとうこの時が来たか！」

手札2 → 3

花火「!?」

ドローカードを見て不気味な笑みを浮かべるアポカリモン、そのカードは紛うことなき、自分自身の分身であって、

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 13

トラッシュ12 ⇨ 0

アポカリモン「メインステップ、メタルシードラモンにコアを追加し、ピエモンをLV3に戻す」

リザーブ13 ⇨ 10

ピエモンLV2 ⇨ 3 (2 ⇨ 4)

メタルシードラモン (4 ⇨ 5)

ピエモンは元のフルパワーの力を取り戻す。

アポカリモン「アタックステップ！メタルシードラモンでアタック！アタック時効果でロクケラトプスを破壊！」

花火「くっ！……ロクケラトプス！」

メタルシードラモンの鼻先のレーザー砲でロクケラトプスが破壊されてしまう。

花火のブロッカーはアグモン「2」、ウォーグレイモン、そして何より手札にはアタックステップを終了させる力を持つリアクティブバリアがあつた。このターンを凌ぎきるのは容易だろうと思っていたが、

その予想は暗黒の神によつて潰えてしまう。

アポカリモン「フラツシュ煌臨！対象はメタルシードラモン！」

リザーブ10s ⇨ 9

トラツシュ0 ⇨ 1s

花火「な!?なんだ?……」

アポカリモン「……我！煌臨!!」

手札3 ⇨ 2

アポカリモンLV3 (5) BP20000

フィールド全体に悪雲が立ち込める。メタルシードラモンが漆黒の闇に包まれてい

き、中からは邪悪な姿をしたデジタルスピリット、いや、最早その姿はデジタルスピリットと名乗ってもいいのかというレベルだ。

中央に巨大なコアのようなものが存在し、そこから太くて長い触手のようなものが何本も生えている。

その名はアポカリモン、かつてのDワールドを混沌に陥れた張本人、アポカリモンはその触手で器を、イトニの体を持ち上げてコアに取り込む。

イトニの肉体がコアの中心から刺さるように現れる。まるでそれが本当の顔であるかのように。

シデン 「……………イトニいいい！」

小次郎 「おめツ！危ねえつての！」

シデン 「…ツ！離せ！緑坂！」

思わず身を乗り出したシデンを制止させるように彼の両腕をがっしりと掴み、それを捕らえる小次郎、

イトニがあんな化け物と本格的に融合し始めたのだシデンとしてはやはり居ても立っても居られなかったのだろう。

花火「お前が、アポカリモン!？」

アポカリモン「そうだ！これこそが我が求めていた真の姿！………煌臨時効果！貴様の手札を全て破棄させて、その枚数だけ新たにドロ―させる！」

花火「なに!？」

手札 3 → 0 → 3

花火の手札がまるで割れるように消滅した。せつかくのリアクティブバリアが破棄された。これで花火の戦略はまた1から考え直した。

アポカリモンの声も独特なものに変化していた。さっきまでは器のイトニの声色だったと言うのに、今ではそれ+なにかしらのドスの効いた声が両方重なって聞こえた。おそらくそのドスの効いた声がアポカリモン本来の声色。

アポカリモン「さらに煌臨スピリットはその煌臨元となったスピリット全ての情報を引き継ぐ！故に我は今アタック中！我自身の効果でコスト8の究極体のスピリットの数だけ自身のシンボルを追加する！現在、フィールドにはピノッキモン、ピエモンの2体、よって我の合計シンボルは3!!!」

花火「……………!!……………」

この一撃を受けたら花火の負け、特になにもなければ、スピリットでブロックしなければならぬ。BPで現在はアポカリモンに勝てるスピリットがないため、ブロックすれば即死するわけだが、

花火「……俺の引きをなめるなよ！フラッシュマジック！グレイソード！この効果でピノッキモンをデッキの上へ戻す！」

手札3 ⇨ 2

リザーブ4 ⇨ 0

ウオーグレイモン (5 s ⇨ 4 s)

トラッシュ2 ⇨ 7

アポカリモン「なに!？」

天空からウオーグレイモンを模した劔が落下してくる。それは一直線にピノッキモンに突き刺さり、彼をデジタルの粒子へと変換させ、アポカリモンのデッキの上へと戻した。

花火「アタックはライフで受ける！……グレイソードのもう1つの効果でこのターン、俺のライフは完全体と究極体のスピリットのアタックでは減らされない！」
アポカリモン「くっ！」

花火の目の前に勇気の紋章のバリアが現れる。それはアポカリモンの攻撃から花火を守り通した。

菜々子「やった！あの攻撃を凌ぎ切った！」

アポカリモン「……だが次はない!!ターンを終える！」

アポカリモンLV3(5) BP20000

ピエモンLV3(4) BP16000

バースト無

フィールドには究極体しかないアポカリモンは仕方なくそのターンを終える。

なんとか攻撃をしのいだ花火だが、このままではBP差に押し潰されて敗北は必至、次のターンのドローに世界の命運がかかっている。

「ターン14」花火

スタートステップ

コアステップ リザーブ0 ⇨ 1

花火「ドローステップ時！勇気の紋章の効果で2枚ドロロー……………」
手札2 ⇨ 4

花火はドロローしたカードを見る。それはこのタイミングでは最強にして最高のカードだった。花火は自分のデッキに感謝しながらその後のターンシークエンスを進めていく。

リフレッシュステップ

リザーブ1 ⇨ 8

トラッシュ7 ⇨ 0

花火「メインステップは特になにもしない、このままアタックステップ！」

ウオーグレイモンLV3(4s) BP16000

アグモン「2」LV1(1) BP2000

勇気の紋章LV2(1)

バースト無

ウオーグレイモンと2番目のアグモンが戦闘態勢に入る。

花火「ウオーグレイモン！いけえええ!!」

ウオーグレイモンがフィールドを駆ける。アポカリモンを倒すために、世界を救うために。

だが、それは彼だけではとても、とても遠い目標。

アポカリモン「フラッシュマジック！光翼之太刀！このターン！私のBPを+3000し、疲労ブロッカーとする！我でブロックだ！」

手札2 → 1

リザーブ9 → 6

トラッシュユース 4s

アポカリモンは自身のBPをあげてこのターンは疲労しながらもブロックできる能力を得た。

ウオーグレイモンを押し潰そうと何本も自分の触手を張り巡らせ、捕らえようとする。

ウオーグレイモンはそれをかわしたり、殴ったりして回避しているが、いずれ捕まるのは時間の問題だった。

カイネ「…そんな、ウオーグレイモンでも、花火でもあいつには敵わないのか……」

菜々子「いや、花ちゃんの目は諦めていない！」

シデン「感じるぞ花火、俺のメタルガルモンを通して、」

花火「ああ！今こそ！俺たちの2つの力を合わせる時だ！」

全員が「いつけえええ!!」と花火を鼓舞する。そしてこれは奇跡の兆しなのか、花火の手札から溢れんばかりの光量が発せられる。

ウオーグレイモンの側から渦を巻くゲートが開き、その中からはデッキの下に送られ

たはずのメタルガルルモンが飛び出してきた。

ウオーグレイモンとメタルガルルモンは共同戦線でアポカリモンの触手を迎撃していく。

アポカリモン「なに!?メタルガルルモンだと!?どういうことだ!さつきデツキの下に送ったはず!」

花火「その理由は直ぐにわかるさ!……………いくぜ!ウオーグレイモン!メタルガルルモン!お前たちは今!神をも超える!……………煌臨!発揮!対象はウオーグレイモン!」

ウオーグレイモン (4 s ⇨ 3)

トラツシユ0 ⇨ 1 s

ウオーグレイモンとメタルガルルモンはそれぞれより機械的なフォームに切り替わる。それはまるで誰かの腕のよう、

アポカリモン「こ、これは、まさか!」

アポカリモンはこの2体の形態には見覚えがあった。それは昔自分を葬り去った元

凶、それが出来上がる過程によく似ていた。

シデン「右に友情！」

花火「左に勇気！その2つが合わさる時！暗黒を払いのける、真の英雄となる！」

ウォーグレイモンとメタルガルルモンはその謎の形態をキープしながらそれぞれ炎と氷を後ろに流しながら螺旋状に回転し、天に昇る。そして衝突。

花火「最強にして究極のデジタルスピリット！オメガモン！」

手札4 → 3

オメガモンLV3（3）BP21000

天より、左腕にウォーグレイモン、右腕にメタルガルルモンを模した腕を携えて、白いマント、鎧を纏う白き騎士型の超究極体にして最強のDパラディン、オメガモンが花火のフィールドに君臨する。

カイネ「……ウォーグレイモンと」

小次郎「メタルガルルモンが……」

菜々子「……合体した……!」

アポカリモン「オメガモンツ……!……貴様ああああ!!」

アポカリモンはオメガモンが出るならその内に秘めた怒りを露わにする。

アポカリモン「貴様のせいで、貴様のせいでえええ!!……我々デジタルスピリットは人間などと言う下等種族などに使役されるようになったのだぞ! 貴様らがそのようなもの達を守ろうとするから!!」

花火「うるせえええ!!……オメガモンはお前たちみたいな奴から世界を守ろうとしたかっただけだ! お前がオメガモンを……Dパラディンを語るな!……オメガモンの煌臨時効果! このスピリットのBP以下の相手のスピリット1体を破壊して回復! ……ピエモンを破壊!! 喰らえ! ガルルキャノン!」

オメガモン（疲労→回復）

オメガモンはマントを広げ、メタルガルルモンのような右腕から砲台のようなものを発現させる。そひてそれで狙いを定め、ピエモンに豪快な砲撃を放つ。その威力は凄ま

じかった。ピエモンなど本当にいたかもわからないレベルで吹っ飛んでしまう。

アポカリモン「……ぐっ……だが！オメガモンのBPは21000！私は23000！返り討ちにしてくれるわ!!」

アポカリモンの数多の触手がオメガモンに狙いを定め、遅い来る、オメガモンはそれらをいとも簡単に回避していく。

そして発動する、オメガモンの第2の効果、

花火「オメガモンの第2の効果!!アタック時のフラッシュタイムで煌臨元になったコスト9のスピリットカードを破棄することで！お前のライフを2つ！トラッシュに送る!!!」

アポカリモン「なんだと!？」

現在、オメガモンの煌臨元となっているスピリットカードはウオーグレイモンとブラックウオーグレイモン、いずれもコスト9のスピリットカード、そして、アポカリモンのライフは2、いずれかのスピリットをどれか1枚でも消費できたら、花火の勝利だ。

菜々子「すごい！これで花ちゃんの勝ちだ！」

小次郎「よし！ぶち抜いてしまえ！花火!!」

アポカリモン「……待て！この器ごと貫く気か？我が消えればこの娘も一緒に消滅するぞ！」

花火「……ッ!!」

負けるのを確信したアポカリモンは器であるイト二を人質にする方法で生きながらえる作戦に変更してきた。

アポカリモンは支配を少し緩めて、イト二の意識をさらけ出した。

2人の声により別れて聞こえるようになる。

イト二「このまま行けよ、花火、……こんなの一生の恥だ、殺すなら殺せ！」

花火「……ッ！なに言ってるんだよ！」

イト二は薄れていく意識の中で花火に自分ごと倒せた命ずる。そして再びその意識は途絶え、アポカリモンが今一度完全に支配する。

アポカリモン「さあ、どうする！」

決められない、決められるわけがない。仮にイトニの命を犠牲にして救った世界があつたとして、それは幸せになるのか、シデンは心から喜べるわけがない。そう考えるとオメガモンの煌臨元のウォーグレイモンを引つ込めざるを得ない。花火は悔しそうに歯を噛み締める。

だが、優柔不断な花火を見かねて、シデンが意外な後押しをした。

シデン「構うな！やれ！いくんだ！花火！」

意外すぎた、まさかシデンがこのような状況で花火に行けと言うなど、花火は思い出していく、このバトルが始まる前のことを、

シデン『イトニを頼む』

花火「あれってそう言う事かよ」

花火は全てを察した、だが、これは一か八かの賭け、成功するか失敗するかは運次第、

花火「オメガモンの効果発揮！煌臨元のウォーグレイモンのカードを破棄！……………
オメガモン!!!俺をお前の肩に乗せてくれ!!!」

オメガモンは花火の言葉に頷くとそのまま空中で円を描くようにぐるりとバトル
フィールドを一周し、花火のそばに行く。花火はその左肩に飛び乗った。

オメガモンの白い鎧に花火は触れた、それは鎧とは思えないほど暖かく、温もりを感じさせる。

花火「行けぞ！オメガモン！世界を、イトニを救うんだ！俺たちの手と剣は必ず届く
！」

再びアポカリモンへと立ち向かうオメガモン。アポカリモンを見下ろせるほどの高さまで飛翔し、ウォーグレイモンを模した左腕から謎の文字が刻まれた剣を飛び出させる。そしてそれをアポカリモンに突き刺そうと、落下するように飛んで行く。

フィールドに残ったアグモン「2」が花火達を応援するかのようにはらした鳴き声を

あげる。

アポカリモン「ぐっ！……なぜ、お前、は、……こうも……一木聖火ああああ!!」

アポカリモンはその触手全体をオメガモンの攻撃を防ぐために前に出すが、オメガモンのその剣は無敵、アポカリモンの触手など、これっぽっちも通用しない。

触手を切り刻まれながら進行を許してしまう。

花火「……打ち上げろおおお！オメガモン！……天下の豪剣！グレイソー
ドおおお！」

アポカリモン「ぐっ！……ぐわあああああ!!」

ライフ2 → 0

全ての触手を切り裂き、最後にはアポカリモンの中心のコアまでも貫いたオメガモン、花火はその中で必死に手を伸ばす。

だが、ここである異常が発生した。バトルフィールドが崩壊しだしたのだ。おそらくはダークマターズや、アポカリモン、オメガモンなどのデータ量の多いスピリットが一

度に登場し続けた事で、データ処理が追いつかなかっただろう。

菜々子「……ッ！花ちゃん！」

菜々子がそう叫ぶ、こうなった場合は観客席から先に元の世界へ強制的に帰らされる。少しでも処理を間にあわせるためだ。

観客席がバトルフィールドから消滅した。

そしてそれでも足りない場合はもちろんバトルフィールドにいるプレイヤーも消えて行く。

消えゆくアポカリモン及びその暗黒の力、バトルフィールドがまばゆい白に包まれていく。

そして、シデン、カイネ、小次郎、菜々子は元いた場所へと強制的に帰ってきた。その空気はまるで今までの間戦いがあったとは思えないと感じさせるものがあつた。

菜々子「花ちゃんは!？」

周りを見渡す、が、花火の姿はどこにもない、悲しさと虚しさのあまり菜々子の目に

涙が溜まる。……誰もが諦めかけた……その時だった。

花火「う、うわああああ!!」

突如開いたワームホールより花火と彼に抱きかかえられたイト二の姿が、

どうやら無事アポカリモンを倒し、イト二だけを取り除いたようだ。これも全てオメガモンの力のおかげだ。

オメガモンの持つ無敵の劔、クレイソードには全てのデータをデリートする力がある。それにより、暗黒の物質であるアポカリモンだけが綺麗に消去されたのだろう。

小次郎、菜々子カイネは花火に抱きつく。シデンは花火に礼を言いながらイト二を介護した。イト二は先のショックで気を失っていたが、命に別状はなかった。

シデン「まさかお前に借りを作ることになるなんてな、正直返せる気がせんよ」

花火「はは、包帯まみれの奴に言われてもな、でもこれは全部オメガモンのおかげだぜ」

花火はそう言ってオメガモンのカードを取り上げて見ると、オメガモンのカードは端

からどンドン光の粒子となり、消えて無くなっていた。

花火「オメガモン!?!」

オメガモンはやがて光の粒子の塊となってどこかへ消えていった。不思議と消える瞬間にオメガモンの感謝の気持ちが花火達に流れて来た気がした。オメガモンは消滅間際に謎のワームホールを出現させる。それは花火達がDワールドに来た時のものと似ていた。

オメガモンは役目を終えて、再び安息の日々を過ごすのか、そしてこのワームホールはどこに通じているのかは、当然花火達は理解しているのであって、

小次郎「これって、帰れるってことか?」

花火「ああ、多分リアルワールドに繋がっている」

菜々子「……………じゃあ、カイネちゃん達とは……………お別れなんだね……………」

リアルワールド出身の3人はどこか悲しそうな顔をしていた。当然だ。これまで約4ヶ月間ずっと旅をしてきた友と別れることになるのだから、

カイン「……私は忘れないよ、あんたらのことを、…必ず後世にも伝えるよ、Dパラ
デインをも超える、最強の英雄達がいたって」

花火「……ああ」

花火達はその後も別れの言葉を交わし、ワームホールへと足を入れようとした。その
時、シデンが……

シデン「花火、お前と俺は1勝1敗、次が決着だ」

花火「ああ、先ずは怪我治せよ、……とツ！忘れもんだぜ!!」

花火はデツキからメタルガルルモンのカードをシデンに投げつける。シデンの性格
も最初の頃と比べると随分と丸くなった。彼も彼なりに成長しているのか、最後の彼の
言葉からは恩情や感謝の念が込められているように感じられた。

3人は手を振り、彼らに別れを告げる。涙を流して別れを惜しむ菜々子と小次郎を他
所に、花火はこれ一滴の涙も流さなかった。また会えると確信していたからだ。

花火（ありがとう、カイン、シデン、Dワールドであった人達、そしてオメガモン、この世界のこととは絶対に忘れない。……俺はプロのバトラーになるよ、父さんのような立派でかつこい、本当の英雄を目指す、ウォーグレイモン達と共に……俺が本当の英雄になれたのなら、またいつか……）

花火はそう心の中で自分の夢を語りながらワームホールを進んでいった。それは花火自身の長旅での心境の変化による現れでもあった。花火は自分の中に宿る暗黒の力がどんどん消滅していくのを感じた。元凶を破壊したからだろう。

ダークマターズによって消された者達も皆、無事に元に戻ってくる。ただしラッキーだけは元々生きていられる年齢ではなくなっていたため、蘇ることはなかった。それでも、シユリやサツマ、チョウシユウ、ウズシオ、と数々の人間が蘇る現象がDワールドで溢れかえった。

これにて、花火達の異世界での大冒険は幕を閉じる。

そして次なる物語は11年後！

特別編

襲来！最凶のデジタルスピリット！

ここはリアルワールドとDワールドの狭間、薄暗くて冷たいこの空間で密かに何かが蠢きだす。

「さあ、始めようか、【リアルワールド壊し】」

その少年はとても人間とは思えないほどに肌色が真っ青。彼はデジタルの狭間で産まれたデジタル体の生命体なのだ。その顔には不気味且つ不敵な笑みが溢れている。

「さあ、これから忙しくなるぞ」

その謎の少年はそう言い残して、その凍てつくような寒い空間を後にした。これは花火達が異世界「Dワールド」を救ってから約1年後の出来事。

ここはとある小さな田舎島の小さな空港。大きくもない、小さくもない航空機が着陸する。その中から男女の2人組が降りて来た。

「うおおおおおおお!着いたああああ!!」

「テンション上げすぎ」

黒くて何も結んではない長い髪、雪のような白い肌の少女、菜々子が大きな声で叫ぶ。すぐ横には砂塵ゴーグルを首に下げた茶髪の少年、花火や他のお客さんがいると言うのに、

花火、菜々子、小次郎はDワールドでの冒険が終わり1年、元の学生としての生活に戻っていた。3人はもう高校3年生だ。

リアルワールドに帰った時は、時間が全く動いてなかった事に驚きを隠せなかったが、1年たった今ではそんな感情はすっかり身を潜めて残り少ない学生生活をエンジョイしていた。

そして今の季節は夏、花火と菜々子は夏休みを利用してとある離島へと旅行しに来

た。それはそれはとても自然溢れる小さな田舎の島だった。

「うがみんしよおらーん！」

「……!?!」

突如として耳に入る謎の言語、花火達にいつて来たのは、女の空港員さん。花火はまるで意味がわからなかった。そんな中で、菜々子は……

「……うがみんしよおらーん！」

「!?!」

菜々子がまさかのその謎の言語で女性の役員に言い返した。花火は空港を歩きながら菜々子に聞いた。

「なに? 『うがみんしよおらーん』って」

「この島の方弁で『こんにちわ』だって、面白いね!」

菜々子はパンフレットに書かれてあるところを見せながら花火にいった。

菜々子の言う通り、『うがみんしよおらーん』とはこの島においては『こんにちわ』の意味。

だが、近代化が進むにつれて、この島の子供達はほとんど標準語になり、この方言を使つてはいない。

「そうそう、花ちゃん!この島はバトスピがとても強くて有名な一族があるみたいだよ!今日はそこいかない?」

「ん?一族?まあいいけどさ」

この島には謎のスピリットカードを祀る一族がいると言う、その情報が菜々子の目にパンフレットを通して入っていた。

元々、今回の旅行は菜々子がくじ引きの時に自分の強運で引き当てたものだ。花火はとやかく言うつもりはなく、この旅行は菜々子のわがままに極力付き合う気でいた。

バトスピ一族はこの1つではない。各所に様々なバトスピ文化を持つ一族が存在する。世間ではあまり知られていないが、謎のスピリットカードを祀っていたり、継承していったりもする。菜々子はそのことに興味津々だったのだ。花火もあながち嫌な

わけでない。寧ろまだ知らない未知なるスピリットがいるのなら見たいくらいだ。

2人はその後宿泊先までバスに乗りこんだ。バスに乗りながらその窓から見える美しい自然を感じていた。自分たちの街と比べると本当に清々しいほどに綺麗な緑で溢れかえっている。

そして宿泊先まで到着した。その見た目はまさしくウッドハウス、とても優雅で快適そうだった。2人はある程度の荷物を降ろしてその一族を見ていく事にした。

その一族が暮らす場所は花火達が泊まる宿泊先からは意外にも凄く近かった。花火達は自然豊かな田んぼ道を歩く。それは言うなれば昔ながらの風景。花火達現代っ子の服は少々浮いて見える。

「平和だね」

「……ああ」

「花ちゃんは今、幸せ？」

「ああ？どうしたよ急に」

「私は幸せさだな、こうやって2人で肩を並べて歩くのが」

2人のこのやり取りは異世界での経験がなければすることはなかっただろう。

たった1年前の思い出だが、今この場に小次郎とカイネがいたのならばきつと彼らは懐かしい気持ちの虜になるに違いない。

そんな事を考えながらも2人は噂の一族の館に到着する。いや、正確にはその館がある山に到着したのか、ととてもとても長い石段が綺麗に並んでいた。そのてっぺんは見えない。

「……………これを登んの?」

「……………そうみたいだね」

流石に辛そうな顔をする2人。だが、一族を訪問するためには登るしかない。致し方なくそのまま歩みを進めた。

「……………ヤベエ、もう無理なんだけど」

「ええ!?もうだめなの!?!頑張つてよ!」

大体、800段は登つただろうか。それでも頂点は見えず、最初に来た麓も最早米粒ほどの大きさに見える。

へばる花火を宥める菜々子、花火が特別体力がないわけではないが、なにぶん菜々子の体力がすごいのだ。

「ちよつと待て、一回休もう……」

「ええ〜」

花火はそう言いながらも石段の端っこで腰を下ろした。下ろした瞬間に今までの疲れが溢れ出て来て、呼吸がより荒くなった。

菜々子も仕方なく花火に合わせる事にし、その横で自分も腰を下ろした。

「ヤベエよ、ここどうなつてんだよ、こんなの登山となんも変わんねえよ」

「頂上が麓から見えなかつたもんねー、こここの一族の人達はみんなこの石段で修行して
るみたいだよ」

「いや、バトスピとなんの関係があるんだよ」

確かに、石段で修行しても何もバトスピリッツとは関係がない。いくら体を鍛えてもバトスピリッツはカードゲーム、極論、腕と頭があればできる。足腰を鍛えるト

レーニングなど全く意味を成さない。

「…………おにいさんたち、だあれ？」

「…………うお！」

石段に座る花火達の目線の前に突然現れたのは小学生にも満たないくらい小さな女の子。オレンジに近い茶髪に、飛び跳ねたアホ毛が妙に目立つ。

「こんにちはわー、お名前は？」

「『しい』です」

「……………いやいや、『しい』って」

「しいちゃんだね！よろしく！私は菜々子！菜々姉さんでいいよ！」

「俺は花火」

名前を聞かれて覚束ない感じだが、年相応の可愛らしい声で言い返すしい、菜々子は小さい子の面倒は弟で慣れているためか、直ぐに仲良くなる。

花火も一応挨拶を交わした。彼も子供の扱いは多少手馴れてはいたものの、それに関

しては葉々子の方がやはり上手なのか、彼女がいるとどうも会話には参加し辛いものがあった。

だが、一つ疑問が残る。花火はその疑問をしいに対して率直に述べる。

「しいちゃんはどこから来たの？………まさかここを登って来たのわけじゃあないよね？」

「そだよ、うえにすんでるの」

「………!？」

「じゃあしいちゃんがバトスピー一族の子供？」

幼いながらにしてここまで登って来たのだ。普通の子供ではないと花火は睨んでいたが、まさか一族の末裔とは思っても見なかった。確かにそれだと辻褃が合う。毎日上り下りしてるからこそ息が上がらずに易々とあの石段を上っているのだ。

「おにいさんたちおきやくさん？じゃあしいがあんないする〜！」

「わっ！」

「え!？」

しいはそう言って花火と菜々子の手を引つ張り石段を駆け上る。すごい力だ。最早ギャグ漫画のキャラの領域を超えるか超えないかの瀬戸際だ。

体力がある菜々子は兎も角、花火は辛かった。引つ張られているから足が勝手に動かされるのだ。幼いその手を無理矢理離すのはどうかと思われるし、本当にどうしようもなかった。

そしてしいは一気にてっぺんまで上った。

「とうちやあ〜く〜く!」

「すごいね!しいちゃん!」

「はあ、……はあ、まったくだ……バトスピー一族すげえ」

素直にしいの凄さの事を褒める菜々子に対し、花火は過呼吸寸前だった。

着いた場所を見渡してみるとそれはそれはとても広い緑のスペースが広がっていた。その中にはポツンと大きな家が建っている。おそらくはこの島のバトスピー一族の館。

その館から『ボタン!』つと、初老の男性が扉を開けて花火達の元に向かった。

「じつちやあん！」

「おお、椎名、帰ったか！偉いぞ！」

男性が向かってくるなり、しいはその男性に飛びついていった。しいの祖父なのだろうか。

「はて、その者達は？」

「おきやくさんだよ！しいがつれてきたんだよ！」

「おくくおくくそうか、そうか！偉いのおおお！」

「一木花火です」

「空野菜々子です」

そうやって菜々子も花火もしいを溺愛するその初老の男性に挨拶を交わした。

「ほおほお、見た所、観光客と言った感じですか、まあ詰まる話もあるじやろう、どうぞ中へ」

そう言われながら花火達はその家に入ることになった。驚いたのはその入った瞬間だ。

「わー!お客さんだ!」

「首に変なの下げてるぞ!」

など様々な子供の声が聞こえて来た。ざつと30人はいそうだ。しいもじつちやあんと呼ぶ男性から離れて同年代くらいの友達のところへ行つた。

「この子達みんなあなたの息子さんか、お孫さんなんですか?」

花火がボソツと呟くように初老の男性に聞いた。すると男性もボソツと言り返した。

「ほっほ、いや違うよ、確かに息子、孫はいますがね、ほとんどは拾った子達じゃよ、さつきの椎名もその1人」

この男性とはある一族の末裔。だが、そこに住む子達のほとんどは末裔ではなく、た

だの拾い子だと言う。花火と菜々子はそのことに感心しながらも彼の1人部屋に案内された。2人はその部屋のソファに腰を下ろした。

「すまんのお、やかましくって」

「あつ、いえ、全然」

「ところでお主らはデジタルスピリットを持っておられるな」

「……」

花火と菜々子は驚いた。まさかここに来てデジタルスピリットの名が出てくること、そして自分らがそれを持っている事をズバリ言い当てた男性に。

「え!?!お爺さん、なんでわかるの!?!」

菜々子が聞いた。

「ほっほ、そりやあまあ、一族代々そのデジタルスピリットを引き継いでいましたからのお、不思議と我らの一族はそれを感じることができるとのじゃ」

「俺はそんなの感じた事ねえぞ………て言うか、引き継ぐ?」

「そうじゃ、この島を統治する長は代々それを継承しなければならんのじゃよ」

「じゃあ今はお爺さんがこの島の長?」

「いや、娘さん、それは昔の話、今はこの島に統治者はおらん、いろいろあつてのお………カードは祠に納められておるが、どうじやろう、折角じゃし、見てみるかい?」

「え!!いいの!みたい!」

そうやって今度はその家を出て、すぐ横の祠に向かう花火達、だが、一旦外に出る時に、ここである邪魔が入る。それは邪魔と言うにはあまりにも小さいものであつて、

「おい!お前ら!」

「ん?」

そこにいたのは10歳前後くらいの男の子だった。この子供だろうか、その少年は今にも憤怒しそうな形相で花火と菜々子を睨みつけていた。

「お前ら、あのカードを奪うために来た、悪もんだろ!」

「え!? いや、私達はただそれをみたいなあゝって思ってたただだよ?」

「うるせえ! 怪しすぎだろ!」

「やめんか、葉月」

葉月（はづき）と呼ばれる少年を制止させようとする初老の男性。だが、葉月はなかなか引き下がろうとはせず、その怒りを花火達にぶつけていく。

「なんだよ、ジジイ! いつもはこういうやつらなんかケチヨンケチヨンにしてるじゃねえか! いつもみたくにやれよ!」

「この者達を見る権利がある。バトルなどする必要すらないんじやよ」

花火はなんとなくだが、理解した。おそらく今まで何度もその継承されるカードを狙って来た本当の悪人がいたのだろう。それをこの初老の男性がバトルでねじ伏せていったのだ。

「だったら話は早い。示せばいいのだ子供達に自分の強さを。」

「よし、お前、そこまで言うなら俺とバトルしてみろよ! 俺がお前に勝てば見てもいいだ

ろ?。」

花火が少年の目線に顔を合わせてそう言うのと、少年も当然の如くデツキを構える。

「はあ、すまんのお、」

「まー子供はやんちゃなくらいが丁度いいって!。」

他の子供達がバトル用のテーブルを外に持ち運んでくる。リアルワールドにはDワールドのようなバトルフィールドの空間は存在しない。故にテーブルの上でしかバトルはできないのだ。プロリーグなどの立派な試合でも、可能なのは精々それらを映像化するくらいだ。

花火とその少年は、互いのデツキをセットしてバトルを開始する。どこの世界も変わらないあの言葉で。

「ゲートオープン!解放!。」

バトルが始まるが勝負は終始永遠に花火が優勢。

ーそして、

「よし！いくぜ、グレイモンでアタック！」

「くっ、ら、ライフで受ける」

花火の最後のアタックが決まり、花火の勝利で終わる。少年は悔しそうな顔をしながら残りのライフのコアをリザーブに置いた。

「へへ、結構強いじゃねえか、流星はバトスピ一族だな!!」

「うるせえ！」

「今のバトルでわかったろう、葉月、この者達は見ると権利はある。なあに、本当に盗むのであればこんな昼間っから狙ったりせんわい」

「ぐっ！……わかったよ、勝手にしやがれ」

そう言って少年は一人で家に帰っていった。花火のバトルを見て他の子供達は大盛り上がり、花火達に大勢の子供達が詰め寄った。

「お兄さんつえー！ー！葉月を倒すなんて！俺らの中ではじつちゃんしか倒せないのに！」

「お姉さんも強いのお!？」

「ねえねえ、バトルしよお!!」

なかなか静まり帰らない子供達に不機嫌そうな顔をして初老の男性が叱る。

「こら、いい加減にせんかい、」

「いいですよ、全然、……後でな！後でいっぱいしよう！」

そう言つて花火達は子供達を置いて祠に向かった。そしてその中に入る。その中はとても薄暗く、懐中電灯がなければ何も見えないレベルだ。

そしてその最奥部に到着する。そこにはある一枚のカードが綺麗な石碑にめり込むように納められていた。

「これが、我ら一族の最強スピリット、【インペリアルドラモン パラディンモード】じゃ」

「……究極体」

「このカードも何か特別なのかな？」

「むむ、わからない」

納められていたカードは「インペリアルドラモン パラディンモード」ただしわかるのは系統と名前だけ、コストやB P、シンボル等が描かれていないため、バトルでは使えなさそうだ。

究極体のスピリットはDパラディンの双壁や、ダークマターズなど、何かと特別な存在のものが多くいたため、このスピリットも何かしらの特別な存在であることが示唆されるが、花火も流星にそこまではわからない。

「ほっほ、今は所有者がおらぬからのお、その時はこうやってバトルでは使われないようになつてるんじゃないよ」

「へへ、不思議、」

結局珍しいカードではあったがそれが一体何でなんなのかはさっぱりわからないまま花火達はその祠を出た。

その後はここの子供達と遊び、花火達は有意義な1日を過ごした。そしてその日の夜、花火と菜々子は宿泊先のハウスでたむろしていた。

「今日は楽しかったねえ!」

「そうだな」

「ねえねえ、明日もしいちちゃん達のところ行かない?」

「……………え!?!、いやいいだろ、流石に違うところ回ろうぜ、日にちもあんまないしよ」

明日も一族のところへ行くと言い出す菜々子、花火は正直行きたくはなかった。理由は単純、石段を登りたくないからだ。

一方、時は同じくして、花火達の住む街はと言うと、河川敷で小次郎がある者とバトルをしていた。しかもDワールドでのバトルのように、スピリットを実際に召喚しながら。

「いけ！アトラーカブテリモン！」

赤き甲虫の完全体スピリット、アトラーカブテリモンがそのツノに電撃を纏わせて、謎のスピリット軍団に突進していく。だが、その謎のスピリットには歯が立たず、そのまま殴り倒されてしまう。アトラーカブテリモンはその場で消滅した。

「……………ぐっ！……………アトラー!!」

「緑坂小次郎、もう少し骨がある奴だと思ったんだけどなあ、こんなもんか、……………やれ、」

少年のような姿をした謎の青い生命体が命令すると、その禍々しいスピリット達が小次郎を襲った。

「う、うわあああああ!!」

ライフ → 0

最後のライフを破壊された小次郎はあまりのバトルダメージにより、気絶し、その場

に倒れてしまう。

そしてテントモン、パルモン、その進化系統のカード達が、円を描くようにその青い生命体の元へと赴いていった。

「よおし、先ずは2つ、あと半分、」

そう言つて彼はテレポートでも使つたかのように真夜中の街から姿を消した。

翌朝、まだ5時くらいだったが、火花は昨日の石段ダツシユが応えてしまい、筋肉痛の痛みで起床する。流石にジョギングくらいして体をほぐさねばと思つた火花は寝間着から私服に着替えて外を歩くことにした。

「ああ、足いてえ、まさか旅行に来てここまで身体的ダメージを受けるとは思つてもいな

かったぜ」

歩くのもしんどい花火はすぐそこにあつた緑溢れる公園のベンチで腰を下ろした。足の脹脛はパンパンだ。そんな彼を憐れむような声が横から聞こえて来た。

「はっは、そりゃ、大変だね〜」

「……………!!」

突然現れたその謎の青い生命体は花火の横にチヨコンと座ってくる。花火は見たこともないものを見て足の痛みなど忘れて思わず飛び上がった。

「お前、誰だ!？」

「僕かい?、僕は……………」

謎の生命体を前にしても本当に驚いたのは最初だけ、花火はこんな不思議なことは慣れっこだ。この程度では困惑はしない。冷静に対処する。

だが、自己紹介をしようとした生命体を遮るように花火のスマホから着信が入る。相

手は小次郎だ。

「ちよつ、……悪いな」

「いいよ、でなよ」

謎の生命体は二言で承諾する。その御言葉に甘えて花火は着信を優先した。

「おう、なんだよ」

《花火か!?!》

「ん? ああ、そりやそうだろ、お前が俺にかけて来たんだから……」

《逃げろ! 菜々子君もいるんだろ!?!》

「はあ!?! 逃げろ!?! ……いや、なにからだよ!?!」

『逃げろ』と言う意味が花火にはわからない。そもそも一体何から逃げればいいのかわからないのに、一体どこへ逃げれというのか。

《いいか、よく聞け! 昨日俺は怪我して今、病院にいる!!!》

「はあ!?!怪我!?!大丈夫なのかよ!?!」

《不気味な青い幽霊みたいな奴が俺らのDパラディンのカードを狙ってるんだ!!俺はそいつにテントモンもパルモンも盗られたんだ!》

「いやいや、不気味な青い幽霊ってお前、馬鹿馬鹿し、……………い?」

花火は気づいた。今自分の目の前にいる生命体は青い。とても青い、髪的先から足の指の先までが青い。まるで青い幽霊だ。

あまりの奇跡のタイミングに花火は声も出ない。小次郎も電話越しでなんとなく察したのか、より慌ただしく花火を問い詰めようとする。

《おい!!花火!?!お前まさか、心当たりがあるんじゃないだろうな!?!お、……………》

次の瞬間、なぜか通信がパタリと途絶えてしまう。

「小次郎?小次郎!?!」

「全くうるさいな、小次郎君は、うるさいからしばらくの間、君のスマホを使えなくしたよ」

花火のスマホは青い微弱な電気を帯びて機能を停止した。おそらくはあの青い生命体の力。

「……………お前、何者だ、」

「そういえば自己紹介からだったね、僕の名前は「イコール」、世界の調和を望む者」

「世界の調和!?!」

なかなかつかみ所のない自己紹介に花火は疑問を抱かずにはいられない。イコールは順を追って説明していく。

「そうだね、先ずは僕の生い立ちから知ってもらえたら理解できるかな?……………君はリアルワールドとDワールドの時間軸が違うことは知っているよね?」

「ああ、」

リアルワールドとDワールドの時間軸が違う、これはそれぞれの世界を歩き来した花火達は当然知っていた。だが、ここからイコールが話すことは驚きの連続であって、

「ついこの間までは時間軸は違っていた。けど、それは君らが起こした事件で変わってしまった」

「変わった!? 事件!?! ……もしかしてアポカリモンの時か!?!」

「御名答! 流石に勘が鋭いね! 小次郎君とは大違いだよ!」

アポカリモンとオメガモンのバトルフィールドでの大激突。あの振動が影響を及ぼしたのはDワールドだけではなく、リアルワールドも影響を受けていた。

「それが影響してね、2つの世界の時間はほとんど同じに統一されてしまったのさ、偶然……ね」

これを聞いて正直花火はホツとしているものもあった。帰って来た時にその時間のズレがあることを知ってしまったが、それはつまり、Dワールドの人間が自分たちより、歳をとるペースが早いと言うことでもあって、

つまり、今はシデンや、カイネはほとんど変わらない年齢のままということ、また会えるかもしれないと言うことだ。

「そして、その時に生じたズレのエネルギーによって僕はこの世界に生まれた。言わばエネルギー体だ」

「!?」

「僕は過去と未来の事柄を見ることができない不思議な力を持っている。ただし未来はある程度が限界だけどね、それでもこの世界のことは大体インプットしたよ、Dワールドのことも、そして理解した、君らの住むリアルワールドこそ、【調和を乱すいけない世界】だとね」

「……………なに!?!」

「そう、だから壊しに来たのさ、リアルワールドを、…………そのついでにDパラディンを回収しようと思ってね、意思だけになっても彼らも元はDワールドの住人だからさ、」

いきなりリアルワールドを壊すと言う言葉に今までとはスケールの違いを感じる火花。だが、これでようやく理解しえた。

「……………で?つまりお前は俺にデジタルスピリットを返せと」

「そう言うこと」

「返さないって言ったらどうする？」

「ふふ、小次郎君みたいに痛い目を見てもらうしかないね〜」

そう言いながらイコールは花火が譲る気は無いと察したのか、右手を挙げて、デジタルの粒子を放出する。それはとても濃ゆい濃度だった。それは忽ち島全体を覆い尽くす。

「なんだ?!これ!?!」

「僕は特別だね、自分でバトルフィールドを作れるのさ」

イコールは自分のデッキをデジタルゲートから呼び出すと、それをバトル用のシートが貼られた台の上に置いた。そして置いたと思ったら消え、すぐしたらまた出て来た。それらはイコールの意思によって消えたり浮き出たりしているのがわかる。

「どうなってんだ!?!」

「ふふ、僕のバトルは少々変わってるよ、やっぱリスピリットを召喚させるなら、自分の目の前がいいじゃないか」

「それは共感できる」

確かにこのシステムならスピリットとともにフィールドをかけることができる。邪魔になるバトル台が消えたり浮き出たりするからだ。必要な時だけ出せばいい。つまりこのバトルはこの島全体が大きなバトルフィールドと言うことになる。

「どうだい？バトルする？決める前に言っておくけど、バトルスピリッツで僕には決して勝てないよ」

やや得意げな顔で言い放ってくるイコール、だが、花火は最初っから腹はくくっていた。どちらにせよ自分が立ち向かわなければこの世界は終わる。そう思っていたのだ。

「やるぜ、俺は負けない!!」

そう言いながら花火も目の前に現れた土台に自身のデッキをセットした。そしてイコールとある程度の距離をとる。

「なるほど、流石に度胸は座ってるよね、……………じゃあ、始めるよ」
 「……………ああ、行くぜ、」

「ゲートオープン！解放！」

世界の隅でひっそりとそれらの命運を賭けた一戦が幕を開けた。

ー先行は花火だ。

「ターン01」花火

《スタートステップ》

《ドローステップ》手札4 ⇨ 5

「メイנסテップ、アグモンを召喚！」

手札5 ⇨ 4

リザーブ4 ⇨ 0

トラッシュ0 ⇨ 3

花火は自分の目の前に小さな恐竜型のスピリット、アグモンを召喚した。いつもは上から見下ろす形で召喚が多かったが、今回は自分の目線でアグモンが見える。と言う

か、目の前に存在する。ずっと召喚していたその始まりの龍は自分が予想していたよりもずっと小さかった。花火はそれに触れてみる。毛がないその龍だが、冷たくはなく、肌触りはまるでホットカーペットのよう、アグモンも触れられて嬉しいのか、喜びの声が出る。

「花火は触れてみて違和感を感じた。それは明らかに今までとは違うなにか、

「なんだ、この感じ、……これ、本当にデジタル体なのか?」

「ふふ、やっぱり気づいたね、彼らは本物さ、僕の実力で実際に存在させている」

「……………!!」

いつもと違う違和感は間違いなくそれだ。確かにこの実体化の力があれば、リアルワールドを壊すことなど本当に容易いことだろう。先ずはデジタルスピリットを回収に来たのが不幸中の幸い、その隙になんとか倒さねばならない。

「アグモンの召喚時!デッキから2枚オープンしてその中の成熟期か、完全体を手札に加える!」

オープンカード

【アシガルラプター】

【グレイモン】

花火はアグモンの召喚時でグレイモンのカードを手札に加えた。

「よし！グレイモンを手札に加えて、ターンエンドだ」

手札4 ♪ 5

アグモンLV1(1) BP3000(回復)

バースト無

先行の第1ターンなど、やれることは限られている。花火はこのターンを取り敢えず終了した。次はイコールのターン。

「ターン02」イコール

《スタートステップ》

《コアステップ》リザーブ4 ♪ 5

《ドローステップ》手札4 ♪ 5

「さあ、メインステップだ、ケラモンを召喚! LVは1でね」

手札5 → 4

リザーブ5 → 1

トラッシュ0 → 3

イコールが放った最初のスピリットは群青色の体色に体がいかにのように数本の足でできているスピリット、ケラモンが現れる。その顔は不気味な笑みはまるでこの世の破壊を楽しんでいるかのような顔だ。

「なんだ、あいつ、……あいつもデジタルスピリットなのか?」

「そう、僕のオリジナルのね……ターンエンド」

ケラモンLV1(1) BP2000(回復)

バースト無

BPが低いケラモンでアタックすることはなく、そのままイコールはターンを終えた。

「ターン03」花火

《スタートステップ》

《コアステップ》リザーブ0 ⇨ 1

《ドローステップ》手札5 ⇨ 6

《リフレッシュステップ》

リザーブ1 ⇨ 4

トラッシュ3 ⇨ 0

「メインステップ、アグモンをLVアップ！」

リザーブ4 ⇨ 1

アグモン(1 ⇨ 4) LV1 ⇨ 3

コアが与えられたアグモンは力が増し、高らかに吠える。

「アタックステップ！その開始時に【進化】発揮！アグモンを同じ色のグレイモンに進化させる！」

アグモンにデータのベルトが巻かれる。アグモンはその力で0と1のコードを返還され、より巨大な恐竜型のスピリット、成熟期のグレイモンへと進化を遂げた。

グレイモンは花火の身長約3倍くらいの大さき、それでもこここの広場がいつものバトルフィールドよりは大きいからかグレイモンもやや小さく感じる。

広場に巨大なスピリットが登場するが、今は幸い朝、人気が少ないため、気づかれることはなかった。

「おお、これがグレイモンのオリジン……………」

「その余裕!へし折ってやるぜ!アタックステップは継続!いけ!グレイモン!」

グレイモンは走り出すと同時に口内に炎を溜め、それを一気にケラモンに向けて放つ。ケラモンはその炎に包まれて爆発した。

「グレイモンのアタック時効果だ、BP5000以下の相手のスピリットを1体破壊してカードを1枚ドロウできる」

「なるほどね、だけどその程度の炎じゃあ、ケラモンは死なないよ」
「なに!?!」

炎の爆煙が晴れると消滅したかと思われたケラモンだが、なぜか生存していた。そして不気味な笑みをあいも変わらず続けている。

「ケラモンは破壊時にカードを1枚ドロウさせて、一回だけ復活できるんだよ」

手札4[♠]5

「ぐっ、だけどアタックは継続中だ! いけ! グレイモン!」

「それはライフで受けようかな」

ライフ5[♠]4

グレイモンの立派な頭角による攻撃をガードするイコールのライフのバリア、それが1つ碎けた。

「ターンエンドだ」

グレイモンLV3 (4) BP7000 (疲労)

バースト無

「ターン04」イコール

《スタートステップ》

《コアステップ》リザーブ2 ⇨ 3

《ドローステップ》手札5 ⇨ 6

《リフレッシュステップ》

リザーブ3 ⇨ 6

トラッシュ3 ⇨ 0

「メインステップ、ケラモンのLVを2へ、」

リザーブ6 ⇨ 4

ケラモン(1 ⇨ 3) LV1 ⇨ 2

ケラモンは謎の光を浴びてLVが上がったことをアピールする。

「さあ、アタックステップ、いけ!ケラモン!アタック時効果発揮!【超進化】!完全体

のインフェルモンに！インフェルモンはLV3！

リザーブ4 ⇨ 2

インフェルモンLV3 (5) BP10000

「なに!?成長期のスピリットで【超進化】!?」

ケラモンはアグモンなどより長いデータのベルトを巻き、0と1のコードを返還させ、姿形を変える。現れたのは手足の長い蜘蛛のような姿をした完全体スピリット、インフェルモン。

ケラモンは成長期ながら【超進化】を持つ異例なスピリット。

「インフェルモンの召喚時効果発揮、グレイモンのコアを2つ除去」
「くっ！」

グレイモン (4 ⇨ 2) LV3 ⇨ 1

リザーブ1 ⇨ 3

インフェルモンは口内からマシンガンを飛び出させて、それをグレイモンに向けて放つ。グレイモンは広場の隅までぶっ飛ばされた。

「さあ、いけ！インフェルモン！」

イコールの手札には謎の煌臨スピリットが存在したが、それはこのバトルを終わらせるには十分すぎるほどの力を持っていたが、まだ終わらせるには早いと思ったのか、イコールは使わないことに決めた。

「……ライフで受ける」

ライフ5 ♪ 4

インフェルモンが手足を引っ込めて花火に突進してくる。花火のライフを1つ碎いた。

「ターンエンド」

インフェルモンLV3 (5) BP10000 (疲労)
バースト無

イコールはターンを終える。

「ターン05」花火

《スタートステップ》

《コアステップ》リザーブ4 ⇨ 5

《ドローステップ》手札7 ⇨ 8

《リフレッシュステップ》

グレイモン（疲労 ⇨ 回復）

「メインステップ！アグモンを召喚！」

手札8 ⇨ 7

リザーブ5 ⇨ 2

トラッシュ0 ⇨ 2

花火は「進化」の効果により手札に帰ってきていたアグモンのカードを再び召喚。その効果も遺憾無く発揮させる。

「召喚時効果!」

オーブンカード

【勇気の紋章】

【メタルグレイモン】

今度は完全体のメタルグレイモンのカードがヒットする。花火はこれを手札に加えた。

「よし!メタルグレイモンを手札に加えて、グレイモンを再びLV3へ!」

手札7 → 8

リザーブ2 → 0

グレイモン(2 → 4) LV1 → 3

準備は万端、花火は一気に勝負に出る。

「アタックステップ!いけ!グレイモン!【超進化】を發揮!同じ色のメタルグレイモンを召喚!」

「…………その前に！インフェルモンの効果発揮！【進化】【超進化】を發揮する相手のスピリットのコアを一つトラッシュに置く！」

「なに!？」

グレイモン（4 ♪ 3）

トラッシュユ2 ♪ 3

グレイモンが超進化する直前、インフェルモンの砲撃が炸裂。進化の妨害を行う。だがグレイモンは弱体化こそするものの、そのまま超進化をする。

その0と1のコードを返還させる。体の半分以上がサイボーグと化したグレイモン、メタルグレイモンが召喚された。

「まさか、進化の妨害をしてくるなんて、」

「ふふ、僕のバトルでは常識は通じないよ」

「でも、【超進化】は成功した！いけ！メタルグレイモン！召喚時効果！BP12000以下の相手のスピリット1体を破壊！破壊対象はもちろんインフェルモンだ！」

メタルグレイモンは胸部のハッチを開き巨大なミサイルを射出する。それはイン

フェルモンに命中するが、

「無駄だよ、インフェルモンは効果では破壊されない」

「ぐっ!」

その攻撃は全く通用しない。まるで蚊にでも刺された程度の痛みなのか、インフェルモンは首を傾げただけだった。

「マジかよ」

「ふふふ、「超進化」を使用した後に、アタックしたスピリットのフラッシュタイミングが残るのを知っているかい?」

「ああ!?!」

「煌臨発揮!対象はインフェルモン!」

リザーブ2s ⇨ 1

トラッシュ0 ⇨ 1s

何か不穏な空気の流れを花火は感じていた。その謎の答えはインフェルモンにある。

インフェルモンは禍々しいほどのオーラをその身に宿していた。

成熟期のスピリットが「超進化」の効果を発揮した時、アタックこそスピリットが消えるため、無効となるが、そのアタックに対するフラッシュユタイミングだけが残るため、フラッシュユタイミングの煌臨が使えるのだ。

「次元の狭間の魔王よ！今こそ愚かなる世界に鉄槌を下せ！究極進化！ディアポロモン！！」

手札6 → 5

ディアポロモンLV3 (5) BP20000

インフェルモンは禍々しいオーラに飲まれてその形を変える。現れたのは異質な姿をした究極体のデジタルスピリット、ディアポロモン。その見た目はまさしく魔王そのもの。

「でい、ディアポロモン!?……なんだこいつは!?!」

「これこそが僕のエースカードだ、煌臨時効果発揮！手札にあるディアポロモンをノーコストで好きなだけ召喚する！僕は4体のディアポロモンを追加！」

手札5 → 1

リザーブ1 → 0

ディアボロモン (5 → 2) LV3 → 1

「はあ!?!4体!?!」

ディアボロモンは自身のコピー体を計4体、新たに生み出した。バトルスピリッツのゲームにおいて、同じカード名のカードは基本3枚までのはずだが、

「ディアボロモンのカードはデッキに何枚でも入れることができる………言っただしよ、僕に常識は通用しない」

「………くっ………ターンエンドだ」

メタルグレイモンLV2 (3) BP9000 (回復)

アグモンLV1 (1) BP3000 (回復)

バースト無

イコールのデジタルスピリット達にバトルスピリッツの常識は一切通用しない。ディアボロモンはデッキの3枚の上限を超えて何枚でも投入することができるスピ

リットカードだ。

強力なスピリットが途端に5体も増えたのだ、メタルグレイモンもそのアタックを止めざるを得なかった。今、花火は間違いないイコールの手のひらで弄ばれていた。タイミングによってはメタルグレイモンを破壊できていたのかもしれないのに、ましてやこれを前のターンのフラッシュユで使われていたらそのままゲームエンドすらもあり得たのだ、

「ターン06」イコール

《スタートステップ》

《コアステップ》リザーブ0 ⇨ 1

《ドローステップ》手札1 ⇨ 2

《リフレッシュステップ》

リザーブ1 ⇨ 2

トラッシュユ1 ⇨ 0

「さあ、メインステップ、ディアボロモンを1体、LV2へアップ」

リザーブ1 ⇨ 0

ディアボロモンLV1 ⇨ 2 (2 ⇨ 3)

ディアボロモンの1体は力を見せつけるように光り輝いた。

「アタックステップ、ディアボロモンでアタック!その効果で相手のスピリットのコアを2つリザーブに送る!メタルグレイモンとアグモンのコアをそれぞれ1つずつリザーブへ送る!」

「くそ!アグモンツ!」

メタルグレイモン(3 ⇨ 2) LV2 ⇨ 1

アグモン(1 ⇨ 0) 消滅

ディアボロモンは自身の胸部から破壊光線を放つ。メタルグレイモンとアグモンは町への破壊を食い止めるためにそれにぶつかっていくが、アグモンはその衝撃に耐えられずに爆発してしまう。メタルグレイモンも体力を奪われたのか、膝をついた。

「ふふ、そして、カードを2枚ドロ」

手札2 ⇨ 4

おまけのように手札を増やすイコール。そしてまだ物足りないのか、彼はディアボロモンの増殖効果を使用する。

「ディアボロモンはアタック時にもコピー体を生み出すことができる！僕はもう2体のディアボロモンを召喚！」

手札4 → 2

ディアボロモン (3 → 1) L V 2 → 1

「なに!?アタック時にも……!」

ディアボロモンは新たに2体、自身の分身を作り出す。これでディアボロモンの合計数は7、対する花火のフィールドにはメタルグレイモン、花火はここまでメタルグレイモンの背中が頼りなく見えるのは初めてだった。それほどディアボロモンのこの効果は強烈だったのだ。

「さあ、アタックは継続中！」

「くそ、ライフだ」

ライフ4 ♪ 3

ディアボロモンが花火のライフを伸び縮みする自身の腕を叩きつけて破壊した。

「さあ!次!2体目え!」

「これもライフだ!」

ライフ3 ♪ 2

次なるディアボロモンが襲いかかる。2体目は1体目と同じような容量で花火のライフを1つ破壊した。

「さあ、次、3体目だ」

「……ライフで受ける……ぐう!」

ライフ2 ♪ 1

3体目のディアボロモンの攻撃を受けて花火のライフは最早風前の灯火。しかもまだ4体のディアボロモンの攻撃が残されている。絶望に等しい。

数が多すぎる。花火はここまでの数の究極体を相手にとったことは一度もない。

「え〜と、次は、4体目か、やれ！」

「ここだ！フラッシュタイミング！煌臨発揮！対象はメタルグレイモン！」

リザーブ5s[→]4

トラッシュユ3[→]4s

メタルグレイモンが赤く光り輝き、進化の兆しを見せる。

「いくぜ！鋼鉄の龍よ！今こそ最強の龍戦士となり、敵を討て！ウォーグレイモン！究極進化!!」

手札8[→]7

ウォーグレイモンLV1(2)BP8000

燃え上がる炎の中で花火のエーススピリット、ウォーグレイモンが現れた。

「やっと来たね、オメガの因子を持つグレイモン系統の最強の進化体……カッコいい

じゃないか」

「頼むぞ、ウォーグレイモン……!」

花火の声に反応するかのように雄叫びをあげるウォーグレイモン、だが、この雄叫びが仇となる事となっていく。

「ウォーグレイモンの煌臨時効果!BP15000以下になるように相手のスピリットを好きなだけ破壊!……いけ!ウォーグレイモン!アタックしていない回復状態のディアボロモンを1体破壊だ!」

「ほお」

ウォーグレイモンは両掌で大きめのガイアフォースを形成してそれをディアボロモンの1体に直接ぶつける。LVが上がっていないこともあり、ディアボロモンは破壊されてしまう。

「……よしー!」

「ふふ、でもディアボロモンは後6体」

そうだ、いくら1体破壊したとはいえ、後6体のディアボロモンが残っている。しかもBPはウォーグレイモンより上、最早ウォーグレイモンだけではどうしようもないところまでできていた。

そんな時、花火は1枚の手札を切ろうとした瞬間、自分の後ろから声が聞こえた。その声は昨日覚えてたての声だ。

「……………すごい!! やっぱほんとにスピリットはいたんだ!」

「……………!?!」

諸手を上げて喜んでいたのは、昨日知り合ったばかりのしい、花火は驚いた。なぜしいがこんな場所にいるのか、いつもはあの山の上で寝泊まりしているはずなのに、と。バトル中に水を刺されたイコールは少し不機嫌気味になり、

「なんだ、あれは、人間の雌の幼体? ……、目障りだ、消せ、ディアボロモン」

「おいっ……………今なんて……………」

イコールが指でしいを指し示すとアタック中のディアボロモンは再び胸部から破壊光線を発射しようとする。しいはまさか自分が狙われてるとは思ってもいない。

「……………ぐっ!!ちくしょう!!!」

歯を食いしばりながら全速力で一心不乱にしいのところまで走る花火。破壊光線に当たる直前に転げながらもなんとかしいを抱えながら避けることに成功する。

「ブロックだ!ウオーグレイモン!」

花火はしいと共に転がりながらもウオーグレイモンにディアボロモンが手を出さないように指示する。ウオーグレイモンがドラモンキラーの一撃でディアボロモンを上空へと追いやる。

「え!?!」

しいは今頃気づいた。ディアボロモンが狙っていたのは自分だと、だとしたらなぜ昨

日あつたお兄さんは一緒に倒れているのだろうと。考えれば直ぐに答えはわかった。

「……何しているんだ君は、そんな幼体、人間は星の数ほどいるだろう？……なぜ助ける……どの道この世界の人間は僕に殺されると言うのに」

イコールの質問に花火は抱きしめていたしを静かに離し、転げ落ちた時に傷ついた左手を庇いながら起き上がり、口を開いた。

「……星の数ほどいる……だと？笑わせんじゃねえ！この子が死んだらどれほどの人が泣くと思つてんだ！どれほどの人が悲しむと思つてんだ！この子の代わりになる人間なんて一人もいねえ!!!この世界の人間はみんなお前に殺されるために生まれて来たわけじゃねえ！」

「……………!!」

イコールはなぜか震え上がった。背筋が凍りつく。気圧された。目の前にいるのはまさしく自分が苦手なタイプの人間だ。賢いくせに感情論で動く。そんな人間がイコールは大嫌いだった。そんな人間に恐怖を感じるなど思つてもいなかった。

花火の心からの声に、まだ5、6歳くらいの子は不思議と涙が止まらなかった。それが滝のように流れている。なんでだろうか、それは今この場では明らかにすることはできない。花火はしいがディアボロモンが怖かったからだと言えど勝手に勘違いして、再びしいのところへ行く。

「泣くなよ、しいちゃん、……………あつそうだ!……………これやるよ」
「……………!!?」

そう言つて花火が懐から取り出し、しいに見せたのは自分が昔つけていた砂塵ゴーグル、10年以上前から父への憧れから花火が肌身離さず着用していたものだ。所々に傷があり、より使い込んでいたのがわかる。

花火はしいの小さい頭にそのゴーグルを着けてあげた。丁度ゴーグルが飛び跳ねたアホ毛に当たるので少々着け辛かったが、

「不思議と勇気が湧いてくるだろ?……………勇気が湧いて来たらこの場から離れろ」

流石にここまで大きな音を立て続けに出したせいか、町の人が気づきはじめる。そ

して異様な化け物達を見て恐れ慄いた。

流石にこれではダメだと思い、花火はここでイコールにある提案を持ちかける。

「イコール、場所だけ返させてくれ、町の人に迷惑がかかる」

「……………全く、その内全員死ぬと言うのに、まあいいや」

そう言いながらも左手の指を鳴らすイコール。すると島中に張り巡らされたデジタルの糸は凝縮していき、花火とイコール、そのスピリット達だけをすくい上げ、空の彼方へと移動させる。凝縮したとは言え、東京ドームが丸々入りそうな広さだ。十分スピリット達も暴れることができる。

「これでいい？……………もう手は抜かないよ」

「望むところだぜ」

「ウオーグレイモンとディアボロモン1体の勝負の途中だったね、軽く捻ってやれ、ディアボロモン」

そう言いながらディアボロモンは伸縮性のある腕でウオーグレイモンを縛り付ける。

ウォーグレイモンの武器や装甲にどんどん亀裂が生じて行く。

「フラッシュタイプミニング!お前のBP8000以上のスピリットのアタック中に、1コストを支払ってブラックウォーグレイモンを召喚できる!」

リザーブ 4 ⇨ 3

トラッシュ 4 s ⇨ 5 s

「なに?!?!?」

「いくぜ!漆黒の龍戦士のお出ました!ブラックウォーグレイモンを召喚!」

リザーブ 3 ⇨ 2

手札 7 ⇨ 6

ブラックウォーグレイモンLV1(1) BP9000

漆黒の龍戦士ブラックウォーグレイモンが黒炎の中から呼び出される。ブラックウォーグレイモンは張り巡らされたデジタル空間を震撼させるほどの巨大な咆哮をあげる。

「黒いウォーグレイモン、…こんなものまで……」

「ブラックウオーグレイモンの召喚時効果！BP12000以下の相手のスピリット1体を破壊！アタックしていないディアボロモンを破壊！」

ブラックウオーグレイモンの両掌から放たれる暗黒のガイアフォースが未だ回復状態のディアボロモン1体を爆破させる。これで残りのディアボロモンは5体。

「ふふ、いいのかい？バトル中のディアボロモンを破壊しなくて、これじゃあウオーグレイモンは無駄死にだよ」

「ウオーグレイモンを無駄死にはさせない！……フラッシュタイミング！マジック！リアクティブバリア！不足コストはウオーグレイモンから確保！」

手札6 → 5

リザーブ2 → 0

ウオーグレイモン(2 → 0) 消滅

トラッシュユ5s → 9s

「……白のマジックまで持っていたか……！」

縛り付けられたウオーグレイモンはそのまま白き結晶となって姿を消した。それと

同時にブリザードが巻き起こり、5体のディアボロモンの動きを止めた。

「……仕方ないな、ターンエンドだ」

ディアボロモンLV1(2) BP12000(疲労)

ディアボロモンLV1(1) BP12000(疲労)

ディアボロモンLV1(1) BP12000(疲労)

ディアボロモンLV1(1) BP12000(疲労)

ディアボロモンLV1(1) BP12000(回復)

バースト無

イコールのターンエンドの宣言により、大人しくこの場は引き下がるディアボロモン達、花火はなんとかこのターンを凌ぎ切った。

「このターンだ、このターンでなんとかしないと、」

花火がそう言った時だった。デッキの一番上のカードが光輝き出す。花火は不思議とそれがなんなのかわかってしまう。今はそれがデッキにも入っていないと言うのに。

「ま、まさかこのカードは」

「ターン07」花火

《スタートステップ》

《コアステップ》リザーブ0 ♪ 1

「ドローステップ！……やっぱりお前か……！……ありがとうな！本当に！」

手札5 ♪ 6

「オメガモンか……、なぜ奴は花火君に味方する」

花火がドローステップしたカードをイコールは見事的中させる。その通り、花火がドローステップしたのはDワールドからリアルワールドのピンチに駆けつけたオメガモンのカード。だが、カード単体だけで空間を急速な速度で移動したためか、その効果はアポカリモンの時と比べると劣っていた。

《リフレッシュステップ》

リザーブ1 ⇨ 10

トラツシユ9 ⇨ 0

「メインステップ、ロクケラトプス!アグモン「2」を召喚!」

手札6 ⇨ 4

リザーブ10 ⇨ 7

トラツシユ0 ⇨ 1

花火のフィールドに現れたのは、三本のツノが立派な地竜スピリット、ロクケラトプスと第二のアグモン、アグモン「2」が現れた。最初のアグモンと比べるとやや体色が黄色いか、

「ブラックウオーグレイモンにコアをありったけ乗つける!」

リザーブ7s ⇨ 0

ブラックウオーグレイモン(1 ⇨ 8s) L V 1 ⇨ 3

ブラックウオーグレイモンは凄まじいほどのコアの嵐を吸収して一気にL V 3まで

上り詰める。

「アタックステップ！ブラックウオーグレイモンは相手のスピリット1体に指定してアタックが可能！ディアボロモン1体を指定！」

「……いいだろう、ディアボロモンでブロックだ」

ブラックウオーグレイモンがディアボロモンに狙いを定めて一気に飛翔する。そして赤い光を帯びる。これもブラックウオーグレイモンの効果の一環だ。

「ブラックウオーグレイモンは指定アタックした時、そのスピリットが最もBPの高いスピリットであるならば、回復する！」

ブラックウオーグレイモン（疲労→回復）

「……なに!？」

イコールのフィールドに存在するディアボロモン5体はいずれもLVが1、つまり今は最もBPの高いスピリットはディアボロモン5体。どれを指定してもブラックウオーグレイモンは回復するのだ。

ブラックウオーグレイモンが勢いよくディアボロモンと衝突していく。ディアボロモンが再びウオーグレイモンと同じように腕で縛りあげようとするが、ブラックウオーグレイモンは俊足でそれを回避、したかと思えば、通り過ぎるかのようにディアボロモンを八つ裂きにしていった。ディアボロモンは耐えられずに爆発四散する。

「次だ!ブラックウオーグレイモン!」

「くっ!ディアボロモンでブロック……!」

背後から迫るディアボロモンに瞬時に察知し、暗黒のガイアフォースを反射的に浴びせた。ディアボロモンはまた破壊されてしまう。これで残りは3体。

勝って兜の緒を締めよ。ブラックウオーグレイモンはまだまだ戦う。

「まだ行け!ブラックウオーグレイモン!」

次のディアボロモンは腕を掴んで振り回し投げ飛ばして地面に叩きつけた。ディアボロモンは耐えられずに大爆発。残り2体。

「ブラックウオーグレイモン！ディアボロモンに指定アタック！」

残り2体の内1体に指定アタック、花火は一切気を抜いたりはしない。仮にブラックウオーグレイモンで残りのディアボロモンを一掃できたとしても返しのターンで何も防御札がなければそこでジ・エンド。ここで活躍するのがオメガモンだった。

「フラッシュユタイミング！煌臨発揮！対象はブラックウオーグレイモン！」

ブラックウオーグレイモン（8s → 7）

トランプシユ1 → 2s

「ここでもまた煌臨?!」

ブラックウオーグレイモンは色が剥がれるように変わり、ウオーグレイモンへと原点復帰する。それと同時にデジタルゲートが開き、その中からメタルガルルモンが現れる。

花火はメタルガルルモンのことを懐かしく感じるが、今はそんなことに浸っている暇はない。煌臨口上を淡々と述べていく。

「右に友情！左に勇氣！2つが1つになる時！真の勇者が誕生する！……合体！オメガモン！」

手札4っ3

オメガモン「2」LV3（7）BP15000

ウオーグレイモンとメタルガルルモンが変形して衝突する。その時に溢れんばかりの光量に包まれる、それが晴れると、中から最強のデジタルスピリット、左腕はウオーグレイモンを、右腕はメタルガルルモンをそれぞれ模し、白いマントをなびかせて、伝説のDパラディン、オメガモンが現れた。

「オメガモン、だがやはり、弱くなっているね、無茶しすぎ……そんなにこの世界が好きなの？」

イコールの言葉を見殺して花火はオメガモン「2」の煌臨時効果を使用していく。

「オメガモン「2」の煌臨時効果！トラッシュのソウルコアをオメガモン「2」に置くことで、トラッシュにあるスピリットカードを回収！……俺はこの効果でウオーグレイモ

ンを回収する！」

トラッシュ 2 s ⇨ 1

オメガモン 「2」 (7 ⇨ 8 s)

手札 3 ⇨ 4

「なるほど、ウオーグレイモンの煌臨条件はコスト6以上の赤か白のスピリット、オメガモン「2」も例外じゃない、これで次のターンを防ぐつもりか」

「煌臨スピリットはその煌臨元のスピリットのすべての情報を引き継ぐ！ディアポロモンを討て！オメガモン！」

オメガモンとディアポロモンが対峙する。だが、今オメガモンが見ているのはそこではない。

「フラッシュタイムニング！オメガモンのアタック時効果を発揮！煌臨元のカードを1枚取り除いて相手のBP12000以下のスピリット1体を破壊する！俺はブラックウオーグレイモンのカードを取り除き、バトルしていない、ディアポロモンを破壊！

……………喰らえ！ガルルキャノン!!」

「なに!？」

オメガモンはメタルガルルモンを模した右腕から砲台を展開させて、それを左手で支え、焦点を合わせる。狙うはバトルしていないディアボロモン、放つと、それはまるで核爆弾並の威力、ディアボロモンは耐えられずに爆発四散した。

そしてオメガモンは残った最後のディアボロモンに狙いを定めて、左手のグレイソードを解放する。出した瞬間、周りの空気の温度差からか、蒸気が漏れ出ていた。

「打ち上げろおおおお!オメガモン!………天下の豪剣!グレイソード!!」

オメガモンはグレイソードの一撃でディアボロモンの顔面を串刺しにした。ディアボロモンは堪らずデジタルとなり、消滅してしまう。

これでディアボロモンは全て除去された。トラッシュに行けば増幅はしない。

「ターンエンド!」

ロケケラトプスLV1(1) BP3000(回復)

アグモン「2」LV1(1) BP2000(回復)

オメガモン「2」LV3（8s）BP15000（回復）
バースト無

花火はこのターン全員で総攻撃を仕掛ければ勝っていたかもしれないが、それができなかった。当然だ、もし仮にカウンターを食らってしまったら、全てが水の泡、その時点で世界は、リアルワールドは滅んでしまうのだから、そう考えたら、あまり思い切りのいいバトルはできなかった。

「ターン08」イコール

《スタートステップ》

《コアステップ》リザーブ9 ⇨ 10

《ドローステップ》手札2 ⇨ 3

《リフレッシュステップ》

「メインステップ、もう一度、ケラモンを召喚」

手札3 ⇨ 2

リザーブ10 ⇨ 6

トラッシュユウ 3

イコールは再び成長期のケラモンを召喚した。ケラモンはあいも変わらず不気味な笑いを続けている。

「……さっきの一撃でわかったよ、オメガモン、そんなにこの世界の人間に恩があるか、そんなに僕を消したいか、……なら僕もお前をこの世から消してやろう、」

イコールはオメガモンまで消すつもりはなかった。だが、いくらDワールドの神に等しい存在と言えども、自分の定義した答えを書き換えようと言うならそれは最早反逆者とみなす。イコールの本質は破壊行動を楽しむことにある。

「アタックステップ!ケラモンでアタック!」

「なに!?そいつだけで!?!……くっ!なに企んでるのは知らないけど、ここはロクケラトプスでブロックだ!」

B Pの低いケラモンだけをメインステップで召喚して何故か攻めてくるイコール。

ケラモンがいくらターンに1回だけ破壊されないとはいえ、この攻撃は明らかに浅はかだ。

だが、これも策略のうち、本当の計画はここからだつた。

「フラッシュタイミング！僕は手札にある『アーマゲモン』の効果を発揮させる！」

「アーマゲモン!？」

効果の発揮と共にディアボロモンが4体一気にデジタルゲートより、復活する。

「また、ディアボロモン!？」

「いや、今度はそんなものじゃない、このデジタルスピリット、『アーマゲモン』はトラッシュにあるディアボロモンを4体まで、手札に戻すことでフラッシュタイミングで召喚できる！さらにこの効果で召喚する時、戻したカード1枚につき、コストを3下げる！」

「……………4体のディアボロモンを戻したつてことは……………」

「コストはマイナス12でゼロ……………魔界の竜神よ！今こそ世界の理を覆せ!!召喚！

【アーマゲモン】!!!」

手札2 → 6 → 5

リザーブ6 ♪ 1

アーマゲモンLV3 (5) BP22000

4体のディアボロモンは混ざり合い、融合し、より巨大な姿へと変貌していく。その大きさはオメガモンを遥かに凌ぐ。蜘蛛のような手足、竜のような頭部、そして純黒の体色、瞳のない目玉をギラつかせて史上最悪の超究極体のデジタルスピリット、アーマゲモンが誕生する。

アーマゲモンは登場してくるなり、大きな奇声をあげる。耳の鼓膜が割れるかと思うほどのその音量は、まるでこの世の終わりを告げられているかのよう。

「で、でかい……!」

顔のサイズだけでもオメガモンを凌ぐその体軀はまさしく絶望そのもの。オメガモンが本調子でも勝てるかどうか怪しいレベルだ。

一方でこのタイミングはロクケラトプスとケラモンのバトル中、弱々しい小競り合いを制したのはロクケラトプス、だが、ケラモンはターンに1回だけ破壊されない。ケラモンとロクケラトプスは再び互いの主君のところへと帰っていった。

「いけ！アーマゲモン！アタックだ！」

手札 5 → 6

アーマゲモンがその奇妙な手足を活かして花火のところへ向かってくる。

「アーマゲモンの効果！コスト10以上のスピリットがアタックする時、相手は相手のスピリット1体を破壊しなければブロックができない……！」

「……!!」

アーマゲモンの効果、それは自分のアタックステップ時にコスト10以上のスピリットがアタックする度に相手は自分のスピリットを1体破壊しなければブロック宣言ができなくなるというもの、花火のライフが残り1の状況も相まって極めて厄介な効果だが、花火には今、疲労状態でブロック宣言すらできないロクケラトプスがいる。

花火は仕方なくロクケラトプスの名前を宣言することにする。

「くっ！ロクケラトプスを破壊……、ごめんな」

アーマゲモンの背部から放たれる雨のような爆撃にロクケラトプスは破壊されてしまふ。その破壊力はオメガモンのガルルキャノンをも凌駕している。

これで火花がアグモン「2」でブロックすればオメガモン「2」は破壊を免れるが、……イコールのタクティクスは甘くはなかった。

「さくらに……ここでフラッシュタイミング!アルティメットフレア!不足コストはケラモンから確保!!」

手札 6 ⇨ 5

リザーブ 1 ⇨ 0

ケラモン (1 ⇨ 0) 消滅

トラッシュ 3 ⇨ 5

不足コストにより、維持コアを損失したケラモンは消滅してしまう。

「なに!?!」

「アルティメットフレアはコアが2個以下のスピリット1体を破壊する!……:アグモ

ン「2」を破壊！」

アーマゲモンの口内から放たれる莫大なエネルギー弾がアグモンを襲う。アグモンがそれに耐えられるわけもない、儼くその命を散らしていった。

「くっ！……アグモン!!」

「この効果の発揮後、デッキを上から3枚オープンしてその中の系統「冥主」を持つ6色スピリットを1枚手札に加える」

オープンカード

【ケラモン】

【ディアボロモン】

【ディアボロモン】

オープンされたカードのうち、イコールは成長期スピリットのケラモンを手札に加えた。残ったディアボロモンのカードはそのままトラッシュへ送られる。

「さあ！これで逃げ場はなくなった!!!」

手札5 → 6

「……………くそ!頼む!オメガモン!!!」

花火の言葉にオメガモンは頷き、迫ってくるアーマゲモンに果敢に挑む。

オメガモンはガルルキャノンを数発放つが、アーマゲモンにはまるで効かない。オメガモンはアーマゲモンの足の間を掻い潜りながら勝機を模索する。そして、一瞬の隙について、懐から飛び出し、アーマゲモンの鼻先側の頭部をグレイソードで突き刺す。

だが、あくまで突き刺っただけ、まるで効果はない。振りほどこうともがくアーマゲモン、オメガモンはその揺れながら開いた口にガルルキャノンを数発叩き込む。流石に腹のなかで食らっては耐えられないと思われたが、ガルルキャノンは腹のなかでは少し光るだけで全く効果がなかった。

そしてアーマゲモンはそのまま口内からオメガモンにゼロ距離で特大のエネルギー弾をおみまいする。オメガモンは装甲を砕かれて吹き飛ばされた。

「オメガモンツ……………!!!……………うわああああ!!」

爆発の爆風に巻き込まれて花火もその場から吹き飛ばされてしまう。

爆音と爆煙が晴れるころ、オメガモンは仰向けで倒れていた。頼もしかったマントはボロボロになり、その機能を停止させるかのように瞳が黒くなっていく。

花火も最早立ち上がる気力すら残ってはいない。そんななかでただ一人イコールだけが不気味な笑みで微笑んでいた。

「はっはっはっは！終わったね!!!僕の勝ちだ！」

悔しいが立ち上がることのできない花火。オメガモンと一緒に戦ってもこのザマだ。弱い自分が本当に憎くてしょうがない。

「……だめだ、今回ばかりはもう勝てる気がしねえ」

彼らしくもない弱音を吐く花火。それほどまでにイコールとアーマゲモンは驚異的だった。

だが、花火達が諦めかけてもまだここに諦めてはいないもの達がいた。

「……………あきらめないで
!!!!!!」

それは下にいるしいの声、その幼い声は透き通るようにデジタルの壁を通り抜けて上空にいたる花火に伝わった。そしてその声の主はしいだけではない。町の人たち全員がしいと同じように花火の勝利を望むかのように声援を精一杯あげる。

その木霊する声は花火とオメガモンに再び奇跡を呼び起こす。花火はそのポロポロになった身体を震わせながらも立ち上がる。

「そ、そうだ……俺たちがここで諦めたら、今までの時間が全部台無しになっちゃう。諦められない!俺には夢があるんだああああ!!」

胸が張り裂けそうになるくらいの花火の怒声。それはオメガモンにも強く浸透していく。

「オメガモン!!お前はまだやれる!大丈夫だ!お前には俺が!いや俺たちがついていない………全力で打ち上げろおおお!」

「……ふふ、何を言っても無駄だ、よ?」

人々の声援の中、オメガモンは立ち上がった。装甲がひび割れながらもその眼光を再び輝かせ、ボロボロになったマントをなびかせながら、確かにそこに立ち上がる。受けた恩を仇で返すわけにはいかなんと言わんばかりに。

「なぜだ、BP差は圧倒的にこっちの方が上のはず」

そして奇跡は起こる。この場にいるオメガモンと、花火達が昨日通った一族の祠が共鳴しだす。正確には祠の中で眠りについている「インペリアルドラモン パラデザインモード」か、それが放つ一筋の光が真っ直ぐに導き、花火とオメガモンに新たなる力を与える。

「あの少年に力を貸すのか、インペリアルドラモンよ、」

祠の前でその光を見届けるかのように、しい達がじつちやんと呼ぶ初老の男性が呟いた。

そしてオメガモンは限界を超えて、新たなる進化を果たす。

「……………煌臨發揮!!対象はオメガモン「2」!!!
 を纏いし戦士がそれを希望に変える!!オメガモン、モードチェンジ!!マーシフルモード
 !!!」

オメガモンマーシフルモードLV3 (7) BP27000

オメガモンは新たなる光を纏う。ボロボロになったマントは翼に変換され、亀裂が入った装甲は元に戻っていき、色が両腕もろとも白をベースとしたカラーリングへとチェンジしていく。

そして純白の装甲を煌めかせ、オメガモンマーシフルモードへと姿を変えた。

「な!?!……………オメガモンが、進化しただと!?!」

「これがマーシフルモード、俺たちリアルワールドの人間が無駄じゃない証拠だ!」

イコールはマーシフルモードの凄まじいほどの威圧感にのまれる。まさか、アーマゲモンを召喚してここまで何かに恐れを抱くとは思ってもいなかった。

だが、自分にも負けられない理由がある。イコールは再びアーマゲモンに指示を送る。

「その程度で……!! いけ! アーマゲモン! アルティメットフレア!!」

アーマゲモンはイコールの指示でマーシフルモードに向けて再び口内からアルティメットフレアを放つ。だが、マーシフルモードには全く通じなかった。マーシフルモードはビームサーベルと化したガルルキャノンで一閃、アルティメットフレアをいとも簡単に消滅させた。

ーそして次はマーシフルモードの攻撃だ。

「いけ! オメガモンマーシフルモード!! 俺たちの全てをお前に乗せる!!」

「ば、馬鹿な、この僕が、なぜ、なぜだ!! 僕は世界を変えるために生まれたはず!! なのになぜ!!」

「……………当たり前だ!! 世界を変えるのは世界中の人々全員の意味なんだ!! お前だけで創り変えられるものじゃない!!」

「……………!!」

「その一振りには天下無敵!!! 虞怜刀一閃!!!」

マーシフルモードは日本刀と化したグレイソードでアーマゲモンを一瞬で通り過ぎるように切り裂く。一刀両断されたアーマゲモンは静かにその身を消滅させていく。

アーマゲモンの敗北により、イコールの身体も消滅していく。不思議とそこには死に対する恐怖の感情はなく、只々自分が産み出された意味を考えていた。

そしてふと彼は自分の力で再び未来を見据える。漠然とした映像ではあるが、そこに広がるのは無限の可能性を感じさせる豊かな世界。とても破滅とは遠い世界。

イコールは気づく。自分は本当の意味で未来を変えるために生まれて来たのだと言うことに。花火の言葉にあった、世界中の人々全員の意思に自分が入っていたと言うことに、その証拠がオメガモンの進化、マーシフルモードだ。

「なるほど、これが僕の役目、未来は安泰か」

「!?!」

イコールはその瞳をゆっくり閉じ、アーマゲモンと共に消滅していった。

「や、やった、勝った、勝ったぞおおお!」

喜ぶ花火と島の人々、イコールの消滅の影響で先ずはデジタル空間が消えていく。オメガモンマーシフルモードは花火を肩に乗せて緑豊かな下に降りた。

その後は元のオメガモンに再び姿を変えて、イコールの力での実体化もできなくなつて、カードの姿に戻る。そしてまたいずこかえと消えていった。

「ありがとう！オメガモン！今度会う時は一緒に楽しいバトルをしようぜ!!」

その後、花火は島を救った英雄として大勢の人から胴上げされた。

ちなみに朝早い出来事であったこともあって、菜々子はただひたすらに熟睡していた。まったく、呑気なものである。

「す、すごい、しいもあんなふうになりたい!!」

高らかに胴上げされる花火の姿を見て、しいは頭に着けられたゴーグルを輝かせながら言った。この小さな少女の憧れが後に新たななる物語へと繋がることは、まだ世界中の誰も知らないことであつた。

ーそして次の物語が動きだすのは10年後の未来!!!!

緊急告知

ーバトルスピリッツ！

ーそれは世界で最も熱きカードゲーム！

ーこれは1人の少女がある英雄を超えるまでの物語。

ある英雄達が『Dワールド』と『リアルワールド』、2つの世界を救つてから約10年後のリアルワールド。バトルスピリッツの技術は大きく進歩し、今や娯楽などでは済まされないレベルに達していた。

それもそのはず、Dワールドでしか体験できなかったバトルシステムがリアルワールドでもついに導入されたのだから、それらに反映されるスピリット達は、バトルワールドでの質量のある実物ではなく、ただの立体映像のため、触れ合うことは不可能なもの、「Bパッド」と呼ばれる特殊なタブレットのようなものをバトル台として展開し、使うことで、プレイヤー自身のすぐ側にスピリット達を召喚。フィールドでスピリット

と共に戦っているような臨場感溢れるバトルを味わうことが可能であった。「Bパッド」がスペースさえあればどんな場所でも使用できることも相まって、瞬く間に世界中で大ヒットとなった。

特別なカードだったデジタルスピリット達は、現代の科学技術の発展に伴い、大量に生産されるようになっていた。

これを見越して、世界政府はプロのカードバトラーを育成、及び教育を施すために9年前、世界各国にバトルスピリッツ教育機関、又の名を「バトルスピ学園」を設立。今やプロを目指すもの達の登竜门的な存在となっている。

新たな主人公の少女はこの日本のバトルスピ学園がある街で、波乱万丈な生活を送ることになる。

「[アーマー進化] 発揮！対象はブイモン！……燃え上がれ！フレイドラモンを召喚！」

額にブイの字が刻まれた小さな青き竜が、頭上から落下してくる赤くて独特な形をした卵と衝突し、混ざり合っていく。そして新たに誕生したのは炎を彷彿とさせるスマー卜な竜人。

「私は強くなる！いつか見たあの人のように！かつこよく生きる！」

その竜人の後ろでガッツポーズを決める少女は、ある英雄の意思を継ぐ者。その髪色は燃えるようなオレンジ色で、腰までしなやかに伸びている。妙なアホ毛も特徴的。そして首にはどこかで見たようなゴーグルを掛けている。今後はその英雄に代わって彼女が、いや、正確には彼女を中心とした次世代の者達が、台風の目となり、新たなバトルスピリッツの時代を築き上げていくことだろう。

ーそして今一度言おう。これは一人の少女がある英雄を超えるまでの物語。

ー『バトルスピリッツ オメガワールド』の正統なる続編、『バトルスピリッツ オーバーエヴォリューションズ』が作者の都合諸々込みで、いよいよ明日から週一投稿開始！

※オメガワールドとは別の場所で投稿します